より波浮港に至る道路に當り交通不便なるも。本村龍ノ口の海岸より太古の土器・石器并びに石鏃の原料たる黒曜石・猪鹿の骨・鯨の骨・人骨等發掘されしことあり、蓋し太古の噴火山灰と熔岩とにより埋没せしめられしものなりと。村内に大宮明神社あり、大島明神と稱し慶長十七年の上梁文に大宮十八社大明神と號すとあり、蓋し延喜式神名帳の伊豆國賀茂郡阿治古神社なるべし。(大宮神社)郷社。祭神、天照皇大神。創立年代未詳なるも、伊勢大神宮を勸請せし古社にして、留來島民の尊信篤し。明治六年郷社に列す。例祭、六月十五日。

オーシマハブミナト　大島波浮港村　東京府大島支廳大島の東南部。西は大島差木地村に隣り東は海に面す。南岸は爆裂火口により生じたる波浮港あり、は港の周壁は絶壁をなすもその岸上は地積も平夷にして畑地拓き、米・麻・甘藷等を產す。產物は水產最も多く寄產これに次ぎ、牛・牛乳・バターの外に鳥・木炭・椿油等を主產す。西北方大島元村へは道路を通じバスの便あり。波浮港は本島沿岸唯一の港、三原火山の東南部に生ぜし爆裂火口にて、もとは一の湖なりしが元祿の頃その東南部が欠潰して僅に海に通ずるに至り、後更に浸漬せしもの。しかも港口なほ淺く大船の入港不能なるを遺憾とするも、漁船の避難港としてまた遠洋漁業の根據地として大島唯一の港たり。港の直徑約三五〇米、南方に開口す。聚落は崖上の農村と港岸の漁村を主とするものとの二に區分さる。港岸に於ては西岸よりも東岸に人家多く集り、漁家・飲食店等石垣を築きて海に臨みて並び、從つて漁船も東岸に集り、漁市場の設備もありて絶えず無電にて東京の市場と連絡して漁船の便を計る。椿の並木は本村の特殊な榮地たると共に世に知らる。(波布比咩命神社)郷社。祭神、波布比咩命。羽都大后大明神とも波浮明神とも稱す。蓋し三島神の后神なり。文徳天皇齊衡元年從五位上を授けられ、延喜の制小社に列す。慶長十八年社殿造營の棟札あり。例祭、七月二十七日。

オーシマモト　大島元村　東京府大島支廳大島の西北部。もと新島村といへり。東は大島岡田村、南は大島野增村に隣り、西は海に面し、西方遙かに伊豆の天城山を望む。三原山の麓野に位し地緩やかに起伏し、海岸多くは崖を以て海に臨む。主產物は米・粟にして漁獲物も少からず。然し本村には水田はなく陸稻を栽培し、畑は土地比較的平夷なる所、林の間に拓くも永久畑に乏しく切替畑なす。就中本村に於ては飲料水を得るは困難のことにして、降雨を貯水して用ひ何れの家屋にもその貯水設備を施すを見る。陸上交通は本村を中心として島内各村に街道通じバスの便あり、海上は東京及び下田・伊東間に毎日定期船の運航あり。本村は大島支廳の所在地たるの外、大島警察署・東京區裁判所出張所・大島稚園監視署等を設く。また三原火山の登山口に當り、東京蒸汽船會社經營の各種の施設完備し、夜東京芝浦を出航すれば翌早朝本村に著き、岸壁に提灯を持ちて客待する宿屋の番頭達の居並ぶは一偉觀にして、その岸上に土產物店・旅館等並ぶ。尙登山道に沿ひても椿油等を主とする土產店多し。椿・薄香蘭等茂り、南國的景觀を呈し、東京市民の週末逗足の好適地なす。また源氏朝の配流地としてその邸の跡といへる處も保存さる。(三原山)所謂伊豆の中央に峙つ三重式の活火山。外輪は長徑三〇〇〇米に及び北部に三原鍍鑑(六〇四米)、南部に三原白石(七三六・七米)等の突出あり、内輪に對し急崖を以て望む。東方は新期熔岩流に被覆されて明瞭ならず。内輪は所謂三原山にて極めて明瞭なるホマーチ狀の火山體を呈し、その基底に於て一三〇〇米内外、中央に口徑約七〇〇米の火口を有す。最高點は火口の東方にして、七五二・七米を示し、最も狹義なる三原山の名はこの部分をいふ。火口の内部は冷却せる熔岩にて裂罅發達し極めて粗鬆なる面を示し、到る處裂罅を通して噴煙をあぐ。火口底の中央に、現在約二〇〇米内外の直徑を有する舊の噴火口あり、盛に噴煙をあげ、この噴火口の外緣には稍〻高まれる第一の熔岩丘あり、内部は殆んど垂直の絶壁をなして數百米の下底に達し、赤熱せる熔岩池は容易に窺ふべくもなし。外輪山の低所を破りて山腹に流出する熔岩流出は安永六年に大規模に行はれ、所謂沙漠と稱せられる第一外輪山内側の火口原上に溢流し、一方は東方に流出して、大島泉津村行者窟附近の海中に達し、また西南の低所を破りて山腹を流下するものは、佐野濱の海岸に達す。かくの如き作用は、過去に於て屢〻繰り返へされ、大島元村濱ノ口海岸の斷崖には石器時代の遺物が熔岩流下の燒土内より得らる。歴史時代に入りて、最大の活動は白鳳十三年のものにて、其他、應永二十三年、同二十八年、貞享元年、安永六年等の噴火、熔岩流出を見る程には至らざりしも明治九年、同四十五年、大正三年、同十二年一月等の活動が畢げらる。登山は西岸なる大島元村より東に向つて、カンダチノボリの小徑を進り、雑木林の間を行くを最も便とす。約一時間、三軒程の坂路を登攀すれば、外輪山上の御神火茶屋に達す。それより沙漠を渡つて三原山内輪に登り、再び降つて火口底に達し、噴火口を覗くを得るも、足下は破壊し易き熔岩片なれば甚だ危險なり。島民は噴煙を御神火と稱して尊敬し、明治四十年頃迄は女人禁制なりき。近年鄰上陸下の御登山ありて登山道路も改修され、春夏秋冬、遊覽に登山に、大島行の遊山者絶からず。

オーシモンショー　大下條村　長野縣伊那郡の南部。飯田市を距る南方約二二粁。天龍川の西岸に沿ひ南は其の支流和合川とその下流和知野川によりて限らる。概ね山地をなしたゞ東部に小平地ありて水田拓け、米・麥を主產す。飯田市より南下する遠州街道南北に通ずるも交通はなほ便利ならず。中世設けられし帷川の番所は村内の遠州山香より參州設樂に至る街道に當り、和知川に沿うて西隣豊村の心川番所・波合關と共に知久氏の掌れる間道に置かれしものといふ。

オーシュー　奥州　【奥州】陸奥國の別稱。

【奥州街道】江戸時代五街道の一。江戸の北郊千住(今の東京市足立區)を起點とし、陸奥の三馬屋(今の青森縣東津輕郡三厩村)に至る街道をいふ。宿驛の數凡そ九十四。千住・草加(埼玉縣北足立郡)・越谷(同南足立郡)・粕壁(同南埼玉郡)・杉戸(同北葛飾郡)・幸手(同上)・栗橋(同上)・中田(茨城縣猿島郡)・古河(同上)・野木(栃木縣下都賀郡)・間々田(同上)・小山(同上)・乎從新田(同上)・小金井(同上)・石橋(同上)・雀宮(同河内郡)・宇都宮(宇都宮市)・白澤(栃木縣河内郡)・氏家(同塩谷郡)・喜連川(同上)・佐八山(同那須郡)・大田原(同上)・鍋掛(同上)・越堀(同上)・蘆野(同上)・白坂(福島縣西白河郡)・白河(同上)・矢吹(同上)・久來石(同石瀬郡)・須賀川(同上)・郡山(郡山市)・本宮(福島縣安達郡)・杉田(同上)・二本松(同上)・八丁目(同信夫郡)・福島(福島市)・瀬上(福島縣信夫郡)・桑折(同伊達郡)・藤田(同上)・貝田(同上)・越川(宮城縣刈田郡)・白石(同上)・刈田宮(同上)・金瀬(同柴田郡)・大河原(同上)・舟迫(同上)・槻木(同上)・岩沼(同名取郡)・増田(同上)・中田(同上)・長町(仙臺市)・仙臺(同上)・七北田(宮城縣宮城郡)・新田(同黒川郡)・吉岡(同上)・三本木(同志田郡)・古川(同上)・荒谷(同栗原郡)・高清水(同上)・月立(同上)・宮野(同上)・金成(同上)・有壁(同上)・一ノ關(岩手縣西磐井郡)・山ノ目(同上)・前澤(同膽澤郡)・水澤(同上)・金ケ崎(同上)・鬼柳(同和賀郡)・黒澤尻(同上)・花巻(同稗貫郡)・石鳥谷(同上)・郡山(同紫波郡)・盛岡(盛岡市)・溢民(岩手縣岩手郡)・沼宮内(同上)・中山(同二戸郡)・一戸(同上)・福岡(同上)・金田市(同上)・三戸(青森縣三戸郡)・五戸(同上)・藤島(同上北郡)・七戸(同上)・野邊地(同上)・小湊(同東津輕郡)・野内(同上)・青森(青森市)・小濱(青森縣東津輕郡)・蓬田(同上)・蟹田(同上)・平館(同上)・今別(同上)・三馬屋(同上)。なほ三馬屋より約一四浬の海路を經て蝦夷の松前に至る。

オーシュー　横圳　↓大甲街

(臺灣臺中州)

オージューリ　往十里　京元線の一驛(明治四十四年設置)。朝鮮京畿道高陽郡漢芝面にあり。

オーシュク　鶯宿村　山梨縣甲斐國東八代郡の南部。東は中芦川村に隣り西は西八代郡上九一色村に接す。南境の御坂山脈と北界の瀧戸山(一二二一米)中部を西流する芦川谷に傾斜し、村内殆んど山地にして森林多く田畑少く、養蠶を主業とし繭を產す。芦川に沿ひ西隣上九一色村に出づれば北方右左口村へ縣道通ずるも交通便利ならず。本村は甲斐國志によれば、西八代郡上九一色村・下九一色村等と共に往時九一色郷と稱せられし地なりと。明治十三年、上芦川・中芦川と共に組合町村をなし、以て今日に及ぶ。役場は中芦川村にあり。

オーショー　大庄　【大庄村】富山縣越中國上新川郡の中部。上瀧町の西に隣り、月岡村の東に接し、東北は常願寺川を隔てて中新川郡大森村・釜ケ淵村に對す。富山平野の東南部に當り田廣く拓けて米を多產し、外に多少の麥・大豆・里芋等を出す。富山縣營鐵道通じその大庄驛は西隣月岡村地内にあるも交通は不便ならず。(眞成寺)字上大浦にあり。眞宗大谷派。大寶山と號す。海野三郎道俱剃髮して乘念坊是一と稱し嘉禎三年に一宇を此處に建立す。始め道敏の父道廣、南都興福寺に入りて僧となり、西乘坊信寂と稱せしが、治承因平に故ありて平清盛の怒を避け當地に來りて屏居し、尋いで木曾義仲に屬し大夫坊覺明と稱す。義仲の戰死するに及び比叡山に上り惡鎭和尙に從ひて名を淨寛と改めのち眞宗に轉じて西佛坊と稱す。のち遠敏ひとり此地に留りて寺を創建せりと云ふ。

【大庄村】兵庫縣攝津國武庫郡の東南端。東は尼崎市に隣り、西は武庫川下流を界として西宮市との間に鳴尾村を隔て、北は川邊郡立花村に接し、南は大阪灣に面す。武庫平野の南部に當りて土地低平肥沃、農業榮え米・麥・蔬菜・花卉等を主產し鷄卵・蠶絲品を出す。また製革行はれ、海海漁利少からず。阪神國道・舊中國街道及び社線阪神電鐵共に東西に走り、後者の本線には武庫川停留場、國道線は濱田車庫前・大庄・西大庄・武庫川大橋等の停留場を設き交通は便なり。海岸を琴浦と云ひ、また黒浦に作り、古くは歌の名所たり。今も琴浦神社あり、河原左大臣の靈を祀るといふ。風雅集「こと浦に朽ちてすてたるあま小舟わか方に引く波もありけり」

オーショー　横莊鐵道　秋田縣南部にある地方鐵道。省線奥羽本線横手驛と羽越本線羽後本莊驛を繫ぐ強定なりしものにて、もと横莊東線といひしもの。横手より蓬沢・沼館・大森三町を經て由利郡下郷村老方に至る三八・二粁の線、軌間一・〇六七米。別に羽後本莊驛

（本莊町）より東濃淨村前郷肆に至る一一・六粁あり。これを横莊西線といひ横莊鐵道の一部なりしが、昭和十二年省線となりて矢島線とよばる。沿線よりの主要發送貨物は、米・丸太類・木炭等にして到着貨物中主なるものには各種肥料・飼料・石炭・セメント・活鮮魚等あり。また沿線の淺飼町は櫻花の名所をして知られる。

オージョー　王城　鳥取縣石城郡にある炭鑛。内郷村及び笠輪村に跨り我が國唯一重要鐵山の一。〔王城第三坑〕内郷村及び湯本町に跨り、我が國唯一重要炭鑛の一。昭和十年度に於ける鑛產額約五萬噸、價額約二七萬圓、現在使用鑛夫數二九五人。

オージョー　旺場　成鏡本線の一驛（大正八年設置）。朝鮮成鏡南道永興郡仁興面にあり。

オージョー　横城　【横城郡】朝鮮江原道二十一郡の一。道の南西部を占め、北は洪川、東は平昌、南は寧越・原州の諸郡に接し、西は京畿道楊平郡と界す。東西約四四粁南北約三〇粁、面積約九六〇方粁。大白山脈より分るゝ車嶺山脈中部を東北より西南に連り北境洪川郡界にはその支脈東西に延び、雲霧山・鷲峯山・曙代山・五晉山等の九百米臺の諸峯峙ち、郡内山地多し。東南部の溪水は酒川江となり南流して寧越郡に入り溪江に注ぎ、中部の諸水は桂川・錦溪川・前川となり郡の南部に相會して蟾江となり原州郡に入り、また漢江に合す。これら諸川の沿岸には幅狹き低地ありて耕地拓け、大豆・麥その他雜穀及び棉花等の農產あり。牛の飼養また行はれ、東部よりは金を產す。郡の南部にある横城面を中心に道路南北に通ずるも郡としての交通はなほ便利ならず。横城・隅川・井谷・屯内・甲川・晴日・公根・審院の八面を含み、郡廳を横城面に置く。

【横城面】朝鮮江原道横城郡の中部。東北より西南に長く約十二粁、幅は約三粁内外あり、南は原州郡所亘・好楯の二面に接す。郡の中部の諸水の合してなる蟾江中部をほゞ南に貫き、東北部と西南部には丘陵あるもその他は低平にして耕地拓け、米・麥・大豆・棉花等の農產あり。郡廳の所在地にて二等道路南北に通じ交通不便ならず。

オージョーイン　大生院村　愛媛縣伊豫國新居郡の中部。西條町・飯岡村の南に隣り、東は中萩村に、南は加茂村に、西は神戸村と界す。東南部に石鎚山脈の一峯黑森山（一六七九米）聳え、土地北に急傾斜し、山麓は周桑郡中川村より德島縣三好郡池田町に至る斷層線の一部に當り、高度約二〇〇米までは明らかな斷層崖を示す。東北部は瀬戸内海岸の花崗岩より成る丘陵に亘り、南部山地との間に地狹部ありて新居濱町附近平地と西條町附近平地とを結ぶ。主產物は米・麥・繭・鷄卵にて、傾斜急なる所には三椏を產す。また良質の安質母尼を出す市ノ川鑛山は世に知られ、東隣中萩村に跨る松竹・大永鉛鑛山は共に銅を產出す。西條街道及び省線篠藤本線何れも東北部の地狹部を東西に通じ、後者は宇高來に中萩驛（大正十年設置）を置く、併し村内の東北部を除く地は道路未だ發達せず交通不便。此地は和名抄、新居郡鳥山郷の地。中世は新居西條庄に屬す。〔市ノ川鑛山〕宇市ノ川にあり。アンチモニイ鑛山。延寶年間の發見に係りしもその盛に採鑛を見るに至りしは明治十八年以後といふ。地質は三波川系の雲母片岩・石墨片岩等の累層よりなり、多くの斷層により切られる。鑛脈は數條ありて片岩を貫くもの、斷層角礫岩の中にあるもの、また横斷と呼び約二十度南の傾斜にて傾く斷層鑛脈もあり。石英の鑛脈中に輝安鑛を含み骨てて世界に稀な巨晶・美晶を產せしことあり。安質母尼鑛の昭和十年の採鑛量は五〇〇瓩、價額約一三〇〇〇圓、現在使用鑛夫數は二五人なり（商工省鑛山局統計）。〔愛媛鑛山〕同層鑛山。含銅硫化鐵鑛を產す。年額約二七八一瓩（昭和十年）。

オージョージハラ　王城寺原（→色麻村（宮城縣））

オージリ　大尻沼　群馬縣利根郡片品村の東北部、所謂奥日光にあり。東方にある菅沼・丸沼の水を受け大瀧川となりて排水し西流して片品川に注ぐ。湖面海拔一四〇二米、面積〇・二平方粁、深度二六五米。東南方に畸つ白根山より流下せる熔岩の溪谷を堰止めて作りしものにて、湖形瓢箪の如きを以て一に瓢沼ともいふ。綠色な水を湛へ透明度は數米に及ぶ。底の水溫は冬にても六度位にして結氷不完全なり。且つ夏には表面二〇度、底一〇度にて多量の鑛物質を含む水の注入せることを物語る。やゝ富榮養化せる正貧榮養湖にして、最近菅沼・丸沼と共に水力發電の貯水池に利用せらる。

オーシロ　大城庄　臺灣臺中州北斗郡七庄中の一。本郡の西南隅、即ち濁水溪下流の北岸に沿ふ海岸地帶に位し北は沙山庄、東北は二林庄、東は竹塘庄と接し、南はほゞ濁水溪を界境として臺南州虎尾郡二崙・崙背の二庄と界し、西は海に面す。土地低平にして（最高大字下山關一七・三米、最低大字下海墘厝五・六米）、海岸地方遠有の砂質の地なり。濁水溪岸には防水堤完成し、田圃を水害より確保す。西部沿岸は遠淺にして港灣なく海運の便を缺く。面積約六六平方粁。濁水溪以外に大河なく、公共埤圳に永基圳、及び雲水港製糖株式會社の私設埤圳あるも、水利灌漑の便よろしからず。農耕地の畑地は田に比し遙かに大きく、即ち田面積一千八百四十餘甲に對し、畑面積は二千二百五十餘甲を算す。農業は農業を根幹とし、他業は之に隨伴するの觀

を呈す。本庄は北隣の浄山・二林の二庄の一部と同樣、海岸の砂地地帶にして、加ふるに冬季西北季節風强く、著しく農作物の成育を阻害し、土地の利用價値少く、從來等閑視せられたるも、近時集團的の耕地防風林乃至飛砂防止林の造林實施せられて完成の途上にあり、季節風の被害は次第に輕減せられ、耕作不能として放置せられたる廣大なる原野・砂地は漸次美田良園と化し、農作物の收穫增進しつゝありて今後の發展顯著なるものあるを豫想せらる。水稻・甘藷・落花生・甘蔗等の栽培に適し、米は年收穫高約二萬四千石、價格約四十一萬圓。養豚・養鷄等も亦頗る盛にして農家副業の主要部を爲し、當局の指導奬勵により、既に自給自足の域を超えて庄外へ搬出せらる。海岸に適當の漁港なき爲め漁業の見るべきものなし。管内は低濕の土地多く、加ふるに風珠に激しく、健康に適せざる爲め衛生狀態良好ならず。且つ土地偏僻に在りて一般に民度低く、衛生思想亦幼稚なり。殊に冬季は季節風激甚を極め、砂塵天に冲する爲め、トラホーム患者甚だ多く、之が撲滅の爲め三箇所の治療所を設置し、無料治療を施行しつゝあるも未だ徹底せしむるは遺憾なり。公學校一、同分教場一あるも本島人兒童の就學歩合は尚未だ二五%に及ばず。社會教化本業としては教化聯盟・部落振興會・青年團・國語講習所を設置し、社會教育の振興により一般民心の啓發を促進し、地方文化の向上に努めつゝあり。金融機關の設置は未だなく、庄の昭和九年度豫算額は二〇五九五圓なり。交通は北斗街との間に乘合自動車の便ありて近接各庄と連絡することを得、其他保甲道路は庄内外の主要部落間に通じ、交通運輸の便比較的備はり、地方產業開發に稗益する所多し。本庄地方はもと濁水溪河口のデルタに由りて形成せられ、往昔は全く礁碼・砂礫の地に非ずんば沼澤叢荻の地にして野獸水禽の跳梁せる所なりしも、鄭氏の本島占據後對岸より漢來移住する者あり、清領後に至りては次第にその數を增加し、康熙末年より雍正年間までに一帶の荒埔は開墾せられ、現在役場所在の大城（もと大城厝庄）部落は道光初年福建の泉州人吳・王・二姓の人々に依りて立てられたり。管内はもと總て深耕堡に包含せられたり、改隸前に於ては彰化縣の管轄に屬せり。改隸後は初め臺灣縣（臺中）に屬し、明治三十年六月臺灣縣は臺中縣と改稱せられその二林辨務署の下に屬せり。翌年六月同辨務署は北斗辨務署に合併せらる。同三十四年廢縣置廳の後は彰化廳二林支廳の管轄に歸し、同四十二年十月彰化廳の廢せらるゝや、二林支廳は臺中廳の管下に移れり。大正九年現行制度の實施に際し、堡は廢せられ、本庄はもと深耕堡の内、大城厝（大城と改稱）魚寮（寮を寮に改む）・頂山腳・下山腳・下牛稠・公館・西港・山寮（寮を寮に改む）・外五間寮（寮を寮に改む）・尤厝・源埤・下海墘厝・頂海墘厝・三塊厝の十四庄を十四大字とし、之を一括して大城庄と稱し、臺中州北斗郡の管轄下に置かれ庄役場を大字大城に置く。

オーシン　甕津郡　朝鮮黃海道十七郡の一。郡の南部に突出する甕津半島の大部分と附近海上に浮ぶ島嶼とを含み、面積約九六九方粁。東北は海州郡に連り、西北は廣灘川口に灣入する大東灣を挾みて長淵郡に相對す。郡の北境卽ち甕津半島の中部に山地ありて白雲嶽・國師峯・祿達山等聳ゆるも高度はいづれも五百米臺に過ぎず。その他は到る處に丘陵起伏し東北より西南に延びて海に沒し、それらの間に多數の小灣灣入し灣岸は多くは遠淺の海岸をなす。丘陵沈降のために成れる鰕鱗島・昌鱗島・巡威島等の島嶼多く灣口に浮ぶ。丘陵地の間所々に小低地あり、農產に米・麥・雜穀等、鑛產に金あり、沿岸漁業行はれ石首魚・海鼠・石花菜等の漁獲あり。道路は郡内諸面を連ね、海州・長淵二郡に通ずるも交通はなほ利便ならず、沿海灣入多きも水淺きを以て良泊少し。馬山・富民・龍淵・鳳塩・興嶺・東南・北・瓜川・交井・西・隨泉の十一面に分かれ、郡廳を馬山面（甕津）に置く。

オージン　應神村　德島縣阿波國板野郡の南東部。南は吉野川より分流する別宮川を隔てて德島市・名東郡新居村に相對し、東部は今切川を隔てて北島村と相對す。吉野川の三角洲に位し、德島平野の一部に當り、東部に水田拓く。主產物は米・麥の外藺あり、嘗て西隣藍園村等と共に藍藍多く產せしも、外國染料の輸入せらるるに及び廢れ、今その地多く桑園に變ず。村の東部大字古川と淡路街道南北に走り、對岸德島市上助任町との間、別宮川上に本邦道路橋として有名なる吉野川橋を架す。また省線高徳本線通じ大字吉成に吉成驛（大正五年設置）を置く。此地は和名抄、板野郡小島郷の地なり。大字貞方字小島はこの遺稱ならん。東鐵、壽永三年四月の條に池前大納言領内の小嶋庄（阿波）と見ゆれば、中世は當庄に屬せしものならん。〔別宮八幡神社〕大字吉成と中原との境に鎭座。郷社。祭神、仲哀天皇・應神天皇・神功皇后。創立年月を詳かにせざるも、蓋し石清水八幡宮の社領に發生せし古社にして、同別宮として上下の尊信を篤む。降つて室町時代文安年間時の管領細川勝元社殿を造營し、祕領を寄進すと云ふ。文祿年間蜂須賀氏入部の後も社殿及び寺坊の造營、社領の寄進等前代に減らざりき。また近郷の產土神として崇めらる。

オース　大洲　【大洲】新潟縣刈羽郡にありし村。大正十三年柏崎町に入る。

【大洲村】群馬縣碓氷郡の南部。鳥田町の東方に近く是と六合村を隔て、

西南は大井川の下流を隔てて榛原郡初倉村に對し、北は桐山川によりて青島町・高洲村に隣る。大井川の三角洲の中央に位し土地平坦にして西南部河邊には砂礫の川原あるもその他は水田廣く拓けて米を多産しまた茶を出す。東部には縣道通じて省線東海道線藤枝驛（北隣青島町内）に近くバスの便あり。また同部より地頭方に至る軌線藤相鐵道は從この縣道に沿ひ、村内に大洲驛（大正三年設置）を置き交通比較的便なり。此地は大井川の川口に近きを以て古より洪水のため屢々地形變せしもの、如し。而して中世以降遠江國榛原郡初倉庄の内に屬し向榛原と俗稱されし地なり。

オース　大須　おおす

【大須村】　鳥取縣倉吉市國相馬郡の北西部北は玉野・山上の兩村に接し、南は石橋村・新館村に、西は伊達郡石戸村と界す。西境に佐須峠（五三四米）あり、村内概ね四—五〇〇米の山地にして西境に發する鳥野川、中央を東に流れ、その流域に狹長なる河谷低地を作り聚落亦多くここに發達す。產物は米・麥を主とし養蠶も行はれ、林產亦少からず。鹿島町より佐須峠を越えて中村街道に出づる道路鳥野川に沿うて迂ずるも交通便ならず。本村は新館村と組合村をなし、役場は新館村に置く。

【大須】　岐阜縣羽島郡桑原村の大字。もと眞福寺ありしが、慶長年間名古屋に移り實生院と改む。實生院を大須觀音と云ふは即ち舊地名に因めるもの。大須は中世は庄名に呼ばれ、悉皆字記天德三年五月廿八日奥書に「尾張國中島郡大須莊」と見ゆ。

オーズ　麻生津村　おうづ

伊國那賀郡の東部。南は新濃村、西は龍門村に接し北は紀ノ川を限りて名手町・王子村に界し東は伊都郡見好村に隣る。高野山塊の西北部にて南境の假盛山（七四六米）・東界の北山（五八七米）より地は西北紀ノ川南岸に傾斜し、蜜柑の栽培行はれそのこの產額村の總生產額中の第一位を占む。米・藺の產も少からず、また假盛山には銅を產す。高野登山口の一に當りその街道は東南境の麻生津峠を超ゆ。

オーズ　大洲町　おうず

愛媛縣伊豫國喜多郡の西部。八幡濱市の東微北約十二粁。内子町の西方約十一粁。西北部に高山寺山（五六一米）聳え、その山陵北部を東西に走り、上領戒村との境をなし、東南部に高度三二〇米の一峯峠ち、この兩山地間は所謂大洲の舊湖底盆地なり。西北流し來る肱川この盆地内を略々東西に流れ、盆地の東北部にて流路を北に轉ず。盆地内の肱川に沿ふ地域は砂質地多く、洪水の災害を見ること年もあり、ために水田は畑に比し僅少にして、またこの盆地は特有な朝霧の名所にて、それが稻の成熟期に特に多きことは米の質を低下せしむるといふ。川沿ひ一帶の平地は桑園拓け、養蠶の盛なることを想はしむるも、盆地に特有な晚霜の害を屢々被ることあり。山地は久萬高原より續く良材の產地にて、また楮・櫨の栽培多きを以て世に知らる。本町は昔ては大洲半紙の製造地、また附近生產の和紙の集散地として榮えしが、今では製紙業に代り製絲業が生業の中心となり、肱川上流の森林地帶を背景として木材集散の中心をなし市況繁榮す。大洲半紙は今名聲衰へ生產額減少せしも、舊藩時代には藩役人を置きて製造を監督せしめ藩庫自ら移出販路の衝に當れるを以て、大洲半紙の名は大阪紙商人の間に喧傳せられたり。原料を楮のみに採りて櫨蠟を採取せず、紙質堅牢無比と稱せられ、特に海產の潮風及び强風に抗する障子紙として珍重せらる。明治維新以來藩廳の保護廢せらるゝと共に、勞力を省き一時に多量の生產をなし、ために製品粗雜に流れ、加ふるに原料楮の高價なるを避け、白土等を混入して徒らに重量を增したればこの半紙唯一の特色たる堅牢の度減退し、信用日に失墜し販路壅塞するに及び同業者始めて悟る所あり、其改良に努むると共に一面三極秩改良半紙の發達を奬勵したるに依り、漸く聲價を挽回せりといふ。肱川沿岸の交通の要衝・市場町として起り、城下町として發達し、その後郡役所を置かれ、今は區裁判所・警察署・稅務署・國立大洲中學校・高等女學校・高等農林專修學校等あり。松山市より來る宇和島街道、本町にて一は長濱へ、一は夜書峠を越えて八幡濱市に、一は鳥坂越を越え、郡之町を經て宇和島市方面へ通じ、更に肱川に沿うて東宇和の山界に入る一路あり。省線愛媛本線通じ、五郎驛・伊豫大洲驛（共に大正七年設置）を置き、伊豫大洲驛より内子町に至る省線内子線分岐す。また肱川は上流まで舟運の便ありて交通至便なり。此地は和名抄、喜多郡久米郷の内。昭和九年本町に合併せし久米村は郷名の遺稱なるべし。町名は肱川流域の最大の洲の存在により起るといひ、一に大津にも作る。大洲城址は町の西部肱川の左岸地蔵ヶ岳西方より流れ來る久米川の肱川に落合ふ所にあり、東西兩側に自然の川を控へ要害の地を占む。また幕末の勤王家巢内式部（贈從五位）・我國監獄衞生の法規制定の創始者三瀨周三（贈正五位）は共に本町の人。三瀨周三は長崎に赴き蘭語を研究し、安政六年シーボルドの愛弟子となれり。文久元年シーボルドの通譯として江戸に隨行す。明治元年三月二十二日明治天皇特旨を以て周三夫妻に賜謁せられ給ふ。同十年大阪にて病歿す、年三十九。

【大洲城址】　地蔵ヶ岳にあり。肱川に望み自然の要害をなす。源平時代河野通信當城にありて、平家の屬將阿波重能の子田内教能來り攻むるを通信討ちてこれを退く。吉野時代足利尊氏當城を宇都宮公綱に與へ、宇都宮氏世々居城し、豐綱に至り、その屬將菅生直之、長曾我部元親に通じ、河野通直と屢々戰ひ、遂に宇都宮氏滅び、直之も滅ぶ。天正十五年戸田勝隆當城に居り、文祿四年藤堂高虎之に代り、慶長十三年更に藤堂高虎之に代り、慶長十三年更に藤堂高虎之に代り、元和二年加藤貞泰六萬石を以て伯耆の米子より移り世襲す。貞泰は光泰の子にて、光泰は織田信長に仕へのち豐臣秀吉に仕へて甲斐二十四萬石を領せしも遂に韓地に戰死す。貞泰その後を受け四萬石を賜ひ美濃の里野を併せ領す。關ヶ原役岐阜秀信に屬し、大山城を守り、竈に石田三成に含みて關東に應じ、先鋒となりて宇喜多の陣を破る。慶長十五年伯耆の米子城を賜ひ、元和二年當城に移る。爾來十五代居城し、明治に至り廢城す。明治四年宇和島縣に屬し、神山縣と改稱、六年石鐵縣と併合し愛媛縣に入る。（中江藤樹郡址）　大洲城址の南、大洲中學校敷地内にあり。郡址の一部は庭園となり中央に記念碑あり。藩主加藤貞泰が伯耆米子よりここに移封せらるるに及び、共に從ひてこの地に移り、十三歲より二十七歲まで十五年間居住せし舊跡。當時飲料水に供せし井戸今に保存され中江の水と稱さる。（八幡神社）　阿蘇に鎭座。縣社。祭神、豐田天皇・大帶姬尊・田心姬尊・淡津姬尊・市杵島姬尊。始め矢野神山に鎭座、のち現地に奉遷すと云ふ。地方の古社にして領主・藩主の崇敬篤く、就中大洲藩主加藤氏は累代鎭守神として崇仰し、元祿十一年社殿の造營を發令す。また附近の名社として庶民の尊崇を蒐む。例祭、九月一日。（大洲神社）　大字大洲に鎭座。郷社。祭神、大國主命。元弘元年大洲城鎭護神として奉祀すといふ。近年まで太郎神社と稱せり。例祭、五月一日。（總社大明神神社）　大字中に鎭座。郷社。祭神、大國主神。創立年代を詳にせざるも、寛文年間に今の常磐町に鎭座せられしが洪水の爲め元祿十五年現地に遷祀すと云ふ。近村の總產土神として村民の崇敬篤し。（曹溪院）　大字大洲にあり。臨濟宗妙心寺派。加藤貞泰の父光泰、美濃國黑野に草創し、貞泰當地の城主となりし時、この地に移轉す。（如法寺）　大字楠木にあり。臨濟宗妙心寺派。明暦元年大洲城主加藤出羽守泰興の草創たり。開山は盤珪國師にして、加藤氏累代の香華院たり。

オースカ　大須賀　おすか

【大須賀村】　茨城縣常陸國稻敷郡の東部。江戸崎町の東南方に近く、北は阿波村、東は伊崎村、南は十倉村・金江津村、西北は高田村に隣接す。北部は凹地なるもその他は利根川下流北側の低濕地にて分流新利根川東北に流れ村の中央南部の平須沼を貫き村内水田多く米を主とし麥を產す。阿波村及び江戸崎町にバス通じ、また新利根川によりて霞ヶ浦に水路船を交通不便ならず。此の地古くは和名抄、信太郡高田郷の内。この邊は屢々貝塚の出でし地なり。珠に字薗田にある貝塚は著名なり。貝塚は薗面に平須沼を控へし丘陵上にありて神明前・藤師臺・久保臺・大畑の四ヶ所に散在す。其中神明前の貝塚は最も大きく、曾て發掘せし時土器・石器・骨角器・土製品など各種の遺物を出土し、其等は今東京帝國大學理學部に保存せらる。

【大須賀村】　千葉縣下總國香取郡の西北部。本大須賀村の東北に隣り、佐原町の西南に位しこれと香西村を隔つ。低き丘陵上にあり、佐原町の北に平地あり、最高處も海拔四〇米に過ぎず。丘陵には松の森林あり、平地は田畑拓けて、米・麥の產多くまた養蠶・養鷄行はる。東北は佐原町、南は多古町、西南は成田町へ道路通じ、佐原と成田（はバスの便あり。村立大須賀農學校あり。本村は舊大須賀庄（大須賀郷も同區域なり）の一部にして明治二十二年町村制施行の際、今の十大字を合し庄名により大須賀村と名づく。中世桓武平氏千葉氏の族此地を領し大須賀氏を稱し千葉六黨の一と稱され、隣村本大須賀村大字松子の松子城に居る。大字南敷は日本後紀、延暦二十四年の條に香取郡眞敷・荒海の兩驛を勝寺と見ゆる眞敷の地にして往昔驛家を置かれし處なり。日本後紀・延暦二十四年十月「廢三下總國印旛郡鳥取驛、埴生郡山方驛、香取郡眞敷・荒海等驛、以不要也」（伊能碑址）大字伊能字城山にあり。伊能式部初めて之を築き此地に居り、安藤の子信月に至り大須賀氏の命を以て國分竹若丸を助けて矢作城（隣村香西村にあり）を守り、よりて伊能城と稱す。子孫伊能に留まり、或は佐原に移り皆名族の聞えあり。城址は今上部の平坦の地は悉く耕圃となり山林之を蔽み、外部は更に水田を繞らす。（塙碑址）　大字伊能字塙山にあり。大須賀氏の族、塙丹波守常久之に居り天正十八年退城すと傳ふ。今址は耕圃山林となり、土壘の形尙存す。（村田碑址）　大字村田宇登城にあり。天正年間村田兵衞之に居り巢林義長の攻略する所となる。村田氏は千葉系國に國分常遠の二男有遠（一に有風）村田小五郎と稱し、槇山・櫻田の組にして其の二子信風・師泰及び師泰の子孫皆村田氏を稱せりと。蓋し本城に住せしものにして兵衞は其裔孫ならん。（所碑址）　大字所字根古屋にあり。天正年中、大須賀氏及び粟飯原氏の番城たり。今畑地となる。（森土碑址）　大字森土にあり。東國戰記によれば小泉左京・荒海左衞門・一館田十郎等本城にあり、巢林義長の攻略する所となると。（大須賀大神）　大字伊能に鎭座。總社。祭神、天照皇大神・武甕槌命・天兒屋根命・經津主命。創立年代未詳なるも、中世に伊能登能の勸請せるものといふ。天正十九年德川家康三十石の朱印を安堵してより爾後歷代の將軍に至るも變ることなし。また大須賀郷の產土神と

して部落民の尊崇篤し。〔寶憲院〕大字伊能にあり。曹洞宗。如意山と號す。創建年代不詳。本尊、地藏菩薩。往時臨濟宗にて堂宇荒廢に傾きしを、天正年中、大須賀康信の堂宇を再建し現宗に改め隆山正盛和尚を請じて開山となす。中興開山は古雲和尚なり。墓域に大須賀氏歷世の墳墓、徳川麾下神保某の墓あり。〔長興院〕大字伊能字坂崎にあり。曹洞宗。龜鶴山と號す。本尊、十一面觀音。寺傳によれば高山文岳なるものの開創にて寂照阿鋒これを中興すと云ふ。初め大須賀村大字横山にあり、火災に罹り現地に移すと。徳川氏の時朱印地二十石を給せらる。

オーズカ　逢東村（あふづか）

鳥取縣伯耆國東伯郡の北部中央。八橋町の東に隣り東は伊勢崎村に、南は市勢村に界し、北は日本海に臨む。加勢蛇川東境を北流し本村はその下流流域平野の一部にて面積僅に三方粁未滿の小村なるも、土地平夷にして海岸に沿ひて發達せる砂堆の外は耕地よく拓け、西部には桑園、東部に水田多く、繭・米を主產し、漁獲も少からず。省線山陰本線の八橋驛(八橋町地內)に近くまた山陰道海岸に沿うて東西に通じ東南は倉吉町、西は遠く米子市方面へバスを通じ交通便利なり。此地は和名抄、八橋郡方見郷の地なるべし。

オースギ　大杉（おほすぎ）

【大杉村】青森縣陸奧國南津輕郡の北端。青森市の西南約十二粁。浪岡村の北に隣り、西は野澤村及び北津輕郡七和村に、東北は東津輕郡新城村・瀧內村と界す。西北境に梵珠山(四六八米)聳え其山脈南に延びて鐘撞堂山(三一七米)となり南方に漸次高度を減じて弘前平野に臨む。東北境に八甲田山の山脈高度約一〇〇米の丘陵連亘し、この兩山地間に南方に開く楔狀の低地發達し、浪岡川の一支大杉川梵珠山の南斜面に發源し南に流れ中部低地を潤し、水田拓け米を產し、また山地斜面より林檎を出す。省線奧羽本線西部山地の麓沿ひに南北に通じ、東北部丘陵を切りて青森市に至り、大字大釋迦に大釋迦驛(明治二十七年設置)を置き、國道羽州街道亦之と竝行に走り、五所川原町より來る縣道大字大釋迦にて之に合し、各バスの便あり。此地は明治二十二年町村制施行に際し大釋迦・杉澤・徳才子・長沿・高屋敷の五大字を以て一村となり村名は大釋迦・杉澤の各一字をとりかく名付けしもの。

【大杉岳】帝釋山脈の支脈の一峯。福島縣西南隅、南會津郡檜枝岐村の南西部に聳え、標高一九二一米。南稜は燧岳(一九二一米)に至り、東北稜は大津岐峠(一九四五米)を經て駒ヶ岳(二一三三米)に達し、東の檜枝岐川・西の只見川の分水嶺に當る。

【大杉川】石川縣能美郡西部の川。郡の西南部・大日火山の北側なる牛ヶ首峠(四一〇米)の西谷に發し大杉谷村中部の低地を北流し金野村を經て中海村に出づ。こゝにて西折し小松町附近の平野を潤し今江潟の餘水と合し梯川となり安宅町の南部を橫ぎり日本海に入る。流程約四〇粁、下流は灌漑に利せらる。

【大杉】石川縣能美郡にありし村。明治四十年瀬谷村と合し大杉谷村となる。

【大杉村】高知縣土佐國長岡郡の北部。本山町の東に隣り、東北部は徳島縣三好郡三名・山城谷兩村に、西北部は愛媛縣宇摩郡新立・金砂兩村に界す。村の稍々南部に偏し吉野川東流し、吉野川の左岸、北境に三傍示山(一一五八米)・笹ヶ峰(一〇一五米)・橡尾山(一二二二米)・カガマシ山(一三四三米)、西境に工石山(一五一六米)・八町山(一〇八六米)の石鎚山脈に屬する諸峰聳え、三傍示山・橡尾山等に發源する立川川大字立川を南流し大字川口にて吉野川に合す。吉野川の右岸、村の南部に杖立山(一一三三米)及び國見山(一〇八九米)聳え、穴內川中部を北流して大字穴內にて吉野川に注ぐ。本村は吉野川を頂點とするV字形をなし、兩岸の傾斜緩やかならず。耕地は傾斜面に階段狀に拓け、小溪谷に沿うて水田あり。產物は繭の外に米・麥を主とし、薪炭の產亦少からず。吉野川右岸中腹に土佐街道通じ、立川川に沿ひて伊豫に至る街道走り、省線土讚線亦土佐街道に沿ひて通じ、大杉驛(昭和七年設置)・土佐穴內驛(昭和九年設置)を置き、また高知市及び阿波池田町方面にバスの便あり、山間農村としては比較的交通便なり。聚落は吉野川右岸によく發達し、大字中村・大王その主邑をなす。大正七年東本山村を大杉村と改稱す。この村名は大字杉の八阪神社境內にある大杉より起るといふ。〔杉ノ大杉〕指定天然記念物。大字杉の村社八阪神社の境內にあり。大幹直立天に聳え、老幹蔚然として、土讚線の車窓より指呼し得。大小二樹南北に並び南の大杉は高さ六八米、根廻り約三〇米、目通幹圍約一八米あり。北の大杉は高さ約四五米、根廻り約一五米、目通幹圍約一四米あり。樹勢旺盛、樹齡凡そ二千年の老木なりといひ、楓その他の雜木寄生す。〔金峯神社〕大字葛原に鎭座。鄕社。祭神、安閑天皇。創立年代不詳。もと藏王權現とも佐王權現とも稱す。享保十五年社殿火災に罹る。古來附近十八ヶ村の產土神として崇めらる。例祭、六月十四日・十一月十四日。〔天神宮〕大字立川上名に鎭座。鄕社。もと正八幡天滿天神と稱すと云ふ。創立年代不詳。古來附近三ヶ村の氏神として崇めらる。例祭、六月十五日・九月九日。

オースギダニ　大杉谷（おほすぎだに）

【大杉谷村】石川縣加賀國能美郡の西部。東は西尾村・新丸村に隣り西北は粟津村、西南は江沼郡那谷村・東谷奧村に界す。大日火山北側の山谷に當り土地南北に長く約二〇粁、東西は三・四粁、最高部も六粁を越えず、面積約六四方粁あるも山地多く、たゞ南部に發して北流する大杉川に沿ひ巾狹き低部あり、北部に至りてやや廣くこゝに耕地拓く。農蠶を主業とし米を主產しまた繭を出す。本村は明治四十年瀬谷・大杉の二村を合併せしものにして、古くは和名抄、能美郡輕海鄕の內に屬し、中世一部は輕海鄕に、一部は粟津鄕に屬す。大字波佐谷は大字赤瀬と合併して瀬谷と稱せしものにして、朝倉始末記に據れば永正十六年山科本願寺の內に下間筑前並に含鵜民部少輔といふ者ありて、驕を恣にしつゝ猥大官高位を望み天下を攻亡して本願寺の上人を天子とし己は將軍とならんと、先づ當國に下著して法敵を打ち亡ぼさんと即日勢揃して、波佐谷へ推寄せて堂宇を燒却し更に石川郡に攻入るといふ。また三州志に據れば享祿四年、國人起りて蓮谷に放火し一向坊主を擒にすと。蓮谷は卽ち波佐谷にして字津呂某なる武士住し天正八年柴田勝家に滅ぼさるといふ。大字瀬領に瀬領鑛泉あり。泉質は無色透明の炭酸鹽類泉。大杉川の溪流に沿ひ加熱浴用なるも足利末期より知られたる古溫泉なり。〔圓光寺〕大字大杉にあり。眞宗大谷派。本願寺七世存如の第五子蓮玄の開基。蓮玄は青蓮院尊應の門人にして圓光院と號し入木道の達人なり。遁世して學本坊蓮照と號し寺を加州大相谷に創して之に住す。もと圓光院と稱せしを五世賢祐の代に現號に改む。寺境は園臺を以て聞ゆ。

【大杉谷村】三重縣伊勢國多氣郡の西南隅。大臺ヶ原山東側の山村。宮川の水源地。卽ち西は高峻なる大臺ヶ原山地を以て奈良縣吉野郡と界し、その境上に池ノ木屋山(一三九六米)・三津河落山(一六五五米)・日ノ出嶽(一六九五米)の高山峙ち、北は飯南郡、南は和歌山縣北牟婁郡に境す。全村山地にして杉の良材に富み、村民は林業を主生業とす。また大杉谷御料林あり。大字下杉は吉野熊野國立公園の內。なほ大杉谷は領內・荻原二村にも亙る汎稱なり。古來神宮式年御造營の材を此谷より出せしが運材の不便より近年は木曾其他の御料林より伐採せらる。和歌山藩政の頃は特制を設け林業を督せりと。

オーズチ　大槌（おほつち）

【大槌町】岩手縣陸中國上閉伊郡の東北端。南は釜石市との間に鵜住居村を隔て西南は栗橋村に、西北は金澤村に接し、東北は下閉伊郡織笠村・船越村に界し、東南部は半島狀をなして突出し北の船越灣・南の大槌灣を分つ。東北境に石坂森(五七三米)・鯨山(六一〇米)、西北境には赤內森(六四三米)、西南界にはオイネガ森(六六五米)・赤仁田森(五一二米)・葡萄森(五八八米)等の山嶺連り、村內概ね山地と丘陵をなし、西北隅金澤村に出でし大槌・小槌の二川竝行して前者はほぼ中部を、後者は西部を東南に流れて大槌灣に入り、その下流及び船越灣岸に小低地ありて田畑拓け、畑地に比し水田やや廣し。鰮・鰤等の水產最も盛んにて本町總生產の約五割を占め、また近年海苔・牡蠣の養殖場を設け、此附近漁業の中心地をなす。農產・林產等の產も少からず。釜石市・遠野町・石鳥谷町へバスを通じ省線東北本線の盛岡驛より分岐する省線山田線は本町迄すでに工事終了し近く開通せんとし、また海上汽船の便あり。町立實科高等女學校を置く。此地は上代の氣仙郡鄕の一部にて、後年阿曾沼氏の族大槌孫三郎の所領となる。大槌氏は當時大字小槌字四日町背後の山上に大槌城を築き子孫こゝに居る。永享九年南部氏に屬し、のち南部利直に滅ぼさる。元和三年城代を、寬永九年代官を置く。當時、代官の支配地は、南は平田村(現在釜石市內)、北は豐間根村、西は川井村に亙りしといふ。明治二十二年町村制施行に際して大槌村・小槌村・吉里吉里村を合して本町を置く。字四日町は當時の藩主南部重直閉伊通り巡檢の砌、開發を命ぜられしに始まると、字向川原は寬保元年以前の建設と傳ふ。また大槌・小槌の地名の用字を一定せられしは寬文年間公裁を以て決すといひ、大槌灣內の珊瑚より成る蓬萊島の命名は明和年間藩主南部利雄巡檢の際といふ。大字吉里吉里の名稱起因は明かならざるも、或は此地本町の東北隅に當り海中に突出したる地域なれば限々又は切々の意より出でしかともいはる。〔大槌城〕大字小槌の山上にあり。應永の頃遠野氏の族大槌孫三郎こゝに居住し後自立して遠野氏に抗せしも天正十八年其の裔孫八郎の時南部氏に歸し以來此城荒廢すといふ。本城は海を前にして後に山を負ひ大槌・小槌の二川の間にあるを以て要害堅固なり。〔御崩坂〕鵜住居村界の坂路に當る。南部守行の大槌城を攻略せし時此地に於て流矢に當り死す、よりて御病死坂と呼びしが後現名に改むと傳ふ。

【大槌灣】岩手縣上閉伊郡の東北部にある灣。御箱崎と野島崎との間に抱かれ、西南に灣入す。灣口の狹き所一・五粁、灣入すること七・三粁、灣內更に二灣に分れ、北灣は大槌町の泊地、南灣は鵜住居村に屬す。北灣の灣頭に大槌港あり。灣內に雀島・蓬萊島・名越島・浪ノ助島・長根島等の岩礁あり、蓬萊島に數株の松樹あり中に一社宇を祀る。〔大槌港〕大槌灣の北奧をいふ。水深二・三米內外、海底よく投錨に適し、風波を避くるを以て、避難港として最も好く、指定港たり。主として乾魚・鮮魚介・乾貝・魚糟・木材・繭を鹽釜港に移出す。移入も亦鹽釜港よりし、主要品は內地米・鮮魚介・綿及綿織物等なり。

【大槌川】岩手縣上閉伊郡の北部を流る川。源を金澤村の西北部妙澤山の南麓土坂峠(七五八米)の東部に發して、金澤

村より大槌町に入り、金澤・下岸敷・白銀・和野・姥ヶ澤・大ケ口等の沿岸聚落を作り、大槌灣に注ぐ、流程約二八粁。流路は金澤村・大槌町唯一の交通路たり。

【大槌島】 備讃海峽の中央部にある島。周圍一・五粁。岡山・香川兩縣界上に浮び、島の南半は香川縣香川郡下笠居村に、北半は岡山縣兒島郡日比町に屬す。かかる小島にして兩縣に跨るは境界の複雜性を窺ふべき好例なり。南方に小槌島ありて、その間を槌ノ戸瀬戸といふ。

オースナリ 大須成村 おほすなり 山梨縣甲斐國南巨摩郡の北東部。富士川中流の右岸に沿へる西島・静川二村の西に隣り西境には身延山脈の富士見山（一六四〇米）聳え、土地東方に傾き山林多く、畑地田地これに次ぐ。桑・繭の産を主とし、米・麥を出す。木材・薪も少からず。本村は明治五年大皇村・平須村・久成村の舊三村を合併し、大皇の大、平須の須、久成の成を結合して大須成村と名づけ、明治十七年本郡の西島村と聯合し戸長役場を置きたりしが明治二十二年町村制施行の際分離し、同二十八年大字久成の一部たりし水口・石畑を分離し隣村静川村に編入、以て今日に至る。

オースミ 大住 おほすみ

【大住（郡）】 相模國の古郡名。中部の大部を占む。殘篇風土記は大墨に作る。正倉院文書、天平九年駿河國正税帳には大住國少毅當麻部國勝とあり、日本後紀、延暦二十四年の條に大住郡名見え、延喜式にも郡名見ゆ。和名抄、於保須美と訓じ中島・高來・川相・片岡・方見・和太・日田・大服・櫛椅・渭邊・石田・大上・前取・三宅の十四郷を管し、驛家一・餘戸一を置く。中世に至り高來郷は餘綾郡に編入し、中島郷・和太郷は高座郡に編入、而して餘綾郡の幡多郷・金目郷を本郡に併合し、私かに波多野・糟屋・八幡・豐田・土屋の五庄を稱し、北條氏の時に至り郡の中央なれば大中郡と稱し、之に對しその西南餘綾の方を小中郡と稱し、徳川氏の初め舊に復し大住郡・餘綾郡となり、明治二十九年餘綾郡と合し中郡の稱を建つ。郡名は大隅國の隼人の移住せし故に名づけしものか。日本後紀・延暦二十四年十一月「相模國大住郡田二町賜二從四位下百濟王教法一」三代實錄・貞觀七年三月「以二相模國大住・愛甲兩郡空閑地四百町内、見開田十五町一、充二淳和院一」

【大住村】 京都府山城國綴喜郡の西部。木津川西岸の地にて東南は田邊町に北は都々城村・有智郷村に隣り西南方は大阪府北河内郡菅原村・氷室村に接す。西南半は甘南備山（二〇二米）北側の斜面緩く下りて山地をなすも東南半は土地平坦にして耕地多く米麥の產多し。府道東部を南北に通じ、南は田邊町、北は八幡町へ〆スの便あり交通便利なり。古へ和名抄、大住鄕の地。大隅の隼人の居住せし處。中原康富記に山城國大住は隼人司領なること見ゆ。中世は大住莊と云ひ、南都興福寺の寺領たり。東鑑、文暦二年の條に石清水八幡宮と南都興福寺との間に、薪・大住兩莊の堺界に就いて論訴せることあり。薪は一に薪御園に作り石清水宮に屬せるもの。延喜式に樺井月神・月讀神兩社あり、三代實錄には樺井月讀神貞觀元年授位の事あり、蓋し同神を二處に祭りたるものにして、いま月讀神社あり。古事記に履中天皇の皇子市邊押磐皇子眉輪王の大逆に遇ひ、その二王億計（仁賢天皇）・弘計（顯宗天皇）、苅羽井より走り玖須婆之河（北河内郡樟葉村淀河）を渡り播磨國へ至り給ふとある苅羽井は、延喜式の樺井渡に同じく、本村の東邊泉河（木津川）の渡なるべし。始め市邊押磐皇子の妃荑媛、御子億計・弘計の二王と與に、市邊宮に在はし、圖らずも、皇子の凶變を聞きて大いに悲嘆せられ給ふ。侍臣日下部使主、禍の及ばんことを虞れ、其子吾田彥と與に御母子を奉じて難を避く。時に億計王御年六歳、弘計王五歳。山城の苅羽井に到りて御粮を進む。一老人あり、面に黥せるは正しく刑餘の身、進み寄りて矢庭に御粮を奪ひ取る。二王これを咎め給ふに、老人の「我れは山代の猪甘よ」と言ひ捨てゝ去る。漸に宮を出で給へば早、此危難あり、前途の事を思し給へば其御心細き如何ばかりぞ（古事記）。延喜式・雜式「凡山城國泉河樺井渡瀬者、官長率二東大寺工等一、每年九月上旬造二假橋一、來年三月下旬壞收、其用度以二除帳得度田地子稻一百束一充レ之。」大字松井は武藏川越城主松井氏の起りし處、松井氏は源滿政の子孫重行顯朝に仕へ松井の地頭となり其裔松井氏を稱せるもの。子孫武藏川越八萬石の城主となり明治に至り子爵を授けらる。〔月讀神社〕 大字大住宇池平に鎭座。村社。祭神、月讀尊・伊邪那岐命・伊邪那美命。延喜の制大社に列し、祈年・月次・新嘗の案上の官幣に預り、又貞觀元年正五位下を授けられ著名な神社とす。中世御靈社とも稱す。〔天神社〕 大字松井宇小山向山に鎭座。村社。祭神、伊弉諾尊・天照皇大神。延喜式内社にて、且つ延暦四年十一月「祀二天神於交野柏原一賽二宿禱一也」とあるは、卽ち此の社とするの說あり。

オースミ 大角 おほすみ

【大角崎】 香川縣小豆島の東南端にある崎。坂手村に屬し、西方白濱崎との間に坂手港・内ノ海灣を擁す。最高點一五九米の丘陵續き地頸部を以て村の主邑と結ぶ。南端に大角鼻燈臺（大正二年設置）あり、明二秒暗二秒の明暗白光にて光達距離二〇浬半、然し東方風ノ子島に遮らるる部分は燈光を望見し得ず。なほ船舶通報に關する事務も取扱ふ。

【大角鼻】 愛媛縣越智郡波方村にある岬。北方に斗出し大三島に對し、東方香川縣三崎との間に燧灘（備後灘）を擁す。岬端に狩礁燈臺（大正四年設置）あり、燈質は

明二秒暗二秒の明暗白光にて、光達距離一一浬半。

オースミ 大隅 おほすみ

【大隅島】 日本書紀に見ゆる地名。古への難波の一部。攝津國西成郡大道村卽ち今の東淀川區北大道町・南大道町の邊に當るものの如し。往古難波は多くの島々ありて八十島と呼ばれ、中にも大隅島と媛島の名夙くより著はれ、應神天皇の大隅宮は此島に設けらる。蓋し當時難波江中の重要なる地たりしなるべし。書紀安閑紀及び續日本紀靈龜二年の條には大隅島に牧場のありし記事見ゆ。日本書紀・應神天皇「二十二年春三月甲申朔戊子、天皇幸二難波一居二於大隅宮一丁酉登二高臺一而遠望時妃兄媛侍レ之、望レ西以大歎、（兄媛者、吉備臣祖御友別之妹也）於レ是天皇問二兄媛一曰、何爾歎之甚也、對曰、近日妾有下戀二父母一之情上、便因二西望一而歎矣、冀暫還之、得レ省レ親歟、爰天皇感二兄媛篤二温淸之情一、則謂之曰、爾不レ視二二親一、既經二多年一、還欲二定省一、於レ理灼然、則聽レ之、仍喚二淡路御原之海人八十人一爲二水手一、送二于吉備一」同・安閑天皇二年の條「勅二大連一云、宜放二牛於難波大隅島與二媛島松原一、冀垂二名於後一」續日本紀・元正天皇「二年二月己酉、令下攝津國罷二大隅媛島二牧一、聽中佰姓佃上レ食之上」

【大隅國】 九州島の南端に突出せる大隅半島を主部として、その南方海上神觸島の北方與論島に至る島嶼を含み、之を始良・噌唹・肝屬・熊毛・大島の五郡に分ち行政上鹿兒島縣の管下に屬す。島嶼は熊毛郡に屬する種子島・屋久島、大島郡に屬する奄美大島・德之島等を最大とし其他これに屬する數十の小島を含む。此國はもと日向國の一部にして上世は襲國といひ後の熊襲國の一部をなし、また熊襲の遺族と思はるゝ隼人の根據地たり。國名の初めて見ゆるは國造本紀にて、景行天皇の朝に、大隅國造を定め給ふとあるも、正史に見ゆるは續日本紀にして和銅六年四月日向國の四郡（肝坏・贈於・大隅・姶羅）を割きて大隅國を置くとあり、後、奈良時代天平勝寶年間、菱刈村を以て菱刈郡を建て更に平安時代の初め延暦年間姶羅郡を割きて桑原郡を置き爰に六郡となる。天長元年に多褹國を廢して熊毛・馭謨二郡を本國に合す。（是より先、多褹にありし能滿郡を馭謨郡に、益救にありし益救郡を熊毛郡に併す）ここに於て八郡あり。鎌倉時代に至り薩摩の守護島津忠久この國の守護を兼ね一族國内に繁衍す。建武中興の時この國の守護に任ぜられしは忠久の玄孫貞久なりしが後足利尊氏に應ず。時に國内の豪族に肝付兼重あり、高山城（肝屬郡高山町大字新富）に居り官軍に屬して島津氏に拮抗して永く屈せざりしが、天正年間遂に島津氏に降り爾後この國は島津氏の領地となり幕末に至る。明治維新の際、この國には姶羅・肝付・噌唹・大隅・菱刈・桑原・熊毛・馭謨の八郡を算せしが、明治四年十一月始羅以下の六郡は都城縣の所管に入り、熊毛・馭謨の二郡は鹿兒島縣の所管となる。また大島以南の琉球に屬せし諸島は明治十二年四月大島郡を建て、これを大隅國に屬せしめ鹿兒島縣の管下とす。同三十年郡の大分合廢置の行はるゝや當時大隅國には十一郡あり、卽ち前記九郡の外明治二十年四月に噌唹郡を東西二郡に分ち、大隅郡を南北二郡とし櫻島を以て北大隅郡とせしに據る。四月には以上の十一郡に大整理を加へ桑原・姶良・西噌唹の三郡を合してこれを姶良郡とし、南大隅郡と肝屬郡を合してこれを肝屬郡とし、馭謨郡を熊毛郡に併せ、日向國の南諸縣郡を廢して其區域を東噌唹郡に併せて噌唹郡とし、菱刈郡はこれを薩摩國の伊佐郡に入れ、北大隅郡を薩摩國の鹿兒島郡に入れ、こゝに今日の如く五郡となる。こゝに於て往昔の多褹國・奄美國もみな大隅國に入る。

【大隅（郡）】 鹿兒島縣大隅國の舊郡名。襲國の西南隅にあるより斯く名づく。もと日向國に屬せしが、和銅六年に大隅國の建置と共に大隅國に屬す。和名抄は大野・大隅・謂刈・姶臈・禰寢・大阿・岐刀の七郷を置く。建久圖田帳に下大隅郡とあるを見れば、或は中世に一時上下二郡とせしものか。明治二十年四月郡を南北二郡に分ちしが、同三十年に至り南大隅郡を肝屬郡に合せ北大隅郡を薩摩國に移し鹿兒島郡に編入するに及び、全く郡名を失ふ。

【大隅】 大隅國（鹿兒島縣）大隅郡の古地名。和名抄の郷にして大隅郡家の所在地たり。後世垂水郷と稱せし地にして、また一に下大隅とも云ふ。いま肝屬郡垂水町の邊に當る。

【大隅半島】 鹿兒島縣東部の一大半島。大隅國の南半部にて南方に突出すること約八〇粁、佐多岬に終る。噌唹・肝屬二郡の地を含み東西廣き處約四〇粁あり。西は薩摩半島との間に鹿兒島灣の陷沒灣入あり、東は太平洋に臨み、北部に有明灣（志布志灣）灣入し、南部は大隅海峽を挾みて種子島・馬毛島等に相對す。崇大隅國

【大隅大川原】 日豐本線の一驛（昭和六年設置）。鹿兒島縣噌唹郡財部町にあり。

【大隅大崎】 古江東線の一驛（昭和七年設置）。鹿兒島縣噌唹郡大崎村にあり。

【大隅夏井】 志布志線の一驛（昭和十年設置）。鹿兒島縣噌唹郡志布志町夏井にあり。

【大隅松山】 志布志線の一驛（大正十三年設置）。鹿兒島縣噌唹郡松山村にあり。

【大隅横川】 肥薩線の一驛（明治三十六年設置）。鹿兒島縣姶良郡横川村にあり。

【大隅海峽】 鹿兒島縣東南部の海面。大隅國の南岸（肝屬郡）と南方及び西南部にある種子島・馬毛島・竹島・硫黃島等との

間をいふ。峡間狭き處も三十數軒を隔て廣濶にして航行に危險なく、ただ肝屬郡の西南端佐多岬は屢々濛氣の發生することありと云はる。

オーセ 大瀬 おほせ

【大瀬崎】 靜岡縣田方郡の西北角。西浦村の西北部より東北に突出すること約一粁、形の似たるより一に琵琶島とも呼ばる。岬上松樹繁茂し林中に大瀬明神の祠を祀る。岬頭は東北方狩野川口に對し駿河灣の東北部の支灣をなす江ノ浦灣の西南角をなす。

【大瀬村】 愛媛縣伊豫國喜多郡の東部。内子町の東方約七粁。東部は上浮穴郡田渡・石山兩村に隣り、北は伊豫郡中山村と界す。北境に七〇〇米餘の山地、南境に五—七〇〇米の山地連亙し、中部を西流する小田川の谷に向ひて傾斜す。繭・木炭・銅を主產し米麥も少なからず、特產に栗あり。上浮穴郡久萬町より内子町に至る縣道小田川に沿うて村の中部を東西に走り、内子町へバスの便あり。村道及び林道も最近改修され交通の便よし。銅硫化鐵を採掘する大瀬鑛山は最近盛んに採鑛されるに至り、昭和十一年の銅の產出額は五・五瓩。その鑛床は不規則なる扁豆狀を成し大小の鑛塊を見ることあり。【三島神社】 大字大瀬に鎭座。鄕社。祭神、大山積命。創立年代詳かならざるも、江戸時代より近村庶民の尊信篤し。例祭、九月十五日。

【大瀬】 長崎縣北松浦炭田東南部の炭礦。礦區は北松浦郡相浦町・佐々村・小佐々村の地に亙る。塊炭・粉炭・粗炭を產す。

【大瀬埼】 長崎縣福江島(南松浦郡)の西南部に突出せる岬。極めて陡險にして天候靜穩の時にも、附近海上には强烈の潮溜ありて小舟の航行は極めて危險なり。岬頭に大瀬埼燈臺あり。明治十二年の設置にして燈質は閃白光、每三十秒一閃光、光達距離は二三・五浬。

オーセ 王瀬 わうせ 新潟市内信濃川の河口の右岸、山ノ下の東南部の舊稱。また向山ともいふ。阿賀川の舊河道に當る燒島潟を前にし後に砂丘を帶び、古の沼垂濱の地といふ。然し近世阿賀川河口の移動と共に地形大いに變じ、沼垂は今の地に移れりといふ。

オーセ 會瀬 あふせ →助川町(茨城縣)

オーセキ 大堰村 おほせき 福岡縣筑後國三井郡の東部。東北は筑前國朝倉郡福田村・蜷城村、南は浮羽郡柴刈村に界す。筑紫平野の東北部にて筑後川(千歲川)と東北より來る支流佐田川・小石原川の會流する地點に當り低平にして水田多く米その他の農產多し。此地は和名抄、御井郡伴太鄕の地なるべく、大字宮多は其遺稱ならん。大字守部は宇佐大鏡にも其名見え古くより開けたるを知る。また床島に有名な床島堰あり。三井郡の内三十八村の田園はもと水利に乏しく年々旱害に苦しむこと甚しきを以て、正德二年草野村草野又六は稻數村庄屋淸右衞門・八重龜村庄屋新左衞門・鏡村庄屋六右衞門と相謀り狀を具して官許を得て床島に一大堰を造營す。然るに水勢なほ盛んならざるを以て巨石を片糍に投じて水底に沈むる等の難工事を敢てし、遂に鬼工を全うす。水路の延長一五〇粁、約三〇萬アールの田畝を灌漑するに至る。今傍に床島堰碑及び築堰の功勞者草野又六等を祀る大堰神社あり。又この附近は螢の名所として著名なり。【大堰神社】 大字宮多に鎭座。鄕社。菅原神・罔象神・草野又六・高山六右衞門・秋山新左衞門・中垣淸右衞門・鹿毛甚右衞門・丸林善左衞門を祀る。創立年代詳かならざるもと天滿宮または水神社と稱せらる。大正十二年明細帳に編入と同時に兩社を合祀し現社名に改稱す。同十四年草野又六外五人を合祀す。草野又六外五神は正德年中筑後川三大堰の一たる床島堰開鑿に顯著なる功績を樹て、當地住民に多大なる恩澤を垂る。大正五年何れも贈從五位の恩命に浴す。而して又六以下本開鑿事業に際し、本社祭神の水神社に祈願するところあり。この緣故に依りのち本社に合祀せられしと聞はる。

オーセキ 大關村 おほせき 福井縣越前國坂井郡の中部。福井市の北方約一二粁東十鄕村の北、金津町の南に位し、福井平野の北部にて土地平坦、村內至る所水田拓けて米を多產し、葉煙草の產また少からず。本村は大味と今關と合併して成れるもの。此地は古くより開けたる地ならんも今詳かに知り難し。傳に據れば、大字大味の地は約千五百年前は深く湖底に沈みし地なりと。而してその湖邊に住居せる未開の土人達は湖上に舟を泛べて漁し平和なる生活を續け居たり。偶々應神天皇の御子孫、彥主人王の御子男大迹王(繼體天皇)が此地を過ぎ給ひし時、此等の土人をして農事に勵めさせ、より良き生活を與へんものと思召され、湖水の一方を切開かれ、大湖の水を日本海に流出せしめたり。而して王御自身はその跡に質素なる宮殿を御造營になり、直に里人を集められ農業の奬勵に盡力遊ばされしを以て、曾ては湖底たりし地も何時しか一大田圃と化す。人々は感激と歡喜とに身命を王に捧げて宮殿の附近に居を構へて王見と稱して仕へ奉る。王の御位せられて都に還御し給ひし後も人々は宮殿の跡を王家敷と名付けて大切に保存し今日に及ぶ。而して王見も何時しか大味と變り、大家敷にはいま稻荷大明神を安置す。その御堂の近くに三角といふ家屋及び三角川あるも、何れも古く御帝及び御帝川と稱せし名殘なりといふ。

オーゼキ 大關 おほぜき

【大關山】 山形・宮城兩縣界にある笹谷峠の舊名。

【大關山】 肥薩山塊の雄峯。熊本縣葦北郡東南部、湯浦・久木野・大野三村界に聳え、標高九〇二米。西北麓は佐敷川の水源地をなし、また東南麓は水俣川の上源をなす。この山中は西南役の激戰地の一にして、池邊吉十郎の拔刀隊を率ゐて奮戰し、官軍五度取り五度失ひ最後に奪取せし處。

オーセト 大瀨戶 おほせと 下ノ關海峡の西南口の稱。卽ち下ノ關海峡の西を塞ぐ彥島の東南部と對岸なる門司市大里附近との間をいひ、彥島の北岸とその對岸小門との間の狹水路小瀨戶に對する稱呼なり。※下ノ關海峡

オーセン 横千島 わうせん 朝鮮濟州島楸子面の屬島。楸子面の北方約八粁の海上に浮ぶ。東西に狹長(約二粁)にして島内は丘陵を成し周圍は低き海崖をなす。

オーセン 横川 わうせん

【横川面】 朝鮮咸鏡南道永興郡の南西部。廣き部分は東西四〇粁を超え南北二四粁に及ぶ大面積を占め、北は耀德面、東は宜興面・鎭興面に接し、南は高原郡水洞面・雲谷面、西は平安南道孟山郡東面・吳江面に界す。狼林山脈の山地に當り、東部には落雁峯(一三三四米)、南境には五峰山(一二八九米)、西北境には昇風山(一三五三米)、西南部には冷水岩(一一七九米)等の雄峯蟠踞し至る處山地をなす。龍興江の上流とその支流山地の間を曲流して東隣宜興面南部に出で、その谷に沿ひて僅に低地あり、聚落發達するも產業見るべきもの少し。道路北隣耀德面より龍興江の支流立石川に沿ひて面の北部に入り西北に向ひ孟山郡蘆田面に通ずるも交通の便よろしからず。

【横川面】 朝鮮慶尙南道河東郡の中部。東は北川面・良甫面に、南は古田面に、西は赤良面に北は靑巖面に接す。北半及び南部の一部は丘陵を成すも中央に拓けて聚落發達す。二等道路西方の河東面より來り面の中部横川里を過ぎて東方晉州邑方面に走り、また横川里より北方に三等道路、西北方に等外道路走り、交通比較的便なり。

オーゾー 大澤村 おほざう 兵庫縣攝津國有馬郡の西部。三田町の西南方にてこれと長尾村を挾み西は播磨國美囊郡奥吉川・上淡河の二村と界す。美囊川の上流村の南部に發して中部を北流し地槪ね平坦、北半に耕地よく拓け、米・麥・繭の外鷄卵・蔬菜・花卉等の農產あり。此地古くは和名抄、幡多鄕に屬せるものの如し。

オーソネ 大曾根村 おほそね 山形縣羽前國東村山郡の南部。金井村及び南村山郡椹澤村を挾みて山形市に對し、相模村の北に隣り、南は南村山郡の村木澤村と界す。白鷹山(九八六米)の山脈東北に延び來り本村の西半その山地に被はれ東に傾斜し、東半は山形盆地の一部に當り、東境を北流する須川の一支西部山地に發して此低地を潤す。村民の大部は米作に從事し養蠶業も亦盛にして繭の產多く又櫻桃の產あり。山邊町より南方南村山郡上山町に至る縣道西北に通じ、又山形驛より分岐する左澤線の羽前山邊驛(山邊町)に最も近く便なり。此地は和名抄、最上郡山邊鄕の內か。村名は蓋し此遺稱なるべし。鎌倉時代その評定衆の一人にして、此莊の地頭職となりし大曾根次郎兵衞時長は莊名を稱せしものか。

オーソネ 大曾禰 おほそね 出羽國(羽後國山形縣)の古地名。中世の莊名にて、關白忠實領なり、久安四年、之を次子賴長に與ふ、その年貢布二百段、馬二匹なり、明年綵色を下して藤原基衡に命じ、布七百段、馬四匹を輸さしむ。基衡聞かず、更に使を遣はし、基衡の言をも聽きて、准布一百段を增進せしむ。保元二年之を沒官してのち院領と爲す。地は今の飽海郡の內なるも、莊域詳かならず。北平田村の大字に牧曾根・中野曾根の名あり、上田村に大字上野曾根あれば此邊に擬すべきものか。

オーソネ 大苑 おほその 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に眞壁郡大苑鄕ありて訓を闕くも於保曾禰と讀むべし。寬喜元年の眞壁文書に平時幹、眞壁郡大曾禰鄕の地頭職に補せらるとあり、中世、眞壁氏の族此處に居り大苑氏を稱せりと。其地今の眞壁郡雨引村及び西茨城郡東那珂村等の地に當る。蓋し雨引村の大字大曾根は大苑鄕の遺稱なるべし。

オーゾネ 大曾根 おほぞね →大穗村(茨城縣)

オーソノ 大園庄 おほその 臺灣新竹州桃園郡の西北隅。東は蘆竹庄に界し、南は中壢郡中壢街に西は同郡觀音庄に隣接し、北は海に面す。所々小丘陵あるのみにて、その他は一望水田坦々として展開す。南崁溪は東北界を、新街溪・老街溪は中部を並行して、何れも南より北に向ひ流れて海に注ぐ。以上の三溪は皆河床淺く、水量亦少くして、平時は灌漑に利用せらるゝも、夏季豪雨の際は一時に氾濫して農作物を害すること尠からず。南崁溪口に南崁港、老街溪口に許厝港あるも、兩者とも良港ならず。領臺前には相當貿易船の出入ありたるも、現在は甚だ稀なり。海岸線約八粁、遠淺にして屈曲少く、南崁港卽ち大字竹圍の海岸には海水浴場の設備ありて夏季は浴客蝟集す。面積は約七方粁。純然たる農村にて農業者は總人口の過半數を占め、勞働者これに次ぐ。田約六千二百甲、畑三百餘甲、合計約六千五百甲に及び、水利の便甚だよく、桃園大圳その他私設埤圳これを灌漑し、此等の貯水池管內に點在す。農產に米(八萬五千石、價格約百四十萬圓)・甘藷(六百餘萬斤、價格約五萬圓)・蔬菜類(約二萬圓)・落花生(約二萬圓)・西瓜(約一萬圓)等あり。また農家に於る養豚・養鷄其他家畜の飼育盛にして畜產による年生產額約三萬圓に及ぶ。相當長き海岸線と漁場あり。主要工業は煉瓦及び瓦の製造にして、年生產額約三千圓程度。公學校

[illegible]

オーソ 牛岡 [illegible]

オータ 大田 [illegible]

[illegible]

[illegible]

房村等の地に當る。豐房村の大字大戸を以て大田の訛となすものあるも、いま遽かに信じ難し。蓋し大田とは大飯田を修め、大炊寮に用ふる舂米を進ぜしより起りし名なるべし。

【大田】 下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に匝瑳郡大田鄕より、訓を闕くも遠江國大田鄕の例により於保多と讀むべし。常陸・美濃・信濃・上野等にも大田鄕あり、古事記・景行天皇の條に大田君の名見ゆ、或は之と關係あるか。千葉系圖に大田又太郎胤貞あり、本鄕に住し大田を姓とせるものか。今の海上郡旭町及び匝瑳郡豐畑村・平和村等に當る。旭町大字太田は大田鄕の遺稱なるべし。

【大田村】 神奈川縣相模國中郡の東部。伊勢原町の東隣に位し、北は成瀨、東は相川、南は城島の三村と境を接す。西邊には丘陵南北に亘るも、其他は相模平野の一部に屬し、土地平かに水田畑地多く、米・麥・甘藷等の農產あり、養蠶また行はる。縣道ほぼ東西に通じ、社線小田原急行鐵道(電車)の伊勢原驛に近く交通不便ならず。本村は和名抄、大住郡渭邊鄕の内にて近世糟屋庄の地なり。大字小稻葉村は曆應年間は小稻葉鄕と稱し、北條氏の頃は伊東九郎五郎領し、のち近藤石見守・同彥九郎・大久保織部數文等地頭たり。延享以後は幕領となる。大字上谷は谷之鄕と稱し、北條氏の頃は笠原美作守知行し、寶曆十年堀田備中守正篤の領地となる。大字下谷も谷之鄕に屬し、大久保佐渡守忠保の所領たり、のち近藤爽之助・石川劍次郎の知行所たり。大字沼目は往古沼部鄕沼部村と稱せしが、天正十九年、村内の八坂神社に賜はりし御朱印に沼目と記されしより鄕村の名を改めしと云ふ。沼部の名義は古へ沼池多くありし地なりと傳ふ。長祿年間には鎌倉建長寺西來庵の領地、小田原北條氏の時に至り婿和又太郎の采地となり、寶曆十年に堀田備中守正篤・近藤石見守・近藤彥九郎・土屋兵部・駒田平吉・高麗榮行・加藤源左衞門・小河惣左衞門等の知行に係る。此地に慶長の初年德川家康の命によりて水野織部正忠守が閑居せりと。大字上平間は往時平間鄕と稱せしが正保年間より元祿年間に至るまでに上下の二村に分れ、北條氏の頃、深井某(櫻井の誤字なるか)の所領なりしも、のち宇都野貞三郎の知行所たり。神明社は上下平間の鎭守にして天正十九年社領一石の朱印を賜はりし古社なり。大字下平間は元祿十六年地頭は佐橋內藏助なりしも、のち佐橋兵三郎・宇都野貞三郎等の知行たり。下平間の南方字上臺に櫻井伯耆守の墳墓あり、塚の高さ二米二七、塚上に杉樹立てり、此外、村内に古塚三基あり。伯耆守は村内隆安寺の開祖にして元龜元年卒せしと。

【大田】 越前國(福井縣)の古地名。中世の莊名にて、天慶二年の文書に見え、鵠成院より東寺に施入せり。いま足羽郡下文殊村の大字に太田の名あり。蓋し莊名の遺稱ならん。

【大田】 信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に水內郡大田鄕あり、於保多と訓ず。蓋し大碓命の裔なる大田君の居りし所なるべし。其地今の上水內郡中鄕村・柏原村等の地に當るべし。一に同郡の北小川村・南小川村・津和村・水內村・榮村等の地に當るともいふ。東鑑・文治二年三月「信濃國、太田庄、殿下御領」とあるも此地なり。

【大田】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に安八郡大田鄕あり。其地いま詳ならざるも諸鄕の位置より推せば、安八郡綱東村・仁木村等の地に當るか。一書には大田は恐らく大井の譌なるべく、而して東大寺の天曆四年封戶目錄に美濃國安八郡大井莊田五十町とある地、卽ち今の大垣市藤江町・高橋町・南頰町等に當るともいふ。古事記の景行天皇の皇子大碓命は大田君の祖、また應神紀に皇子根鳥王は大田君の始祖なり等とあるも、此鄕に關係あるべきか。

【大田】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に大野郡大田鄕あり其訓を闕くも、遠江國の大田鄕の例により於保多と訓ずべし。下總・常陸・信濃・上野の諸國に大田鄕あり。古事記・景行段に大碓命は大田君の祖なりと見え、また姓氏錄に大田宿禰は大碓命の後なりとあるは皆この諸鄕に關係あるものの如く、美濃神名記に大野郡大田大神の名見ゆれば、大碓命が本州を領しその子孫此地に住して其祖神を祀れるものか。其地いま詳ならざるも揖斐郡德山村の邊か、或は同郡本鄕村が大田本鄕の省呼なるべきか、また同郡黨村の邊なりとも稱せらる。

【大田】 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に周智郡大田鄕あり、於保多と訓ず。今の磐田郡今井村の大字に太田あり、蓋し此地ならんか。古事記に大田君の名見ゆ。此地或は其裔の住せし地ならん。

【大田】 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に長下郡大田鄕あり。もと大を誤りて太に作るも、高山寺本に從ひて正し、周智郡大田の例により於保太と訓ずべし。古事記・景行天皇の條に大碓命は大田君の祖とあり、また姓氏錄・江首の條に大田宿禰は大碓命の後とあり、此地は卽ち其族の居りし處。今の磐田郡池田村の邊か。一書に同郡帝濵村・豐濱村・福田町の邊を以て其地なりとす。

【大田】 愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年、横須賀町・加木屋村・高横須賀村・養父村と共に廢され、新たに横須賀町を置く。

【大田山】 山城國(京都府)愛宕郡の歌枕。いま京都市上賀茂に鎭座せる官幣大社賀茂別雷神社の裏山をいふ。近くの澤も亦歌枕として知らる。光經家集「建保五年四月ごろ、れいならぬ事大事に侍りしに

おもひかけず隣家に侍りきぬに託宣ありて大田社にこよひの内に歌合して奉りたらば平癒あるべきよし申侍しかば奉り侍き、社頭述懐　ふして思ふ心もくるしあすよりは大田の杉のしるしあらはせ、此歌合病のむしろにしづみながら詠進て次日より平癒侍き」夫木・二九「雲かかる大田の山と成にけりいく世の塵のつもるなるらん　雅經」五社百首「神山やおほたの澤のかきつはたふかきたのみは色にみゆらむ　俊成」

【大田】 播磨國(兵庫縣)の古地名。播磨風土記揖保郡の條に大田里と見ゆ。同書によれば大田の名は此地の開拓者呉勝が其最初の居住地なる紀伊國名草郡大田の名によりて命けしものといふ。なほ同書に此地の言擧阜は神功皇后が其軍に勿レ爲二言擧一と敎令せられし處、鼓山は額田部連伊勢と神人腹太が鼓を鳴らして闘へる處とあり。和名抄には揖保郡大田鄕あり、於保多と訓ず。鄕域は今の揖保郡太田村及び龍田村大字上太田、勝原村大字下太田の邊に當るべし。中世に大田莊といひて橘定康これを支配し、隣地福井莊の用水を妨害せりとて、僧文覺に罵詈せられしこと神護寺文書に見ゆ。また西園寺家文書に「播磨國大田莊、云々、建武二年七月十二日」とあり、のち西園寺家の所領たり。播磨風土記・揖保郡「大田里(土中上)。所三以稱二大田一者。昔呉勝從二韓國一度來。始到二於紀伊國名草郡大田村一。其後分來移二到於攝津國三島賀美郡大田村一。其又遷二來於揖保郡大田村一。是本二紀伊國大田一。以爲レ名也。言擧阜。右所三以稱二言擧阜一者。大帶日賣命之時。行軍之日。御二於此阜一。而敎二令軍中一曰。此御軍者慇懃勿レ爲二言擧一。故號曰二言擧前一。鼓山。昔額田部連伊勢。與二神人腹太一之相闘之時。打二鳴鼓一而(闘)之。故號曰二鼓山一。(山谷生レ檀。)」神護寺文書「橘判官殿(定康)は、君の御いとおしみの人にておはし候へば、云々、播磨國大田御莊と申候は、君の御領に候、高雄の御莊に、福井莊と申候は、君の御領に候はずや、大田御莊の内、池の候は福井御莊の田をやしなひて、四百餘歲になりて候を、件の池をほしてわづかに田四五町つくらんとて、福井莊の田七十餘町干損候は、これは橘判官御道理にて候か、御莊園をしろしめさんずる人の御訴には候はずや、一日路をも人の御領の中をも、ほりかけて水をとる事は、つねのならひに候、わづかに田四五町をつくらんとて、福井莊の田百七十餘町うしなはれて、高雄をもつくり候まじきは、これよき事に候か、あにが妻をまきとりけるもことわりや、福井の水をぬすむとおもへば、このよし御所に申上候てたびおはしませ、云々、六月十八日、文覺、馬權頭殿」

【大田】 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に佐用郡大田鄕あり。其地いま詳かならざるも、一說に赤穗郡赤松村の邊ならんといふ。播磨風土記に邑寶里とあるは大田鄕を指せるものなるべし。播磨風土記・讚容郡「邑寶里(土中上)。於麻都比古命治レ井飡レ糧。卽云二吾占二多國一故曰二大村一。治レ井處號二御井村一云々」

【大田】 但馬國(兵庫縣)の古地名。一に太田に作る。中右記に永德元年大田莊の名あり、弘安以前、田八十町ありて本家は法金剛院、領家は伯宮、地頭は越前前司後室なり。いま出石郡資母村の大字に太田の名あり、蓋し莊名の遺稱なり。大田文「太田莊、八十町、法金剛院領、伯宮御領、地頭越前前司後室、不出注文之間、任古帳注進之」

【大田】 紀伊國(和歌山縣)の古地名。播磨風土記に昔呉勝韓土より渡來して始めて紀伊國名草郡大田村に到り、のち攝津三島、賀美郡大田村に遷るとあり。和名抄名草郡に大田鄕出づ。同書は訓を闕くも於保多と訓むべし。大田は大飯田の修略ならん。また多太・多田にも作る。また宮鄕と稱し大神宮の神領たりし事あり。中世は紀國造家の要害大田城のありし處。城は天正十三年に豐臣氏の軍に圍まれて陷る。いま和歌山市の地に大田あり、蓋し鄕名の遺稱なるべく、また同じく大田に大田城址の僅に存す。

【大田】 備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に世羅郡大田鄕あり。其訓を闕くも、遠江國大田鄕の例によれば、於保多と讀むべきものならん。延喜式・民部省式「年料舂米、備後國大炊一千一百九十五石四斗三升五合、以二正稅一舂運。白米從二大炊寮一。黑米從二省及內藏寮一。」とあるは此地なりといひ、鄕域は今の東大田・西大田兩村の地域なるべし。東大田村の大字太鄕は鄕名より轉訛せしものの如く、同地に延喜式、世羅郡和理比賣神社あり。中世に大田莊の名あり、高野山金剛峯寺大塔領にて、永萬二年二月莊號を許されて立券せり。その地域は和名抄大田鄕を基本として、桑原鄕を併せ、[illegible]鄕をも包括せり。故に莊を分ちて、一を大田方、一を桑原方と稱し、大田本鄕あり、また内に山中莊を併せ含む。大田方は凡そ今の世羅郡西大田村、桑原方は東村・廣定村の邊にて大田本鄕は東大田村・津久志村(大字に山中福田の名あり)。大見村は山中莊に當るものの如し。寶簡集・七「太政官符備後國、應任院廳下文、以當國大田莊地利、充金剛峯寺大塔不斷兩界法用途、免除勅事院事大小國役等事、右云々、文治二年五月十日」東鑑・文治二年七月二十四日の條「爲二仙洞御願一、爲レ被レ資二平家惡靈一。於二高野山一、被レ建二立大塔一。自二去五月一日一。被レ行二嚴密御佛事一。而供料所。以二備後國大田庄一。加二御手印一。今日所レ被レ寄也。但土肥彌太郎成レ妨之由。依二其訴出來一。殊被二仰下一之間。早可レ退二出庄家一之旨。今日。二品令二下知一給之云云。」

【大田町】 山口縣長門國美禰郡の東北部。

山口市の西北約一二粁。東部は阿武郡佐々並村に隣り、北は赤郷村に、西は秋吉村に界す。石灰岩臺地として有名なる秋吉臺の一部にて、北境に權現山（五四三米）、東南境に矢櫃山（六五三米）峙ち、西南部に低地ありて水田拓け、町の主部落また此處に立地す。產物は米・麥・繭・蔬菜等を主とす。また大田午蒡とよばるる午蒡の特產あり。大字長登の長登鑛山・南隣綾木村に跨る金ケ峠鑛山・山陽大嶺鑛山の一部等あり、主として銅・コバルト鑛を產出す。小郡町より萩市に至る縣道南北に通じ、伊佐町を經て豐浦郡小月町に至り山陽道に通ずる縣道は本町にて分岐し、各バスを通じ交通便なり。古くより萩市に至る山道の要地に當り附近の商業の中心地を形成し、また郡役所の置かれし所いま警察署を置く。大正十二年長登村を合併して町制を布く。此地は和名抄美禰郡作美郷の地といふも詳かならず。慶應元年長州藩內爭亂の時、粟屋帶刀の率ゐる撰鋒隊は、繪堂（赤郷村）に陣す。この時、伊佐に屯在せし奇兵隊、膺懲・御楯等の諸隊は高杉晉作の兵を起すを聞き、之に應じて繪堂を夜襲す。撰鋒隊は伊佐諸隊藩命を奉じ我に抗せざるものとして備へざりしにより大敗す。撰鋒隊は直に逆襲を計りしも奇兵隊これを本町字河上に迎へて激戰し潰走せしむ。郡撰坂・呑水等はこの時に戰場となりし所なり。金麗神社は山縣狂介（有朋）の戰勝を祈りし社と傳へ、大字大田の天滿宮にこの記念碑を建設し、その碑文に「正三位公爵毛利元昭篆額　癸丑歲外艦闖入浦賀自此海內騷然　天子赫怒下嚴懲之詔而幕府逡巡不能奉行獨我忠正忠愛二公率藩敢旨舉防長二州以從事於尊攘於是乎有馬關之役臣所識人歟謀以沮二公志憤激訴寃　闕下於是乎有京師之變二公之志不得伸而四境之兵已逼偸安姑息之徒棄二公唱恭順幽君削封之不顧殺戮忠士以乞哀幕府目諸隊勇烈之士爲過激暴慢遂下解隊之令將兵滿之諸隊乃投書於其督責以大義名分於是乎有繪堂之戰繪堂之地不便據守諸隊乃轉陣于大田數戰奏捷自是防長國是竟定矣嗚呼此戰而不捷則二州忠義之氣沮而二公大節將不復見焉而天之所眷能致克捷不獨二州之幸異日得覩大政維新之盛亦未嘗不基於此役也今也遭際昇平覽戰鬪之迹弔陣歿之士孰有不愾然而歎者茂鼓與諸子謀建石紀當時梗概以際後人云爾　明治三十九年二月　樞密顧問官從二位勳一等子爵杉孫七郎撰」。又本町の西北部は石灰岩質より成り、本邦に於ける最大にして最も著しき秋吉臺のカルスト地形の一部に當り、その石灰洞を以て有名なる秋芳洞（秋吉村字廣谷）にも近し。〔長登鑛山〕大字長登山中にあり、銀・銅・安質母尼・コバルトを採掘し、主としてコバルトを出す。昭和十年に於ける鑛產額はコバルト鑛約一九一噸、價格約一二〇〇〇圓、使用鑛夫數二〇人。〔八幡宮〕大字大田に鎭座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后。元亨四年の創祀と傳ふ。領主藩主及び近郷の崇敬社にて、應永二十七年・天正七年・享保六年・寶曆七年、文政九年の數度に亙る社殿造營の棟札を藏す。例祭、陰曆三月十六日・九月二十五日。

【大田】→太田村（香川縣）

【大田】日向國（宮崎縣）の古地名。和名抄に諸縣郡大田郷あり。其地詳かならざるも、いま西諸縣郡加久藤村の大字に小田あり、恐らく大田の轉訛にして古の郷は加久藤・眞幸・飯野三村の地に當れるものか。太宰管內志「和名抄に諸縣ノ郡大田ノ郷あり大田は於保多とよむべし……名義は大田ノ姓ノ人の住めりし處なるべし、景行天皇紀に日向ノ髮長大田根生」日向襲津彥皇子」といふこと見えたりこの大田によしあるにはあらぬにや、地理の事はいまだ考へず」

オータ　太田

【太田山】北海道後志國久遠郡久遠村にあり。標高四八三米。相泊山東に續き山脚西南に延びて帆越山となり、その日本海に迫るところ斷崖をなし、帆越岬と稱す。古來靈場として、また魔所と呼ばれ畏怖せられし山。山上に小堂あり。太田夢所の土爽の絕滅せるを記念するものか。寬文年中、圓空法師佛像をこゝに安置せりと。蝦夷行記によれば「西は太田山、東は臼狀といひ信仰者の參詣多し。」

【太田村】北海道釧路國厚岸郡の西北部。釧路國支廳の管下。東と南は厚岸町に隣り西は川上郡標茶村と界す。面積三五七方粁。西境は一〇〇米餘の丘陵連亙して東南に緩斜し、別寒邊牛川東境を東南流し、西方の丘陵を刻み東南に下るタツカルウシ川・平野川・チャンベツ川・片無去川・大別川・尾幌川等を容れ厚岸湖の西北部に注ぐ。河川沿岸は濕地多く牧場をなす。村の南部を東流する尾幌川の流域は耕地拓け、畜產・農產多し。省線根室本線の厚岸驛・門靜驛（共に厚岸町地內）に近く、厚岸町より標茶村に至る道路南西部を斜に走り、また片無去より岐れて南すれば釧路市に至る街道通じ、バスの便あり。此地は明治三十四年尾幌川と大別川間の丘陵上に屯田兵村として八條四坊の巷區を開きしに始まり大正十二年村制を施く。以後漸次發達し道廳立釧路農事試作場・乳製品工場等を設けらる。

【太田村】岩手縣陸中國岩手郡の南部。盛岡市の西方に近く、北は雫石川を隔てて厨川村・瀧澤村に、南は紫波郡飯岡村と界す。西南端に箱ケ森山（八六六米）峙ち、その山麓西南部に延び、その他の大部分は平地にて盛岡盆地の一部に當る。雫石川の分流は東部平地を潤ほし、水田拓け良米の產地として知らる。產物は米を主とし、外に大豆・粟・稗・馬鈴薯等を產す。また苹果・梨・櫻桃等の栽培も躍進的發展をなしつゝあり。省線東北本線の仙北町驛（東隣本宮村大字仙北町）に

近く、また仙北町・盛岡市への縣道は村の中部を東西に通じ、バスも通じ交通便なり。此地の大字下太田に方八町と稱する所あり、康平五年源賴義が厨川柵を攻むる時こゝに陣せしと傳ふも詳ならず。また本村東部の水田は慶長四年（一說に慶安二年）鎌津田甚六が雫石川を堰入れ、鹿妻堰（穴口堰）を設け、その水を灌ぎしにより良田に化すといふ。

【太田村】岩手縣陸中國稗貫郡の南部。花卷町の西南に近く、北は湯口村に、南は和賀郡笹間村に界す。地は東西に細長く村の西北部は奧羽山脈の東緣に當り、西北境に駒頭山（九四〇米）・天ケ森（八〇七米）、西南境に八方山（七一七米）聳え、山地漸く東方に傾き、その間に北上川の一支豐澤川の本支流谷を刻みて東流す。村の東部は北上川流域平野の一部に當りて、山麓に沿ふ一帶には畑、東部には水田拓け米・繭を主產す。山麓に沿うて三澤鑛山・南又鑛山・舘森鑛山等ありて、銅鑛・亞鉛鑛を產す。省線東北本線の花卷驛（花卷町）及び社線花卷溫泉電氣鐵道の西公園（花卷町）・二ツ堰（湯口村）兩驛にも近く、街路また花卷町に通じバスの便あり。〔三澤銅山〕明治十四年に採鑛を開始す。地質は第三紀の角礫質凝灰岩及びこれを貫きて岩脈をなせる流紋岩より成り、鑛脈は主に分解せる母岩片及び綠色の粘土にて大小不定の塊狀黃銅鑛の團塊を不規則に包藏し、黃鐵鑛・方鉛鑛及び小量の石英を伴ふ。鑛脈は幅三〇糎—二・五米にて東西の走向を有し、六〇—七〇度の角を以て西方に傾く。〔清水寺〕字清水にあり。天台宗寺門派。音羽山と號す。此地は大同二年坂上田村麿將軍草創の地にて、日本靈場三ケ所の一といはる。往昔、田村麿征夷大將軍として東國に屯し夷賊征討の後、奏聞を經て一宇を建立し閻浮檀金十一面觀自在尊を安置し、國家鎭護の靈堂となす。これ當寺の濫觴なり。爾來、京都東山若王寺の觸法として法燈連綿たりしが、明治五年修驗宗を改めて現宗となる。

【太田川】岩手縣西磐井郡平泉村の南部を流るる川。上達谷の山中に發し、東に流れ字祇園の東北にて北上川に入る。下流は北上川右岸の平地につゞく扇狀地にて水田拓く。

【太田村】福島縣岩代國安達郡の東北部。小濱町の東北に隣り、北は木幡村を隔てて伊達郡飯野村・大久保村と界す。阿武隈高原の一部に當り、村の中部西寄りに陣場山（三六五米）聳ゆるも、凡そ三—四〇〇米の高原性山地連亙し、山地西北部に漸次緩かに傾き、南部を廣瀨川西流し轉じて西境を流れ、北西境を北流する阿武隈川に合す。川に沿ふ低地には樹枝狀に水田拓けたるも一般に畑作農行はれ、米・麥を主產す。伊達郡川俣町より二本松町に至る縣道、略々東西に通じバスの便あるも、村內の交通は未だ便ならず。住吉山館は大字上太田にありて石橋氏の居りし所、木城館・住吉館ともいふ。文明の頃石橋左近將監義衡築き、近郷に威を振ひ、其子右衛門大夫義仲より其子宮內大輔義次・孫治郎大輔義久まで此處に居城す。義久愚昧にして忠臣石橋新介藤則入道道海の諫を聞かず、幼子松丸を遺して病歿す。家人大內備前・石川彈正・寺坂山城等は田村氏に內通して叛す。松丸は相馬氏に身に寄せ、住吉山館は亡びしといふ。〔住吉神社〕大字上太田字小松葉に鎭座。郷社。祭神、底筒男命・中筒男命・表筒男命。創立年代不詳なるも中世領主石橋氏の勸請にして、爾後累代の守護神と仰がると云ふ。また三十三郷の總社として崇めらる。〔誠心寺〕字金山（住吉山麓）にあり。淨土宗。香林山と號す。本郡油井村の臺運寺末。延寶元年創建。往昔二本松城主丹羽光重に西村志摩之助正廣と云へる愛童あり、歲十六にて痘瘡に罹り寬文四年正月死し、臺運寺に葬り香譽誠心と諡す。正寶元年、光重同寺の香天上人に命じて一字を造營せしめ誠心の位牌を祀る。

【太田村】福島縣磐城國相馬郡の南部。原町の南、小高町の北に隣り、東は太平洋との間に大甕村を隔つ。北部と南部に一—三〇〇米の丘陵ほぼ東西に連亙し、中央部を太田川東流しその流域に低地ありて水田拓け、北西部は雲雀ケ原（野馬追原）の一部をなして桑園あり、米・麥・繭を主產す。村の中部を南北に陸前濱街道に通じ、その東部を並行して省線常磐線通じ、大字高に磐城太田驛（明治三十一年設置）を置く。此地は和名抄、行方郡子鶴郷の內。太田川の南なる大字鶴谷は郷名の轉訛せしものなるべし。下總相馬氏の相馬郡を知行するに至りし當初に居せし地といふ。大字矢川原より出でし矢河原源十郎はその在名を唱へしもの。また大字益田は相馬岡田氏の舊邑にて、もと院內・井內にも作りしも天明・享和の頃現名に改むといふ。雲雀ケ原を中心として行はるる野馬追祭は、相馬地方の珍らしく勇壯なる祭事として知らる。この祭は此地を領せし相馬氏の祖先が下總小金ケ原にて行ひし放馬練兵の遺風を傳へしものなりと。小高町の小高神社と中村町の相馬神社と本村の太田神社の三神社（相馬の三妙見といふ）聯合の神事にて、一方講武を目的とせるものの如し。祭日は每年七月十一日（宵乘祭）・十二日（野馬追祭）・十三日（野馬掛）の三日に亙り、初日は三神社何れも神輿を出し、古式の武者行列にて原町に入り、神輿を夜ノ森山上に安置し宵乘の式を行ふ。晝は競馬、夜は民謠、流山の踊あり、第二日は行列にて雲雀ケ原祭場に向ひ、神輿は牛來山上に渡御して野馬追に移り、三社の神旗中空より落下すれば、猛烈なる爭奪戰起り、旗を獲得せし者は牛來山七曲りを驅け上り本陣審判所にて賞を受く。第三

日は小高神社境內にて野馬掛が行はれ、白衣の健兒數十人、赤手にて奔馬を捕獲す。かくて此祭は終るも、この間近在は勿論遠隔の地より觀覽者多く、賑ひを呈す。〔太田神社〕大字中太田に鎭座。縣社。祭神、天御中主大神。神體は甲冑乘馬の御木像にして平將門の自作と傳ふ。當國中村藩主相馬家の氏神たり。往時は相馬妙見宮・星宮大明神等と稱せしも、後世現社名に改む。桓武天皇の玄孫平良文、延長元年醍醐天皇の勅を奉じ東夷を征するに當り、平將門と協力して上野國に入り染谷川に戰ひ辛うじて敵を退くるを得たり。時に空中に聲ありて曰く、吾は汝等が尊信する所の妙見大明神なり、いま汝等の至誠に感じて危急を救ふなりと。良文・將門ともに驚喜拜伏し深く神恩を謝し、直に良文の所領武州秩父の城中にも勸請す。其後、良文の子孫に依り所々に遷座あり。大治元年、良文四世の孫常重の時に下總國千葉に奉遷す。其子常胤の時には源賴朝の崇敬篤く社領等を寄進す。常胤の次子相馬師常の相馬郡守屋に居城し、更に元亨三年相馬重胤の守屋より當社に移封され太田村に城を築くや當社を移し、爾來不易の神地と定め領內の鎭守とす。社殿の造營善美を極む。明治三年太田神社と改稱し、同二十九年縣社に昇格す。例祭、七月十一・十二・十三日。野馬追祭(一に駒取祭)あり。〔多珂神社〕大字高に鎭座。鄕社。祭神、伊邪奈岐命。延喜式名神大社に列せらるゝ多珂神社と云ふ。神社覈錄・神祇誌料・神名帳考證また之に從ふ。明治九年十一月鄕社に列す。例祭、二月十八日。

【太田町】茨城縣常陸國久慈郡の南部。水戶市を距る北方約一八粁、久慈川の支流里川下流流域の平地に位し、東は機初村、西南は佐竹村、西北は譽田村に隣接す。面積僅に二・八五方粁に過ぎざるも市街地の外は土地低平にして農產あり、町民の大部分は商業に從事す。もと郡役所のありし處、市街は丘陵上に營まれ製絲・大理石細工・鑄物・醬油釀造などの工業行はれ、また煙草・蒟蒻・木材・米・麥等を集散す。殊に煙草は太田煙草を以て著名なり。太田稅務署・縣立太田中學校等あり。省線水郡線の常陸太田驛(明治三十二年設置)社線常北電鐵の常北太田驛(昭和四年開業)あり、また水戶市・久慈町方面への道路は何れもバスを通じ交通は便利なり。町名太田は蓋し往古より美田多かりしが爲なりといふ。此地は機初村・譽田村と共に和名抄、久慈郡太田鄕の地なるべく、常陸風土記久慈郡太田鄕の地なりと。國邑志稿に據れば東鑑、治承四年の條に佐竹秀吉所領太田とあるは本鄕なり。佐竹系圖に、明應二年、常陸國那珂郡庄太田鄕を鎌倉法華堂領に附せられしといふは此鄕內の田土を割きたるものならんといふ。當町は水戶藩時代佐竹氏の故實に依れる別館置かれ、又明和年中此處にて錢を鑄せし事あり。初め明和五年、太田村小澤氏・久米村堀江氏藩府に請ひ江戶の公許を得、太田の木﨑に錢座を建つ。表に寬永通寶、裏に久の文字あり。その役夫四千人と稱せらる。同八年火災に罹りて其業頓挫し安永六年遂に停止す。當時錢座の鑄金は每年二萬餘兩を水戶へ追納せりといふ。常陸風土記・久慈郡「郡東七里太田鄕」〔太田城〕一に舞鶴城といふ。延文年中佐竹昌義の築く所にして、爾後佐竹氏累代の居城たり。天正十九年佐竹義重その子義宣と共を發し、江戶氏の居城たる水戶城を攻めて之を拔き義宣これに居し、太田城は義重養老の地とす。慶長七年義宣秋田に移さるゝに及びて廢城となる。寬永四年水戶侯その家宰中川信敏を此地に置きしが享保三年に多賀郡松岡に移し尋で別館を設けたり。〔西山莊〕町の西方丘陵の溪谷閑靜なる地にあり。水戶の德川光圀が元祿四年隱退してより、その晩年を過し且つ大日本史を編纂せしところなり。最初の建物は文化年中燒失し、現存の家屋は天保年中齊昭が其舊態を摸して再建せしもの。茅葺、建坪約一・二アール(四〇坪)、間數九室、前庭に丘陵を取入れ、池を掘り橋をかけ、規模は小なるも自から別天地をなす。庭內の寶庫に光圀の木像あり。〔若宮八幡宮〕大字太田に鎭座。鄕社。祭神、大鷦鷯命。應永年間、領主佐竹義仁相州鶴岡八幡宮を勸請し、太田城の守護神と仰ぎしと云ふ。爾後佐竹氏代代の祈願所となり、江戶時代には水戶藩主德川家の尊信篤く、初穗の寄進・社殿の造營・祈願等の事あり、また幕府より馬場村八幡宮の社領として五十石の朱印を安堵せられし內十石を奉ぜらる。全町の產土神として町民の崇敬をあつむ。〔法然寺〕淨土宗。圓覺山稱名院と號す。正平十一年、淨土宗白旗流第五世永慶蓮勝の開基。天文年間に佐竹義重の臣田中重氏これを再興し、瓜連村の常福寺十二世朱禱を請じて中興開山とす。爾來常福寺の末寺となり、田中氏の菩提所たり。每月二十三日の御忌會には賽者多しと。〔淨光寺〕大字塙町にあり。時宗。引接山大善院と號す。佐竹常陸介貞義の草創にて代々佐竹氏の菩提所たり。往時は盛大なりしも天正年中、故ありて寺領を沒せらる。寬永三年正月類燒して佛閣・古記・什寶を烏有に歸す。中興開山法阿了故上人これを舊觀に復し正保三年(一に寬永十九年)水戶齊士の盡力に依り、再び幕府の朱印を賜ふと云ふ。〔成田不動堂〕字金井町にあり。明治二十八年、當地の小泉歸敬の建立にして、下總國成田新勝寺の不動明王の分身を勸請して安置し、同三十一年に遷座式を行ふ。高丘に位置して堂閣壯麗なり。

【太田村】茨城縣常陸國行方郡の東南部。潮來町の北方に近く南は大生原村、西は麻生町・香澄村に、北は大和村に接し東は北浦に臨む。西部より南部にかけては低き臺地をなして林野多きも、北部と東岸に沿ひては低平にて水田拓け、農業行はれて米麥類を產し、蓮根の特產あり、また養蠶も榮ゆ。北浦湖上の水運あるも陸上交通なは便利ならず。此地は和名抄行方郡逢鹿鄕の內なり。中世頃、常陸義政の後裔此地に居して相賀氏を稱す。その城址いま大字根小屋に存す。〔淨泉寺〕曹洞宗。石榮山と號し本郡八代村長國寺に屬す。天正三年創建。開基は地頭下河邊左近忠長、開山は卽傳秀廣和尙とす。〔養源寺〕曹洞宗。石神山と號す。東京市淺草區今戶町の慶養寺末なり。寬永十年八月の創建。開基は萩原兵衞門、開山は延月良祝和尙とす。

【太田村】茨城縣常陸國稻敷郡の南部。江戶崎町の南方にて金江津村の北、高田村・君賀村の南に位す。東の大須賀村、西の榮崎村等と共に利根川下流北岸の洪涵濕地にて、新利根川中部を東流し、北部の小部分に低き臺地ある外は至る處水田をなす。米・麥・小麥を主產す。この地は和名抄、信太郡小野鄕の內にして、大字小野は蓋し其遺稱ならん。中世、多賀大掾平直幹の三子忠幹、東條五郞左衞門尉と稱し、其子孫代々此地に居す。吉野時代その族人は北畠親房に應じ王事に勤めしが、高師冬の黨の爲に攻められて遂に降る。〔逢善寺〕大字小野にあり。天台宗。慈雲山無量壽院と號す。文武天皇の御創建と傳へ、又一說に天長三年に覺叡(覺榮)の開基と云ふ。淳和天皇の皇女、眼病平癒を當寺の觀音に祈り給ひ効驗顯著なりしにより勅願所に列せらると傳ふ。天正年中、第十五世定珍は學識を以て聞え、日本天台先德記及び素絹記等を撰す。慶長七年德川家康は山內竹木諸役を免除し、寬文五年同家綱は寺領二百石を寄す。古くは天台宗の檀林にして櫻本・寂光・竹泉・梅本・松本・妙音の六坊あり。また當寺は常陸・下總二國に末寺百四十餘寺を統轄す。現に寺運隆盛にして堂塔壯麗なる名刹なり。

【太田村】群馬縣上野國吾妻郡の東南部。榛名山の北面を占め東は東村、西は原町に隣り、北は吾妻川を隔てて中之條町に對す。土地南より北に向ひて緩かに降り森林地多く、たゞ北部の平坦部に耕地拓け米・麥を產し養蠶行はる。原町・澁川を繫ぐ道路は北部吾妻川南岸の平坦部を東西に走りバスを通ず。此地或は和名抄吾妻郡大田鄕の內か。吾妻六黨の一に植栗氏の名見ゆ。蓋し大字植栗に住せしものか。〔長福寺〕字岩井にあり。新義眞言宗豐山派。岩櫃城主吾妻氏の建立。境內に貞和五年の石碑あり。吾妻太郎の墓と云ふ。西隣原町の善導寺は吾妻氏の菩提寺たりしが、行盛、碓氷の里見氏と戰ふに當り、寺僧の竊に里見氏に通じたるを以て行盛敗れ、立石村に自殺し吾妻氏滅亡せり。故に吾妻氏一黨は善導寺を仇視し、行盛の屍を此處に葬りしならんか。

【太田町】群馬縣上野國新田郡の首邑。郡の東境に偏在し、西は鳥之鄕村・寶泉村に、南は九合村に接し、東北は山田郡毛里田村・韮川村に隣る。北部には金山(二三三米)聳ゆるも南部は平地をなす。東は館林より西は伊勢崎に、南は熊谷市より東北は足利市に通ずる街道交叉し何れもバス通じ、また社線東武鐵道(電車)伊勢崎線の太田驛(明治四十二年開業)あり、支線桐生驛此處より分岐して西北方に向ひ交通上の一中心をなす。農產に米麥等を出し、工業に中島飛行機製作所あり。縣立太田中學校・縣立太田高等女學校あり。町は舊郡役所の所在地たり。此地は和名抄、新田郡新田鄕の內か。名跡志に據れば今昔物語に藤原秀鄕の郞等に太田・新野と見ゆと。卽ち中世太田氏住せし地。鳥山伊賀三郞時成の孫、太田五郞次郞賴定も亦此地の人か。町の北部にある金山(一に新田山)は全山松を頂き、高度大ならざるも四圍廣漠たる平野の中に卓立するを以て展望闊豁にして頗る形勝の地たり。山頂に新田義貞を祀る新田神社、山麓に高山彥九郞を祀る高山神社あり。又この山地一帶は古への金山城址なり。萬葉集に爾比多夜麻とあるもこの山なり。萬葉・一四「爾比多夜麻禰には著かな吾によそり間なる兒らしあやに愛しも」同・一四「白遠ふ子を爾比多夜麻の守る山の末枯れ爲無な常葉にもがも」〔高山神社〕太田高山に鎭座。縣社。祭神、高山正之。正之字は仲繩、通稱を彥九郞と云ふ。世々當郡細谷村の人なり。十八才にて家を出で廣く四方を遊歷し豪傑の士と結び時勢を談ず。當時露國船屢々北海に出沒するを以て憂ひとなし、蝦夷地に奔走すること年餘、のち西上して光格天皇に謁を賜はり「我をわれと思しめすかや天皇の玉の御聲のかゝるうれしさ」と詠ず。然れども志を當世に得ず居常怏々たり。終に寬政五年六月九州久留米にて自殺す。時に四十七歲。性雄偉にして氣節ありて實に感慨悲歌の士、謂はゆる寬政三奇人の一たり。明治初年、明治天皇奧州御巡幸の砌、祭典の特旨に預る。其後有志謀議の上、明治十二年官許を得て當社を建立す。朝廷また彼の功を追賞せられ正四位を贈る。同十三年縣社に列す。社寶に正之の烏帽子・笏・履・書翰等あり。例祭三月十五日。〔新田神社〕大字太田に鎭座。縣社兼鄕社。祭神、新田義貞。當郡は新田氏の代々居住せる地なるを以て、義貞の裔俊純は鄕氏と相圖りて官府に請ひ、その創祀の許可を得、明治八年に社殿を落成し同年縣社に列し同十五年鄕社を倂ぬ。社寶に金山城址の古瓦・中黑の軍旗一旒あり。例祭、十一月二日。〔大光院〕(子育吞龍)大字太田にあり。淨土宗。義重山新田寺と號す。關東十八檀林の一なり。寺傳に據れば建久年中、新田義重は居城寺尾城內に大光院

を建立せしが其後全く廢絶すといふ。降りて慶長十六年、徳川家康は祖先たる義重の舊蹟を尋ね、その礎石を此處に移し堂宇を營みて菩提所となすといふ。其際に增上寺の觀智國師は土井利勝・成瀨正成と共に來りて寺地を求む。偶々一老翁より此地が義重及び義貞に緣故ある寺址なる由を聞き、直ちに地を掘らしめて遺瓦及び古佛などを得、よりて家康にこれを告ぐ。家康大いに喜び此に大光院を建立せりといふ。慶長十八年堂宇成り、觀智國師は弟子然譽呑龍をして開山たらしめ、同年德川氏より寺領三百石を附せらる。元和八年常紫衣の勅許を賜はり明治二年勅願所の綸旨を拜受す。呑龍上人は高德の智識にして今も猶ほその遺德を敬信する者多く、特に小兒の生育に關する信仰ありて俗に子育呑龍と稱せらる。且つ呑龍丸といふ小兒藥を鬻ぐあるを以てしても其信仰の旺盛なること察せらる。なほ寺内に甘露水・無盡池・石鳥居・御所柿等ありて、何れも上人の高德に關する傳說を有す。また境内の御廟山に新田義重の廟あり。廟所は欝蒼たる老樹の間に存し其内に古色蒼然たる一基の寶篋印塔あり。高さ約一・七米（五尺三寸）、もと金山の東北麓なる寶ノ澤にありしを、大光院建立の際、此地に移せしものと傳ふ。【金龍寺】 金山麓にあり。曹洞宗。太田山と號し、武藏國秩父郡宗榮村（今の貴田村）の金剛院派に屬し三十七末寺を有したる巨刹なり。開山は備前國の寂眼寺天㝫自性和尚にして新田義貞追善のために金山城主岩松三河守滿純の建立にかゝる。應永二十四年、滿純は横瀨新六郎に命じて義貞の遺骸を越前より此處に改葬し大法會を行はしむ。天正十八年、金山城主由良國繁の常陸國河内郡牛久に移封せらるゝ時、當寺もまた同地に遷さる。其後、榊原康政の此地を領するに及び、慶長十八年に堂宇を修營し横瀨新六郎寄附の義貞の木像を安置す。堂前に高さ一米餘の紀年碑あり、堂後に新田氏・岩松・横瀨・由良諸氏の墳墓あり。裏山は舊昌峯と稱し、元弘三年五月義貞擧兵の時旗立の地を相見したる所と傳ふ。【金山城址】指定史蹟。今の新田神社附近が即ち本丸址にして、その裏手には猶ほ石疊を存し、南面の一段低き所には古井戸・古池あり、また西方數百米には舊濠の址が殘り二ノ丸・三ノ丸と稱せらるゝ部分も存すれば舊規の一斑を知るに足る。當城に就ては諸說紛々として未だ確定を見ず。思ふに周圍に平野を繞らし獨立せる山上にあるを以て、城を構ふるには要害ならんも同時に物資の供給に不便なれば一旦事ありて戰時にのみ之に據りて防守せるものにして、平時は山麓に設けたる館に居住せしものならん。而して古來この地方に據りし豪族は何れも城郭として利用せしものゝ如く、特に新田氏が當城に據りしことは諸書に散見し、義重・義貞等の吉野朝廷に盡せし一族は多く之を利用せしものならん。但し城郭としての結構を整へしは恐らく室町時代の中葉岩松明純なるべく、尋いで横瀨氏これを增修して勢を振ひ、のち天正十六年に至り北條氏これを奪ひ、同十八年終に廢城となりしものならん。

【太田村】 埼玉縣武藏國大里郡の東北部。熊谷市へ東南約八粁、深谷町へ西南約六粁。別府村の北、男沼村の南に接す。土地平坦、小山川は北部を、其支流は南部を東流し、其中間の低地には水田、北部には畑地よく拓け、米麥の產多く、養蠶また行はる。深谷・妻沼間の道路は村の西南より東北に走り路上バスを通ず。本村は和名抄、榛澤郡藤原郷の内なるべく、後の原郷永井莊に屬せりと。大字遣ヶ谷戸は昔とうかいどと稱せられし地なり。

【太田村】 埼玉縣武藏國北埼玉郡の中部。熊谷市の東方約一〇粁、東は新郷・志多見の二村に續き、西は忍町との間に長野村を挾む。土地概ね平坦、見沼代用水、西北隣吏木村より來りて村の中部を東南流し、南部と東北部には水田その他には畑よく拓け、米麥の產多くまた養蠶行はる。驛道縱横に走り、東は加須町、西は忍町を經て熊谷市、南は鴻巣町、北は羽生町へ何れもバスを通じ交通便利なり。此地は古歌に聞えし埼玉沼の跡なりと傳へらる。下忍名板村・上忍名板村・國根村・藤間村・小針村・若小玉村の舊六個村の合併して建てし村なり。

【太田村】 埼玉縣武藏國南埼玉郡の東北隅。久喜町の東に隣り、古利根川北境より東境を環流し、川を隔てゝ北葛飾郡櫻田村・上高野村・高野村に對し幸手町に近し。土地低平、水田畑地多く米麥の產に富む。省線東北本線久喜驛に近くまた久喜町・幸手町間の道路は村の中部を東西に走じバスの運轉あり、交通便利なり。本村は和名抄、埼玉郡大田郷の内にして近世は埼玉郡百間領・騎西領の二領に屬し後の太田庄の内なり。大字西は德川氏江戸入城後は幕領なりしも、のち三上筑前守の知行となる。大字吉羽は大字西と共に幕領なりしが、元祿年間、森川隼三郎・戶田猶負の先祖に賜はりし地なり。大字菅毛は正保の頃、松平伊豆守が領し、のち酒井但馬守の所領なりしがのち幕領となる。大字葛梅は幸手領とも稱し德川氏江戸入城後幕領なりしが、延享四年一橋殿の領地となり、のち再び幕領となる。村内を流るる古利根川に沿ひあり葛西用水と稱す。形の琵琶湖に似たるより琵琶溜井と呼ばる。琵琶溜井は享保四年、伊奈半左衛門・石川傳兵衛等が幕命により用水堀割の時に古利根川を堀り廣めて造れる溜井にして、當時は埼玉騎西領ほか九ヶ領に引水せり。

【太田】 新潟縣西蒲原郡にありし村。昭和二年、巻町に入る。

【太田村】 新潟縣越後國古志郡の南部。長岡市を距る南方約一〇粁、縣道東北・六日市村の間に位し、北は栃吉・山通・上組三村に隣る。東北境には楢形山、猿倉山、西界には金倉山等の五百米臺の山地あるも中部に下る斜面には耕地拓け、米・繭の產あり。西北隣上組村を經て長岡市へ道路通ずるも交通はなほ便利ならず。

【太田村】 富山縣越中國上新川郡の北西部。富山市の東南方に近く、北は大宮村を隔て、西は堀川町・蜷川村、南は月岡・大庄の二村に隣り、東は常願寺川中流によりて中新川郡大森村と界す。富山平野の東南部に當り土地平低にして水田よく拓け米を主產し麥これに次ぐ。富山市へ約六粁交通の便よし。中世の新川郡太田郷の地に當る。近世に至り太田郷は附近諸村の地を合みたるが如し。東鑑、建久二年閑院内裏造營役事目錄に太田永郷左衛門尉長員と見ゆるは此地の人ならん。

【太田村】 富山縣越中國氷見郡の東南部。西より南は宮田村に接し、東と東南は射水郡伏木町に隣り、北は富山灣に臨みて海岸一帶に砂濱をなし、有磯海と呼ばる。南半に丘陵ありて地北方に傾き、西北部富山灣岸は低平にして水田・桑園もなし、主產物に米・繭あり。省線氷見線海岸に沿ひて西北に走り雨晴（明治四十五年設置）を置き、道路また伏木・氷見に通じバスの便あり。此地は和名抄、射水郡古江郷の内ならん。村の東部大字渋谷の海岸に義經の雨晴といふ洞窟あり。高さ約九米、周圍約三十七米。傳によれば文治三年源義經、奥州落の途次、安宅關を越え此地を過ぎし時、たまたま驟雨に逢ひこの岩下に雨の晴るゝを待ちしに依り此名出づといふ。此地一帶の海岸を澁谷崎とも岩崎ともいひ、國司大伴家持の屢々遊覽せし處なり。第三紀層の山脚近く海に迫りて所々に貝殼化石を出すところあり。風光明媚の勝地にして其名高く殊に夏季には避暑客を以て賑ふ。萬葉集に見ゆる澁溪の地なり。萬葉・一七「馬並めていざうち行かな澁溪の清き磯廻に寄する波見に」家持・同・同「澁溪の埼の荒磯に寄する波いやしくしくにいにしへ思ほゆ 家持」。【櫻谷古墳】字櫻谷の丘陵上に古墳二個あり。封土は何れも三段に築かれ、一は柄鏡式古墳にして他は前方後圓型古墳なり。前者は東北に面し、長徑約四三米、後圓部の徑約二七米、高さ約五米、前方部は幅約一一米、高さ約二米あり。嘗て後圓部土中より石劍及び紡錘車を發見せり。後者は長徑約六六米、後圓部徑約四〇米、高さ五米、前方部は幅約二〇米、高さ約四米あり。【國泰寺】大字太田にあり。臨濟宗國泰寺派。摩頂山と號し本宗國泰寺派大本山たり。慈雲妙意の開創。初め慈雲、心地覺心（法燈國師）の印記を承けしが、當國二上山中に韜晦すること二十四年、嘉暦二年、遂に一宇を創經す。これ本寺の濫觴たり。時にその道聲の上聞に達し後醍醐天皇これを宮中に召して清泉禪師の號並に紫衣袈裟を賜ひ、翌年に護國摩頂巨山國泰仁王萬年禪寺の勅額及び勅願所の綸旨を賜はる。天正年間に二上山より現寺地に移る。寺内に發僧學林を設けて僧侶教育に從事す。

【太田村】 富山縣越中國東礪波郡の北部。出町の東方、井波町の北方にて庄川（射水川）中流左岸に位し、南は中野村、北は柳瀨村に隣る。土地平低、雨稜係に五方僧侶なる水田多く米を產す。西は出町、東は般若村、南は井波町方面へ道路通じ交通不便ならず。中世、礪波郡般若郷（一に般若野郷に作る）に屬せり。

【太田村】 長野縣信濃國下水内郡の中部。飯山町の北方約八粁にあり、千曲川の左岸に沿ひ南は常磐村・外様村、東北は岡山村と隣り、東南は川を隔てゝ下高井郡瑞穗村に對し、西北は新潟縣中頸城郡水原・平丸二村と界す。北西の境上には黒倉山（信倉山、一二八九米）・佛ヶ峯等聳えて山嶺連亙し土地南東に傾斜す。村の南西部は千曲川谷の平地にて水田畑地ありて米麥を產す。千曲川岸に沿ひ新潟縣中魚沼郡方面への道路と飯山鐵道通じ後者の戶狩（常盤村内）・上境（岡山村内）の二驛に遠からざるも交通の便なほよろしからず。此地は舊常盤郷の内にして江戶時代は五荷村と稱す。五荷村より町村制施行迄の沿革詳ならず。明治二十二年町村制施行の際、豊田村・當郷村の舊二箇村を合して太田村と改稱す。【健御名方富命彦神別神社】大字豊田に鎮座。郷社。祭神、健御名方富命・豐田別命・大山祇命外數神。貞觀九年從五位下より正二位に陞敍。延喜、大宮諏訪社。奉德天皇の御宇以前の創建と云ふ。この地方は往古湖水をなし、水内の海と稱せし時湖北の山林に鎮座すと傳ふ。大同年中に伊豆加の領主田村義仁の、夫で文治二年に尾崎村三樣城主泉親衡造立新廟所となる。また飯山城主代々の崇敬社たり。例祭五月八日。七年ごとに御柱祭事ありと云ふ。【高源院】字五荷にあり。曹洞宗。三島山と號す。永仁三年の創建。當郡尾崎城主泉彌次郎朝平の開基、麿摩法印開山とす。初め萬田山泰專院と號し、眞言宗に屬せしが、慶永七年九月泉左近大夫資貴・尾崎村三樣城主泉三郎元隆等堂宇を再建し、悉堂寺雲禪師を請じて中興開山となし、以て現宗に改め、大永五年泉信濃守重興の命に依り現寺號に改む。【彌勒寺】大字豐田にあり。曹洞宗。妙高山と號す。大同四年の創建。開山は傳教大師と云ふ。初め天龍山と號し天台宗なりしが慶永二年三月大風にて堂宇潰倒し、明應三年長尾豪玄入道の六男大樽和尚、その舊跡を改めて中峰に移し堂宇を再建し中峰山と改め現宗に改む。故に同和尚を中興開山とす。永正年中に山號を妙興山とし、後更に現山號に改む。

今は魚沼郡雲洞寺に屬す。

【太田】→石津村(岐阜縣海津郡)

【太田町】岐阜縣美濃國加茂郡の西南部。岐阜市を距る東方約二五粁、西は坂祝村、北は蜂屋村、東は古井町に圍繞され、南は木曾川を限りとして可兒郡今渡町と界す。面積四・五方粁なるも北部に丘陵ある外は土地概ね平かにして田圃よく拓け米麥を産し養蠶行はれ、また地方的商業の中心をなす。中山道東西に通じ、東隣古井町にて飛驒より下る名古屋街道これに合し、東は八百津町へ、西は鵜沼・犬山方面へバスの便あり。また省線高山本線東西に通じて美濃太田驛(大正十年設置)を置き、太多線・越美南線とともに玆より分岐し、東濃に於ける交通上の一中心をなす。この地は和名抄の賀茂郡驛家郷の地なるべく、近古には蜂屋庄の內に屬す。慶長年中の文書に蜂屋庄太田郷とあり、今の町名も之に因るか。或は太田は大井戸の訛りなりとも稱せらる。中仙道の要驛にして、東美濃に於ける要衝の地なり。江戸時代には名古屋藩の代官所・川並番所置かれ、明治に入りて郡役所ありし所。木曾川を距てて對岸今渡に至るを太田渡(往昔の大伙渡・大井戸渡)と稱し、承久の亂に東西兩軍の衝突せし處。古來木曾三鞭所の一に數へられ、俗謠にも「木曾の棧橋、太田の渡、碓氷峠が無かよかろ」と唄はる。字なる乞食市の地域は彌生式土器を多く出すを以て知られ、又銅鐵も發見せらる。東鑑・承久三年六月「關東大將軍著遠江國府之由、飛脚昨日入洛之間、有公卿僉儀、爲防戰被遣官軍於方方、仍今晩各進發、所謂、北陸道宮崎左衞門尉定範・糟屋左衞門尉有久・仁科次郎盛朝、東山道大井渡、大夫判官惟信・筑後左衞門尉有長・糟屋四郎左衞門尉久季、鵜沼(渡)……五日、及晩、山道討手武田五郎・同小五郎・小笠原次郎(父子八人)小山新左衞門尉等、渡大井戸、與官軍挑戰、大將軍惟信已下逃亡」(縣主神社)郷社。祭神、日子坐王。式內社。俗稱、加茂縣主大明神。社傳には、貞觀年間、當國々司中納言在原行平の時草創すと云ふ。天喜・康平の間、鎭守府將軍源賴義の勅を奉じ東夷安倍貞任を征討の時、其子なる加茂次郎を當國の守たるを以て共に戰捷を祈り、亂平ぐの後社殿を再興して報賽し、寬治元年義家の勅を奉じ清原武衡兄弟を討ち都に凱旋の後社殿を造營し以て神德に報ずと傳ふ。降りて足利氏の世に至り、當國大桑城主土岐美濃守の崇敬あつかりしもその後賴藝の敗亡と共に由なし。ただ永正年中に當郡細目村大仙寺の神事を勤めし際には社田一町餘ありて、之を以て春秋二季の祭典の經營等に支出せし舊記簿の今なほ同寺に存す。例祭、四月四日。

【太田川】靜岡縣周智・磐田二郡を流るる川。周智郡三倉村の北部。春日山の南谷に發し南流し吉川を左岸に合せ森町を過ぎて磐田郡に入り、野部村の地內にて原野谷川を左岸に入れて更に南流し同郡袋井町にて遠州灘に注ぐ。流程約四四粁。森町より下流約一八粁の間は舟楫の便あり。此川の下流は往昔西に向ひて天龍川の下流と共に大浦潟を成し、原野谷川は全く別流し横須賀に至りて海に入りしといふ。慶長九年代官伊奈忠次排水開鑿の計を定め、先づ原野谷川を今の河道に導きて太田川に之に併す。これより大浦潟は排水乾涸せられて、良田數多を得たりといふ。

【太田】愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年、小口・富成の二村と共に廢され、森村の大字舟野とを合せて大口村を置く。

【太田】→三島村(大阪府三島郡)

【太田村】兵庫縣播磨國揖保郡の東南部。南は那原村、西は斑鳩町、北は龍田村に隣り、東は姫路市に近く之と飾磨郡八幡村を隔つ。東境と東北部及び西北境には低き丘陵性山地あるも中部の東西と南東部には低平の地ありて田畑よく拓く。農を主業とし、米を第一に麥・小麥・蔬菜及び花卉等を産し、少額ながら繭を出す。國道東西に通じ東は姫路市、西は斑鳩町・龍野町方面へバスの便あり。村名は和名抄大田郷の遺稱。大字東南の檀特山は斑鳩寺の東南に當り聖德太子行道の跡と稱す。康正元年赤松則尚ここに籠り、山名忠政の軍を室山に伐ちてこれを破る。(圓尊寺)大字東保にあり。眞宗本願寺派。もと眞言宗の巨刹なりしが、明應年間、住僧眞玄眞宗に歸依し、のち安永年間秀慶の時、遂に改宗して本願寺派に屬す。

【太田】但馬國(兵庫縣)の舊庄名。大田にも作る。地は凡そ今の出石郡の東北部なる資母村の邊に當り、大字太田は庄名の遺稱なり。弘安以前、田八十町ありて本家は法金剛院、領家は伯耆、地頭は越前前司後室なり。東鑑文治二年六月廿五日の條に、但馬國住人大田時定及び常陸房昌明等の備前前司行家の首を鎌倉に持參せる記事あり。鎌倉記によれば、この恩賞として昌明に攝津・但馬に大田・業賞二箇の庄を賜ふとあり。太田庄は即ち此地なり。その子孫代々此處にありて太田氏を稱す。大田文「太田莊、八十町、(法金剛院領、伯耆御領、地頭越前前司後室)、不出注文間、任古帳注進之。」

【太田川】和歌山縣東牟婁郡の東南部を流るる川。那智山の西南側、色川村の北部に出で、南東に流れ上太田・下太田二村を貫き下里町にて熊野灘玉ノ浦の北岸に注ぐ。流程約一六粁。

【太田】岡山縣赤磐郡にありし村。昭和七年吉岡村と共に廢して萬富村を置く。

【太田川】廣島縣西部の川。山縣郡西北隅の八幡村に發源し東南に下り、戸河內村本郷の邊にて佐伯郡吉和村より東北流する吉和川を入れて東北に向ひ、加計町にて北より來る瀧山川を容れ、東南方に蛇行し、安佐郡に入りて西流し來る三篠川を合し、流路を南に轉じ、廣島市北部にて東の猿猴川・京橋川、西の本川・元安川等に分れ市內を貫流して海に入る。流程約九〇粁。三篠川の合流以下の流域には低地漸く廣く、水田拓け、河口にてデルタを作る。廣島市はそのデルタに建つ。下流は舟運の便あり。

【太田】香川縣讃岐國香川郡の東北部。高松市の南に隣り、東は木田郡木太村、南は佛生山町・多肥村と界す。土地平坦にして高松平野の中央に位し、耕地面積に對する水田率著しく、灌漑の貯水池を設け良く、米・麥・野菜を主産し、牛乳の產も近年增加を示す。高松市より佛生山町に至る縣道本村に通じ、村道網も密にてまた琴平電鐵の太田驛(大正十五年設置)あり、交通の便よし。此地は和名抄、香川郡大田郷の地。村名は蓋し郷名の遺稱なるべし。大田郷は和名抄に於保多と訓じ、大飯田に作る。想ふに遠江・下總・常陸・美濃・信濃・上野・出羽・播磨・備後・紀伊・日向等の大田郷と共に大嘗會に春米を奉ぜし地なるべし。後宇多院御領目錄に讃岐國太田莊と見ゆれば中世は庄名によばれしものならん。姓氏錄、中臣大田連天兒屋根命十三世の孫御身宿禰の子孫は此地に居せしものの如く、その同族中臣宮處連は山田郡宮所郷に居せりといふ。

【太田】筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に上妻郡太田郷あり。いま福岡縣八女郡廣川村中に大字太田あり、蓋し郷名の遺稱にて、郷域は同郡上廣川村・下廣川村・長峰村・岡山村の地に亘れるものならん。舊事本紀に景行皇子大田別の孫、また根鳥皇子は大田君の祖といふ。此等はみな在名を負ひしものならん。

オータ　邑陀

【邑陀】上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に長柄郡邑陀郷あり。刊本には於陀とあり、加藤本に於陀と訓ずるも凡そ邑陀の誤なるべし。陀は陀の俗字。遠江・下總・常陸その他に大田郷あり、蓋し之と同語なるべし。邑陀は精米を選ぶの意なり。其地今の長生郡新治村・豐田村・二宮本郷村・長柄村等の地に當る。新治村の大字大田はその遺稱なるべし。

【邑陀】石見國(島根縣)の古地名。和名抄に安濃郡邑陀郷あり。訓を闕くも於保太と讀むべし。今の大田町・長久村の地なるべし。大嘗會に用ふる春米を奉りし所、長久村大字稻用の稻用神社は御食神を祀る。

オータ　大田町　島根縣石見國

安濃郡の西部。北は波根東村、東は富山・佐比賣、南は川合、西は長久の諸村を繞らし、西南の一部は邇摩郡久利村と界を接す。中部を西流する靜間川の一支三瓶川に沿ひて低地あり、其他は二—三〇〇米の丘陵連亙す。低地には水田拓け產物は米・繭・用材を主とし、牛の飼養行はれ、清酒・醬油の產も少なからず。國道(山陰道)西部を貫き、省線山陰本線また町の西北部を通じて石見大田驛(大正四年設置)を置き、其外、俵山間への街道多くこの地に集り、いづれの路面もバスを通じ交通便なり。古く濵田・益田と共に石見の三田とよばれて繁榮せしところ。舊山陰街道の市場町として發達し、今も交通の要衝地として商業盛んなり。安濃三郡の門戸をなす。また三瓶山及び溫泉地方の木炭・木材及び附近の米・繭を集散し、石見大田驛は本縣有數の貨物の集散驛なり。また遠近より商人蝟集し、附近農村の人々もまた此町を待望して常に市價し相當なる販ひを呈す。昔では郡役所の置かれし所、いま警察署・中學校・農學校・實科高等女學校等を設く。明治三十六年町制を布く。此地は和名抄、安濃郡邑陀郷の地、和名抄は邑陀を於保多と訓ず。はこの郷名の轉訛せしものなるべし。小笠原彈正の居りし古城ありといふも、今その遺址は往時の面影を偲ぶに忍び得るを過ぎず。また此地に在る小字雲見堂は西行の古跡と傳へ「しらて見は富士とや云はん石見なる三瓶の岳の雪のあけぼの」の歌を傳ふ。(八幡宮)字神西山に鎭座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后・武內宿禰。創立年代詳かならざるも地方の古社にて、領主毛利氏等の崇敬篤きものあり。(八幡宮)字宮崎に鎭座。郷社。祭神、譽田別命・氣長足姫命・武內宿禰・建御名方命。嘉祿年間、相州鶴ヶ岡より勸請せりと傳ふ。近郷有數の社として崇敬せらる。例祭、十月十五日。(法藏寺)本門宗。圓眞山と號す。京都の要法寺末。正安三年日尊上人の開山とす。本堂・庫裡・鐘樓・四脚門あり。寺寶に日興上人筆の曼荼羅・宗祖御一筆等多し。

オータ　多駄

【多駄】肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に杵島郡多駄郷あり。今の杵島郡大町村・江北村等の地に當るか。太宰管內志「多駄は大陀とよむべし……名義いま考へず、今も國に杵島郡白石六角郷多田村あり」

オータ　網田村　熊本縣肥後國

宇土郡の北部。東は網津村に接し西北一帶島原灣に面す。東南端上に火山大嶽(四七八米)峙ち、地は東南に高く西北に低く、中部より西北には田畑よく拓け、村民の七割五分は農業に從ひ米・繭・麥を主とし西瓜・蜜柑等を產し、その他の二割五分は漁業をこととし水產少からず。省線三角線東北より西南に走り網田驛(明治三十二年設置)・赤瀬驛(同四十年設置)あり、宇土・三角間の道路また海岸に沿ひて通じ、東西交通不便ならず。此地は和名抄宇土郡大宅郷の內か。

（奈良縣）

オータイラ　大平庄　豪調豪中州大屯郡の東部。豪中市東方の山嶽地帶に位し、東は蕃界、南は館高郡國姓庄、西南は鷲峰・大星の二庄、西は豪中市、北は北屯庄と境界を接す。管内の北部には埠頭山（四八七米）、南部には大横屏山（一二〇八米）・大古山（三六五米）等聳え、これ等の餘脈起伏して管内の大部分を占め、西部に僅かの平地を殘すのみ。大壯溪上流の小支流、東部山地より發して西鎌平地を流れ、西南隣の大里庄に入る。產業は見るべきものなく、平地には主に米を產し、山麓には李・バナナ其他の素果類を產するも、その生產額は極めて僅少なり。山地は本島農民の燒風たる鑑伐鑑墾に依り、必要なる山林をも刷さざるに到り、僅かに薪炭を產するのみ。地勢上部落は主として西鎌の平地に散在し、交通は豪中市より帝國製糖株式會社經營の私設鐵道ありて、大平・車籠埔の二大字を貫き本庄交通路の主脈をなす。其他豪中市より頭汴坑・大坑の二部落に各々輕便軌道を通ず。本庄はもと藍興堡の中に包含せられ、現在、庄役場所在地大平（もと大平庄と稱す）の部落は乾隆五十年代に立てられしもの。大正九年地方制度改正により、堡は廢せられ、本庄は藍興堡の内、大平（大平と改稱）・三汴・番仔路（仔を子に改む）・車籠埔・頭汴坑の五庄を五大字となし之を一括して大方面よりの裏登山路は吉野郡上北山村字河合より逆峠（一四〇七米）を經て登る。大豪ケ原山附近はいま大峯山脈一帶と共に吉野熊野國立公園の一部をなす。

【大豪原】大豪ケ原山中にある一大高原。奈良・三重の兩縣界に位置し、大和・紀伊・伊勢の三國に跨る。海拔一四〇〇米—一五〇〇米、南北三・五粁、東西三粁に擴がる平坦面にて、外帶に於ける幣平原面の殘りにして、南・北・中の三原に分る。高原東緣に三津河落山（一六五五米）があり、更に東方日ノ出嶽に連なる。三津河落山の南方斜面に大豪勝教會本部あり。大豪ケ原北緣に經堂探山（一五二九米）、南部並びに西部は急傾斜をなして和歌山縣東牛瀧郷地方に、東は三重縣多氣・會合の南部に連なり、北は國見（一二八三米）・高見（一二四九米）の諸峰を起し伊勢の西境を限る。大豪ケ原は實に伊勢海・熊野灘・紀伊水道の三斜面の分水嶺を成すものにして、東北流するものは宮川の溪谷となりて伊勢海に潮し、南斜面に落ちるもの熊野川の支谷北山川となりて熊野灘に、北に落つるもの紀ノ川の上流吉野川となり紀伊水道に注ぐ。高原東端部の傾斜變換點に瀑現象が見られ、西ノ瀧・中ノ瀧・東ノ瀧の三瀑布相對して懸り、頗る壯觀たり。高原地域は夏季降水量極めて多く、本州中最多雨地域として有名なり。

オータイチ　太田市　（奈良縣）

オータオ　大田尾　熊本縣宇土郡にありし村。明治三十二年三月本村及び三角浦村・波多村を廢し三角村を設き、同三十五年町制を布く。

オータオ　大多尾村　熊本縣肥後國天草郡の南部。天草下島の東岸中部に位し半島狀に突出し南北約九粁、東西一—一・五粁の地を占む。西は宮地村に

海濱に田平城址あり。文明・明應の頃、名和氏宇土在城の時、其臣粁藥越後守城代たりしといふ。而して天正十二年二月島津家久は島原にて龍造寺隆信を討ちて歸帆の際、暴風に遇ひてこの浦に止宿せし時、素心は饗應せりといふ。宇名に御輿來なる地あり、此地は景行天皇筑紫御巡幸の途御駐蹕あらせられし地なりといふ。また村内の牧の山はかの有名なる宇治川の先陣をなせし名馬の池月を產せし地なりと傳ふ。（赤瀨鍋泉）大字赤瀨の有明海を隔てゝ雲仙岳を望む風光明媚の境にて、夏はまた海水浴場として賑ふ。泉質は一種の臭味を含む含鐵炭酸鹽類泉にして現今は加熱して使用す。

オータアライ　太田新井　埼玉縣南埼玉郡にありし村。明治二十八年岡泉・千駄野・貴ケ谷・彦兵衛・上野田・下野田・瓜田ケ谷・小久喜の八村と共に合併し日勝村を置く。

オーダイガハラ　大臺原　【大臺原山】紀伊山脈東部の一山塊。奈良縣吉野郡の東境を南北に連亘すること約一二粁。南・中・北・の三部に分る。東方の日ノ出岳（一六九五米）、その北西方の三津河落山（一六五五米）、並にその西方なる經ケ峯（一五二九米）の三山及びその周圍の總稱とす。北方は北股川の一支源木津川の溪谷に消え、東方は大杉谷・不動谷の溪谷美をなして、尾鷲方面の海に投し、南西方は準平原の臺地をなして東ノ川溪谷に下り、西方は北山川を隔てて大峯山の連嶺に對す。硅岩・硬砂岩より成り、浸蝕に抵抗する力强かりしため周圍の山地より卓立し、しかも頂上は平坦にして一臺地狀をなす。名の因りて起る所以なり。此山の特色は全山を包む針葉・闊葉の鎖綜せる森林美と、この森林に包まれたる草原帶の美觀なり。古來、神秘の山として修驗者の道場となり、いまもこの流を汲める大豪ケ原教會本部は三津河落山の南斜面に設けらる。里人は恐怖の念を以てこれに對し、登山することを稀なりしも、明治四十年頃より一般人の登攀漸く始まる。登山路には表・裏の二路あり、表登山路は大軌鷲嶺吉野驛より自動車にて川上村入之波に入り、これより徒歩にて日ノ出岳の麓に出づ。此處に大豪ケ原教會ありて宿泊その他の用を辦ず。日ノ出岳は大豪ケ原山の最高峯にして日出を拜するによろしき爲この名あり。山頂よりの展望は雄大無比にして、南方尾鷲灣・熊野灘を一眸に收む。西南方へ約半時間にして牛石ケ原に至る。原中に牛石あり。昔名僧が山中の魔神を封じ込めし所と傳ふ。また神武天皇の小銅製御像あり。更に西方に進めば東ノ川の水源を遡り屏風の如く連る大岩壁・大蛇岳・高鶴岳・千石岳あり。この地點は東ノ川の浸蝕甚しく、その間に東ノ瀧・中ノ瀧・西ノ瀧の三大瀑布同一の瀧壺に落下し壯觀を極む。次に紀州側及び大峯山脈方面よりの裏登山路は吉野郡上北山村字河合より逆峠（一四〇七米）を經て登る。大豪ケ原山附近はいま大峯山脈一帶と共に吉野熊野國立公園の一部をなす。

オータイラ　大平庄　豪調豪中州大屯郡の東部。豪中市東方の山嶽地帶に位し、東は蕃界、南は館高郡國姓庄、西南は鷲峰・大星の二庄、西は豪中市、北は北屯庄と境界を接す。管内の北部には埠頭山（四八七米）、南部には大横屏山（一二〇八米）・大古山（三六五米）等聳え、これ等の餘脈起伏して管内の大部分を占め、西部に僅かの平地を殘すのみ。大壯溪上流の小支流、東部山地より發して西鎌平地を流れ、西南隣の大里庄に入る。產業は見るべきものなく、平地には主に米を產し、山麓には李・バナナ其他の素果類を產するも、その生產額は極めて僅少なり。山地は本島農民の燒風たる鑑伐鑑墾に依り、必要なる山林をも刷さざるに到り、僅かに薪炭を產するのみ。地勢上部落は主として西鎌の平地に散在し、交通は豪中市より帝國製糖株式會社經營の私設鐵道ありて、大平・車籠埔の二大字を貫き本庄交通路の主脈をなす。其他豪中市より頭汴坑・大坑の二部落に各々輕便軌道を通ず。本庄はもと藍興堡の中に包含せられ、現在、庄役場所在地大平（もと大平庄と稱す）の部落は乾隆五十年代に立てられしもの。大正九年地方制度改正により、堡は廢せられ、本庄は藍興堡の内、大平（大平と改稱）・三汴・番仔路（仔を子に改む）・車籠埔・頭汴坑の五庄を五大字となし之を一括して大平庄と稱す。

オーダイラ　大平　【大平村】宮城縣臨南國刈田郡の東南部。白石町の南に隣り、東は伊具郡界との間に大鷹澤村を隔て、西は福岡・小原兩村に接す。西部には鉢森山（五五七米）の山地連亘するも、東部の低地には水田拓け米・麥・繭を主產し、また此の地の紙衣は世に知らる。臨刺街道山麓に沿うて南北に通じ、また村の東部をこれと並行して省線東北本線走りその白石驛に近くバスの便あり。この地は和名抄、刈田郡篤借郷の内。村名は古墳の名より出づといふ。大字中目に藤原泰衡の居りし城址あり、其後結城七郎朝光ここに居りしと傳ふ。（威德寺）大字中ノ目にあり。新義眞言宗智山派。醫王山と號す。本尊大日如來。同郡宮村蓮蔵寺末。開創年次不詳。天和年中薬王法印中興すと傳ふ。

【大平村】福島縣岩代國安達郡の中部。西北は阿武隈川を距てて二本松町との間に油井・樋下二村の一部を隔て、東南は小濱町に隣り、西南は石井村と界す。最高二〇〇米臺までの高原性の平坦地、一般に南部に高く北及び西に傾き、阿武隈川は西及び北境を流れ、村の東北部にて北流し來る神明石川を容れ、それより流路を北に變ず。阿武隈川南岸の流域に桑園拓け、米・繭を主產し、また小規模の機織工場ありて輸出羽二重を產す。省線東北本線二本松驛に最も近く、小濱町・二本松町・伊達郡川俣町に縣道通じバスの便あり。此地は往昔より安達原黑塚のある地として世に知らる。（安達原黑塚）阿武隈川の東岸（白檀觀音堂の邊）路傍に立つ大杉の下に木槨をめぐらす丸塚ありて安達原黑塚として傳へらる。安達原は謠曲の五流ともに行はれ、觀世以外にては黑塚といひ、金春禪竹の作と傳ふ。大和物語の古歌「みちのくの安達原の黑塚に鬼ともれりと聞くは誠か　平徒盛」より構想せしもの。ワキは東光坊祐慶、ワキツレは同行の山伏二人、シテは老女、後シテ鬼女。長唄の安達ケ原は明治三年淺草藏前にて今樣能樂を興行せし能樂師日吉吉左右衛門のために、二代目井尾勝三郎が謠曲の文章を吟んどそのまゝに節附をして與へしもの、また操淨瑠璃及び歌舞伎にも奥州安達原として演ぜらる。其傳說は奥州安達原黑塚緣起に「當山は塚德太子眞弓の神靈舊迹にて、奥羽佛法靈場の隨一なり。往古は奥の道路とてもいかにありけん、往來の旅人もこの安達が原にかかり來り、思はぬ厄にも逢ふことはなりしならん。そもそも、黑塚といへるは、安達野の荒原物すごき所にて大隈川の岸にそびて奇怪なる岩石突兀として起り、往來の人の行暮れて宿る所なければ、この岩間に入りて夜を明すことならん。しかるにいつの頃よりか一人の鬼女ここにこもりゐて宿れる人を殺し精血を吸ひ、胡肉を食ふ、まことにおそるしかりける次第なり。然るに、人皇四十五代聖武天皇の御宇神龜丙寅の年秋のころ、紀州熊野なる東光坊阿闍梨祐慶といへる僧國國してここに來られけるに、日既にくれそれに四眞人家を見ず、物さびしき山野に露踞してここかしこながめやり給ふに、はるかに山の麓にあたりほのかに火の光見えにける。これぞ人家なるとてあゆみよりて見たまへば、大なる岩石ありてそのかたはらに怜しき柴の庵あり。阿闍梨立より案内し玉ふにおそろしげなる老婆出で來て何國の人ぞと問ひけるに、我はこれ國國修業の者なるが行き暮れて宿を請ふぞと答へ玉へば、見ぐるしけれどやどり給へと伴ひ入りて言ひけるやう、今夜は殊に寒きゆゑ薪を折りて燒火せん、しばし留守してたまはれかし、きりながら必ず我閨を見給ふことなかれと言ひすてて山の方へと出行けり。阿闍梨はつくづくこの家の體をあやしみて老婆の言葉心元なく思ひ出その閨を見玉へば、こはいかに髑髏骨山をなして積み置けり。さては昔にきく安達が原にすむといふ鬼婆とはこれなりと、怖しさに足をはやめて逃げ去り給ふ。然るに老婆立ち戻り旅僧居らぬに驚きつつ、さてはきとられしよな逃ぐとも遠ふからじと、髮さか立て眼いからし髮あららげて遥ひかくる。阿闍梨は七八丁も逃げ給ひしかど叶はずと思ひさだめ、骨負ひし笈を卸し、行基菩薩の御作なる如意輪觀世音菩薩の尊像に向ひ、祕密の呪文を三返唱へ給へば不思議なるかな、尊像虛空に上り大光明を放ち破魔の眞弓を御手にとり、金剛の矢を以て射給ふに、この鬼女身體を動かす事あたはず、立處に命終りけり。かく佛緣を結びぬれば終には得脫の果を得しならん、不思議なりし事なりけり。それより以來今に至つて一千三百有餘年に及ぶといへども、その鬼女の持ちし鎌と庖丁と阿闍梨の太刀と猟宮寺に傳來し日本中にかくれなき安達が原の黑塚とぞ云ひ傳へける觀世音菩薩靈驗の舊迹なり」と傳へ、舊蹟を存し、岩石重疊たる窟狀の黑塚といふもののほか、寺には鬼婆所用の蛇・鎌、生體を取り入れたりといふ瓶までが取揃へ陳列せらる。（觀世寺）大字平にあり。天台宗にして本尊阿彌陀如來。白眞弓山と號す。神龜年中祐慶阿闍梨の草創。境内には觀音堂・藥師堂・毘沙門堂あり。觀音堂は有名なる安達原黑塚觀音にて、堂傍に鬼女の籠りしといふ岩窟あり。堂内に鬼女の用ひしといふ瓶・鎌、短觀等あり。

オータオ　大田尾　熊本縣宇土郡にありし村。明治三十二年三月本村及び三角浦村・波多村を廢し三角村を設き、同三十五年町制を布く。

オータオ　大多尾村　熊本縣肥後國天草郡の南部。天草下島の東岸中部に位し半島狀に突出し南北約九粁、東西一—一・五粁の地を占む。西は宮地村に

接し、東北は天草下島の下浦村に、東は御所浦村に、東南は鹿兒島縣甲水郡東長島村の獅子島に、いづれも海を隔てて相對す。西麓には鍋割山・屏風山等の二百米臺の丘陵性山嶺南北につづきて地は東面に傾斜し、殆ど平地に乏しきも、東部と北部に小平地ありて米・麥等の農產あり、漁業また行はる。陸上交通は不便なるも海上は水俣・三角、遠くは長崎へ汽船往來す。

オータカ　大高（おほたか）【大高山】西毛無岳また毛無岳とも云ふ。山梨縣西八代郡富里村と靜岡縣富士郡上井出村に跨り、富士山の西方に位す。標高一九四五米。北麓は雨ヶ岳（一七七二米）に連る。

【大高町】愛知縣尾張國知多郡の最北端。西北は天白川を限りとして名古屋市東南部に界し、東北は愛知郡鳴海町、東は有松町、南は大府町、西は上野村に接す。東部南部はやや高きも、概ね平坦にして耕地よく拓け、米・麥の農產あり、養蠶また行はる。省線東海道本線南北に走りて大高驛（明治十九年設置）を置き、道路また東西に通じ交通便利なり。本町は和名抄、愛智郡成海郷の內にして、古くは火高（おたか）と稱せしこと古事記傳に見ゆ。鳴川親元日記に入鹿郷（大高）とあるも當町のことなるべし。永祿十年細巴紀行によれば此の地を松風の里とよび、「旅枕夢路たのむに秋の夜の月にあかさん松風の里」なる歌あり、當國の歌枕にも松風里あるも、此地を松風里とするは誤なるべし。參考尾張本國帳によれば往時は松郷島と稱せりとあり、或は松風里と關係あるか。古事記傳に「日本武尊又歌曰、奈留美良手。美也禮波（みやれば）波止保（はとほ）志。比多加知（ひたかち）留。已乃由（このゆ）不志保（ふしほ）留。和多良（わたら）邪（や）比多加毛。（奈流美者、是宮酢媛所居之郷名、今云、成海邑）」とあり、奈留美は、愛智郡成海郷あり、其處の海邊を指て詔ふなり、良は、附て云辭なり、波と云には非ず、きて分注に、奈留美を比賣の所居と云るは非なり、比多加知は、火高路なり、熱田社或書に、氷川邑、後訓二火高里一、神社民家、數度依二國祿一改二火高一訓二大高一と云り、これに、後訓二火高里一と云るは誤にて、本より氷上とも、火高とも云しなるべし、此ぞ宮酢媛の郷なる、成海は、此火高里へ行間の道なり、歌の趣にて知らる」とあり。（大高城）本町の東南にあり。もと織田氏の屬城なりしが、永祿二年山口左馬助織田氏に叛き當城及び舊掛の城を掠めて今川義元に降る。義元悅び大高城を東參河の鵜殿長助をして守らしめ、舊掛は瀨名・三浦・朝比奈等に守らしむ。玆に於て信長兵を出し雲津・丸根の二所に砦を構へ大高城への糧道を斷つ、大高・舊掛の城中食物盡き大いに苦しむ。義元、德川家康をして糧道を護らしむ。信長二塞の兵この糧道を斷たんとせしも能はず、同三年五月家康は鵜殿に代りて大高城を守り雲津・丸根の砦を攻陷せしも義元桶狹間に戰死するに及び退き去る。よつて信長兵を遣はして之を守らしむ。後信長家康と和するに及び城は家康の有に歸す。（雲津砦）永祿二年織田信長が大高城を守る今川義元の臣鵜殿長助を攻むる際に丸根砦と共に築きしもの。同三年織田玄蕃之を守りしが五月十八日の桶狹間の合戰に今川勢の爲に攻め落さる。（丸根砦）雲津砦と共に信長が永祿二年築きし砦。佐久間大學をして今川勢を防がしむ。永祿三年五月義元、尾張の淸須城を攻むるの時數萬の兵を率ゐて桶狹間に來り、其先鋒たりし家康丸根を攻め、佐久間大學は討死して砦は陷る。（水上姉子神社）宇氷上山に鎭座。氷上明神とも稱す。熱田神宮の境外摂社にて、宮養援命を祀る。援は日本武尊の妃にして尾張連粉種の姉、此の地はその邸跡と傳ふ。延喜式內の古社にて、國內神名帳に「從三位氷川姉子天神」と見ゆ。熱田神宮と特殊の緣故あり、又近郷農民の尊信篤し。例祭、三月二日・十一月上寅卯日。（長壽寺）臨濟宗永源寺派。もと長福寺と稱し無本寺なりしが、延寶四年、惠水忠龍の祖母長壽院、實樂宗の僧越傳和尙を迎へて再建し今の寺號となす。元祿二年再び臨濟に改む。

【大高村】鳥取縣伯耆國西伯郡の中部。米子市の東方約六粁。北部は美保灣との間に大和村を隔て、南は縣村に隣る。大山火山の裾野は村の東半に延び、佐陀川ほぼ中部を西流す。村の大部分は土地平らかにして水田多く、米・繭を主產す。省線山陰本線の伯耆大山驛（最村地內）・淀江驛（淀江町地內）に近く、山陰道と出雲街道を結ぶ縣道西部を南北に通じ、里道亦この縣道と交叉しそこに尾高（大字）の聚落ありて主邑をなし、大山高等公民學校を設く。此地は和名抄、會見郡敍屋郷の內なるべし。大字尾高はもと小鷹に作る。この地に行松氏の居りし尾高城址あり、のち毛利氏の將杉原氏これを守り次いで吉川氏の領となりしが、關ヶ原役後廢す。また大字岡成は尾高和泉守重朝（當郡天萬峰松山城主淺野越中守實光の臣）の天文・永祿の頃居城せし所といふも詳かならず。幕末の勤王家富田織部（贈從五位）は大字尾高の人。三條實萬の家臣となり實萬の薨後その子實美に事へ、終始國事に奔走す。安政戊午・元治元年の二度獄に投ぜられしも赦され、終始實美の腹心となり維新中興に盡ふ。明治元年五十二にて病歿す。（尾高城）大字尾高と岡成との界上の舊城址。北を本城、中を二の丸、南を天神丸と稱す。周圍約五〇〇米、東に湯池あり。永正・大永の頃行松氏の居りし所、大永三年出雲富田城主尼子經久に攻略され、尼子氏の將吉田筑前守之に居りしが、永祿五年尼子氏の勢衰へしにより行松正盛毛利氏に依りて之を復し、同七年正盛病歿するに及び毛利氏の有に歸し其將杉原盛重をして守らしむ。盛重の子元盛の時尼子氏之を復さんとして攻めしも事成らず。天正十年羽柴・毛利和議成立の後吉川氏の所領となり、慶長五年關ヶ原役に西軍に與して削封せられ、同六年中村一氏米子城に入るに及び遂に城廢毀せらる。（大神山神社）大字尾高に鎭座。國幣小社。祭神、大穴牟遲神。延喜式神名帳に「おほむわのやま」と訓じ式內小社たり。貞觀九年正五位下に陞叙せらる。のち當國二ノ宮と云ふ。中世に佛徒修驗の道場となり伯耆大山寺または大智明權現と稱せらる。初め大山の麓、大神谷と云ふ地に鎭座ありしを、天正・慶長の交に當郡の領主吉川蔵人廣家、この地の南部福萬原の境內に移し、更に現社地の東北本坊と云ふ地に移し、二十餘年後に現社地に轉ず。明治四年國幣小社に列す。同八年に大山寺を廢し、智明權現を取除きて大神山神社奥宮と定む。境內は老松森々として東に國立公園伯耆大山、群山を從へて雲を衝き、西に遠く島根群山を望む。山上奥宮の眺望は更に埠大にして隱岐を盆石のごとく望み山陰道を脚下に俯瞰する登勝の地たり。社寶中、銘備州長船住兼光の短刀一口は國寶、現在東京遊就館に出陳せらる。例祭十月九日。（觀音寺）大字尾高にあり。曹洞宗。小鷹山と號す。天正年間、城主杉原播磨守盛重の觀音寺村より當寺を此地に移して菩提寺とす。開山は禪室和尙。寺後の山上に杉原父子の墳墓あり、五輪石塔にて村民の建つるところ、但し實の墓は八橋の泰源寺にありと云ふ。

【大高（村）】岡山縣都窪郡にありし村。明治三十四年大市村外一村を廢し本村を置き、更に昭和二年外一村と共に倉敷町に合併し、同三年市制を布く。

オータカサカ　大高坂（おほたかさか）　高知市の中央部高知公園地域の舊稱。古くは大高坂山また城と稱し、山內氏の舊城たり。吉野時代南朝宮方の有志前守護代河間左衞門次郎光綱・近藤大炊左衞門尉知國・大高坂松王丸・境江房等ここに據り北朝武家方の細川律師定禪・佐伯恒貞（帝稱堅田小三郎）・日下三宮氏・須崎津野氏等と戰ひし有名なる古戰場なり。この合戰は後醍醐帝延元元年頃より始まり、本城大手門、安樂寺前西大手（安樂寺は今の樹形邊にあり）等にて激戰あり、其中延元三年南朝諸皇子等併勢大湊を出船し遠江灘にて藤風に遭ひ、花園宮滿良親王は當土佐國に漂著せられ給ひしにより、大高坂の宮軍花園宮親王を崇じ、宮の附人新田支族細打入道・金澤左近將監等も之に加はり、一時南軍の勢この海南の一隅に震ひたり。されど時至らず、興國二年（北朝曆應三年）大高坂城は遂に陷落し、宮は中國より西國に落給ひ、松王丸等の勇士は戰死を遂ぐ。今樹形弘小路、市役所近傍にこの時の戰死者の古墳遺塔存す。佐伯文書に「堅田小三郎申、冥忠之事、去年曆應二年十二月三日、率二大將軍一屬二于御手一、押二寄大高坂城一、於二西大手一、奮二向矢倉一、連日致二軍忠一之處、同月廿四日、爲二彼城後攻一、兒徒花園宮、新田總打入道殿、金澤左近將監、土佐樣守近藤四郎右衞門尉、和倉孫四郎、有井又三郎、河間左衞門次郎、佐河四郎右衞門入道、度賀野又太郎入道、大野中村名主庄官、以下兒徒等、數千騎、寄來陣二取于湖江山一之間、同廿五日、率ゐ屬御手一、致二散々合戰一、數十人誅伐之時、近藤四郎右衞門若黨、淺野孫九郎分捕仕畢、此間次第、吉良中務尉・佐竹一族西三郎殿、見分之上、爲二後證一可賜二御證判一候也、以二此旨一可レ有二申披露一候、恐惶謹言。曆應三年正月十八日　佐伯經貞（元弘日記裏書、大日本史料、佐伯文書）この後久しく廢墟となり、天正十六、七年頃長曾我部元親故に築城せんとせしも果さず。慶長年間山內一豐入國するに及びここに築き、明治維新迄十五代二七〇年餘その居城たり。維新後城を毀ち公園となし、いま一丸・天主閣（成臨閣）等あり。

オータカサワ　大鷹澤村（おほたかさわ）　宮城縣磐城國刈田郡の東南隅。北は白石町と白川村に挾まれ、西は大平村・齊川村に隣り、東より南は伊具郡西根・大張・荷野の三村と界す。東南より西北に續傾斜をなす一—二〇〇米臺の高臺性の丘陵地多く、ただ西北部白石町の南部に接する邊には平地ありて水田・耕地をなす。農產に米・麥・繭、畜產に馬、林產に薪炭等あり。省線東北本線白石驛に近きも交通なほ利便ならず。此地は和名抄、刈田郡坂田郷の內に屬す。大字大町は伊達家の世臣大町氏の居せし地。（球狀閃綠岩）指定天然記念物。本村より北隣白川村に亘りてあり。閃綠岩の一種にして、閃綠岩傳造を呈する部分と球狀をなす部分とより成る。前者は粗粒にして灰白色を呈し、球狀の部分は共心放射構造を呈し其の大き徑三糎乃至六糎なり。風化するときは岩面に菊花の如き模樣を呈するより此地方にては菊面石の稱あり。稀有の岩石にして既知の產地は世界にも多からず、我國に於ては此一箇所なり。現今採取その他現狀の變更を禁ず。

オータカドヤ　大鷹鳥谷山（おほたかとやさん）　阿武隈山地の一峯。福島縣雙葉郡川內村と田村郡都路村に跨り、標高七九四米。南西針面より木戸川の上支、東南針面より富岡川發源す。

オータカネ　大高根村（おほたかね）　山形縣羽前國北村山郡の西部。北は櫻井田村・横山村に、東は稲岡町との間に西郷村を距て、南は戸澤村・富本村及び西村上郡白岩町に、西は最上郡大藏村と界す。西境に月山山脈系の鍋山（一〇九七米）・葉山（一四六二米）等の御室山連峯連なり、これ等の山より發源する富並川東流し、東境を大きく屈折して北流する最上川は村の東境にて合し、その流域に低地ありて

水田・畑地拓け、米・麻を主産す。谷地町・大石田町間の街道東部を略ゝ南北に通じバスの便あり。大字富並は形勝の地にして鬼甲城と稱する城塁あり。また字白鳥の山麓にも城址ありて白鳥冠者義久ここに居せりといふも明かならず。羽源記によれば義光の頃城取十郎居住し俗に屋形と稱すとあり。

オータカモリ　大鷹森　宮城縣松島灣の東口なる宮戸島中央の峯。標高一〇六米。西は塩風澤島・桂島等を始めとして、松島灣内に於ける全島嶼を指呼し、東面すれば石巻灣の碧波の彼方にほく牡鹿半島の山々を望見すべく、展望秀麗なり。觀開志に依れば、春日霞帶峯頭を繞ふのゆゑをもつて酢霞森と呼ぶとあり。

オータカラ　大實　愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年、大字深池・川口・菱池は福地村に、大字今川・矢曾根・德次・丁田・寄近は西尾町に編入されて村名を失ふ。

オータガワ　大田川　江戸時代の奥州街道の一驛。踏瀬と小田川との間。今福島縣西白河郡川崎村の大字大田川に當る。

オータキ　大多喜　〔大多喜町〕千葉縣上總國夷隅郡の西北部。北は上瀧村、東は中川村、南より西南は總元・西畑二村に隣接す。西半には略ぼ東方に低下する丘陵地あれども東半は平坦にして夷隅川南より東北に向つて蛇行緩流し田畑よく拓く。桑麻は米を第一に、藺・麥・蘿卜等あり。工業また行はれてガラスの特産あり。町内數所に天然瓦斯の噴出する處あり燃料及び工業用動力に利用せらる。省線木原線の大多喜驛（昭和五年設置）あり、また南は勝浦、北は長生郡の一宮・睦南、市原郡鶴舞の諸町へは道路を通じ、いづれもバスの便あり。もと夷隅郡役所のありし處。今大多喜中學校・大多喜女學校等あり。この地は和名抄、市原郡荒田郷の内、古くは大瀧・大田水・精瀧等にも作れり。大字大多喜は大多喜城のありし地、明治四年廢藩後大多喜村となる。大字中の柳原は中古の伊北莊大多喜根古屋、新町は南の鍵神橋より移りしよりその名出づ。櫻巷の西の蛇池谷には古く蛇池とよぶ地あり、ここに棲む妖蛇は美女於三に化け圓照寺の僧と通ぜしが事露れて池中に逃れ去る。以來人々怖れて此池に入る者なし、大多喜城主本多忠勝の臣川井某勇卒をして池中を探らしめ名刀一口を得たりと傳ふ。久保はもと四地なりしより舘町の名出で後久保と改め、鍵鞘は大多喜・柳原・新町・櫻巷・久保・田・紺屋と共に城下町の一部をなせし處、いま警察署のある地。田には臨濟宗の圓照寺あり。以上の外紺屋あり。柳原以下紺屋に至る七大字は明治維新後に至りいづれも大多喜柳原・大多喜新町等と稱せしが、明治二十二年町村制施行の際昔大多喜の冠稱を除きいづれも大多喜町の一大字となる。また大字泉水は中古伊保莊大多喜郷といひ巨刹泉水寺ありしより泉水寺村と呼びしが後何時しか寺の字を脱し單に泉水といふに至れりと、大字上原は中古の伊保莊大多喜郷に、大字船子・森宮は共に伊北莊に屬せしものなり。〔大多喜城〕創築年代不詳。東鑑に伊北館とあるに當ると。初め和田義盛の居城たり、將軍藤原頼經これを再興す。室町時代には里見氏の部下正木大膳治して根小屋といへりといふも城名にはあらざるべし。天正十八年本多忠勝ここに封ぜられて十萬石を食みしが後桑名に移さるゝや次男忠朝をここに置きしが、大阪陣に忠朝陣歿す。元和三年阿部正之ここに居り、ついで幕府の直領となりしが、元禄十五年稲垣重富二萬五千石を以てここに封ぜられしが、間もなく下野烏山に移さる。翌年河内（松平）正久三河國植地よりここに移封され二萬石を食み、子孫相承けて明治維新に至る。明治元年正質謹慎ありしも八月免されて歸城す。同四年落城を撤して大多喜縣と改め廢藩ならずして木更津縣に併さる。木更津縣は明治六年千葉縣となる。里見八犬傳・九ノ五一「關程に政木宰嗣は、既に大田水の城主たれども、いまだ屋敷の地理を知らねば、この年の夏義成主に願ひ嘉して國中を編歴す」〔夷隅神社〕新町に鎮座。郷社。祭神、須佐之男命。創立年代詳ならざるも天正年間、里見氏大多喜居城の際に再建せりといふ。江戸時代に入りては藩主阿部氏、松平氏歴代の崇敬篤し。また全町及び近村の鎮守神として崇めらる。舊稱、牛頭天王。〔船子八幡神社〕船子の東方、字窪にあり。村社。祭神、譽田別尊。社傳によれば鎌倉八幡宮を移せるものといふ。船子及び大多喜城の鎮守たり。大多喜城主の崇敬をうけ、大永七年武田信清、天文二十三年正木時綱はそれぞれ大刀一口を奉納す。元和元年本多政朝は神田二十石を、寛治三年阿部正泰は神田十石及び供米を寄進せり。大河内氏の時、社殿を造營すること數度に及ぶ。例祭八月十五日。古くは祭禮に流鏑馬の神事ありて本郷中の盛典なりしと。〔圓照寺〕大字田にあり。臨濟宗妙心寺派。佛日山と號す。天智天皇九年の創建にして勅願所の道場たり。暦應元年、蘆原政元修造し、復庵和尚を中興開山となし、鎌倉五山に屬せしが、天正年中に現派に屬す。佛殿は源頼朝の再建。寶暦十年二月の火災に諸堂悉く燒亡、のち大多喜城主黒田氏これを修繕せるも荒廢に復するを得ず。德川時代には朱印二十石を領せり。寺寶に正木大膳の薙刀一口を藏す。〔東長寺〕曹洞宗。正法山妙光院と號す。天文元年小屋城主武田八郎太郎信清の開基、開山は大嶽存高和尚。傳法開山は龍州玄朔和尚。中興は揚天專撫和尚。寺寶に蜀江錦九條袈裟（豊臣秀吉の陣羽織にて作る）一領を藏す。〔良玄寺〕淨土宗。金澤山と號す。文祿四年、大多喜城主本多中務大輔忠勝の開基。下總國小金の東漸寺了覺上人を請じて開山となし寺田百石を附し良信寺と號す。のち元和元年五月大坂夏陣に二男出雲守忠朝戰死し三光院岸譽良玄と謚す、因つて現寺號に改む。寺寶に忠勝軍裝の畫像あり、鏡の御影と稱す。外に忠勝以降本多氏歴世の文書を藏す。寺域に本多忠勝の墓あり。〔大多喜瓦斯田〕大多喜町を中心とし夷隅・長生二郡に跨る天然瓦斯産出地域の總稱。含瓦斯層は第三紀新鮮統に屬し、頁岩及び砂岩の互層にして、瓦斯は同砂岩内に地下水とともに胚胎せられ、地質構造は單斜なる故、此の地方特有の斷層を利用して貯蓄す。天然瓦斯はメタンを主成分とし、窒素・炭酸瓦斯及び高級炭化水素の微量を伴ふ。綱掘・上總掘により瓦斯を採取し、燃料・動力に使用す。

【大多喜川】　夷隅川の別稱。

オータキ　大瀧　〔大瀧村〕福島縣岩代國大沼郡の西端。東は本名村に、南は只見川を距てて横田村に相對し、西は南會津郡伊北村に隣り、北の一部は新潟縣東蒲原郡西川村と界す。新潟縣との境上に越後山脈に屬する駒ケ森山（一三一五米）峙ち、山脚南に延びて東南部に高森山（八二七米）・袖山（七〇二米）、西南部に現燈山（八二二米）聳え、其間谿谷を刻みて瀧澤川村の中央を南に流れ、南境を東流する只見川に入る。大字大瀧・瀧澤邊の只見川に沿ふ地に低地ありて水田拓け、米・麥を産す。沼田街道は只見川を渡りて本村大瀧地内に入り、只見川に沿うて西隣伊北村へ通ずるも交通便ならず。大瀧城は大字大瀧にありて横田村地内の中丸城の支城たり。天正年間、中丸城主山内刑部大輔氏勝伊達政宗と戰ひし時、その臣子横田左馬助ここに居すといふ。また大瀧の只見川の岸、瓦石の間より温泉噴騰す。瀧瀬泉にして顔る鹹味に富み、鹽分を多量に含有するをもつて地名出づといふ。本村は横田村と組合村をなし、役場を横田村に置く〔字奈多理神社〕大字大瀧に鎮座。郷社。祭神、高皇産靈命・建御名方命・大山祇命。もと高皇産靈大明神と號す。明治二年現社號に改稱す。創立年代詳ならざるも江戸時代より近郷村民の尊信篤し。

【大瀧村】　埼玉縣武藏國秩父郡の西南部。東北は荒神村に、東は白川・中川の二村に隣り、南は東京府西多摩郡氷川村、山梨縣北都留郡丹波山村及び東山梨郡神金村・三富村に、西は長野縣南佐久郡川上村に、北西は群馬縣多野郡上野村に界す。面積約三三三方粁、全郡面積の三分の一を超ゆ。西より南にかけての境上には關東山塊の高峯たる三國山（一八二八米）を始め甲武信ケ嶽（二四八三米）・牛王院山（二一〇九米）・雲取山（二〇一八米）・天目山（一七一八米）等連亘し、それら峯峯の山脚村内に延びて山地重疊す。荒川の上流これら諸渓の水を集め、東流して白川村に出で、谿谷所々に小耕地あり。木材・薪炭等の林産を主とし麻・繭の農産を出す。東方秩父町より荒川谿谷を上り西南境の風坂峠（二〇八二米）を經て山梨縣の東北部笛吹川上流に出づる秩父往還あるも交通は不便なり。三峯森林調査所あり。新編武藏風土記に「秩父郡の山奥にして四方に峰巒雲え平地なく耕す所は皆火耕の畑にして之を指、又は焼畑と呼ぶ。禾熟の時は麓は猿を防ぎ夜は鹿を逐ひ各家に鐵砲を備ふ。然かも六七箇月位の生活を支ふるに足らず、綿貨・栗子を食用とす。民風は總樸のもの多く、麻揚單衣にて年を送り、冬に至れば爐を圍みて火に對し松の根を焚て燈火となす」とあり。大字中津川は荒川の支流中津川の上源の地、村の西北部に位し、深山窮谷往時は牛馬の通路もなき險峻の土地なれば諸役を免除せられ元禄十年始めて十三石の貢米を納めしといふ。明和年中平賀源内この地に金坑を鑿ちしことあり、蓋し中津川金山の名は正保・元禄の二關に既に其名見ゆれば源内以前既に發見せられしものなるべし。字橋本には往昔番所あり、大村氏が累世、里務を掌り此の番所を兼ね掌れりと。大村氏は又御林守も兼ねしといふ。字大血川は平井門に關する傳説を有し往時は强石組に屬せし處。山本氏此處に住し初め甲州家に仕へしが後北條家に仕へしといふ。〔三峰神社〕大字三峰に鎮座。縣社。祭神、伊弉諾尊・伊弉冉尊（相殿）。景行天皇・文武天皇・聖武天皇（合祀）。天柳中主神・高皇産靈神・神皇産靈神・天照大神。景行天皇四十一年日本武尊東夷御征討の途次、當地に假殿を設けて諸神二神を祀り給ふ。聖武天皇阪東の地を御巡狩あり、雲取・白石・妙法の三峯の秀麗を嘉し給ひ三峯宮と命名し給ふと傳ふ。關後朝野公私の尊崇甚だ厚し。文武天皇三年、行者役ノ小角屢次この山に來りて修行せしより以來修驗者の參拜尋し。天平九年に光明皇后の仰せありて觀音像を安置す。同十七年國司の奏上に依り、月絋僧都を山主と定む。以後世々武將の崇敬篤く隆盛を極めしが、後村上天皇正平七年に新田義興當山に隱る。足利基氏怒りて社領を奪取し、遂に一山の勢衰へたるも、後柏原天皇文龜二年に至り、行者宣滿四方を勧進して再興を圖る。明治元年に至りて神佛を分ちて現社號に改め、同六年郷社に、同十六年縣社に昇る。なほ民間に於て當社の眷屬を御犬と稱し、神符を門戸に貼れば盜難・火災を防止すと云ひ、信仰甚だ厚し。境内二萬三百餘坪の旗域を占め海拔三千尺の高處に位し塵外の仙境たり。例祭、四月八日。〔三峰の榛の蘖種〕三峰神社の境内に杉檜の大樹多く、其中鐘樓の傍にある榛の一種は此山のみに生育する珍種にして、其葉は榛よりも小さく、

だけもみに似て裏面灰色を帯ぶ。一年生の枝は黄褐色にして光澤あり、種果は圓錐形をなし長さ一〇糎、徑五糎、圓頭なり。

【大瀧】 神奈川縣相模國中郡大山の上り口にある小さき人工の瀧。大山への參詣者はこの瀧にて垢離を取り、一切の部障を懺悔せざれば、頂上の奥宮には登拜するを得ず、若し偽あらば山中にて天狗に攫はれ八裂にせらるると信ぜられたり。柳樽拾遺「大瀧は根生骨を丸洗ひ」

【大瀧村】 富山縣越中國西礪波郡の北部。福岡町の西南に隣り、石動町の東北にてその間に荒川を隔つ。西北界は小矢部川により西五位村に對し、土地平坦、地味よく、水田よく拓けて米を多産す。北陸街道に當り、また省線北陸本線の福岡驛に近く交通は不便ならず。古くは和名抄礪波郡長岡郷の内なるべく、近世の糸岡郷の内とす。大字木舟に木舟城址あり。〔木舟城〕一に貴舟にも作る。福光氏の一族石黒太郎光弘の後裔ここに居城す。巽國三年宗良親王の越中國石黒ノ館に赴かるといふもここならん。天正九年城主左近、近江長濱にて自殺せしより其正號絶えて佐々氏の領となる。同十三年佐々成政敗れて前田秀職ここに居りしが、同年十一月伏地震に遭ひ城は倒潰し秀職夫妻壓死す。是より廢城となる。

【大瀧山】 日本北アルプス背念山脈の南部の峯。長野縣南安曇郡安曇村の東境に聳え、標高二六一四・五米。北西麓は蝶ケ岳(二六六四・三米)を餌て雷念岳(二七五七米)に續く。東斜面より烏々谷の一支流小瀧澤出で、西斜面より梓川の一支流澤發す。登山は松本平より東麓に當る鍋冠山を經て尾根を縱走して達し、又は梓川河畔より德澤を經行して至る。南・北よりの尾根縱走は困難なり。頂上の北方肩に大瀧小屋あり。

【大瀧村】 滋賀縣近江國大上郡東南隅の山村。杳根市の東南約一〇粁を隔つ。東西・南北最廣部は各一〇粁を超え面積七九方粁あり。北は多賀村・脇ケ畑村及び岐阜縣美濃郡畔村に、東は三重縣員弁郡立田村・白瀬村に、南は愛知郡東小椋村・角井村・泰川村に、西は東甲良村により て圍まる。鈴鹿山脈北部の西側に當り、東境には三國岳(八一五米)・鈴ケ岳等峰ち、その山脈西に延び北境に高室山、南境にも五百米を超ゆる山嶺あり、村内殆ど山地をなす。犬上川南隅角井村より來り、中央部にて東境より西下する支流と合し西北に向ひて多賀・東甲良二村の境をなし末は琵琶湖に注ぐ。村の西部川沿ひに小平地ありて米・麥を產し、また繭・桑の外、薪炭を出す。大字川相より東海道本線川瀬驛への縣道にはバスを通ずるも、交通なほ便利ならず。また北部を東して三重縣に出づる大君ケ畑越の山道あり。〔大瀧神社〕 大字富之尾に鎮座。郷社。祭神、高靈神。創立年代詳ならざるも、地方の古社にて、寛永年間德川家光社殿を造營す。多賀社の末社として知らる。社地は犬上川の上流、梨磐國綾の中にあり。例祭、五月五日。

【大瀧】 萬葉集に見ゆ。大和國吉野郡にあり。一説に今の奈良縣吉野郡川上村大字大瀧の地なりとするも、歌詞より考ふれば、地名にあらずして國樔村の宮瀧なる瀧の美稱なるが如し。萬葉・九「大瀧を過ぎて夏箕に停ひてゐて清き河瀬を見るか清けき 岳部川原」

オータキ　王瀧

【王瀧村】 長野縣信濃國西筑摩郡の南西部。一に大瀧に作り、俗にオンタキとよぶ。飛騨山脈南部の堆峯御嶽山(三〇六三米)南西の山地を占め、東北は三岳村、東南は上松町・大桑村、西南は岐阜縣惠那郡加子母村、西北は益田郡小坂町に接す。約三一〇方粁の地積に亘るも北には御嶽山、西南境上には白草山・小秀山・高棚山等千五百米以上の山峯相連りて山地深く、木曾川の支流王瀧川南北山地の渓水を集めて東に流れ、村の東部沿岸に細長き平地をつくり、多少の米・麥等の產產あり。村内森林多く、西部は三浦御料林、北部は王瀧御嶽御料林、南部に瀬戸川御料林等ありて榊等の良材に富む。本村は木曾御嶽の表登山口に當り王瀧口と稱す。この地は夏氷・冬暖の交、木曾義仲の所領たりし處。慶長五年山村道勇・良勝、關ケ原の役の功により德川家康より賜はりしが後辭して元和元年尾張義直に歸はり、代官山村甚兵衛、直先より代々管領となる。明治二年尾張藩の管轄となり、同四年名古屋縣に、同五年筑摩縣の管轄となる。本村の地は往古は惠那郡に屬し天正年間筑摩郡に入る。もと王瀧村・瀧村の二箇村なりしが寛永年間に合併し王瀧村となる。村内の上鳥館址は永正十二年に山村良道、飛騨の兵と戰ひし地。王瀧城址及び御岳城址は王瀧川の右岸にありて鞍馬峡を北西の險要とし、木曾十六代家豐が飛騨軍と、十八代義康が飛騨軍及び武田晴信の將、原隼人と戰ひし地。村内に木曾殿の墓及び三浦大夫の墓あり。鞍馬峡は王瀧古城址の北面一帶の王瀧川に臨む地にて、河水は奇湯を作り山水の奇觀に富む。此地の木曾石楠花は稀有の珍種として保存價値を認められ、採集を禁ぜらる。〔渕川温泉〕 御嶽山の南側地嶽谷より南下する渕川(王瀧川の一支流)の岸に湧出す。泉質は硫黄泉。地は深林の裡にありて閑寂を極め、浴する者少からず。

【王瀧川】 木曾川の一支流。長野縣西筑摩郡王瀧村西部の山間に發し村の中部の谷を東流し、北方に集ゆる御嶽山南側の諸水を左岸に容るるを以て一に御嶽川ともよばる。右岸には鍋川を、左岸には三岳村に於て西野川・白川の合流を入れ、福島町の南部にて木曾川に注ぐ。長さ約四六粁。

オータキオンセン　大瀧温泉

省線花輪線の一驛(大正四年設置)。秋田縣北秋田郡十二所町にあり。東方約三〇〇米の地にアルカリ性鹽類泉大瀧温泉あり、驛名は蓋し之に依るか。十二所町

オータキネ　大瀧根

【大瀧根山】 阿武隈山地の最高峯。また大岳・大山・大竹山・鶏鳥山ともいふ。福島縣田村・雲葉兩郡界に跨り標高一一九三米。阿武隈山地が浸蝕を受けて準平原面となりし時代の調ゆる殘丘の一にして花崗岩より成り、山頂は平坦にして展望に富み、附近に白鶴鶴の群落あり。大瀧根川その西北斜面に發して西北流す。會津物語によれば、慶長五年七月近郡主舘二百餘人を率ゐて三春の大竹山まで進めり云々とあり。大竹山は卽ち大瀧根山をいふ。

【大瀧根川】 福島縣田村郡を流るる川。阿武隈川の一支。田村・雲葉兩郡界に跨り、阿武隈山地の最高峯たる大瀧根山(一一九三米)の西北側に發して北流し、常葉町にて西に向ひ、給引町にて左岸に牧野川を受け、やがて西南に流れ郡山市の東境にて阿武隈川に入る。長さ約三八粁。

オータギリ　大田切川

長野縣上伊那郡の溪流。上流を黒川とよび木曾駒ケ岳の東谷に發し始め南流ついで東折し宮田村・赤穂村の境をなし深き谷を作りて天龍川に注ぐ。高峻なる駒ケ岳の東斜面を急に流下するを以て大雨の時は水勢頗る强く大石をも流し去る。爲に兩岸を浸蝕しふかき谷をなすも平時には水量甚だ少し。伊那谷の地形の然らしむる處にて、この川の南方には中田切・與田切等とよばるる同樣式の谷あり、當地方に於ける交通上の一障碍をなす。

オータグチ　大田口

省線土讃線の一驛(昭和九年設置)。高知縣長岡郡西豊永村にあり。此處より一粁にして柴折觀音堂に達す。觀音堂は曾行基の開創。本堂及び佛像は國寶に指定せらる。

オータクマ　大託間村

佐賀縣肥前國佐賀郡の東南端。筑後河口の三角洲上にあり。本流と分流の早津江川に挾まれ、東は本流を隔てて福岡縣三潴郡川口村・昭代村に對し、西は早津江川を介して佐賀郡中川副・南川副二村に向ひ、南は有明海に面す。全村低平にして到る處水田をなし米を主產し、麥・繭これに次ぐ。此地或は和名抄、佐嘉郡城培郷の内か。水路志によれば古くは登蓼ありしものの如し。

オータケ　大竹

【大竹町】 廣島縣安藝國佐伯郡の南端。木野川(大竹河)河口の左岸に位し岩國町の北微東約五粁。南は木野川を隔てて山口縣玖珂郡和木村に對し、東は廣島灣に臨む。西境南北に丘陵連亘し、東に緩やかに地傾き、中部以東は平地にて田畑拓け農產に米・麥あり。工產に和紙・乾鰯、海產に青海苔あり、富有柿も少からず。商業また行はる。村の中部を南北に國道(山陽道)・省線山陽本線走り、後者は大竹驛(明治三十三年設置)を置く。舊幕時代は山陽道の一渡船場集落をなして榮え、爾來この附近の中心邑となりて商業盛んなり。本町は大内義隆の榮えし時代は嚴島神社の社領なりしと云ふ。また慶應二年六月十四日幕府の長州征伐の際民家悉く兵燹に罹りしことあり。明治四十三年町制を布き、油見村と組合村をなせしも昭和四年油見村を合併す。

【大竹河】 安藝周防二國の境を流るる木野川の古稱。鎌紀天平六年九月の條に大竹河を以て安藝周防二國の堺とせよとあり。今河口の左岸に大竹町存す。

オータケ　大嶽村

熊本縣肥後國宇土郡の南海岸の中部。東は松合村、西は郡浦村に隣り南は八代灣に面す。北境に火山大嶽(四七八米)聳り、その山麓北より南に低下し、山脚所々に小岬角をなして海に浸す。海岸に沿ひ山脚の間に小平地ありて耕地をなす。東方より松橋、西方三角港に至る縣道走り各バス通ず。農產は繭・米・麥・甘藷等を主とし、また黒砂糖、水產に鰯の特產あり。村名は北境の大嶽より出づといふ。此地或は和名抄「天皇郡波多郷に屬せしものか。往古登行天皇の熊襲御征伐の砌、此地に御停船遊ばされ御鉞を下し給へりといふ。また明治九年熊本神風連の太田黒伴雄等五人大嶽山上にて自刃すといふ。

オータケ　大岳山

關東山脈支脈の一峯。東京府西多摩郡の中央。檜原・氷川兩村に跨り、標高一二六七米。東北麓は御岳山(一〇七〇米)、西麓は鋸山(一〇四七米)に連る。山中老杉多く、藏王權現鎭座す。本社より左の方へ約九〇〇米登れば頂に達し、ここに奥の院あり。山頂附近には奇岩怪石横はる。山頂部樹間より淺間尾根、甲武相國境附近の諸峯、並びに丹澤山塊の三峯の山巒の彼方に鎭峯富士を仰ぐ。南斜面に發する大岳澤に大瀧落かる。藏王權現の社殿所は南麓檜原村八割にありて、此處より登るが本道なれど、交通不便なるを以て、多くは御岳山より縱走(約五粁半)して至る。

オータゴー　太田郷町

熊本縣肥後國八代郡の西部。八代町の東に隣り、北は八千把・千丁の二村、東は龍峯村、南は宮地・高田の二村に接す。東部に多少の丘陵を見る外、謂ゆる八代平野の東南部に位する低平の沃野にして耕地廣く拓け、農・商・工業行はる。農產に米・麥・七島藺を主とし、西瓜・南瓜等あり、工業に替油・菓子・豆腐・石灰・墨・鐵・洋紙等あり、また鮎を特產す。鹿兒島街道は東南部を貫き、八代町への縣道これより岐れて西し、また省線鹿兒島本線中部を縱走し八代驛(明治二十九年設置)を置き、交通は便利なり。町名大田郷は球磨川の分流、太田井手(灌漑用水)ありて當地を灌漑するより出づと傳ふ。昭和十

一年四月町制を施く。此地域は和名抄、八代郡木行鄕の內か。中世は太田鄕と稱す。また延喜式に見ゆる片野驛は此地にありしもの、大字片ノ川に鬼岩屋と稱せらるる露出の石槨あり、形狀珍奇にして方二間(約方三・六米)に餘る。謂ゆるドルメンなり。大字萩原は急流球磨川の水流衝激の地點に當り且つ八代城市の捍蔽を要するを以て古來隄防の修築を愼重にせし處なり。この隄防は一に萩原堤また松堤とよばる。加藤正方麥島在城の頃、土木の功を起して修造し、更に細川氏之に繼ぎて施策を加ふ。明治十年西南の役に戰死せる警視隊の墓あり。

オータジマ 大田島 おほたじま 愛知縣葉栗郡にありし村。明治三十九年光明寺村・佐千原村と共に廢せられ更に葉栗村を建つ。

オータチ 大立丘 おほたち 兵庫縣飾磨郡安室村大字御立の南山の古稱。上古豆智里に屬す。應神天皇此丘より國形を觀給ひしと傳ふ。播磨風土記「所ニ以稱ニ大立丘一者、品太天皇立ニ於此丘一見ニ之地形一、故號ニ大立丘一」

オータテ 大立島 おほたて 長崎縣西彼杵郡の西北海上に浮ぶ島。崎戸村の西部御床島を距る西方約一〇粁、平戸・長崎間常航路の西側に當り島狀は長徑約一粁の橢圓形を成す。東南方に小立島、西北方に色濃の岩礁あり。西端に大立島燈臺あり。明治二十七年設置、燈質第六等閃白光毎十秒一閃光(紅光分弧)、光達距離二三・五浬。

オーダテ 大館 おほだて

【大館村】青森縣陸奥國三戸郡の東南部。八戸市の南に隣り、階上村の北、是川村の東に接す。最高一〇〇米に滿たざる丘陵連亘し、土地西北に緩やかに傾き、新井田川の一支その間に谷をつくりて村の西北境を北流する新井田川に合し、川沿ひの低地に水田拓く。丘陵地多く、畑地は水田に比して廣し。米を主產物とし外に林檎を出す。水田はまた東北地方特有の冷害を被ることあり。耕作上種々自然的束縛を受くること多く近年その豫防法を考究實施中に屬す。また石灰岩に富み八戸市に於けるセメント工業の原料に供給す。省線八戸線の八戸驛に近く、また八戸街道村の西南部を南北に通じその他の道路も發達し交通便なり。此の地はもと八戸市の邑にして新田と稱せしものの如し。此新田に中館・南館の二所あり、今の八戸柏崎城は中館ならん。新田の名は大字新井田と轉訛して殘り、近世新井田の中館は鐵城となりて專ら八戸と稱せられ、南館は今の本村大字新井田の地なりといふ。又新井田の東方妙野の原は古來坰牧として知られたる所なり。〔閉伊穴〕大字松館にあり。石灰洞を以て知らる。八戸驛の東南約八粁。松館の溪流に沿へる一帶の地は石灰岩より成り、溪流の兩岸は白き屏風を立てたるが如く、隨所に奇勝を呈す。閉伊穴の石灰洞は南方遠く岩手縣閉伊郡まで續くといふよりその名起ると傳へらる。〔對泉寺〕曹洞宗。貴瀬山と號す。建武年間新田左馬介行親零落して居を當地の南館に構ふ。天文二年其子孫租先追福の爲に用室存心を開山として其館傍に一小庵を建つ、これ當山の濫觴なり。慶長九年觀應存心中興す。

【大館盆地】秋田縣北秋田郡の北部米代川中流にある盆地。卽ち奧羽山脈と出羽丘陵(山脈)との間に生ぜし陷落地域の一。奧羽山脈主軸の北部西側に發して北流し北より來る大湯川・犀川等と毛馬内盆地を潤す米代川は西折しこの盆地の中部をほぼ西北に流れ、右岸に長木川・內川の合流及び岩瀬川、左岸に犀川・引欠川等を容れ、出羽丘陵東部の山支を横ぎり西方の鷹巣盆地に出づ。盆地は東西約一〇粁南北約二〇粁、周緣は第三紀層の中山性山地、その內邊には洪積層、諸流の沿岸には沖積層發達し、水田・畑地拓けまた草野をなす。ほぼ中央部に大館町ありて中心都邑をなし、羽州街道西より來りて北方に向ひ、鹿角街道東方より來りてこれに會し、鐵道奧羽本線・花輪線またほぼ前二街道と同方向に走り交通上の一中心をなす。

【大館町】秋田縣羽後國北秋田郡の東北部。大館盆地のほぼ中央に位し、南は米代川左岸の扇田町・二井田村との間に上川沿村を隔て、町の中部を米代川の一支長木川西に流れ、本町の中心街はその左岸の臺地に立地す。町內の土地は概ね平坦にして田畑拓け、もと農業を主とせしも近來交通の中心として發達し、商工業漸次榮えて、現在農業從事者は僅に四七五戸、全戸數の一六%に過ぎず。製材業行はれ、特產物に樺細工・樽丸桶材・曲物等あり。樺細工は明治維新前より製作されしが明治以後特に足輕級士族の生業となり、爾來その技術著しく進歩して今日の如く大販路を有するに至れり。製品中、煙草入れ・茶筒は乾濕を防ぐを以て珍重せらる。原料は採取後三年以上を經過せる櫻皮を用ひ檜物と見違ふ程の精巧さを示す。年產額約四萬圓、主として家庭工業に屬す。樽丸桶材は秋田杉を原料とし、北は樺太・北海道より西南は遠く朝鮮まで移出さるるも、最上の華客先は野田・銚子なりといふ。原料は營林署より公賣または特賣の方法にて買入れ伐採より約一年後を經て工場に運ばれ、玉切り・大割・小割・削方・乾燥・仕分・結束の工程を經て製品となる。年產好況時には約三百萬圓に達せりといふ。曲物は「大館曲げワッパ」と秋田音頭に謠はるる本町の代表特產物にて、舊藩時代より小祿士の內職として發達せしもの、製品は圓形・橢圓形等ありて、元來は農家の携行食器を主とし各種の器物を作りしも、近時食器はアルミニウム、柄杓はトタン

の製品に壓迫せらる。工程は丸太を切る・割る・裂く・削る・曲げる・乾燥する・櫻皮にて縫ふ等の順序を經て成る。家庭工業を主とし堅牢安價を誇りしも時勢の推移に逐はれ漸く衰へ、今は年產額約一萬圓に過ぎず。また此地の純日本犬たる大館犬は世上秋田犬とも稱し天然記念物となり、毎年鬪犬の行事ありて賑ふ。羽州街道は西方より來り本町にて直角に折れて北方に向ひ城下町に於ける防禦的街路の好き一例を示す。鹿角街道また羽州街道より分岐して南東に走り、古來交通の要衝たり。近年また省線奧羽本線、陸羽街道に並行して通じ、大字松木境に大館驛(明治三十二年設置)を置き、省線花輪線・社線小坂鐵道ここより起る。花輪線は字新地に東大館驛(大正三年設置)を置く。小坂鐵道は花岡鑛山・小坂鑛山の採鑛を大館驛に搬出し、これより他地方に送らる。かくて本町は北は青森、東は岩手縣への交通上の要路に當り、貨物輻輳す。但し大館驛は町の中心街より北方約一・五粁を距てて不便なりしも、近年中心街より驛に至る道路改修されバスを通ずるに至れり。中心街の東部舊城地域は學校・官署等の住宅地域、その西方大通り沿ひは商工業地域を成し、長木川の右岸より大館驛迄の大通りも市街地化しつつあり。町內に警察署・營林署・區裁判所・稅務署・縣立大館中學校・高等女學校等あり。當地方は古くは比內と稱し、本町はその首邑にて比內館と呼ばれたり。藤原泰衡の時河田行文贊楯に居しこの地に大なる館を築きたるより大館と稱するに至れりといふ。また大館城址の本丸址は大館男子尋常高等小學校となりその他の部分は町役場・公會堂・區裁判所・病院等の敷地となる。明治初年奧羽戰爭の際佐竹氏は官軍に屬せしにより會津方の南部兵侵入して火を放ち城市共に灰燼に歸す。幾間もなく復興して現在の盛況を見るに至り、町民は今もなほ佐竹公の德を慕ふと。〔大館城〕一に桂城。戰國の頃淺利氏の居城たりしも、天正中秋田實季の有となり、のち更に南部氏の臣北信愛これに代り、爾來南部氏に屬す。慶長に至り佐竹氏の有に歸し、其族佐竹義成ここに居し、子孫亦此城を守る。城は慶長十五年佐竹義成淺利氏の古址に築きしものにて、本丸・二ノ丸・三ノ丸に分れ三重の濠を巡らし、居館南面には城門七を數へしも明治戊辰の役に兵火のために亡ぶ。今は纔に濠を殘すのみ。〔秋田犬〕指定天然記念物。秋田縣北部地方一帶に飼養されしも特に本町に於てよく生長保存せられたるを以て大館犬ともいふ。日本犬の最北系統に屬し體軀巨大にて肩高〇・五―〇・七米、體重五二瓩に及ぶものあり。頸太く頭大きく被毛厚く耳は丸味を帶びて左右に開きて立ち、吻は尖り尾は太く短く背上に卷く。〔ざりがに棲息地〕指定天然記念物。町の東南澤岱の窪地一帶の水田用水路中に棲息す。ざりがには頭胸部は圓筒狀、背腹は扁平にて前三對の脚は鉗を有しその第一對は特に大なり。體長は大なるは六八粍に達するものあり。本邦にては北海道に廣く分布するも津輕海峽を越え本州に產するは動物地理學上興味ある問題にて、大館地方はその南限たり。〔神明社〕大字東大館に鎭座。鄕社。祭神、天照皇大御神。當町草創當時よりの鎭守社とも、また延寶年間佐竹氏の支廟常州館內より勸請して本社に合祀せりとも云はる。全町の產土神として上下の尊信篤し。〔淨應寺〕東大館寺道にあり。眞宗大谷派、松葉山と號す。明應年間、蓮如上人の法弟警田道顯法師の開創の地、春日作の阿彌陀如來を本尊とす。古は立机村にあり。慶長年中、佐竹義成、比內の賊徒を討滅せんとせしも其勢ひ甚だ强し、三世玄正法師賊の陣に赴きその賊徒を說きて以て之を降す。義成その功を賞し朝に奏して同法師を法橋に任ずと傳ふ。境內三千坪、伽藍は明治戊辰の兵燹に罹り往時の莊嚴は失はれたれど、三百年を經し吉野枝垂櫻あり、高さ約六米幹廻り約三米に近く、花時來遊する者多し。當寺は安政年間に頼三樹三郎此處に滯在し、戊辰役には桂太郎副將として宿泊す。寺寶に如來畫像(蓮如上人遺物)、及び大臣妹子作と傳ふる聖德太子像あり。

【大館】→尾島町(群馬縣新田郡)

オータテバ 大館場島 おほたてば 愛媛縣溫泉郡西中島村の屬島。西中島の北端を去る西北方約五粁の海上にあり、長さ約一粁、巾その半に達せず、東北方の小館場島と一小島群をなす。

オータトミナガ 大田富永 おほたとみなが 能登國(石川縣)の古地名。中世の保名にて、田數目錄に「大田富永保、三町九段三、元久元年立券狀」と見ゆ。地は凡そ今の羽咋郡富永村の邊にして、同村の大字に大田の名存す。

オータナイリ 大棚入山 おほたないり 木曾山脈北部の峯。長野縣西筑摩郡楢川村と日義村の境とに跨る。標高、二三七五米。駒ヶ岳の北方なる茶臼山の北稜に當る。

オータニ 大谷 おほたに

【大谷】樺太榮濱郡落合町の大字。東海岸線の大谷驛(明治四十四年設置)を此處に置く。

【大谷】→大葛村(秋田縣北秋田郡)

【大谷】石川縣珠洲郡にありし村。明治四十年十月本村及び大崎村・日置村を合併して西海村を置く。

【大谷】愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年、小鈴谷・坂井・上野間の三村と共に廢せられ新たに小鈴谷村となる。

【大谷】滋賀縣大津市の町名。逢坂山の南麓に當り、舊東海道ここを通る。兩國寺・關ノ走井・蟬丸祠等あり。

【大谷】 京都市東山區の地名。東山の一峰花頂山の西麓、祇園社の東北に當る平地。一に吉水ともいふ。榮華物語・二九「祇園のひんがし大谷と申て廣き野侍り云々」とあり、もと青蓮院(しやうれんゐん)領なりしが僧源空(法然上人)これを得て禪坊を營み念佛專修の道場とし吉水の禪房又は大谷の禪堂と稱す。今の知恩院の地即ち是なり。源空の寂するやこゝに葬りしが安貞元年叡山の僧徒の爲めに堂宇墳墓破壞せらる。後遺弟源智四條天皇の勅を受けて再興し花頂山知恩教院と號す。眞宗の祖親鸞の廟も亦此地の北大谷にありしが慶長八年德川家康の知恩院を造營するに際し其遺骨を二分して東西本願寺に分ち葬らしむ。本派本願寺即ち西本願寺は東山の一峰鳥邊山麓に祖廟を營み舊名を襲ひてこれを大谷本廟と稱し萬治三年佛殿を造營す。世に西大谷と稱するもの即是なり。東本願寺即ち大谷派本願寺は初め吉水の東北隅に廟を覺きしも承應二年幕府の命令の時東山長樂寺の南に地を得てこれを改葬しまた大谷廟と稱す。元祿十六年に至り堂宇を修築す。俗にこれを東大谷と稱す。

【大谷村】 和歌山縣紀伊國伊都郡の西北部。紀ノ川の右岸に沿ひ東は妙寺町、西は笠田町に續き、南は川を挾みて見好村と對す。北隣賀茂村の南部より山地次第に南に低下し村の北半は緩傾斜の山地、南半は紀ノ川中流々域の一部にて低平にして耕地をなす。柑橋・蘭・米等を主產物とす。伊勢街道と省線和歌山線南部を東西に貫き後者の妙寺驛・笠田驛にも遠からず、交通不便ならず。中世大谷莊と云へるは本村の邊を汎稱せしものなるべし。莊號は熊野の符に見えて、高野山領なり。

【大谷村】 愛媛縣伊豫國喜多郡の南端部。内子町の南方約一三粁。南部は東宇和郡貝吹村・中筋村に隣り、北は宇和川村に界す。東南境に高峰山(三八九米)、西南境に御在所山(六六九米)聳え、山地速瓦し、中部を宇和川(肱川上源)の一支東流す。主產物は米・麥・薪にて薪炭も少からず。内子町に縣道巡ビスの便あるも交通未だ便なりといふべからず。業落は交通の比較的便なる溪間の低地に發達す。

【大谷】 筑豐炭田西北部の重要炭礦。礦區は福岡縣鞍屋郡宇美町・須惠村に亘り主として塊炭・粉炭・粗炭を產出す。

【大谷】 福岡縣嘉穗郡にありし村。大正七年一月中袋町(なかふくろまち)と改稱す。

【大谷】 →今和泉村(鹿兒島縣揖宿郡)。

オータバ 大丹波(おほたば) →古里村(東京府西多摩郡)

オータブ 大多府島(おほたぶしま) 岡山縣和氣郡の南部にある島。日生町(ひなせまち)に屬し、鹿久居島の南方にあり。北方の鹿久居島との間には鵜島・頭島、西方に鴻島・長島等散在し、片上灣の門戸を扼し風光明媚の地域として知らる。此島の南端は四一米の高度あるも北部に緩やかに傾き、東北部の海岸に大多府の集落あり。

オータリ 大足(おほたり) 能登國(石川縣)の古地名。和名抄に珠洲郡大足郷あり。高山寺本は大豆に作り、又一說には大谷の譌なるべしとなし、或は大足は大多の誤寫なるべしとなすも詳かならず。今の珠洲郡西海村邊が郷名を缺けば或は此邊か。一に賀立村の邊ならんともいふ。

オータワ 大田和峠(おほたわ) 山梨縣北都留郡小菅村北境にある峠。最高點八二七米。北降すれば丹波山村に、南下すれば小菅川の畔なる大字瀧之尻に出づ。

オータワ 太田和(おほたわ) →武山村(神奈川縣三浦郡)

オータワ 大だわ峠(おほだわ) 東京府西多摩郡にある山路の一。氷川・檜原兩村界の鉞山(一〇四六・七米)西南方の鞍部に當る。西北に降れば多摩川畔氷川村小留浦に達し、東南に降れば檜原なる神戸岩の奇勝を經て北方秋川神社に至る。

オータワラ 大田原町(おほたはらまち) 栃木縣下野國那須郡のほぼ中部。西北は西那須野町に隣り、西南は鹽谷郡矢板町に遠からず、南は佐久山町と親鄰村を隔て、東は金田村に接す。所謂那須野原の東南部にて地緩かに東南に下るも概ね平低にして原野廣く田畑少からず。米・麥・蕎等の農產あり。郡の中心に當り、市街は北部權現山丘陵の南麓に位し、昔では郡役所を置かれし處、今も地方商業の一中心となり附近物產を集散す。いま大田原信林署・大田原區裁判所・宇都宮地方專賣局出張所・縣立大田原中學校・同大田原高等女學校等あり。此地中世は館宗村と稱せし一寒村なりしが、室町時代の末葉、武藏七黨の一、丹黨の某來り住し、大俵氏を稱し、那須家に仕へ漸次勢力を强め、村名館宗は大俵と稱せらる。蓋し是後の大田原氏の祖なり。然るに稍々强大なりし黑羽町の大關氏と勢力爭ひ起り永祿年間終にこれと衝突せり。大俵嵐清善く戰ひしも今の喜連川町の地に於て討死し一家離散せり。嵐清の子貴清は諸國流浪し後越前永平寺に入り落飾して永存と稱せしが偶々同寺に於て朝倉義景と遇ひその後援をうけ大關氏を攻め破り今の地に城を築き龍巖城と名付く。大俵氏が大田原氏と改め地名もまた改まりし時代詳ならず。恐らくは龍巖城を築せる前後のことか。後豐臣秀吉に從ひて軍功あり、下りて江戸時代にも舊領を安堵して一萬千四百石餘を領し、爾來子孫世襲して以て明治維新に至る。明治維新の際、城主一清の幼少なりしと賢臣なかりし爲に落論宋だ定らざるに會津軍の侵すところとなり城下の大半を燒き拂はる。城は後に其の罪を免がれ其後會津征伐の際は之に從ひ大いに功績を擧げたり。明治四年廢藩の時大田原縣を置きしが間もなく宇都宮縣に合併せらる。城は蛇尾川の畔の丘陵上に建

もしが、今は大田原公園となる。櫻樹多く陽春開花の期には觀客雜沓す。また頂上に總社大田原神社あり。〔通照院〕 新義眞言宗智山派。成田山と號す。明治十七年の建立、下總國成田山より不動像を遷して安置す。毎年除夕十月十五日・十六日には大護摩・大施餓鬼あり。毎月二十八日を緣日とす。〔洞泉院〕 曹洞宗。龍谷山と號す。元和八年三月、北堂系南和尙の開山。本尊は三尺五寸の釋迦如來木坐像。弘化元年に燒失、同三年再建す。〔不退寺〕 時宗。遠臺山と號す。總本山清淨光寺末。正應五年他阿眞教上人の開創。文久元年火災に遇ひ同二年再建す。もと那須太郎資光の臣奥野又三郎近重、遊行初祖一遍上人に從ひ剃髮受戒して全海と號し、弘安三年庵を前庫室と稱せしを其後他阿上人之を開創して一寺とす。

オーチ 大内(おほち)

【大内】 伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に伊賀郡大内郷あり。於保知と讀むべし。地は今の名賀郡依那古村及び阿山郡花之木村・城南村等に當るものの如し。神鳳抄に伊賀郡大内御園、准后伊實記に大内郷十五保と見ゆ。中世は大内東莊・大内西莊に分る。東莊は建仁中、最勝金剛院領なりしが、後鳥白道家領に歸し、建長中、春日唯會料に寄附せられたり。西莊の名は書に見えねど、建武の文書に大内莊西方地頭の語あれば、東莊に對して必ず西莊ありしものなるべし。匡遠宿禰記裏書「當莊年貢事、一向無沙汰、云云、太不可然、雖訴決謀所廻、大内莊西方地頭、右當莊所務、并年貢事、奉掌申狀如此、何樣事哉、早帶文書正文、可令參對之狀如件、建武元年二月二十二日」

【大内】 丹後國(京都府)の古地名。和名抄に加佐郡大内郷あり。中世大内莊と稱す。いま加佐郡舞鶴町の大字に大内あり。郷名の遺稱とす。されば本郷の所在は凡そ此邊に當る。傳風土記によれば昔僧計・弘計の二王醫を遁れて此處にあり、丹波國造稻種命が宮を造りて之に奉仕せし故に、大内郷の名起るといふも、妄說取るに足らず。

【大内峠】 樽峠(たるとうげ)にも作る。京都府與謝郡岩瀧村と中郡三重村の境界に跨る。岩瀧村より中郡峰山町に通ずる道路に當る。高度約二〇〇米。天ノ橋立の西方に位し、北方の成相山(五六九米)の天ノ橋立を縱に見る登觀に對して天ノ橋立を横に展望するを以て其の眺最佳なりと稱せらる。俗に「樽峠の股のぞき」と稱す。

【大内(郡)】 讃岐國(香川縣)の古郡名。讃岐國の東端を占め、東南は阿波國板野郡に隣り、西は寒川郡及び阿波國阿波郡と界し北は瀨戸内海に臨む。郡名は延喜式に初めて見ゆ。和名抄は於布知と讀じ、引田・白鳥・入野・與泰の四郷を領く。孝靈天皇の皇女倭迹迹日百襲姬命本郡水主村(いま擊水村の大字)に薨せられ、土人その宮居を大内と呼びしより郡名起ると傳ふ。明治三十二年寒川郡と合し大川郡を建つ。續紀・承和十年の條に「又讃岐國大内郡小郡。只有領帳。領則領入京。帳猶留國。整務非當。移稱先人從公。加之。郷戸田數。既殖下郡。故小郡之下。加領一員」とあり。

【大内】 大分縣東國東郡にありし村。昭和八年四月本村及び蓮見郡祚樂町を廢し新たに蓮見郡祚樂町を置く。

オーチ 大市(おほち)

【大市】 →太市村(兵庫縣揖保郡)

【大市】 大和國(奈良縣)の古地名。今、北葛城郡葛尾町の邊に當る。崇神紀・十年「(大物主神之妻)倭迹迹日百襲姬命……薨、乃葬之於大市」

【大市】 備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に窪屋郡大市郷あり。於布知と讀ず。姓氏錄、大市首は任那人都怒賀阿羅斯止の子孫にて三代實錄元慶五年の條に窪屋郡の人大市貞繼とあるは其裔なり。のち大市莊となり、元應元年の記文に莊名見え、日吉社領とす。地は今の倉敷市の邊なるべし。三代實錄・元慶五年の條「太政官奏……備中國窪屋郡人眞髮部成道、故之殺大市貞繼、檢非違使覆案……當之新注進、備中國大市莊、大宮侍所臺盤斜所、地頭押妨、年貢減、有名無實、後白河院御寄附、綱宣使貞知行」

オーチ 大治(おほち) 陸奥國(岩手縣)にありし牧場。今の稗貫郡花巻町と和賀郡鬼柳村の間邊にありしもの。一日玉鉾・一「大治牧　陸奥の大治の駒も野かふには荒こそまされなつく物かは」

オーチ 邑知・邑智(おちと)

【邑知】 羽後國(秋田縣)の古地名。和名抄に出羽國河邊郡邑知郷あり、同書は調を闕くも於不智とよむべし。今の由利郡上川大内村・下川大内村の地なるべし。現名の川大内は郷名の轉訛せしもの、能登邑知の移民の居りし所といふ。

【邑知】 羽後國(秋田縣)の古地名。和名抄に出羽國平鹿郡邑知郷あり、その調を闕くも於不智と讀むべきならん。今何れの地なるか詳ならず、或は本郡の西北部雄物川の兩岸に亘る沼館町・大森町・阿氣村の邊か。雄物川は御物に作り、雄物は古へ貢毛知と調ずれば邑知とその音似たれば郷名より轉訛せるものかといふも確かならず。また此郷は能登國邑知郷の移民の住みし所なりといふ。

【邑知村】 石川縣能登國羽咋郡の中部。西は羽咋町に近くその間に富永村を隔て南は志雄町に隣り、東は富山縣氷見郡藤石村・熊無村と界し、東北は鹿島郡餘喜村に接し、西北邑知湖に臨む。東半部は高き二百米内外の臺地狀の丘陵なるも、ほぼ西半部は所謂邑知地溝帶の西部に當り土地低平にして水田甚だよく拓け米を多產し、蔬もまた少からず。七尾街道は西南より東北に、羽咋・氷見間の道路は略東西に通じ、省線七尾線の羽咋驛へはバス

の便あり。此地は和名抄羽咋郡邑知鄕の内なり。邑知鄕は中世二院（羽咋正院・邑知（智）院）二莊（志雄莊・菅原莊）五保（粟ノ保・大田富永保・尾長保・志々見保・若部保）に分る。邑智院は田數目錄によれば、承久元年の檢注に、田二十町五段二あり、また公文職は、始め三十町ありしが、承久二年の檢注には一町となれり。而して、鄕域は富永村・南邑知村・中邑知村・北邑知村・若部村等に亘れり。本村は卽ち昭和八年北邑知村・中邑知村・若部村の舊三村の合し新置せるもの。大字福水の福水城は弘治三年、温井備中、三宅備後等が降せしところなり。また天正七年、長連龍は温井・三宅等を伐たんとて此地に來り同十一・二年頃まで居城せしが、のち德丸城に移るといふ。田數目錄「邑智院、貳拾町五段貳、承久元年檢注定、同莊內、公文職壹町、（本は三十町）承久二年檢注定、蓮池左近監」【豐財院】大字白瀨にあり。曹洞宗。また般若寺・白狐林寺とも稱す。洞門の太祖瑩山紹瑾の創建に係ると云ふ。中古、兵亂のため廢滅せしも延寶七年に僧恕通これを再興す。本尊は地藏菩薩。境內に般若堂ありて、木造十一面觀音立像・同聖觀音立像及び同馬頭觀世音立像を安置す、三體とも同一作者の手に成る一木彫成の優作にして藤原初期のものと認められ、殊に馬頭觀世音は其相貌の奇なるを以て著聞す。三體共に國寶に指定さる。他に恕通の徒月潤が血書せしと傳ふる大般若經六百卷、及び三佛尊像等を藏す。

【邑知潟】 石川縣羽咋・鹿島二郡に跨る潟。卽ち能登半島の根本に橫はる邑知潟地溝帶中に濫ふ。一に千路潟または菱浦といふ。長澤川・飯山川之に注ぎ、餘水は羽咋川となり、子浦川と合して海に入る。成因は地溝帶の出口を砂丘に依りて堰止められしもの。海拔、湖岸一〇・一粁、面積四・七五平方粁、深度一・九米。淡水湖にして鮒・公魚・鰻を產し一ヘクタール當りの生產力の多きことは日本有數のものなり。［とき］指定天然記念物。東亞特產の著名なる鳥にして、往時は本邦各地に分布せしも維新後漸く其數を減じ、現時は僅に當潟畔の一部及び新潟縣佐渡島に棲息するのみなり。

【邑智】 河內國（大阪府）の古地名。和名抄に澁川郡の邑智鄕あり。於保知と訓み名義は大市の義か。地は今の中河內郡巽村及び長瀨村の邊に當り、巽村大字大地は鄕名の遺稱なるべし。中世は大地莊に作る。莊號は延久四年の官牒に見え、石淸水八幡宮寺領三十四所の一なり。

【邑智】 播磨風土記に見ゆる驛家。→太市村（兵庫縣揖保郡）

【邑智郡】 島根縣十三郡の一。石見國の東北部にて、縣の略中部に位す。西は那賀郡に、北は邇摩郡に、東北は出雲國飯石郡に隣り、東南は廣島縣比婆郡に、南は同縣高田・山縣二郡に界す。東西約四〇粁、南北約三二粁、面積九九二方粁、縣の一四・五%を占め諸郡中の首位に居るも人口は約七・六%にて、その密度も稀薄にて諸郡中の最下位を占むる鹿足郡に優るのみ（昭和十年調査）。中國山脈の主軸は東南境より南境に連り三國山・唐代山・阿佐山（一二一八米）等を起し、幾多の支脈西方または西北方に延び郡內所所に五—七百米級の山峰をなす。江ノ川廣島縣より來りてこれら山脈の間を縫ひ初めは東部を北流し、次いで西南に向ひまた西方に屈し那賀郡に出で日本海に注ぐ。江ノ川とこれに合する出羽・矢上等の小支流に沿ひて所々に小平地ある外は殆んど山地をなす。農產に米・麥を主として雜穀・甘藷・繭・大麻等、林產に木炭・薪材、工產に和紙製抄等あり。交通は不便なりしも近時省線三江線は山陰本線石見江津驛より分岐して江ノ川に沿ひ郡の東北部濱原村まで開通し（昭和十二年）那賀郡濱田町より郡の西南部を走りて廣島市に至る縣道上には省營廣濱線のベスの運轉行はれ、また三江線川本驛（川本町內）より南は廣島縣高田郡上甲立へ、北は邇摩郡大森町へもベス往來して大にその面目を一新せり。建郡の期不明なるも、延喜式に邑知郡の名あり。和名抄も邑知に作り於保知と訓じ、神稻・邑美・櫻井・都賀・佐波の五鄕を置く。邑知は蓋し大市の義か。江戸時代に至り、邑知・邑智兩樣に作りしが、明治以後邑智に作れるなり。

オーチ　相知町　佐賀縣肥前國東松浦郡の南部。唐津市の南方約十二粁、小城町の西北約二十粁を隔つ。北は久里村、東は嚴木村に隣り、西北は北波多村に接し、西南は西松浦郡大川村に界す。地西北より東南に長く面積約六八方粁にて、南・西境と東界に山地ありて中部と西北部の低地に傾斜し松浦川は大川村より西北部の低地に入り北流して唐津灣に注ぐ。その沿岸と中部を西北流する支流に沿ひて小低地ありて耕地拓け、米・麥・繭等の農產を出す。また相知炭礦ありて石炭を產す。河流に沿ひて縣道通じ省線唐津線は東南より西北に走りて相知驛（明治三十二年設置）を置き、炭礦へはこゝより引込線あり。相知實科高等女學校あり。此地は和名抄、松浦郡生佐鄕の內なるべく、中世嵯峨源氏なる松浦氏の族相知氏の居りし所。江戸時代は唐津藩に屬す。昭和十年九月町制を施く。［鵜戸窟］大字相知字和田山の高さ約二五〇米の丘陵の中腹にあり。丘は第三紀砂岩より成り、南方に水蝕作用によりて生ぜし二個の洞窟あり、其西方の窟內と東方丘陵斜面とに大小五十四の磨崖石佛あり。其中の主なるものは釋迦坐像（座高二尺四寸、肩巾一尺四寸、顏長八寸、顏巾七寸五分、蓮臺一尺五寸）、多聞天（身長七尺二寸、肩巾二尺四寸、腰巾二尺四寸、顏長九寸、顏巾九寸）、持國天（身長六尺二寸、肩

巾一尺九寸、顏長一尺二寸、顏巾九寸）等にて朱と群青の着色はやゝ褪せたるも今尙ほ明かに見る事を得。其他の佛像の最大なるは身長七尺六寸、最小坐像は身長一尺三寸にて、又凡て同時代のものとは限らず、其古きものは朝鮮の石像に酷似せるものあり、また豐後鶴崎の石佛に似たるものある等より見れば、朝鮮交通の順路に當りし關係上、同一系統に屬せるものならんといふ。もと空海の開基と稱する平等寺ありしと傳へ、緣起には平城天皇の御宇大同元年、空海唐より歸朝の際、日向國鵜戸窟を移して參籠し、洞窟內に自から佛像を刻めりといふ。［妙音寺］大字相知にあり。曹洞宗。瑞松山と號す。觀應二年の草創、開山は湛然和尙、開基は築地孫四郎入道昌正。當初は寺勢盛んなりしが其後漸次衰廢し、享祿二年勝山和尙來錫し波多壹岐守源盛を大旦那として堂宇を再建、爾來法燈連綿として今に至る。本尊、聖觀音。［相知炭坑］本邦重要炭山の一。佐賀縣東松浦郡相知町外一村に跨がり、唐津炭田の一部を成す。省線唐津線相知驛を去る西方一粁餘、引込線を以て之に聯絡し相知炭坑驛（明治三十八年設置）を設く。岸嶽山地の東麓丘陵地帶に在り。炭層は主として花崗岩結晶片岩等を不整合に被覆せる古第三紀層中のものにして、始新統上部乃至漸新統下部と認めらるゝ相知層群中に挾まる。本層群は下部を嚴木層と稱し、灰色乃至暗灰色頁岩と綠色砂岩の互層より成り、上部を芳ノ谷層と稱し、白色砂岩と灰色頁岩の互層より成る。炭層はこれら双方に挾まれ、十數層あれども、本炭坑附近にては嚴木層中のものは炭質頁岩に化し、芳ノ谷層中の厚さ一・七乃至二米及び一・二乃至一・七米の二層のみを主とし、通常それ〴〵五尺炭及び三尺炭と稱せらる。粘結性の瀝青炭にて、製鐵用・汽罐用の外、骸炭製造に適す。本炭坑の發見の歷史は不明なれども、其露頭部は可なり古くより採掘せらる。大規模の採掘の開始せられたるは明治二十九年の堅坑開鑿以後にして、同三十三年三菱合資會社の經營に歸し、同四十年頃には年產凡そ一六萬瓲、隣接芳ノ谷炭坑に亞いで、唐津炭田第二の產額を示せり。その後同坑と合併せられ、相知芳谷炭坑と稱せられ、大正十年には六七萬瓲、同十四年には五五萬瓲を產し、依然佐賀縣第一の大炭坑たりしが、その後次第に產額を減じ、昭和五年には三六萬瓲、同九年には僅かに三・一萬瓲（約二二萬圓）となり、佐賀縣唐津炭田中、杵島・岩屋・新屋敷・向山諸炭坑に亞ぐに至れり。

オーチ　會地村　長野縣信濃國下伊那郡の西部。飯田市の西南約十粁。東北は山本、南は伍和、西は智里、西北は清內路村なり。高度六—七百米の臺地狀の山地にして天龍川に入る阿知川南部を東南に貫流しその谷と東北部に低地ありて養蠶盛に行はれ、米・麥をも產す。三州街道この低地に沿ひて東北より西方に通ずるも交通便利ならず。この地は和名抄、伊那郡輔衆鄕の地なるか。もと駒場村・春日村の二村に分れしが町村制施行の際合併し會地村と名づく。古くは阿智驛、後世駒場と稱せらる。中世には會地關（一に桿關）を設けし處にて、歌枕としても著はれ名寄に「信濃路や逆ふ心はありながらさもこそあふちの關のきびしき　知家」とあり。村名は關名より出づ。上世、日本武尊此地を經て美濃に赴き給ひしと稱し、又幕末に水戸の義士武田耕雲齋等の一行西上の途次、飯田を經て本村に至り一泊せりといふ。村內に逢來の關・伊那の驛屋等の史蹟、千人塚・狐塚等の名勝あり。大字駒場に宮崎氏の陣屋址あり、宮崎氏は伊那侍の一家にして慶長年中、宮崎筑後守忠政、食邑三千石を賜はり此地に住して陣屋を置き、子孫は江戸幕府の代官を勤ねしが貞享年中亡ぶ。本朝醉菩提全傳「保屋の宿に招かれて、會地關の嚴しきも、問もうかがふ諏訪湖」「安布知神社」大字駒場に鎭座。鄕社。祭神、天思兼命、譽田別命、須佐男尊。創立年代を詳かにせざるも地方の古社にして、もと新羅明神と號す。江戸時代には德川將軍家より十石の朱印領を安堵せられし外、飯田藩主堀氏等の尊信を受け、又附近一帶の尊崇篤きものあり。［廣拯院］最澄東國巡化の際、信濃・美濃の境に在る峠に店なく旅人を惱ますを知り、美濃側に廣濟院を信濃側に廣拯院を設け行人を援く。其の遺址は駒場の長岳寺と稱せらる。長岳寺は朱印領八石を賜はりし寺。

オーチョー　大長　廣島縣安藝國豐田郡の南端。

【大長村】 大崎下島の東部を占め、西は久友村に界し、東南部に御手洗町を擁し、東は狹き海峽を隔てて愛媛縣越智郡關前村の主部をなす岡村島に對し、北は大崎上島の南端を占むる大崎南村を望む。西境に最高約四五〇米の高きを有する丘陵連亙し東方に傾斜し、海濱に沿ひ僅に低地ある外全村概ね丘陵地なり。丘陵の最高處も開拓され農家は總戸數七五四戸中の五八五戸の多きを占め漁戸は僅に三十四戸に過ぎず。謂ゆる大長蜜柑の本場にて柑橘類の年產額八〇萬圓以上に及び柑橘栽培にては我國有數の村たり。其他桃・枇杷等の果樹も少からず。近時蜜柑の罐詰工業も急速に發達し縣下第一と稱せられ多くは海外に輸出せらる。尾道・廣島・今治三市間航路の要路に當り、海上交通の便良好にて每日往復の定期航海あり、また岡村島へも渡船の便あり。寬永四年松山城主中務大輔忠知・外池備中守正輔共著の伊豫漫遊記に據れば神武天皇御東征の砌その軍船を大崎下島に留めさせ給へり。この地附近の部落に王濱・帝・供白等の名あるはその名殘なるべしとあり。また

には古代古墳は王朝の王宮村と称し古墳にて、大谷下の古墳は王朝の王宮村と称しのち大谷村に改め、慶長年間現村名に改称せられる。

【大宮尚】 旗尚藩藩田藩大谷下尚の古称。

オーチミー 庄内面 庄内面は、明治以後、川南村・大谷下尚・大谷村・大谷下尚・大谷村・大谷下尚・大谷

の墾地となる。天正十三年豊臣秀吉坂本城を潰して此處に移し淺井長政を城主となす。長政命により從來十六艘なりし大津船を百艘に增し閻上運航の便を圖る。これ所謂大津百艘船の始なり。其後京極高次城主となり關ヶ原役には東軍に通じたりしが慶長六年城を膳所に移し大津を東海道五十三次の宿驛に列す。元和三年徳川幕府の直轄地とし代官所を置き傳馬所を設けて人馬觸立のことを辦ぜしむ。かくて幕府を始め彦根・郡山・淀・加賀・若狭等諸大名の蔵屋敷設置せられ、米穀集散の地となり市況益々繁榮す。明治二十二年大津町となり同三十一年市制を布き、昭和七年滋賀村を堅八年膳所町・石山町を併合して現狀の如く市域を擴大し人口も次第に增加して七一〇六三（昭和十年）となる。此地は古くより歌枕として知られ、大津絵・大津里等として歌に詠ぜられ賀・紅葉・津・濱・宮・長等山などの名所なり。萬葉・二「天數ふ大津の子か逢ひし日におほに見しかは今そ悔しき人麿」同・三「吾か命し眞幸くあらはまたも見む志賀の大津に寄する白浪 穂積朝臣」拾玉「心からおほつのさとのゆふけふりあきのかすみになかめわひつつ 慈圓」御所櫻堀川夜討・一「夜は旅行の跡絶えて、人音まれに栗田口、木々の梢も若葉も、名殘の霜に照り添ひて、蛩が懐物凄く、星の光も曇る夜の、あやなき道をのつきのつさ歩み來るは大津の町」里見八犬傳・九ノ二九「この餘坂本大津にも新關あり て、其間遠からず這三關のごとく相構へて、相共に輔助けて、もて非常を警めんとす」〔大津宮〕天智天皇の皇居。淡海大津宮・志賀大津宮ともいふ。宮址は舊滋賀村、いまの錦織町・南滋賀町及び滋賀里町の内なるんも的確なる地點については未だ諸說の一致を見ず。天智天皇六年三月此處に都を營め給ふ。當時人民遷都を好まずして之を諷諫する者多し。遷都後二年にして天皇の八年十月、新京の大蔵省燒け、十年にも再び大蔵省燒けて、遂に宮城全部烏有に歸す。その翌月、天皇崩御、次いで弘文天皇立ち給ひしも、引續き壬申の亂起りて近江朝廷の軍敗れ、大津京は全く荒廢に歸す。萬葉・一「玉襷 畝火の山の 橿原の 日知の御代ゆ 生れましし 神のことこと 樹の木の いやつぎつぎに 天の下 知ろしめししを 天にみつ 倭を置きて あをによし 奈良山を越え いかさまに おもほしめせか 天離る 鄙にはあれと 石走る 淡海の國の ささなみの 大津の宮に 天の下 知ろしめしけむ 天皇の神の尊の 大宮は……」〔長等山前陵〕別所町南郡處にあり。弘文天皇の御陵。天皇は御即位の翌年近江山前に崩ぜられしが、舊書歴代中に加へ奉らず、明治三年に至り弘文天皇と追誌、歴代に加へ奉る。探陵多年、明治十年現所に御治定。〔大津城〕城址は市内荒代官所址に當るといふ。天正十三年羽柴秀吉、嘗て織田信長が比叡山を攻むるに當り、坂本濱に築ける坂本城を潰して此地に移す。淺井長政城主たり。十五年長政秀吉の命を受け、當時大津にある船十六隻なりしを百艘となし船主に命じて東國及び北國の諸侯通航の便に供せしむ。天正十八年京極高次城主となる。慶長五年高次東軍に應じ籠城の守を固め手兵三千五百を以て毛利輝元等の三萬の大軍を邀へ戰ふこと三日三夜、西軍丘陵に砲列を敷きて盛んに砲撃し天守閣二層を破壊す。途に支ふ可からず。高次曾興山の役ひより西軍と和議を結び人質を交へ開城して圍城寺に退き、次いで高野山に隱る。後、關ヶ原の捷報を聞き大いに悔いしが、家康「子孫を位置の際にあげ、授なきを知りて孤城を敵中に守る、其義既に烈なり」となしてこれを敬して若狭小濱城に移し大津城を戸田左門一西に與ふ。六年、城を膳所濱に移す。これ即ち膳所城なり。〔膳所城〕慶長六年徳川氏諸侯に命じ大津城を此地に移築せしめたるものなり。近江輿地志略に「この城栗津の膳所崎にあり、大津口勢多口に門を構へ、中間を膳所城下といふ。西に相坂の險路あり、東に勢多の大河、後は湖水なり、軍塁者逸の所謂後堅固の城なり」とあるが如く京都に對する抑へとしての要衝なり。本丸は湖中に突き出で壘壁樓塔の雄麥を波濤に浸し所謂「瀬田の長橋唐金擬寶珠、水に映るは膳所の城」と湖上往來の旅客にその光景を賞讃せられしもの。最初の城主は戸田左門一西なり。子氏鐵の時、元和二年攝津尼ヶ崎に移り、本多康俊を此處に封ぜられ、子俊次に至りて三河西尾に轉じ、菅沼定芳來りて治し、寛永十一年定芳丹波亀山城に轉じ、石川忠總來りて封をうけ、慶安四年伊勢亀山に移り俊次また此地に轉封し、翌來本多氏歴世相承けて明治に至る。城は明治三年取毀され、その城門は閉近の篠津神社・膳所神社・眼崎神社等に移建され、何れも國寶に指定さる。また膳所城址の南一帶を御殿ヶ濱と稱し、對岸の近江富士湖南連峯を一眸の内に望み景致掬すべく、夏季水浴場として賑ふ。〔膳所神社〕膳所本町に鎮座。縣社。祭神、豊受比賣命。創立年代不詳なるも地方の古社にて、もと此の地方は栗津御厨の一部に屬して、内侍所及び日吉祭に生魚を進納する慣習ありし故に、蓋しその守護神として御食津神を奉齋せしものならん。もと城内にありしが、築城の際に城外に遷祀せられしと言ふ。膳所城主累代の崇敬篤く、社殿の造營・修理、社領・神輿・太刀等の寄進、社參、代參等のことあり。社殿中、表門はもと膳所城の城門にて慶長年間の造營といはれ國寶に指定せらる。〔篠津神社〕膳所町中庄に鎮座。縣社。祭神、素戔嗚命。創建年代不詳なるも口碑に往古大梵天王と號し、木下村の田畑中に遙向あり

しを、のち現地に奉遷すと云ふ。爾後、世々の領主國司の崇敬篤く社領等を寄進す。大正十一年十月村社より縣社に昇格す。社殿には本殿・拜殿・表門等を具へ、殊に表門（高麗門、屋根本瓦葺）は舊膳所城の城門にして慶長年間の建築に係るもの、現に國寶に指定せらる。例祭五月三日。〔天孫神社〕四宮町に鎮座。縣社。祭神、彦火々出見尊・大名牟遅神・國常立尊・帶中津彦天皇。舊稱を古津鎮護神・武蔵野關神社・四宮神社と云ふ。當市に於ける名社なり。明治十五年八月郷社にのち縣社に進む。例祭、十月十日。古來より大津祭と云ひて、其祭儀は盛況を極む。今なほ錦綾の裝飾燦爛たる幾多の山車、絵物などを曳き甚だ壮觀なりと。なほ例年日吉神社より大鳥を迎ふることあり、その起原は往古日吉の大神、琴ノ御館宇志麿に勅して、今より以降吾れ鳥に乗りて行幸すべしと即せられしに基くと云ふ。〔長等神社〕神出に鎮座。縣社。祭神、健速須佐之男大神・三尾大神・八幡大神・大山咋大神・市杵島姫命。天智天皇御宇、長等岩倉谷に奉祀せしに創まり、のち園城寺山内に遷座す。文徳天皇天安二年に僧圓珍（智證大師）、大山祇神を合祀し新たに社殿を建て山王大明神と稱せり。天喜二年、神託に依り大僧正明尊園城寺より現社地に遷し新宮大權現または日吉社と云ふ。建保二年四月社殿燒亡せしも同年五月鎌倉幕府の命により再興す。後醍醐天皇延元元年正月、兵燹に罹り社殿悉く燒失し、神器・古文書等の多くを烏有に歸せしも、興國年間に至り足利氏社殿を再建して舊觀に復す。明治十五年六月長等神社と改稱し、翌年九月郷社に列し同四十二年十二月縣社に昇格す。例祭、五月五日。〔三尾神社〕別所に鎮座。縣社。祭神、伊非諸尊。此地は伊非諸尊降臨の地と傳ふ。俗、常に三腰帶を著け、その色は赤・白・黒にして形三尾を曳けるが如く、因つて三尾明神と稱せしと云ふ。三腰帶の化して三神となり、一を赤尾神、二を白尾神、三を黒尾神と云ひ分れて三所に現る。故中、赤尾神を以て本神とし、始め三井寺山内琴谷に鎮座せりと。貞觀元年に智證大師當社の社殿を再建し神像を刻して安置すと云ふ。のち足利尊氏社殿を修理して朱印地を寄す。豊臣・徳川の二氏亦これに準ぜり。明治九年五月、赤尾神を現地に奉遷し同十二年に黒尾神をも合祀す。同十四年郷社に同四十三年縣社に昇格す。例祭五月八日。〔鯛蟬丸神社〕郷社。上下二社より成り、上社は上片原町にあり て鎮田彦命及び蟬丸を、下社は清水町にありて豊玉姫命及び蟬丸を祀る。創立年代を詳かにせざるも、地方の古社にして逢坂山に於ける關の明神を祀り、土地との緣故密接なるに加へ、また三井寺門主の篤き崇敬を受く。且つ昔曲藝道の祖神として一般に知られる。例祭、五月二十四日。〔平野神社〕松本に鎮座。郷社。祭神、大鷦鷯命・瀧田彦命。創建は天武天皇の白鳳三年正月となす。社傳に據れば、仁明天皇の承和年中に靜安律師の比良山に最勝寺を草創するや當神を以て護法の神とすと。村上天皇の御宇、大内に鞍鞠の事あるや當祭神瀧田彦大神を崇め鞠の精靈となし、精大明神と號して鞠の御會あるごとに奉幣ありき。のち飛鳥井家歴世社參の事ありて和歌及び祭祀料を納むるを例とす。社寶中、瀧田彦命像一軀（木造）は藤原末期の作にして國寶。例祭、五月七日。〔石座神社〕膳所町錦に鎮座。村社。祭神、天智天皇・弘文天皇・伊賀采女宅子媛・豊玉昆古命・彦坐王命。光仁天皇の寶龜四年十二月正一位勳一等の神階を贈り鎮護國家の神と定めらる。慶長五年八月、關ヶ原役起るや大阪方の大軍社城に屯し敗するに及び社頭に火を放ち本殿一棟を殘し悉く灰燼に歸し、上古より傳はれる古器・古文書を焼亡す。社寶中、天智天皇坐像一軀・弘文天皇坐像一軀・伊賀采女宅子媛像一軀・豊玉昆古命坐像一軀は國寶に列し、何れも木造にして藤原初期の作なり。〔和田神社〕膳所町に鎮座。村社。祭神、高靈神。白鳳四年五月の勸請に係ると傳ふれども中世に古記散逸して沿革を詳にするを得ず。本殿は一間社流造、屋根銅板葺にして前流長く伸び、珍奇の形態を備へ、細部の手法は醍醐三寶院唐門と規を一にし、桃山時代の造構として國寶建造物に指定せらる。例祭五月三日。〔新羅善神堂〕園城寺の北約一粁半。園城寺五社鎮守の一にして新羅明神を祀る。貞觀十七年智證大師これを勸請し、延喜三年足利尊氏これを再建す。堂はよく鎌倉末期並に室町時代初期の特徴を發揮し、いま國寶建造物たり。往時源頼義の三男義光この祠前に冠し新羅三郎と稱せること有名なり。西南の丘上にその墓あり。〔安養寺〕上園寺町にあり。眞宗本願寺派。智証大師の開創と傳へ、明暦年中に靈跡これを再興す。境内に觀音堂あり、本尊の觀音菩薩は一に立聞觀音と稱し、往古、鉢丸の琵琶彈奏を立聞きせしより此名ありと傳ふ。堂内安置の木造阿彌陀如來坐像一軀は國寶。もと園寺の本尊なりと傳へ、藤原末期像像彫刻の特徴を示す。〔石山寺〕石山の山腹登勝の地にあり。眞言宗東寺派。石光山と號す。東大寺の大佛造立の時、それに捧ぐる黄金を得る爲、聖武天皇良辨に勅して聖徳太子の持佛と稱する二臂如意輪觀世音を石山に安置し祈願せしめ給ふに始まり、奥州より黄金の出づるに及びて丈六の大觀像を造り、其中にさきの觀音像を藏め、堂宇は半讃天皇の天平寶宇五年より六年にかけて建立せり。その後宇多法皇行幸されて以來、平安朝を通じ皇室の信仰益々厚く、行幸行啓相接ぎ、貴族並に庶民も頻りに參詣し、これを石山詣と稱し一種の風をなせり。寛

三條院の如きは五度までも御輦を運ばせられ、和泉式部・赤染衛門の如き歌人も參籠して文藻をのべ、また紫式部が源氏物語遙作の祈願をなせるなど幾多の風流韻事を傳ふ。永曆二年火災のため伽藍全燒に歸せしが、建久年間頼朝これを再興し、建武年中には寺領一萬二千石ありしといふ。天正の頃再び廢頽に赴きしが淀君寺領を附し堂宇を修め、のち徳川氏も亦慶長十八年寺領を附して崇敬の誠を表せり。主なる建築は觀音堂・多寶塔・鐘楼・東大門等にして、夫々國寶建造物たり。境中、多寶塔は鎌倉時代の遺物にて我國多寶塔中の代表的なるもの。本堂の傍に紫式部が源氏物語を著作せりと稱せらる源氏の間あり。また寺寶には國寶類る多く、其主なるは多くの佛像の外「石山寺縁起」「佛涅槃圖」「源氏物語」「史記」「漢書」「左傳」等にして特に文晁筆石山寺縁起は我國の佛刹繪詞傳中の白眉なり。佛像は觀世音菩薩立像(金銅製、高約二尺三寸、白鳳時代)・毘沙門天像(木造、高約三尺五寸、藤原時代)・大日如來坐像(木造、高約三尺、鎌倉時代)等。石山の名は境内にある硅灰岩より成る一大奇觀より起れるもの。この岩石は花崗岩と石灰岩の接觸により生ぜしものにて、いま天然記念物に指定さる。西國三十三所の第十三番の札所。御詠歌「後の世を願ふ心はかろくともほとけの誓ひ重き石山」〔岩間寺〕石山町内畑にあり。眞言宗醍醐派。岩間山正法寺と號す。西國三十三ヶ所第十二番札所にして現に醍醐寺理性院に屬す。養老六年元正天皇の勅を奉じ僧泰澄の開創と傳ふ。續古事談「越の小大徳と云ふ行ひ人、十二年間行を修する所なり、日本第三の靈驗所とぞ、一は熊野、二は金峯山なり、此大徳を泰澄法師とも云ふ、又金鉢法師と云ふ、越後古志郡の人なり、白山に行ひて次に此處に來れり、一隙手半の金銅の千手觀音を本尊にて身を離たず戴きまつりけると、此所の宋中の方に桂木のありけるを切て自身等身の千手觀音を作り、此金銅の佛を籠たてまつりて置之也」とあり。本尊の千手觀音は俗に汗かき觀音・雷除觀音と稱す。寺寶中、木造地藏菩薩立像一軀及び同不動明王二童子立像三軀は國寶。寺内には雷井戸・芭蕉塔あり。〔榮泉寺〕金澤町にあり。眞宗大谷派。俗稱瓦寺。古昔、大津に宋だ瓦葺の家なき頃獨り當寺のみ瓦葺なりし故かく稱せしと傳ふ。〔縁心寺〕膳所町錦にあり。梅香山と號す。慶長七年城主酒井忠次(縁崇公)の建立に係る。開基は洪譽上人。初め三州吉田にありしが、元和三年吉命に依りて縁崇公封を此地に受けし時、寺も亦共に移る。境内に同家累世の墓並に戸田氏(大垣藩主)の墓あり。〔圓福院〕膳所町中庄にあり。天台宗。元祿十二年、僧空性の中興に係る。當時は禪宗なりしが後に現宗に轉じ、現に延暦寺中法曼院末たり。寺寶中、安阿彌作なる木造釋迦如來坐像一軀は國寶。高さ一尺八寸六分、胎内銘に建久八年十月十二日とあり。その作風は京都千本釋迦堂本尊に酷似し、謂ゆる安阿彌作佛像の特色なる優麗の風よりも宮實風の强味を有し、眼孔の開き大にして鋭く衣褶のうねり亦嚴如たり。蓋し確證ある安阿彌快慶作として貴重の遺作とすべし。光背また當時の作を傳ふ。〔大津別院〕笹屋町にあり。眞宗大谷派。文祿三年、本願寺教如法燈を襲り慶長五年當地に掛所を建立す。德川家康上洛の際は必ず本院を以てその居館に充てたり。境内地千三百二十坪、本堂・御殿・客殿・輪番所・鐘楼・茶所等の堂宇を具す。門前に教如手植松と稱するものあり。〔華階寺〕葭原町にあり。浄土宗。旭高山と號す。天文九年、西念萬休の開創に係り大津五箇寺の一に列す。萬休は足利義澄の次子と傳へ、その保護厚くして當時の寺域方八町を占めたりと云ふ。天和年間、火災に罹りしが近世堂宇を再建す。曾て藤原秀郷の晩年、佛道に歸して此地に講居し、以て三井園城寺に顯密の法を學びたりと傳へ、いま境内に蓼太月見岩と稱するものあり。〔勸學院〕別所にあり。天台宗寺門派。園城寺(三井寺)塔頭にして三井一山の學窓たり。創立年代不詳なるも其客殿は慶長五年に豐臣秀頼の毛利輝元に命じて造營せしめしものなり。その客殿は國寶建造物にて、方七間、單層、屋根入母屋造、柿葺。間はゆる武家造中の主殿造に屬す。なほ金地著色床間壁貼付遮圍三面・同襖貼附梅檜及び花卉圖四面・同襖貼附檜杉及び花卉圖四面・同戸襖貼附檜及び花卉圖四面等は國寶。〔義仲寺〕馬場町にあり。寿永二年正月その將、今井兼平と主從唯二騎粟津原の露と消えし旭將軍木曾義仲の墓あり。天文二十二年近江國司佐々木高頼、石山寺に詣づる途次、義仲の墓が寒畑藤條の中にあるを見て、源家大將軍の古蹟守るものなくんばあるべからずと稱し、一字を建立し、義仲寺と名付けしもの。また俳人芭蕉が此處に庵室を設けて湖上の風景を愛でしと云ふ無名庵、遺言によりその門人達が遺骸を堀葬したる芭蕉窟あり。「木曾殿と背中合せの寒さかな」の句碑を始め大小の句碑多し。〔幻案寺〕東浦町にあり。浄土宗。永祿十年西念上人の開基。上人初め當地に來りて華階院を創せしも晩年當寺を建立し老を養ふ。法然上人自作像並に遺骨を安んず。〔乘念寺〕下百石町にあり。浄土宗。天正十六年、信譽の開創に係り古來大津五箇寺の一に列す。境内廣闊にして地藏堂・稲荷堂・稲荷堂あり。寺寶中、木造聖觀音立像一軀は國寶、藤原前期の作にして、後背の柱に貞享三年の修理銘を存す。〔正法寺〕別所にあり。園城寺(三井寺)境内佛堂の一。天台宗寺門派。俗に願禮觀音堂と云ひ、西國三十三所第十四番札所たり。も

と聖願寺または如意輪觀音堂と稱す。延久四年、後三條天皇の勅願に依り當山華谷南方の地に一字を創し聖願寺の勅額を賜ふ。元祿二年再建の工成る、現在の堂宇これなり。明治十一年十月聖寶北陸東海巡幸の砌り此處に行幸あり。境内は鄙邑淵に面し展望佳絶。寺寶中、木造愛染明王坐像一軀は鎌倉期の作にして國寶。觀音講毎月十七日。〔眞常寺〕寺町にあり。日蓮宗。長照山と號す。日祐上人の開基。貞觀元年惡覺大師草堂を大津松本に建立し、大日如來(根本大師作)を安置す。偶ゝ清和天皇行幸の時、觀月の御催あり。天皇則ち勅願所に班し眞常寺照光殿と號し給ふ。日祐上人に至り京の日像上人の教化に服し現宗に改む。〔清德院〕勝所町勝所にあり。浄土宗。捷磨山と號し別稱を長福寺と云ふ。草創年代不詳。初め濱田の地にありしと。慶長年間に德譽これを中興す。天和三年火災に罹りしを以て貞享元年に現地に移りて堂宇を再興し、以て今日に及ぶ。寺内に捷磨堂あり、聖德太子作と傳ふる捷磨木像を安置す。本尊の木造阿彌陀如來坐像一軀は國寶に列す。半丈六像にして藤原期の作。〔鶴寺〕鶴寺町にあり。時宗。本稱長安寺。一に世喜寺ともいひ、もと園城寺の一坊にして、壯大なる伽藍を有し、日本三大佛の一と稱せられしが、一旦荒廢に歸し、惠心、延鎮をしてこれを再建せしむ。寛仁二年純金の彌勒像を鑄造し、治安二年伽藍全く成る。その功を創むるや越中より流れ來れる黒牛が建築材料を曳くに用ひらる。然るに迦葉佛の化身と稱せられたるこの牛は工役を了へて後、御堂を廻ること三回、本尊の前に臥し、後もなくして病みたるを以て、時人の話題に上り、遂に萬壽二年藤原道長を初め、公卿等までも參拜するに至る。その牛は將に死なんとする時になほ三回本堂を廻ると云はる。死後これを本堂の傍に葬りて塔を建て、牛塔、霜牛塔もしくは迦葉塔と呼べり。この鶴寺は本堂・車裡を存し、本堂は明治四十二年鶴寺保勝のため特に建立されしものなり。なほ小野小町が老後この邊に住せしといはれ、昔ては小町庵に二尺餘の百歳の像が安置されたり。〔崇福寺址と梵釋寺址〕滋賀里町・南滋賀町附近には奈良朝時代より平安朝時代に至る古瓦類を發掘し、瓦大なる礎石點在して寺院址と考へらるる處二個所あり、一は南滋賀町の小字正興寺にして他は滋賀里町の西方山腹なり。古文獻に依れば、此の地方に天智天皇の勅願所として造營せられたる崇福寺と、桓武天皇が延暦五年天智天皇御追慕の聖旨により御創建あらせられたる梵釋寺とあり。斯くて大體この二つの大遺址が其の何れかに相當するものなることは學說の一致するところなるも、的確なる區別に付ては未だその斷定を見ず、一般に山中の遺址を以て崇福寺址を傳ふ。又この附近の山林中に志賀の百穴と稱する古墳群あり、この地方一帶より土器・飾瓦・布目瓦等多數發掘せられ、石器・彌生式土器等も亦發掘せられたり。〔大線寺〕神出にあり。曹洞宗。當寺の草創期及び沿革何れも不詳。本縣の大光寺末寺なり。寺寶中、絹本著色十六羅漢像十二幅は國寶。圓は温淳なる古様に則り、相貌また和様風の特色を有し、鎌倉期の作として注目に値する。〔立木寺〕石山町寺邊にあり。浄土宗。立木山と號し別稱を安養寺と云ふ。新西國靈場第二十番札所なり。寺傳に據れば、弘仁六年、空海當地巡錫の砌、白鹿現はれて一樹の前に導き忽ち觀世音に化現するの奇瑞に遭ふ。時に空海四十二歳の厄年に當りたれば、即ち除厄を祈念してその立木を以て等身觀音像を刻み、餘木を以て四天王像及び自像を刻すと云ふ。今なほ世俗これを厄除觀音と稱しその靈驗を唱傳す。珠に四十二歳に達すれば必ず當山に厄除を祈願する風習あり。當寺は立木山南郷の山腹に位置して、前方は濱田の清渓に臨みて景趣に優れ、以て千古不變の靈場たるを思はしむ。〔近松寺〕神出にあり。天台宗寺門派。俗に高觀音と稱し舊三井寺五別所の一。圓珍(智證大師)の開創にして、五大院安然の住坊たり。寺内には往古、教待・教忍・行觀の會集せしと傳ふる松あるに因り近松寺と號すと云ふ。文明年間、本願寺蓮如當寺内に道場を建立して近松山願證寺と號す、今の近松別院これなり。寺域は市の西南逢坂山北尾に位置し眺望甚だ佳なり。いま八詠樓なる一字ありて圓珍作と傳ふる本尊金色千手觀音を安置す。山中に安然石塔婆一基あり、即ち五大院安然の塔所なり。〔近松別院(願證寺)〕南町にあり。眞宗本願寺派。近松山願證寺と號す。寛正六年一月、山門の僧徒、東山大谷の本廟を襲ふや、本願寺八世蓮如自ら親影を率じて此地に來り園城寺塔頭滿德院に隱る。次で文明元年、南別所近松寺内に一字を建立す。即ちこれ當寺の濫觴たり。〔尼藏寺〕別所にあり。天台宗寺門派。園城寺(三井寺)の一支院。圓珍(智證大師)の開創と傳へ、慶祚これを中興して滋賀寺の十一面觀音像を此處に移安すと云ふ。古來土俗の信仰篤く、賽者群沓して往還の際に笠の外るゝ程なれば、時人これを外笠觀音・笠脱の觀音と稱す。寺寶中、木造十一面觀音立像一軀は國寶。間はゆる檀像風の佛像にして像身蓮肉一木彫成、刀法磯駒、著衣に截金文様を施す。天智天皇御念持佛と寺傳するも、弘仁末より藤原初期の作と推知さる。境内に慶祚の墓あり。〔三井寺〕別所にあり。長等山の中腹に位置す。天台宗寺門派。正しくは長等山園城寺と號し專ら三井寺(御井寺)の俗稱を以て著る。また延暦寺を山門と云ふに對し當寺を寺門と稱し、古來京都四大寺の一に數へらる。現に天台宗寺門派總本山にして末寺

六百三十六箇寺、教會所百十八を統ぶ。天武天皇の二年、弘文天皇皇子大友與多王、父天皇の遺詔により奏請して天皇舊御所に寺を建立し御井寺と號し大友氏の氏寺として子孫に傳ふと。朱鳥元年造營の工畢る。御井とは此地の北西に一井泉あり、天智・天武・持統三帝の御產湯に用ひしを以て三井寺の名起ると云ふ。清和天皇の御代に至り大友氏の衰ふと共に寺運衰微せしが、天安二年に圓珍（智證大師）唐土より歸朝の後これを修營し貞觀元年九月工成りて當寺に入り供養す。時に御井寺を三井寺と改む。其意は三天皇浴井の義を採り、また此井水を把て三部灌頂の圓傳となし、遠く慈氏三會の期に至らしむる義を表示すと云ふ。翌二年清和天皇より仁壽殿を賜はり、圓珍將來に係る經籍を之に移す。今の唐院（灌頂堂）は即ち之なり。同六年十二月、大友夜須麿等一族と連署して延曆寺別院とせんことを請ふ、乃ち同八年五月に勅許あり。且つ講讀聞を止め、當山開基なる圓珍を別當職に任じ、俗大別當に大友夜須麿、帝別當に大友黑主、俗權別當に大友主殿を補す、これ別當の嚆矢にして、のち長更と改む。元和元年供水尾天皇より清涼殿の舊材を賜はりて當寺城に移建すこれいまの釋迦堂なり。世々、天皇の御厚志を初め國司領主の寺領寄進に榮え、殊に寛文五年德川家綱の四千六百十九石餘の朱印狀を賜せしは最も大となす。當寺は永曆より文保二年に至る間、山徒の燒却に遭ふこと實に七度に及ぶと云ふ。境內地七萬五千二百六十餘坪、長等山中腹に位置し、近く琵琶湖に面して大津全市を俯瞰すべく、北方に比叡・比良・伊吹の諸峰を展望し風光佳なり。近江八景の一、三井晚鐘として世に聞ゆ。數多き建物のうち、金堂・唐院・圓城寺大門等の國寶を有し、千手觀音像一軀・黃不動尊像一軀を始め寺寶に國寶少からず。なほ當寺內の北院龜岡の地に弘文天皇長等山陵を存し、また御幸山記念碑・村雲橋・燈籠石壇（無名指燈）・新羅三郎義光墓及び本邦美術界の恩人フェノロサ氏の墓あり。五月十六・十七日の千團子祭は寺內護法善神堂の緣日にして當日開帳法會あり、團子一千を獻供す。幼兒息災・安產祈願に靈驗ありとて賽者樂者を絶むと。なほ十月二十九日は大師講（開山忌）とす。西國三十三所の第十四番の札所。

御詠歌ついているや浪間の月は三井寺の鐘の響にあくるみつうみ」（逢坂（相坂）關）逢坂山は市の南方に聳ゆる山。標高三二五米。昔、武內宿彌が忍熊王と交戰の時、此處に出逢へるを以て此名起ると傳ふ。古來、山城・近江兩國の境をなし、孝德天皇大化二年畿內の四土を定め給ふ時、此山を以てその北限とせり。逢坂關は設置の年代を詳かにせざるも桓武天皇の御代に始まるものか。延曆十四年に至り一旦廢せられしが、其後文德天皇天安元年再び國司、健兒をして守らしむ。日本紀略「延曆十四年閏七月己卯、廢近江國相坂剗」文德實錄「天安元年四月庚寅、始置近江國相坂・大石・龍花等三處關剗、分配國司健兒等、鎭守之、唯相坂、是古昔舊關也云々」とあるは即ち夫れなり。伊勢の鈴鹿、美濃の不破と共に三關と呼ばれしが、その廢絕の期及び所在の位置共に詳かならず。舊東海道は山の南の鞍部を通過するが、併し此山の北なる小關越は大津より瀨尾に至る徑路にして、地形より見て之が謂ゆる古關にて東國に至る最古の道なるものゝ如し。されば關址は小關越の邊に求むべきものか。いま省線東海道本線は凡そ舊東海道の下を長き隧道を穿つて山科に至る。その名は枕草子・東關紀行を始め、平安・鎌倉より室町頃の文學に屢〻散見し、謠曲「關寺小町」の寫話、この邊に住みて鈴蟲を需ぎ大津繪の濫觴をなしたりと云ふ。吃の又平の物語、さては「逢坂の關の清水に影見えて今や引くらん望月の駒」紀貫之」「夜をこめて鳥のそらねははかるともよに逢坂の關はゆるさじ」清少納言」「これやこの行くもかへるもわかれてはしるもしらぬも逢坂の關」蟬丸」等の古來多く詩藻に入る。（長等公園）長等山は市の西南に聳え、南は逢坂山、北は比叡山に接す。一に志賀山といひ、古來機の名所として知らる。今この附近は市營の公園となり長等公園と呼ぶ。「さざ波や志賀の都はあれにしを昔ながらの山櫻かな」と平忠度の詠じたる歌は、高崎正風の筆に依り長等山の中腹、櫻ヶ丘に歌碑として存す。（呼次公園）松本の湖岸にあり。此附近一帶は打出濱と稱し、舊幕時代には對岸矢橋への渡船頻繁なりし渡の址なり。名木呼次松の傍に石造の大燈あり、往時湖上航行の目標たりしもの。（圓滿院庭園）圓滿院は圓城寺の本坊。宸殿は慶長年間御所の建物なりしを寛永十八年明正天皇より賜はり、正保四年に此處に移建せるもの。構造樣式桃山時代の特徵を存し、當代に於ける宮室建築を窺ふに貴重なる遺構にて國寶建造物。庭園は宸殿に面し正保四年宸殿移建の時に作庭せられしものと推定せらる。園の前半に池あり後半に築山を設く。池には二個の中島あり、其の東側には石橋を架け池汀に庭石を組む。築山の前面に櫻・松等と多數の躑躅の丸物を植ゑ石塔を配し、後方に椎・檜・杉等の巨樹ありて背景をなし、築山泉水の寺庭として著名なるものなり。いま名勝及び史蹟に指定せらる。（光淨院庭園）光淨院は圓城寺塔頭。嘉吉年間山岡晉廣の創建。客殿は國寶建造物たり。庭園の築造年代明確ならざるも客殿建設の慶長六年頃の作ならんか。客殿の縁下直に池となり、池には中島あり石橋を架く。池の西南方は急傾斜をなせる自然の地形を利用し、此處に杉・松・楓・躑躅等を植ゑ

いま名勝及び史蹟に指定さる。（專法院庭園）築造年代明確ならざるも江戸中期を下らざるものならん。中央に池あり、池には二個の中島を置き石橋と土橋とに依り連絡せらる。池の西北傾斜地には巨大なる庭石を縱橫に用ひ、巧妙なる石組をなす。園の北方と西方とは山麓を利用して針葉樹・闊葉樹の混淆林をなす。庭園に調和せる建築物は現存せざるも、庭園はよく舊態を保存す。いま名勝及び史蹟に指定さる。（茶臼山古墳）膳所本町西南にあり。茶臼山と呼ばる丘陵上に東面して營まれし大規模なる前方後圓墳。長徑一二〇米。その西南約百米の地點には小茶臼山古墳あり。古來この古墳を弘文天皇及びその皇親の御陵にあて、また近江國造粟座王の御墓ならんとの說もあり。いま史蹟に指定さる。（幻住庵址）國分山腹近津尾神社の隣にあり。元祿三年芭蕉翁その門人菅沼曲水の別莊に移り住んで閑雅風流の俳客と吟詠せる處。幻住庵記は翁がその閑寂なる閒園の光景を記せる名文なり。「先たのむ椎の木もあり夏木立　芭蕉」（今井兼平墓）　石山驛近く田園の中にあり。兼平はその主義仲と共に鎌倉の大軍を此地に迎へて孤軍奮戰、終に目覺ましき戰死を遂げたるは謠曲「兼平」に詠ばれて人口に膾炙す。附近に近江八景の一なる粟津の松原あり、往時東海道の松並木にしてその風景雅人の賞するところ。いま附近一帶は工場地帶となり僅に堤上の老松にその俤を偲ぶのみ。「兼平が凝渺々と刈田かな　鬼貫」（フェノロサ墓）三井寺の北方山腹なる洗明院墓地にあり。開山義淵墓の側に立つ五輪塔なり。フェノロサは米人、明治十二年東京帝國大學の招聘によりて來朝し、日本古美術を研究しその眞價を內外人士に紹介し、我が國美術界の振興に貢獻せる人なり。同四十一年に殘し遺言によりロンドンより遺骨を取寄せて此處に葬る。（大津事件）明治二十四年五月十一日大津市に於て、觀光中のロシヤ皇太子（後の露帝ニコライ二世）を、路上警備中の巡査津田三藏が突如佩劍を拔いて後頭部に斬り付けし事件。ロシヤ皇太子は父皇帝よりシベリヤ鐵道の起工式を擧ぐるの命を受け極東巡遊の途に上り、我國にも來朝す、我國では接待懇切を極め、宮中よりは有栖川宮威仁親王を長崎まで出迎へしめ、鹿兒島に廻り、神戸に上陸し、京都大津と觀光を續けらる。大津での遊藝は午後一時過ぎ、人力車にて徐行するところを後方より襲はれしもの。同行のギリシヤ親王ジョージ殿に兩殿下の車夫の機才にて犯人を防ぎ止めしも、頗る危ふかりし災厄なり。傷は二箇所、幸ひに輕傷。當時ロシヤを侵略的の大強國と怖れるたる際とて物情騷然たり。天皇陛下には型早朝御發輦にて御見舞に赴かせ給ひ、皇太子の軍艦御引揚の節は親しく軍馬を共にせられ神戸波止場まで見送らせ給ふ。津田三藏の處分に付いては國議に於て死刑と內決し、個人としても充老伊藤や首相松方・內相西郷等が嗜にこれを以て裁判官に壓迫を加へしも、赤一つにはロシヤの怒を緩和せんとの素心に出でたるものなるべし。大審院長兒島惟謙は刑法に正條なきの故を以て普通の殺人罪に問ひ、政府並に大官の意に反し無期徒刑に處して、獨り法權擁護の美名を謳はる。當時我國の官民が露國帝室の激怒を憂念せるは杞憂となり、六月四日、駐露公使西德二郎より、父皇帝もまた手厚き接待に感謝し、殊に犯人の判決に對しても十分滿足なる旨の電報あるに及び初めて愁眉を開けり。

【大津町】　大阪府和泉國泉北郡の西北部大阪灣岸の町。堺市の西南約八粁、岸和田市の東北約四粁に位す。和泉平野の中部にて樫尾川下流右岸を占め、土地平坦田畑廣く拓く。農產に米・蔬菜品等、沿岸の水產少からざるも、町の主產業は工業特に紡織工業にて絹毛布・絹紗・敷布等の產額多し。紀州街道と社線南海鐵道（電車）本線町の西部をほゞ南北に貫き、後者の大津驛（明治三十年開業）・助松驛（大正三年開業）を設け交通甚だ便なり。古くは和名抄、和泉郡輕部郷に屬し、輕之津と呼ばる。町はもと下條大津及び宇多大津の二ケ村に分れ、宇多大津は舊淸水落に屬し下條大津は伯太及び片桐藩の領地たり。明治十七年二村を合し一戶長役場を置き、同二十二年町村制の實施により大津村となり、大字下條大津・大字宇多大津に分つ。大正四年四月町制を施く。同六年八月隣接の上條村・穴師村と共に一旦大津町を廢し、その區域を以て新に大津町を設置し以て今日に至る。海濱にある松原は古くは大津の松原とよばる。土佐日記には小津に作る。土佐「行けどなほ行きやられぬは妹かうむをつの浦なる岸の松原」（泉穴師神社）大字豐中に鎭座。府社。祭神、天宮貴命・佐古麻想大神外數神。式內社。社記に聖武天皇天平三年疫病流行せるを以て、勅して當社に大祓執行を命ぜらるとあれば、それ以前の創建なるべし。以後毎年二月四日大祓をなし、村民參集して大祓詞を奉ずる例となれりとぞ。社實中、天忍穗耳命坐像一軀（木造）・栲幡千々姫坐像一軀（木造）・女神坐像五軀（木造）等は國寶。例祭、十月五日。（三津寺）　大福院とも稱す。三津寺町にあり。古義眞言宗。攝津發願所收三津八幡宮記に依れば、神龜年間、僧行基この地に八幡菩薩の本地堂を營み彌陀を安置せしに創まると云ふ。寛永年間再興せられ、以て現在に至る。現に本宗傳宗末に屬し准別格寺たり。本尊は行基作十一面觀音。

【大津】　攝津國（大阪府）の古地名。書紀應神天皇の二十二年四月、天皇の妃兄媛吉備國にある父母を慰ひ、天皇の勅許を

得てこれを省するため此港より發船し船ふ。この大津は即ち勝浦津にして今の大阪市の地に當る。※勝浦津

【大津村】兵庫縣播磨國揖保郡の東南端。飾路市の西南界を距る西南約六粁、西は大津茂川によりて網干町に、北は勝原村に接し、東は飾磨郡廣村と界し、南は播磨灘に面す。面積六方粁に滿たざるも全村土地低平、地味よろしく田畑多く米麥を產する外蔬菜花卉類の栽培あり。醬油釀造・帽子製造等の工業行はれ、また沿岸漁撈にて漁獲・漁獲の利、食鹽の產あり。縣道東西に横ぎり飾路市・網干町へはバスの便あり。古くは和名抄、新田郷に屬せるものの如し。

【大津村】島根縣出雲國簸川郡の中部。今市町・塩冶村の東に隣り、北は川跡村に接し、東は斐伊川を距てて出西村と界す。地は斐伊川の左岸に沿うて南北に細長く、南部は丘陵ありて林野草原をなし北半は低地にして水田拓け、水田は畑地に比して多く、產物は米・繭を主とし、外に鷄卵を產す。工產は生絲を第一に清酒・醬油の製造あり。山陰街道斐伊川を渡りて村の中部を東西に通じて今市町に至り、また大宇大石に社線一畑電鐵道の大津町駅(大正三年設置)あり。此地は和名抄の神門郡八野郷、或は塩谷郷の内なるべし。中世は大津莊と云ひ、雲州軍話「雲州高瀬之城明退事の條に「元亀二年四月廿八日、吉川陵河守元春、云々、大津ノ莊ヲ放火し、鳥の巣なる林本の南北に陣を取る」と見ゆ。斐伊川は古くは本村の北部を西流し、その分槽を高瀬川といひ本村の南部を流れたりといふ。高瀬川は土木治水家として名高き大梶七兵衛の開鑿に係るもの、また大石堰其他七兵衛の遺業に屬するもの少からず。明治八年もとの大津・朝倉・石塚の三村を合して大石村と稱し、その内の人家僅比の地域を大津町といへり。明治十七年本郡武志中野兩村と組合町村をなし、次いで町村制施行に際し武志・中野兩村は川跡村に屬し、大石村と大津町は合して大津村を建つ。(阿須利神社)大宇大石に鎮座。郷社。祭神、豐玉比古神・玉依比賣神外數神。延喜式内の神社なれど創立年代詳ならず。舊稱を龍王社・三谷明神・阿世理權現と稱す。近世藩主の崇敬を受け又郡中の祈願所として篤信篤し。明治四年三月現號に改稱し次で郷社に列せらる。例祭、十一月十日。(圓光寺)大宇大石にあり。浄土宗。神門寺派の末。本尊藥師如來坐像(行基菩薩七佛の一)・十二神將立像各一躯(一尺七寸同作)。古昔は大伽藍たりしが、寺勢屢〻衰頽し明治二十七年森田七右衛門の發起によりて現堂を建立す。寺内に月井あり。その傍に貫名海屋の筆に成る月井の碑あり。

【大津郡】山口縣大市十一郡の一。長門國の一部にて縣の西北部を占む。東は阿武、南は美禰、西は豐浦の諸郡と界し、北は日本海に臨み、面積約三六〇方粁。南境には中國山脈の末端部東西に連り、桂木山・天井山・花尾山・堂ケ山・一位ケ岳・天井ケ岳等あるも高度七百米を超ゆるもの少く、それ等の山脈北に向つて漸出するもいづれも次第に低下す。沿岸東部には青海島ありて本土南岸に突出する瀬戸崎半島との間に内海・外海の灣入をなし、西部には向津具半島西方に突出して油谷灣を抱く。これら半島・島嶼をなす丘陵性山地と中國山脈山脚との間には東西に長き沿岸平地ありて主要生產地域をなす。農產に米・麥・大豆・甘藷等あり。沿岸は烏賊・鯖・鰯等の水產に富む。省線山陰本線は海岸に近く東西に貫き、萩市と下關を繋ぐ西浦街道またこれに沿ひて通じ、省線美禰線は山陰本線正明市駅より岐れて郡の中部を縫路して山陽本線に繋がり交通の便次第に加はれり。書紀仲哀六年紀に穴門より向津の大濟に至る間を東門とし、名護屋の大濟を以て西門と爲すとあり、往昔韓地往來の船舶は此處に發船せし筈、東門或は西門と名付けしものにて、大津は即ち大濟なり。郡名蓋し此處に基くものなるべし。古くは阿武國造の支配に屬せるものの如し。書紀大寶元年の條に、遣唐大通事大津造廣人、續紀和銅七年の條に大津造元休、同じく天平寶字八年の條に大津連大浦等とあるは本郡の人なるべし。延喜式に郡名見え、和名抄は於保郡と訓じ三隅・深川・日置・三島・向島・二俣・神戸・稻妻の八郷を置く。中世には分ちて二となし、西を前大津、東を先大津と呼びしことあり。又何れの頃か西部の稻妻郷は豐浦郡に編入さる。以後大變化なく以て今日に至る。

【大津島】→大津島(山口縣都濃郡)

【大津村】德島縣阿波國板野郡の東部。撫養町の南に隣り、東は撫養川を隔てて里浦村に對し、西は堀江村に接し南は吉野川を隔てて松茂村と界す。村の大部分は吉野川の三角洲上に位し、土地平爽にして水田拓け、畑地面積は僅かにその一六%にすぎず。米麥を主產し藺・畝・蕹等の產も少からず。吉野川の河口に臨むを以て水運の便よく、省線撫養線の諸駅に近く、淡路街道・撫養街道にはバスを通じ交通便なり。此地は和名抄、板野郡津屋郷の内なるべし。撫養町大字木津と共にもと海港たりしものか。

【大津】愛媛縣伊豫國宮多郡大洲町の舊名。※大洲町

【大津村】高知縣土佐國長岡郡の西南部。西は高知市へ近く、その間に高須村を距て、東は役免町・大篠村に隣りし、南は介良村と界し、北は岡豐・布師田の二村に接す。東南境に鹿兒崎山の峯地横はるも他の部は土地平坦にして高知平野の一部に當り、高須川中央を西南に流れて平地を潤ほし、水田よく拓け畑地は水田の僅に約六%に過ぎず。米の產多くまた藺を出す。高知市より安藝町に至る國道高須川の左岸に沿うて走り、省線土讃線及び社線土佐電氣軌道また國道に沿うて通じ、前者は土佐大津駅(大正十四年設置)を設き、後者は八停留場を設け交通便なり。此地は和名抄、長岡郡大角郷の地にて於保郡と訓ず。村名は此郷名の遺稱なるべし。天竺氏の築きし大津城ありしも長曾我部氏に滅ぼされて廢すといふ。この地古くは浦戸灣東岸に臨み内海の埠頭にして海上より國府に通ずる要津たり。當時は今の鹿兒崎山の西端は入海に突出し、鹿兒崎とよばれし一岬角たりしといふ。近傍に水主の居住せしより此名起るといひ、土佐守たりし紀貫之が任滿ちて京に歸るる時この港より船出せりと傳へらる。いま一面の陸地となり、大津川これを貫流し、村の中央に水閘あり俗に大津の閘といふ。土佐日記に「廿七日(承平四年十二月)大津より、浦戸をさしてこぎいづ。……『あるものとわすれつつなほなき人をいつらととふそかなしかりける』といひけるあひだに、鹿兒の崎といふ所に至るに、守のはらから、またこと人々これかれ酒などもておひきて、磯におりゐて、わかれがたきことをいふ」とあり。また字岩崎に白太夫社あり。白太夫は本名淺倉春彥、伊勢の神人にして菅公に仕へ筑紫に下りしも延喜三年公の薨後その遺物を奉じ當國に來り、公の嫡子にて土佐守となりて任國したる高瀬朝臣を祭ねんとせし途次この地にて病歿するといふ。白太夫の稱號は俗に白髮より起るといふも、延喜六年公の三年忌日の夜春彥の靈白裝束にて公の廟所に現はる、此の事のち村上天皇の天聽に達しその名を賜はりしより起るともいふ。菅家瑞應錄に「渡會春彥、三月九日、筑紫館出立……漸々、十二月朔日、土佐國移……或見二山嶺一有二佛會一……住僧又八旬餘、見二春彥一、哀、快許二此宿一……翌日、春彥以外、病出、一足非レ可レ過、老僧降勞給、成二藥用一無レ驗、終十二月九日、死門望、春彥遺言、此觀音、菅公秘藏松梅以二二樹一作給、瑞像也、菅公語二遺命一、某死、此寺門内可レ葬給、已延喜七十九歳也、何死佛哉、迚、端坐合掌、延喜五丑年十二月九日、七十九歳、土佐國成レ土云々」とあり。また本村附近には古墳穴多くその完全に保存されるものあり。六郎山穴は大津關より南約六〇〇米にあり。入口は南面し室内は廣六枚を敷くを得べく、當人直立し且兩手を伸ばし歩行し得るといふ。尚これに隣接して介良村に住吉穴・介良北山穴、大篠村に妙見村穴穴等鉦び存す。また大津關の南岸山上に飛鳥井曾衣卿穴あり。曾衣は京都の飛鳥井に生れ從四位少將雅量と稱す。天文・永祿の交、京都の亂を避け一條氏を慕ひて土佐に下り、天正年間また一條氏に從ひ本村に來り、一條氏滅亡後は岡豐山に招かれ、長曾我部氏の子弟に蹴鞠を教へたりと云ふ。卒して茲に葬る。曾衣の墓は吉田俊好の歌「思ひ立つ木曾の淺衣淺くのみ染めてやむへき袖の色香は」よりとるといふ。(大津城)大津川閘にあり。天竺氏の築きしもの。のち長曾我部元親の攻落する所となり城廢す。城主天竺孫十郎の跡は詳ならず。一説に天竺は城地の名なりといふ。大津城は城の東方約二粁の地に的が池あり。約百米四方の泉池にして、水の湧出すること沸湯の如し、因りて大津の名起るといふ。天正年中、元親は一條左中將内政卿をここに遣し大津御所と稱す。のち一條氏を伊豫に逐ひ斯くて土佐一條家全く亡ぶ。いま山下に一條橋の名殘る。(鹿兒神社)大宇大津に鎮座。郷社。祭神、創立年代共に不詳。もと鹿兒または加護大明神と稱す。古來數ケ村の產土神として部落民の尊信篤し。

【大津】筑前國(福岡縣)の古地名。書紀齊明天皇七年紀に天皇の「御船還至二于娜大津一、居二磐瀨行宮一」續日本紀・淳仁天皇天平寶字三年三月の條に博多大津とあり、續日本後紀・仁明天皇承和九年正月には筑紫大津、筑前大津と見ゆ。此等の大津は何れも博多津にして今の福岡市の中に當る。※博多津

【大津町】熊本縣肥後國菊池郡の南部。熊本市を距る東北へ約二〇粁、西は原水村、南は陣内村、北は隈川村に隣接す。地はほゞ楔を横へし如く東西に長く阿蘇山の外輪山西側の裾野の緣邊に當り、東より西に緩かに傾く。北半は林野多きも南半は熊本平野の東邊にて、平坦肥沃、田畑多し。熊本市より阿蘇谷に向ふ縣道は東西に、隈府町よりのは南北に通じ共にバスの便あり、また省線豐肥本線東西に走りて肥後大津駅(大正三年設置)を置き交通便なり。米麥その他の農產多し。縣立大津中學校・菊池東部實業學校等あり。此地の沿革は詳ならず。いま町内の塔之迫は旗保年中に建てられし大塔の址なりと稱し、伽藍の遺跡を傳ふるも遽に信じ難し。明治十年西南の役の激戰地の一なり。また當町より熊本に至る約二〇粁の大津街道に沿ひて杉並木あり、加藤清正公の植栽せしめしものと傳ふ。古來屢〻歌に詠まる。(大津日吉神社)大宇大津に鎮座。郷社。祭神、大己貴命・大山咋命・敏津彥命・敏津姫命外七神。創立年代不詳なるも、もと一大樹を神體として崇めしが、正保年間、近江國日吉山王宮を勸請して此地の守護神に仰ぎしと云ふ。爾來郷民の尊信篤く、江戸時代には藩主細川氏より時々祈願を命ぜられ初穂の寄進等の事あり。なほ全町民の尊信篤し。例祭、十月十八日。

オーツカ

大東村 宮崎縣日向國南那珂郡の西南部。飫肥町の西南を距る約二〇粁。北は酒谷村、東は榎原村、南は北方村・鵜鳥町に接し、西は大隅國蒲敷郡志布志町と界す。東西約七粁、南北約一四粁、約九〇方粁の地積を占むる

も、調はゆる那珂山塊の南部に當り、東境には男鈴山(七八三米)・鹿久山(四八五米)の山嶺南北に連り、西境にも四—五百米の山地延亙し山地多し。瓢鳥川の上流とその支流大矢取川共に北部に發し、前者は中部を後者は西部を南流し、中流以下の沿岸に何れも小平地を作り耕地開く。米麥の農產を主とし林產・畜產また少からず。村の東南部には省線志布志線通じ日向大東驛(昭和十年設置)を置き、縣道また省線に近く走りて南は瓢鳥町を經て志布志町へ、東北は油津町・飫肥方面に通じ共にバスの便あり。中世に櫛間院と呼ばれし地にして、近世は鳥津藩の所領たり。大字宮留に一基の古墳あり、高さ約八米、周圍約百米。その形陵然として圓形を成し一見して古墳たるを知るべし。墳上に一株の老松あり、幹圍四米餘、傍に五輪碣六基建てり。その傍に石祠ありて、前面には野邊八幡宮と刻し背に虎溪院殿盛房とあり。五輪碣は野邊氏の墓なりと。その古墳なるを知らずして此處に葬りしものか、或はまた單に石碣を建て僞墳とせしものか詳なならず。また西方約三百米に野邊氏累世の靈牌を存する虎溪庵といふ廢寺あり。

オーツカ　大塚

【大塚村】山形縣羽前國東置賜郡の西北部。赤湯町の西方約六粁。北より東は松川を限て、梨郷村に對し、南は中郡村・大川村に隣り、西は西置賜郡豊田村に界す。西北境に陣峰の一丘阜ありて朱澤平野と長井平野の分水界をなし、その北部を峡流する松川、村の東北境を西北に流れ、その支流大川また村の東部を北流し朱澤平野の北邊に當り平地廣く地味豊沃にして水田拓け、また東部松川の沿岸には桑園多く、產物は米・繭を主產し畜產また少からず。西置賜郡長井町より豊田村を經て東置賜郡宮内町に至る縣道、村の西北部を略東西に過ぎてバスを通じ、之と並行に省線長井線通じ大字西大塚に西大塚驛(大正三年設置)を置き、また南方小松町へも街道通じ交通便なり。此地は和名抄、置賜郡置賜郷の地か。中世は長井庄に屬す。また大塚左衛門佐宗頼及び其裔此地に居し、その孫伯耆守高頼は伊達貞山公に仕ふと云ふ。(八幡神社)大字西大塚字八幡林に鎮座。郷社。祭神應神天皇。もと赤坂八幡宮ともいへり。古くは米澤鶴城の北、赤坂の里にありし故に此稱あり。創立年代不詳なるも、寛永年間に上杉定勝社殿を再建し、社領を獻じ例祭には藩士を遣して幣帛せしむ。仍つて俗にこれを公儀祭といふ。文化八年社殿造營の事あり、古來、水旱疾病に靈驗あらたかなりとて附近郷民の尊崇篤し。例祭九月十五日。(高郷寺)曹洞宗。稻荷寶山と號す。享德年間、谷藍物義國の創建に係り寶光智證を以て開山とす。天正年間、高橋備後守の歸依を得て堂宇を改修す。明治十八年、大應文惠の當地當光院より移りて當寺に住するや、新に寶祠を建立し諸堂を修營す。關來當國屈指の大刹となる。

【大塚山】那須火山帶の一峯。山形縣南置賜郡中津川村と瓢鳥縣耶麻郡加納村の境界に聳え、火山岩より成る。標高一三二二米。飯森山(一五九五米)の西方に位し渭川(日橋川の一支)の上源をなす。

【大塚】→名久田村(群馬縣)

【大塚】埼玉縣北埼玉郡にありし村。明治四十二年小曾根・今井・上中條の三村と合併し、中條村となる。

【大塚】東京市小石川區西部の地域。いま大塚町・大塚窪町・大塚仲町・大塚上町・大塚辻町・大塚坂下町に分かる。大塚町に東京女子高等師範學校、窪町に東京文理科大學及び東京高等師範學校、仲町に大塚公園、坂下町に護國寺・豊島岡御陵及び俗に傳者拾塲と稱せらる江戸時代の傳者室塲集・木下順庵・榮野栗山・尾藤二州・古賀精里などの墓塲、即ち大塚先儒墓所などあり。省線山手線の大塚驛(明治三十六年設置)は豊島區西巢鴨二丁目にあり。

【大塚村】山梨縣甲斐國西八代郡の北端。西は上野村を隔てて市川大門町、東は東八代郡豊富村、西北は笛吹川を限りとして中巨摩郡花輪村・忍村なり。面積僅かに三・九二方粁の小村。地は南より北に傾き北半は平坦にて耕地拓け米麥の產あり、養蠶も榮ゆ。社寺富士身延鐵道の甲斐上野驛(上野村内)にも近く交通不便なちず。蓋し村名は村内に古墳あるに因めるものなるべし。大字上野原にある圓墳より赤烏元年の銘ある神獸鏡と内行花文鏡との二面が刀劍身・白玉等と共に發見され、今同地の淺間神社の所藏に歸す。赤烏元年は支那三國時代の年號なれば、當時の遺物がこの地に寶らされしは、東國の古代文化の考察上に重要なる資料と云ふべし。

【大塚】愛知縣中島郡にありし村。明治三十五年、五郷村・梅代村の大字梅須賀と共に合併して大江村を置き、大江村は同三十九年稻葉町と千代田村に分割されてその村名を失ふ。

【大塚村】愛知縣三河國寶飯郡の南部。豊橋市の西約一〇粁、渥美灣の東北岸に臨み、北と東は御津町に、西南は三谷町に、西北は蒲郡町の東部に接す。北境に三五〇米前後の高度を有する山地聳りその山支東西境に延び、中部以南は平坦にして耕地拓く。米・麥を產し、養蠶盛に行はれて繭・生糸を出し、織物を產す。省線東海道本線と縣道は村の南部を東西に走り、前者の御油驛(御津町内)に近く後者にはバスを通じ、東は豊橋市、西は蒲郡町方面への交通は便利なり。地は和名抄、寶氏郡御津郷の内。(法住寺)大字赤根にあり。會洲宗。赤根山と號す。永正五年、將軍足利義稙の創建に係る。元和の頃、赤根村東山にありて法住院とよ

ぶ小庵なりしが、慶安年間、領主松平長三郎忠高寺基を同村西山に移して堂宇を營み法住寺と改む。開山は忠高の歸依篤かりし三河國貝吹村長圓寺三代愚誉和尚なり。寺寶の千手觀音立像(木造)一軀は藤原時代末期の作にして國寶に指定さる。

【大塚村】島根縣出雲國能義郡の中部。安來町の南方約五粁。廣瀬町・布部村の東に隣り、北は能義村・宇賀莊、東は安田村・母里村と界す。東・南・西の三境に低き山地あり、地北方に降る。中部以北は概ね平地にて耕地よく拓け、水田多く米・繭を主產しガットの特產あり。林產亦少からず。安來町及び廣瀬町へはバスの便あり。此地は和名抄、能義郡山國郷の地なるべし。いま村内吉田の邊を山國と稱するはその遺稱なるべし。村名は字茶屋に大なる塚あるに依れるものか。

オーツカ　大墳

【大墳村】→多藝村(岐阜縣)

オーツガ　大栂山

山南東部の支峯。吉野郡北山村に發え、標高一〇七七米。伯經ケ嶽の東南麓に宮る。

オーツガ　大都河村

紀伊國西牟婁郡の南東部。和歌山縣南に接び、長さ最大一三粁、幅最小三粁最廣約六粁。面積約五二方粁。東は佐本・和深の二村に、西は周參見町・三鄕村に隣接す。高度四—五百米の山地廣し。周參見にて熊野灘に注ぐ。古座町に至る古座街道村の中部を横ぎるも、獅子目峠(三八六米)などの坂路ありて交通は便利ならず。主產物は木炭・木材、外に米・繭の產あるも其額數ふるに足らず。村名は明治二十二年村制施行の際、大藤・大附・防己・大谷・小河内・小附・矢ノ口・結垣内・矢ケ谷の舊九箇村を合併し、大藤・大附・大谷の大、大附の附を都とし、小河内の河を採り、大都河村と命名せるもの。

オーツキ　大津岐峠

瓢鳥縣南多津郡榊枝岐村に所在す。北方の駒ケ岳(二一三二米)と南方の大杉岳(一九二一米)の中間鞍部に連ず。榊枝岐村藤鳥手より沼田街道を離れ、大津岐川に沿ひて下り新潟縣南魚沼郡との境界なる銀山平(七〇二米)に至る山道にて、最高點一九四五米。

オーツキ　大月

【大月町】山梨縣甲斐國北都留郡の南西部。猿橋町・駒橋村の西に隣り、南は南都留郡禾生村に、西は初狩・饗子二村及び東八代郡の地と界す。饗子峠の東北に連る鐵子山(一五九一米)・小金澤山(一九八八米)の東南側にして殆んど山地なるも、ただ東南部にある桂川とその支流葛谷の兩岸高地上に小耕地拓け米・麥を產し、養蠶行はれて繭は生產額中の首位を占む。また機業行はれて厚絹織を主とし文化御召・秩父地方の銘織物を產す。省線中央本線桂川沿いでその支流の谷を西に走り、町の東南部に大月驛(明治三十五年設置)を置く。富士山登山氣鐵道ここより起り、桂川の谷を上り町内に上大月驛(昭和四年設置)を設け、登山季節には東甲州よりの富士登山口として殷盛を極む。都留中學校・都留高等女學校の外桂川を利用せる駒橋發電所(出力一七〇〇〇キロワット)あり。當町の三鳥神社境内にある樽の巨樹は天然記念物に、又、明治天皇の花咲御小休所は史蹟に指定さる。大月はもと花咲・駒場・[illegible]の三村共に廣里村の大字なりしが、昭和八年町制施行の際、廣里村を大月町と改稱す。舊村名の廣里は本郡中耕地最も廣きに出づといふ。大字猿橋は往昔牧場なりし處。大字花咲は一に花崎に作り、里傳によれば往古僕の大木あり枝葉繁茂し花時は往來の旅人或は木陰に憩ひ、枝を手折りかざしたるよりその名出づといふ。大字大月は寛文十一年、幕藩制定にあたり駒橋より獨立せしもの。大字駒場は往古大月と同村にて桂川にて寫割され上下二村たり、今一大字となる。今の大月橋は往時の駒橋なりと。駒橋の光照寺背後の馬立山腹より菊花石出づ。破碎すれば大小不同の菊紋ありて色澤純白なり。よりて山を菊花山ともいへり。夫木・一四に「雲の上にきくはり植てかひのくにつるのことぼりを移してそみる　權大納言長家卿」とあり、同書に此歌を註して「風土記に甲斐國都留郡有ニ菊花山ニ流水洗ヘ菊飲ニ其水ニ人壽如ニ鶴云々」と見ゆ。延喜式諸國年料、鮫藥の中に「甲斐國、黄菊花十兩」と見ゆ。此國に往古より菊花を名物とせる一證とす。(三鳥神社)大字大月組字飛地に鎮座。郷社。祭神、大山祇神。大同二年の創建に係り大松山大明神とも稱す。近郷の惣氏神として尊信篤し。例祭、四月二十五日・八月二十五日。(三鳥神社の大樽)指定天然記念物。三鳥神社の境内にあり。樹幹周圍目通り一〇米(三丈四尺)、根廻り一二・七米(四丈二尺)、神木として保護さる。同境内にはもと他に三株の大樽が存せりと。現存のものと共に四本木と稱し、富士登り道者の昔より注目せし大木なりしと。樹勢壯大にして樽の巨樹として有數のものとす。

【大月山】愛媛縣高縄山塊の一峯。温泉郡五明・河野川村に跨り、標高九五四米。北方に高縄山(九八六米)聳え、西方に齋灘を俯瞰す。

オーツキ　大槻

【大槻村】瓢鳥縣岩代國安積郡の東部。郡山市の西に位し、西北部には丘陵ありてやや高きも最高僅かに三一五米に過ぎず。大部分は土地平坦にして南川中部を流れ、水田よく開け全村稻作地たり。縣道大槻より東は郡山市に至り、西は多田野・瓢良を經て會津に向ふ。郡山市と多田野へはバスの便あり。村の南部には美女池峠に御前堂あり靜御前を葬る所と

傳ふ。また銅山には古墳多く、もと五、六十を數へしもいまは悉く發掘破壊されて遺物の殘留するものなし、これらの中にて銅山の麓と中央にある古墳中の二墳にはその奥壁に大王の二大字を彫刻せるものありといふ。また村内に明治天皇の大藏壇原御小休所及び御野立所（指定史蹟）あり。

【大槻】下總國（千葉縣）の古地名。和名抄、香取郡に大槻郷あり。今其名稱を失ひ何れの地に當るかを詳にせざるも或は香取郡香取町及び神里村の邊に當るか。

【大槻】越後國（新潟縣）の古地名。東條文治二年三月十二日の條に、大槻莊、後白河院御領と見ゆ。延喜式神名帳に蒲原郡槻田神社あり。地は凡そ今の三條市の内なるべし。

オーツキ　大築島　熊本縣八代灣北部に浮ぶ。八代町の西方約八粁を距て東方及び南方にある小築島・根島・箱島・黒島等の小島と一島群をなす。コ字形をなし最高點は一一五米。

オーツクミ　大築海島　三重縣志摩郡の答志島の東北方約一粁に浮ぶ三角形の小島。答志村に屬す。東北にある小築海島に對して大築海島と稱す。

オーツジ　大辻　→香月町（福岡縣）

オーツシマ　大津島

【大津島村】山口縣周防國都濃郡の西南部。德山灣の西南を抱く大津島・黒髪島よりなる。德山市の西南に位し其間に仙島・横はり北は海を距てて櫛川町・戸田村に相對す。大津島は南北約六粁の細長き島にて黒髪島は大津島と仙島との間にあり南北約二粁、東西約三粁。兩島共に丘陵連り低地乏しく半農半漁の村落にして漁落は大津島に夥集したるも工場あり、また大津島より出す花崗岩は大津石として知られ年産一五〇〇〇噸に及ぶ。交通は德山市及び櫛川町に定期發動機船の便あり。明治四年廢藩置縣の後櫛川町に併合せしも同二十二年分離して一村をなす。

【大津島】山口縣都濃郡にある島。大津島村に屬す。德山市の西南約八粁、其間仙島・黒髪島と共に德山港の西南を限る。南北約六粁の細長き島にして南部は地頸部を以て馬島と連接しその西南に金ケ岬突出し、島の北端に横島鼻・丸山鼻、中部西方に水尻岬斗出す。

オーツチ　大土・大都智

【大土村】大阪府和泉國泉南郡の東南部。佐野町の東南方約八粁。北は熊取村・日根野村に隣り、南は和泉山脈によりて和歌山縣那賀郡粉河町・池田村と界す。西南界に三峯山（五七七米）、東境に高城山（六五一米）ありて土地西北方に傾斜し、樫井川の上流南隅池田村より來りて村の中部の低地を北流す。川に沿ひて幅狹き平地あり、粉河街道これに沿ひて通ず。工產を第一に、農產これに次ぐ。村名は大木・土丸の舊二箇村を合併して命名せるもの。大字土丸に城址あり。吉野時代の頃橋本正高この城に居り山名氏と戰ひし處。（七寶瀧寺）大字大木にあり。古義眞言宗。犬鳴山と號す。寺傳に據れば齊明天皇七年に役小角の開創、正平年中に土丸城主橋本正高これを再興し、僧忠一を以て中興の開山とす。當寺は犬鳴山嶺にありて不動明王を安置す。山中に兩界・塔・鉢天・小視・奥・千丈・布引の七瀧あり。他に笈掛石・四寸巖・屏風石・行々石・天狗松・押上石・風穴・蛇腹・渓瀧・梵字石・犬の墓等あり。犬の墓に就き傳へ云ふ、昔一人の獵夫あり、一日この山中に獵す。伴ふところの獵犬頻りに吠えてその主に迫る。獵夫怒つて之を斬りしに犬の頭飛んで溪間に至り怒ち毒蛇を噛み殺す。獵夫即ち義犬の死を悲しみ落髪して佛門に入れりと。犬鳴山の山號これに起因すと。

【大土山・大都智山】中國山脈の一峯。廣島縣豐三郡板本村と高田郡小田村・向原村の境界に跨る。高田郡吉田町より東南約八粁に位す。標高八〇〇米、山容峻しからず。

オーツツミ　大堤（茨城縣）　→勝鹿村

オーツナ　大綱　神奈川縣橘樹郡にありし村。昭和二年横濱市に編入さる。

オーツナギ　大綱木村　福島縣岩代國伊達郡の南端。川俣町の南に隣り、東は小綱木村、西は富田村にて、南は安達郡針道村なり。西南境に木幡山（六六六米）、東南境に口太山（三四三米）聳え、全村概ね高原性の山地をなし、廣瀬川の上源中央を北に流れ川俣町に入る。一般に農產を主とし外に蒸炭も少からず。川俣町より針道村に至る道路溪流に沿うて村の中央を南北に通じ、また省線川俣線の岩代川俣驛（西隣富田村地内）に近し。此地古くは小綱木村と共に繫村と稱せり。また小綱木村・飯坂村と組合村たりしも、明治四十四年組合を解除し、同時に小綱木村と組合村をなし、役場を川俣町に置く。

オーツノ　大津野村　廣島縣備後國深安郡の東南端。福山市の東方約六粁。北は泰日村に隣り東は岡山縣小田郡城見村と界し南部は瀬戸内に臨む。東北西の三面は丘陵を圍らし、中央に低地あり牛ノ首・防路ノ鼻にて漁する小支灣に面し、ここに田地拓けて米・麥を主產し外に煙草・藺を產し、また酒類の製造行はる。また灣岸に鹽田ありて製鹽も行はれ沿海は漁利も少からず。福山市より岡山縣笠岡町に至る街道及び省線山陽本線村の中部を東西に通じ、前者にはバスの運轉あり、後者は大門驛（明治三十年設置）を置き、交通便利なり。この地は和名抄、深津郡大野郷の内か。明治二十二年大門村・津之下村・野々瀬村の舊三村合併して建てし村。大字大門の山麓に沿うて西谷・窯島に角器・土器を出土せし貝塚あり、此附近には稀なる遺跡にして考古學上興味ある所なり。海濱は白砂の遠淺にて大門海水浴場として廣く知られる。

オーツホ　大津保村　岩手縣陸中國東磐井郡の東南端。藤澤町の東に隣り、北は矢越村に接し、東は宮城縣本吉郡御嶽村に、南は同登米郡米川村に界す。東部本吉郡との境上には太田山（六八六米）・剣持峠（五四七米）・長崎山（三五一米）・鉢葉丸、西北境には雲山（二四一米）・保呂羽山（四六二米）・黄金山（四八二米）・砥石山（四四二米）・東樂山（四六一米）等連亘し、村内のほぼ中央に大峯山（四六四米）峠ち四周山地に圍繞され、その間を津谷川北部山地に發して東北部を南流し、大岳山麓にて横谷をなし本吉郡に入り小泉川となる。津谷川に沿うて水田拓くるも畑地に比して面積少なく、米・麥・繭を主產し其他木炭の產も少なからず。藤澤町へは安道峠を、千厩町へは新地峠を、矢越村へは有切峠を、本吉郡には剣物峠を越えて通じ、西郡街道東南部を縫かに過ぎるのみにて交通便ならず。本村は古昔藤原氏三代の所領たりしが、後葛西氏累代の領地となり、天正十八年八月豐臣秀吉葛西晴信を滅ぼしてより、木村伊勢守の采邑となり、翌十九年正月蒲生氏郷之に代り、同年八月更に伊達政宗の封地となりしより二百六十年、大政奉還後明治二年故ありて伊達家より之を松平大和守の所領に移す。同二十二年町村制實施に際し、大籠・津谷川・保呂羽の舊三村を合併して大津保村と稱し、以て今日に至る。（保呂羽神社）大字保呂羽に鎮座。郷社。祭神、大名持命・少彦名命・日本武尊。創立年代不詳なるも、地方の古社にて、熊本藩主細川氏は遠く本社を所願社と崇し、代々崇敬の意を表す。また古來東山の總鎮守として一般の崇敬を蒐む。（藤源寺）大字保呂羽にあり。曹洞宗にして本尊釋迦・文殊・普賢（常濟大師作）三像。雲毛山と號す。約一千年前の草創と傳ふ。始め大勝寺と稱し天台宗たり、文明二年西雲和尚本宗に改め今の寺號を稱す。境地四面に山を負ひ幽邃閑雅にして、保呂羽八景の一なる箒松・菩提樹あり。（長德寺）大字字和田にあり。時宗。不退山と號す。本尊阿彌陀如來。凡そ千百餘年前玄明律師の草創。もと天台宗たりしが、尊觀法親王園國の途次當山に留まり本宗に改め現寺號を稱し天和二年今の地に移る。寺域に成田山不動尊を勸請す。例年一月二十八日護摩會を執行す。境内は幽邃閑雅にして保呂羽八景の一。（龍洞院）大字津谷川にあり。曹洞宗。紫雲山と號す。本尊延命地藏。寛永元年洞室見和尚の開基。院内に大田稻荷大明神あり。五十五部到幷屬同逐の塵ありとて附近衆庶の崇信篤し。

オーツボ　大坪村　佐賀縣肥前國西松浦郡の中部。伊萬里町の東南に續き、東は南波多村・松浦村に、南は大川内村に、西南は二里村に隣る。東境には今岳（二五一米）、西南界には腰岳（四八八米）の山地あり、中部より西北にかけては平地ありて耕地拓け、農產は米・麥を主とし、養蠶行はれて繭を出し製糸工場あり。省線伊萬里線の伊萬里驛（明治三十一年設置）、社線北九州鐵道の上伊萬里驛（昭和十年開業）は當村内に置かれ、また東北唐津市へは縣道通じてバスの運轉あり交通便利なり。縣立伊萬里商業學校・縣立伊萬里高等女學校あり。古くは伊萬里町と共に伊萬里と總稱されしが、近世に至り分離獨立せり。（香椎神社）大字町裏に鎮座。郷社。祭神、椎諸兄・伊弉諾尊・忍穗耳尊・伊弉冉尊。創立年代不詳なるも、往古、田道間守、香木の實を常世國に求め、歸途この地の登勝を賞して橘を植う。後に社を建てて諸兄を祀り橘の宮と稱せりと云ふ。關後、郷民上下の尊信篤し。例祭、七月十九日。

オーツミ　大積村　新潟縣越後國三島郡の南西部。地形ほぼ紡錘狀をなし東北は宮本村、東南は岩塚村に隣り、西南は刈羽郡北條村・中通村と、西北は同郡二田村・内郷村と界し、長岡市を距る西南約十二粁。西山丘陵中部の谷を占め、東南境には桝形山（三〇〇米）あり、西北境にも約三〇〇米臺の高地ありて村の中部を北流する黒川の谷に傾く。柏崎より脇野・與板を繫ぐ道路此谷をほぼ南北に通じ、また長岡市へバスの便あり。米を主產しまた養蠶行はる。村名大積は舊庄保名にも呼ばる。

オーツリ　大釣　→奥津村（岡山縣）

オーツル　大津留　→阿南村（大分縣）

オーツル　大鶴

【大鶴村】山梨縣甲斐國北都留郡の東部。東と南とは上野原町に、西は甲東村、北は桐原村に隣る。面積約五方粁。北部と南部に山地あり、中部にやや低平の地ありて養蠶行はる。東南上野原町へ近きも交通は不便なり。この地は和名抄、都留郡都留郷の内なるべく、明治五年、大倉・大鹿・大曾根・日野・小倉・鶴川の舊六箇村を合せ大鶴村と稱し、同十七年上野原村と組合町村をなし聯合役場を上野原に置き、同二十二年分離し獨立す。

【大鶴村】大分縣豐後國日田郡の西北部。日田町の西北約八粁。地南北に長く東は小野村、南は西有田・朝日・夜明の三村に接し、西は福岡縣朝倉郡資珠山村に、北は田川郡彦山村に界す。彦山山塊の南側に位し、その山麓東西兩界を南に延び山地多く森林に富む。村の中部を南に流れる山田川に沿ひて幅狹き平地ありて田畑開け米・麥の產あり。省線彦山線の大鶴驛（昭和十二年設置）あり、また夜明村・日田町へはバスを通ず。古くは和名抄、日高郡夜開郷の内にて、中世には大肥庄と稱せらる。大字大肥は蓋しその

[illegible]

オーテ　大手　[illegible]

オーテ　大手　[illegible]

オーテ　大手　

續きとなりし處といふ。また俗に殿ノ墓と呼ばるる墓あり。一に源平合戰の時の一方の大將の墓なりとも、又古く奈良時代の人の墓なりともいふ。(龍ヶ岳) 指定名勝。本村と東隣高戸村の境上に峙ち下鳥深海村西境の六郎次山と共に天草に於ける二大展望臺と稱せらる。山は堅硬にして發理に乏しき第三紀の礫岩・砂岩より成り山上は瓦礫裸出し樹木の展望を遮るものなく、脚下の海面には東に穐ノ島、南に御所ノ浦 牧島・横浦島等多數の島々相點綴して近景をなして前方には天草上下兩島の峯巒及び獅子島・長島等の島嶼相連なりて中景をなし、瀬戸内海式風景を展開するのみならず、不知火海の彼方には肥薩の連山起伏重疊して遠景をなし、また遙に霧島・阿蘇・雲仙等の名峯を眸裡に收め得て、其山海展望の偉觀蓋し天下稀に見る處なりといはる。

オードーツ 大堂津 省線志布志線の一驛(昭和十一年設置)。宮崎縣南那珂郡細田村下方にあり。

オードーリ 大通山 一に大通峠と云ふ。鳥取縣八頭郡池田村と兵庫縣宍粟郡千種村の境界に聳え、標高一三三三米。山徑、千種村千種方面より發し、この山を經て池田村岩屋堂にて若狭街道に合す。

オートコロ 大處 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄、高島郡に大處郷ありその調を問く。中世は大處莊に作り廣平六年の目錄に莊名見え、妙香院領なり。地は今詳なちざるも、高島郡百瀬村に郷社大處神社あれば、その邊を指せるものか。

オードコロ 大所 ←小瀧村(新潟縣)

オートシ 大歳村 山口縣長門國吉敷郡の西部。山口市の南に隣り、東南は平川村に、西南より西方一帯は小郡町と界す。西境に椹木山(四一六米)聳え その山麓東に延びて村の西半は山地をなすも、東半は一帯に低平にて、椹野川その東南界を潤して詩旭遠り、米・麥を多產す。山口市より小郡町に至る國道この低地を走りてバスを通じ、また省線山口線國道に並行して走り、大歳驛・湯田驛(共に大正二年設置)を置く。本村はもと矢原朝田村と稱せしも明治三十一年今の名に改む。(朝田神社) 大字矢原に鎮座。郷社。祭神、岡象女命。創立年代不詳なるも、室町時代の古社にて、領主毛利家の崇敬を受く。また近郷村民の尊信篤し。(瑩元寺) 大字矢原にあり。浜宗本願寺派。弘長三年曾西顯の開創。西願は俗名を村上岳左衛門尉と云ひ初め北越の人、親鸞上人に歸依し、弘長三年信州水内郡に一宇を創す、これ當寺の濫觴なり。永祿の頃美作に移り、享保年間此地に移る。

オードセ 大戸瀬村 青森縣陸奥國西津輕郡の西北部。鰺ヶ澤町の西方約四粁・赤石村の西に隣り、南は深浦村と界し、西北は日本海に臨む。南境の桝形山(八二〇米)の山脚北方に延びて高乳嶽山(七二八米)・袋流山(七二四米)・飯ノ森山(七〇四米)・道上山(三五九米)となり、東に延びて國行山(七八六米)及び青鹿山(八九一米)聳え北及び西に降り、その間是等山地に發する大小の諸川、郷澤・大童子川・小童子川等は北に流れ、清遺澤・大船澤・小濱館澤・黒崎澤・母澤は西北流して山地を浸蝕し各河川の流域及び河口に僅に沖積地あり、一般に幼壯年期の地貌を呈す。生業は半農半漁にて河川流域低地には水田發達し丘陵地には林檎を栽培しまた漁業は主として證津漁業に依存し漁期には遠く津太・北海道方面に出稼するもの多し。省線五能線海岸低地に沿うて通じ大字關に北金ヶ澤驛(昭和六年設置)、大字田野澤に大戸瀬驛(昭和八年設置)、更に大字鳳木に旅客專門の鳳木驛(昭和九年設置)を置き、之と並行に縣道他代道通じバスの便あり。村名の起原は昔勝地大戸瀬海岸の千疊敷附近に大戸瀬岩あり斗を積み重ねたる姿態より大斗瀬岩と稱せしをいつしか大戸瀬と呼ぶに至り之より村名起るといふ。また大字風合瀬は夕凪の現象を呈し陸風と海風の變更時に際し無風狀態となるより此名ありといふ。大字關に淨安寺あり黒本尊に空海作の銘明瞭に存す。また大字金澤には落政時代砲臺を置くと傳ふ。又六百年前の北朝年號を刻せる墓碑數十あり當時すでに聚落ありし證とす。

オートド 大綴 羽幌線の一驛(昭和二年設置)。北海道天鹽國留萌郡鬼鹿村にあり。

オートバ 大鳥羽 福井縣遠敷郡鳥羽村の大字。省線小濱線の大鳥羽驛(大正七年設置)を置く。

オートビ 大飛島 岡山縣小田郡神ノ島外村の屬島の一。備灘の東北部に浮び、北木島の西南方走島の東方各〻約四粁にあり。東に近く小飛島を控ゆ。東西約一粁南北約二粁、最高點は百米を越ゆ。殆んど平地なきも海岸に近く聚落あり。

オードマリ 大泊 【大泊支廳】樺太廳七支廳の一。樺太の最南端に位し、東に中知床半島、南に能登呂半島が突出し亞庭灣を抱く。西部は樺太半島の南端にて山地多く東部は鈴谷山脈の餘脈延び來るも一般に低く海蝕臺地の發達著しく又富内湖・證湖湖等の潟湖多し。西部・東部の兩山地は中央低地にして鈴谷川・留多加川南流して耕地を潤す。面積約八四三平方粁。大泊・長濱・富内・留多加の四郡に分ち支廳は大泊町に置く。亞庭灣沿岸は鰊・昆布の豐產地として知られ、留多加川流域に農耕地拓く。また住民は樺太に於ても比較的早く定住せし地域にして鰊の漁期には多數の出稼入移民を見る。

【大泊郡】樺太南部、亞庭灣北岸の地。大泊支廳の管下に屬し、大泊町・千歳村・深海村を含む。濱大泊支廳

【大泊町】樺太の南部、亞庭灣の支灣千歳灣の東岸に臨む。大泊支廳管内。鈴谷山脈の南麓に廣く發達せる段丘上にあり、町のほぼ中央に神樂岡蟠り喜美内附近に發する大泊川神樂岡の北方を迂廻し南樺公園に連なる緩かなる丘陵との間に低地を作り、千歳灣沿岸は堆立でられ神樂岡の制壓之に面す。町は豐原市に比し寒暑共に凌ぎ易く積雪量は嚴寒一—二月にても約一米に過ぎず、最高氣温約二九度最低氣温約零下二五度、而して例年の初霜は九月下旬、終霜六月初旬、初雪十月中旬、終雪五月下旬。海水凍結は十一月下旬に始り、解氷は凡そ三月下旬に始り四月上旬にて氷塊全部流出す。產業はパルプ工業を主とする工業最も盛にして商業も亦本島に於ける中心をなす。水產業は近來製紙工業の勃興林業の異常なる發展を見る迄は唯一の生產業をなし今なほ相當榮沙。松前藩の勢力未だ北海道に及ばざる時津輕・秋田・南部等の漁民は宗谷海峽を渡り亞庭灣に來り漁業に從事し、寶暦二年松前藩始めて久春古丹(大泊補溪町)外二箇所に漁場を開きしこと記錄に見え、その後漸次沿岸漁業より遠洋漁業に發達し、主なる漁獲物は鰊・鱈・鮭・鱒等とす。工業には第一にパルプ工業、其他寒天・製藥工業あり醸造も行はる。此地のパルプ工業は樺太に於けることの種の嚆矢とす。明治四十三年試驗的パルプ工場の建設あり、大泊川の水量温度等の調査研究の上大正三年本格的工場の完成を見、多大の苦心困難の結果大正四年始めて瑞典製品に劣らざる白色パルプを製造し得るに至れり。殊に此前後歐洲大戰物發し外國製品の輸入杜絶するや此地のパルプ事業は急速に發展し却て海外に輸出するの狀態を示し大泊工場は亞硫酸パルプを主商品として盛に製造するに至れり。製藥工業は純島產ライ麥及び馬鈴薯を以て酒精を作り、樺太特有の果樹フレップを以てフレップワイン或はソーダを製し、野生植物龍膽より苦味丁幾を、大麥よりヂアスターゼを作り近年燒酎・ウヰスキー・ブランデー等を產出し、更に甜菜・酪農工業に着手するに至る。寒天工業は長濱郡遠淵湖(鹽水湖)に生ずるテン草に倣たる一種の海藻より寒天を製出するものにて本町字富士に第一工場、深海村字女麗に第二工場を設け製品は内外各地に製基用其他として輸移出す。農產は燕麥・馬鈴薯其他麥類・豆類・野菜類等あり、近年米作の試作中にして其の成績は本島米作上注目せられつつあり。交通は北海道稚内港まで海上九〇浬鐵道省の聯絡船が運航し、小樽港まで二二七浬北日本郵船等の定期船があり更に亞庭灣沿岸交通の基點として灣内各地を結び、陸上は豐原市を經て榮濱郡榮濱村に至る廳線東海岸線は此地を起點として大泊港驛(昭和三年設置)・榮町驛(昭和六年設置)・大泊驛(明治四十一年設置)・楠溪町驛(明治四十年設置)を置き、また西海岸にも廳線豐榮線により連繫し、本島物資の吞吐港として又貨客集散の關門として本島第一の海港都市をなす。本町は露領時代の首都にして聚落は丘陵神樂岡の周圍に發達し、南方の榮町・本町その中心街をなし露國政廳のありし楠溪町は大泊支廳・樺太廳觀測所等を初め主として官衙學校を中心とする住宅地域をなし、築港に近き榮町・本町は商店・會社・銀行など櫛比して經濟の中心地として最も殷賑を極め、海岸には船舶業・運送業・旅館等集り、更に南方に漁業者・勞働者の多き船見町、この東北に隣る王子には パルプ工場あり、また榮町・本町と楠溪町との間には神樂岡(九五米)の勝地あり。この麓に沿ひ市街地の中間に柳暗花明の巷、旭町あり。警察署・中學校・高等女學校等あり。此地の最古の事蹟は文獻の徵すべきものなく詳ならざるも古くはアイヌの活動圏内にありしものの如し。慶安四年以降松前氏の探檢施設により我國の領土と認められ勤番所を設く。德川時代には運上屋・勤番所・砲臺等を置き漁民の保護、漁業の奬勵に努め、明治元年函館の開拓使のもとに樺太の事務所を楠溪町に置く。明治八年千島列島との交換に依り樺太が全く露國領となるや、我國はコルサコフ(楠溪町)に領事館を設く。當時コルサコフは北のアレキサンドル(亞港)と共に開港場となり、當地の繁榮はアレキサンドルを凌ぐといふ。蓋し此地は古來より本邦内地間との聯絡地點に當り又本邦の出漁船は必ず此地を經由出入せざるべからざる事となりしによりその來往頗る頻繁にして邦人の店舗また楠溪町方面に並ぶ(露人は主として山下町方面に居住す)。かくして樺太に於ける我が北進勢力の足溜りとなりつゝある時日露戰役の勃發となり、露國は港に面せる南高地の一角清水谷方面の高地及び船見町を壓せる丘(今の楠樺公園の邊)に砲臺の如きものを構へ數門の砲を據し若干の屯田兵にて守りしも我軍の占領する所となり樺太の南半は我領有に歸す。我國の領有當時に於ける本町は一般にコルサコフと稱しその包含せる部落はコルサコフ(クシュンコタン)・ポロアンドマリ・サオスサイノチャイノスコエ・エンル・トインクシ等に亘る。コルサコフとクシュンコタンとはほとんど同じ地域を稱せしものの如く今の山下町高臺を中心とする母子町・中央高地・南高地の一部・楠溪町・逆町・宮下町・黄金井町一帯に當る。楠溪町の地名は日露講和條約成立後此地に樺太守備隊を置かれ其司令官は山田保永少將を經て楠瀨幸彦中將の補任を見、この楠瀨氏の頭字と時の民政長官熊谷喜一郎氏の姓の一字をとり名づけしといふ。ポロアンドマリは榮町・船見町海

定地域にて水田一面に新村を形成し、
その外縁・小字・屋敷名等を出す。語源は
[illegible]
[illegible]
[illegible]

尾・取石・東百舌鳥・美木多・上神谷・西陶器・久世・深井・東陶器・八田荘・百舌鳥等の諸村が即ち舊大鳥郡の郡域なり。

【大鳥山】 兵庫縣揖保郡新宮村大字宮内の北方。標高三七〇米。播磨風土記「大鳥山、鵠栖る此山、故名る大鳥山」

【大鳥川】 出雲風土記島根郡の條に見ゆる川。同書によれば源は郡家の東北一十二里一百一十歩なる嶋野山より出で南流し、二水合し東流して海に入る。今の八束郡本庄村の大字別所・邑生を過り、本庄附近にて中海に入る本庄村の小河に當るか。

オートリ　鳳町　大阪府和泉國泉北郡の北部。堺市の南方約四粁にありて北は濱寺町・鶴尾村、東は深井村・八田荘村、南は鳳泉町、西は高石町によりて闘まる。面積僅に二・七三方粁なるも泉北平野の一部にて耕地多く米麦等の農産あり。工業特に總織物工場多く當町産業の首位を占む。阪和電鐵の鳳驛（昭和四年開業）あり、西方阪和濱寺驛への小支線を分岐し交通甚だ便利なり。古くは和名抄、大鳥郡大鳥郷の地なり。地に式内の古社大鳥神社あり。中世、大鳥荘と云ふも此邊の汎稱とす。延元二年の文書に見えて、分ちて上條下條とし、領家職は金剛寺領なり、また荘内安久・利春兩名は、新待賢門院管領すべき由、正平九年の綸旨に見え、下條は長祿より永正頃までも北野宮寺雑掌料所たり。慶新後は郡役所の所在地となる。大正九年に町制施行。（大鳥神社）大字大鳥に鎮座。官幣大社。祭神、大鳥連祖神。式内社。當國一ノ宮。一説に日本武尊を祀ると云へるは、蓋し尊の遺靈化して大鳥となり此地に降るると云ふ地名傳説を混同せるか。社記また傳ふるところなれども詳ならず。惟ふに此地は往昔野鹿を業とせる大鳥連一族の居館地として聞えたれば、地方有數の豪族としてその本貫の地に祖神を鎮祭せるものならん。大同元年神封二戸を賜ひ、貞觀年中、神位從三位に陞敍せらる。往時は僧行基創建と傳ふる別當寺神鳳寺を擁しその勢甚だ昌なりしと云ふ。役また摂社四座（下大鳥鉏祢神社・大鳥須神社・大鳥美波比神社・大鳥井瀬神社）を合せ、大鳥五社明神として聞ゆ。當社の本殿は我國建築史上大鳥造の遺構を傳ふるものとして珍重せられ、明治三十五年四月特別保護建造物に指定せられしも、同三十八年八月火災のため焼失せるは惜しむべし。現社殿は其後の修築にて亦よく大鳥造の遺構を復原す。境内地一萬四千八十有餘坪、社頭輪奐の美具はる。例祭、八月十三日。（大鳥美波比神社）大鳥神社境内に鎮座、同社の摂社。祭神、天照大神外數神。式内社。大鳥五社明神の一。例祭、十月五日。

オードロ　大土呂　省線北陸本線の一驛（明治三十九年設置）。福井縣足羽郡下文珠村平田にあり。

オーナ　大穴　信濃國（長野縣）の古地名。和名抄、埴科郡に大穴郷あり於保奈と訓ず。其地今詳ならざるも隣郷の位置より推せば、長野縣埴科郡西條村・清野村・豊榮村・雨宮縣村等の地に當る如し。東鑑・文治二年三月「大穴庄、元左大辨御館領、近年忠清法師領」とあり、後宇多院御領目録にも歌書光院領、信濃國大穴庄の名見ゆ。即ち此邊の庄田なるべし。

オーナカ　大中　省線越美南線の一驛（昭和八年設置）。岐阜縣郡上郡白鳥町にあり。

オーナガ　大長

【大長村】 三重縣伊勢國員辨郡の東南部。桑名市の西方約八粁。四日市市の北西方約一二粁を隔つ。町屋（員辨）川中流の右岸に沿ひ、對岸は稲部村、東は久米村、西は梅戸井村にて、南は三重郡保々村なり。南境に沿ひてやゝ丘阜ある外は一帯に土地低平、田畑よく拓けて米・繭・麥等の農産あり。外に工産の見る可きものあり。道路は村の中部を貫き四日市市へはバスの便あり。村名は村制施行の際、南大社と長深の二村を合併して命名せるもの。

【大長村】 静岡縣駿河國志太郡の西南部。大井川の左岸に沿ひ、島田町の北、大津村の西に隣り、西は川を隔てて榛原郡五和村に對す。東北西の三境には三—四百米の山脈相連り、村内廣ね山地をなし、たゞ大井川沿岸の小低地には耕地拓く。産物は米・茶を主とし林産・畜産これに次ぐ。道路西南部に通じ島田町へバスの便あり。此地は和名抄志太郡大長郷の地なり。一に西北隣の伊久身村も其地域内なりんといはる。弘治二年今川義元文書に大銀郷とあるも、大長郷の地なるべく、今の大字相賀は其轉訛ならんといふ。また創業記に徳川家康の臣に大賀彌四郎なる者あり、食禄なるを以て第を得し事見ゆ。蓋し此地の人か。大字神座は村の西南部大井川の岸に位す。崖上に大井大明神の祠あるよりその名出づと。大字伊太に向谷・狐塚・長野、瀧戸の島に伊太の南谷の岩壁を彫抜き大井川の水を疏通せるものなりと。（静居寺）大字伊太にあり。曹洞宗。青原山と號す。林叟院宋。開山は聚仲繁哲和尚。本尊は釋迦如来。

オーナガタニ　大長谷村　富山縣越中國婦負郡の西南隅。八尾町の南西約一六粁、仁武村の南谷にて東は野積村、西は東礪波郡利賀村に隣り南は岐阜縣飛騨國吉城郡坂下村・河合村と界す。地は南北に長く約一六粁に近きも東西は約四粁に過ぎず。東境には白木峰（一五八六米）、西境には金剛堂山（一六三八米）の山脈北方に連延し、その中間の谷を室牧川の上流大長谷川北流し、至る處山地をなし、川筋に沿ふ谷地に集落發達す。米・繭・麥を産するも産額多かゝず。中世は越原郷の内に屬す。大字庵谷にある白木峰は前田利保の嘗て藥草を採らんとして侍臣を從へて登攀し、その景の壮大なるを賞し山頂に記念碑を建てし處、碑は御影石の高さ約〇・五米、幅〇・六米餘、正面に「飛鼎」しなの木曾のみね〳〵みな見えて西はのこさぬ白木山かな」の利保の歌を刻す。

オーナクラ　大名倉山　單に名倉山とも云ふ。福島縣安達郡青田・玉ノ井・岩根の三村境界に跨り、標高五七六米。七峰より成り、その位置の北斗七星に似るといはる。山麓に七峰原開く。西方には高橋山（六四一米）を望む。

オーナシ　魚成村　愛媛縣伊豫國東宇和郡の東南部。土居村の西、野村町の東にて、南は北宇和郡三島村、愛治村と界す。南境には御在所山（九〇八米）の嶺東西に連り、その山地北方に降り概ね山地をなす。中部東西に細長き低地あり村の東北境を北流する宇和川上流の邊に及ぶ。米・麥・繭を主産し、もとは泉貨紙・木蠟等を特産せしも今はなし。現在は蕎・蒟蒻等を特産す。土居村より野村町に至る縣道は中部低地を略ゝ東西に通じバスの便あり。村名は此地に魚成源太の居城せしに起るといひ、また村の地形の魚に似たるより起るといふも詳ならず。また近年は文字上よりウヲナシと呼ぶものあれど正しくはオーナシと發音し、現に鮒駐等の祝詞にはオーナシと讀む。此地の隆ケ森城は西園寺氏の築きし宇和十五城の一にして、魚成殿と稱し魚成源太ここに居す。天文・天正にかけ西園寺氏、長曾我部氏に侵略されし時に魚成氏滅ぶといふ。明治十八年魚成村・田穂村・下相村・喜寿尾村の四ケ村聯合戸長役場を本村に置き、のち町村制施行に際し魚成・下相・田穂・男河内の舊村を合して本村を建つ。宇安家谷は安家谷川に沿ふ山間の小部落にて戸數二十二。源平時代に落武者渡邊飛驒大掾安定この地に落居し刀鍛冶となる、矢の根を作るに巧なるより矢の根鍛冶とよばれ、二代目安信をはじめとして代々安の字を名乗りしもの多かりしより安家谷と稱せらるると傳ふ。此地は古來勤儉素朴の風に富み、ことに家庭の整理整頓の美風あり、近來觀光に來るもの多しといふ。（湯桁鑛泉）魚成川の川床より湧出する冷泉、加熱浴用す。泉質は炭酸泉、天保年中の開場といふ。設備は自からざるも自然の風景に富み、浴客漸次多きを加ふ。（龍澤寺）宇奈良谷にあり。曹洞總持寺派。元亨年間、徳翁禪師の開山。元亨三年中、尾坂城主平朱女正吉良建立し龍天寺と號す。嘉吉三年薩摩侯、島津元久の子仲翁和尚諸堂を修理して中興す。のち住持玄室和尚の時、隆ケ森城主豊後守通親に計り現地に移し龍澤寺と稱し山號を龍門山といふ。小早川隆景伊豫を領せし時、諸軍勢の鬼慕俱毒を禁ぜし制札ありといふ。

オーナダ　大名田　岐阜縣飛騨國大野郡にありし町。大正十二年町制を布き、次いで昭和十一年高山町と共にその區域を以て高山市を置く。大名田の地は近古大名田郷に屬し、飛騨高原中の平坦地にして即ち大野郡名の起因なり。

オーナミイケ　大浪池山　鹿児島縣姶良郡牧園村東部、韓國岳の西南に近く、標高一四一一米。大浪池と呼ぶ椀式的火口湖を藏ふ。湖の直径一〇〇米、火口壁の最高所より約一七三米低く、水深は約一〇米。往時山麓民は此池に龍神潜みて風雨雲霧を起すと信じたり。水は清澄にして内壁の急崖は針葉樹・闊葉樹の大密林をなし、九州第一の山湖の景觀を呈し鄙謡・青葉・紅葉・霧氷の美を以て知らる。南麓には明礬湯・瑩尾湯の温泉湧く。

オーナラ　大奈良　省線小海線の一驛（大正四年設置）。長野縣南佐久郡田口村田口にあり。

オーナリ　大成　尾張國（愛知縣）の古地名。中世の荘名にして、東寺領なり。荘號は延元元年の東寺文書に見ゆ。荘域は今詳ならざるも海部郡市江村の邊に當るもののの如し。

オーナル　大成　愛媛縣喜多郡にありし村。大正十年に大藪村と共に廢され大川村を置く。

オーナルト　大鳴門　阿波の鳴門海峡の一部の名稱。小鳴門に對していふ。西鶴諸國ばなし・三「人々に迫められて、もろ〳〵の小盃をふり捨て、阿波の大鳴門小鳴門と名付て、渦まく酒をよろこぶ」

オーナン　鶏南　朝鮮總督府鎮道慶全西部線の一驛（昭和七年設置）。朝鮮全羅南道和順郡西面にあり。

オーナンシ　大汝山　大汝山ともよぶ。富山縣立山山脈の最高峯（三〇三五米）。富山縣中新川郡立山村中部に位し、その南の雄山・富士の折立岩と共に立山本峯とも稱せらる。雄山よりは北殺を辿れば約一時間にて達す、展望絶めて廣闊なり。雄山頂上宮の製宮を置かるることあり。※立山

オーナンブ　大南部　陸中國（岩手縣）盛岡の別稱。

オーニシ　大西　出雲國（島根縣）の古地名。中世の荘名にして、貞永元年の古文書に大原郡大西荘の名見ゆ。いま大原郡加茂町大字大西は荘名の遺稱なるべし。

【大西】 阿波國（徳島縣）三好郡一圓の稱。南海道記・五「阿波の大西より元親自ら兵を出さんとす、彼の大西の邑は四國の境目にして四方成山なれど」

オーニダ　大仁田山　九州山脈東北部の峯。宮崎縣西臼杵郡三ケ所村・諸塚村に跨り、標高一三一六米。東南麓より七ツ山川發して東南流す。北方鞍部に飯干峠、西南鞍部に小原井越（一〇三

大字の山部参。

オーニコー　大丹生谷（おにゅうだに）

丹生川村・吉野郡安堵村と紀ノ川の一部に亦オーニコーと称ずる。

オーニコーシマ　大大島村（おおしまむら）

大分郡東部・宇佐郡の北部。佐伯領内にある東大島大島と其北部の東北部。小島・大島・東・西・中・北・大島・大島・大島

を占め明神ケ嶽(一〇七四米)西部の略〻中央に聳え山脈岐れて南北に連り、南は大向山(一〇四四米)・博士山(一四八二米)・神龍嶽(一三七六米)等の諸山走り、北は延々数軒、虎銀を以て著はれたる御屋敷連山に亙る。志津倉山(一二〇九米)は明神ケ嶽の西南に峙ち、その脈恰も蛛網の如く四方に延び、別に白森山(一一五三米)・給ケ鼻山(一〇二七米)・御剣岳(一二三三米)等の諸峯は南境に對立し、南會津郡との境上を西北に走り、鎌倉山(九五六米)となり更に西に向ひ鷲ケ倉山(九一八米)に連り、西するに從ひ高度を減ず。御神樂岳(一三八六米)は高く新潟縣との境界に峙ち、東に延びて鎌倉山(一一三七米)・國土山(八五八米)・高陽山(九〇四米)となり、西は日尊倉山(一一二六二米)・給ケ森山(一三一五米)に連り郡の西北境となる。只見川は南會津郡より來り舟ケ鼻山中に發する野尻川その他の小溪流を合せて北部を北東に流れ河沼郡に入る。また北部山中に沼澤沼あり。東部低地は阿賀野川の上流大川及びその分流沼川等の流域にて水田發達す。農産は東部低地に多く米穀・人蔘・大麻・漆等を產し、また本郷町の會津塗は世に著はる。西部山地は全くの山林にて薪炭・桐材を主產物とす。交通も地勢の關係より東部低地にやゝ發達し、省線會津線東南部を掠め會津高田驛・根岸驛・新鶴驛を置き、街道また東西南北に通じ若松市に近くバスの便あり、西部山地は交通の便少なく只見川に沿ふ沼田街道は唯一の幹線街道となる。郡名は延喜式に記載なく、蓋し本郡に大なる沼ありしに因む。大沼は現在の沼澤沼、或は高田町附近にもと大沼あり、それによるといふも詳ならず。のち會津郡より分れしもの。延長年中に大沼・河沼の二郡を置き會津大沼と書くもの少なからざりしも寛知集以下大沼郡に作る。また江戸時代に東部の一部分は會津藩に屬し、西部の大部分は幕府直轄地にして御蔵入りと稱す。

【大沼村】 福島縣磐城國西白河郡の中部。白河町の東に隣り、東は福平村に、南は阿武隈川を距てゝ五箇村と相對す。東北より西部にかけ約四〇〇米の丘陵連り、村の中央部には廣き緩かな谷あり、南部の村境を阿武隈川東に流れ、流域に低地發達し、その大部分の地域は水田に利用され、周邊の丘陵地を利用して果樹(葡萄)を產し、また白河石の採掘あり。東北本線西部を通じ、大字久田野驛(大正八年設置)を置き、白河町より石川町に至る街道は中部低地を略東西に通じ、白河との間にバスの便あり。此地は和名抄、白河郡大村郷の地。大字大はその遺稱なるべし。村名は大字大と本沼の各一字をとり名付けしもの。(猪山城)大字大にあり。また猪・猪目山にもつくる。白河町の東郊、南湖の東北に位す。阿武隈川に沿ひ山甚だ高からざるも、要害の地を占む。往古の白河城にして正德二年結城宗廣これに築き王事に盡力し、義良親王をはじめ奉り北畠顯家も此處に駐在せしことあり。永祿年中、結城氏の庶流なる小峰氏は小峰城を築くに及び城廢す。いま猪山の北面斷崖の岩壁に宗廣の忠節を頌せる感忠銘を刻す。

【大沼】 →大沼

【大沼池】 長野縣下高井郡平穩村の山間湖。周圍二・七粁。面積〇・二方粁。湖水は横湯川・夜間瀬川を經て千曲川に注ぐ。附近の志賀火山の噴出物が谷を堰塞せるため生じたるもの。

【大沼】 愛知縣東加茂郡にありし村。明治三十九年、下山・富義の二村と共に廢せられ新たに下山村となる。

オーヌマ　大沼　安房國(千葉縣)の古地名。和名抄、朝夷郡に大沼郷あり。於保奴萬と訓ず。其地は今の安房郡千歳村・豐田村等に當る。丸山川下流の平爽なる地にて所々に沼地あり、蓋しこれに因みて名づけしものか。

オーネ　大根村　神奈川縣相模國中郡の中部。秦野町の東隣にて、北は比比多、東は岡崎、南は金目・土澤の諸村に接す。東部は土地平坦にて水田あるも其他は秦野町東境にある丘陵性山地の東側にて次第に東に降り畑地多し。產物は米・麥・甘藷を主とし養蚕行はれて繭を出す。社線小田原急行鐵道(電車)東北より西南に貫走し、鶴巻温泉・大根の二驛(共に昭和二年開業)を置く。組合立奈珂中學校あり。この地は和名抄、相模國餘綾郡金目郷の内。大字眞田は一に佐那田に作り、城址あり。明應四年大森筑前守藤頼、北條早雲の爲に小田原城を攻落されて當城に遁る。其後屢〻北條氏と戰ひしも遂に利なく一族悉く當城に滅亡す。城は天正の頃に既に廢せられ天德寺の寺域となる。また東鑑に見ゆる佐那田余一義忠は此地の人にして岡崎氏の族黨なり。大字下大槻はもと波多野庄大槻村と稱し大字矢名は矢奈にも作り、もと矢名宿とよばれ毎年盆暮の用具を賣買する市の立ちし所。(鶴巻鐵泉)小田原急行電鐵の鶴巻温泉驛の近くにあり。泉質カルシウム泉。加熱浴用。背後に山を負ひ、前面遠く大磯海岸の白砂青松を眺望の間に眺め風光よく、行樂に適す。

オーネサワ　大根澤山　赤石山脈の支脈大無間山脈の一峯。靜岡縣安倍郡井川村と榛原郡上川根村に跨り、標高二二二三九米。北西方は信濃俣(二二三二九米)に連る。南東方は大無間山(二二三二九米)に連る。西斜面より又川南流して大井川に入る。

オーネシメ　大根占町　鹿兒島縣大隅國肝屬郡の西部。北の大崎良、東の崎良、南の田代・小根占の諸村に隣まれ、西は鹿兒島灣南部東岸に面し西方遙かに揖宿郡指宿町に對す。肝屬山塊の西面に當り東南境に荒西山(八三四米)東境・北境にも四〇〇米臺の山脈連り中部に向つて傾斜し、神ノ川は東部山地に出で西北流して鹿兒島灣に入る。山林・原野甚だ廣く、耕地は西南部の沿岸にあるものを最とす。農產は米・繭・麥を主とし外に林產、馬牛の畜產多く、沿海水產少かちず。大根占港は内務省指定港灣にして主に木材・木炭を移出し、和紙及び洋紙を移入す。此地は小根占村と共に和名抄、大隅郡禰覆(寢の誤ならん)郷の地なり。中世は禰寢院と稱す。古文書に大禰寢院・小禰寢院(禰寢院の古個主小松家蔵貞應元年八月の文書に小禰寢院、同應永十八年十二月の文書に大禰寢院と見ゆ)の名見ゆるより見れば、古くより既に大小二區に分たれしものゝ如し。また一書には禰寢院のうち南侵院・北侵院と記したるもあり。其境域は今詳ならざるも、諸寺を勘合するに當町の地はほゞ北侵院の地なるべし。鎌倉時代の初め禰寢氏當地に高城を築きて附近を領せしが、戰國の初め肝屬氏と相競ひ終に肝屬氏に併呑せらる。然るに豐臣秀吉の九州平定後、肝屬氏は日置郡に移封せられ、爾來島津氏の直轄領となり明治に至る。昭和八年八月町制を布く。〔河上神社〕大字城元に鎮座。郷社。祭神、神武天皇・五瀬命・稚飯命・三毛入野命外二神。創立年代不詳。天正年間、建都重堅社殿を造營せりと云ふ。江戸時代には島津氏の崇敬を受く。社の西南に小山ありて鍋山といふ。社前に川ありて御手洗川と名づく、この川鍋・鮎甚だ多くして本社の使屬と稱せられ捕獲することを禁ず。この二魚死したる時は彼の鍋山に葬り神前に幣帛を備へて神樂を奏す。是は古昔よりの土俗と云ふ。

オーノ　大生　【大生】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄、行方郡に郷名見ゆ。郡の南部に位し東は北浦に臨む。今の大生原村は蓋しその遺稱の轉訛ならん。

【大生村】 茨城縣下鹿國結城郡の南部。鬼怒川と東南境を環流する小貝川に挾まれし地を占め、西南は水海道町に隣り、東は筑波郡菖蒲・福岡の二村、南は同郡十和村と相對し、北は五箇村に續く。東半は低濕にて水田多く西半は低き臺地にて畑地拓け米麥を主產物とす。水海道より谷田部を經て土浦に至る縣道は南部を横ぎりバスの便あり。〔廣大寺〕大字大崎にあり。淨土宗。無邊山阿彌陀院と號す。本尊阿彌陀如來。本郡飯沼弘經寺末。寛永元年當地新田開發の時、傳譽極山上人草創す。開山は三緣山增上寺十七世了學上人。

オーノ　大野　【大野村】 北海道渡島國亀田郡の西北部。函館市の西北方に近し。地西北より東南に延び長さ約二二粁、幅約六粁、面積約一三四方粁を占む。東北は七飯村に接し西南は上磯町に隣り、北は茅部郡森町、椴山郡厚澤部村と界す。西北の半部は概ね山地丘陵にして大野川の水源を成す三角山(五八八米)西北境に聳え、その南に中山峠を作り椴山地方に入る唯一の交通路をなす。東南半部は大野川下流の肥沃なる平野をなし、農產は米を第一とし全生產の八割餘を占め、林產之に次ぎ、畜產・工產亦少なからず。省線函館本線は村の東部を掠め、本郷驛(明治三十五年設置)を置き、縣道函館より來り、大野・本郷の部落を經て、大野川に沿うて西北に向ひ中山峠を越えて椴山郡に至り、本郷・江差間にバスの便あり。また一支は本郷より北上して函館・森間の國道に連る。明治三十三年以來一級町村制を施く。郷社意富比神社あり天照大神を祀る。文化年中鶴人兀老伊の日本圖囚記によれば「かくて山路を登りて頂上に達し、平原と函館市とを眺望す。降りて麓に到るや、大なる村落あり、大野といふ。其地周圍約七八里、三面高山に圍繞せられ、南方には函館港及び津軽海峽を望む、村内數條の小流あり、人家は菜圃及び樹木を以て圍まれ、恰も圍中に村落あるが如し、菜圃には歐洲に產する蔬菜果實と殆同一なり」云々と、以て大野村の昔を想像するに足るべし。〔二股古戰場〕本郷驛の西北約一〇粁、大字市渡江差街道二股にあり。縣道の東北方、二股川兩岸一帶の山野を指す。大砲憂場址・堡壘址等を存し戰死者墓碑一基あり。明治二年四月十三日、官軍の兵六百餘、土方歳三の率ゐる幕軍と交戰し、次いで同二十三日より翌日に亘りて又接戰し、二十五日には官軍退却して上二股を守り、五月朔日遂に幕軍を退け、二日大野に進軍せりといふ。函館戰爭當時の古戰場なり。〔意富比神社〕大字西上町に鎮座、郷社。祭神、大日靈貴尊。創立年月不詳なるも、享保九年修造せし事あり。古來當地の產土神として崇めらる。明治九年郷社に列す。例祭、陰曆七月二十八日。

【大野川】 北海道亀田郡大野村を流るゝ川。長さ約三〇粁。源を村の西北部、椴山郡境にある三角山麓に發して東南流し本郷・大野等の部落を過ぎ、西より下る文月川を入れて上磯郡に入り、戸切地川と合流して有川となり、上磯町の南方にて函館灣に注ぐ。函館・江差間の通路は專ら此川に沿ひ、本郷・大野・上磯等の主要部落は概ね此川によりて發達し、附近は亦重要生產地をなす。

【大野村】 青森縣陸奥國東津軽郡の中部。青森市の南に隣り東南は荒川村・高田村に、西北は濱内村と界す。本村は東北部の平地と西南部の丘陵地とに分たれ東北平地は青森平野の西端を占め、西南部は八甲田山麓に續く丘陵地(洪積層)にして東南境に榮山(一四四米)あり、高田村の南境に發する入内川は東北平野を貫流す。生產品は米穀・藁工品にして近時丘陵地帶には畑作行はれ、梨果の植付も

【大釣村】 埼玉郡の西北部に位する村。北は利根川を隔てて茨城郡に接し、東は大字小久保・大字小新井・大字小山・大字小泉・大字小袋・大字小倉・大字小代・大字小林・大字小宮・大字小島・大字小谷・大字小田・大字小沼・大字小堤・大字小屋・大字小原・大字小川・大字小高・大字小瀬・大字小塚・大字小沢・大字小滝

して四ノ宮たり。故に四ノ宮明神とも云ふ。延久三年八月源頼朝北の方の產氣に依り諸社と共に當社へも神馬を率り社領として朱印地十石を寄進す。社殿は本殿一宇、境内地二千百十八坪。例祭、九月二十八日。

【大野村】 新潟縣越後國西頸城郡の中部。糸魚川町の南、姫川の右岸にて西は今井村、東は西海村、南は根知村なり。東境には二百米臺の山支南より北に走り山地なるも、西半部は姫川下流の平地にて水田よく拓け、米の產多く、薪その他の農產これに次ぐ。省線北陸本線糸魚川驛に起る大糸北線と松本街道は姫川の東を南方に走り、前者は頸城大野驛（昭和九年設置）を設け、後者は北の糸魚川町、南の小瀧村平岩へバスを逆ず。此地或は和名抄、頸城郡沼川郷の内に屬せるか。中世根知村と共に根知谷と總稱されし地にして、江戸時代には番所を置かれたり。

【大野】 佐渡國（新潟縣）の古地名。和名抄賀茂郡に郷名見ゆ。其地域明かならざるもいま佐渡郡新穂村の邊ならん。同村の大字に大野あり、郷名の遺稱なりといふ。

【大野】 越中國（富山縣）の古地名。和名抄、礪波郡に郷名出づ。その地域明かならざるも或はいま庄川（射水川）左岸の庄下・南般若・太田・中野等の諸村に亘る地か。萬葉集巻一六巻、越中國の歌に大野路あり本郷を逆ずる道路を指せるならん。

【大野路】 越中國（富山縣）の歌四首の中に「大野路は繁道の毒径繁くとも君し通はば標は賜け行」とあり。今高岡市の南部の町名に大野あり。射水川（庄川）の左岸の平野に位す。往昔の大野路は或は此邊に求むべきか。

【大野村】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金石町・金澤市の北に隣り西北は日本海に面す。面積僅に一・六六方粁、河北潟より出でて西南流する大野川町の中部を西北に貫きて海に注ぎ、川の北の東部に栗ケ崎より續く砂丘ある外は土地低平、米を主產とす。此地は和名抄、加賀郡大野郷の内。大字畝田は靈異記に加賀郡大野郷畝田村とある地なりといふ。〔大野湊神社〕 大宇寺中に鎮座。縣社。祭神、狭田彦大神・天照大神・地主護國八幡大神外數神。式内社。天正十四年前田利家入國の際これを再興し、社領を寄附し大野庄十五箇村をして祭祀米を供せしめ、次で利長は社殿を再營し、戰勝の報賽として幣殿並び社殿神器に至るまで悉く調進す。近郷二十一箇村の產土神たり。例祭、五月十五日。

【大野】 石川縣石川郡にありし町。もと上金石町と云ひしが明治三十一年大野町と改稱。昭和十年金澤市に編入。因みに町名大野は和名抄、加賀郡大野郷の遺稱とす。

【大野】 加賀國（石川縣）の古地名。和名抄、加賀郡に郷名見え中世には大野莊と稱し臨川寺領たり。石川縣河北潟より出づる大野川河口の金澤市に大野町あり、郷名の遺稱にして義經記にも大野渡・大野湊の名見ゆ。即ち大野町を中心として同市栗ケ崎より石川郡金石町等に亘る地方をその地域とす。

【大野の渡】 加賀國（石川縣）の古地名。文治三年源義經北陸道を經て忍び奥州に下る際此處を經過せる由、義經記に見ゆ。其地今石川縣河北郡にある河北潟の排水大野川の渡船場を稱せしもの。また同書に大野の湊とあるも亦此渡附近の船著を稱せしもの。

〔大野の港〕 義經記に見ゆる古地名。大野の渡の項參照。

【大野郷】 福井縣二市十一郡の一。越前國の東半にて縣の東北部に位し、西は吉田・足羽・今立の三郡に接し、北は石川縣江沼郡・能美郡に、東は岐阜縣大野郡・郡上郡に、南は同縣武儀・本巣・揖斐の三郡に界す。面積約一二九六方粁、縣下全面積の三〇%を超ゆるも人口は一二%餘に過ぎず、密度は一方粁に僅に六二人に止まる。東北境より北境には白山火山群・大日火山群の峰峯相並び南境には濃越山地、西界にはその支脈北方に延びて四周を遮ぎり、山地廣くして自ら一別天地をなす。郡の中部には荒島岳（一五二四米）ありて郡内を東南部の穴馬谷と西南部の西谷に分ち、九頭龍川東南境に發して穴馬谷の諸水を併せて中央部に出で、南西境に出づる眞名川北流して西谷の水を合し西北部に於て九頭龍川に入る。九頭龍川はこれより大日火山の南側に東西に走る斷層谷を西流して西方福井平野に出づ。かくて郡内殆んど山地をなすも西北部には九頭龍・眞名二川の流域に割はゆる大野盆地を作り、本郡の主要生產地區をなし、農產に米・麥その他の穀類・馬鈴薯・大麻等あり、また養蠶榮えて繭を出し、工產に生絲・織物・醸造物等を挙ぐべし。美濃街道は福井市より來り、大野盆地の中心都邑大野町を經て穴馬谷に入り東南界の油坂を隘えて郡上郡に出で、勝山街道は同じく福井市より九頭龍川の峡流に沿ひ郡の西北部なる勝山町に達し、また越前冠氣線は勝山街道に沿ひ勝山を經て大野に至るも交通の便なほよろしからず。たゞ岐阜と福井を繋ぐ省線越美線完成の曉には面目を一新すべきものあらん。延喜式には郡名見え、和名抄は於保乃と訓じ、大山・毛屋・加美・賀母・出水の五郡を置く。按ずるに諸本、足羽郡の野田・上家・川合・利刈の四郷を本郡に繫ぐも誤なれば高山寺本に依りて正す。尚和名抄は郷名を闕くも今の大野町の地は郡家のありし處にて大野郷と呼びしものの如し。戰國の頃私に北境を割いて今北郡と稱せしが寛文中舊に復す。爾後大藩化なく以て今日に至る。〔あられ

ぶに穢息地）指定天然記念物。古來アラレガニの產を以て知られる。アラレガニはカジカ屬の魚にして大なるは體長三〇糎に達す、晩秋より初冬に亘り河を降り河口附近にて蕃殖す。

【大野町】 福井縣越前國大野郡の西部。北は下庄村、東は上庄村、西は小山村に隣接し、北方勝山町へは約八粁を距つ。大野盆地のやや西偏に位し土地低平にして南部の外到る處水田よく拓け、農產に米・繭あり、外に畜產あるも、町の主生業は織物業にして絹織物の產額は全町生產總額の半に達し、また大野盆地の中心都邑として地方的の商業榮ゆ。越前電氣鐵道福井市より來り大野三番の終端驛を置く。縣立大野中學校・縣立大野高等女學校あり。此地は西北に近き乾側村と共に和名抄（高山寺本）、大野郡大沼郷の地なり。一に沼は野の誤にして大野郷ならんともいふ。中世以降は伊野邊庄とも稱す。町内に朝倉義景自刃の舊蹟及び墳墓地あり。〔大野城〕 一に龜山城。天正三年織田氏の將金森五郎八長近、大野三萬石に封ぜられ、犬山城を毀ち龜山の新城を興す。長近のち飛騨を代もて高山へ移る。豐臣氏の時、文祿元年織田信雄の子秀雄の居城となる。慶長五年結城秀康福井に入部し、其臣土屋左馬助、小栗備後等を大野に置く。元和九年秀康の三男松平出羽守直政に分與せられしも、寛永十年信州松本に移り、同十三年弟結城大和守直基これに代る。正保元年直基出羽山形に移り弟但馬守直良これに代る。天和二年若狭守直明播州明石へ移るに及び土井能登守利房に本城四萬石を賜ふ。爾來子孫相繼ぎて明治維新に及ぶ。明治四年落を廢し一旦縣となりしが、間もなく廢せられて福井縣に入る。今城址は龜山公園となる。〔亥山城〕 一に居山に作る。俗に山王堂山と稱する丘陵を指せるものか。延元年中新田義貞の將堀口氏政此地に據りて王事に盡す。太平記には延元四年七月堀口兵部大輔氏政五百餘騎を率ゐて居山の城より打つて出で、香下・鶴澤・穴間・河北等十一箇所の城を五日の中に攻め落し隣人千餘人を引具して脇屋義助の陣所河合莊へ赴ける由を記す。義國の頃は朝倉義景の將式部大輔景鏡これに居り、天正元年景鏡、織田氏に内應し之がため義景自刃するや景鏡は義景の首級と母子を信長に獻ず。天正三年一向一揆起り景鏡それに攻め殺さる。のち幾許もなく一向一揆の徒は織田氏に亡ぼされ、これより柴田氏の屬城となる。同十一年賤ケ嶽の戰に柴田氏滅亡し、城終に廢す。〔柳廼社〕 大宇龜山に鎮座。縣社。祭神土井利忠。明治十五年五月の創建。利忠は大野藩主にて天保十五年藩學明倫館を創め大いに文武を奬め、また蘭學を重んじ諸藩に先もて明倫館に和蘭の學科を設け、嘉永の末年校外に蘭學所を設く。なほ洋式の帆船を造りて北海に遊航し砲術を勃興せしむる等その功績著しきものあり。明治元年五十八歳にして薨ず。同四十二年、生前の功により從三位に叙せらる。例祭、五月三日。〔蘇原神社〕 小宇蘇坐に鎮座。縣社。祭神、大己貴命。一にシノクラ神社とも云ふ。式内社。縁起によれば、創建は元正天皇養老元年にして口碑に傳ふるところも亦同じ。元龜年間に朝倉氏滅亡の時兵燹に罹り、社殿・典籍・舊記を灰燼に歸す。元和年中、大野龜山の城主金森長近社殿を再興す。例祭四月二十一日。大祓日には氏子等は境外の川瀬に身禊を行ひて後に祓式を享く。十二月の大祓式の如きは、凜烈の餘に拘らず男子は老若の別なく吹雪を冒すもなほ水に入り身を清むと云ふ。〔清瀧神社〕 大宇清瀧に鎮座。郷社。祭神、大國主命・天照大神・大國魂神・一言主神。もと大野城卽ちいまの大野町龜山營上にありしが、天正年間に現在の地に遷祀すと云ふ。大野藩主土井氏の產土神として崇奉せらる。江戸時代には隔年二月七日の祭禮に神輿城内に渡御し、行裝を整へ、頗る賑殷なりしと云ふ。現今五月七日例祭を行ふ。なほ祭神大國魂神は延喜式内社國生大野神社として大野町薬重宇花畑に鎮座せしも明治四十二年本社に合祀す。〔日吉神社〕 大宇神明に鎮座。郷社。祭神、大山咋命。創立年代不詳。領主朝倉義景築城の際守護神として郭内に勸請せりと云ふ。同町の產土神として庶民の尊信篤し。例祭、五月十五日。〔敎願寺〕 西二番にあり。眞宗本願寺派。梅原山と號す。本願寺綽如の第三子玄眞を開基とす。もと越中國礪波郡山田梅原庄にありて世に梅原道場と稱せり。天正年間、全國檢地の際に檢地奉行の宿所となりし故を以て爾來寺領除地となる。寺寶に惠心筆來迎三尊像・親鸞筆九字十字名號・蓮如筆六字名號等あり。〔敎願寺〕 大宇西四番にあり。眞宗大谷派。田野山と號す。本尊は春日作阿彌陀如來。專願法師の開創。初め本郡田野村にありしが、天正年中大野城主松平氏の歸依により今の地を與へられて此處に移る。現堂は明治十二年專學法師の建立せるもの。〔善導寺〕 宇寺町にあり。浄土宗。光明山と號す。本尊は傳賢間子作阿彌陀如來。開基は土屋左馬亮正明、開山は筑後國悟眞院光明山善導寺の住大譽鏡山上人なり。寛永年中松平大和守直基の香華院となり、天和年中土井能登守利房の歸依亦篤かりしといふ。〔大寶寺〕 宇寺町にあり。眞言宗高野派。聖衆律師本郡小山莊阿蘇瓶谷に草創。第七世善恕法師の時土橋の庄に移る。天明九年火災に罹り諸堂灰燼に歸したるも先住祐圓法師再建す。古來武門の歸依篤し。〔長勝寺〕 宇寺町にあり。眞宗本願寺派。草創年次不詳。寶德年中佐佐木長勝剃髮して西願と號し、本郡に來りて野津又村に再建。五世の代、大野城主松平出羽守直政より今の敷地を與へも

れて之に移る。〔本願清水いとよ棲息地〕指定天然記念物。イトヨの棲息地として本邦有數のものなり。イトヨは海に棲み小流を遡りて蕃殖するものなるも、此地に產するは海に降ることなく五月頃より秋に耳り雌は池底に巢を構へ蕃殖の後その巢を護り稚魚の養育に當る。

【大野盆地】 福井縣大野郡西北部の平地。白山火山群の西南部ト濃越山地の北側をなす第三紀安山岩の地との間に九頭龍川上流と支流飯名川とのなせる神積層の盆地。東西約一〇粁南北約一六粁。九頭龍川はその東緣を北流し飯名川はその中部を潤して盆地の北部にて合一し、更に北流して鷲山町附近にて俄然左折し斷層谷を西流して越前平野に出づ。盆地は特地よく發達して農業行はれ米・生絲・煙草等を產す。西部に位する大野町その中心都邑をなし、京都冠燈會社の越前電氣線によりて福井市に連ずる外、交通の便なほよろしからざるも、省線越美南線延長の曉には面目を一新するものあるべきか。

【大野】 甲斐國(山梨縣)の古地名。和名抄、山梨郡に大野郷あり於保乃と訓ず。蓋し地形によりて名づけしもの。其地今詳ならざるも東山梨郡西保村・諏訪村等に當るか。一に春日居村・平等村・加納岩村等の地にて加納村大字大野はその遺称なりともいふ。

【大野】 ←身延町(山梨縣南巨摩郡)

【大野】 信濃國(長野縣)に置かれし牧。延喜式左馬寮、及び東鑑文治二年三月の條にその名見ゆ。其の地今の下伊那郡智里村の三州街道に大野なる部落あり。これ大野牧の遺稱なり。拾芥抄・中末・本朝國郡「牧名、山鹿・鹽原・岡屋……大野・大屋……(已上信濃)」

【大野郡】 岐阜縣三市十八郡の一。縣の東北部に位し、飛騨國の中部に當り、北は吉城郡及び富山縣東礪波郡に、南は益田郡と郡上郡(美濃國の北部)に隣り、東は長野縣南安曇郡に、西は石川縣鹿島郡(加賀國の東南部)と福井縣大野郡(越前國の東部)に界し、ほぼ中央部に高山市を包擁す。東西約七〇粁、南北最廣約五〇粁(平均約二五粁)の廣地積に亘り面積實に一五六四方粁餘にて縣下諸郡中の首位を占むるも、人口僅に三萬に滿たず、密度は一方粁に一九人にて縣下の最下位にあり。謂ゆる飛騨高原の中央を東西に延び、東境に乘鞍岳(三〇二六米)、西界に白山火山(二七〇二米)、南境の中部に川上岳(一六二八米)・位山(一五二九米)等蟠踞し、土地一般に高く一千米を超ゆる地多し。東南部は益田川、中部は神通川の上支たる川上・大八賀・小八賀・小島の諸川、西部は庄川の上流白川の流域に分かれ、中部高山市附近には最大の平地を見る。米・麥・大豆・粟・稗等の農產あるもその額多からず、養蠶行はれて繭を出し、馬・牛の畜產次第に多きを加ふ。交通は高山市を中心に、東南(木曾街道、南(益田街道、西南(郡上街道、西北(越中街道通じ、益田・越中兩街道にはバスの運轉あり。また西部白川谷には白川街道南北に通ずるも交通便利ならず。近時省線高山本線ほぼ益田・越中兩街道に沿ひて南北に通じたために郡の中部の交通は大いに利便となれり。建郡の期は詳ならざるも、初め大八椅命大野郡に治し、田野漸く拓くるに及び、荒城郡を建てしものなるべし。荒城は即ち新鮫なり。三代實錄貞觀十二年紀に飛騨國大野郡を分ちて荒城郡を置くの記事あり。のち貞觀中更に益田郡を分ち飛騨三郡とす。和名抄は於保乃と訓じ、大原・三枝・阿邦・山口の四郷を置く。拾芥抄に大原に作り、和漢三才圖會に天野とあるも蓋し何れも大野の誤なるべし。

【大野(郡)】 美濃國の舊郡名。按ずるに美濃・飛騨・越前に又大野郡ありて三郡相連亘す。蓋し上古或は一國たりしものか。建郡の期詳ならざるも、續日本紀大寶二年の條に美濃大野郡人神人(かんびと)大八跨馬を獻ずるの記事ありて郡名始めて見ゆ。和名抄は於保乃と訓じ、揖斐・大神・明見・三桑・上秋・下秋・郡家・志麻・大田・石太・栗田・七埼・驛家の十三郷を置く。のち三桑郷は本巢郡に入り、栗田郷は池田郡に屬し、而して池田郡の伊福、本巢郡の安埼、方縣郡の大唐の三郷の地を併せ、私に古橋・川崎・平野・神秋・志名・清水・揖斐・岐禮・根尾の九荘、靈田・呂久の二郷と稱す。明治二十九年廢してその大部を池田郡に合せ揖斐郡と稱し、その餘即ち藪川以東を本巢郡に合す。

【大野町】 岐阜縣美濃國揖斐郡の東南部。大垣市の北方、岐阜市の西北方に當り各々約十二粁を隔つ。西濃平野の北部に位し、糸貫川の分流藪川東南境を流れて本巢郡一色・土貴野・彈正の三村と界す。土地平坦、水田到る處に拓けて農業行はれ、米・麥・柿・竹・豆類等の產あり、また住民の約半數は商業に從事す。駅線名古屋鐵道揖美線(電車)通じ、下方・和泉・黒野(共に大正十五年設置)・麻生(昭和三年設置)の四驛を設け、黒野より駅線谷汽鐵道(電車)分岐して黒野西口・黒野北口(共に大正十五年設置)の二驛を置き、交通便利なり。この地は和名抄、美濃國大野郡下秋郷(一に下杖・下秋にも作ると)の内か。明治二十二年、北隣の豐木村・富秋村と共に組合町村をなし、役場を豐木村に置き、昭和七年町制を布く。往昔一帯の大野原なりしより町名出づと。大字黒野は文祿二年甲州谷村(たにむら)の城主加藤光泰朝鮮の役に卒し、子貞泰幼少なりしより四萬石を以て此地に移され陣屋を置きし地。貞泰は慶長十五年伯耆米子に轉封、のちまた伊豫に移さる。〔八幡神社〕 大字黒野に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。創立年代不詳。領主加藤

氏の崇敬を受けしと云ふ。また附近七箇村の產土神として村民の崇敬篤し。

【大野】 駿河國(靜岡縣)志太郡の古地名。類聚國史淳和天皇の天長八年駿河國荒蹟田四十町を開墾せしめ大野牧とすとあり。和名抄には大野郷名見ゆ。其地域明かならざるも荒蹟地を拓きて牧場となせるより見れば郡の南部の平坦の地方にはあらで、大井川に沿へる山間の地方なるべし。然れば今の東川根村の邊に當るか。當村の東方郡境にある智者山を一に大野山と稱すといふ。

【大野】 愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年大草・陶の二村と共に廢せられ篠岡村(シノオカ)となる。

【大野町】 愛知縣尾張國知多郡の中部。常滑街道に當る一都邑にて旭村の南、鬼崎村北に介在し、東は三和村に隣り西は伊勢灣に臨み、面積僅に〇・四二方粁。製糸・織物業行はる。駅線名古屋鐵道常滑線(電車)の大野町驛(明治四十五年開業)あり、また東は半田市、北は岡田町へバスを通じ交通便利なり。郡の舊邑にして室町時代に一色氏の居りし所。大野海水浴場は新舞子の南に連なり、納涼棧橋・人造海水大浴・兒童海水プール・潮湯の千鳥温泉等の設備あり。この潮湯は、舊記によれば順德天皇の建暦二年に初めて潮湯治の名により行はれしと傳へ、鴨長明も來浴せりといひ「生魚のおあへも消し酒もよし大野の湯あみ日數重ねむ」の歌あり。〔齊年寺〕 曹洞宗。後柏原天皇の朝永正十二年三月、宮山城主佐治駿河守宗貞、亡父宗安香提の爲に城内に一寺を創し瑞雲和尚を請じて開山となす。宗貞の法名書年喜山に因み、のち寺號を現號に改め佐治家歴代の位牌所となる。本尊は釋迦如來。寺寶中、惠可斷臂圖一幅(紙本淡彩)は、雪舟筆の大作にて國寶。例年舊二月二十八日、同八月二十八日に大野不動尊の大祭會執行す。〔東證寺〕 浄土宗西山派。嚴松山と號す。慈覺大師の草創。初め天台宗たりしが東嚴惠全和尚偶々天悅上人伊勢參宮の砌、風波のため當山に碇して教化するに遇ひ、歸依して本宗に改む。中興開山は祖誕上人。慶長年中德川家康朱印・寶物を寄附す。いま末寺九箇寺を統ぶ。境内に家康手植の松あり。〔光明寺〕 浄宗大谷派。寛德太子の草創にて後醍醐天皇の勅願所たり。もと天台宗なりしが嘉禎元年親鸞上人の法弟佛性法師改宗す。法師は在原業平十三世の孫荒尾公平の子といふ。慶長五年兵燹のため古殿狀並びに堂宇を燒失す。〔海音寺〕 臨濟宗妙心寺派。境内に藥師堂あり。堂前に藥師如來海中より出現して立たせ給ひしと傳ふる來迎石といふ天然の三石あり。又藥師如來御夢想の名方と唱ふる靖毒の靈藥を出し、潰藥師として有名なり。寺の西北海濱に岩の婚りて海水を湛ふる所あり。こゝにて海水浴を試みるを大野の潮湯治と稱し古來名高し。

【大野】 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄、額田郡に大野郷あり。同書は訓を闕くも美濃の大野郡の例により於保乃と訓むべし。蓋し地形によりて名づけしものなるべし。其地今詳ならざるも額田郡額田町の邊なちんか。一に常盤村・河合村の地に當るともいふ。

【大野町】 愛知縣三河國八名郡の北東部。豊川の上流三輪川の左岸に沿ひ、東北は七郷村、南は山吉田村に隣り、西北は川を挾みて南設樂郡長篠村に對す。面積僅に三・七二方粁、山林・畑地多く農を產す。別所街道に當り、また對岸長篠村富榮に社線鳳來寺鐵道(電車)の三河大野驛あるも交通はなほ便利ならず。此地は和名抄、三河國八名郡美夫郷の地にして、明治二十三年もとの大野村の各大字が獨立一村をなす際、大字大野も大野村を設け、同二十五年町制を布く。町内に阿寺の瀑布・大野冷泉(ラヂウム)等の名勝あり。

【大野】 愛知縣八名郡にありし村。明治二十三年本村の大字細川・跡平・井代・能登瀬・名越・名號・大野は各々獨立して一村となる。同三十九年細川・跡平・井代・能登瀬・名越・名號の六箇村は高岡村と共に七郷村を新設し、大野は明治二十五年大野町となる。

【大野】 近江國(滋賀縣)の古地名。中世の荘名なり。興國五年の文書に見えて、妙法院門跡領なり、後には青蓮院門跡領たり。いま滋賀郡眞野村に大字大野あり。

【大野村】 滋賀縣近江國甲賀郡のほぼ中部。東の土山町、西の水口町に挾まれ南はほぼ横田川を境として佐山村に對し北は蒲生郡南比都佐村に界す。北境東西に高度低き丘陵あるも其他は土地平坦にして田畑よく拓く。農產に米・麥・茶・桑等あり。養蠶行れて繭の產少からず、また林產あり。獨東海道に當り、また南は寺庄、北は日野町へ道路通じ、舊東海道にはバスの便あり。村内に市場及び頓宮の大字名あり。この地は蓋し古の甲賀驛なり。延喜式甲賀驛馬二十疋とありて、江家次第にも參宮勅使進發の條に「到二甲賀驛宿一、國司供給」と載す。頓宮とは伊勢齋王の行在に因める稱にて、又國司供給の一所なるべし。源平盛衰記養和元年奉幣使勢州へ下る條にも、近江國甲賀の驛屋とあり。延喜式垂水頓宮と云ふも亦之に同じ。又延喜式六所界川御禊の一は近江の甲賀川と云へり、又此地の水流なるべし。〔實珠寺〕 浄土宗西山派。平松山光明院と號す。もと眞言宗の瓦刹にて山名修理大夫當國守護の菩提所たり。明德四年山名氏沒落して荒記鉛失す。大永中此處に一宇の草庵を結びて今の本尊を安置し現宗に轉ず。〔地安寺〕 大字前野にあり。黄檗宗。創建山と號す。本尊は聖觀世音、脇士、多聞天・不動明王。寛德太子の草創。もと天台宗なりしが、天正

の上流。

【大飯】 丹後国(京都府)北部にあり、北は今の中郡口大飯村・東大飯村及び佐伯村の境に接す。

【大飯】 新撰姓氏録に大飯君あり、[illegible]に[illegible]に[illegible]に

波町に至る經小屋山の坂路は一方海嶽に貫り險要の地たり、慶應二年德川幕府の軍長州征伐の途次ここにて大敗せり。また中山峠は古くおふの中山といひ駅枕として知らる。遊行捌「昔たれかけにもせむとまく椎のおふの中山かくしけるらむ貞世」

【大野】 備後國（廣島縣）の古地名。和名抄、深津郡に大野郷あり。その地域未だ詳かならず。或は大野は木野の謬にして中世木野莊となり後に木之庄・本庄の二村に分るといふ。其地は芦田川の下流の東岸に沿ひ、いま福山市に入る。

【大野瀬戸】 廣島縣安藝國佐伯郡の南部にある瀬戸。大野村と能美島との間の水路。南は能美島の南端草浦崎と安藝・周防兩國境を流るる木野川の河口を限り、北は能美島の北端塩崎と地御前との間をいふ。長さ約一四粁。幅最も狭き處僅かに〇・六粁。瀬戸の東北岸、能美島町の北部に有名なる能美島神社あり大野村の地藏ケ鼻との間に連絡船の往來、遊覽船の設備あり。

【大野】 周防國（山口縣）の古地名。和名抄、玖珂郡に郷名見ゆ。其の地域いま明かならず。日本地理志料は防府東大寺建久六年國判に玖珂郡相乃里とあるにより相乃は即ち大野の轉なりといひ其の地を本郷村・深須村・廣瀬村の邊に置かんとするも尚致ふべし。

【大野村】 山口縣周防國熊毛郡の東南部。平生町の東に隣り、東は伊保庄村に界す。東南境にある大星山（四三一米）の山嶺東境を北方に連亘し、地西に緩やかに傾く。村内よく開墾せられて耕地多く農産に米・麻ありまた工鹿に輻廣小倉・綿木綿等の綿織物を出す。省線柳井線の柳井駅（柳井町地内）、平生町等に近く交通便なり。此地は和名抄、熊毛郡多仁郷の地なるべし。村名は往昔用明天皇の御代大野帶刀宗包この地に居し彼若皇后の御跡を弔ひ寺りしより其家名を取りしものといふ。また大字大野に古刹岩城山神護寺あり、その鎮守を岩城明神といひ、延喜式の熊毛郡石城神社に當るものの如し。

【八幡宮】 大字大野宇南宮原に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后・仲哀天皇・天照皇大神。創立年代不詳なるも蓋し宇佐八幡を勧請したる古社にて、江戸時代には一石八斗餘の除地を有せり。また一に神明宮とも稱せりと云ふ。〔神護寺〕大字大野にあり。弘貞宗卿室淵。石城山と號す。推古天皇の朝百濟國琳聖太子の開創。天平神護元年稱德天皇當山に行幸遊ばされ石城山神護寺伽藍院の號を賜ひ勅願を下附せらる。後石城神社の別當たり。明治維新後本郡遠田村にありしが、神佛分離の際、神體を護りて今の地に移り松運寺と併合す。

【大野】 長門國（山口縣）の古地名。中世の莊名にて、東福寺領なり。また宋武文書（文明十年八月廿三日大内政弘朝地判）「下宋武彌三郎弘匡、可令早領知長門國豐東郡大野莊内拾石地、云々」と見ゆ。いま豐浦郡豐東村の大字に上大野・下大野の名あり。莊域は此邊に求むべきものなるべし。

【大野村】 徳島縣阿波國那賀郡の東北部。富岡町の西方約四粁。北はほぼ那賀川を界として羽ノ浦町に對し、東南は中野島村・長生村、西は加茂谷村なり。南半は山地なるも、北半は那賀川下流々域の部。那賀平野の一部に當り、田畑よく拓け、米・麥・繭を主產す。省線牟岐線の古庄駅（羽ノ浦町地内）に近く、また街道は羽ノ浦町に通じバスの便あり。この地は和名抄、那賀郡大野郷の地なるべし。〔城内神社〕大字上上野に鎮座。郷社。祭神、豐田別命・大山咋命。創立年代不詳なるも地方の古社にて近郷上下の尊信篤し。例祭、九月十五日。

【大野】 阿波國（徳島縣）の古地名。和名抄、那賀郡に郷名見ゆ。中世は大野莊といふ。即ち東寺文書「平治元年實莊院御莊園阿波國大野莊」と見ゆ。國白遣家この地を管すといふ。いま那賀郡に大野村あり、同村より東方中野島村・長生村に亘る那賀川下流の地に郷の地域を擬定すべし。

【大野村】 香川縣讃岐國香川郡の中部。佛生山町及び後野村の西に隣り、北は一宮村に西は香東川を距てて川岡村と相對す。面積僅に四・二方粁の小村なるも高松平野の一部に當り土地平夷にして東部に灌漑用池あり、田畑よく拓けて米・麥を主とし、煙草等の產も少からず、養蚕また行はる。佛生山町に近く、ここよりは高松市へバスの便あり。此地は和名抄、香川郡大野郷の地なるべし。本村は此郷の中心地を占むるより村名起るといふ。

【大野】 讃岐國（香川縣）の古地名。和名抄、香川郡に大野郷あり於保乃と訓ず。その地今の香川郡大野村・後野村・一宮村等の地に當る。姓氏錄に大野朝臣は大荒田別命の後なりとあり、或は其裔の居りし所か。足利時代諸家系帳に讃岐國大野氏あり。蓋し此地の人なるべし。

【大野】 讃岐國（香川縣）の古地名。和名抄、三野郡に大野郷あり於保野と訓ず。今觀音寺川流域に三豊郡の財田大野村あり、太字の大野は郷名の遺稱なるべし。

【大野山】 四國山脈西南部山脈の峯。愛媛縣東宇和郡田之筋・渓筋兩村界に跨り高さ七九七米。山嶺南方の大例山に連なり、宇和川支流の谷を分つ。

【大野】 土佐國（高知縣）の古地名。和名抄、吾川郡に大野郷あり。東大寺要錄卷六に、造寺司謹天平勝寶四年十月に土佐國一百戸、土佐郡鴨部郷五十戸、吾川郡大野郷五十戸とあり。其の地域は今伊野町及び弘岡上・弘岡中・弘岡下の三村の邊なるべし。

【大野山】 一に大城山。福岡縣筑前國筑紫郡大野村・水城村及び糟屋郡宇美町に

跨る山。古くはオーヌと訓む。標高四一〇米。大宰府の北にあり、大宰府の鎮城にして我國築城の始めなる大野城のありし處なるより大城山と稱し、地の和名抄御笠郡大野郷に屬せしを以て大野山といふ。四天王を安置する寺の創建せられしよりまた四王寺山の稱あり。西北の高峰なる鼓ケ峰は、これ往古大城ありし時、鼓吹を訓練せし處なり。又側に火の尾と云へる峰あり、是烽臺の址なり。風葉・五「大野山霧立ちわたる我か嘆く息嘯の風に霧立ち渡る」同・八「大伴坂上郎女筑紫の大城山を思ふ歌一首　今もかも大城の山に霍公鳥鳴き響むらむ吾無けれども」〔大野城及び四王寺址〕指定史蹟。字美町及び筑紫郡太宰府町・水城村に亘る。山頂に延長五二〇〇米餘に及ぶ土壘の諸所に石壘を交へ、不規則に環狀をなして繞されたる壁壘址あり。これ天智天皇四年八月勅して百濟の達率憶禮福留・達率四比福夫を遣はして肥前の嶮城（記・椽城）と同時に南北相對して築營せしめ給ひし大野城の遺址なり。水城と同じく大宰府防備の目的に出たるものにして、文武天皇二年三月大宰府に命じて修築せしめらる。奈良時代の末に至り光仁天皇寶龜五年新羅祈禱のために大宰府をして四天王の塑像四軀を造りて山上に安置せしめ、最勝王經四天王護國品を修誦せしむるに及び四王寺創建せられ、城は四王寺城とも稱せられるに至れり。寺跡はその後大宰府と共に衰へ、鎌倉時代に入りて少貳氏により維持せられしが、室町中期に至り今川了俊九州探題となり、少貳氏大宰府を追はるるに及び漸く廢滅に歸す。遺址は土壘・石壘の外に城門址・水門・礎石等を存し、石壘は横撥口・坂本口及び宇美口等に遺存し、宇美口のものは俗に百間石垣と呼ばれ、長さ一八〇米、高さ三米半に及び、城門址は國分口・坂本口・大宰府口等に存し、礎石・數石線のもの遺る。また四王寺部落の東北山頂に主殿司の遺址と稱せらるる巨大の礎石群あり。四王寺關係の遺址は大城山上の毘沙門堂址、國分口附近の廣目天堂址、大宰府口に近き增長天堂址、大原山上の持國天堂址等にて、礎石・井戸等遺存し、毘沙門堂石祠の背後よりは昭和二年經塚を發掘して經筒・石佛等を得たり。また城址の南にある岩屋山城址は天正十四年島津義久が薩南の大軍を率ゐて豐臣秀吉方の高橋紹運を攻めて戰死せしめし古戰場にて山上にその墓あり。書紀・天智天皇「四年秋八月……遣二達率憶禮福留、達率四比福夫筑紫國一、築二大野及椽二城一」續紀・文武天皇「二年五月……甲申、令二太宰府一結二治大野基肆鞠智三城一」

【大野村】 福岡縣筑前國筑紫郡の中部。西北は福岡市の東南部と接し東南は二日市町との間に水城村を介し、西は那珂村・春日村・安徳村に隣り、東北は糟屋郡宇美町と界す。南部に牛頸山（四四八米）、東北境に大城山（四一〇米）ありて山地をなすも、中部は土地低平、地味肥沃にて田畑拓け米・麥等の農產少からず。福岡より久留米に至る國道、省線座見烏本線及び肥線九州鐵道（電軍）共に中部の低地を西北より東南に貫き、省線には水城駅（大正二年設置）、九州鐵道線には下大利駅ありて交通便利なり。村名は和名抄、御笠郡大野郷の遺稱なり。大野郷城は今の本村及び水城村の一部、糟屋郡宇美町の大字四王寺・炭焼の地に亘れるものの如し。その境に跨るを大野山と呼べり。山は大宰府の鎮城にして我國築城の始めなる大野城のありし處、いま專ら大城山と稱す。また四天王寺創建せられしにより別に四王寺山の稱あり。されどいま大野城及び四天王寺址は本村の地籍に存せずして字美町・太宰府町・水城村に亘り指定史蹟たり。また同じく大宰府防備の爲め設けし水城址は水城村及び本村に亘り史蹟に指定さる。大字鞠智城は今もと郡役所のありし處。筑前國續風土記によれば難波は御笠森の西にして此地大宰府參詣者の足を休むる所なりと、昔より多く酒食を商ふ店ありたれば此名ありといふ。御笠森は萬葉集に見ゆる歌の名所、いま大字山田の地にその址を傳ふ。神功皇后羽白熊鷲を討たんとて、機日の宮より松の峠の安に移り玉ふ道にて、御笠を飄風の爲に吹落され玉ひ、此にかかりけるゆゑ、御笠の森と名づくといひ、昔は此森の下に此ありと（筑前國續風土記）。萬葉・卷四「念はぬを思ふといはは大野なる三笠の杜の神し知らさむ　太宰大監大伴宿禰百代」巻大野山

【大野】 豐前國（福岡縣）の古地名。和名抄、築城郡に大野郷あり。今の築上郡築城村の地なるべし。字佐大鏡に「築城郡大野郷田數二百卅町三段歩」とあり。太宰管内志に「築城村は昔の大野村なりとありかれおもふに築城も大野もともにいにしへよりの大名なるべければ、築城村を古ノ大野と云ひはいかゞなり、さて今ノ築城野を古くは大野ノ原と云し由、里人も語傳ふれば、築城と、大野とは、隣りたる地なりけむ、さるを和名抄ノ比は大野のかた、名高くて、築城は、大野ノ内ノ一村なりけむを、今は又其大野の名きへ絶て、遂に築城村の内に入りたるなるべし、又云、今築城村に、王野八幡ノ社とてあり、是も初は、大野とぞ書けむを、後にさかしらに、王ノ字に改メたりと聞ゆ」

【大野】 筑前國（福岡縣）の古地名。和名抄、怡土郡に大野郷あり、於保乃と訓ず。太宰管内志に其地いま詳ならずと見ゆ。一に佐賀縣東松浦郡久里村に大字大野あれば或は此地か、といふも今遽に信じ難し。名義は蓋し廣き野ありしより起りたるものならん。而して姓氏錄に大野朝臣は大荒田別命の後なりと、蓋し此地は其裔の居せし地にや。

【大野】 肥前國(佐賀縣)の古地名。中世の莊名にて、字佐大鏡に「寛弘三年大野莊」と見ゆ。いま肥前國に大野と呼ぶ地二箇所あり、一は長崎縣北松浦郡大野村にて、一は佐賀縣杵島郡住吉村の大字に大野あり。何れに擬すべきや詳ならざるも北松浦郡大野村に心ひかる。

【大野村】 長崎縣肥前國北松浦郡の南部。佐世保市の北に接し、東は楠木村、西は皆瀬村・中里村に隣る。北部と南境に丘陵性山地ある外、土地概ね平低、相ノ浦川その中部を西流し田畑よく拓く。農產物は米・麥等あり、殊に新中里炭礦・吉岡炭礦區の一部を成し、石炭の產多し。省線松浦線東西に走り、泉福寺驛(大正十五年設置)・左石驛(大正九年設置)を設け、また佐世保市・平戸間のバスの通路に當り交通便利なり。明治維新當時は大野代官所の支配に屬し、同十三年皆瀬村と聯合戸長役場を置きしも、同二十二年町村制施行の際分離獨立す。村内西願寺境内に眼鏡岩の奇觀あり。一に圓相巖ともいふ。幅平均一〇米半の屏風狀砂岩壁に二箇の孔が貫通す。孔と孔の間は約一・五米、北にあるものはほぼ正圓にして直徑約五・三米、南にあるものは不正圓にして直徑約八米あり。

【大野村】 熊本縣肥後國玉名郡の南西部。高瀬町の西隣にて、南は滑石・高道及び鍋、北は築山・跡合の諸村に續く。土地概ね平低、東南部と西北部には田地廣く、その他は畑地拓け、農業主として行はれ、米・麥・甘藷等を產し、また松材・竹材を出す。縣道並に省線鹿兒島本線東西に走り、後者は村の西部に大野下驛(昭和三年設置)を設け、交通便利なり。この地或は和名抄、玉名郡日置郷の内か。中世は大野庄に屬す。村名の起原に就ては詳ならざるも此地はもと山に圍まれし高原にて現在の四百町歩の田地も悉く原野を成す。平地少なき本郡地方にてこの原野は廣大なる野原と見られしにより大野と名づけられしものならんといふ。縣・石井郷古代民族生棲當時の遺物を屢々發見す。明治十年西南役に薩軍の退却に當り官軍猛追擊に移り此の地にて大激戰あり。當時の臺場跡今尙ほ殘り、また戰歿者を合葬せし跡存す。(大野下ノ大蘇鐵)指定天然記念物。大字大野下にあり。代表的の蘇鐵の巨樹にして、根廻り約一一米、十數支幹に分れ其中最大なるものは根廻り約二米、最高のものは高さ約四・五米に及ぶ。

【大野】 中世肥後國(熊本縣)玉名郡にありし莊名。また一に大野別符ともいふ。凡そ和名抄、玉名郡大町郷の地に當り字佐又は宮崎八幡の神領なりしといふ。大野系圖に「紀國隆(大野小次郎)建久四年四月、補玉名郡大野別符地頭。舊繁根木八幡宮之別當也云々」と見ゆ。其地いま玉名郡高瀬町・彌富・築山・跡合・滑石・高道の諸村に亘り菊池川下流の右岸の邊なるべし。

【大野村】 熊本縣肥後國葦北郡の東部。佐敷町・湯ノ浦村の東隣にて東北は球磨川中流の河谷を隔てて球磨郡神瀬村に對し、東南は同郡一勝地村と界す。地南北に長く約一四粁、東西は平均約四粁なり。肥薩山塊の北斜面に當り、南境に大鯛山(九〇二米)聳えその山脚東西塊を北に延び山地多く、ただ中部には南北に狹長の低地ありて農業行はる。農產に米・麥・甘藷等、林產に松材・竹材あり。省線肥薩線は東北部球磨川左岸に沿ひて通じ白石驛(明治四十一年設置)を置き、縣道またこれより西に走りて西隣佐敷町に出で鹿兒島本線佐敷驛に繫がり路上定期バスを通ず。此地は古くは和名抄、葦北郡桑原郷の内か。大字白木は卽ち新羅來なるべし。推古天皇の十七年百濟人葦北津に到れる以前已に多くの新羅人到來せりといふ。大字桑見澤に俗に「身代り佛」とよび佛例あり。昔佐敷宮ノ浦に土佐とよばるる信心堅固の男あり、佐敷城主に仕ふる小姓某に若干の銀子を貸與へつ。のちその小姓は貸金の返濟を强促せし土佐を怨み、或夜途上に待伏せてこれを擊殺す。然るに土佐はただ暗夜に不意の物者をききて怪しみ驚き驚歸りて我家の佛間に燈火を供へ御佛に己れの無事を祈念せんとて見ればこは如何に、御佛は朱なす血潮に染りて打倒れおはせり。留守の姥に聞けど何事もなかりしと答ふ。土佐は不思議の思ひをなして後日をふ過せり。然るにその後途上にて偶然小姓に行逢へり。小姓は既に死せりと信ぜし土佐を見て大いに驚き懺悔の念に堪へず、その事の由を告白す。土佐始めて御佛の己が身代りに立ち給へるを悟れり。かくて愈々信心を怠らざりしが、後切支丹宗徒の排擊に遇ひ所々に逃避し、遂に山深き桑見澤に遁れ、御佛を安置してこれに事へて終れりと傳ふ。この「身代り佛」は今も近郷庶人の信仰厚く、殊に開帳の日は善男善女の東西より參拜するもの多し。

【大野郡】 大分縣三市十二郡の一。豐後國に屬し、縣の東南部を占めて東は北海部・南海部の二郡に、西は直入郡に、北は大野郡に隣り、南は宮崎縣の東臼杵・西臼杵二郡と界す。東西約三五粁南北四〇粁に近く面積一〇六一粁あり、縣の六分の一を超え、縣下諸郡中の第一位に居る。南部は主として古生層より成る九州山脈の東北部にて、その西部には石英斑岩にて被はるる祖母山(一七五六米)・傾山(一六〇五米)、南部には花崗岩を戴く桑原山(一四〇八米)、東南境には佩楯山(七五四米)の山岳連立して山地ふかく、北部は九重火山群東方の火山岩の山地にて龜ヶ岳(七六八米)・經ヶ岳(八五九米)・御座ヶ岳(七九七米)等の峯あり、また山地・原野をなす。その中間の谷を大野川ほぼ東北に流れ、右岸に緒方川・奥岳川、左岸に平井川・菅川・柴北川等の支流を

容れ、河流に沿ひて小平地をつくり、南部桑原山と佩楯山の間には別に北川の上支なる田代川の谷を作る。農林業行はれ農產に米・麥・甘藷・七島圃・葉煙草・蘭・楮等、林產に木材・椎茸等あり。原野廣く畜產また少からず。省線豐肥本線・日豐本線大分驛より分岐してほぼ大野川に沿ひ西方直入郡を經て熊本縣に通じ、國道は東北部を掠め、その沿道の犬飼町より岐るる縣道は菅川谷を過ぎて直入郡に、野津市村より分るるものははぼ豐肥本線に並行してまた直入郡に向ひ、別に大分郡より來るものは郡の西北部を經て前者に合し東西の交通は不便なちず。豐後風土記に、大野郡、郷肆所(里壹拾壹)、驛貳所、烽壹所、此郡所レ部、悉皆原野也、因レ斯名曰二大野郡一と見ゆ。和名抄は於保乃と訓じ、田口・大野・緒方・三重の四郷を擧ぐ。

【大野町】 大分縣豐後國大野郡の北部。大野川中流々域にて犬飼町と直入郡竹田町との中間に位し、東は長谷・井田・柴原、南は牧口、西は上井田・西大野、北は今市及び大分郡野津原の諸村に隣接し、東西約十二粁、南北約十六粁、面積約一一七方粁。郡内町村中第二位を占む。西北部は壇上に聳ゆる御座ヶ岳(七九七米)・鎧ヶ岳(八五九米)等の南或は東の斜面にて山地をなし、南東部にも王子山(三四九米)・代三五山(三六九米)等の小山地あり。菅川との兩山地間の小低地を東に流れ、平井川は南部山地の南を東流し共に大野川に合す。以上二川に沿ふ低地には耕地拓け農業行はる。また養蠶行はれ製絲業盛なり。犬飼・竹田を繫ぐ縣道は菅川筋を經て平井川谷に出でて西しバスを通ず。篠原新波發電所及び縣立大野中學校あり。此地は西大野村・上井田村と共に和名抄、大野郡大野郷の地なり。大字郡山は蓋し古の郡家の遺稱なり。また大野郷は郡家の所在地たりとすれば、蓋し延喜式兵部省式に大野傳馬五疋とあるも此地なるべきか。明治四十年六月大野村・養老村・田中村・中井田村・土師村の舊五村を廢し新に東大野村を置き昭和三年八月町制施行と同時に大野町と改稱す。(蘆北城)大字蘆北の旗北山にありし城。一に鎧嶽城。戸次氏世々此處に居りしが天正年中鑑連の時筑前立花山に移り城廢す。(淺草八幡社)大字宮迫に鎮座。郷社。祭神、月夜見命・應神天皇・神功皇后・武内宿禰。創建年代を詳かにせざるも早くより淺草山上に鎮座して郷民の敬崇篤く、江戸時代には岡藩主中川氏代々の社殿の造營、社領の寄進等あり。また三十三年の式年祭には必ず幣帛を納む。大野三社の一として遠近に知らる。例祭、四月八日。(上津神社)大字片島に鎮座。郷社。祭神、月讀尊・應神天皇・神功皇后。もと上津八幡宮と稱す。創立年代を詳かにせざるも地方の古社にて、大野三社の一と稱せられ、鎌倉時代より大友氏黒代の敬信極めて篤し。また本郡の名社として郷民の崇敬篤し。例祭、四月十日。(寶蓮寺)大字片島にあり。臨濟宗妙心寺派。佛林山と號す。敏達天皇の朝百濟國の僧日羅上人の開創に係る。淳和天皇の朝、金龜和尙來住して天台宗の道場とせしが、のち現宗に復す。中興開山は士曇和尙。(沈墮湯布)大字矢田にあり。大野・緒方の兩川が無數の溪流を導き來り、此處に合して懸崖より落下す。高さ約二八米、昔は壯觀を呈せしも、いま湯布の一部は水力發電に利用せらるることとなりて甚だ俗觀を殺ぐ。これより約百米を隔てて峰瀧あり高さ三〇餘米、幅約三米、頗る壯觀なり。(沈墮魚梯)沈墮峰瀧の南岸に管て大野郡により設けられたる魚道あり。幅約四米、階段狀をなす所を河水緩流し水を瀧壺と瀧の上とに連絡せしめて魚類の遡上に便す。(大野橋)當町と牧口村との間の田中街道に架設す。幅約四・五米、長さ約九八米、水面よりの高さ約二九米。純然たる釣橋にして一つの支柱なく幾多の鋼線を束ねて兩岸より高く中空に張り以て橋材を支持す。

【大野】 大分縣大野郡にありし村。明治四十年、本村及び田中村・中井田村・土師村・養老村を合し新たに東大野村を置き、東大野村は昭和三年町制を布き大野町と改稱す。

【大野川】 大分縣第一の長流。縣の南境に發ゆる祖母山の西麓、熊本縣阿蘇郡野尻村に發し東北流して大分縣直入郡に來り竹田盆地にて、阿蘇の東外輪山東側に出で東流する玉來川、久住山南麓に猛源して東南流する久住川を併せて東北に流る。更に右岸に於ては、祖母山北麓よりの緒方川、本谷山北面に出づる奥岳川をはじめ、佩楯山の西と東より發する赤峯川・野津市川を容れ、左岸に於ては平井・菅・柴北等の諸支流の水を受け、犬飼町の邊より北に向ひて大分郡に入り、山川・乙津川の二流に分流し鶴崎町を挾みて別府灣に注ぐ。流程約八〇粁。本支流に沿ひてそれぞれ幅狹き平地をつくり、殊に下流に於ては西方の大分川下流に連りて縣下東部に於ける豐饒なる大分平野をつくる。灌漑の便と漁利も少からず。上流に竹田、中流に三重・犬飼、下流に鶴崎の地方的中心要落發達す。

オーノ 大農(おほの) 石見國(島根縣)の古地名。和名抄、美濃郡に大農郷あり、於保乃と訓す。其地いま明かならず。或は曰ふ大農は大野の誤寫にして大野朝臣の居りし所と。三代實錄仁和二年五月の條に石見掾大野朝臣安雄の名見ゆるは此地の人ならん。今美濃郡中西・豐田・高城・二條の諸村の邊に亘る高津川沿岸の地をこれに擬すべきか。

オーノ 巨野(おほの) 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄、葦北郡に巨野郷あり。その位置はいま葦北郡日奈久町及び二見

村等亦松太郎峠以北の海岸の地なるべし。

オーノ　負野　延喜式兵部省式に見ゆる牛牧場。其地は和名抄、上總國望陀郡飯富郷の地にして負野は飯富野を異書せるもの。卽ち今の千葉縣君津郡根形村の地にて大字飯富は其の遺稱なり。

オーノイ　大野井　豐前國（福岡縣）の古地名。中世の莊號にて、承久二年の文書に見え、彌勒寺寄多院領なり、その莊田名田、併せて百二十町あり。いま京都郡今川村に大字大野井あり。

オーノウラ　大浦　→大浦（靜岡縣磐田郡）

オーノウラ　大之浦　筑豐炭田北部の重要礦山。其礦區は福岡縣鞍手郡宮田町・小竹町・笠松村・西川村に跨り、主に塊炭・粉炭・粗炭を出す。年產約一千萬圓（昭和十一年度）。

オーノウラ　大野浦　省線山陽本線の一驛（大正八年設置）。廣島縣佐伯郡大野村獨屋神にあり。

オーノウラ　麻生浦　また相生浦・亭浦にも作る。東鑑「文治元年五月、於志摩國麻生浦、加島太光員郎從等、搦取平氏家人上總介忠清法師、傳京師」とあり。今の三重縣志摩郡加茂村・錦浦村の海濱大湾浦の邊を稱せしものならん。

オーノガハラ　大野ケ原　愛媛縣上浮穴郡浮穴村東部一帶の石灰岩高原。一に源氏ケ獄場または蕗峠ともいふ。愛媛・高知兩縣の境をなす四國山脈の一部にして海拔約一〇〇〇米の高原をなし東西約四粁、南北二粁餘。一帶に平坦なる草原にて樹木繁茂せず。古生層に屬する石灰岩なり。雨水の浸蝕をうけて謂ゆるカルスト地形をなし窩狀窪地（ドリーネ）の數、大小七〇餘に達す。その大なるものは直徑約一五〇米、小なるものも直徑約七米あり。水流はドリーネ内に潛入するよりこの地方にては俗にこれを「鰐拔け」とよぶ。高原の中部には南北に分水嶺連亘し其以西の水は小屋川に集りて肱川に入り、東の水は黑川となりて仁淀川に注ぎ、ドリーネは此分水嶺より東方に多く發達せり。此地はまた天正二年久萬山大除城主大野直昌と長曾我部元親の合戰せる處なりと。はじめ直昌の弟直之兄と隙ありて元親に親る。元親、直昌兄弟の仲を調停せんと伴り、直昌と此地に會し不意にこれを襲撃せしも直昌奮戰して却つて元親の兵を撃退せりといふ。

オーノキ　大野木　愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年比良・上小田井・中小田井・平田の四村と共に廢せられ新に山田村を置く。

【大野木】近江國（滋賀縣）の古地名。中世の莊名にて、治承五年の記文にその名見え、醍醐寺領なり。いま阪田郡柏原村の大字に大野木あり。

オーノゴー　多ノ郷村　高知縣土佐國高岡郡の中部。須崎町の東北に隣り、北は香美村に東は浦ノ内村と界し、南部は土佐灣に臨む。西北境に蟠蛇森（七六九米）聳え、その山脈東南に連亘し、また東部にも一—三〇〇米の丘陵連りその南部は半島となりて突出し、その西に野見灣、西北方須崎町との間に須崎灣を擁す。須崎灣の灣奥の沿岸には小低地ありて田畑拓け、米・麥・黍を主產し魚獲物も亦少からず。特に鰯網漁業盛んなり。省線土讃線の須崎驛・吾桑驛に近く、また須崎町に至る縣道にはバスの便あり。野見港は自然の良港なるもその繁榮を須崎港に奪はれ唯須崎港との間に寫載船の便あり。また須賀神社境内の樟の木は天然記念物に指定さる。此地は和名抄、高岡郡海部郷の地なるべし。中世は津野庄に屬し多野郷と私稱す。此地の賀茂社の棟札に土州高岡郡津野庄多野郷（壽永二年正月）とあり。〔賀茂神社〕大宇多ノ郷字竹ノハナに鎭座。郷社。祭神、賀茂別雷神。もと賀茂大明神と稱す。創立年代を詳かにせざるも、本地佛聖觀音板の裏書に「土洲高岡郡津野庄多野郷賀茂本地佛、壽永二年正月」とあると云へば平安末期の古社にて、降つて室町時代には領主津野氏の崇敬を受けて、永正五年津野元實は寶殿を建造し、天正十年同親房は大般若經を納む。なほ近村六箇村の鎭鎭守として衆庶の崇敬篤し。〔須賀神社〕大宇大谷に鎭座。郷社。祭神、建速須佐之男命。もと牛頭天王と稱す。室町以前の古社にて、領主津野氏の勸請と云ふ。關後當村及び野見村の產土神と仰がる。〔八王子神社〕大宇神田に鎭座。郷社。五男三女神を祀る。もと八王子大明神と稱す。創立年代詳ならざるも江戸時代享保二年・同十八年・延享二年に社殿造營の事ありしと云ふ。福生寺を別當とす。〔大谷の樟〕指定天然記念物。大宇大谷宇宮西の須賀神社境内にあり。根元の周圍約一九米、地上四米半に於ける幹圍一六米餘、高さ二四米に及び樹幹の空洞内に補綴標と稱する小祠あり。いま地上二米半に近き所より大小八本の支幹生ず。

オーノサキ　麻生崎・亭生崎　手布・手數にも作る。越中國氷見郡の海岸なれどもその位置はいま詳ならず。萬葉・一八、手數の埼潯を徘徊りひねもすに見とも飽くべき浦にあらなくに　大伴家持」

オーノシタ　大野下　熊本縣玉名郡大野村の大宇。鹿兒島本線の一驛（昭和三年設置）。

オーノジマ　大野島村　福岡縣筑後國三潴郡の西南部。筑後川の下流と其分流早津江川のなす三角洲上の北部に位し、南は佐賀縣佐賀郡大花間村に續き、東は筑後川本流を挾みて大川町・川口村に對し、西は早津江川の對岸なる佐賀郡中川副村と相向ふ。土地低濕、到る處水田をなし米を多產す。大川町・川口村・中川副村との間に渡船あり、省線佐賀線の筑後大川驛・諸倉驛（北隣佐賀郡北村地内）に遠からざるも交通なほ便ならず。

オーノダニ　相野谷村　三重縣紀伊國南牟婁郡の南部。和歌山縣新宮市の北約六粁。東は熊野浦に注ぐ阿田和・井田の二村に界し、南西は御船村、北は入鹿・尾呂志の二村に隣る。北より東の境上には大地山（六〇七米）・大烏帽子山（三六二米）の嶺つづき、西境には子ノ泊山（九〇七米）聳りて山地多し。相野谷川西北部に出でて中部を南下し御船村に出で熊野川に注ぎ、その兩岸に幅狹き平地あり。農產に米・麥・黍、林產に木炭・木材を出す。新宮市へ道路逕ずるも交通なほ便ならず。明治二十二年町村制施行の際、大里・井内・平尾井・阪松原・桐原を合併し相野谷村と稱す。

オーノノキ　大野城　→大野山（福岡縣）

オーノハラ　大野原　【大野島】福島縣岩代國耶麻郡の湖口の左岸にある平野。河沼郡日橋村より北會津郡湯村に亘る約方四粁の地。一に戸口原ともいふ。南は湖畔の低濕地を控へ東すれば戸口より日橋川を渡りて翁島に出で西は強清水の集落を經て會津若松に逕ず。藩政の頃此處に塩蔵場を設け毎年夏季塩兵を行ふ。明治戊辰の役に官軍戸口より若松に迫り此地に小競合を演ず。

【大野原鳥】東京府大島支廳三宅島の西方海上九粁にある八餘の岩嶼。俗に三本嶽と呼ぶ。附近海上は鰹・鮪の漁場。

【大野原】伊勢國の歌枕。今その所在詳ならず。夫木・二二「いせへ下りけるに大野の原の薄わけゆけば、末に橋あり名をみたれ橋といふ　花すすきおほ野のはらのみたれ橋秋の心にたくへてそゆく長明」

【大野原村】香川縣讃岐國三豐郡の西南部。北は林田村を距て觀音寺町に隣り、西南は豐濱町に界す。觀音寺町を中心とする西讃平野の一部に當り面積一〇・九方粁、全村土地低平にして灌漑用池の設備整ひ、耕地よく拓け水田地は畑地に比して多く米・麥の二毛作よく行はる。また麥稈眞田・葉煙草・漁獲物の產も少からず。省線琴讃本線の夢濱驛に近く、また高松より愛媛縣に向ふ國道、琴平町と觀音寺町に至る縣道逕じ交通便なり。本村の地は近世まで荒蕪の地なりしも、丸亀藩主京極高知放封の初め開墾せしめ、一萬石七千六百苞の新租を得るに至れりといふ。また古く此附近を姬江と稱せしことあり。大宇中姬は此の姬江の中郷の義かといふ。昭和四年中姬村と合併して現村となる。〔八幡神社〕大宇大野原に鎭座。郷社。祭神、足仲日子命・譽田別命・息長帶姬命・平田正重・平田正純。創立年代詳ならざるも、江戸時代には丸亀藩主京極氏の崇敬を受け、祭禮には藩士を派してこれを警固せしめらる。また近郷の產土神として崇めらる。例祭、十月二十日。二月一日の新年祭に百々手祭あり。總代、組長等參列し、射手三十一名を選び、方六尺の黑星の的を射ること千度にして妖魔退散、氏子の安全を縛るといふ。

オーノボリ　大登　→西川村（福島縣大沼郡）

オーノマツバラ　あふの松原　歌枕。逢ふにかけて用ふ。播磨國又は陸奥の國にありといふ。夫木・二二「はりま湯ゝらみてもなほたのめとやする丞にありてふあふのまつ原　正三位季能」

オーノミ　大野見村　高知縣土佐國高岡郡の中部。久禮町の西に隣り、南は仁井田村松葉川村に、西北は東津野村に、北は上半山村に接す。東西約九粁、南北十二粁を超え、面積一〇〇方粁に近きも西北境の鈴ケ森（一〇五四米）、東南境の大小權現山（六九三米）等をはじめ、約六〇〇米以上の山嶺により四周を圍繞せられ、山地多し。仁井田川の支流たる松葉川中部を南流して南隣松葉川村に出で、その沿岸とこれに合する小溪流に沿らて耕地あり、米・麥・黍を主產し、楮三樫・木材・木炭を出す。街道は松葉川に沿うて村の中部を南北に走り、また東方久禮町にも通ずるも峠・坂路等ありて交通便ならず。大宇奈路に鎭座する天滿宮の棟札に備州大守從五位藤原之高（津野氏）の名見ゆれば此地は津野氏の領地たりしものの如し。また津野氏、幡多郡一條氏と戰ひし時此地にて一條氏を破ること傳ふ。〔天神宮〕大宇奈路字梅ケ谷に鎭座。郷社。祭神、菅原道眞。創立の事狀を詳かにせざるも、領主津野國高の勸請と傳ふ。關後同氏の崇敬篤く、永享六年國高は大願主となりて鰐口を寄納し、大永六年同國泰社殿を再興せり。應永以降多數の棟札を藏す。なほ大野見郷十五箇村の鎭鎭守として郷民の崇敬篤し。

オーノミ　大呑　能登國（石川縣）の古地名。中世の莊名にて、建長八年の記文に出づ。地は凡そ今の鹿島郡北大谷・南大谷の二村に當る。

オーノリ　大法山　兵庫縣揖保郡揖原村朝日山の古稱。應神天皇此山にて大法を宣り給ひしによつて名づくと傳ふ。また播磨國風土記「大法山（今名揖郡岡島太天皇於此山宣大法故曰大法山）今所以號播部者、小治田河原天皇之世遣大倭子代播部等令修田、卽居此山邊故號播部岡」

オーノリ　大乘村　廣島縣安藝國豐田郡の西南部。忠海町の西、賀茂郡竹原町の東に隣り、北は小泉村・南方村なり。南は瀨戸内海に面し阿波島を隔てて大三島・大崎上島等を望む。北境に三

国の都城。其所在今詳ならざるも名所所載は記紀千年頃にありしと、八雲神社に祭る所の大国主命の宮殿なりしと。

オーバ　大業山・大母山　おうば　紀伊国名草郡の高峰。其名称は詳ならざるも名所所載は記紀千年頃にありしと、八雲神社に祭る所の大国主命の宮殿なりしと。

オーバ　大宮　おうば　相模国（神奈川県）の古郡名。和名抄、石井郷に隣名見ゆ。和名抄は詳ならざるも名所所載は記紀千年頃にありしと、八雲神社に祭る所の大国主命の宮殿なりしと。

【大宮】　武蔵国（埼玉県）の古郡名。和名抄、石井郷に隣名見ゆ。和名抄は詳ならざるも名所所載は記紀千年頃にありしと、八雲神社に祭る所の大国主命の宮殿なりしと。

【大宮】　相模国（神奈川県）の古郡名。和名抄、高座郡に隣名見ゆ。和名抄は詳ならざるも名所所載は記紀千年頃にありしと、八雲神社に祭る所の大国主命の宮殿なりしと。

【大宮】　武蔵国（埼玉県）の古郡名。和名抄、大宮郷

四十二年六月本村及び鷸成村を廃し大鷸村を置く。

オーバ　大場（おーば）

【大場村】　茨城縣常陸國東茨城郡の東部。大貫町の西北に隣り、東南の一部は涸沼の東北岸に面し、水戸市を距る東南約六粁に位す。北部と西南部は臺地にて林野多きもその他は土地平坦、田畑よく發達す。純農村にて米・麥を主産し、白菜種子の産地として著はる。交通なほ便利ならず。此地は和名抄、那珂郡志萬郷の内なり。中世は恒富郷に屬す。村名大場は古く大羽・大葉にも作る。大字下入野は單に入野とも呼ばる。管てこの地の古墳より大小二箇の壺及び太刀二口、小刀一柄を出土せりといふ。大字秋成新田の地は天保年間德川齊昭が來行吉成又衛門・上大野村郷士庄司彌八郎等に命じて開拓せしめしところといふ。

【大場村】　茨城縣常陸國那珂郡の中部。那珂川の左岸に沿ひ西北より東南に延び、長さ約八粁なるも幅は二粁内外に過ぎず。東半部は一帯の丘陵地、西半部は那珂川流域の平地にて畑地多く、煙草・米・繭を主産し、また丘陵地よりは薪炭・材木を出す。此地はもと小場村と稱せしが、小野・三美の二村を合し大場村と改む。小場堰は明暦二年に成りしものにして、此附近一帯を灌漑す。佐竹義篤の庶長子義躬、小場大炊助と稱して附近を領す。また佐竹義俊の三子義久は小野を以て家號とすれば或は大字小野に居りしものか。大字三美は古く三善にも作り、また鷸原とも呼ばる。この地の長者屋敷と傳へらるる所より管て敦瓦を出せり。

〔一心院〕大字小野にあり。浄土宗。解脱山專念寺と號す。本郡瓜連常願寺末。弘治元年の草創。開山は常願寺九世空譽上人。本尊阿彌陀如來。初め本郡小場村にありしが寶永年中今の地に移る。

【大場村】　石川縣加賀國河北郡の西南部。南は金澤市の東北界に接し、北の一部は河北潟南岸に臨む。面積二・四一方粁の小村なるも金澤平野の一部にて土地低平水田よく拓け、米を主産しまた蔬菜に見える大庭は蓋し此地ならんといふ。江戸時代には五箇庄組井上庄に屬す。明治十一年戸長役場置かれ、附近八箇村を統轄せしが同二十二年町村制施行の際何れも獨立して村を成す。本村創始の水稲大場種は昭和三年秋行はせられたる御大典の祭基齋田の原種に撰定せられたり。

【大場】　朝鮮慶道局全羅線の一驛（大正三年設置）。朝鮮全羅北道益山郡春浦面にあり。

オーハカ　青墓村（おーはか）

　岐阜縣美濃國不破郡の東部。大垣市の西北約五粁、垂井・赤坂兩町の中間に位し中山道東西に通ず。村の北半は池田山南麓の山地なるも南半は西濃平野の西端に當り水田拓く。村の主生業は農業にて五六五戸中三六〇戸は農家（昭和十二年六月現在）にて米・麥・紫雲英を出す。外に石灰製造業、製瓦業相當見るべきものあり。社線西濃鐵道は貨物驛なる靈仙驛（昭和三年設置）を置く。和名抄、眞野郷の地は今の赤坂町及び本村の邊に當り、眞野は青野の誤にて本村大字青野はその遺稱ならんといふ。果して然らば和名抄の驛家郷は眞野郷と同一のものならん。蓋し鎌倉時代の所謂鎌倉街道には垂井と笠縫（いま大垣市の大字）との間に青墓驛あり、恐らく延喜式美濃國不破郡驛馬三疋傳馬四疋とあるも此地に置かれしものか。西隣府中村の大字府中は國府のありし處、本村大字青野は國分寺のありし處、而して此間約二粁なり。されば當時不破郡の中心はこの間にありしを知るべし。東鑑には青波賀とあり、外に青墓・青墓・遠墓・大墓にも作り現在オーハカと發音す。オーハカの名は美濃國第一の大きな古墳（太古の墓なりと稱せらる）あるに因る。世俗或はアオハカといふ。中世青墓の長者大炊兼遠の姉は曾て源義朝の妾たり、源義朝父のゆかりにてまた此處に來り候遠の女延壽を妾となし後又御前を儲く。また義朝の長男義平の母（橋本御前）も此地に住めり。平治の亂に大敗せし義朝は主從八騎と此地に落ち延び此處より長男義平を鎌倉に赴かしめ、次男朝長を信濃に入らしめんとせしも、朝長はさきに龍事にて受けし傷手に堪へずして自盡す。大炊の人々これを本村小谷山の中腹に葬る。いま義朝・義平の供養塔及び大炊一族の墓も此處にあり。一説に義朝平治の亂に敗れて此處に來る、偶ゝ途中次子朝長病を發し走行に堪へざるより遂に此地にて斬るといふ。建久元年源頼朝上洛の折此地に宿りて大炊の息女等を召し又、六年下向の折にも立寄り美濃國守護惟義は頼朝に餉を獻ずといふ。此地は青野原の一部にて、關ヶ原の戰に東軍の先鋒福島正則は今の本村大字畫眉の地に陣し、家康は小丘郡山に陣す。のち關ヶ原の戰は家康の大勝に歸せり、依つて郡山といふと傳ふれども、家康は陣場野（今の關ヶ原町の内）にありし如く、かの傳説は如何にや。また此地に熊坂長範物見ノ松といふあり。芭蕉の「わる暑く吹くや一本の松の音」の句は之を詠めるものといふ。大字畫眉の地は古へ僧善光が阿彌陀如來を背負うて信濃善光寺の地へ赴く途中畫食をなしたる處、地名これに因ると傳ふ。いま畫眉の地に善光寺の分身と稱する如來寺あり。當流小栗判官・四「後方此方にさすらひて、何を頼みに憂き年月をながらへし、命もつたき美濃國、青墓の遊萬屋の長が許に買ひ取りて、常陸小萩と名を改め」（國分寺）　指定史蹟たる所謂美濃國分寺址は大字青野にある現在の國分寺の南方水田の間に存す。舊國分寺は聖武天皇の勅願に係る諸國分寺と共に天平十三年春の勅によりて創建せられたるもの。行基は之に自作の藥師如來を安置すといふ。仁和三年の火災にて堂宇全く灰燼に歸す。されど本尊は土中に埋没せられて後世に傳り、慶長の亂には本尊の背部を以て馬盧に代用す、依て馬盧藥師ともいふと傳ふ。現に礎石あり又瓦數枚を積みたるもの一列をなして長さ約三十米に及ぶものあり、發掘の古瓦等によれば明に火災に罹りし痕跡を留む。現在の國分寺は元和年間眞敬の建立せるもの古義眞言宗高野末、金銀山と號す。安置せる本尊藥師如來（高さ約三米）は行基の作にして舊國分寺當時のものなりと傳ふれども實に鎌倉初期に屬するものの如く現に國寶なり。四月八日より十日まで本尊の會式及び内拝を執行す。（圓興寺）大字青墓にあり。天台宗・吉祥院篠尾山と號す。延暦年間最澄の開創、青墓の長者池田大炊助の開基と傳ふ。初め村内圓興寺の地にあり七堂伽藍塔頭三十七箇院を具へ、寺領五千石、末寺百二十餘なりしといふ、天正年間織田信長の兵燹に罹りのち現地に再興せらる。其後も再三祝融の厄に遇ふ。永く城主稲葉氏の菩提所なり。本尊木造準觀世音立像一軀は最澄の作と傳へ、樂式手法よく弘仁期の特色を示し現に國寶たり。（西光寺）大字矢道にあり。眞宗大谷派。惠日山と號す。應永三年の草創。開基は補達成。本尊阿彌陀佛。初め天台宗たりしが、啓應法師、蓮如上人に歸依して現宗に改めしといふ。境内に本堂・庫裡・書院・鐘楼・寺門等あり。

オーハガ　大垣和村（おーはが）

　岡山縣美作國久米郡の西南部。津山市の西南方約十二粁。地形ほぼ三角形をなし。東北は打穴村・福岡南村に、西北は垪和村に、南は鶴田村・龍山村に界す。北境に本郡第一の二上山（六八九米）聳え、その山嶺南北に連亙し土地高燥高原狀をなす。其東西兩面には二百米臺の小低地ありて耕地拓け、米・麥・繭を主産し木炭・煙草・蒟蒻・梨の産も少からず、また酒の釀造行はる。村道東西に通ずるも交通便ならず。此地は和名抄、久米郡賀美郷に屬せしか。

〔八幡神社〕大字八垪和西・和田北界に鎮座。郷社。祭神、譽田別命・足仲彦命・息長帯姫命外三神。創立年代不詳。古來近郷の氏神として崇めらる。例祭、十月十五日。〔兩山寺〕大字兩山寺にあり。眞宗高野派。本尊正觀音。和銅七年の草創。開山は泰澄法師。往昔寺勢熾んにして寺中二十四坊ありしが、永祿年中の兵燹に漸次衰微し僧坊悉く離散す。慶長十六年領主森中將忠政寺領若干を寄進して再興し寺觀やや舊に復す。

オーハサマ　大迫町（おーはさま）

　岩手縣陸中國稗貫郡の中部。内川目村の西に隣り、南は外川目村に、西北は紫波郡佐比内村と界す。面積九・五六粁の狹少なる町。南と北は四〇〇米餘の山連り、町名の示す如く山に開れし地にして、早池峯に源を發せる稗貫川は中央を西流し、流域に低地を作り耕地は僅少なるも、水田・桑園拓け特に明治時代に養蠶・煙草の栽培盛なりしも煙草民營等は時代の流れと共に經濟機構・諸制度・交通等の變革によりて昔日の繁榮は見られず、日詰町に至る縣道通じバスの便あるも交通便ならず。町は古くより附近山間部落の中心市場として又盛岡市方面と東海岸を結ぶ宿驛として發達し、今なほ地方中心町をなす。舊藩時代は大迫通代官所々在地にして近村を支配せり。町は北上山脈の主峯早池峯を遠望し、古き温泉集落的景觀を與ふ。この地の開祖と傳ふる稗貫氏は大迫城を築き居城、のち大迫氏を稱ふ。天正十九年大迫右近遙かに九戸政實に應じ南部氏に叛きしが、九戸氏亡びしを以て逃れて江刺郡人首村に匿る。のち右近の子又三郎伊達政宗に頼りて大迫を復せしも、保つこと能はず逃れて岩崎城に入り南部氏の兵と戰ひて死す。又妙琳寺（浄土眞宗）は京都東本願寺末にして文龜三年建立、尼妙祐の開基とす。當寺の什寶に阿彌陀如來眞向の畫像あり。

オーハシ　大橋（おーはし）

【大橋】　東京市荒川區と足立區の間を流れる隅田川に架せる千住大橋の別稱。

【大橋】　東京市隅田川に架せる兩國橋の舊名。浮世風呂・前・下「ア館い手があるッ。館い手があれば大橋もありやすッ」江戸名所圖繪・天保「兩國橋の舊名を大橋といふ」

【大橋】　河内國交野郡の歌枕。その所在今詳かならざるも大阪府北河内郡内にありと。萬葉・九「河内の大橋を獨去く娘子を見送る歌一首並に短歌　後照る　片足羽河の　き丹穴の　大橋の上ゆ　くれなゐの　赤裳裾引き　山藍用ち　摺れる衣着て　ただ獨　い渡らす兒は　若草の　夫かあるらむ　櫻の實の　獨か寢らむ　問はまくの　欲しき我妹が　家の知らなく」

【大橋村】　福岡縣筑後國三井郡の東部。筑後川中流彎曲部の左岸に沿ひ北より東は浮羽郡の柴刈・川會・竹野三村に接し、南は草野町に隣り、西は川を隔てて大城・金島二村に對す。筑後平野の東部にて地平坦、田畑よく拓け、瓦瀬川中部を西流して灌漑に便じ、米・麥・菜種等の農産を出す。西方久留米市へ約一二粁、縣道通じてバスの便あり。もと山本郡内なりしが明治二十九年山本郡の廢せらるるや三井郡に入る。江戸中期の水利家草野又六（贈柴五位）は此地の人。北隣柴刈村を隔つる大堰村の床島堰開鑿の大事業を遂行せし外終生水利事業に盡力する所今に村民その德を讃ふ。

オーハタ　大服（おーはた）

　相模國（神奈川縣）の古地名。和名抄、大住郡に郷名見ゆ。大服は大服部を略せし名なるべし。其地今の中郡岡崎村の地に當り、大字大畑は其遺稱なり。

オーハタ　大畑町　青森縣陸奥國下北郡の北部。田名部町の西に隣り、南は大湊町・川内町に、西は佐井村、西北は風間浦村に界し、東北は津軽海峡に臨む。恐山の北西斜面にして西南境の荒澤嶽・石山に發する大畑川は本村の中央部を東北に流れ、上伏川・仁部川等の小支流を合せ所々に峡谷を作り、また東南部の火口湖たる恐山湖(宇曾利山湖)に發する正津川は東部を北流し、共に海峡に注ぐ。河川は深く山地を浸蝕し流域平地に乏しく僅に海岸沿ひに低地あり。生業別戸數を見れば漁業七〇%、農業二〇%、商工其他一〇%にして漁村と云ふを得べく、産物は海産物(年産百萬圓に達す)を第一とし、薪炭これに次ぎ、其他、米・雑穀・馬鈴薯を産す。また本町は往時より柔魚の漁場として、また椿の産地として江戸・大阪・北越地方の商人と交易し船舶の出入多く殷賑を極む。大畑營林署・縣水産試驗場分場あり、交通は海上を主とし、縣道は海岸沿ひに田名部町に通じ、馬車・バスの便あり、また省線大湊線の田名部驛に最も便なり。古へ田名部町・川内町と共に田名部三村と稱せる大村にして、南部領時代には北郡に屬し當時藩にて此地に番場を築き陣屋を設く。明治二年斗南藩領となり、明治二十二年正津川村を合して大畑村となり更に昭和九年町制を布く。因に大畑の名稱は此地の開拓者、大畑十郎兵衛の姓を取りしものの。〔癒研温泉〕朝比奈嶽の北麓、大畑川の上流にあり、省線大湊線田名部驛より西北約二七粁、途中大字大畑まで自動車の便あり、ここより山道約八粁は徒歩なるも、營林署のトロリーに便乘するを得。泉質は硫黄泉、温度四八度、附近は嵐氣に富み幽邃な境にて時に秋季紅葉の頃は、自然の美を極め療養に適す。浴漕は恰も癒研の如き岩間にあるを以て名づく、なほ上流に赤川温泉あり、泉質は同じくも温度これよりやや低し。〔八幡宮〕大字大畑に鎮座。郷社。祭神譽田別尊。創建年代不詳。慶安年間現地に遷座。例祭、九月十五日。

オーハタ　大幡　【大幡】常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄、新治郡に大幡郷あり。中世は中郡莊といひ、文祿の頃一旦那珂郡に入りしが近世茨城郡に入る。其地域未詳なるも今西茨城郡の岩瀬町、及び東那珂・北那珂二村の邊ならんといふ。

【大幡】常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄茨城郡に大幡郷あり、中世越幡・道畑・乙幡等に作りまた館莊ともいふ。文祿以後新治郡に入る。いま新治郡に小幡村あり、土地の人なほオッバタと呼ぶといふ。即ち本郷の地域は柿岡町の西方小幡村をはじめこれに隣接する小幡村・菫篠村に亘るか。

【大幡】埼玉縣大里郡にありし村。昭和七年熊谷町(今の熊谷市)に編入。

【大幡】播磨國(兵庫縣)の古地名。中世の莊名にして、丹波系圖に見ゆ。いま美嚢郡中吉川村に大字大畑あり、蓋し此の邊に擬すべきか。丹波系圖「細川、播磨國大幡莊等領知、號錦小路」

【大幡村】島取郡伯耆國西伯郡の中部。米子市の東南方約六粁。北は縣村に隣り、南は日野川を距てて幡郷村に對し、東部は日野郡八郷村と界す。面積四・三方粁なれども中央東部に丘地ある外日野川流域平野の一部に當り、土地低平にして水田卓越し米・繭の産多し。出雲街道本村の中部にて日野川を渡り幡郷村を經て米子市に向ひ、また出雲街道と山陰道とつなぐ縣道南北に通じいづれもバスの便あり。また省線伯備線通じ大字箕口に岸本驛(大正八年設置)を置き、交通は便利なり。大字吉本は古來出雲街道の一要驛として發達し今も村の主色をなす。此地は日野郡八郷村大字日吉と共に和名抄、會見郡細見郷の地に當り、大字上細見は郷名の遺稱ならん。

【大幡池】宮崎縣西諸縣郡小林町にある池。霧島火山中の火口湖の一にして韓國嶽(一七〇〇米)の東斜面にあり。海拔約一二〇〇米の山中にあり。西南の大浪池等と同じく温帶湖に屬す。

【大幡村】大分縣豐前國下毛郡の東北部西北部は中津市、東南界に續き、東北は如水村、東は三保村、南は山口村西は鶴居村に隣る。豐前平野の中部に位置し土地平低にて、村の中部には鹿池と初め池沼多く、その他の部分も水田よく拓け、米・麥等の産産多し。社線耶馬溪線道西部を南北に走りて大字大貞に大貞公園驛(大正二年開業)を設け、中津市にも近く交通便利なり。此地は和名抄、下毛郡野仲郷の内なり。大字上池永にある古城址より圓子石を産す。石にても土にてもなく、表面は淡赤黒色、内部は紫黄色にして恰も餡を詰めたる餅の如しと。大字加來に大鷲城址あり。元暦の頃平家追討のため源義経の築きしものと傳ふ。のち緒方氏の一族加來惟興此處に居せしも、黒田氏のために滅ぼさる。〔鹿神社〕大字大貞に鎮座。縣社。祭神、應神天皇・田心姫命・湍津姫命・市杵島姫命・氣長帶姫命。一に大貞八幡宮とも稱せられ仁明天皇承和年間の創建と云ふ。元暦年中、源平爭亂の際に殿宇を破却され舊記・神寶等悉く散逸す。天文十三年大内義隆勅を奉じて社殿を造營し社頭舊に復せしも再び大友氏の兵燹に罹り殿宇を烏有に歸す。明治十年三月字佐神社の摂社に定められる。蓋し大貞の地は古く宇佐神封としては著はれ、「下毛郡百烟」と見ゆる一にて早くより宇佐大神の分靈を勧請したるに據るものなるべし。境地は二萬五千五百三十四坪、社殿の結構すべて宇佐本宮の形に則り壯麗を極む。例祭、四月二十一日。

オーハタ　大畠瀬戸　山口縣大島郡(山口縣)——大島瀬戸

オーバタケ　大畠　省線柳井線の一驛(明治三十年設置)。山口縣玖珂郡神代村にあり。

オーハチガ　大八賀村　岐阜縣飛騨國大野郡の東北部。高山市の東に隣り、北は丹生川村に、南は久々野村・益田郡朝日村に界す。地東西に長く一六粁に餘るも南北は廣き處も約五粁に過ぎず、乘鞍岳の西麓の末端にて東半部は高度一千米以上の山地多し。宮川の上支たる大八賀川東境に發源して村の中部を西流し、これに沿ふ低地に農業行はれ、米・繭を産す。また木曾木炭を特産す。木曾街道西南部を掠むるも村内交通便なちず。西部に縣立斐太中學校あり。此地は和名抄、大野郡山口郷の内なるべく、のち大八賀郷(小八賀郷に對す)と稱せられし地、村名これによりものなるべし。大字三嶋寺は(三嶋地)附近の耕地中より往々布目瓦を出土す。蓋し古の三佛寺の遺址なり。寺は開創ならざるも吉野朝まで存せりといふ。字名は寺名より轉訛せるものなるべし。また東の山上に三佛寺城址あり、思ふに當國の守護または守護代の住せし所にして、足利時代の末には多賀右衛門尉、京絶氏の守護代としてこれに拠り、天文年中、三木大和守直頼守護の名實を併有せしが、やがて廢絶せり。三嶋寺の東の鍋山にも、三木顕綱の居城址あり。金森長近も飛騨入國に際して此處に居を構へしことあり。〔櫻ケ岡八幡神社〕大字山口坂本に鎮座。郷社。祭神、應神天皇外四神。郷社は創立年代を詳かにせざるも地方の古社にして、江戸時代には飛騨郡代の崇敬ありて、文化十四年芝正盛社參して金子を寄進し、天保十二年豊田友直また歌事するところあり。且つ近郷の名社として一帯の尊信を蒐む。〔圓徳寺〕大字漆垣内にあり。眞宗大谷派本尊阿彌陀如來。天正七年勝信法師の開基、寺境廣潤にして隣村の鹿谷に近接せるにより俗に鹿谷の圓徳寺と呼ばる。

オーハナ　大鼻崎　北海道渡島國函館市にある岬。函館市の最南端にして西方の冠登支岬と共に函館灣口を扼す。函館山の南麓海波に浸蝕され岬端は海蝕をなす。

オーハナハ　大花羽村　茨城縣下絶國結城郡の南部。鬼怒川下流の右岸に沿ひ南北約八粁に達するも東西は廣き處も一粁内外に過ぎず。東は川を挟みて三妻村に對し西は菅原村に隣り、南は水海道町に近し。土地概ね平坦にして耒畠等の農産あり。對岸三妻村に渡れば南は水海道町・取手町へ、北は下妻を經て下館町・結城方面へバスの便あり。此地は和名抄、豊田郡飯豬郷の内に屬す。大字花島の地は鵜八州古戰錄に依れば小田原方の士辛二百人許り此地に攻め寄せしに多賀谷政經謀を以て敵を前後より衝き終に敗走せしめし處なりと。また此地は祐天上人の功德に用會せる累・與右衛門の因果物語の傳説地にて、これに取材せる小説・歌謡・戯曲等世に多し。歌舞伎狂言「色彩間刈豆」「蔦紅葉物語」「伊達競阿國戯場」等特に著はる。本村の法藏寺に傳はる傳説に依れば、此地に累といへる世にも稀なる醜女にして心ばえも邪慳なる女ありたり。それは累の母親が管て貰子をせしが、あまりに醜女なるより之を邪魔にし遂に細川に投げ込みし因果の崇なりと。然るに僅かばかりの田地を目當に累の聖に入りし與右衛門は暫くの後遂に堪へかねて累を細川に突き落し殺したり。それ以來細川べりには累の怨靈が現はれ、與右衛門の身邊には恐ろしき怪異がつきまとひ、幾度か迎へし妻は悉く死に六人目の妻の生みし菊と呼べる娘に累の怨念のり移り、屢々怪異なる振舞をするに及び與右衛門は遂に法藏寺の祐天和尚に濟度を求め、その功德に依り累の怨靈は解脱しこれより與右衛門は佛門に歸依せりといふ。〔安樂寺〕大字大崎にあり。天台宗。正覺山と號す。百籠道場として下總念佛の根本たり。當山唯一の念佛堂には三大師を安置し、施無畏講あり毎月國旗を配布す。除暦九月三日・正月三日の練日には近郷より詣者雲集す。〔法藏寺〕大字羽生にあり。浄土宗。羽生山往生院と號す。飯沼弘經寺末なり。文祿元年の草創に係る。開山は方藏社西譽哲山上人なりと。本尊は阿彌陀如來。舊時は村内大杉社・手下崎明神の別當たり。

オーハマ　大濱　【大濱町】愛知縣三河國碧海郡の西部沿岸。新川町の南、棚尾町の北に隣り、西は知多灣の支灣衣ケ浦に臨み半田市と相對す。面積僅に三・二七方粁なるも土地低平田・畑よく拓け、米・麥・繭・雞卵の産少からず、漁利に富む。特に綿織物業盛にてその生産額は町内産額の首位を占む。出力一萬キロワットの大濱發電所あり。社線三河鐵道本線通じ大濱港驛(大正三年設置)・玉津浦驛(大正十五年設置)と貨物驛たる大濱口驛(大正四年設置)ありて交通運輸の便よし。此地は棚尾町・旭村等の地と共に古く和名抄、幡豆郡大濱郷に當り。海濱は古來より歌枕の名所たり。町内に徳川家の飼有殺の遺跡なりと傳へらるる稱名寺あり。富士歴覧記に、「ちた(知多)の郡緒川より三河に向ひ大濱に舟を寄せ、ある堂に暫らく休み本尊の御前にて、「おほはまの波もわけぬと思ひしにはやかの岸に舟をせてけり　雅康」とあり。「熊野大神社」大字大濱に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉命・須玉男命・事解男命。創立年代を詳にせざるも、蓋し宗町時代よりの古社にして、江戸時代に入りては、徳川幕府より朱印を以て三十五石六斗餘に社中山林竹木諸役等を免除せらる。また近郷の産土神として村民の尊信篤し。例祭、九月六日・七日。「稱名寺」

時宗。東照山と號す。開基は教阿上人。後村上天皇の御子なる煙親法親王を開山とす。嘉吉年間、徳川有親は其子親氏とその臣石川家を帯へて本寺に來住す。のち親氏は松平村に移り、有親は此處に設すといふ。徳川家康の遺品その他什寶多し。往時寺領三十石を賜はりしといふ。寺境町の中央高地にありて海岸に接し、衣ケ浦を一眸に俯瞰し、風景絶めて佳なり。（林泉寺）曹洞宗。華處山と號す。開基は義運和尚、開山は傳海良享和尚。もと天台宗。曾て朱印三十石を領せしといふ寺寶に家康の文書等を藏す。

【大濱】 ↓堺市

【大濱】 但馬國（兵庫縣）の古地名。中世の莊名にて、正治三年の記文等に見ゆ、弘安以前、田三十六町一段半ありて、宋家は妙音院、領家は淨土寺、僧正房、地頭は河越太郎藏人重氏なり。地は凡そ今の城崎郡五莊村の大字湯津・瀧・新堂・岩熊・江野・伊賀谷などの地に當る。大田文、大濱莊、三十六町一反半、妙音院領、領家淨土寺僧正房、地頭河越太郎藏人重氏、佛神田七反、地頭給三町、定田三十二町四反半、不出注文之間、任古帳注進之」

【大濱村】 島根縣石見國邇摩郡の西部。温泉津町の南に隣り、東北は鵜里村に、南は瀰光村と界し、西北は日本海に臨む。東境には三—五百米の山地ありその麓西南にうづき、中部以西には一—二百米の丘陵地あり、海岸は海蝕をなすも温泉津町との間に細長き温泉津灣の灣入あり、其灣岸と村の中部をほぼ東西に續く低地ありて水田拓け、米・麥を主產し酒・漁獲物の產も少からず。温泉津町より瀰光村に至る街道西部を南北に通じまた省線山陰本線西北部をトンネルを穿ちて通じ大字小濱に温泉津驛（大正七年設置）を置く。温泉津灣の灣奥に小濱に温泉湧き、夏季は海水浴場を開き浴客に賑ふ。此地は和名抄、邇摩郡温泉郷の内なるべし、和名抄は由と訓ず。（小濱温泉）大字小濱にあり。温泉津驛に近く、アルカリ性炭酸含有鹽類泉にして加熱浴用に供す。温泉津灣に臨み眺望よく、また夏季は海水浴場となる。

【大濱村】 廣島縣備後國御調郡の南部。因ノ島の北東部を占め、西は重井村に、南は中ノ庄村と界し、東北は海と距てて向島に相對す。北・西・南の三境に丘陵連り中部は海岸に沿ひ僅に低地あり耕地は主として畑地拓け、農業を主業とし柑橘・麥・米を主產し、除蟲菊・黄瓜等を特產す。集落は中部低地にあり、道路はそれより東西に通ず。この地は和名抄、御調郡因島郷の地。海濱に沿へるより大濱の村名出づといふも詳ならず。また本村は神武天皇御東征の砌、御立寄りの地といひまた幕末御豪湯を設けられし地なり。（天皇松及び御座跡）村の中央齋島神社境内山腹の老松を天皇松とよぶ。神武天皇御東征の砌、風波穏かならざるにより此濱に數日御船を停めさせ、この松樹の下にて御休息あらせ給へりといふ。この松の下に古岩あり、天皇の御休息あらせられし御座石なりと傳ふ。また齋島神社境内にある二本の老樹は神武天皇の御船を繫ぎ給ひし松なりといはる。（御豪湯）文久三年藝州藩主淺野茂勳、因ノ島の各部落に命じて外國船の見張を厳にせしむ。本村に於ても廻り番を定め海上通航の船舶を見張るべき御豪湯を設置し大砲を据附けしが、明治維新に及びて廢す。

【大濱】 愛媛縣越智郡今治市にある小島。來島海峡の南口に位し、島上に大濱燈臺（明治三十五年設置）あり。燈臺は紅綠光各光各五秒の紅綠瓦光にして光達距離十七浬。

【大濱村】 長崎縣肥前國南松浦郡五島列島福江島の南部。宮江町と本山村との間にて南は宮江灣に面す。村の中部には翁頭山・吹岳の山嶺東北より西南に續きて山地をなす。東南半部は概して平坦にて其西部に多少の耕地拓け。甘藷・米等の產あり。沿海には漁業行はる。海路奈留島及び宮江町に定期汽船通じ、陸路福江町に縣道通ず。鵜島女島に女島無線電信局・女島燈臺（昭和二年設置、燈質第二等連閃白光、二十四秒を隔て十六秒間三閃光、光達距離二七・五浬）あり。江戸時代には五島氏の支配下に屬し、明治四年廢藩置縣の際福江縣の管下となりしが、のち長崎縣に入る。村内の増田の標高七〇米乃至一〇〇米の地にへどの自生地あり。其數二十五株を數ふ。今へど自生北限地帯として指定天然記念物たり。

【大濱町】 熊本縣肥後國玉名郡の南部。菊池川河口の左岸に沿ひほぼ南北に狹長の地を占め東南は横島村に接し西北は川を隔てて滑石村に對す。菊池川は三角洲の中部なれば土地平坦にして到る處田地拓け、農を主業とし米・麥・野菜を產し南部鳥原灣岸は遠淺にて海苔の養殖行はる。この地は登行天皇御西巡の砌、御上陸遊ばされし處にて、奈良時代までは白須濱とよべり。吉野時代以後戰國時代まで菊池氏の海寇策源地となる。落城時代には海岸に新地を開きて植の木を栽培し、その實を櫨倉に保管し、逐次藩主の蠟製造所（輸送せりといふ。明治維新前迄は菊池・合志・山鹿・山本・玉名五郡の物貨集散地にて藩の倉庫ありてその藩米はここより大阪・小倉・下關・唐津・博多・長崎方面に移出販賣され、各地との交通頗繁にて繁榮を極め大濱港の名世に聞えたり。幕末尊王の志士竹志田熊雄は此地の人にて夙に尊王の大義を唱へ、同志と大和五條に事を擧げしも成らずして病歿す。明治三十五年從五位を贈らる。（外鳥宮）延久元年後三條天皇勅願ありて住吉の尊像を作り浪速の津に孵べ「神若し靈あらば何の地にか至りて鎮守せよ」と宣へり。尊像はやがて當地の沖なるカサ岡に漂着す。然るに毎夜光を放つにより漁民不思議に思ひ漁夫長八郎なる者これを索めて御神體を見出し奉る。よりて凡の由を村人に傳へ、二十五人が先發隊となり更に三十三人と力を合せて御神體を此地に迎へ奉りて奉安す。是即ち當宮の由來なり。今も祭禮には二十五人を本座、三十三人を新座とし女子を混へず全然古風の式典を行ふ。

【大濱村】 神奈縣琉球國八重山郡に屬す石垣島の東半部を占め、西は即ち石垣町に隣り、北・東・南は海に洗はる。南北に長く、南端白保崎より北端平久保崎まで約三二粁、東西は廣き部分も八粁に滿たず、面積約一四三方粁に亘るも南部の西境には於茂登山聳え其脈南方に波出し北部は半島をなして北方に長く突出し、春梁山地ありて、平地はただ村の南部沿岸と於茂登山より出でて南流する宮良川の谷にあるに過ぎず。農業行はれて甘藷を主產し、外に米・麻を出す。道路は海岸に沿ひ通ずるも交通なほ便利ならず、沿海は珊瑚礁發達して良港を缺く。大字宮良にある宮良紅は萬治元年琉球王尙質の代に初めて築設し、後破損せしも元祿十二年改築せしがまた激浪の爲に流失せり。然るに安政二年當時國禁の眞宗を信仰せるの故を以て八重山へ配流されし那覇泉崎、仲尾次政隆は宮良紅落ちて漂舟なく人民の通行困難なるを看て、文久二年自費を投じて之を修築す。落慶は其善行を賞して部を免すといふ。修築竣工するや島民は仲尾次翁の頌德歌曲を作り舞踊せりと。宮良節「仲尾次主のおかげに、宮良大川や、實橋かけて、見事でもの」また宮良の年中行事の一に穂利祭（新年祭）あり。俗にアカマタ・クロマタともユウロビトとも稱し舊七月三日間擧行す。第一日は新穀を落して神に捧げ、組成に配り、第二日の夕暮には瓦眼瓦口、長髪を垂れ、赤色または黑の强を纏り物凄まじき形相を呈せるアカマタ・クロマタの二神に扮せる人々はナアピントウの洞窟内より現はれ、棒を持ちたる青年に護衛せられて各戸を廻り災禍を祓ひ家運を祝福す。此行事は南洋傳來のものなりといふ。大字白保は明和八年大海嘯襲來の厄に遭ひ住民千五百七十四人の中殘存せるもの僅に二十八人に過ぎざりしといふ。其後波照間島より植民して再建すと。農牧盛んにして民富み人亦温雅にして歌舞音曲に長ず。近年四隅より道路開くるを以て遊客多く白保節・しんだり節等の歌謡あり。

オーバミ　大喰岳

日本北アルプス（飛騨山脈の一峯）。槍ケ岳と北穂高岳の中間に位し、長野縣南安曇郡安曇村と岐阜縣吉城郡上宝村の境界に跨る。標高約三一〇〇米にして、魚四珍岩より成る。北方槍ケ岳の肩の部分と連續をなし南方は中ノ岳・南岳に續き、キレットを經て北穂高岳に連る。

オーバヤシ　大林

【大林】 常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄記壁郡に郷名見ゆ。日本地理志料に諸本大村郷とあるは大林の誤寫ならんといひ伯耆國河村郡を諸本誤寫して河林郡に作るも例證とす。此說を採定すれば大林は今の記壁郡鉾田村の大字に其名稱遺る。而して其地域を推定すれば郡の東南部なる村田村・大村・鳥羽村・上野村間に亘る地ならん。

【大林村】 廣島縣安藝國安佐郡の東北部。可部町の北東約四粁。この間三入村を隔て、東北は高田郡根野村・志屋村・市川村と界す。北端山縣・高田兩郡との境界に備前坊山（七八九米）峙ち、東南境にも白木山（八九〇米）聳え、概ね山地をなし、此兩山地の中間に低地あり、鉾地拓け、水田卓越し太田川の一支西南に流る。米・麥の農產の外、工產・林產も少なからず。可部町より三次方面への縣道中部低地に沿うて通じバスの便あり。この地は和名抄、安藝郡彌理郷の内なるべし。彌理は後世三入に作り、可部庄に屬す。

オーハラ　大生原村

茨城縣常陸國行方郡の東南部。西と北は太田村、南は八代・津知・延方の三村に隣り東北は北浦（湖）に臨む。概ね丘陵性臺地にて畑地・山林多きも、北浦湖岸一帯には稍狹き平地續きて水田よく發達す。農業主として行はれ米・小麥・大麥を產し、鎮の產また多く、湖上漁獲少からず。古くは和名抄、行方郡大生郷にて、風土記に見える大生里に當る。大字水原は中世水原津と稱せしが文祿年間に至りて一村となる。また大字大生・釜石は往昔丈夫の里と稱せしもの。大字大賀は一に風土記或は和名抄の逢鹿郷に擬するも圖に俟つて按ずるに之に合はず。然るに鹿島文書弘安五年の條に大賀郷と見ゆ。思ふに中世以降大賀郷といふは大生郷より分立せしものならん。今村内に建部貴許呂命の古墳らしきもの存し、大賀捧山の古墳より近年埴輪出土し、いま帝室博物館に蔵せらる。前九年の役天喜年中源義家此地を過ぎ大字水原にある愛染院に弘法大師作の觀世音を安置す。また横山地風館蹟・妙光地寺蹟・日門上人窟あり。常陸風土記行方郡「大生里、建部貴許呂命得此野馬一獻於朝廷一所謂行方之馬、或云茨城之里馬一非也」同・行方郡「從レ此以南相鹿大生里、古老曰、倭武天皇巡二相鹿丘前宮一、此時膳炊屋舍、構二立浦濱一、舳艫作レ橋通二御在所一、取二大炊之義一、名二大生之村一」（大生神社）　大字大生に鎮座。郷社。祭神、饒御貢之男神。鹿島神宮の末社。祭德天皇神護景雲年中、神鹿を大和國春日神社に遷祀し、平城天皇大同元年に常國に遷り後更に現社地に移すと云ふ。鎌倉時代に領主大生玄幹社領を獻じ其後領主代々崇敬す。古來附近村落の總鎮守たりしが天正年間の火災の際に舊記

[illegible]

オーハラ 大原 はら

【大原村】 岩手郡盛岡市の東北に在る。[illegible]氏村の東北に隣り、西北は[illegible]村、[illegible]界に、[illegible]村の東北に隣り、西北は[illegible]村と[illegible]界。今[illegible]町は[illegible]に[illegible]に[illegible]に

が明治に及んで現社號に改稱す。此傳によれば素戔嗚尊坐像一軀は藤原初期の木彫にて國寶に指定せらる。例祭、七月二十四日。〔阿彌陀寺〕 大字櫟野にあり。淨土宗。光明山と號す。草創年代詳ならず。永祿年間に國祿に罹りて堂宇烏有に歸せしが、天和二年僧誓譽これを再興し、初めて光明山攝取院阿彌陀寺と號して以て現宗を率ず。本尊の木造阿彌陀如來坐像一軀及び木造聖觀音立像一軀は共に國寶、いづれも藤原期の作。〔櫟野寺〕 大字櫟野にあり。天台宗。瓜生山自性院と號す。寺傳に依れば、延暦十一年に最澄の當地巡錫の砌に靈夢を感じ、櫟靈樹を以て觀音像を刻して此處に安置す。同二十一年に坂上田村麿の鈴鹿山群賊討征の途、當寺に祈りて靈驗あり、依りて大同元年に寺宇を建立して報賽すと云ふ。のち源頼朝の保護を受けしも永祿年中火災に遭ひ堂宇荒記を燒失す。其後に漸次再建成り以て現在に及ぶ。本尊木造十一面觀音坐像一軀〔寺傳最澄作〕・木造聖觀音立像一軀・同毘沙門天立像一軀・同十一面觀音立像三軀・同聖觀音立像七軀・同吉祥天立像三軀・同地藏菩薩立像二軀はすべて國寶。何れも弘仁期より藤原末期にかけての優作なり。なほ寺内に櫟靈樹・花樹苑を存す。〔當光寺〕 大字大原上田にあり。臨濟宗妙心寺派。大慶山と號す。建武年間の開創にて古記を以て開山とす。のち淨土・天台の編徒來住せしも幻住の入りて當寺を中興するに及び、現宗に改め妙心寺末となる。寺寶中、木造十一面觀音立像一軀は藤原末期の作にして國寶に列す。〔長福寺〕 大字大原中にあり。淨土宗。創立沿革詳かならず。現に同宗金戒光明寺末。本尊の木造阿彌陀如來坐像一軀及び木造佛頭一軀は共に國寶に列す。いづれも藤原期の作なり。

【大原村】 滋賀縣近江國阪田郡の北部。伊吹山西南麓にある盆地の西部に位し東北は伊吹村、東は春照村、南は東黒田村に隣り西北は東淺井郡七尾村に界す。西は長濱町に約八粁を隔て北郷里・南郷里二村を挾む。西境に丘陵連亙する外は土地平坦にして田畑桑園よく拓く。米・繭を主とし菜種・麥・桑葉の産とれに次ぎ林產また少からず。北國脇往還は鳥ヶ原町より木之本町方面に通じ、縣道またこれより岐れて西方長濱町に至りバスの便あり。古くは和名抄、坂田郡大原郷の内にて、中世は大原莊と呼ばれし處。地に敏達天皇の皇后廣姬の御陵息長陵あり、土人息后塚と呼ぶ。大字に本市場・市場の名あり、近郷の市場町として發達せし地なるを證すべし。また延喜式の古社岡神社及び天台宗の名刹觀音寺等見るべきもの尠からず。〔息長陵〕 敏達天皇皇后廣姬の御陵。大字村居田にある圓丘。延喜諸陵式に息長墓とし、兆域は東西一町、南北一町、守戸三烟と定め遺墓に班す。中世荒廢してその所在を失ふに至りしが、元祿九年現陵の南方にある一古墳を同きて、石棺及び珍貴の器物を得し爲め、時常の墳墓にあらずしてその北方に移して厚く保護す。明治八年七月御治定になり大いに修治を加ふ。〔岡神社〕 大字岡田に鎮座。祭神、皇孫靈神。創立年代を詳かにせざるも、延喜式内社に充てもる。近世大梵天王と稱す。近郷十八箇村の鎮守として上下の尊信を蒐む。例祭、五月一日。〔觀音寺〕 大字朝日にあり。天台宗。正しくは觀音護國寺と號し、寺城の伊吹山西南麓にあるを以て一に伊吹寺と稱せらる。寶龜年間に僧安詳の先仁天皇御願により伊吹山に、觀音・彌高・大平・長尾の四箇寺を開創せるものの隨一なりと云ふ。元龜年間織田信長の淺井氏を攻むるや其兵燹に罹りて伽藍燒燼す。現在の堂宇は其後の再興に係る。堂内安置の木造傳教大師坐像一軀は國寶に列す。

【大原】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄、坂田郡に大原郷あり、於保波良と訓ず。今の阪田郡大原村及び伊吹村・春照村に當る如し。姓氏錄に大原史は漢人西令貴の後なりと見え、續日本後紀承和三年の條に大原史姓宿禰を賜ふとあり、或は其裔の居りし處か。中世は大原莊に作り、元應元年の日吉社領注進狀に坂田郡大原莊の名見ゆ。

【大原村】 京都府山城國愛宕郡の東部。比叡山の北麓の西麓なる盆地にあり。八瀬川に沿ふ。若狹街道の要路にて、京都三條を距る約十二粁。若狹街道は往昔裏日本より京都へ上る通路として交通頗繁なりしも、今は交通線の變化により昔日の面影を存せず。大原はその街道上に沿ふ聚落にて、所謂八瀬大原と並稱されし幽境なり。大原女を以て名高く赤顔る史蹟に富む。農產・林產を主產物とするも其領見るべきものなし。いま大原氣象觀測所あり。古くは和名抄、愛宕郡小野郷に屬せる地にて、中世は大原莊と呼ばる。この地方の婦女は古來大原女といひ、紺衣に御所染の帶を纏ひ白の脚絆を穿ち頭に物を載せて運び、其俗奇異にして今も變らず。字上野には文德天皇の皇子惟喬親王隱栖の舊蹟及び御墓あり。魚山にある三千院は圓融院ともいひ、貞觀年中承雲和尚の開基、後鳥羽天皇の時、皇族世襲の門跡となり、中世梶井宮又は梨本宮と稱せり。寺内の往生極樂院は藤原時代の建築にして特別保護建造物なり。勝林院は長和年間寂源和尚の開基。附近に後鳥羽・順德兩天皇の大原陵あり。共に遺跡により隱岐・佐渡の行宮より御骨をここに遷し參らせたるものなり。來迎院は一に大原寺とも稱す。承德年間良忍上人の開基、融通念佛宗の大本山。寂光院は字草生にあり、安德天皇の御母建禮門院の御幽居の地、後白河法皇大原御幸の記

記事によりて著はる。背後に建禮門院の御陵あり。新古今集「日かすふる雪けにまさるすみかまのけふりもさびし大原の里 式子内親王」玉葉集「ひとりすむおほろのしみつ友とては月をそやとす大原の里 寂然」好色一代男・三「友とする人にささやきてまことに今宵は、大原のざこ寢とて、庄屋の内儀嬢、又下女下人にかぎらず、老若のわかちなく、神前の拜殿に、所のならひとて、みだりがはしくうちふして一夜は、何事をもゆるすとかや、いざ是よりと、朧なる清水、岩の陰道、小松をわけて其里に行」〔大原陵〕 後鳥羽天皇の御陵と順德天皇の御陵。大字勝林院の三千院傍にあり。二陵相並び右なる十三重塔は後鳥羽天皇陵、左なる法華堂址は順德天皇陵と定めらる。〔一〕後鳥羽天皇は延應元年〔皇紀一八九九〕二月二十二日隱岐に崩じ給ひしかば御火葬し奉りて、御骨は天皇に扈從し奉れる北面の武士左衛門尉能茂が奉持し來り、五月十六日京都大原の勝林院の傍に法華堂を營み、仁治二年二月八日堂成るに及びて御骨を安置し、僧六口を置きて冥福を祈らしむ。のち陵の所在不明となりしも幕末修陵に際し現在の御塔に御治定になり、大原法華堂陵と稱せらる。明治三十九年三月大原陵と改められる。御火葬塚は鳥根縣海士郡海士村にあり。〔二〕順德天皇は仁治三年〔皇紀一九〇二〕九月十二日佐渡に崩御。眞野山に火葬し奉り、天皇に扈從せる左衛門大夫廣光が御骨を奉じて京師に歸り、大原法華堂に藏め奉る。のち堂宇荒廢してその所在を失ふに至りしが、明治二十二年六月法華堂址につきて陵所を定められ、大原陵と稱するに至る。御火葬所は新潟縣佐渡郡眞野村にあり。〔大原西陵〕高倉天皇中宮建禮門院德子の御陵。大原村寂光院の後山にあり、僅かに高き圓丘の上に高さ一米ばかりの五輪塔を建つ。中宮は平家没落の後ここに御隱栖、遂に寂光院に崩じ給へり。明治九年御治定になり同二十七年六月陵號を大原西陵と定めらる。〔小野宮〕文德天皇皇子惟喬親王の幽栖せられし處。後冷泉天皇の皇后藤原歡子が皇太后となられてより此宮に移られ、寛治年間の雪の日に、白河上皇の臨幸を迎へられしことあり。その有樣を描きたるものが小野御幸繪卷にて、國寶に指定さる。〔雲無瀧〕 瀧迎院の東方、小野山の山腹に懸かる小瀧。平滑なる岩面に懸かるを以て水の音無し。この水はやがて二條に分れ三千院附近に流る。南なるを呂川といひ、北なるを律川といふ。源氏・夕霧「朝霧になく音たつる小野山は絶えぬなみたや雲無の瀧」〔腦清水〕大字草生にある寂光院の二町ほど西なる小泉。西山の大原野にも腦清水と稱するものあれど、歌枕としては前者なり。玉葉集「ひとりすむ腦の清水友とては月をそやとす大原の里 仲實」〔阿彌陀寺〕大字古知谷にあり。淨土宗。古知谷光明山と號し絶本山知恩院に直屬す。慶長十四年、木食僧彈誓の開基。彈誓は尾張國に生れ九歳にして出家す。のち諸國を經廻し奇瑞を感じて當山に一寺を建立す。寺域は古知ヶ茶屋の山腹に位置す。同山堂に本尊彈誓像、藥師堂に本尊藥師如來、觀音堂に十一面觀音を各安置す。彈誓像は自作にて自らの髮を植ゑたりと傳ふ。依りて世に植髮の尊像と稱す。毎歳正月、來迎院・勝林院の僧徒來りて法事を營み、里人入りて舞踊をなす。謂はゆる大原雜居疑の遺風を傳ふるものと云ふ。近年久しく廢絶の後これを復活して大原念佛會と稱す。〔來迎院〕大字大原にあり。天台宗。魚山と號す。仁壽年間、圓仁の開創にしてその唐より歸朝後、支那天台山を摸して堂塔を建立すと傳へ、梵唄聲明の本源地たり。嘉保年中〔元亨釋書には承德年間と云ふ〕融通念佛の開祖良忍〔聖應大師〕、當山に入りて梵唄を習興し、音律の各派を一統し、爾來、來迎院は一山の總祖となる。本院内の各員は古來宮中御法會參勤の主職にして現に本宗別格寺たり。本尊の釋迦・藥師・彌陀の三軀は行基作と傳へ、何れも鳳凰的なる藤原式彫像にして國寶に指定さる。〔寂光院〕大字草生にあり。天台宗。尼寺。草創沿革詳かならず。寺傳に聖德太子の創建にして本尊六萬體地藏りの地藏尊は太子の作なりと云ふ。安德天皇御母建禮門院の文治元年四月西海より歸洛し給ふや東山長樂寺に於て御髮剪あり、次で本院に閑居し、高倉・安德兩天皇及び平氏一門の冥福を祈り給ふ。同二年四月後白河法皇の臨幸ありし事など平家物語・源平盛衰記に依りて遍く世に知らる。慶長八年、豐臣秀頼の母淀君の本願に依り片桐且元これを再興す。寺城は草生の谷奥にありて謂はゆる梨鉢山を負ひ「峯に木傳ふ猿の聲、霧が妻木の斧の音」かすかに洩るる幽邃閑寂の仙境なり。本尊は地藏尊にして丈八尺の巨像。寺院は近代の建築にして趣致清雅なり。窓ごとの機畫は大原御幸の卷に因みて近年京都の諸畫家の圖するところなり。寺寶中、建禮門院御編髮六字名號は最も珍とす。裏門の南なる谷間に阿波局・右京大夫局・大納言佐局・治部卿局の小塔墓四基相並ぶ。なほ附近に靈の清水・神明森などの諸名蹟多し。〔三千院〕大字大原にあり。天台宗。妙法院・青蓮院と共に天台宗三門跡の一たり。圓融院または圓德院と號し、魚山・梶井宮・梨本御所等の別名あり。延寶年間に僧最澄、叡山中堂創立の時に東塔南谷に假に一字を結構す。これ本院の濫觴なり。貞觀二年清和天皇の勅を受けて僧承雲これを改築し最澄自作の藥師如來を本尊とす。場何天皇第二皇子最雲法親王の入りて住し給へるを最初の門跡とし以後皇族御住持の寺となる。江戸時代には千六十七石の寺領を有し、本寺門主たる者は天台座主に任

【大原山】 山城国の古称。其名は今の京都・大原・鞍馬・貴船・比叡・愛宕・嵯峨・高雄・栂尾・醍醐・小野・岩倉・鷹峯・北野・吉田・白川・伏見・宇治・木幡・日野・小倉・嵯峨・嵐山・桂・鳥羽・竹田・深草・東山・西山・北山・洛中・洛外・洛東・洛西・洛南・洛北・洛陽・京都・平安・東京・西京・南京・北京・都・京・畿内・畿・国・郡・郷・村・里・山・川・野・原・谷・峰・岡・丘・坂・峠・岳・嶺・山麓・山腹・山頂・山脈・山岳・山地・高山・火山・活火山・休火山・死火山・噴火口・火口原・火口湖・火口丘・火山灰・火山弾・溶岩・溶岩流・溶岩台地・溶岩洞・溶岩塔・溶岩円頂丘・溶岩ドーム・溶岩平原・溶岩高原

これを築く。同二十三年同郡南關町高ケ嶺城主大津山貴冬は大友氏の命に叛き、終に城を追はれしを以て宗意は其城代を殺ぬ。のち宗意反逆の意あるの故を以て大友宗麟は佐伯田原を將として攻寄す。宗意は城門を開き打つて出でしが終に討死す。いま城跡は山林となる、また小原氏居館の跡は陣内と稱し宗意の母の墓あり。（善光寺）大字小原にあり。曹洞宗。大慈山と號す。もと眞言宗にて坂上山清水寺と稱す。本尊觀世音菩薩（弘法大師作）。堂宇は淳和天皇天長三年の建立に係り郡中最古の梵刹。後醍醐天皇元應年中、元の僧東明慧日和尚來朝し、當地に留錫す。當時肥後の大守菊池藤原朝臣持朝深く禪宗に歸依し、清水寺の眞言宗なるを禪宗に改め、東明和尚を請じて開山第一祖となし大慈山禪光寺と改號す。應仁年中臼間太郎善郷當寺に歸依して伽藍を再興し、禪光寺を已の名に假りて善光寺と改む。爾來幾變遷を經て明治に至り、同三十八年現宗に轉じて今日に至る。

【大原】大隅國（鹿兒島縣）の古地名。和名抄、桑原郡に郷名見ゆ。其地域明かならず。或は今の給良郡重富村の邊を稱するか。一說には重富村の南隣なる鹿兒島郡吉田村の邊ならんといふ。吉田村の大字に大原あり、郷名の遺稱かといふ。地理纂考は吉田はもと給羅郡に屬せしが天正の頃鹿兒島郡に入るといふ。

【大原】臺灣臺東廳里壠區の村。臺東線の大原驛（大正十一年設置）を置く。

オーハライチバ　大原市場　滋賀縣甲賀郡大原村の大字。省線草津線の大原市場驛（明治三十七年設置）あり。

オーハラグチ　大原口　京都寺町通今出川より、紅河原（出る口の俗稱。百萬遍・紅・修學院・八瀬・大原・比叡山等に出づべき要路として、江戸時代には交通頗繁なりき。

オーハラノ　大原野村　京都府山城國乙訓郡の西部。即ち大原に出づる口なれば此名あり。向日町の西隣、南は乙訓・海印寺二村と、北は大枝村と、西は南桑田郡樫田村と界す。山城盆地の西邊、丹波高原の東南緣にして東牛は平地、西牛は山地をなす。丹波高原の東南緣は大原野斷層崖に當り山城盆地西緣の標式的なる斷層崖を示す。北は老ノ坂峠の坂下、寺掛より南方當村杉谷に亙る一線は第三紀前後の一大陷沒による構造線にて、山城盆地形成の一部は之に起因するものならん。斷層崖は善峰川・小畑川により深く浸蝕せられ壯年期に近き斷層地形を現す。斷層崖下には此等の河川の造りし洪積期古層に屬する扇狀地南北に並ぶ。然し此の扇狀地の先端にはその新層あり、之が段丘をなして沖積層の平地に移化す。石見上里・灰方等の諸部落は此等洪積期新層の先端に獨建せしものなり。洪積層の丘陵地は緩かに東に傾斜し、その浸蝕面は未だ開析盡まず幼年期の地形にて殆ど竹林及び水田の分布地帶となり、農產に米・麥、林產に竹材・筍等を產し工產亦少からず。京都市に近く交通便利なり。古くは和名抄、石作郷の地にして、大字石作は郷名の遺稱なるべし。大字出灰及び石作の小字灰方・灰谷等は石作に因む地名なり。石作は石棺製作に從事せる石作部の居りし所なちん。村名は正しくはオーハラノなるも京都の俗これをオハラノとも訓む。淳和天皇の大原野西嶺上陵及び藤原氏の氏神たる大原野神社を始め善峯寺・三鈷寺等の名所舊蹟に富む。また大字石見に鎧山と呼ばるる古墳あり。明治初年發掘され、獸形鏡の外に多くの石製模造品を出土す。而してその石製模造品の中に、石製履（はき）三足のあるによりて、服飾史、殊に履物の變遷を說く者の間に重視さる。（大原野西嶺上陵）淳和天皇の御陵。大字西山の頂にあり。承和七年（皇紀一五〇〇）五月崩御不豫により皇太子恒貞親王を顧みて「予聞く、人殘して精魂天に歸す。而して空しく冢墓を存す。鬼物焉に憑り終に乃ち泉をなし長く後累を始す、今宜しく骨を碎きて粉となし、之を山中に散ずべし」と命じたまへり。中納言藤原吉野は「山陵は發掘崩のごとし、縱し宗廟無くんば臣子何處を仰がん」と諫奏を試みしが容れ給はずして、同八日崩じ給へり。遂に遺詔に遵ひ率り、その夜御火葬し給ひ御骨を碎きて大原野西山嶺上に於て散骨の禮を行はせられ、國忌・荷前・陵戸等を置く事はみな遺詔によりて取止めたり。延喜諸陵式にはこの故にこの陵を載せず。幕末修陵に際して、山上の故地につき山陵を起し率り、大原野西嶺上陵と稱し率れり。御火葬塚は乙訓郡向日町大字物集にあり。（大原野神社）大字大原野に鎮座。官幣中社。祭神、健御賀豆智命・伊波比主命・天之子八根命・比賣神。藤原氏の氏神にして桓武天皇延曆三年長岡貧都の時、皇后藤原乙牟漏（おとむろ）その氏神、奈良春日にありて參詣に遠隔不便なるため此地に春日明神を勸請せるに創むと云ふ。後更に平安貧都後、閑院左大臣藤原冬嗣の奉請にて嘉祥三年に小盤山麓の現地域に當社を營み、地名に依りて現社號を稱へ永く皇城の鎭護とす。延喜式外社なれど藤原氏の氏神なるを以て氏人の尊敬は春日神社に等しく、伊勢の齋宮・賀茂の齋院に擬し齋女を置きて常に奉仕せしむ。朝廷また春日社に準じて、奉幣等の事あり。中世、二十二社の上第十位となる。應仁亂後はその祭祀一時中絕せるも德川時代に至り神殿造營・祭禮等舊に復す。明治四年官幣中社に列す。當社は背後に小盤山を負ひて南面し老樹鬱蒼たる間に甕澤の小池あり。社頭楓楓に富む。五殿は慶安年中の建築、本殿は檜皮葺、瑞籬の內に四宇東西に並びたる形は奈良春日神社に模せるなるべし。例祭、四月八日。なほ往昔は二月上卯日および十一月中子日に行はれし官祭を大原野祭と稱す。平野梅宮祭式に準じて仁壽元年二月祭儀を行はれしを起原とし、その祭祀の供奉人は春日祭と同じくするを例とす。足利季世以降その祭儀中絕せるも慶應元年十一月勅に依り賀茂・石清水に亞いで當社の官祭復興せらる。特有神事の中、御弓祭（一月二十二日）は古式の典禮にして頗る優雅なり。（寂春庵）大字石見上里にあり。臨濟宗南禪寺派。草創年代・沿革不詳。奉安の十一面觀音立像（木造）一軀は昭和七年十二月國寶に指定さる。那木樽村を用ひ刀法銳利、衣紋・紐帶の彫法巧緻にして藤原中期の作に屬す。蓮座は後世の補作なり。（十輪寺）大字小盤にあり。天台宗。小盤山と號す。嘉祥三年、染殿皇后（藤原明子）の安產御願成就の報賽として圓仁の法弟慧亮に勸して建立せしむと傳へ、爾來勅願所と定めらる。然るに應仁の兵燹に罹り堂宇悉く炎上し法燈縣絕に瀕せしが、淨貞院殿左大臣藤原定好同堂料を寄せ、工部侍郎久保某をして堂舍を造營せしめてより漸次舊に復す。其後、花山院藤原常雅また屋宇を改築す。現在の堂宇之なり。堂宇中、觀音堂は構造の風發形をなせる點に於て著名なり。寺內に在原業平の墓と傳ふる寶篋印石塔あり。（善峰寺）大字小盤にあり。天台宗。西山と號し西國三十三所第二十番の札所たり。長元三年僧源算の創建。長久三年後朱雀天皇の勅に依り、洛東なる菩尾寺の本尊千手觀音像（仁弘作）を第子京圓、良峯に移し本尊となす。第三祖慈鎭の時、建久三年官寺に列せらる。慈鎭示寂するや尊惠圓ぜ、更に後鳥羽天皇勅願所に定めらる。寶德五年御花園天皇詔して伽藍改築の事あり、時に壇域三尾四谷に分たれ殿堂・僧房五十有餘を數へ輪奐その美を誇りしが應仁の兵燹に一山焦土と化し寺運漸く衰頹す。天正十五年豐臣秀吉の境內山林を寄せ、元祿年間德川綱吉並に其母桂昌院、全山の伽藍を改建して舊觀に復せしむ。蓋し桂昌院は此地の出なるを以てなり。寺堂二萬九千四百七十六坪、城州の市川を一隅に收むる壹驛の地にして有數の名刹たり。（勝持寺）天台宗。小盤山と號す。一に花の寺と稱す。白鳳年間、役の小角この地に一宇を創立し藥師如來を安置せしを本寺の起原と云ふ。延曆十年、桓武天皇最澄に勅して伽藍を建立せしめ給ふ。最澄は日吉山王の神託により自ら藥師如來の坐像二軀を彫刻して本尊となす。延長五年に醍醐天皇行幸あり、小野道風勅を奉じて寺額を書す。のち足利將氏は本寺に歸依し寺運盛大を極めしも應仁年間兵燹に罹り衰頹し、天正年間に緩かに佛殿を再建す。本尊藥師如來坐像（木造）は藤原時代の手法を遺せる鎌倉時代の作、他の藥師如來（木造、藤原時代作）一軀と共に國寶。寺寶に足利氏關係の古文書多く藏す。境內無塗、櫻樹多くして滿開時には全寺花中に埋もれ、花の寺の稱空しからず。往昔佐々木道譽が此處に觀櫻の宴を張りしと太平記に見ゆ。本堂前に西行櫻あり、西行庵は不動堂後山にありて西行像を安置す。また、古來題詠に富める清和井の水、浮野の沼と稱するも此附近にありしものの如く、或は今の門前にある放生池は蓋しその址ならんかと云ふ。（金藏寺）大字石作にあり。天台宗。西岩倉山と號し、一に御猿堂とも稱す。蓋しこれ中世に本堂近傍に三猿堂ありしに由る。養老二年元正天皇の勅により定慧の弟子隆豐開創すと云ふ。神龜五年聖武天皇、金藏寺の額を下賜せらる。天平元年勅して藥殿・菩門品等の諸經を寫し之を名山靈地に埋藏せしむ、本寺また其一なり。更に桓武天皇の平安貧都に當り臨して京師の四圍に靈地を相して經文を埋めしめ給ひし時、本寺また其一に加はり、西岩倉山の號を賜ふ。下つて元祿十年幕府より朱印百五十石を附せらる。もと寺域に子院六坊存せしも維新の時本寺に併合さる。本堂東方の山中に經塚あり、往昔の平安貧都の際に經文を埋藏せし遺跡と傳ふ。其他、矢坪石・烏帽子石・向日明神腰掛石・護法石・梅若丸塚・仙人窟等の名蹟あり。（三鈷寺）大字石作にあり。天台宗。長元年間、源算此地を相して小庵を建立し自ら阿彌陀如來像一軀を刻して本尊となし往生院と號す。これ本寺の濫觴なり。應保元年に、法橋覺性の來りて一室を營み、如法佛眼曼荼羅並に釋迦・彌陀如來を安置す。のち本寺を慈鎭に讓り、次で官寺に列せらる。建保年間に慈鎭之を善慧殿堂に附屬す。殿堂は西山上人とも號し淨土宗西山派の祖師として後鳥羽天皇の戒師となり、寺號を三鈷寺と云ひ勅願所の宣旨を賜はる。三鈷の名は山容に因むところと。其後兵革相續ぎ諸堂四十九院悉く退轉す。天正三年見空再興の綸旨を賜はりしも荊棘に復せずして今日に至る。（遊龍ノ松）指定天然記念物。五葉松一株、主幹は僅か一米に過ぎざるも橫枝の延長北方約二一米、西方約二三米に及ぶ。五葉松の人工により異常發達を遂げたる有數のものなり。

オーハラハマ　大原濱　宮城縣牡鹿郡

オーハリ　大張村　宮城縣磐城國伊具郡の西部。角田町の西南約二粁。丸森町の北に隣り、西南は耕野村に、西北は刈田郡大鷹淨村と界す。低山性の丘陵逶迤し南境を阿武隈川の本流屈折して東南に流れ、その一支大張川は村の中部を流れ、傍に田畑を拓き米・麥・蕎を產し、薪炭を出す。省線東北本線の越河驛（刈田郡越河村內）・白石驛（同白石町地內）に便よく、角田町より福島市に至る縣道阿武隈川沿ひに逆じバスの便あり。村名は大字大張・川張の各一字をとりしものなるべし。大字大藏字寺島附近に應保元年に、法橋覺性の來りて一室を營み、如法佛眼曼荼羅並に釋迦・彌陀如來を安置す。のち本寺を慈鎭に讓り、次で官寺に列せらる。建保年間に慈鎭之を善慧殿堂に附屬す。殿堂は西山上人とも號し淨土宗西山派の祖師として後鳥羽天皇の戒師となり、寺號を三鈷寺と云ひ勅願所の宣旨を賜はる。三鈷の名は山容に因むところと。其後兵革相續ぎ諸堂四十九院悉く退轉す。天正三年見空再興の綸旨を賜はりしも荊棘に復せずして今日に至る。（遊龍ノ松）指定天然記念物。五葉松一株、主幹は僅か一米に過ぎざるも橫枝の延長北方約二一米、西方約二三米に及ぶ。五葉松の人工により異常發達を遂げたる有數のものなり。

分水嶺に分つて東方全部山（八百九尺）あり、水下部に幾段の小谷を分つ。

に入りて紀伊一帯に流し、其に流れ、其に入りて紀伊一帯に流し、其に入りて紀伊一帯に流し、其に入りて紀伊一帯に流し

岡崎市の中部を貫きて矢作町との境にて本流に合す。一に乙川といひ、古くは男川・大屋川ともいへり。流程約三〇粁、中流以下灌漑の利あり。古来、歌枕として知られる。夫木・二四「瀬を早み流るる水はおほや川あやふき橋をわたるかち人　參議爲相卿」現存の六帖・河「日のくれにくくひなくなり　唯明法師」。一目玉鉾・三「大平川淺瀬なれども落水はやし橋は四十二間にしてわたしけり」

【大平】愛知縣岡崎市の地名。もと男川村の大字。いま全村岡崎市に入る。戰國時代、本田作左衛門重次の居邑。藤栗毛・四上「打わらひつつ行ほどに、あづき坂を過、岡の江、ゆふぜん寺を打こえて、大平川にいたる。岸に生ふる芹のあをみに小鴨まで、みづにいたれる大平の川。それより大平村を過行ほどに、岡崎の驛にいたる」

【大平】→調川村（長崎縣北松浦郡）

オーヒラ　大衡村　宮城縣陸前國黒川郡の西北部。吉岡町の北に隣り、東南は大松澤村及び落合村に、西南は吉田村に、北は加美郡色麻村と界す。本村は地形上西部の連居山地、東部丘陵地、中央低地の三區に分たれ、西部山地は給形火山（一五〇〇米）の東麓斜面、女連居山・連居森（一六三米）にして其山脚分れて東南に延び中央低地に臨き、東部丘陵地は約一〇〇米の臺地にして小流これを侵蝕する若き地貌を呈し、中央低地は吉田川の一支善川の流域にて、善川は西部山脚間を流るる大瓜川其他の小溪を合せて東南に流れ、流域は水田よく發達す。生産は主として米・麥・繭を産す。國道（陸羽街道）中央低地を南北に通じ、西部山麓を走る縣道（羽後街道）之と南部にて分れ各バスの便あり。大字大衡字鹽波に大衡館あり、越路館とも稱し黒川氏の家臣大衡治部大輔氏嵐これに居す。なほ細川彌次郎の腰館は字下屋敷に、永祿年間福田太郎左衛門の住せし折口館は大字大瓜字飯の澤にあり。細川・福田兩氏は共に黒川氏の家臣。其他兒玉氏の據りしといふ小屋城・長楯城あり。小屋城は兒玉氏累世の居館にて大字駒場にあり、俗に館山と稱す。長楯城は天正年間、兒玉安藝の居りし所にて大字大森字藥師堂にあり。（須岐神社）大字駒場に鎮座。郷社。祭神、素戔嗚命・三渡神・大山祇命・保食神・應神天皇・穗槍日命・手力雄命。延喜式内の古社にして、後鳥羽天皇建久二年に現地に遷して赤崎明神と云ふ。また社地に鎗千本を植ゑて千本鎗と云ふ。駒場と名づくるものは源頼朝奥州征討の時、當社に陣して軍士を犒ひし遺址と云ふ。明治四十一年同所の三渡神社外三社を合祀す。例祭、四月十五日。　→伊吹

オーヒラジ　大平寺　愛知縣賀茂郡村

オーヒラシタ　大平下　省線耶毛線の一驛（明治三十三年設置）。栃木縣下都賀郡富山村にあり。南東約二粁の地に大平山公園あり。密大平山

オーヒロ　大廣村　兵庫縣播磨國佐用郡の東南隅。東北は三日月町に、西は中安村に隣り、東南は揖保郡西栗栖村、南は赤穗郡鍛屋村と界す。二—三百米の二條の丘陵性山地東西に延びて平地少きも、北部を西流する千種川の支流公文川の川筋と山地との中間には小低地ありて田畑少からず。農産には米・繭・蔬菜・花卉・蒟蒻芋等あり。作州街道東北部を掠め佐用町・三日月町方面へバスの便あり。また省線姫新線の三日月驛・播磨德久驛（北隣德久村内）へ遠からざれば村の北部は交通不便ならず。古くは和名抄廣岡郷に屬せしか。大字廣山は廣岡の名の轉訛せるものと云ふも詳ならず。

オーヒロタ　大廣田村　富山縣婦中國上新川郡の北部。蒼山市の北約六粁、東岩瀬町の東、濱黒崎村の西に隣り、北は富山灣に面す。面積六・三九方粁に過ぎざるも、富山平野の北部にて神通川下流右岸に沿ひ土地低平、到る處に水田をなす。農業行はれて米を主産し、又附近町村と共に實樂の製造あり。行商者多し。社線富岩鐵道通じて高等學校前驛あり、又北陸本線東岩瀬驛（南隣豊田村内）と、東岩瀬町間の道路に富りバスの便あり、交通は便利なり。臨立富山高等學校あり。此地は和名抄新川郡石勢郷の地なるべく、中世、附近を總じて廣田郷と稱す。のち本村及び廣田・豊田の三村となる。（實來寺）大字田畑にあり。眞言宗高野派。本尊傳行基作觀像。行基菩薩北國遊化の時、一夏安居の地とす。往古七堂伽藍の莊嚴を誇めしが後兵燹に罹りて堂宇悉く燒失す。

オーフ　大生里　→大生原村（茨城縣）

オーフ　大府町　愛知縣尾張國知多郡の東北部。北は有松・大高の二町に隣り、南は半田市との間に東浦村を隔て、東は碧海郡刈谷町・愛知郡豊明村と界す。西邊と東北部はやや高く丘陵地なるも、其他は概して平坦地にて田畑よく拓け、山林は田畑に比して僅に二割に過ぎず。農産には米・蔬多く、畜産には牛の飼育盛に、特に絶緞物業榮えて最近の調査によれば生産總額の三五%以上に達す。省線東海道本線南北に貫きて大府驛（明治二十年設置）・共和驛（昭和八年設置）を置く。大府驛はまた南方に走る武豊線の起點をなし、縣道鯉橋に通じて何れもバスの便あり、交通甚だ便利なり。古くは和名抄知多郡英比郷の地。幕政時代は大府・横根・北尾・近崎・伊右衛門新田・道分・道分新田・八ヶ屋・又右衛門新田・米ノ山・長草・吉川・半月・米田・猪伏の十五箇村なりしが、明治九年合併して大府・横根・北崎・共和・長草・吉田の六箇村となり、明治三十九年右六箇村と

森岡村大字猪伏を合せて大府村となり大正四年町制を布く。此地を流るる石鎚瀬川は永祿元年、緒川の水野下野守信元、岡崎の德川元康との伯父甥の合戰ありし處。水野は織田家に屬し、德川は今川家の人なりしが故なり。（熱井神社）大字横根に鎮座。郷社。祭神、天照大御神・須佐之男神・大山祇命。創立年代を詳かにせざるも、明應二年富田左京亮家次重葺を爲すといふ。蓋し室町時代よりの古社にして、爾來近郷の產土神として崇めらる。例祭、八月一日。（延命寺）大字大府にあり。天台宗。寶龍山と號す。開創年代詳ならず。開山は鑑祐法師、中興開山は慶濟法師なり。天正十一年横根城主梶川五左衛門、慶長七年水野内匠より寺領を寄進す。

オーフカ　大深岳　那須火山帶に屬する一峯。トロイデ型休火山にして、壯年期に開析せらる。秋田縣仙北郡田澤村と岩手縣岩手郡松尾村とに跨り、標高一五四一米。西斜面よりは玉川の上流大深澤發し、東南斜面よりは北上川の支流松川發源し、その河畔に松川温泉湧出す。

オーフカナイ　大深内村　青森縣陸奥國上北郡の中部。三本木町の北西、七戸町の南に隣り、西は東津輕郡瀋館村と界す。東西約二五粁、細長きやや南に彎曲せる弓狀をなし、西北境に聳ゆる八幡嶽（一〇二〇米）・石倉山（八九一米）の山脚東南に延び、原野極めて多く、奥入瀬川の一支熊澤川は村の西南境を流れ、砂土路川は東部を東北に流れ洪積層の原野を開析す。米及び畑作による大豆・馬鈴薯・菜種を産するも畜産最も盛にして、又養蠶行はる。國道舊陸羽街道は東部を南北に貫通して定期自動車を通ずるも、交通やや不便とす。村名は大澤田・深持・洞内の三大字の各一字を採りて名づく。大字洞内アイノ澤は縄文土器出土遺蹟として知られる。縄文土器をアイヌに關係ありとする說にとり貴重なる研究資料とす。

オーフキ　大保木村　愛媛縣伊豫國新居郡の西南端。氷見町・橋村に隣り東北は西條町との間に神戸村を隔て、東は加茂村に、西は周桑郡千足山村に接し、南西は上浮穴郡面河村に、南東は高知縣土佐郡本川村と界す。西南境には石鎚山脈の主峯石鎚山（一九二一米）、東南境にはその雄峰瓶ヶ森山（一八九七米）聳え、村はその北斜面に當り概ね山地をなし、これ等の山地より發する溪水集りて溪谷美に富める東川となり、沿岸の谷に耕地拓け畑地多く、米・麥・繭を主産し、柿・竹・三椏・竹・アメノ魚を特産す。尙本村生産額の大をなすものに亀森鐵山・龍王鑛山・西ノ川鑛山等の銅及び山地に美林なる杉・檜・松等あり。省線瓶讃本線の伊豫西條驛（西條町地内）・石鎚山驛（橋村地内）・伊豫小松驛（小松町地内）に近く、また氷見町にバスの便あり。夏季に於ける石鎚登山路に當り、從つて村内の道路は比較的に發達す。室町時代、長曾我部元親四國を平定しその一族此地に入り、當時樹木鬱蒸と茂り居りしを開拓せしより村名起るといふ。また寛文四年、本村外四箇村の總代となり西條城主一柳直興に直稅の免除を歎願して死刑となりし當時の庄屋工藤治兵衛は此の地の人にして銀納義民として其の名高し。大字西野川山に御塔石（一に天柱石）あり、周桑郡方面より石鎚登山道を踏破し、一の鎖附近東側の摺鉢狀をなせる溪谷に屹立するが如し、よりてその名起る。粒狀安山岩にして一側面より望めば四—五米の石柱を横しまに累々と疊積せるが如く、柱狀節理をなせるものなり。（西ノ川鑛山）銅硫化鐵鑛山にて昭和十年の產額は銅硫化鐵鑛約一一萬瓩、硫酸滓は約一〇萬瓩にして硫酸滓は四坂島製錬所に送り他鑛山より來るものと合併製錬す。從業鑛夫六二人。（亀ヶ森鑛山）銅硫化鐵鑛山にて昭和十年の產額は銅硫化鐵鑛約二・五萬瓩、銅鑛約一・六瓩。銅鑛は直島製錬所に送り他よりの銅鑛と合併製錬を行ふ。鑛夫數七九人。（龍王鑛山）銅硫化鐵鑛を採鑛す。昭和十年に於ける鑛產額は銅硫化鐵鑛約四萬瓩。銅分は直島製錬所に送り合併製錬するも其他は販賣す。鑛夫數四二人。（石槌神社）大字西之川山に鎮座。縣社。祭神、石土毘古神。舊稱、石土藏王權現。古來靈跡として其名著れ、日本靈異記にも石槌神坐すに依りて石槌山と稱すと見ゆ。初め役行者、横峰寺を開き更に前神寺を開き、共に當社の別當寺たりしが江戸時代に横峰寺を廢し前神寺を專管の別當とす。なほ温故錄に「西野川山村庄屋、姓は高須賀にて舊家なり。此家の先祖石槌權現の神體を瓶ヶ森より背負ひ來り今の地に移す、因つて石槌祭禮の時は、此庄屋の主人上下を著し帶刀して、人に負はれ上席に著くこと今に常式となり居る」といひて鎮座地の異觀を遂ぶ。例祭、七月十七日。

オーフク　大福　岡山縣都窪郡にありし村。明治三十五年木村及び山田村を廢し、その區域を以て新に福田村を置く。

オーフクロ　大袋村　埼玉縣武藏國南埼玉郡の南部。大澤町の北隣にて、鉛壁町へは北方約七粁、岩槻町へは西方約八粁を隔つ。元荒川その西南界を限りて東南流し、村内概ね平坦、中部はやや高きも西北半部は低濕にして水田多く東半部は田畑となす。農業行はれて米の產最も多く麥・繭等之に次ぎ、工產額また多し。陸羽街道は東境に近く東隣櫛井村の西邊を南北に通じ、これより岐れて岩槻町へ縣道ありてバスの便あり、また此線東武鐵道伊勢崎線の大袋驛（大正十五年設置）ありて交通の便よろし。村内に

面積一〇〇〇アールに及ぶ御料の鴨猟地埼玉鴨場あり。本村はいま八大字あるも明治以前には幕領にて越ケ谷領・岩槻領・新方領に分れ、其岩槻領は三ノ宮・恩間(今は恩間と改む)・大道・大竹等、新方領は大房・大林等にて、袋山のみ越ケ谷領に属す。明治二十二年町村制施行に際し大竹・大房・大林・大道の大を取り、袋山の袋を取り大袋村と名づく。大字恩間は徳川氏江戸入城後は幕領なりしも寛永年中より岩槻城附の村となり、のち大岡主膳正の領分となりし地。恩間新田は明治四年恩間より分離せるもの。大字三ノ宮はもと幕領なりしも寛永年中阿部對馬守に賜はり岩槻城附の地となる。大字大竹も寛永年中より岩槻城附となり大岡主膳正の所領たり。大字袋山・大房・大林は徳川氏江戸入城後幕領となり以て明治維新に至る。

オーブケ　大更村　岩手縣陸中國岩手郡の北部。沼宮内町の西南約六粁、盛民村の北に隣り、西北は平館村に、西南は田頭村に接す。岩手山(二〇四〇米)の北東斜面を占め、その形態圓塊狀にして自尾山(四二八米)・鉄拂山(三二一米)・松森山(三四七米)等の低山地を以て圍繞されたる小盆地をなし、奥刺分水嶺より發流する北上川の支流、松川・赤川は盆地面を潤し米・麥・大豆・粟・稗等を生産し、特に山葵の栽培地として著はれ加工眞實をなす。また牧畜盛んにして、馬の飼育の他、特に緬羊は名高く、松川はヤマベの生棲地として著はれ、また宇白屋より切出す石材は、白屋石として世に知られる。省線花輪線、盆地底を東西に横斷し大更驛(大正十一年設置)を置き、津軽街道西部を南北走し盛岡市よりのトラックの運輪の便もあり。硫黄硫化鐵鑛を出す松尾鑛山(松尾村内)は本村の西北方十二粁にありて、鑛山專用鐵道此處を起點とし、從つて鑛產物の積出多く、大更驛の貨物取扱高は本線の首位を占む。また天下の靈場八幡平への登行口も此地とす。本村は往昔田頭・平館・笹堀・川口等の各村に分屬せし不毛の地にして、元祿十年藩主南部行信御手元金を以て新田開拓の事業を起し、享保十八年竣成し大更新田と稱し、良米の產地となりしも、正德三年大洪水あり、一時荒廢し更に新田奉行に命じて再興せしめ、事業完成して一村をなし今日に至る。自屋石は宇白屋に採集さるる石英安山岩にて、灰白色の石地にて諸種の斑晶あり、また柱狀・板狀の節理に富み石材となす。

オーブケ　大濱村　新潟縣越後國中頸城郡の北部。高田市の東北約九粁、直江津町の東約四粁。西北は八千浦村を隔てて海に近し。全村土地低平、東境をのぞく三邊は保倉川及び其支流湯川に依つて圍まる。省線信越本線通じ大字西福島に黒井驛(明治三十五年設置)を置き、ここより分岐せる社線頸城鐵道村の中部と東西に貫通し百間町・北四谷の二停留所を置く。主生產は農にて米を多產し繭の產これに次ぐ。西部の本村發地は直江津町に接し窯業工場・鐵工場等の工場地帶を形成し、ここに黒井驛を設く。往古のこと記錄の徵すべきものなし。村は百間町新田・下櫛田町新田・大谷内新田・櫛町新田・寺田新田・富田新田・上柳町新田・中柳町新田・岡田新田・下池田新田・中城新田・宇津・姥谷内新田・西海新田・大坂井・田中新田・上泉新田・市村新田・上三分一・松本新田・上吉新田・下吉新田・西福島・北四ツ屋新田・浮島新田・島田新田・五十嵐新田・下千原・千原新田・諏訪新田・立崎新田・鵜木新田・川袋新田・柿野新田・下中村新田・東俣新田・飯田新田・戸口野新田・湯口新田・青野新田・北湯新田・宮原新田・宮本新田・森下新田・船津・手崎新田・榎下新田・榎井・松橋新田・下中島新田・下米岡新田・城野屋新田・北福崎新田・上神原新田・下神原新田・松橋の大字を含み、役場を百間町新田に置く。かく村の字名殆んど新田の名を附ずるは此地の近世の開發になれるを物語るものなり。三分一原は上杉定憲と長尾景虎との古戰場たり。

オーフサ　大總村　千葉縣下總國山武郡の北部。松尾町の北隣にて西北は二川村に、東北は香取郡日吉村・眞壁郡南條村と界す。西南の大部は臺地にて畑地・山林あり、東北半と東南部は低平にて水田多し。農產は米最も多く麥これに次ぐ。外に繭・蚕の產少からず。松尾町より成田町に至る縣道村の西邊をほぼ南北に通じてバスの便あり。和名抄、武射郡長倉郷の内にして中世には坂田郷と稱せし地。戰國の頃は千葉氏の族伊田友胤此地を領して坂田城にあり、初め里見氏に屬しのち小田原北條氏に屬せしも天正十八年小田原の滅亡と共に滅ぶ。明治二十二年市町村制施行に當り現在の木戸臺・長倉その他の諸大字と共に合併し大總村を新設す。(坂田城)大字坂田にあり。一に市場城とも稱す。地勢高く用攻退守に便なり。初め三谷信盛二萬石を領して之に居り小田原北條氏に屬す。市原郡牛久城主の北條氏に叛くや信盛兵を率ゐて之を攻め陷る。信盛は弘治元年千代田村大字山田の金光寺に參詣の歸途本郡二川村の大臺城にありし伊田友胤に邀擊を受け金光寺に據りて防ぎしも衆寡敵せず、遂に自刄す。既にして城兵悉く友胤に降り城はその有となる。友胤よりて坂田城を修築し、二萬五千石を領す。天正十八年小田原の役に千葉新介に屬して湯本口を守る。小田原城陷り北條氏滅ぶと共に友胤の坂田城も廢せらる。友胤は坂田城下に隱栖せしが後水戸に遇れその地に死す。大字木戸臺はもと坂田城の正門に當る故に城登臺と稱せしが後舊に復す。

大字寺方の光臺寺に大臺城主伊田友胤の墓あり。大字原立は中古坂田郷より分れしもの、黒澤によれば坂田城主三谷氏此村に倉庫を設き坂田城主伊田氏の守る所となる。天正十八年城陷りし後その臣等は此地に土著して一村をなし原立と名づく。大字長倉は和名抄、長倉郷の讀稱なり。大字牛熊・中臺・遠山は中古山邊莊に屬す。大字鉈山は元祿の頃は鵜羽山に作りしも後鉈山と改む。

オーフジ　大藤村　山梨縣甲斐國東山梨郡の東部。鹽山町の東に隣り南は奥野田村、北は神金村に接す。東西に狹長にて約一〇粁に達するも、南北は二粁を超ゆる處少し。大菩薩嶺の西南麓脈に屬する源次郎岳(一四七七米)、恩若ノ峯(九八三米)等の山嶺の北斜面にて村の西端部の外は略ど山地をなす。主として養蠶行はれて繭・桑の產多く、米・麥これに次ぐも產額多からず。甲府市より鹽山・丹波山口を經て多摩川谷に至る道路西北部を通じ、神金村落合までバスの便あり。古くは和名抄、山梨郡於曾郷の内なり。(周林寺)大字上栗生野にあり。臨濟宗妙心寺派。天觀山と號す。弘治二年大慶禪師の開創。安政二年まで寺格を有せず、ために一定の住職なかりしが同三年大潤和尚中興す。(法正寺)觀音宗本願寺派。慈見山と號す。慶長阿闍梨の草創。本尊阿彌陀佛。もと天台宗を奉ぜしが慶治二年規宗に轉ず。開主武田家の祈願所たり。武田氏滅ぶるに當り長樂に從り同郡上萩原村に移り、長亂鎮定するに及びて今の地に復歸す。

【大新村】　靜岡縣遠江國磐田郡の南部。見附町の北隣にて、地南北に長く(六粁)餘ほぼ紡錘狀をなし、東は三川・向笠西、は黄瀬・岩田・富岡の諸村に接す。天龍川の東、太田川の西に南北に延びたる丘陵性臺地の中央部にして畑地多く茶と繭を主產し、牛の飼養また少からず。

【大巻】　愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年本村及び兩國村を廢し、その區域と彌富村の大字中山新田とを以て彌田村を新設す。

オーフセ　大布施村　富山縣越中國下新川郡の西北部。生地町の東、三日市町の北に隣り、東北部は黒部川を界として個野村に對す。面積六方粁に滿たざるも、黒部川下流扇狀平野の西南部を占め土地低平にて水田よく發達す。純農村にて米を主產し、麥これに次ぐ。省線北陸本線三日市驛をはじめ、社線黒部鐵道の西三日市・東三日市驛等にも近く、また國道(北陸道)南北に通じ、南は魚津町、東北は泊町方面へバスの便ありて交通便利なり。此地は和名抄、新川郡布留郷の内か。三州志に依れば布留は布勢の誤ならんといふ。延喜式に布勢驛あり、或は今の大字音杖の地か。因に布施は布施屋にて、王朝時代の無料宿泊所か。

オーフチ　大潤村　靜岡縣駿河國富士郡の東部。富士山の南側裾野の一部を占め、東南は愛鷹山、西北斜面に當る吉永村に隣り、西は富士根村に接し、東北は駿東郡須山村なり。南北約一六粁、東西約六粁、面積七四方粁を超ゆ。土地次第に南方に緩斜し森林・畑地多く、養蚕行はれて繭の產多くまた製茶業・林業(檜・杉)盛なり。大字大潤は富士箱根國立公園の一部を成し、南方の吉原町へはバスの便あり。

【大潤村】　靜岡縣遠江國小笠郡の南部。掛川町の南方約一四粁、遠州灘に面し、東は大坂村・三俣村、西は横須賀町に隣る。村の北半は小笠山南麓の山脚南方に緩く傾きて丘陵をなすも南半は低平にして田畑よく拓け、海岸には遠く御前崎より西方に延る沙濱と砂丘蔓延せり。農產は米を第一に繭・茶を出し、畜產・水產また少からず。社線中遠鐵道東西に走りて野中・野賀の二驛(大正十四年開業)を置き、また縣道之と並行し東は地頭方・御前崎方面へ、西は横須賀を經て見附町・濱松市方面へもバスの便あり。此地は和名抄、城飼郡新井郷の内か。もと西大潤・東大潤の二村に分れしも、西大潤は横須賀町に入り東大潤村はとなる。天正四年、徳川家康と武田勝頼の對陣せし地なり。(熊野神社)大字東大潤字野賀原に鎮座。郷社。伊邪那美神を祀る。創立年代詳ならず。享保年間微誤のため社記等悉く焼失すと云ふ。附近の產土神として崇めらる。例祭十月十七日。

【大潤村】　靜岡縣筑後國八女郡の南部。黒木町の東南にて、東は矢部村、西は木屋村に隣り、南は熊本縣鹿本郡樋岡・岩野二村に界す。肥筑山塊の中部に當り全村殆ど山地をなす。矢部川東隣矢部村より來りて中部を西に貫き、これに沿ひて狹き低地あり。米・麥を產し林產少からず。縣道川に沿ひて矢部村に連するも交通なほ便利ならず。もと矢部村に屬せしが、のち分離獨立す。村内に高屋城址あり。吉野時代五條頼光鎮西宮良成親王を率ひて玉名に遷せし處。(日向神岩)本村の東部より矢部村との境界地方に亘る矢部川上流溪谷約二粁の間は、奇岩巉立し溪流深く兩岸を彫刻して絶景を作る。その壮觀は寧ろ耶馬溪に勝るると云はれ杖を引く者多し。

オーフナ　大船町　神奈川縣鎌倉郡の南部。鎌倉町の北隣、戸塚町の南に近し。三浦半島をなす丘陵の北部と相模野臺地の中間に位し中部は土地概ね平坦にして耕地拓け、米・麥の外蔬菜・花卉・みかん等の產あり。省線東海道本線通じて大船驛(明治二十一年設置)を置き、横須賀線ここより分岐して大宇山ノ内に北鎌倉驛(昭和二年設置)を設け、道路また四通して横濱・戸塚・藤澤・鎌倉方面へはいづれもバスの便あり、交通頗る便利なり。この地は和名抄、鎌倉郡尺度

瘞の地。古くは栗船または背船に作る。もと小坂村と称せしが昭和八年町制施行に際して大船町と改称し、同年西隣の玉縄村を併合す。字城廻に永正九年北條早雲の築きし玉縄城址あり。鎌倉に接続せる地なれば建長寺・圓覺寺及び北條泰時・時頼の墓等名勝舊蹟多し。大字岩瀬は仁治元年の證菩提寺文書に岩瀬郷と見ゆる地にして、里傳によれば源頼朝の時奥州の囚人岩瀬與一太郎住みしより地名起るといふ。東鑑によれば與一太郎は治承四年十一月頼朝に直官して恩赦を蒙り家人に加へらる。北條綱成創建の淨土宗の名刹大長寺はこの地にあり。大字小袋谷及び山之内邊は中世小袋郷と称し、小袋谷はその遺称なり。太平記に新田義貞鎌倉合戰の時、堀口貞満を瓦薗呂坂（瓦薗けらるとあり、また東鑑仁治二年十二月の條に山内瓦薗禮とあるも此の地なり。大字山之内は中世の山内庄の遺称にして東鑑治承四年七月の條に「山内首藤瀧口三郎經俊者、曾以不ノ應ニ恩喚一」とあり、同年十一月の條にも山内庄の名見ゆ。圓覺寺は此地にあり。〔玉縄城〕 もとの玉縄村地内にありし城。永正年間北條早雲の築くところ、天文年間北條綱成此處に居り子孫相承け天正年間に至り北條氏の滅亡と共に城廢す。〔建長寺〕 大字山ノ内にあり。臨済宗建長寺派。瓦薗山と號し當派の大本山にて末寺五百餘寺を統べ鎌倉五山の首位にあり。初め執權北條時頼深く禪宗に歸依し、開來禪圓を師として受戒す。建長元年、禪圓と謀し此地に一寺建立を企圖し同五年竣成す。その規模專ら宋都臨安の興聖萬禪寺に倣ふ。時頼自ら宋都臨安の興聖萬禪寺に倣ふ。時頼自ら宋都臨安の興聖萬禪寺に倣ふ。時頼自

雨量は夏季に殊に少く水田として利用し得る所稀少なり。併し麥は栽培に適しもとは常食用として大麥を栽培せしも近年は專釋鼠田の原料たる裸麥・小麥の栽培多く、其他甘藷・除蟲菊等の產も少からず。尙此地の杏實は古來より知られ、漁獲物は鰹を主とし鯛・鰤等亦少からず、農商專修學校あり。海岸に沿うて福田村より北浦村に至る道路東西に通じ赤神嶽（寒霞）溪を經て草壁町へも至るを得べし。又海上は船の便あるも交通一般に便ならず。北浦村に至る道は海を臨みて眺望最も佳し。本村は瀨戸內海國立公園の一部に當る。此地古くは尾美莊に屬せるものなるべし。大字大部より西方北浦村に至る途中に琴線あり、神功皇后征韓の御歸途御前矢寄の濱にて彈ぜる玉琴を海中に投じ給ひしに此濱に漂著す、よりてこれを塡めて祠を建てしものといひ、今も丘上に小石祠あり。惠門岳は寒霞溪の背面に當り、大字小部より約三粁。俗に北寒霞溪とよばれ、大岩洞窟內に棧閣を架し不動尊を安置す。近傍に仙涯の瀑かかる。

オーベ　生部　美濃國（岐阜縣）の古地名。和名抄、加茂郡に郷名見ゆ。其地いま明かならず。或ひは郡の南部の飯地村・瀨南村の邊なるか。更に攷究を要す。

オーホ　大穂　茨城縣常陸國筑波郡の東部。北は北條町・田水山村に、東北は櫻川を以て小田村に、南は旭村に、西は吉沼村に隣り、東南は新治郡桒原村と界す。土地概ね高燥にて平坦、畑地・林野廣く東部櫻川の流域は最も低平にて田地拓く。全戶數の九〇%は農業を營み、繭・米・麥・大豆・小豆等を產しまた草巷の特產あり。縣道中部を東北より西南に通じ東北は北條町、南は取手町方面へバスの便あり。この地は和名抄、筑波郡方穗郷の內にして、村名もまた古の郷名を取りて名付くといふ。大字大曾根の大とを取りて名付くといふ。大字玉取は高館多が小田城を攻むるにあたり陣營を置きた地なり。近世は旗本堀氏世々陣屋を置く。

〔八坂神社〕　大字玉取に鎭座。郷社。健速須佐之男命を祀る。もと祇園社と稱せり。京都八坂神社を勸請したるもの。江戸時代には藩主堀氏の崇敬を受け、社殿の修造、供米等の寄進あり。また近郷の產土神として崇めらる。〔常福寺〕大字大曾根にあり。眞宗大谷派。佛名山玉川院と號す。觀音堂門下二十四聖の第十八たる八田入信の遺跡なり。入信は常陸國久慈西郡八田村の產、八田七郎と云ひ佐竹氏一族たりしが、のち親鸞に歸依して其弟子となる。而して穴澤の入信に對して八田の入信と稱せらる。文永二年、其住居せる八田に一宇を建つ。これ本寺の靈鷲なり。天文十一年現地に移る。〔千光寺〕大字大曾根にあり。天台宗。庭皇山千手院と號す。本尊は藥師如來。慈覺大師の草創。建仁元年八田知家再建す。中興阿山は頭白上人たり。上人は福田盛行の男、其母懷胎して當地に來り院に殺され、その屍體より出生す。生來頭髮白きより頭白丸と稱す。堂宇は宗仙和尙の時、兵燹に罹り、法勇亮尊之を再興す。江戸時代幕府より十石の朱印を賜ふ。寺勢之より振ひ舊觀に復す。明治初年火災に罹り、其後再建せしが舊觀に復するを得ず。境內に不動堂あり、下鯰成田不動尊の分靈を迎へしもの。〔福祿院〕大字高野にあり。新義眞言宗豐山派。延命院と號す。本尊は延命地藏尊。文治元年の草創。開山は良傳法印。のち衰廢せしも永祿五年慶勝法印再興す。いまの堂宇は近年の建築になれるもの。

オーボケコボケ　大歩危小歩危　大崩壞小崩壞にも作る。徳島縣吉野川上流の峽谷。三好郡池田町より吉野川を遡ること二五粁、同郡三名村字赤野より下流勝川口迄約三粁の間を大歩危といひ、それより更に約二粁の下流より約一粁の間即ち字白川口に至る間を小歩危と呼ぶ。四國に於ける峽谷中の尤なるものにて吉野川が土佐の北部にて石鎚・劍兩山脈間の縱谷を東北流せるものが阿波國境に入りて急に北折し石鎚山脈を剽竄橫斷して成せる大橫谷なり。此橫谷中約八粁の大歩危小歩危の奇觀最も絕景を現し、兩岸相迫りて高き數百米の絕壁をなし綠樹これを蔽ひ深潭の底には背流淀

んでは紺碧の深淵となり、激しては白布を晒すが如き急湍となり、その間兩岸に奇岩怪石連り、側東に於ける秩父長瀞に優る本邦結晶片岩の岩石美・森林美をなす。大歩危は背く流し深淵に兩岸の奇峯を映す瀞の美をなし、小歩危は岩石の露出優しきも急湍各所に懸り舟行安からならず、大歩危の雄大豪壯男性的の觀あると好對照をなす。此橫谷は地質學上にも興味深く、諸學者の間に論爭を繰り返せし所なり。此地域に發達せる結晶片岩層は大崩壞層と呼ばれ、四國の中部吉野川橫谷より別子附近に至る間に標式的に發達せる結晶片岩系の下部に當り、岩質上秩父地方の三波川系の名稱中に此地方の結晶片岩系を含ましむることは不可なりとし、小川琢治博士の大崩壞層と命名せしもの。結晶片岩系の上部層に對しては別子層（三波川層中上部）の名を用ふ。大崩壞層は更に下部層の大崩壞片麻岩及び大崩壞片岩と上部層の石墨千枚岩・綠泥千枚岩とに分ち、大崩壞片麻岩は暗灰色を呈し、質緻密にして片理に乏しく大崩壞街道に標式的露出あり、主として碎屑狀石英の集合より成り少量の斜長石・絹雲母・石墨等を含む。大崩壞片岩の岩質は大崩壞片麻岩と同じく、只雲母の量が片麻岩に比して多く片理の一層完全なものなり。往時は兩岸の中腹に沿ひて迂餘曲折せし一條の險路ありしのみにて交通上極めて危險なりし所、大歩危は大股に歩めば危險にて小歩危は小股に歩むも尙且つ危險なるより此名起ると傳ふ。今は土佐街道（大崩壞街道）は完全に改修されて池田町・高知市間のバス疾驅し、更に省線土讃線これに並行し車窓より此峽谷美を賞し得るに至れり。尙探勝には土讃線西字駅（三名村地內）に下車するを最も便利とす。櫻花咲く陽春、眼もさむるばかりの山躑躅の新綠に點綴さるる初夏、霜葉錦を織りて碧水に映ずる晩秋、三名村字赤野より遊覽船を浮べて峽々たる峽谷間立せる大盤石を仰げば、實に天下の景勝たるを覺ゆるを得べし。

オーボラ　大洞　〔大洞山〕　陸東山脈秩父山塊に屬する一峰。埼玉縣秩父郡大滝村と山梨縣北都留郡丹波山村に跨る。秩父古生層より成り、標高二〇六九米。東方には雲取山（二〇一八米）、西方には牛王院山（二一〇九米）跨つ。

〔大洞峠〕　岐阜縣郡上郡牛道村と奥明方村との境界に聳え最高點一一四〇米。西方の郡上郡白鳥町より東方の吉田川河畔なる奥明方村氣良及び大谷方面に至る。

〔大洞山〕　鈴鹿山脈の南端につづく布引山塊の一峯。三重縣一志郡の西境に聳え北峯を雄岳（一〇一二米）、南峯を雌岳（九八五米）と稱す。基底は花崗片麻岩及び新第三系にして山麓は石英安山岩・熔岩より成る。北稜は尼ケ岳（九七八米）、南稜は三峯山に至る。

〔大洞山〕　振賀縣彦根市東北境の小丘。頂上には井伊氏の建てたる大洞辨財天の堂宇あり。南面は琵琶湖の展望甚だ佳なり。西麓に井伊神社あり。東海道本線を隔てて松原內湖（一名大洞內湖）に臨む。

オーボリ　大堀村　福島縣雙葉郡の北部。浪江町及び長塚村の西に隣り、南は新山町に、西は葛尾村・田村郡都路村と界す。西境を阿武隈山系の手倉山（六三一米）等の六—七〇〇米台の山嶽南部に連り、山麓東に延び中央を高瀨川東に流れ、東部流域は平坦にして耕地拓け、米・麥・大豆・小豆・馬鈴薯等を產し、養蠶行はれ、また相馬燒は世に知らる。街道は中央部を東西に通じ浪江町へはバスの便あるも、交通便ならず。此地は和名抄、標葉郡磐瀨郷の地なるべし。〔相馬燒〕　大字大堀に產する陶器の稱。相馬郡中村町より產する相馬燒を一に駒燒と稱するに對し大堀燒ともいふ。此の附近の第三紀層に屬する角閃岩・花崗岩の雜礫は陶土となり之を原料として製す。陶器は外面砂目を有し內面に青ひびを示す。駒燒の雅物を主とするに對し專ら實用品を製し、規模は未だ大ならざるも需要多し。元祿年中此地の椎谷氏始めて中村城下の陶工田代氏に製法を受けしに起るといふ。

オーマ　大間　〔大間埼〕　青森縣下北郡にある崎。下北半島の西北端に突出し實に本州の最北端たり。北海道渡島の汐首岬と相對し津軽海峽の東門を扼す。低平の砂嘴より成り岬端に辨天島の小島浮び島上に大間埼燈臺（大正十年設置）あり、燈質は迅閃白光にて光達距離一七浬。この津軽海峽は濃霧に包まるること多くために霧笛の設備あり、また無線信號所を併置す。

〔大間港〕　青森縣下北郡にある港。下北半島の西北端大間埼の南、津軽海峽に臨み西北に開口す。大奥村に屬し、內務省指定港たり。移出は海產物（約十三萬圓）・昆布（約十二萬圓）・乾鮑（約十二萬圓）其他の物品（約四萬圓）にて移出合計約四十一萬圓、移入は內地米（約二十六萬圓）、其他の物品（約五十九萬圓）にて移入合計九十三萬圓。其移出入の取引港は主として青森・北海道函館の二港とす。

〔大間〕　→田間宮村（埼玉縣）

オーマエ　大前　→山前村（栃木縣足利郡）

オーマガリ　大曲　〔大曲町〕　秋田縣河辺郡仙北郡の西南部。六郷町の西に隣り、東北は高梨村に、北は花館村に、西は大川西根村と界す。仙北平野のほぼ中央に位し、土地平坦、此間雄物川西部を北西に流れ、東方岩手縣境の山地に發する川口川・赤倉川・鞠子川等の諸支流町の北部に合して鞠子川となり東西に貫きて雄物川に合して平地を潤し廣闊なる地味肥沃の田圃連り米を主產し、其外飯田慈・指物・タオル及び

内の交通は便なりと云へり。此地は和名抄に見る高麗郡の内なり。中世は秩父庄名称に属す。大字日向谷の城王山上に日向城あり。城址新田谷・新田郷谷辺に新田義貞の陣所あり。[illegible]

安谷川の谷に沿ふて[illegible]

[illegible]

[illegible]

大田々倉村・大方倉村等数箇・共方倉村等数箇の総称なり。この地域は往古は此の辺まで伝位置なりしものなるべんか。それ迄はこの辺の名称・沿革・位置等は不詳なり。

【倉田宮】 田倉莫王記に見ゆる川。田倉郷・田倉郷・「黒田に田倉郷有り」・田倉郷・倉山・北倉大・大浦に有る年貢少々」とあるに依れば、現在倉橋郷・川倉郷・田村・倉山の辺りに比定して北浦に入るものなるべし。その流域は北方に田で北浦に入るものなるべし。その流域は北方に田で北浦に入るものなるべし。その流域は北方に田で

氏宅邸内にあり。山口藩下関奇兵隊の屯所と認められるもの。現況の周囲約一米、外郭土元キロ・二米の断崖が分水嶺し、分水嶺の直下の周囲一・二米間「御殿約六米。頂部の直径一・二米の断崖状の平坦部」と称し、中央に「御殿」の遺構あり。

大一〇二　近江　おうみ

【近江国】　東山道十三国の一。一に江州、また近州ともいう。東は伊勢・美濃、西は山城・丹波、南は伊賀、北は若狭・越前の諸国に隣し、南北の長さ一二〇キロ、東西の最大幅一〇キロ、面積約六〇〇〇平方キロ。国内の大部分は琵琶湖の湖水で、その湖水の中央部に竹生島・沖島・多景島・奥島・弁天島・白鬚島・小島・長命島・伊崎島・鳥居島・竹島・大島・沖島・多景島・竹生

業学者を多数に出し、川の左岸には学校を置設し、産業学者は大日川の流域学校に小学校計二校を置き、小学校計二校を置き、小学校計二校を置き、

年（同書）を参照し、新潟之と共に郡
に地産産業業を発展した。此者は新潟
年新潟県にして安塚村と称せられしも明治二
年寺村南郷に属し、同年十二月大字・安塚
の二郷村と併合して新に大塚村と称し、
同十二年安塚村と改称し、同二十三年大塚村と改称し、
今合して大塚村となす。同年三月郡区町村編
制に伴い。

【大塚村】 上伊那郡に属する一村。東南
北高にある盆地東の東北部にあり、
北は大塚村及び田切村に接し、南方に
は沙塚村を隔ててあり、西南方は東北に向つて延び
東内谷を経て西南北方に岳山・茶臼山等を
西に大塚村、西南南に大塚村の各境界を画し、東北
に大塚村、西南南に大塚村の好嶺峠
あり。大塚家地治・巻原工場・治安警察・
内閣・郵便局・郵便所・大塚・大田・大塚と共に特
別の七地の一とされ、農業内の地域及び
地方の七地の一とされ、農業内の地域の中心
地として発展し、この地域の中心
地として発展し、この地域の中心
地として発展し、この

登るもの、よりて吉野川上流に出び、川上村柏木と新宮口は下市口駅より熊川まで約三六粁、白倉口は下市口駅より熊川まで約三一粁、前者は三日、後者は二日を要す。熊川は大峯登山路・白倉・吉野・五番・五番屋を経て熊野に出る。吉野山より白倉・新宮に出る一大幹線道路が一日半乗合自動車運行中なり。吉野山より白倉・新宮に出る一大幹線道路なり。吉野山より白倉・新宮に出る一大幹線道路なり。吉野山より白倉・新宮に出る一大幹線道路

来。[illegible]山と称す。[illegible]の[illegible]。[illegible]元[illegible]に[illegible]と[illegible]。[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]。[illegible]に[illegible]。[illegible]と[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]

【大谷大窟】一大谷大窟

【大谷川】 [illegible]

【大谷峠】 [illegible]

【大谷】 [illegible]

【大谷】 [illegible]

【大谷】 [illegible]

【大谷村】 [illegible]

【大谷山】 [illegible]

【大谷山・大三峯山・大峯山】 三峯山の三峯山に同じ。記事・一一「和歌山」参照。

【大峯和山・大三峯山・大峯山】 三峯山の大峯和山に同じ。「記事・一一「和歌山」参照。

【大峯】 [illegible]

【大三峯】 [illegible]

[illegible]

【大谷】 [illegible]

【大谷】 [illegible]

【大谷】 [

オームゲン 大無間山（おほむげんざん） 赤石山脈の支脈大無間山脈の主峯。静岡縣榛原郡上川根村と安倍郡井川村に跨り、標高二三二〇米。北西麓には大根澤山（二三二九米）に續き、東北支脈に峙つ小無間山（二一五〇米）と相對す。この山脈は大井川の上流とその上支寸又川の分水界をなす。

オームサ 大身狭（おほみさ） 大和國（奈良縣）高市郡の古地名。書紀欽明天皇の十七年大匠蘇我稻目をして百濟人を以て此地に屯倉を置くとあり。其地今畝傍町大字見瀬の地なりといふ。

オームシ 大虫村（おほむし） 福井縣越前國丹生郡の東南部。東は南條郡武生町に隣る。西部に鬼ヶ嶽（五三三米）峙ちて四半は山地を成すも、東半は低平にして水田拓く。武生町にバスを通ずるも未だ便ならず。主産物は米なるも工産（殊に羽二重）尠からず。此地は和名抄、丹生郡丹生郷の内とす。大字丹生郷は蓋し郷名の遺稱ならん。中世は大虫莊と呼ばれ延暦寺西塔領なり。姓氏錄に丹生氏見ゆ、或は此地に故あるか。大字丹生郷の鬼ヶ嶽（一に丹生ヶ嶽）に古昔白鬼女住みて本村を荒せしが、終に日野川の畔にて村民に殺さると。今白鬼女稱といふは是より起りしものといふ。而して今尚ほ三月二日（もとは二月二日）には鬼神祭とてその日一日仕事を止めて祭す。〔大虫神社〕大字上大虫に鎮座。縣社。祭神、天津日高彦火々出見尊。（相殿）小虫神社（豐玉姫命）、雨夜神社（水波乃賣命）・雷神社（大山祇命）・若宮神社（鵜草葺不合尊）。式内名神大社。當社は古くより當村丹生嶽に鎮座ありて崇神天皇七年神地御新定鳥祭あり。乘仁天皇の御宇、國中蝗蟲多く五穀作物を害し人民死亡するを以て當社へ祈願せしに蝗悉く退滅し五穀豊作せし神德を尊み給ひて現地に遷座す。延暦十年從四位下に陞叙せらる。中古以來、朝廷の尊崇に相次ぎ新田・足利・斯波・朝倉等の武將信仰ありて、天正年中までは社領八千二百石、宮司岡野、權宮司家原の二戸、社人百二十戸奉仕し、殿宇また宏壯輪奐の美を盡す。天正四年柴田勝家、社殿を焼き社領を横領し宮司等を刑するに及び社人御神體と寶物を丹生嶽に移し總に奉祀すること八年、豊臣秀吉の將家を滅し歸陣の節、當社頭を再建せしめ禁制札を建つ。次いで松平越前守秀康の修造あり。のち福井侯・鯖江侯・府中侯の祈願所として代々崇敬、寄進・社殿の造營を加ふ。同十一年、小虫神社・雨夜神社・雷神社を合祀し四十八末社を列祀す。社内に數百年を經し樟・杉の繁茂し社前に宮川の清流ありてその幽邃佳勝言ふべからず。社寶に光仁天皇勅納天國の太刀・乘仁天皇勅使家原氏寄進驛路の鈴あり。例祭、十月十日。

オームタ 大牟田（おほむた）【大牟田市】 福岡縣西南端の港市。福岡縣十市の一にして、北は銀水村、東は三池町・駒馬村、南は熊本縣玉名郡荒尾町に接し、西は有明海に面す。東部は肥筑山地の西端に當り土地やや高きも、其他は概れ平坦にして識訪川・大牟田川・長溝川等が市街を西に貫いて海に入る。鹿兒島本線は市を南北に縱貫して大牟田驛（明治二十二年設置）を置き、炭坑鐵道ありて各炭坑と鹿兒島本線及び三池港とを繋ぐ。炭坑は三池郡・玉名郡の地下に亘り、東西八粁、南北二二粁、三三、〇〇〇〇ヘクタールに及ぶ我國第一の炭田三池炭礦の一部に屬す。三池炭礦はもと官有なりしが、明治二十二年以來三井家の有となり、今は三井鑛山會社の經營にかかり、官浦・萬円・四ツ山の三坑ありて年産額二〇〇萬瓲を超ゆ。市の西南岸には三池の開港あり、三井鑛山會社が三池炭積出のため獨力にて築設せるもの。六米に近き干潮の大差に處するため港は船渠・内港・外港の三部より成り、閘門にて區切られたる船渠東岸は一萬噸級航洋汽船三隻を同時に繫船せしめ得る繫船壁をなし、炭坑鐵道により直ちに石炭を汽船に積込む施設あり。昭和九年の積出額は約八〇萬瓲に上る。市には炭礦の外化學工業・機械工業・紡織工業等相次いで勃興し、工業用藥品及び染料・亞鉛・鳥絲・コークス等の工産多し。此地古代に關しては史料に乏しく其變遷詳ならざるも、炊煙數なる半農半漁の一僻邑にして、天正十五年より慶長五年迄は高橋彌七郎の領地たり。次いで德川氏が天下に覇を稱ふるに及び、所謂公儀より元和六年立花宗茂に與へし下知狀に依れば、三池郡五十五箇村の内四十七箇村は柳河藩に、八箇村を三池藩に附せらる。即ち本市の内、横須は柳河藩に、稻荷・下里は三池藩に、大牟田・識訪等は幕領に屬し、代官所を置きて王政維新に至る。明治四年廢藩の後一度び三潴縣に屬したることあり。明治九年鑛山寮が炭礦の開發に着手してよりやや活況を呈し、同二十二年大牟田・横須・下里・稻荷の四箇村を合して大牟田町となり、炭礦の經營が三井氏の手に歸してより急激に市勢の發展を見、大正六年三月市制を布き、昭和四年には市隣の三川町の地を市域に編入し、進に熊本縣と境を接するに至る。かくて市は東西約四・五粁、南北約五粁、面積一八・四方粁、昭和十一年十月現在の人口は一〇六、六〇〇人に上り、九州屈指の大都市たり。新開都市の常として市街の美觀は未だ整はざるも市の中樞部は主として堀立地なれば街衢整然且つ路幅廣く、其將來の發展を想はしむるに足るものあり。〔三笠神社〕鳥塚町に鎮座。縣社。祭神高橋鎮種夫妻・立花直次。天保年間、岩代國下手渡（福島縣安達郡小手村）の地に三神を創祀して三笠神社と稱せるなその創建とす。明治三年これを立花家の本封たりし筑後に移し三池郡今山村字東山に鎮祀し、同二十九年更に大牟田の現地に遷す。鎮種は立花氏、本名を鎮理と云ひ高橋鑑種の養子となり寶滿及び岩屋の城主となる。時に紹運と號す。直次はその子なり。天正十三年島津義久來攻するや大友氏と共に防戰に努めしが鎮種遂に自刃す、時に四十二歳。直次は生捕せらる。同十五年豊臣秀吉、島津義久を降して九州を平定するや、鎮種の剛勇を讃し再び三池郡を直次に與へ主膳正に任ず。のち直次は關ヶ原役に石田三成に與して本領を收められる。文化年間、種善に至りて岩代國下手渡に移封、明治初年種善の孫種恭に至り原封三池郡に歸る。例祭、四月十日。〔淨心院〕大字下田にあり。淨土宗にして本尊阿彌陀如來。柳河城主立花左近將監の草創。初め柳河町筑紫にあり明治四十四年宗祖七百年記念の爲今の地に移し堂宇を再建す。〔正明寺〕大字稻荷にあり。眞宗本願寺派。尊倉和尚の草創。和尚、足利尊氏の靈夢に依り當郡船津村の阿彌堂を銀水村白川に移し一寺を草創す。之當山の權與とす。もと天台宗たりしが休味和尚現宗に改む。明治平間火災に罹り後今の地に移りて堂宇を再建す。【大牟田電氣軌道線】 福岡縣大牟田市にある私設鐵道。旭町・四ツ山道間四・六粁の線路。

オームチ 大汝峯（おほなんぢみね） 加賀白山の一峯。白山記には大男知とあり。→白山（石川・岐阜縣境）

オームチ 大神（おほみわ） 攝津國（兵庫縣）の古地名。和名抄、河邊郡に大神郷あり。於保無知と訓ず。地は今の川邊郡多田村・東谷村の邊に當る。神氏の祖大田田根子命の出でし地か。

オームツ 大水（おほみづ） 肥後國（熊本縣）玉名郡の古地名。延喜式兵部省式に見ゆる肥後國の官驛にして筑後の狩道驛より本驛を經て江田驛に至る、驛馬、傳馬各五疋とあり、和名抄には郷名出づ。これ郷にして驛か蓋ぬるもの。本郷の北境は今筑後國（福岡縣）山門郡の山川村に至り其南に玉名郡の南關町をはじめ大原・賢木・坂下の諸村を含み、驛址は南關町の關町にありしものの如し。大水は轉じて大津となり廣名も亦大津山國と稱せり。※大津山國（おほつやまこく）

オームハ 大庭（おほば）（郡） →大庭（郡）

オームラ 大村（おほむら）【大村】 陸前國（宮城縣）の古地名。和名抄、陸奥國宮城郡に大村郷あり。殘篇風土記には大村莊に作る。其地今の仙臺市の東郊宮城郡七郷村の邊に當るか。【大村】 岩代國（福島縣）の古地名。和名抄、陸奥國白河郡に郷名見ゆ。阿武隈川の左岸に位す。今四白河郡の大沼村の大字に大村あり、郷名の遺稱なり、即ち白河町の東方大沼村及び之に隣接せる關平村を以て大村郷の地に擬すべし。【大村】 常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄、河内郡に郷名見ゆ。今新治郡榮村の大字に大村あり、此地方は文祿年中信太郡に入り更に近世に至り其の一部新治郡に入り以て今日に至る。從つて大村郷の地は凡そ榮村・中家村の邊か。【大村】 信濃國（長野縣）の古地名。和名抄、佐久郡に大村郷あり。その地今の北佐久郡小諸町・南大井村・北大井村・大里村の地に當る。源平盛衰記に小室・大室あり、或は大村の訛りしものか。東鑑元暦二年五月の條に小諸光俊とあるは此地の人。【大村島】 三重縣志摩郡鎌浦村の北方海上約一粁に浮ぶ小島。鎌浦村に屬し周圍は海崖を以て成る。西南方に蘇倉島、北方に菅島浮ぶ。【大村】 和泉國（大阪府）の古地名。和名抄大鳥郡に郷名見え、於保無良と訓ず。今の泉北郡東陶器村・西陶器村に當る。古の陶邑にして中世は陶器莊と呼ばれし處。※陶邑（すえ）・陶器（すえ）莊【大村山】 備中國（岡山縣）の歌枕。今その所在詳かならざるも名所案によれば上房郡にありと。大菅官の歌「君か代はれさしとどむるとみ草のおほむら山なみるかたのしき 爲政」【大村】 阿波國（徳島縣）の古地名。和名抄、美馬郡に大村郷あり於保無良と訓ず。和泉・常陸・信濃・陸奥・筑前・肥前の諸國にも大村郷あり。此郷今何れの地なるか詳かならず。一說に吉野川の右岸貞光町・半田町・端山村・一宇村・東祖谷山村等の地なるべく、或は吉野川の左岸那里村の邊かともいふ。【大村】 筑前國（福岡縣）の古地名。和名抄糟屋郡に郷名の擬すべきなき地點即ち郡の北部の古郷の青柳村・小野村の邊か。【大村】 筑前國（福岡縣）の古地名。和名抄嘉麻郡に古郷名見ゆ。其地今何れに當るか明らかならず。或は曰ふ今嘉穗郡稻築村の大字に鴨生あり嘉麻府の轉にして嘉麻郡家の所在地なり、故にまたこれを呼びて大村と稱せしと。此假說によれば大村郷は稻築村を中心として其東の庄内村を含める地域なるべし。【大村町】 長崎縣肥前國東彼杵郡の南部。鈴田村の北、西大村の南に接し西は大村灣に臨む。多良岳火山の一峯五家原岳西麓の斜面にて地東北より西南に傾斜し中部以東は山地なるも西部には低平部あり田畑よく拓く。市街は海岸に沿ひて發達し、省線大村線南北に走り大村驛（明治三十一年設置）を置く。また大村・時津等に定期汽船の便あり。もと大村氏の城下町として發達し維新後舊郡役所の所在地となる。而して近年北隣の西大村に歩兵第四十六聯隊、竹松村に大村海軍航空隊置かるるに及び急激に進展す。主要物産に蒟蒻玉・海參・細工鹽肉等あり。いま大村聯隊區司令部・大村陸軍病院・大村憲兵分隊等の官衙及び長崎縣男女師範學校・縣立大村中學校・同大村高等女學校等

の學校あり。大村港は内務省指定港灣にて主なる移出品は清酒(九萬圓餘)、移入品は海産物(十萬圓餘)・金屬製品等。此地は和名抄、彼杵郡大村郷の内にて、もと大村と總稱されしがのち大村町・大村・西大村の一町二村に分れ、更に大正十四年大村町及び大村を合併して當町を建つ。延喜兵部省式に大村驛馬五疋と見ゆるも蓋し此地か。江戸時代には長崎街道の一宿驛をなせり。當町の海濱は一に琴浦と稱せられ景勝の地たり。國性爺合戰・四「何か歎きは有明の月さへ同じ月なれど、なう二人見馴れし國の中、名殘かずかず大村の、浦の濱風一村雨は、さらさらとはれてもはれぬ我が涙」(大村域)町の南方に其址あり。世々大村氏の居城にて四圍海水を以て繞らす。大村氏は有馬氏と同祖にて藤原純友の裔なりといふ。純前に至り大村城に據る。其養嗣子純忠は豐臣秀吉に仕へ新檢二萬八千石の地を賜はり、德川氏に至りても猶領を安堵し幣來子孫相繼ぎて以て明治維新に至る。明治四年藩は一旦縣となりしが間もなく長崎縣に入る。〔大村神社〕玖島郷に鎮座。縣社。祭神、大村直純・同觀澄・同澄宗・同澄遠・同純興・同純弘・同純照。社殿は文久三年の建立、純照の親父純昌の造營。もと常磐神社と云ひて池田山にあり子が明治十六年現地に遷祀し翌年現社號に改め且つ純照を合祀す。肥前大村氏、姓は藤原、純友より出づ。天慶年中に純友叛して九州に據り遂に一族みな陣殺す。獨り直純のみ遁る。のち大敏に遭ひ官位を拜し正暦年中に當國彼杵郡大村久原城に居し、其後大村氏を稱す。忠澄の時に鎌倉幕府に仕ふ。見經澄は高來一郡を領し有馬に居し有馬氏を稱す。兄弟共に大番役を勤む。十二代純忠の時南蠻の商船來り、元龜二年長崎に通商を許す。天正十三年豐臣秀吉に仕へ、鳥津の征服、朝鮮征伐に功あり。のち家康に仕ふ。寛永十四年島原の役に長崎港を守り、幣來、耶あるごとに大村氏の兵長崎を守る。所領二萬七千石、子孫相繼ぎて明治に至り華族に列す。佰爵を授けらる。社地大村城址にありて風光よし。例祭、四月八日。〔皇大神宮神社〕字本町海濱に鎮座。郷社。祭神、天照大御神・萬幡豐秋津姫命。天手力男命外四神。創立年代を詳かにせざるも江戸時代に入り寶暦四年藩主大村純保社殿を建立し、天保十二年同純顯、領内に勧進せしめて社地を草場浦の海濱に選み、社殿を營み之に遷祀す。例祭、四月一日。

【大村灣】長崎縣東彼杵、西彼杵兩郡に包まるる大灣。琴湖・鯛之浦または彼杵海ともいふ。東西約一二粁、南北約二五粁、周圍約二八〇粁。連山圍繞して一大湖の如く、針尾島其灣口に横はるため二條の狹小路早岐瀬戸・伊ノ浦瀬戸を以て外海に通ず。灣岸には名色少くなく省線大村線東岸に沿ひて南走し大村町を過ぎりて諫早驛に至る。諫早驛よりは更に長崎本線南岸を西走し長崎市に至る。而して大村線南黒崎驛より長崎本線大草驛に至る約五六粁の間は碧波の上に大小の島嶼浮び、諸山鮫鰐として遶り風光明媚なること優に瀬戸内海に劣らず。灣内は古來眞珠を産するを以て著名なり。

【大村線】國有鐵道長崎線の一部。九州西北部大村灣東岸に沿ふ。長崎本線諫早驛より分れて北上し大村・彼杵等の諸驛を經て佐世保線の早岐驛に至る四七・六粁の線路。

【大村庄】臺灣臺中州員林郡の東部北端。南北に短く東西に長し。即ち、北は彰化郡花壇庄、南は員林街・坡心庄の中間に横はり、東は八卦山脈の稜線を以て彰化郡芬園庄に界し、西は埔鹽庄及び彰化郡秀水庄に接す。東端に低く連る八卦山脈の部分を除けば、地勢平坦にして渺茫たる沃野を展開す。面積約三一方粁、純然たる農村にして農業者は總人口の五分の四を占む。東端の山地は漸次パイナップル・李・龍眼等果樹の栽培地として開墾せられ、耕地総つて廣く、八堡圳庄内を縱横に灌漑して水利に富み、荒地の存在を認めず。耕地面積は田一千九百九十餘甲、畑一百二十餘甲、合計二千一百二十甲に及び、農産物豊富にして、米を始めとし、甘藷・甘蔗・蔬菜類・黄麻及び橘・柑・パイナップル・バナナ・龍眼・李・斗柚・文旦其他の果物類を産す。殊に米は謂ゆる員林米と稱せられ、氣候風土の好適なる關係上品質優秀にして、年産約五萬六千七百石、價格九十萬圓に達す。甘蔗は年産約九百九十萬斤、價格十萬圓を遙かに超え、甘藷は年産約二百七十九萬斤、價格一萬餘圓、蔬菜類約二萬圓、椪柑(所謂員林蜜柑にて風味極めて佳し)約四萬圓、黄麻約一萬圓なり。農業に依る年産額合計百十五萬圓を超ゆ。養豚(年産約二萬九千圓)は農家副業の主班にして、就中養豚に於ては改良豚舎漸次普及し、一両年間上の利益と相俟つて農家經濟の一支柱を爲し、漸次發展の好況に向ひつつあり。工業には見るべきものなきも、鼎蓋の特産品あり、年産額五萬八千餘圓に上る。教育狀況は公學校一、同分教場一・本島人兒童の就學歩合約二八%(本郡街庄中最低)なり。國語普及慎設として國語講習所六ヶ所を設置す。而して金融機關に大村信用購買利用組合ありて地方の金融に貢献する所尠からず。昭和十年度の庄豫算額二萬六千餘圓なり。交通は便利にして大小の道路縱横に發達せるのみならず、縱貫鐵道及び縱貫道路は殆んど平行して庄の中央を南北に貫き、縱貫道路には交通局營のバスありて地方交通網の主動脈を爲す。其他大村・員林間には乘合自動車を通じ、主要部落間には保甲道路ありて地方の産業開發に裨益する所甚だ

多し。本庄はもと蕪霧下堡の大部分を爲し、清の康熙年間當地方の大墾首たる施長飽(福建の漳州人)の佃人(小作人に相當す)を招集して開墾せし所に係り、庄役場の所在地大村の部落は雍正八年頃に形成せられ、當時は蕪霧内庄(後の大庄)と稱せられたり。もと彰化縣に管轄せられ、明治二十八年我が領有となるや、總督府假條例に依り、臺灣縣(臺中)民政支廳の所轄に屬し、後に軍政組織となりて臺灣民政支部(臺中)彰化出張所に管轄せられ、民政に復したり。同三十年臺中縣員林辦務署の所轄に變更せられ、同三十四年廢縣置廳行はれて彰化廳員林支廳の管轄となり、同四十二年彰化廳の廢止と共に該支廳は臺中廳の所轄に移れり。大正九年の地方制度改正に及びて堡を廢せられ、本庄はもと蕪霧下堡に屬したる大庄(大村と改稱)・茄苳林・加錫・大嵙・擺塘・過溝・蓮花池・埤仔頭(仔を子に改む)・貢厝の九庄を九大字とし、之を一括して大村庄と稱し、臺中州員林郡の管轄にて庄役場を大字大村に置く。〔五通宮〕大嵙字小三角潭にあり。五通廟とも云ひ、五顯大帝を祀り、九月二十八日及び七月十日(共に旧暦)を祭日とす。同地方の傳說に據れば、某家の婦紝娠せるあり、月滿ちて一塊の肉袋を産む。その夫刀を以て之を斬れば即ち中より五人の男出づ。これ即ち大王・二王・三王・四王・駙王の五人なり。而して駙王は頭の中央に尚一眼を有す。これ肉袋の斬られた際、刃の當れる傷の變化して一眼となれるものなりと傳ふ。本廟は此の駙王を主祀とし鎮殿王となす。本神は祈願・豊穣除・災厄前兆・病氣平癒等に霊驗著しとて信仰せらる。廟は乾隆五十八年の創立にして明治四十一年の改築に係る。

オームレ 大群山・大室山 ぉぉむぁ 神樋現・富士隠の別名あり。丹澤山塊西部の一峯、山梨縣南都留郡道志村、神奈川縣足柄上郡三保村及び津久井郡青根村の境界に聳え、標高一五八八米。四方は加入道(一四一九米)に續き、酒匂川の支流河内川その南谷に發す。山中に大室樋現なる洞る。神樋現の名は南麓丹澤御料地に聳ゆる中川の樋現山(一一二四米)と、その南方世附の樋現山なる共に「前樋現」と云ふに對し、奥の樋現山の意より出で、神は奥より轉ぜしものといふ。また八王子の南方七國峠附近よりは富士の東面を蔽ふをもつてこの方面にては富士隠と稱せらる。

オームロ 大室 ぉぉむぁ

【大室】出羽國の古地名。續紀天平九年四月將軍大野東人色麻柵より軍を進めて出羽國大室驛に至るとあり、又同書寶龜十一年十二月の勅に大室塞とあり。其他未だ明かざるならも色麻柵(宮城縣加美郡色麻村)より出羽に入る道路より推して、或は今山形縣羽前國北村山郡の玉野村・常盤村・尾花澤町の邊ならん。

【大室】1 茨城村(群馬縣勢多郡)

大室山】富士山側火山中の最大の峯。富士山の西北側、山梨縣西八代郡上九一色村に屬す。標高一四四七米、長徑五〇〇米、短徑三〇〇米、深さ二二〇米の火口あり、全山樹木鬱茂す。東方に長尾山(一四二四米)、南方に片釜山(一四六八米)の二側火山あり。

【大室】信濃國(長野縣)に置かれし牧の一。延喜式左馬寮式及び東鑑文治二年三月に見ゆ。其地今の埴科郡寺尾村の地なり。延喜式左馬寮式「信濃國、大室牧」、東鑑・文治二年三月「信濃國、左馬寮領……大室牧」

【大室山】伊豆の天城山の寄生火山の一。淺間山、伊豆富士とも稱せらる。静岡縣田方郡の東南方對馬村の北部に聳え優麗なるコニーデ型をなし標高約五八〇米。この山は伊東町沖合附近の航海者の好目標たり。山頂に圓形の噴火口あり、直徑約二三〇米、深さ約二四米にして、基底には熔岩散覆す。又山上に淺間神社鎮座す。南腹に大爆裂火口あり。東北に小室山ありて、小圓錐丘をなす。

オームワ 大神 ぉぉむぁ 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄、城上郡に大神郷あり。於保無和と訓ず。地は凡そ今の磯城郡三輪町の邊に當る。

オームワ 大神 ぉぉむぁ 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄加茂郡に郷名見ゆ。其地今詳ならず。加東郡河合村の大字に三和の地名あり、或は此邊に當るものか。

オーメ 大目 ぉぉめ

【大目】佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄、羽茂郡に郷名見え於保女と訓ず。いま佐渡郡真野村大字吉岡小川内に大目神社あり、その邊が舊郷域に當ると云ふも、大目神社の舊社地は西三川村大字椿尾なりといふ。

【大目村】山梨縣甲斐國北都留郡の東南部。東は上野原町との間に巖村を、西は猿橋町との間に富濱村を隔て、南は瑞川村、北は甲東村に隣る。西北境上に聳ゆる扇山(一一三九米)の東南斜面に當り東部に小平坦地ある外は殆ど山地ななす。産業は云ふに足らざるも農業に國を主として桑葉・蚕・米を出す。交通は北隣甲東村に出づるか東南部より瑞川村に出づるかをよしとするも一般に不便なり。古くは和名抄、都留郡福地郷の内、往時は犬目及び大野の二村なりしも寛文九年大野を上下二村とし、明治五年再び合して大野に復し、同八年大野・大目二村を合併して大目村と改稱、同十七年甲東村と聯合し戸長役場を大目に置きしが同二十二年市町村制實施に依り分離す。大字大目は猿橋・鳥澤に因み大目の稱をなせりと傳ふ。大字大野は地勢上稍廣き構地を有せるより此名起りしものか。〔地祖神社〕大字下大野字宮ノ原に鎮座。郷社。祭神、伊弉諾命、伊弉冉命。創立年代を詳かにせざるも、もと熊野權現と稱す。寶暦五年、

文政二年に社殿造營のことあり。近郷の産土神として崇めらる。

オーメ　青梅

【青梅町】東京府武藏國西多摩郡の首邑。郡の東部に位し多摩川の北岸に沿ひ、北は霞村・小曾木村に隣り南は川を挾みて調布村・吉野村に對す。多摩川が關東山地を離れて武藏野平野への出口に當り標式的の渓口聚落なり。東部には桑畑拓け、北は聖綠の丘地を負ひ市街の南半は多摩川に臨む。農産に繭・麥・米あり。青梅織の産地として著れ、今も二・七日の定期市開かれ、又番傘を産す。社線青梅電氣鐵道、省線中央本線立川驛に起り多摩川左岸に近く西に上り町内に青梅驛（明治二十七年開業）・官ノ平驛（大正三年設置）・日向和田驛（明治二十八年設置）の三驛を置き、また甲州街道に對する裏街道として知らるる青梅街道は東京市新宿追分より來りて東西に通じ多摩川の渓谷を經りて甲府市に達し、また東南は八王子市へ東北は川越市へも府道ありていづれもバスを通じ交通上の一要點をなす。青梅稅務署・青梅警察署・東京市水源事務所・東京府立第九高等女學校・同農林學校あり。町名の起原に就ては承平年間、平將門我が願ひ成就せば榮ゆべし、然らずんば枯れよと誓ひて梅の枝を地に挿せしに其枝より新芽を出し枝葉年を逐うて繁茂す。然るに梅子成熟の時を過ぐるも尚青色を變ぜず、これより青梅の名出づと傳ふ。將門靈驗ありしを喜びて金剛寺を建つ。又平安時代に武藏國大目居を構へし所なるが故に大目より青梅となりしとも傳へらる。此地は鎌倉時代には武藏七黨の村山氏・金子氏・平山氏・横山氏等の勢力下にあり、又、秩父庄司畠山氏の勢力下に屬せりと。鎌倉時代の初期には長淵郷に屬し、江戸中葉には小曾木郷に屬し、のち多摩郡三田領に屬す。鎌倉末期は三田下總守長綱此地を治め室町時代には關東管領上杉顯定の勢力範圍となりしも尚三田氏の一門三田政定・顯昌・季長・彈正少弼綱秀等此地を治む。永祿年間三田一族の勢力衰へ、北條氏康の子陸奥守氏照の所領となり、德川家康江戸入府の後慶長・元和の頃、大久保長安幕府の代官となり此地方の郷村を管理す。寛保年間に至り大字青梅・勝沼は田安宗武の所領、其他は旗本の知行所或は代官の治下に置かる。代官としては大久保氏の後に高室喜三郎昌成、その後に曾根氏、また伊豆韮山の江川氏等あり、江川氏は四世の間民治に當り治績大いに擧る。明治五年神奈川縣の管轄となり、同十二年多摩郡が東西南北に分たれたる時、西多摩郡に入り、同十七年調布・千筋瀬・河邊と合併し聯合戸長役場を設け、同二十二年町村制實施に當り千筋瀬・河邊と分離し、青梅・西分・勝沼・日向和田を以て新に青梅町を置き、同二十六年東京府の管下となる。大字勝沼は近世まで乘願寺村・西分村といひ、近年青梅町に入る。蓋し中古以前の勝沼郷の遺稱なるべし。大字日向和田は古くは永川郷に屬しもと日影和田村（今吉野村の大字）と一村なりしが後に分離して當町に入る。此地に石灰岩の産出多し。〔住吉神社〕字新宿に鎮座　郷社。祭神、底筒之男命・中筒之男命・上筒之男命・神功皇后。應安年間の勸請と傳ふ。永正年間領主三田社殿の造營を爲し、江戸時代には代官曾根氏畑二畝餘を除地とす。町中の總産土神。例祭、四月二十八日。〔金剛寺〕大字青梅にあり。新義眞言宗豐山派。青梅山無量壽院と號す。承平年中平將門の創建、山城蓮藥寺の寛空僧正を開山たらしめんとせしが、僧正讓讓して弘法大師の木像を開山に擬し、自ら二世と稱す。黑代の住職悉く大僧正の榮位を受く。室町時代當地の名族三田氏の崇敬篤し。境内に本堂（文久年間再建）・書院・庫裡等あり。堂前に一株の梅樹あり、將軍梅と稱す。承平年中將門の自植せるものと傳ふ。其實小にして常に青色を帶びて熟せず、冬至花雷を結ぶ頃實初めて落つ、青梅の地名之に基づくと。寺寶に絹本著色の如意輪觀音像あり、天冠を著けし六臂の坐像にて胸前に寶珠を掛け、前面の岩上には合掌せる童子立ち、鎌倉時代の特徴を有する優秀作にして金色よく殘存す。軸に存する墨書銘に乾元元年七月廿日金澤住僧戒圓結願之本尊。聖如如輪觀自在菩薩像一體爲生々世々値遇奉侍也結願（花押）とあり。外に釋迦十六善神畫像及び四所明神畫像等の佛畫を藏す。

【青梅街道】江戸時代江戸西口より青梅を經て甲府へ至る街道。即ち今の東京市四谷區新宿の追分に起り、中野（中野區）・馬橋（杉並區）を經て田無・小川（北多摩郡小平村）・箱根ヶ崎（西多摩郡）を過ぎ青梅町に至る此間六〇粁あり。青梅よりは多摩川の左岸に沿ひて謂ゆる多摩渓谷を經り氷川（西多摩郡氷川村）・原（同郡小河内村）を過ぎ甲州丹波山（山梨縣北都留郡）にて柏越峠を越え鹽山・日下部（共に東山梨郡）を通りて甲府に至るなり。新宿・調布・府中・八王子を經、小佛峠を越え桂川谷を西し笹子峠を過ぎて甲府に至る所謂甲州街道に對して甲州裏街道ともいひ前者に比し約二里（八粁）近し。

【青梅電氣鐵道】東京府下にある地方鐵道。國有鐵道中央本線の立川驛（北多摩郡立川町）より分岐して拜島村を過ぎ東京府西多摩郡三田村字澤井上分の御嶽まで二七・二粁と、ほかに西多摩郡福生村より西多摩郡村字川崎まで一・八粁の貨物線を有す。軌間は一・〇六米にて動力は蒸氣及び電氣により運轉をなし省線と連帶運輸をなす。沿線よりの主要發送貨物は、砂利・砂・石材及び石灰岩等を主とし石炭・人造肥料・米・小麥類及びセメント等主として到著す。沿線の拜島驛にては、省線八高線及び社線五日市鐵道と連絡す。青梅市は多摩川の上流に沿ふ

機業地にて、ここより約一粁にて樂々園と稱する電鐵經營の遊園地あり。また多摩川の右岸一帶には梅樹多く所謂吉野梅林あり。終點御嶽驛より約六粁、御嶽の鎖までは自動車の便あり。また驛より多摩川に沿ふ約一二粁は奥多摩地方の景勝の地として知られ、探勝の人多く東京市近郊の好ハイキングコースたり。

オーメイ　嚶鳴村　千葉縣下總國海上郡の西部。旭町の北隣。東は熊野村、西は匝瑳郡共和村に接す。九十九里濱岸平野の東北端部にて、南部は低き臺地をなし、畑地・林野あり、中部以北は舊椿海の遺跡にて水田よく發達す。純農村にて米を主産し、繭・麥・雞の産また少からず。省線総武本線東市部を掠めて飯岡驛（明治三十年設置）を置き、東南は飯岡町、西は旭町、北は瀧郷村へバスを通じ交通不便ならず。

オーモ　大面村　新潟縣越後國南蒲原郡の西部。三條市の西南約六粁。東部は西に傾く高度二五〇米内外の丘陵地を成すも、西部は信濃川沖積平野の南部に位し、土地低平地味肥沃にして水田拓く。省線信越本線村の中央をほぼ南北に貫き帶織驛（明治三十一年設置）を置く。また縣道四方に走り三條市・長岡市・寺泊町等にバス通じ、交通便なり。主生業は農にて米を多産す。又大面油田あり。越後油田の一にて本村東部丘陵地の第三紀層より開發す。坑域は延長約六粁、幅員三—六〇〇米にて北渓附近最も多量に噴出す。油層は深度八—九〇〇米にあり、更に深掘により第二油層に達著すといふ。文政年間北渓の住人鳥影新右衛門の發見に係り當時一日三—四升採油すといふ。此地古くは史實の徵すべきもの無きも東鑑文治二年三月十二日の條に、大面莊の名見え、鳥羽十一面堂領なり、後には八條院領となれるにや、同書文治四年六月四日の條に「八條院領越後國大面莊」と見ゆ。〔東山寺〕大字小瀧にあり。曹洞宗。曹溪山と號す。寶治二年、道隆蘭溪の開基に係り、黄檗山東山寺と號す。室町末期上杉氏の歸依厚く、天文三年、家臣をして再興せしめ、宣州元勳を中興開基とし、一州正伊を開山に推す。是より曹洞宗に改め、曹溪山東山寺と改稱す。後上杉氏會津に移封せらるるに及び、寺運衰ひて衰微せしが、寶永の頃、了心文達復興を圖り、現に末寺七箇寺を有す。〔光照寺〕大字矢田にあり。曹洞宗にて本尊釋迦如來。善門山と號す。元和三年の草創。開山は道元和尚。現堂宇は十二世孤岩和尚の再建に係る。境内に六地藏あり、滿來上人の作にて靈驗顯著なり。

オーモト　大元　字野線の一驛（明治四十三年設置）。岡山市西古松にあり。驛より一粁の地に宗忠神社（黑住教本廳）あり。

オーモリ　大森　【大森町】秋田縣羽後國平鹿郡の西北部。福島市との間に吉井田・杉妻兩村を隔て南は平田村と界す。南部に中作山（五八八米）の脊嶺延び來り城山（一四七米）等の小丘北部の平地に臨み、村の大部分は低地にて福島平野に續き其の間成川・濕川の二川流る。田畑拓け米・大豆・蔬菜を産し養蠶業行はれ、近年は福島市の郊外農村化し野菜畑漸次增加す。又大森鐵山より金・銀を出す。縣道若松街道、村の東北より西南に通じバスの便あり。省線東北本線大字永井川を掠め、永井川信號所あり、交通便なり。此地はもと小島田にも作る。大字大森城山に大森城あり、本村はその城下町として發達し其當時は此地方の主邑たりしもの、天正の頃城は杉野目村に移り福島市城下町となるに及び衰ふといふ。また大字大森字鳥流の荒川に臨む南崖に朝日館と稱する壘址あり、正嘉年中信夫庄司佐藤氏の族信夫小太郎居すと傳ふ。〔大森城〕大字大森城山にあり。本丸の城址は東西約七〇米、南北約八五米。三重に城壘を設け一重毎に壕を設く。本城は天文十一年伊達左京大夫稙宗築きのち其族伊達成實は家臣片倉景綱等を之に據らしむ。天正十九年伊達政宗岩手山に移るに及び蒲生氏郷は其將木村重次をして之を守らしむ。慶長三年上杉景勝封を會津に賜るや李川正親を之に居らしめ其子孫相襲ぎ居城す。寛文四年上杉氏の削封により城廢す。此地今公園となり城址の碑立つ。城山の東麓椿館に正親の正

嘉二年の供養碑、北館に文永十年の供養碑あり、又城山の北方なる墓地に鎌倉時代の供養碑三基存す。〔八幡神社〕大字大谷に鎮座。郷社。祭神、誉田別命。社地は醒眠山にあり。創立年代詳ならざるも、源義家奥州征伐の時の勧請と傳ふ。幣殿・拝殿共に本州征伐の時の勧請と傳ふ。幣殿・拝殿共に本州征伐の時の勧請と傳ふ。例祭、九月十五日。

【大桑】福島縣信夫郡にある鑛山。鑛區は岡郡大森村・鳥川村・平田村に亘り、我國単重要鑛山の一。鑛産は金・銀を出し昭和九年に於ける産額は金約一萬瓦、銀四・八萬瓦、現在使用坑夫員五五人。

【大森町】千葉縣下總國印旛郡の西北部。手賀沼の東岸に位す。東は米下町に隣り北は北相馬郡に界す。南部は一帯に丘陵を成すも北部は低平にして田畑拓く。縣道村の中央を西南より東北に走り、これにより省線成田線の木下驛・布佐驛にバス通じ交通不便ならず。主生業は農業にして米産最も多く、繭・蓆の産これに次ぐ。また副業的なる養蚕業見るべきものあり。本村はもと大杜村と稱し、近世房州館山の稲葉氏の代官陣屋を置きし地なり。大正二年町制を布き大杜村を大森町と改む。〔長樂寺〕大字大森にあり。天台宗。雲冷山・千手院と號す。慈覺大師の草創。往昔伽藍莊嚴を極め十二の支坊檜を列れしが中世廢頽す。近世稲葉氏此の地に陣屋を置きし頃は繁榮を見たるも往時の盛観を復するを得ず。寺域は高丘に接り四方に手賀沼の全景を俯瞰し、北に坂東太郎の流域帯の如く遠く加波・筑波の紫峯を一眸に収む。〔長樂寺本堂〕指定史蹟。桁行三間、梁間四間、単層、屋根寄棟造、茅葺。建立の年代は不詳なるも様式鎌倉末期の俤を存し、恐らく鎌倉初期と認められる。正面三間、側面四間の堂宇にして舟肘木一軒の簡素なる構造なるが、柱より舟肘木・軒桁等木割頗る繊細、特に垂木の勾配極めて緩かに、内陣の天井は常初大西原様式なりし形迹を遺す。後世一部の増築變更あれど、建立當時の平面構造材料をよく保存せり。内部安置の須彌壇及び厨子は室町時代初期に造られしものなり。

【大森區】東京市三十五區の一。昭和七年東京市域擴張の際、元花屋郡の大森・馬込・東調布・池上・入新井の五箇町を以て建てしもの。市の南西に位し東は東京灣に面し、西は多摩川を隔てて神奈川縣に接し、南は蒲田區、北は品川區・花屋區・目黒區・世田谷區に境し、東海道の咽喉を扼する樞要の位置を占む。其廣袤は東西九・四粁、南北四・五粁なり。西北は概ね土地高燥にして閑雅、理想的の住宅地域として發展の途にあり、東南は平坦にして且つ水運の便宜しきを以て商工業地帯として年と共に益々發展しつつあり。本區の沿革は諸説多くして一定せざるも、花屋の地は上古蒲田郷・田本郷・蒲田郷・花屋郷・覺志郷・御田郷・木田郷・櫻田郷の八郷に分たる。中古六郷保・世田郷・千束郷・品川郷・大井郷の一保四郷となり、近古に於ては六郷領・品川領・馬込領・麻布領・世田谷領の五領に分たる。而して上古の御田の北郷(木田)は舊豊多摩郡に入り、櫻田郷は舊東京市に合せられ芝・麻布の一部となる。其後幾度か變遷あり、小田原北條氏の有となるや其配下に分領せしめられしが、天正十八年北條氏滅び徳川家康關東に移封後は其の代官伊奈氏・大貫・中村・築山・青山・斎藤・村部・升垣・木村・今川・松村氏等為して支配せしむ。王政維新の後、明治元年品川縣を置かるるや其管下に屬し、同四年廢縣により東京府の管轄に歸し、同二十二年町村制施行の際、五箇の自治體として成立し、前述の如く昭和七年東京市の一區域となれり。區内には古墳・貝塚あり、古墳は今史蹟に指定さる。〔大森貝塚〕大森貝塚の名は日本考古學史に著し。明治九年エドワード・エス・モールス氏がここに貝塚あるを注意し、これを發掘調査して「大森介殻篇」を著し、これが石器時代の遺蹟なることを說けり。これより學者・好事家のこの道に意を注ぐものを生じ、日本考古學研究の端を發せり。〔吉甲山古墳〕指定史蹟。多摩川畔にあり。前方後圓形、全長三百尺高さ三十餘尺。舊態のまま遺存。

【大森】東京市大森區の町名。大森町は大森區の東南端に位し東京灣に面し北及び北西は入新井町・池上町の一部に接し、西南部は蒲田、南部は羽田の諸町と相隣接す。東海道は本町の中央部を東京より西南に斜斷し隣接の蒲田町に入る。この道路は京濱國道の名に於て改修せられ、幅員も著しく擴められ、路面は鋪裝され自動車の交通上最大機能を發揮せしむ。地域内は多摩川デルタの部分にして地勢極めて低平。砂質埴土の沖積層たり。河川の小流あり。町内を東海道線及び京濱電氣鐵道縦貫し、前者は大森驛(明治九年設置)を置き交通至便なり。大森町の淺海よりは良質の淺草海苔を産し、海岸は比較的淺く海水沦渦として繁盛を極む。本町は和名抄、花屋郡蒲田郷の内にして近世花屋郡六郷領に屬す。もと大森村と稱し後東大森村・西大森村・北大森村の三村に分ちしが、同二十二年再び合併して大森村となり更に同三十年町制を敷き、昭和七年東京市に編入、大森區の一町となる。當所の地名は明徳二年下総國慈恩寺に鎌倉公方氏滿の奉りし文書に始めて見ゆ。應永十一年の慈恩寺の文書にも見ゆれば當時も同寺の寺領なりしなるべし。文明十二年太田持資上洛の時此地を過ぎしこと平安紀行に見ゆ。平安紀行に「大森といふ森の陰に休らひて、大森の木の下かけのすずしきにしるもしらぬも立とまりけり」とあり、當時は森の繁れるものか。徳川家康江戸入城後は惣領にして伊奈半十郎代々預り、寛永年中より大貫次右衛門光豊の支配なり。里見八大傳・九ノ一「五十子の城内より、今朝官途の行列正しく、飯に朝日の昇る時候、武蔵州品革と、大森村の間なる鈴茂林まで來にけるを、波打際に等着て」同・九ノ三三「先六郷河の上に到て定正と會盟あり、其事畢て五十子の城へ迎へらる、三隊の軍兵は入るに得堪へず、尚大森に陣したり」和合人・四中「六人はむだ口のうちに鈴が森も通り過て、大森にさしかかると」

【大森村】富山縣婦中國中新川郡の西部。富山市の東南約十粁。五百石町の南に隣り、西は常願寺川を隔てて上新川郡に界す。全村土地低平肥沃にして且つ常願寺川數流を成して村内を北流する為灌漑宜しきを得て水田頗る發達す。南方約三粁にして富山縣警飯道上滝驛に達するも交通未だ便ならず。主生業は農にして米を多産するも、又商品行商をなす者多し。中世入部郷を稱せらる。同國雜記に見ゆる「風はもり照日はうとき大森の陰に立寄初秋の空」は此地にて詠めるもの。

【大森】愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年本村は高岡・二城・小幡の三村と共に廢せられ新に守山町を置く。

【大森(縣)】島根縣にありし縣。明治初年石見國に置きしもの。明治二年八月隱岐縣を廢し、その區域を以て置き、その治所を大森町(邇摩郡)に置く。翌三年正月治所を濱田町に移し濱田縣と改稱。更に島根縣に合併す。

【大森郡】島根縣石見國邇摩郡の中部。安濃郡大田町の南西約八粁。北は久利村に、東は水上村に隣り、西は大國村に、西南端は邑智郡祖式村と界す。六〇〇米餘の山嶽西境をほぼ南北に連亘し概ね山地にて銀山川西部山地の間を北に流れその流域に田畑拓くも未だ林野多く、古來より大森銀山により發達せる所、農産物は米・繭を主産し酒造も行はる。山陰道此地を過ぎ本町の便あるも、省線山陰本線海岸線に沿うて通ぜしため本町はこれより遠く離れ、そのため交通による繁榮は僅かに往昔の面影を偲ぶに過ぎず。市街は銀山川に沿ふ舊山陰道を挾みて一筋の街村的聚落をなす。また昔では石見銀山の名を以て花園天皇の御代以來全國に知られし町にて群雄爭奪の的となり、徳川初期盛に採銀せし時は人口十餘萬、軍馬の往來畫夜を分たず、家屋軒を連れ其繁榮を謳はれし鑛山町を現出し、安濃・邇摩・邑智三郡の政治文化の中心邑をなすに至れり。併し明治以後銀鑛の採掘量を減じ又山陰線に遠く離れ大正十二年廢坑となりしと共に全く老年期の町となる。されど今御縣社井戸神社及び寶暦年間の祇園になりしといふ五百羅漢の石窟は盛時の名殘を偲ぶに足るものあり。明治初年大森縣の治所を置き、のち郡役所を置かれし所にて明治三十六年町制を布く。此地は和名抄、安濃郡佐波郷の地なるべし。本町古くは佐摩と稱せしは此地名の轉訛せしものならん。現町名は大森銀山の名に因み起るといふ。古く此地の銀山獲得に諸豪族互に窺ひしものにて、大内氏は山吹城を山吹山に築き銀山を守る。その後變遷ありて江戸時代には幕府自ら大森代官を特に駐在せしめ銀山を經理せしめ後れて石見・備後の公料を支配せしむといふ。この地の縣社井戸神社は幕代官として名高き井戸平左衛門正朝を祀る。正朝は享保十六年代官として來任し、其間甘藷栽培を奬勵して飢饉に備へしめし功勞者にて又官命を待たずして官米を窮民に拯恤せしこともあり、その頌德碑到る處にありて郷民その德を慕ふこと篤し。又大森明神は俗に山の神とも稱し此地の銀山採掘を開始せし當初坑内にて殺されし坑夫の靈を祭りしものといふ。〔山吹城〕周防國主大内介弘幸、隣國の大小名此地の銀山を奪得せんと窺ひしを以て山吹山に城郭を築きて銀山を守る。天文六年尼子氏の軍勢銀山に亂入し大内氏の奉行を殺し勢を張りしも、同八年大内氏再び奪取す。同十一年毛利・大内兩氏和睦せし後小笠原長隆をして銀山を守らしめ其子長徳もここに居す。のち小笠原氏より毛利氏に繼ぎ永祿年中剥賀・高畠兩氏在城の時尼子氏の軍勢又此城を攻破り、本條氏之を守備せしも又敵年の後毛利氏に降るといふ。〔大森鑛山〕本町の西端にあり。金銀銅鉛を産出す。此鑛山の發見されしは古く既に花園天皇の御代に今國に知られしといひ、後群雄爭奪の的となり、江戸時代には代官を置して之を管理せしめ所謂石見銀山と稱し有名となりしもの。此鑛山の母岩をなすは第三紀層を貫きて噴出せし石英頑火石・安山岩及び其集塊岩と其變質せしものを主とす。此中に多くの平行脈あり、主要のものは佐藤氏外四條にて何れも〇・三—三米内外の幅をもち、走向は東—西を示し北方に急斜するを普通とす。鑛床は全體一様に鑛石が分布し凡ての部分に於て採掘に値する場合は極めて稀にして通常鑛石として採掘に堪ふる部分は種々の形にて散布し所謂富鑛體をなし、其層は走向の方向には短く傾斜の方向に斜に延び俗に落しといふ形にて深く下底に續き、主に含金銀黄銅鑛と菱鉄鑛等を隨伴す。また永久坑道地並びにそれ以下の二八〇米の邊よりは湧泉盛に湧出し始むといふ。又この鑛山に屬する本谷鑛區の鑛床は集塊質石英安山岩の甲に自然銀・方鉛鑛・黄鐵鑛・黄銅鑛等の染浸せる鑛染鑛床を特に此地方にては福石と稱するといふ。併し大正十二年以來廢坑となる。〔城上神社〕縣社。祭神大物主神。惠比須神社・稲荷神社(相殿)創立年代詳かならざるも承和四年官社に預り、貞觀五年十一月官幣に預る。延喜の制式内小社に列し當郡五座の一なり。慶長八年十月石見國奉行より六十石の地

粗か永代寄進す。天正五年に社殿の造營、萬治元年・延寶八年再建す。寛政十二年三月大森鎮足町の大火に災せられて社頭・神寶・舊記悉く灰燼に歸し。文化八年再建せらる。例祭十月十九日。〔井戸神社〕

縣社。祭神、井戸平左衛門正明。明治十二年縣下の有志相謀りて平左衛門の像を鑄を賞し社殿を建設す。大正七年五月縣社に列す。寶物に井戸正明遺戒書一卷其他を藏す。例祭、五月二十六日。〔龍渓寺〕大字大森にあり。眞言宗高野派。無量壽院と號す。寶暦年中の開創。初め銀山府士中山寶光致仕後佛法を信じ、父重光無量壽院を建てんとして果さざりしを惜しみ、其志を繼がんとして方を得ざるを嘆きしが、偶〻中場五郎定政等石窟を鑿ちて五百羅漢を安置せんとするを聞き協力して之を成就せりといふ。

【大森島】 島根縣隱岐島に屬する島。島後と島前中島との中間にあり。全島山地にして四周海崖を呈し、山地には樹木茂り、無人島たり。

オーモリタ 大森田村 福島縣磐城國石川郡の西北部。岩城郡須賀川町の西南約三粁。東南は須釜村に西北は川東村と界す。東部の阿武隈山地のモナドノック峻嶮々巒の西斜面に當り臺地をなし平地に乏しく且つ地味・瘠薄の便も宜しからず、散村形をなす。煙草・馬・蒟蒻・翡翠を主産物とし。米・蠶等之に次ぐ。石川町より須釜村を經て須賀川町に至る道路、村の東部を掠め通ずるも交通便ならず。此地古くは和名抄、磐瀬郡山田郷の地なるべし。大字聖森・大栗の名は古く延元四年の文書に見ゆれば當時すでに聚落の發達ありしことを證す。

オーヤ 大谷 福島縣相馬郡小高町の中部。氣仙沼町の南方約三粁。陸上村の西南に隣り、西北は松岩村に西南は御嶽村と界し、東南は太平洋に面す。西境は岩倉山（二九四米）の山嶺南北に連りその傾斜は東に下り、東北部海岸は鳴崎・明神崎・館鼻崎等の突出ありて屈曲に富み、又海岸凹ひに低地あり、半農半漁の村落にして水産に最も富み米・麥等の農産も少からず、養蠶も行はる。又隣村御嶽村に跨る大谷鑛山あり金銀鑛を出す。縣道東濱街道海岸沿ひに通じ氣仙沼町にバス通ずるも交通便ならず。此地はもと岩城（今大字）と稱し東濱街道の一驛として發達し、ここに葛西氏の家臣米倉芝番の居りし彌谷館の古蹟あり。

【大谷】 宮城縣本吉郡にある鑛山。鑛區は同郡大谷村・御嶽村に亘り金銀鑛を採掘す。我國重要鑛山の一。昭和十年に於ける產額は約二・三萬瓩、採掘鑛は日立鑛山に送り、その他の鑛山より來るものと合併製錬す。現在使用坑夫二六七人。

【大谷村】 山形縣羽前國西村山郡の東南部。最上川の左岸、山形市の西北約一二粁。左澤町の南西に隣り、北は本郷村に、西は七軒村と界す。東南部を北流する最上川と村の中央を東流する大谷川とにより、堆積されし直徑約二粁の半圓狀の大谷盆地あり、この盆地は最上川がメアンダーせし時代の舊河道に相當し、其後切斷されて殘りしものにて、秋葉山は段丘の殘りしものにて、一種の環流丘陵とす。東北部の平地は緩めて耕地整理の行き屆きし約百町歩餘の水田となり。東南部は急傾地帶となるも盆地特有の遺霜多く殊に晩霜の害を甚しく被ることあり。左澤町より宮宿町に至る街道東部を通じバスの便あり、省線左澤線の左澤驛に最も近きも交通は不便なり。大字大谷は盆地西南部にある人口二千餘の部落にてこの小盆地の中心となる。盆地内は菲薄狀の道路を有し、木炭、家畜の飼養等の副業盛にて近年葡萄の栽培著しく發達し、又、出稼人非常に多し。〔大沼ノ浮島〕 指定名勝。大字大谷の西南四粁にあり。古來より出羽の大沼として參詣者の多き名高き湖とす。東西三〇〇米南北六〇〇米の小湖なるも湖上に島嶼多く、その自ら浮游するを以て一名浮島沼とも云はる。この島嶼は土に蓋はれし蘆根の集積せるものにて總數五十にも及び、大なるものは三—四米平方、小なるものは一米平方の長方形を呈す。之の運動に際しては少しも波立たず、且つ日出後及び日沒後或は雷雨の際に來らんとする時に最も猛烈に運動を起す。この浮島の成因については古來より色々の傳說あり、古き蓙の根の腐敗分解によつて根の組織内に生ずる瓦斯により浮くと一般に解せらる。又浮島の動くは沼の水の動くにつれて水と共に島が流れて行き、而して水の動くは沼の周圍の地形等雖にて、水及び空氣の溫度の差が場所により非常に高低あり、これが湖水中に環流を起し、この環流によつて全く無風の時にも動き、或は微風に反對しても動く。湖畔に宇迦之御魂命を祭神とする浮島稻荷神社あり。池邊の大行院は大沼の別當寺にて白鳳九年の草創に係る。此の地は朝日岳登山の通路に當り、大行院外三十三戸の修驗者は、朝日岳神社の衆徒として且つ朝日岳の先達として生活す。朝日岳神社の祖廟後大字大沼に移りしものなりと傳ふ。〔浮島稻荷神社〕 大字大沼に鎭座。縣社。祭神、宇迦之御魂命・天照之大人神。舊稱浮島大明神。創建年代詳かならず。建久四年源頼朝願の旨ありて社殿を再建し、次で廿一年後の建保二年に源河江城主大江親廣之を修覆す。慶長五年に最上出羽守源義光再建し、更に享保二年出羽一國の各藩及び江戸詰の諸侯に各社再建負寄進の命幕府より下り、藩主より修繕の事常例となる。境内約五ヘクタール。例祭、四月八日。

【大谷村】 宮城縣座前國黑川郡の東南部。宮城郡鹽釜町の北方約二粁。鶴巣村の東に隣り、北は吉田川を隔て落合村・柏川村、東北は志田郡鹿島灘村に、東は宮城郡松島町に、南は宮城郡利府村と界す。南境の番ヶ森山（二一一米）の麓地連亘し吉田村の山中に發する吉田川北境を東流し、其流域は低地にして水田拓け米・麥・繭を產し、又薪炭・木材を出す。省線東北本線の松島驛（松島町地内）に近く、又縣道北部をほぼ東西に通じバスの便あり。此地は古く和名抄、黑川郡白川郷の地にして中世大谷莊に屬す。村名蓋し此莊の遺稱なるべし。大字中村は旧町とも稱し中村の字名は大谷莊の中心邑なりしに因むといふ。大字土橋には館跡城、大字羽生には舌城（稱越城）ありしも共に城主・年代等詳ならず。大字山崎にありし大稻城には賀澤長門守據りしといふも何時の頃か未詳。また赤間但馬守の居りし古城大字川内字田澤にありしといふ。

【大谷村】 茨城縣常陸國鹿島郡の北端。北は霞沼を隔てて東茨城郡石崎村に對し東は夏海村に接し東南部は夏海村の南に延びて鹿島灘に面し、南より西南は諏訪村・鹿島村、西北は沼前村に隣りす。低平の畑地にて最高所も三〇米を超えず、概れ北方に低下し東北部と北部霞沼沿岸とには水田あり、その他は畑地多し。主として農業を行ひ米・麥類・西瓜等の產あり。道路は北部の霞沼に沿ひて東西に通じ、東は夏海、西は鹿島に通じ、沼前村）に連り交通不便ならず。此地古くは和名抄、鹿島郡大屋郷の内。村名は蓋し其遺稱ならん。日本武尊東征の砌、此地に立寄らせ給へりと傳へられ、尊を奉祀せる矢神神社あり。また吉田松陰水戸より鹿島へ至る際暫時休憩せしといふ遺蹟大字子生に存す。

【大谷】 ↓城山村（栃木縣河内郡）

【大谷山】 栃木縣河内郡城山村に屬し、字都宮市の西北方約八粁に位す。城山村の中部なる多氣山（三七七米）の東南に當る小丘。奇石・岩洞多く風色に富む。近時建築用石材として其名高き大谷石（角礫凝灰岩にして硬質には非ざれども耐火性强し）を產す。また山中には古刹大谷寺あり。

【大谷村】 栃木縣下野國下都賀郡の東南部。小山町の東隣、南は茨城縣猿島郡幸島村、北は桑村に接し、東は利根川の一支飯沼川の上流を境に茨城縣結城郡結城町・江川村に接す。南北約五粁、東西三粁内外あり。土地概れ平坦、川筋には水田あり、その他は畑地と林野なる。村民の約九五%は農業に從ひ大麥・小麥・米等を主産物とし、千瓢（年產約一萬貫）、白菜等の特產あり。小山・結城を繫ぐ縣道北部を東西に走り兩町へバスの便あり、又省線東北本線の小山驛にも近く、北部は交通やや便利なり。此地政は和名抄、寒川郡眞木郷の内か、中世の大谷郷なり。國誌に小山出羽守長村の子七郎宗光、塚崎・田間の兩郷を領し其子宗貞、塚田七郎左衛門尉と稱すと。塚崎・田間は共に大字名に遺る。新編常陸國誌に天正十三年小山秀綱、横倉藤藏を差遣して宇都宮を襲はしめ町屋を悉く燒拂ふ。のち宇都宮氏攻め來り小山氏と土塔ヶ原に於て對戰の際、横倉は敵將根田經俊の爲に討取らるると。即ち横倉氏は大字横倉の住人なり。大字土塔は百ヶ谷にも作る。古戰錄に據れば天正十八年武州忍の城主成田下總守氏長罪を得て濱ヶ中此地に至る。偶〻秀吉この地を過ぎ氏長の嫡の容色無雙なるを愛し、之を召入れ、其嫡の懇訴に依り氏長は那須烏山三萬石を賜はるといふ。大字に中久喜あり。永享記に結城陣の時、安王丸が中嶋に至る由見ゆ。中嶋は蓋し此地なり。久壽年中小山政光の築げる別城址あり。

【大谷村】 埼玉縣武蔵國北足立郡の中部。上尾町・大石村の南に隣り、東は宮原村、南は指扇村に接す。面積七・一六方粁なるも土地平坦にして田畑拓け、林野また廣し。農產に米・麥あり、養蠶また行はれて繭を出す。上尾町より西南方川越市に至る道路ほぼ東西に貫きバスを通じ、また省線高崎線の上尾驛に近く交通便なり。この地は和名抄、足立郡稻直郷の内なるべく、近世は足立郡大谷領に屬す。大字大谷本郷は正保の頃は本郷村とのみ稱せしが、元祿の頃大谷本郷と稱せり。これ大谷郷の本村なるが故なるべし。正保の頃は伊奈半十郎の支配下なりしが寛永二年戸田家に賜はる。大字一丁目は大字向山と共に正保の頃には柴田筑後守の知行所たり。

【大谷】 埼玉縣北足立郡にありし村。大正二年風渡野・猿ヶ谷戸・東門前・新堤・東宮下・膝子の六箇村と共に廢せられ新に七里村を置く。

【大谷】 靜岡縣安倍郡にありし村。昭和九年靜岡市に編入す。

【大谷】 福岡縣嘉穗郡にありし村。大正六年十二月幸袋町と改稱す。

オーヤ 大益河 常陸風土記に見ゆる常陸國（茨城縣）の河。またオホマシとも訓ずるものの知し。日本武尊茨原岡より降り來り舟を此河に繫す。中流にして梶折る。依つて此河をまた無梶河と云ふとあり。今行方郡現原村と玉造町との間を流るる小河なるべし。今は舟を行ること能はざるも往昔は水量多かりしか。常陸風土記・行方郡「其岡高敞、名之現原。後武命降、自此岡、至大益河、乘繫舟上、時折棹梶、因名其河。稱無梶河。此則茨城、行方二郡之堺河」

オーヤ 大屋 福島縣岩代國岩瀬郡の南部。西白河郡白河町の北方約五粁。長沼町の南に隣り、東は廣戸村、東北は神炭村に、西は湯本村に、南は西白河郡信夫村・西郷村と界す。一般に丘陵性の山地と廣き谷面とが並列的に連り西部より東南部に開け陸戸川西北境に櫃太倉山（九七六米）の南麓に發し大字陸戸を經て東南に流れ、その流域及び支流の谷面には米作行はれ

【大宅村】 奥州国(大宅郡)の古郷名。和名抄、宮城郡に大宅郷あり。同書は同郡に大宅郷・木造郷・大日知来奈郷・[illegible]郷・[illegible]郷・[illegible]

（連歌新式・竹取物語）

オーヤシラタニ　大八洲國・大八島國　我が日本帝國の古稱の一。大は美美稱　八は數にして意の多きを象徴し、必ずしも八の數に拘はらず。始ろ人の數に合はさんとして日本書紀の國名の若しこれより「しば見ゆ」るは本文の外に五種の異說を掲げたるにより「しも知らず。即ち書紀の本文の大八洲は素盞嗚尊の生み給ひし八島の外に蛭子の生み給ひし淡路島・伊豫之二名島（四國）・隱岐之三子島（隱岐島）・筑紫島（九州）・億岐之三子島（壱岐島）・佐渡島（佐渡國）・葦原之三子島（本州）・大倭豊秋津島（本州）・吉備兒島（四國）・大八洲（本州）の大島・小島の總稱）と宣旨・新撰姓氏錄・天道尼命の使なる大宗の法の寄りて來れるものとして國ごとに八洲の外に設けり。始ろに古事記は大倭豊秋津島を除外する大島八島を列擧こそ本文の試稿なれ。即ち素盞嗚尊の生み給ひし淡路島・伊豫之二名島（四國島）・隱岐之三子島（隱岐島）・筑紫島（九州島）・伊伎之三子島（壱岐島）・佐渡島（佐渡國）・大倭豊秋津島（本州島）の七島を以て大八島國と稱ふとあり。大八洲國の名は主として國外に對して國內に用ひられ、大倭豊秋津島は主として國內に對する總稱の異說なるべし。「日本書紀」に「所知之國」と記載の數かすだれて支那上にのみ用ひられ國號として使ふ日本を用ふるに至れり。記・上「於是三柱貴子、令其所生之子、不良、爲天下之人」「天照大御神、命其弟須佐之男命、汝者治海原」

オーヤコー　王殿坑　→[illegible]

兵部省式に繼體天皇陵の名見ゆ。即ち和名抄、古志郡に大倭郷の名見ゆ。即ちこれ郡にして郷名を異にするものの。其處今明かならずとも爲らくは古志郡の西部にしてや三島郡の出雲寄町の產なるべし。

【大家】 →大宅（摂津國）

【大家】 播磨國（揖保郡）の古地名。和名抄、安師郡に大家郷あり、訓を國べ。刑本には大家に作るも今高山寺本に從ひ訂正す。今の姫路市野村・八[illegible]村の產かと いふも何れの地か確かならず。一に大家は大保尾谷と訓ずといひ又石見國の大家は大保伊谷と訓ずるものかと いふ。姓氏錄、天道尼命の使なる大宗首及び其裔の宗にて所かとい ふ。また大倭首及び其裔の宗にて安閑天皇二年の條に播磨國書記・雄略紀を載べ、天道尼命の使なる大宗首及び其裔の宗にて安閑天皇二年の條に播磨國書記・雄略紀を載べ、今本紀に見る田部小田部大伴は村及び刑部村は皇統に屬せしものかとい ふ。即ち大伴は大家の轉音せしものにて、刑部村の大字上刑部・下刑部は刑部の產ならんとい ふも之を許さじ。

【大家】 播磨國（揖保郡）の古地名。和名抄出水郡に大家郷あり。其地今詳ならず。大家は郡家を出水郡衙の所在地なりしを以て又出水郡とも云ひしものの如く、轉じて和泉郡に作り、中世は和泉庄とも稱す。今出水郡東八井町・出水町及び大川內村の產ならん。

オーヤコー　王殿坑　→[illegible]

抄、摂津郡に大宅郷あり、其國を國べ、大宅は宅の異字にして屋敷の意なり。大宅は宅の意なるべし。大宅は宅の意なるべし。大宅は宅の意なるべし

せり。

オーヤチ 大矢知村 おやち 三重縣伊勢國三重郡の東北部。桑名市と四日市市との中間に位し、東は川越村、南は富洲原町・富田町・羽津村に接し、北は朝明川を挾みて八郷村に對す。西半は丘陵性臺地にて林野あるも東半は伊勢平野の東北端部を占め田地よく拓く。農産に米・麥・菜種・蒟蒻あり、工業に製糸・染麻製造・清酒醸造行はれ、生絲の産は諸生産額中の首位を占む。隣接町村、四日市市方面へはバスを通じ、省線四日市本線富田驛にも遠からず交通利便なり。古くは和名抄、朝明郡朝明郷に屬せるものの如し。神名抄には大矢知御厨と見ゆ。〔長倉神社〕大字大矢知に鎮座。郷社。祭神、應神天皇外五神。創立年代不詳なるも、江戸時代には八幡宮と稱し、武藏國忍藩主松平氏の崇敬を受けて、本社を以てその守護神となし、社殿の造營・代參等のことあり。〔觀音寺〕大字垂坂にあり。天台宗。僧慈慧良源の開基にして、往昔は天台別院の舊跡たり。天正年間織田氏の兵火に罹りて堂塔燒亡せしが、元禄五年桑名城主松平定重藩の新願所と定め、堂宇を再興す。明治維新に際し一時衰微せしが、現時やや舊觀に復せり。本尊木造慈慧大師坐像一軀は胎内に觀應二年三月の銘ありて國寶たり。〔三光寺〕大字西富田にあり。眞宗本願寺派。開基沿革共に詳ならず。もと御領地にして蒔田相模守の墓あり。

オーヤチ 大谷地村 おやち 宮城縣陸前國桃生郡の中部。石巻市の北方約六粁。飯野川町の西南に隣り、西北は桃生村・中津山村に、東南は追波川を隔てて二俣村に、西南は北上川を隔てて鹿又村と界す。北部に北山の丘陵、東部に河上山の丘陵蟠り、村の東南部にて北上川は追波川を分流し、北山丘陵地帶の南麓を追波川の一支流東南に流れその沿岸は濕地なるも水田よく拓け、米・麥・蘭を産し又白柔の栽培盛にて之を他に出荷し、北上川及び村内の溝渠池より河魚を獲る。また河上山の中生層中より雄勝石(紫石)を出し硯石として知らる。省線東北本線の小牛田驛より分岐する省線石巻線の鹿又驛に近く、縣道赤川に沿うて延ずるも對岸との交通は渡船により不便を免れず、現在北上川に架橋せるも私設にて不便なり。此地古くは桃生郡桃生郷の地なるべし。磐越郷は桃生郡磐越郷の誤りしものの如く大字小船越は其遺稱とす。

オーヤナギ 大楊 おやなぎ 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄、長下郡に大楊郷あり、於保也奈岐と訓ず。其地は今の濱名郡芳川村・白脇村等即ち中世川輪庄と稱せられし地ならん。

オーヤノ 大矢野島 おやのしま 熊本縣天草群島東北部の島。西は島原海灣に面し、東は宇土半島の西端部・戸馳島・千束島に相對し其間に三角灘の内海を抱き、北は三角海峡によりて島原海に通ず。東西廣き部分にて、約六粁南北約八粁、面積約三一方粁。所々に丘陵起伏するも最高點も二三〇米に過ぎず、概して平坦にして其間所々に小低地あり、沿海凸入多く、又散多の小屬島あり。今、天草郡に屬し登立・上・中の三村を含む。中世大矢野氏此處に居し、弘安四年の蒙古襲來には大矢野種保弟種村等大いに武功を樹つ。子孫世々此處に據りしが後小西氏に降り其邑を失ふ。寛永十四年上村の宮津に小西氏の遺臣益田甚兵衛なる者ありて天主教を奉じ、甚子四郎を天使なりとし其名を天草四郎時貞と改め大いに教徒を集め亂を起し官吏を殺し佛僧を逐ひ、終に天草上島に移り又島原に渡りて原の古城に據る。即ち天草一揆是なり。※天草郡

オーヤブ 大荆 おやぶ 越中國(富山縣)の古地名。和名抄新川郡に大荆郷あり、中世には大荆荘と云ひ東大寺領たり。荘名は天平神護三年の東大寺文書に見ゆ。下新川郡の大家庄村 おやけしょうむら は其の遺稱の轉訛ならんといふ。

オーヤブ 大藪 おやぶ 【大藪町】 岐阜縣美濃國安八郡の南東部。西南は仁木村、西北は福東村、北は名森村に接し、東は長良川を隔てて羽島郡堀津村に、東南は長良川の分流大藪川を界として海津郡海西村に對す。面積孤に六方粁餘、土地低平にて水田多く、農家は戸數の九〇%に達し米の産多し。長良川の水運よく陸上の交通また不便ならず。もと大藪・榆俣・榆俣新田・四郷の舊四箇村を合せ御藪村と稱せしが明治廿五年大藪町と改稱す。江戸時代の水利家伊藤傳右衛門(贈從五位)の出身地なり。傳右衛門幼にして大垣藩士伊藤某の養子となり藩主戸田氏教の時に郡奉行に擧げらる。偶〻安八・多藝二郡に亘る今村・吉宮二郷四十餘村に亘る水利の爲め揖斐・牧田両川間に伏越樋を築くに力り命によりて樋掛と爲り天明三年工を創め三年にして竣成す。工事を起すに當り藩士の嫉妬する者密かに之を妨げしも傳右衛門之を知る由なく日夜寢食を忘れて唯水勢を測るのみ、翌年天候不順雨多く、二川の流水激増して田畑水腐の厄を免れず、巨費を投ぜる工事無効に歸せんとせしため諮議百出す。然も上官に辭解するの途なく遂に責を負ひて天明五年自殺す。

【大藪】 省線宮床線の一驛(明治三十年設置)。福岡縣田川郡後藤寺町にあり。

オーヤマ 大山 おやま

【大山】 出羽國(羽前、山形縣)の古地名。三代實錄光孝天皇仁和三年五月の條に最上郡大山郷と見え、和名抄には村山郡大山郷と見ゆ。中世大山荘と稱せられ後宇多院御領たり。のち村となり再び最上郡に編入。村山郡と田川郡との間に挾る。今の最上郡大藏村・角川村の邊ならんか。

【大山村】 福島縣岩代國安達郡の中部。本宮町の北に隣り、北は杉田村に隣り、西南は玉井村に、東は阿武隈川を隔て和木澤村と界す。安達太良山(一七〇〇米)の東南斜面の低地にて東境を阿武隈川北流し、川沿ひに約三〇〇米の丘陵逶迤して内部低地を隔て阿武隈川の一支杉田川北境を東に流れ灌漑の便よく、水田よく拓け本宮米として其名著はる。省線東北本線東部を南北に通じ本宮驛に近く、之と平行に國道陸羽街道走りバスの便あり。明治以前は二本松藩領なりしも明治廿二年町村制實施と共に今の地域になり今日に至る。村名は大字大江と網山の各一字をとりて名づくと云ふ。大字網山に新城館あり。二本松城主畠山滿泰の弟式部少輔氏泰の築きしもの、その後代々ここに居すといふ。

【大山町】 山形縣羽前國西田川郡の中部。庄内平野の西南部、鶴岡市の西方約二粁。加茂町の東に隣り、北は西郷村、南は上郷村、東は京田村・大泉村と界す。西北境に高館山(二七四米)の低山性丘陵逶迤するも大部分は庄内平野の一部に當り、此平地を大山川分流をなして北流し又高館山の東南麓に池ありて灌漑の便よく米産多し。總戸數一三二二戸、内工業は四一二戸、商業一五七戸、公務自由業一〇六戸等にて本町戸數の約半數は工業に關係し、殘りの半數近くは商業に從事す。附近農漁村の經濟的中心地の一にて市日には相當雜沓を極む。酒屋は大山川と支流陬尾川沿ひに分布し桶職・漬物製造業者之の周圍に散在し、この外に織物・染色業・醤油醸造業者赤川に沿うて發達し古來醸造業を以て名あり、酒井家にて庄内に禁酒令を布ける折幕領たる故を以て本町は其の影響なく、其の間に名産となれりとの口碑あるも眞僞未詳。蓋し元禄の頃に起りしものの如く當時既に千石以上の産あり、寛政十五年初めて江戸に輸送す。之より先下國に遡漕して好評ありしを以てなり。享和元年麻館に御用酒を送る事を特命せられしより大いに販路擴がり、慶應三年には其醸造高約一萬石となり大半は北海道に送らる。明治十三年頃は最も盛にして三萬石を超えしも其後同十七年火災に遭ひてよりやや衰へ、昭和十年には約九千石に減ぜり。杜氏は多く釜浦村の砂丘内の漁村部落濱中・十黒塚等より來る習しとなる。鶴岡市より加茂町に至る、縣道加茂街道中部を東西し、バスの便あり。省線羽越本線東南部を掠め大字大山に羽前大山驛(大正八年設置)を置き社線庄内電鐵加茂街道と並行し、大字大山に北大山驛(昭和四年設置)を置く此地古くは和名抄、田川郡田川郷の地、中世は大山庄に屬す。往古は尾浦又は大浦にも作る。町名の起原は中世の庄名に因みしものなるも同名は最上郡にもあり、最上氏の庄内を併領せし以後現名を稱せしものの如し。また武藏氏の居りしといふ大浦城址あり。羽前大山驛の北方一粁の街路に石敢當と刻せる石あり。これは沖縄縣及び九州の南部地方にて屢〻見る所のものにて驅邪禳魔のために建てしといふも東北地方にて見るは珍とすべきものなり。高幡山の麓なる大平山には三吉神社あり。櫻樹を植ゑ、鷺湖を控へ眺望甚だ良し。山上の征清記念碑には參詣者少からず、附近には石器時代の遺物を産す。〔大山城〕本城の歴始未詳なるも庄内史には天文年間より武藤氏移り來り新城を取り立つとあり。後天正十六年(上杉年譜)上杉の將本庄繁長の領有する所となり、下治右衛門秀久代る。秀久は直江の軍令に從ひて山形盆地に攻入り、谷地に於て最上の兵に圍まれて降り、義光の治下に服す。秀久の子慶長十九年鶴岡にて横死せる後は義光の六男光因居住して元和八年本家改易に遇座し大山城は廢せらる。寛文或は寛延に預けられ、天保十五年には酒井家に預けらるる事を好まざる者騒動を起せり。

【大山】 常陸風土記に見ゆる常陸國(茨城縣)新治郡の山。風土記は新治郡の四境を註して東は那賀郡(那珂郡)の堺なる大山、西は毛野川(鬼怒川)、南は白壁郡(後の筑波郡)、北は常陸・下野の堺の波太岡と云へり。當時の新治郡は全然今日の新治郡とは地域を異にし今西茨城郡より今の筑波郡の北部に亘りしものにして其東堺は即ち西茨城郡の那珂郡界にある山峰を指せるものと思はる。されば其高峯朝房山(二〇一米)は蓋し往時の大山に當るか。記して後考を俟つ。

【大山】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄、河内郡に大山郷あり。其地今詳ならざるも或は稻敷郡の西南部にして牛久・牽崎二村の邊ならん。一説には今筑波郡に屬する三島・久賀二村の邊まで及びしものならんといふ。

【大山村】 埼玉縣武藏國南埼玉郡の北西部。西北部は菖蒲町に接し、東北は久喜町にも近くその間に江面村を隔つるのみ。元荒川は南境を、見沼代用水は東北界を流れ、土地低平、面積僅に六・六方粁の小村なるも田畑多く、米・麥を産し、美蘆行はれて繭を出す。大宮・菖蒲間の道路に近く交通は不便ならず。この地は近世の埼玉郡菖蒲領に屬す。大字上大崎は菖蒲庄と稱し往時は騎西領に屬せしといふ。上大崎にもと上下大崎及び新井新田を合せて一村なりしが慶長十年中、荒井新田を分てり。寛永の頃は板倉周防守知行と同九年より幕領となる。大字荒井新田は正保頃にも元禄の改めにも新井新田と載す。後何れの頃よりか村の字を附せりといはる。

【大山】 武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄、男衾郡に大山郷あり。同書は訓を闕くも鎌倉の大山郷の例により於保也末と讀むべし。其地今詳ならざるも大里郡折原村・鉢形村等に當るか。一に比企郡八和

名刹にて江戸時代より書中あり。寺号を行ひしものなり。寺宝の中、六月二十八日より七月七日まで毎年開山忌といひ、七月十四日乃至十七日、即ち盂蘭盆中の寺詣を盆山と呼ぶ。江戸にては大山詣なりしが、今は東京にて水垢離をなすものは、まづ東京にて水垢離をなし、然る後にて白装束にて登山す。昔に大山不動と称せり。石尊宮前なる者は大石尊宮と書けるも大天刀なる者は、前に来書せる大天刀と異なり、前に来書せる大天刀は、行者が、行者の使用せしものなり。大天刀は、行者が、行者の使用せしものなり。大天刀は、行者が、行者の使用せしものなり。大天刀は、行者が、行者の使用せしものなり。

【大山】 雨降山・阿夫利山・大山・丹沢山の別名あり。丹沢山は、雨降山の東麓にて、雨降山は、雨降山の東麓にて、雨降山は、雨降山の東麓にて、雨降

し、副業に藁製品あり。鎌道南北に通ずるも交通なほ便ならず。古くは和名抄、神埼郡埴岡郷の内なるべし。

【大山村】 兵庫縣丹波國多紀郡の西北隅、篠山町の西方約六粁、その間に岡野・南河内の二村を隔て、東北は北河内村、南は味間村に隣り、西より北は氷上郡上久下村・柏原町・國領村に界す。北境に黒頭峯（六二一米）西北界に金山あり、概れ高原性にて傾斜急ならず、中部は篠山盆地の西部に當る平地にて田畑拓け篠山川は南部を西流し産物には米を主に、生糸・蒟・蒻栗と花卉・鶏卵・蓼類等あり。鎌道は東は篠山西は柏原、南は三田方面、北は福知山方面に通じ、また省線福知山線の丹波大山驛（南隣味間村地内にあり）にも遠からず交通さのみ不便ならず。古くは和名抄、多紀郡神田郷に屬せるものの如し。中世は大山荘と呼ばれし處。大山荘は勢原良房の所領なりしが、承和十二年、勅旨を奉じて、之を東寺に施入せり。其の地東は公田を限り、西は剣山峯に至り、南は川に達し、北は大山峯を界とす。其の内に墾田九町一百四十四歩、林野三十五町歩一處ありて、其の堤七十丈と云ふ、即ち多紀郡河内郷の地なり、延喜十五年には、新に一町六段七十二歩の墾田を加へて、郡判を請く、同二十年には墾一十一町四段五十六歩、林野廿五町歩二處となれり、其の後雙大領多紀良時、荘内林野一町五段を墾開して、私田とせるを以て、天慶五年、東寺傳法供家より、國衙に羅して、之を回収せむことを請へり、永長以來、敢公せられむとして屢〻之を然訴せり、康和四年、宣旨廳宣を以て、寺・有方・櫻本・深鳴・桃木・大山・柏子・観音・味間・栗首・根前・見坂・黒佐・黒田十四里を荘域と定め、この後亦屢〻國衙と爭ひ、數十訴を重ねたり。〔神田神社〕大字大山上に鎮座。縣社。祭神、大己貴命・延喜式内社。鎮座地は往古神田郷と稱せしが、室町初期頃大山郷と改稱す。もと大山谷にありしが、應保年間現地に遷祀せらるると云ふ。正保年中神位を授けられ、幕後正一位神田大明神と稱す。尚ほ江戸時代には篠山藩主青山氏代々の尊信を蒙む。例祭、十月九日。

【大山】 安藝國（廣島縣）の古地名。延喜式兵部省式に安藝國大山驛馬二十疋とあり。和名抄、賀茂郡に大山郷見ゆ。和名抄の刊本は大弓に作るも恐らくは大山の誤なるべし。郷城はいま安藝郡瀬野村・熊野町の邊ならんかといふも詳ならず。また大山驛は今の瀬野村の地ならんといふ。中世の安藝國世能荘は此郷の地なるべきか。

【大山】 安藝國の歌枕。今何れの山なるか定かならず。道行振「大山といふ山路を鎌倉侍りける時に云々「もみち葉のあけのまかきにしるきかな大山颪のあかき宮居は」

【大山峠】 中國街道（山陽道）の一坂路。廣島縣安藝郡瀬野村と賀茂郡川上村との間にて最高點約二〇〇米。今此處を山陽本線通す。

【大山村】 徳島縣阿波國板野郡の中部。東は松坂村に西は松島村に隣り、南は名西郡高志村に接し、北は香川縣大川郡相生村と界す。西北境に讃岐山脈の一峯大山（六九二米）峙ちその山麓南に下り本村の北半部は概れ山地なるも、南半部は徳島平野の一部に當りて土地低平にして耕地拓く。大山に發源する小溪流は平野に出でて伏流し天井川となり灌漑に便ならざるも耕地整理及び井水による灌漑の設備整ひ、米・麥・蒟を主産す。昔ては徳島縣の代表特産物たりし藍の産多かりしも、いま多くは桑畑に變じ養蠶村の様相を呈す。省線鍛冶屋原線通じ大字神宅に神宅驛（大正十二年設置）を置き、撫養町・道山鎮線に並行して東西に通ず撫養町・徳島市方面にバスの便あり交通便利なり此地は和名抄、板野郡松島郷の地。大字神宅に鎮座の葦稲葉明神は、承和九年（維紀）、元慶三年（三代實録）に授位せられし神なりといふ。また大山寺は源義經屋島合戦に向ふ途次憩へる所なりといひ義經の奉納せし初音の鼓といふを傳ふといふ。尚神宅字山田の山林中より大正四年二月青銅時代の銅鐸を發掘し今東京帝室博物館に出陳す。又古代の墳墓も多く大字椎本字カメノモトに壺ノ宮あり。壺形の墓にて高さ約一・五米、上徑約一米石灰と山土にて煉り造れるものにて數百年の星霜を經しものといはれ、今は外部少しく剝落しその部分は白色なるも其餘は淡黒色を呈す。このほか村内八箇所に古墳散在し形式はほぼ同じくただ大小の差あり、いづれは古代貴人の墳墓なるべしとて郷民の尊崇篤し。大字西分字池田に古來「船の本」と稱し船形を爲せる地あり、鍬を入れば神罰を蒙るとて雑草の生える儘に委せたり。口碑によれば山城男山八幡宮の山下に武内大臣の社あり、船の形に擬して作る。此地の船の本また之に倣ひて作れるものなるべく此地武内宿禰の舊領地なれば其遺址を存せるならんといふも連に信じ難し。この地は今小公園となる。〔八坂神社〕大字西分に鎮座。郷社。祭神、素戔嗚尊もと纒宮牛頭天王と稱し、江戸時代には藩主蜂須賀氏の崇敬を受け、延寶九年社殿造營のことあり。弘化三年更に造營す。又近村の尊信甚だ篤し。（大山寺）大字大山にあり。佛王山大山寺と號し千手觀音を安んず。山麓より登ること八町にして松琴庵あり。十五町目に大日堂、義經腰掛の松、義經馬墓、義經櫻、一本杉（周圍二十六尺樹高二十五間）等あり、大日堂は一に髻懸堂と稱し往年義經の建立に係るものと傳ふ。更に上ること二町にて仁王門に達す、それより磴道數十級を拾ひ鐘楼門を過ぎり平坦部に出づれば、本堂は巍然として正面に雙立ち、右手には大師堂、三重塔、方丈、庫裡其他の諸建築物あり。これより八町にして奥院黒岩堂あり。山嶺に立ちて望めば吉野川の大平野は悠氣もなく其壮觀を展開し晩鐘の悲か恋にせしめ、更に後を顧みれば讃岐の引田市街は近く脚下に横り、五劍山瀬戸内海等また爭うて好景佳色を呈し來る。當寺略縁起に曰く「當山は弘法大師の開基にかかり、大師入唐の時憲星阿闍梨より千手觀音を授かり、歸朝の後當山を大乗秘密弘教の靈地なりとし、一字を建立して佛王山と名付け乃ち尊像を安置す云々」源延尚平氏を讃岐に討つに當り、大寺村金泉寺よりして更に當山に來り、勝利を祈りて名馬薄雪を尊前に供し、大山を越えて敵の備へざるを衝くべく讃岐へ下る途次、義經に從ひし軍勢里人の携へし酒瓶を乞ふも與へられざりしより奪うて之を呑み、瓶を割りて棄つ、今瓶割坂と呼べる地即ち之なりと云ふ。當寺藏する處の經筒は明治四十三年國寶に編入せられたるもの、大治元年の作成にして八百餘年を經過せり。其の金石文は次の如し。大治元年歳次丙午十月十二日甲辰日国浮提日本國阿州於大山寺知法經書宮供養畢願僧伍範爲結緣法界六道三有受苦者也。

【大山村】 愛媛縣伊豫國越智郡の東北部今治市の北方海上にある大島の西北部を占め東は宮窪村に隣り、南は津倉村と界し、北及び西面は海に臨み、伯方島・大三島と相對す。東境に花崗岩質より成る本島第一の念佛山（泊山、三八二米）峙ち、その西北斜面に當るため概れ山地なるも海岸沿ひには僅に低地あり、耕地は傾斜地にまで拓け、米・麥を生産しその外花崗岩・除蟲菊の産あるも、特に柑橘の栽培盛んに行はる。今治市及び廣島縣尾道市に定期船あり、大字余所國より伯方島の西伯方村に、大字早川より大三島の瀬戸崎村に各渡船ありて交通比較的便なり。村名は念佛山の麓に位するより起るといふ。（大鳴石）念佛山の北西麓大字余所國・早川・田浦より産する花崗岩。なほ渦浦村大字津島及び弓削村字豊鳴に産する小ミカゲなも大鳴石といふ。板石を作るに適し建築材及び土木材として重用され、遠く九州・中國・四國地方に販路を有す年産約三〇萬切。

【大山村】 佐賀縣肥前國西松浦郡の南部有田町の西北、伊萬里町の西南に遠からず、南は曲川村に、北は二里村に隣り、西は長崎縣北松浦郡楠木村と界す。東境には牧ノ山（五五五米）・黒髪山（五一八米）、西界には四畝の山嶺ありて、その山麓西と東に傾き、中部には平地ありて有田川北流す。平地には田畑拓け米・麥・繭を主産す。省線伊萬里線有田川西の平地を縦走し夫婦石驛（明治三十一年設置）を設け、鎌道また省線に並行してバスを通じ、南北への交通は便利なり。大字大木の黒髪山西北麓には幅三六米、高さ五四米に餘る斷崖絶壁あり、その下に俗に大龍門・小龍門と呼ばるる二箇の洞窟あり。前者は長さ約五四米、奥行約一八米。後者は長さ約九米、奥行約五米半なり。また大龍門の右方に間口約二九米、奥行約一四米の横穴ありて龍窟と稱し奥に觀世音像を祀る。即ち黒髪三十三箇所の奥ノ院なり。龍門を中心に老樹の生ひ茂げれる大岩壁を自然の背景として公園を設け、櫻・楓等を植ゑて風致を添ふ。眞に幽邃閑雅なる清淨境にして夏季の納涼に最も佳なり。古昔海野座頭が源爲朝の射落せし黒髪山の大蛇の行衛を索め、この龍門の邊に至りて發見し遂に之を刺し殺したりと傳ふ。

【大山村】 大分縣豊後國日田郡の中部。日田町の南東方にて大山川（筑後川の上支）の谷に當り、東は中川村・五馬村に、南は中津江村に、西は前津江村・高瀬村に隣りす。釋迦ヶ岳の北麓は西北境に、波神岳の山脈は南境より いづれもほぼ北方に延び四—五百米の山地をなす處多く、ただ東部を北流する大山川邊に沿ひて幅狹き谷地あり耕地拓くも道路また川に沿ひて北は日田町に南西は熊本縣菊池郡隈府町方面に至るも交通の便なほよろしからず。米・麥・椎茸・薪炭・木材等の産あり。舊津江庄の内にして、中世津江氏の居住せし處 津江氏は一時大友氏に臣事せしが天正中廢絶すと。村内に大山溪の奇景あり。即ち大山川の峡流をなす邊に奇峯聳え頗る壮觀なり。川に惠良・千丈楠の木樵あり。謂ゆる大山鮎はこれ等の葉にて漁獲せらる。

オーヤマザキ　大山崎村　京都府山城國乙訓郡の南端。桂川の右岸に沿ひ北は新神足村・海印寺村に接し、東南は桂川を隔てて久世郡淀町と南は淀川を限りて綴喜郡八幡町と相對し、西は大阪府三島郡島本村と界す。山城盆地と淀川平野とを繋ぐ隘路部に當り、西部は丹波高原の餘脈たる天王山（二七〇米）山塊にして、一の低山性丘陵に過ぎざるも、淀川地溝帶の山崎の隘路に迫り聳え立ち、對岸男山（八幡町内）との間は其の距離僅に一粁内外の隘路をなし、淀川その山側に迫り流る。又この山崎附近にて木津・宇治・桂の三川が三方より來り合流するを以て、古來地形上・軍事上・交通上の要地となる。天王山はもと對岸の男山と連續せしものなりしが、淀川地溝帶の形成せらるるに及び陥没して二山塊を分離するに至れり。こは地形上よりほぼ推知し得るも地質構造上兩地が全く同一のものなる事により實証し得るものなり。即ち兩山地共に秩父古生層より成り、然も天王山の東方山寺より海印寺村に引く一線は、地帶構造線に當りこの線によつて西は古生層、その東面の斷層崖下は古期洪積層より成る。この構造線は南南東に延び淀川地溝帶を越えて、對岸男山に追跡され、その走向全く相等しく、然もその

一線以西は剛山塊共に粘板岩より成り割谿と地質を異にし其の走向もほゞ等し。又天王山東南の山麓觀音寺・寶寺に引く一線は、ほゞ淀川地溝帶に並行なる一の斷層線により造られし斷層崖を示す。而してこの一線は古生層とその山麓の古期洪積層とを分離するものとす。この斷層崖は淀川地溝帶の發生と、その時期とを暗示するものの如し、洪積層の丘陵地は前記の如く天王山山麓を北より東、又は南に廣く分布し社線新京阪電鐵はその洪積層と沖積層との境界を東西に通ず。沖積地は淀川流域の平坦地にして、古來水害を蒙る事頻繁なる地帶。小泉川は海印寺村の山地より出で圓明寺の北東を過ぎ附近の耕地を灌漑して桂川に注ぐ。農産に米・麥・林檎に柿・竹材あり、工業また少からず。省線東海道本線の山崎驛(明治九年設置)、社線京阪電鐵、新京阪線の大山崎驛(昭和三年開業)あり、また京都市よりの西國街道通じてバスの便あり、交通は便利なり。此地は古の乙訓郡山崎郷に當り、和名抄は夜末佐奴と訓ず。山崎は山の鼻ないふなり。地に天王山ある為以て山崎と呼べるものならん。天平十九年大安寺資財帳には山前郷と見ゆ。延喜式に山崎驛馬二十疋とあるは即ち此地に置きしもの。また此地淀川の北岸に位するより河陽とも呼べり。中世は山崎莊に作る。大山崎と云ふは、隣接地攝津國山崎村(今三島郡島本村の大字)と區別せんが爲め呼びなせるもの。地は攝津方面より京師へ入るの要衝に當り、古來歴と戰場となりし處、また古へ難波津より京都に赴くには淀川の船運によりしもの。にて山崎は實に其中途の要津なりしもの。近年淀川は少しく八幡町男山の方へ傾き橋本が水驛となり、爲めに山崎は多少川より離れしが、昔は高橋津とも云ひ、邸渚交通の最要路たり。殊に平安時代西方に赴く旅客は、京都より此地まで陸路に依り、此處より乘船せるものならん。催馬樂・難波海草や凌雲集詩小序などに其趣見ゆ。平安時代末葉には山陽・南海に赴く者殊に多く、關白家は六十歳の賀宴に此地の遊女を聘せしことあれば、江口・神崎と同じく遊女等多く居り大いに賑はへるものの如し。かく平時は交通の要衝として物貨集散の地として重要の地たるが、一朝事ある時は、東方よりの敵を宇治・勢多にて要撃せしが如く西方の敵は此地にて防ぎしもの。かく剛樓の理由より、早くここに關を設け、東の逢坂關と相對せしものか。されど逢坂關の如く有名ならず、設置荒廢の年月も詳ならざるも、今に關戸町の地名も殘り、關戸神社もあれば關のありし事は疑なかるべきか。蓋し奈良朝の頃置かれ平安朝の中期以後は既に故關となりしものの如し。嵯峨天皇がここに河陽離宮を造られ、次いで河陽國府となりし頃はもやかかるものはなかりしものなるべし。また延喜式に山崎橋の名あり、此地より八幡町の橋本の地へ架せしもの、天正中豐臣氏架橋せしものち壞る。橋本へ渡る渡船あり、狐川渡といふ。天王山は天正十年、豐臣秀吉、織田信長の仇を報ぜん爲め、明智光秀と決戰して大勝を博せし所謂山崎合戰のありし處と傳ふ。近くは元治甲子禁門の戰に敗れて眞木保臣等此に潜りて遂に悲慘なる最期を遂ぐ。今山上に眞木等の招魂碑建つ。〔河陽宮〕一に河陽離宮ともいふ。淀川の北にあるを以て河陽といふ。弘仁十年嵯峨天皇、山崎驛に離宮を設け、のち源定に傳へ第宅となる。貞觀三年六月山城國奏して國司の廨となし、河陽國府と稱す。王政勉勵するに及び、從つて廢す。今大山崎の西谷なる離宮八幡宮は即ち其宮址とす。〔離宮八幡宮〕府社。祭神、應神天皇・酒解神・姫三神。本社の鎮座地はそのかみ嵯峨天皇の離宮河陽宮のありし地にして、貞觀元年宇佐八幡神を迎祀して石清水八幡宮を鎮祭するに當り、此處に神靈の駐まり給へるを其の起原とすと傳ふ。爾後石清水八幡宮との間に極めて密接なる關係を保ち京洛に於ける名社として上下の尊信を蒐む。即ち室町時代明德三年將軍義滿は御教書を下して社領を定め、課役を免じ、明應七年幕府が棟別錢を課するに及びて當社領門戸院はこれを免ぜらる。なほ當地が軍事上樞要なる地位にありしため、戰國時代には武將の新願を捧ぐるもの多く

永正の頃、細川澄元・同澄之等を始めとし、細川高國・三好長慶・松永久秀等は何れも禁制又は書狀を送りて崇敬の實を表す。更に天正の初め織田信長は本社領域内竹木等の保護を命じ、豐臣秀吉は天正十年大山崎に五箇條の捉書を下して本社の油座・麹座・買得田の既得權を保證し、翌年には又三箇條を下してその保護に充つ。降りて江戸時代に入り慶長六年德川家康は社領を寄進す。その高八百石と云はる。爾後歴代の將軍はその意を受け引續き安堵す。なほ日頭祭(日ノ使神事)・山崎會合始(當役を定むる式)及び油實免許の文書を交付する式等もありき。〔小倉神社〕大字圓明寺に鎮座。郷社。祭神、健甕槌命・天兒屋根命・饒主命・比賣大神。美老年間の創建、延喜の制大社に列し、月次・新嘗の官幣に預る。醍醐天皇深く崇敬し給ひ神階正一位に進められると云ふ。即ち正一位小倉大明神と號し圓明寺村の氏神たり。山崎合戰の兵燹に罹り書記悉く燒失しその後の沿革を知るに由なし。明治十六年郷社に昇格す。例祭、四月五日。四月二日に猿樂あり。〔自玉手祭來酒解神社〕大字大山崎に鎮座。郷社。祭神、大山祇神・素戔嗚命外九柱。社傳に美老元年再建すと云ふ。承和六年從五位下を授け同十年名神に預り同十五年勅により御名代田二町を授く。延喜の制名神大社に列し月次・新嘗・祈年・案上の幣に預る。文化年中に社殿燒亡し、

直ちに再建さる、現今の社殿これなり。中古、天神八王子宮と稱せしも明治十年に式内自玉手祭來酒解神社と改む。建造物中、神輿庫は國寶に指定せらる。境内一萬三千八百九十坪。例祭五月七日。〔妙喜庵〕大字大山崎にあり。臨濟宗東福寺派。明應年間、俳人山崎宗鑑此地に草庵を營みしを以て本院の濫觴とす。宗鑑、一休宗純の禪風を傳へ、宗純寂後山崎に庵を結び、號して對月庵と名づく。宗鑑晩年庵を聖一國師七世の孫春徹上芳に讓りて西國に旅す。爾來本庵東福寺に屬する禪刹となれり。天正十年山崎の合戰にあたり秀吉富地に陣す。其間、屋次本庵にて千利休茶を獻ず。秀吉利休に命じて山内に茶亭を構へしむ。現今の茶室待庵これなり。堂宇中、書院及び數寄屋は國寶建造物たり。書院は文明年間の建立に係り、後世幾度かの改修を經たりと雖も尚ほよく室町末期書院造の風を示ぜり。數寄屋は極めて優雅なる一小茶室にて、全體の構造頗る清淡にして簡朴、室内よく幽靜の氣漂りて殊に玄妙なり。桃山時代千利休茶亭の軌範として、斯道に遊ぶものの歎賞措かざる所なり。〔寶積寺〕大字大山崎にあり。新義眞言宗智山派。補陀落山と號し、一に寶寺と稱す。聖武天皇の勅願にて神龜四年行基奉創すといふ。本尊十一面觀音は延喜年間、慈信・攝津中山寺より移せり。寺傳に、文德天皇橋梁を架設せらるる時、本尊老翁に化して指揮す。依りて竣工後勅使を遣し御物を納め給ひしに寺號起ると。嘉慶三年勅して定願寺に列せられ、當時山上山下に子院多く寺勢頗る盛なりしも中世やや荒廢す。天正十年山崎の合戰に際し秀吉一時本寺を陣所とす。慕末海内の勤王の士四方に起るや元治元年諸士赤富寺に屯す。同年七月、會津勢と天王山に戰ひて利あらず、遂に十七士屠腹して果つ。現に存する十七烈士の墳墓之なり。寺寶中板繪著色神像四面は裏に神號・願主の名及び弘安九年四月二十五日の墨名あり。其中稻荷・祇園・熊野三神像は垂跡像として本邦最古の遺例に屬し、神祇資料として注目すべく、其優秀なる摘宮と製作年代の確實なるとは、相俟つて繪畫史上の好資料たり。他に木造俱生神坐像一軀・同閻魔宜子坐像一軀あり、前者と共に何れも國寶たり。〔觀音寺〕大字大山崎にあり。古義眞言宗。妙言山と號し、昌泰二年の創建に係り寛平法皇を開基とす。後荒廢に歸し治承明かならず。延寶九年木食以空諸堂を再建し中興開山となる。寛文二年以空の戒行叡聞に達し金剛菩薩の號を賜ふ。次で後水尾法皇堂宇を御建立あり勅願所に列せらる。元治の兵火に罹り一時頽廢せしが、漸次重修、明治二十七年本堂成るに及び寺觀舊に復す。〔圓明寺〕大字圓明寺にあり。眞言宗。俗稱山寺。圓明寺緣起によれば九條道家の草創せる道場にて建武・應仁の兵亂の爲に荒廢す。圓明寺攝政實經公は此地に山莊を構へて住し此處に薨ず。今僅に草庵を存す。又此地は古來より歌枕の名所として知らる新千載「圓明寺にて讀はへる、知らざりきかしらの雪のそれなから此山里にふりはてんとは、後一條入道實經」新後撰「秋の比圓明寺にて後一條入道前關白の事を思ひ出て讀けるかくはかりなき跡しのふ人もあらし我世の後の秋の山里、後光明峯寺攝政(實經の子)」(山崎合戰)羽柴秀吉山城國山崎にて明智光秀を破りし合戰。天正十年六月二日明智光秀は、其主織田信長を京都本能寺の宿舍に襲ひ之を滅す。時に羽柴秀吉は信長の命を受け中國征伐に從ひ、備中高松城に毛利輝元の將清水宗治を圍み、城將に陥らんとし、輝元の援兵もまた來りて、秀吉の兵と相對峙せり。丹羽長秀も信長の命により、信長の三子神戸信孝を奉じ、四國出征のためこの日攝津住吉を出發せんとし、柴田勝家は北陸平定に從ひて、上杉景勝の兵と戰ひ、越中魚津を陥れし時なり、更に瀧川一益は五月上野厩橋に入り、未だ地盤を定むるを得ず、東海道の德川家康は信長の招待により上京し、此日見物のために堺に到著せり。光秀はこの形勢を顧慮し、信長が弑するや直ちに京都に於ける人心の不安を一掃し、五日近江に入りて信長の本據安土城を陥れ、近畿の豪族を招き以てその地方を確實にせんとしたり。然るに羽柴秀吉三日の夜高松にて信長の訃報に接するや、これを祕して輝元と媾和して宗治を自殺せしめ、六日姫路に歸り從軍の諸士を糾合し、九日姫路を發し攝津尼崎に出で、十二日使を大阪に遣はし、神戸信孝を迎へ、丹羽長秀の軍と合し、この日富田に陣す。光秀は、九日近江より京都に入りて鳥羽に陣し、十日河内に入りしが鳥羽に歸りて淀城を修築し秀吉の東歸に備へ、この間大和の筒井順慶及び丹後の細川藤孝、忠興父子を招きしがいづれも失敗に終れり。翌十三日秀吉兵を三手に分ちて山崎に向ひ、包圍の態勢を取らんとし一斉に行動を起す。(兩軍の兵力分明ならざるも、秀吉方は光秀方の三倍はありしものと想像さる)。即ち中央道筋に高山重友・中川清秀・堀秀政、右翼淀川添ひに池田恒興及び秀吉の家臣加藤光泰・中村一氏等、左翼山の手には、秀吉の弟秀長・黒田孝高等向ふ。かくて午後四時近く兩軍は鎬魂を打合ひしが、高山及び中川勢の中央突破功を奏し光秀の兵は忽ち潰崩れとなり光秀は、山崎の東北にありし勝龍寺城に逃る。然るに秀吉は急迫して直ちに城を圍む。光秀即夜脱出し、居城なる近江の坂本城に歸らんとせしが、途上小栗栖に於て土民のために殺さる。因みにこの戰に於て天王山の爭奪が戰況の推移を指導せし如く世上に流布せらるるも、正確なる記錄にはそのことなし。かくて翌十四日秀吉は信孝と共に京師に入り直ちに近江に進み

て三井寺に陣す。この日光秀の部將明智秀満(雲通左馬助光春といふ)は安土城にて山崎の敗報に接し、安土城を焼いて坂本城に入り、光秀の妻子を手刃し、城に火を放ちて自殺す。かくて光秀の一族みな亡び秀吉の弔合戦は終れり。元來光秀討滅のことは、德川家康・柴田勝家・瀧川一益等もそれぞれ企圖しが、急遽にこれを實行し得ざる事情にあり、秀吉は幸運にもその機を捉へたるものとす。ともかく秀吉の行動の神速なりしは驚歎に値す。秀吉の威望これより日に加はり、遂に天下平定の基礎を築けり。

オーヤマダ　大山田　【大山田村】　飛木縣下野國那須郡の東南部。馬頭町の北黒羽町の東に隣り北より東北は須賀川村に、東南は大内村に接す。中央部に高倉山(五〇二米)あり其山地緩かに四方に低下して高原狀をなし、那珂川の一支流武茂川その山地の東麓を南流し、村の東境なる三—四百米臺の丘陵との間に幅狹き低地をつくり耕地拓く。産業は主として農業にて煙草・米・大麥を産し、また木材・用材を出し、特産物に陶器小砂焼あり。道路高茂川谷を南北に通ずるも交通なほ便ならず。此地域は和名抄那須郡山田郷の内か山田は蓋し山間の田地の義なるも山田の名諸國に見ゆるより大山田と改むすと。國志に煙草を産し大山田煙草と稱すとあるより見れば、古くより煙草の名産地なりしを知るべし。中世宇都宮景綱、其孫泰景なして此地を領せしむ。泰景即ち羅馬城を築きて大山田右京亮と稱す。永祿年間屋ヶ那須家と爭ひしが、曾孫綱胤に至り遂に佐竹義宜のために攻略せらるると。城址今に存す。〔總德寺〕大字大山田にあり。新義眞言宗智山派にして本尊は運慶作不動明王、開基に試いて二説あり、一は中納言光雅とし、一は本寺松稱寺の眞鍮上人とす。いまし何れか詳ならず。往昔は門末二十八箇寺を統べし古刹たり。

【大山田】　紀伊國(和歌山縣)の古地名。中世の莊名にて、元慶七年の頃に見え、貞觀十一年、民部省施入の河内觀心寺領なり。地は伊都郡の内ならんも今の何れの地に當るや詳ならず。觀心寺資財帳(元慶七年九月十五日勘造)「一、大山田莊、數地參町貳段參佰拾陸歩、在物檜皮葺板數屋一間、水田玖段參佰貳拾玖歩、云云、右貞觀十一年六月九日、民部省施入」

オーヤマト　大日本・大倭・大和　我が日本帝國の古稱。大は美稱。日本をヤマトと訓ずること書紀神代紀に「廼生大日本(日本此云耶麻騰)豐秋津洲云々」とあるによりて明なり。倭は往昔支那より我邦を稱せしもの、初めは我邦にても此を襲用せしが後我が民族の理想なる和の字に改め同じくヤマトと訓ず。奈良時代に一時大養德の文字を使用せられしも永續せず。後には大和を以てヤマトと訓じ一國の稱となり大日本のみはこれを音讀して、永く我が帝國の總稱となる。和名抄に大和國城下郡大和郷あり、於保也萬止と訓ず。地は今の奈良縣山邊郡朝和村の地なりといふ。神武天皇建國の故地にして大日本國の國號は此地名より起るといふも詳ならず。記・中「然於二大倭國一、竝吾二人一而」繼紀・天平九年「改二大倭國一爲二大養德國一」

オーヤマトトヨアキツシマ　大日本豐秋津洲・大倭豐秋津島　我が本州島の古稱の一。書紀神代紀に見ゆ。後には轉じて我國の總稱にも用ふ。書紀・神代紀・八洲起原章「於是陰陽始遘合爲夫婦、及二至產時一、先以二淡路洲一爲レ胞、意所レ快故名之曰淡路洲、廼生二大日本豐秋津洲一、日本此云耶麻騰一、下皆放レ之」

オーユ　大湯町　秋田縣陸中國鹿角郡の東北部の温泉町。西方小坂町とは七瀬村を隔て、西南は毛馬内町に、東北は十和田湖を持つ青森縣上北郡十和田村に隣り、東は同縣三戸郡戸來・田子・上郷の三村と界す。那須火山に屬する六—八〇〇米の諸火山群立し、東北境の田代平に發する大湯川(米代川の一支)は、東南境の不老倉峠に發する安久谷川及び其他の支流を合せ西南に流れ、開析進み谷間は比較的廣濶なる低地を作り田畑拓く主生業は、農業・製炭業・温泉關係業等にて、農生物は蔬菜・米・大豆・果實等、林産物は薪炭材・用材・木炭・茸類を産し又馬・牛を飼養し、特産物に蜂蜜・郷土人形・竹細工等を出し、又不老倉銅山・小坂鑛山發電所等あり。農林産は小坂町の銅製錬所に近きを以てその煤煙の被害ありといはれ、其程度に應じ補助を受くといふ。特に蔬菜寢塔は盛にして殆ど小坂の鑛山町に出し其朝未明より小坂町に至る街道數哩に亘り老幼婦女の新鮮なる野菜をリヤカーに滿載し行くを見る。省線花輪線の毛馬内驛(錦木村地内)に近く、毛馬内町よりの縣道大湯川を遡り發荷峠(六四七米)を越え十和田湖畔に出で一は大字大湯にて之と分れ、安久谷川に沿ひ來満峠(六一一米)を越え三戸大字大湯は十和田湖周遊の街道に沿ひ、字不老倉は鑛山聚落として發達す。此地古くは史實の徵すべきものなきも正親町天皇の御代南部氏の家臣大湯氏此地に居りしことありと、町名の起原は湧出量豐富なる温泉ありしによるといふも詳ならず。秋田縣側の十和田湖に至る街道は毛馬内驛より大湯温泉を經北方發荷峠を越え十和田湖畔生出村に至る二六哩、大湯温泉を過ぎ大湯川を遡り黒森山(五四六米)の東麓を進み右に蓬萊森(五七二米)を眺む。此附近より秋季は紅葉に富み、右に按森山(五九三米)を望みて次第に登り右に大湯川に懸る錦繡を見、北に轉じ大湯川と分れ、その支谷に入り勾配の次第に增し行く山路を登り、遂に谷を上りつめ傾斜のやや緩かなる處に出づれば發荷峠に達する。ここは海拔六四七米にして、山毛欅の大樹叢生す。その間より十和田湖を大觀する事を得、正面には西湖より北湖に續く水面を二四六米の下に俯瞰し、その岸に生出の和井内ホテル・和井内驛の驛化場等の建物手に取る如く見ゆ。右には低き中山半島と高き御倉半島が重なりてその中間に火口湖中湖の水面を見せ、御倉半島の向ひに湖岸の御子岳を望み得。また遙前方湖を取捉く青森山及び御花部山の彼方に八甲田群山の南部に聳ゆる赤倉山(一二九八米)・乗鞍岳(一四五〇米)櫛ヶ峰上岳(一五一七米)が右より左に竝ぶ。秋季湖岸の楓林錦を織りなす頃は極めて美觀を呈する。汗知らずにて十和田湖の今景を見うる處は、今のところ此の峠のみなり。發荷峠より火山灰の堆積したる處を斜に西北に下り、右に轉じ湖岸の生出(和井内驛)化場所在地)に著く。峠より生出迄二粁、其間常に林間より湖面見ゆ。〔不老倉鑛山〕字不老倉にある銅山、米代川の一支、安久谷川の溪谷にあり。地質は第三紀の凝灰岩及び頁岩と之等の間に存する安山岩にて裂罅充塡鑛床。鑛石は黄銅及び黄鐵鑛を主とし、小坂鑛山に委託し製錬す。〔大湯温泉〕大字大湯にあり。毛馬内驛の東北八粁、毛馬内口より十和田湖に至る遊覽者の休憩地となる。米代川の一支大湯川の畔、荒瀬ノ湯・上ノ湯・下ノ湯・川原ノ湯に分れ之等は何れも二〇〇米乃至一粁を隔てて散點し、泉質はアルカリ性鹽類泉にて胃腸病・皮膚病・婦人病・リウマチス等の療養並びに行樂に適し、環境は平凡なるも野趣豊かに鴻街情調あり。本郷國立公園十和田湖探勝の要路に當り夏は頗る賑かとなる。

オーユパリ　大夕張新坑　本邦重要炭坑の一。北海道石狩國夕張郡夕張町の東部、夕張山脈の西側の山中、即ち同山脈とその西側のシューパロ山脈との間を南下する夕張川の上流シューパロ川がパンケモユーパロ川等を合し、急に方向を西に轉じ、シューパロ山脈を横斷する部分の北側海拔七—八〇〇米の地域に位す。その東側なるシューパロ川の峽谷には白堊紀層の露出あり、石炭層は、の西側を覆へる第三紀古期層、特に頁岩層中に挾まれるものなれども、烈しき斷層作用の爲め、一部は却つて白堊紀層に推し上げらる。層向北二〇度西、東に四〇—五〇度の傾斜を以て、整然として延長すれど、北部はパンケポロカユーパロ川、南は夕張川の西流部に平行に、ほぼ東西の斷層に斷たる。炭層は三群あり、第一、第二群は北方に離れてパンケモユーパロ川上流に露出すれど、未だ開發せられず。第三群は南方夕張川畔に達し、二層を成して南北に列なる。これ即ち大夕張炭坑の主要部にして、第一層は厚さ四米内外、第二層はそれよりやや厚し、炭質は前者は南部良質にして、北部やや劣れども、後者は一般に良質にして、瓦斯又は骸炭製造に適し、汽罐用・工場用にも良し。現在三菱鑛業會社の經營に屬し、室蘭線の支線夕張線清水澤驛より夕張川の北岸に沿うて支線を設け、河畔の平地二粁に達し、その北方二粁餘、海拔六〇〇米の山腹に坑口を設け、軌道によつて之に通ず。昭和十年度五一萬瓲、同十一年度五八萬瓲に達し、夕張・美唄・砂川に亞ぎ北海道にては第四、内地全體にては第十八位を占む。その石炭は夕張線より更に室蘭線によりて各地に搬出せらる。

オーヨコ　大横島　愛媛縣越智郡にある島。大角ノ島の北方、大三島と大崎上島との中間に浮び大三島の宮浦村と相對す。本島の北に近く小横島あり、全島山地にしてその斜面海に迫りて海崖を示し、樹木繁茂す。

オーヨサミ　大羅　攝津國(大阪府)の古地名。和名抄、住吉郡に大羅郷あり於保與佐美と訓ず。大羅は大依羅の依を修略せるものとす。依羅は寄波の約海波と河波の相寄する處、河の海口を指せるもの。萬葉集に依網原と云ふは此地と云はるるも、一に和名抄、參河國碧海郡依網郷とも云ひ詳かならず。物部多波遠公より出でし依羅連は本郷に本貫せしものか。府社大依羅神社は式内の古社にして、いま大阪市住吉區庭井町にあり。崇神天皇の朝に獵られし依網池(依羅池)は本郷にありしもの。推古天皇の朝に改修されしものと思はれ、いま池の大部分は新大和川の河道に入り一部は住吉區の大和川畔の仁右衛池なりと。されば大和川河道の變遷にあり、郷域詳ならざるも、大凡そ大依羅神社及び仁右衛門池一帶の邊に當るものの如し。萬葉・七「青角髪依網原に人も逢はぬかも石走る淡海縣の物かたりせむ」

オーヨシ　大吉　【大吉村】　岡山縣美作國英田郡の中部。北は大野村に、西は栗井村に隣り、南は吉野村に、東は兵庫縣佐用郡江川村と界す。山嶽西境を南北に連亙し東部にも高原性丘陵連り、その間村の中部南北に低地あり吉野川この低地を潤して西南に流れ、その流域に耕地拓け水田卓越し米・麥・薯を主産し外に柿・蒟蒻・木炭の産あり。南方江見町より北方大原町に至る縣道吉野川に沿うて東部丘陵の麓を通ぐバスの便あり。此地は和名抄、英多郡吉野郷の地なるべし。

【大吉　美作國(岡山縣)の古地名。中世の莊名にて、保元三年の文書に見えて、石清水八幡宮寺領なり。地は今の勝田郡廣戸村の邊に當る。

オーヨド　大淀　【大淀町】　↓大淀町(三重縣)

【大淀町】　奈良縣大和國吉野郡の西北部。吉野川の右岸に沿ふ。東は龍門村・上市町に南は吉野川を隔てて吉野町・下市町に隣り、西は南葛城郡、北は高市郡

に境す。地勢北部に高く町内慘れ丘陵起伏するも、西部に僅少の稻々低平なる地あり。社線大阪電氣軌道吉野川に沿ひて通じ藤水・福神(共に大正十三年設置)・下市口・六田(共に大正元年設置)・越部(昭和二年設置)の五驛を置く、また伊勢街道これに沿ひバス通じて交通便なり。主生業は農にして、米・繭・蓆を產するも、製藥・賣藥に從事する者また尠なからず。此地は和名抄、吉野郡吉野郷の內なり。近世、池田莊或は北莊と呼ばれし處。大字比曾に奈良時代の古刹比曾寺の址ありて、いま指定史蹟たり。大字今木は今來にして新來の歸化人の居れる處なるべし。今木双墓と云ふは、蘇我蝦夷父子の葬め建てたる墳墓なり。いま大字今木と相隣する南葛城郡大字古瀬の地に存す。また今木に天狗塚と呼ぶ處あり、雄略天皇の朝、燒き殺されし大臣葛城圓・黑彦皇子・眉輪王の遺骨を一棺に納め葬りしと云ふ。今流傳本南丘墓ならんと云はる。また大字に越部あり。日本舊黑記に聖武天皇の朝、廣連、吉野金峰山に入り、靈夢を感じ阿彌陀佛・彌勒佛・觀音菩薩像を彫り、之を越部村興堂に安置すと見ゆ。されどいま興堂なし、蓋し吉野時代兵燹にかゝりて亡びたるものか。明治二十二年町村制施行の際に、土田・檜垣本・越部・下淵・畑屋・鷹原・今木等を合併して大淀村と名付け、大正十年町制を布く。大淀の名は、蓋し萬葉集の「今しくは見めやとおもひし三芳野の大川淀を今日見つるかも」の歌に因めるものといふ。いま町に農產物移出檢査所及び縣立吉野高等女學校あり。〔比曾寺・比蘇寺〕 大和の名刹。大字比曾にあり。現在世尊寺の境域となす。吉野川右岸の丘陵に包まれたる一小盆地にて、溪谷に挾まるる高燥なる地に存す。寺傳によれば用明天皇二年聖德太子の創建に屬し、四天王寺・法隆寺・法興寺と共に四大寺と稱せられ、別名を吉野寺といひ、寺號を現光寺とも稱す。日本書紀によれば欽明天皇の十四年河內茅渟海に漂着せる大樟を以て百濟水田の作なる釋迦像及び十一面觀音像を奉安すといはる。のち清和・宇多の兩天皇幸し給ひしが、一時廢頹し、弘安二年金峯山寺の僧春豪これを再興し、のち四天寺末に屬し、寬延四年靈鷲山世尊寺と稱し曹洞宗に屬し、寬延四年靈鷲山世尊寺と改め今日に至れり。現存の主なる堂宇は山門・假本堂・太子堂・鐘樓・禪堂・庫裏等にて、山門・太子堂(法王殿)・禪堂(大庭堂)・庫裏はともに國寶なり。〔比曾寺址〕 舊比曾寺の規模は、古圖によれば金堂・講堂・東西兩塔・中門・大門を備へ、塔頭八院を有するものなりしが、盡址は移動され、最も確實なるものは兩塔址のみとす。その中、東塔は寺傳により聖德太子が用明天皇の御ため建立せられたるものといふ。盡址は方約二十五尺、高さ五尺五寸の土壇中に方十六尺二寸なる割し礎石が配置さる。先づ十二個の側柱礎が殆んど等間隔に據ゑられ、その徑いづれも二尺二寸に三尺、表面に精巧なる加工施さる。即ち圓柱座は直徑一尺四寸五分、高さ一寸、幅八寸五分の地覆座を加へ、圓柱座の下に高さ約八分の圓座あり、更にその下に圓座地覆を含む圓形の輪郭を型づけしものにして、大和に於いては類例なし。四天柱礎は二個のみを原位置に殘すも表面に圓柱座のみを彫り出せしものなり。心礎は中央より發掘され北邊の側柱礎の傍にあり。徑三尺に四尺を有する花崗岩の表面に方約一尺九寸の淺い彫込を有し、中央に徑七寸三分、深さ約三寸五分の檪形孔を存す。この種の心礎もまた他に類例を見ざるものとす。因みに東塔は鎌倉時代に再建されしが、のち豐臣秀吉伏見城內に移し、更に慶長六年德川家康これを圓城寺に寄附す、よつて今も灌頂堂の北に現存し、いま國寶たり。塔は三重塔にてその初層のプランはこの塔址とよく一致す。次に西塔は推古天皇が敏達天皇の御爲に建立せられしものと傳ふ。盡址は東塔址と相對し高さ約五尺の土壇上に存在し、礎石は方十六尺一寸を割する中に十二個を殘存せり。側柱礎は低い圓柱座のもの多く、稀に地覆座を附加するものあり。四天柱礎は方形の一隅を缺きし型式のもの、心礎は長方形なる石材の中心に直徑約七寸七分、深さ二寸七分の圓孔を穿ちしものにて、何れも東塔址のそれとは樣式を異にせるものなり。今その上に石塔一基安置す。之も恐らく東塔同樣三重塔なりしものの如し。なほ兩塔址の北方中門の內に金堂の礎石と思はるるもの數個あり。圓柱座を彫り出せし礎石が低く寺庭に存するも、原位置とは考へられ難し。ついでその北方に世尊寺本堂あり。これもやや高き土壇上に建てられ、周圍に舊礎石を存すも同じく舊態を窺ふこと能はず。またその背後に聖德太子御手植と稱する壇上櫻あり。附近に古瓦出土し、その他附近の畑地より古瓦類が發見さる。出土の古瓦は多く火災に遭ひし形跡を殘し、その樣式・文樣等より奈良朝前期と認めらる。又鎌倉時代或は室町時代と思はるるもの存し、現光寺と陽刻せる瓦常も發見され、その變遷を物語る貴重な資料なり。昭和二年四月史蹟に指定せらる。

〔大淀〕 宮崎縣宮崎郡にありし町。大正十二年本町及び宮崎町・大宮村を廢し其地域を以て宮崎市を置く。

〔大淀川〕 宮崎縣にある川。一に赤江川といふ。國內第一の巨流にて大隅國に發し、都城盆地を過ほし霧島火山群東麓の諸水を寬め、高城・高岡を經て東莊川を合せ宮崎市を貫きて日向灘に注ぐ。流程九〇粁。餘舟行約三〇粁餘に及び、鐵道開通前は河口赤江港が唯一の外通港たりしも今は昔日の盛觀なし。今宮崎市に於て此川に架せる橋を橋梁といひ、即ち昔の橋ノ小門なりといふ。

〔大淀〕 日豐本線の一驛(大正四年設置)。宮崎縣宮崎郡赤江町にあり。

オーヨリ　大寄

〔大寄村〕 埼玉縣武藏國大里郡の西北部。南は深谷町に、西は同郡村に、北は八基村・新會村に、東は明戸村に隣接す。土地平坦、小山川北境を東流す。南部に水田、北部に畑地・桑園よく拓けて米・蚕を產し、養蠶また榮えて繭を出す。南隣深谷町より道路北方に通じ群馬縣伊勢崎町方面へバスの便ありて交通便利なり。元治元年、水戸藩士田丸直九・藤田信等が大平・筑波の間に擾亂を起し、同志を募るに際し逃んで之に應じ、この義舉の爲めに殉ぜし金井國之丞(贈從五位)は本村の出身なり。

〔大寄山〕 滋賀縣東淺井郡湯田村大字大依の北嶺。西は虎御前山と相望む。江北合戰の爭地たり。大永元年、淺井亮政、美濃の齋藤秀龍を此に邀へ擊つて之に克つ。姉川の役、淺井・朝倉の軍先づ此に陣し、織田氏の軍と姉川に戰ひて敗北す。

オーヨロギ　大万木山　一に土手山。中國山脈中部の一峯。島根縣飯石郡頓原村と廣島縣比婆郡上高山村に跨る。標高一二一八米。東北方に鋼ノ巢山(一〇二六)、南西方に琴引山(一〇一四米)峰つ。三刀屋川北側に出づ。

オーラ　大良島　愛媛縣北宇和郡にある島。奥南村に屬す。南北に細長く北端は殆んど奥南村に接し陸繫島の觀を呈し橋梁を以て結ぶ。周圍約八粁。其南端を大良鼻といひ、南方の赤崎鼻及び野島・高島等と共に宇和島灣を抱く。

オーラ　大浦

〔大浦〕 近江國(滋賀縣)の古地名。中世の莊名とす。清和院領にて、桑田二十八町ありしを、元慶五年、延暦寺文殊七堂、大聖文殊、并五佛燃燈修理等の料に施入せり、のち又圓滿院たり。正平九年四月文書に、大浦下莊の名あれば後には上下二莊に分れたるにや。いま伊香郡永原村の大字に大浦の名あり、因に此邊は舊西淺井郡、即ち古の淺井郡の地籍とす。

〔大浦灣〕 沖縄縣國頭郡久志村中部の灣。灣入約四粁。

オーラ　邑樂郡　群馬縣上野國十一郡の一。縣の東南部に位す。西は山田・新田の二郡に境し、東は栃木縣下都賀郡に、南は埼玉縣大里・北埼玉二郡に、北は栃木縣安蘇・足利の二郡に界す。本郡は渡良瀬・利根二川の間に介在する低平なる地にして近藤沼・多々良沼・板倉沼等の池沼多し。地質は殆んど洪積にしてただ二川の沿岸に沖積層を見る。即ち本郡は縣內屈指の農業地にして、また織物の產を以て知らる。道路は日光別街道館林を貫きて南北に通じ、社線東武鐵道郡內を貫き、上州鐵道もまた開通す。建郡の期は詳ならざるも、續日本紀・神護景雲三年四月の條に「上野國邑樂郡人外大初位上小長谷部宇麻呂……賜ふ姓大伴部」と見ゆ。延喜式は於布安良駅或は於波良駅と訓じ、和名抄は於波良駅と訓じ池田・尼太・八田・長柄の四郷を置く。日本正統國・享保郡名附には於布良と訓ず、いま專ら之に從ふ。一に訓於波良駅は茨城と同語にして、茨木道の居せし地にやといふも今遽に信じ難し。爾來變遷なく今日に至る。

オーリュー　大琉球　沖縄島の別稱の一。

オーリュー　キュー

オーリョッコー　鴨綠江　朝鮮と滿洲との境界をなす長江。全長實に九〇〇粁餘、我國第一の長流なり。鴨綠江は別に益洲江・馬會水または雙江の名あり。我國の古史には阿里那禮河の名を以て顯はる。その源は滿鮮國境の最高峯白頭山(二七四四米)に發し、南流すること六〇餘粁にて東岸より支流佳林川、ついで五是川を入れ、滿洲側より二十三・二十一・十九浪溝の溝水を集め、惠山鎭附近より流路を西に轉ず。この附近既に河幅一四五米、水深一米內外となる。これより下流の中江鎭に至る間、朝鮮側より は虛川・三水・長津・厚州・厚昌の諸川を、滿洲側よりは十八道溝以下各道溝を容れ、水勢大いに加ばり、河幅もまた二〇〇乃至二五〇米、水深も平均三米に達す。而して支流厚州川を合する頃より漸次流路を北西に轉じて滿洲側の帽兒山我が中江鎭附近に於いて極北に達出す。惠山鎭より中江鎭に至るまで凡そ二〇〇粁、この間右岸は長白山脈の南斜面にて、無數の支流を合す。中江鎭附近より流路は更に西南に轉じ、朝鮮側より楚城・江界・支那側よりは數多の小支流を合せて澤江口(我が楚山附近)に至る。河底は惠山鎭より上流は石底にて、之より中江鎭に至る間は砂及び岩石を混へたる底をなすが、この間急勾配にて水勢もまた最も急速であり、且つ江中岩礁多く奔湍激流少からず。中江鎭以下の河底は砂泥にて水勢も緩く、處々に淺瀨を生ず。即ちその流勢を見るに、中江鎭までの間を通じ數百米乃至千數百米の緩流あれば次いで短距離の急湍ありと云ふ狀態にて、上流より下流まで同一狀態を反復す。而して常に水量多く舟筏の航行可能なるも、澤江口より六〇〇粁の長江の間灘咱淺瀨も少からず存し、從つてその航行に非常なる障礙をなし、特に入口に磐矢せるものは十五道溝口にある門砦子咱なり。澤江口附近に於いてはそれ幅員特に廣大となり約四〇〇米を有し、水勢も頗に緩かになりて、途中朝鮮側よりは忠滿江・三橋河、滿洲側よりは雙河・の他の支流を合し、幅廣き處は凡そ一・五粁に及び遂に黃海に注ぐ。この間凡そ二〇〇粁、河底は砂または粘土にして、岩石礁磯の存在は稀れなるが、澤江口より新義州に至る約一六〇粁の間には二三の淺瀨ありて、秋の減水期に於ける流筏事業の支障となるものに大江流咱・標陣子咱・大清咱等

あり。義州に至れば水勢海潮の干満に關係を生じ、江畔には沃野廣く展く。河道の狀態前述の如くなれば普通支那艜子は十三道溝口附近まで通航し、稍〻船形を變じたるもの及び高麗船は惠山鎮まで通航する事を得るも、平水に於ては支那艜子は安東縣より十三道溝口迄四十餘日、高麗船は惠山鎮まで同一日數を要し、惠山鎮安東縣間は支那式筏は約九十日間、日本式筏は十五日間を要すといふ。渾江口以下の下流に於ても大江滿哨・浮子哨・大清哨等の淺瀬ありて、改修されし所もあれど、減水時は流筏に支障をなすものあり。義州に下れば水勢は海潮の干満に關係を生じて流れも緩く、帆船の航行自由にして満潮時には三道溝頭附近まで四百噸級汽船を航行せしむることを得、大型船舶は江口にある龍巖浦または多獅島新鎮地に碇泊す。鴨綠江の縱の水運は大體前述のごとくなるが、この水運は結氷期及び減水期を除く七箇月間のことにして、曉軟結氷し、冬季五箇月間は全く堅氷に閉ざされ、春四月解氷するに至る迄は左右兩岸より自由に修斷をなし得る。解氷後は徒渉は不能にて舟楫の便によつてのみ渡江し得る。下流の新義州と安東縣との間には有名なる鴨綠江の長橋を架す。鴨綠江は古來東アヅヤの歴史に關係深き大河にて、その名稱も古來種々あり。日本書紀神功皇后新羅征伐の條に、新羅王が降服して誓詞を述べし始末を記し、その誓詞の中に、阿利那禮何が逆流するともこの誓ひを變ぜずといふ意味のこと見ゆ。この阿利那禮といふ河は一說に新羅の大河を云ひしものなるべしといひ、また一說に鴨綠江を指せるものならんともいひ未だ定論なし。松下見井の異稱日本傳に阿は鴨の音を寫し、利は綠の音を寫せるものにて、鴨綠といふ二字の發音を略して阿利といへるなり(那禮は河の義)といふ說明を與へ居るも、牽強にして從ひ難し。唐の杜佑の通典に此河の水色が鴨の頭に似るを以て鴨綠なる俗稱起ると說けるも亦全く附會の說なり。綠の字は淥とも記されてあるを見れば、鴨綠(または鴨淥)は其地方の土名を漢字に寫せるものにて、阿利といふも亦同樣なり。支那・朝鮮の關係を記せる支那の古史の中に鴨綠江を指せりと思はるる河名を載す。史記の朝鮮傳に見ゆる浿水は、即ち鴨綠江を指せるものなりといふ一說あり。然るに漢書の地理志の玄菟郡西蓋馬縣の條に、馬訾水といふ河名見え、これ即ち鴨綠江に當り、樂浪郡中に浿水縣あり、浿水は鴨綠江よりも東方に位したるものの如くにも考へらる。從つて秦漢時代の浿水は今の鴨綠江なりといふ說と、その反對說(例へば其浿水を今の清川江とする說)とあつて、今なほ一定せず(隋唐時代に至つても浿水といふ河名が史上に現はれ居るも、これは大同江を指せるものにて秦漢時代の浿水とは別とす)。されば今のところ支那の古史に見ゆる鴨綠江の最古の稱呼は、馬訾水なりといふべきなり。鴨綠江西岸の大支流たる佟佳(佟家)の江の谷地に起りしが即ち高句麗にして、唐代に至り高句麗の大國亡びて後、滿洲に渤海といふ大國興れり。渤海國の領土中に鴨綠江地方が含まれてをり、唐と渤海の交通路としてこの河が利用せられ、その交通の道程は唐の賈耽の道里記の中に見え、この書は唐書の地理志の中に引用さる。鴨綠(鴨淥)といふ名は唐代の頃より用ひらるるに至れるものとす。(鴨綠江の森林)長白山脈の基部に當り東北隅に偏在して南部の平野と隔絶せるため久しく原生の狀態を維持し、その初め中江鎮より上流は江岸に至るまで樹木鬱蔚として密生し、全面一帶に森林をなし下流の部分は闊葉樹を主とする針闊混淆林にて、奥地に入るに從つて針葉樹の純林に近き狀態となり、以て分水嶺に至りしものの如く、當時の森林は植物帶上温帶北部及び寒帶に屬し居りたるものなるが、交通機關の發達と企業家の入山によつてこの地方に移住する人口漸く多く、鴨綠江の本流及び各支流に近き平地は伐採開墾の際延燒或は伐採せられたり。現今は中江鎮より上流に於て各支流の上中部及び厚州川・長津江等の支谷斜面に原生の美林を保持す。主要樹木は紅松・杉松・黃花松等の針葉樹及び水曲柳・胡桃・楸・檜木・楡木等の落葉闊葉樹なり。而して前記沿岸の惠山鎮・中江鎮・高山鎮・新義州・龍巖浦等は何れも森林事業に關係して發達せる聚落にて流筏の監視・所管、森林の取締等のために營林廳支廳が置かれ、伐木・運材・流筏・運流木整理・筏の蒐集　貯木・製材・輪移出等行はる。(鴨綠江の戰鬪)日露戰役の初期に於て我が第一軍が朝鮮方面より北進し、露軍をまづ鴨綠江以北國境外に擊退したる戰鬪(後に何村大將の指揮する後備第一師團と第十一師團を合したる鴨綠江軍の諸戰鬪とは全く別に)。明治三十七年二月五日、日露の國交斷絶するや、我が帝國は勞頭をまづ海軍をもつて攻擊作戰をとり、敵艦隊を奇襲して、二月八日仁川沖に敵艦を撃破し、ついで九日旅順沖の海戰に大捷を博し、韓國沿岸より遼東半島沿岸一帶の海上權を獲得し、旅順港を封鎖して、第二師團・近衛師團・第十二師團の第一軍諸隊を仁川及び鎮南浦に上陸せしめ、平壤・定州・義州を陷れて、ここに鴨綠江の戰鬪となり、前進部隊は四月二十六日鴨綠江中の九里島及び點定島を占領し　勇敢なる工兵は架橋作業を行ひ、四月二十九日より砲兵の援護射擊の下に急ぎ鴨綠江の渡河運動を開始し、五月一日激戰の後遂に九連城を占領して安東一帶の地を我が手に收めることを得たり。これを世に鴨綠江の戰鬪といふ。(鴨綠江橋梁)河口を遡る約二八哩の朝鮮新義州と、滿洲安東縣とを連絡する國際的橋梁。日露戰爭當時、この地點に架橋の必要ありしため、臨時鐵道監部にて計畫大要が決定せられ、この計畫を繼承せる朝鮮統監府の鐵道管理局は　鋭意實施設計を進捗して、明治四十二年八月起工、同四十四年十月竣工を告げ、これによつて鮮滿連絡鐵道全通せり。架橋地點の河幅は、淡水氾濫時には約四哩餘となるが、線路は盛土にて兩岸より近づき本流部分を鐵橋としてその總長九四四・二四米、橋桁は支間九一・四米、構桁六連、このうち安東縣側より四番目の九一・四米の徑間は、中央に橋脚を置きて旋開式可動橋とし、殘克その他通航船舶に支障なき裝置をなす。十字に開くを以て世に有名なこの旋開橋は輪鐵支承式にて、中央橋脚徑七・六米、左右突徑間は四一・九六米なり。鐵道は單線、其左右に各〻二・四四米の人道が設備さる。なほ本橋の各基礎には、工事の迅速と安全のため、壓搾空氣潛函を橋墜基礎に用ひたる嚆矢とす。鴨綠江鐵橋は大なる可動徑間を有すること、及び壓搾空氣潛函を使用したる點に於て、我國橋梁史に特記せらるべき價値を有す。

オーリヨー　押梁面(あつぱり)　朝鮮慶尙北道慶山郡の中部　管内十一面中の一。大邱府の東南約二〇粁に位置し、東は珍良・恵仁、東南は南山、南は南川、西は慶山の諸面と各相隣接し、北は琴湖江を隔てて安心面と相對す。南北に長線を有する細面形をなし、南方南川面との界には山地あれども北半部は大邱盆地の一部をなし土地極めて低平且つ地味頗る肥沃にして米・大豆・麥・棉花等を産し、殊に押梁大豆は慶山大豆と共に良好なるを以て著はる。殊にこの地域は地下水豐富にして灌漑用溜池の多き一特色のある景觀をなす。西方慶山より來る二等道路は城内を北東に走りて河陽に通じ乘合自動車の便あり。聚落密度北部に特に大なり。新柴洞は面事務所の所在地にして郵便所・警察官駐在所・普通學校等あり。

オールイ　大類(おるい)　【大類村】群馬縣上野國群馬郡の東南部。高崎市の東に接す。烏川の支流東北境を西南流し、全村土地低平にて田畑拓く。高崎市に接するを以て交通利便なり。主産物は米・麥。此地は和名抄、群馬郡烏名郷の内か。大字に宿大類あり、この宿は驛亭の義に由れるものにてはなく、本村と別異せる離落なるより名附られたるものならんといふ。平家物語に大類太郎、太平記に大類彈正、鎌倉大草紙に見玉藏の大類中務丞等見ゆるは皆此地に故ある者ならん。大字柴崎に圓墳あり。此圓墳は明治四十年に發掘されて神獸鏡二面及び内行花文鏡二面とを得たり。此等は今帝室博物館に藏せらる。その神獸鏡の一面に「□始元年云々」といふ銘文あり。これは支那にて鑄造せられたる事のみは明かなるも一字缺字ゼるためその年代は詳にする事を得ず。併し鏡の圖文より見るに我が古墳時代前期に傳來せし事のみは推知し得る。

【大類】↓川角村(埼玉縣入間郡)

オーレンゲ　大連華(おれんげ)　(一)日本北アルプスの白馬岳に對する富山縣側の稱呼。(二)白馬岳の東北嶺の稱。標高約二七〇〇米。(三)謂ゆる白馬連峯の別名。北方より南方にかけ、乘鞍岳(二四三六・七米)・小蓮華山(二七六八・八米)・大連華(第二峯)・雪倉岳(二六一〇・九米)・白馬岳・杓子岳(二八二〇米)・鑓ヶ岳(二九〇三・一米)の諸峯、或はなほ南方にある一、二峯を加へて大蓮華連峯と云ふ。

オーロ　大路(おろ)　鳥取縣岩美郡にありし村。大正七年三戸古村と共に米里村を建つ。

オーワ　大輪島(おわ)　鹿兒島縣屏屬郡の南端佐多岬の南方約一粁の海上にある岩礁。佐多岬燈臺(明治四年設置、燈質明暗白光、明五秒、暗五秒、光達距離二一浬)あり。

オーワキダニ　大湧谷(おわきだに)　大湯谷とも大地獄とも云ふ。箱根火山中央部にあり大硫氣噴孔を有す。箱根火山の名殘。神奈川縣足柄下郡宮城野村・元箱根村に跨る。箱根火山の中央火口丘神山の北半分が大爆發なし、その下の窪地より、裂線に沿ひ今も到る處泥熟に混る硫黃・硫氣・水蒸氣を譟々と噴騰す。これ大湧谷なり。火口の幅一〇〇米餘、長さ約六六〇米に亙り、地肌は黑・褐色の焦石より成り、一樹　草なく、地底鳴動し　佛畫に見る阿鼻叫喚の地獄相を呈す。尙ほ神山爆裂の際、大湧谷の外早雲地獄・小地獄(小湧谷)・湯の花澤・硫黃山の四箇の湯裂谷を生ず。大湧谷には蘆ノ湖湖尻より東北方姥子温泉を經て下降して流し、また强羅より東南早雲山を經て至るべし。

オーワク　大和久(おわく)　福島縣西白河郡矢吹町の大字。江戸時代、奥州街道の一驛にて踏瀨驛(川崎ら)より二十三町、新田驛(矢吹町の中畑新田)へ十一町。

オーワシ　大鷲山(おわし)　日本北アルプス藥師連峯の一にて、富山縣上新川郡大山村の東北方に位し　標高二六二五米。北方はザラ峠(ザラ越、標高二三六三米)、南方は大蓮山(二六一四米)に連る。西方の大スロープは五色ヶ原とよばれ展望廣豁　高山植物を以て知らる。東麓を黑部川長蛇の如く北流し、黑部川中鹿下の峽嶮をなし、北麓より常願寺川登源して西流す。

オーワダ　大和田(おわだ)・大輪田(おわだ)　【大和田】北海道天塩國留萬郡留萬町の大字。留萬本線の大和田驛(明治四十三年設置)あり。

【大和田町】埼玉縣武藏國北足立郡の西南部。志木町の南に隣る。西北は入間郡に境し、南は東京府北多摩郡に界す。全町土地低平にして西部を新河岸川東北流

し、田畑拓く。主産物は米・麥・甘藷・蠶等。社線東武鐵道東上線の志木驛及び所澤町にバス通ず。本町はもと和名抄、新座郡餘戸郷の地なるべく、近世は新座郡野方領に屬す。大字大和田は元祿十五年改定の國圓に大和田村と記す。のち大和田宿と稱せり。天正年間は芝山小兵衛正員の所領たり 寛永二年松平右亮輝貞の所領となる。大字野火止はもと野火止宿と稱し往時は甲州より陸奥への街道なりと。新編武藏風土記によれば野火止宿の名は正保の頃は見えず、その頃の改定の繪圖に野火止塚を載せあれば宿の名はこれより起りたるものといふ。寛永二年松平右京大夫輝貞の領せし地なり。伊勢物語に「武藏野はけふはなやきそ若草の夫もこもれり吾もこもれり」とあるはこの地なりと。大字北野は寛文の頃松平伊豆守信綱の時に開墾、元祿年中松平美濃守吉保この地を賜はり、堅年松平輝貞に賜はりし地。(野火止塚) 平林寺境内にあり、この塚を野火留といへる故因は、伊勢物語に「昔男ありけり、人のむすめをぬすみて武藏野へいてゆく程に、ぬすびとなりければ國の守にからめられにけり、女をば草村の中にかくして置て逃にけり、みちくる人此野をぬすびとあなめりとて火つけんとす、女怖て、武藏野はけふはなやきそ若草の夫もこもれり吾もこもれり。とよみけるを聞き、女をばとりてともにぬで行にけり」とある故事による。

〔平林寺〕 大字野火止にあり。臨濟宗妙心寺派。金鳳山と號す。本尊釋迦如來。永和三年岩槻城主太田道灌の父道眞、武藏國豊西郡(いまの北埼玉)溝江郷金重村に創建に係り、鎌倉建長寺の石室善玖和尚を請じて開山とす。天文三年岩槻城主太田氏實四條・馬込の二村を合せて寺領を改む。爾來天正十九年まで宗安泰翁禪師(北條氏の臣恒岡越後守の弟)寺務を執掌すること五十八年、永祿十年上杉三船の奪の合戰に越後守並に氏實戰殺し、同年九月宗安、北條氏政の感狀を受けて兄の跡を相續し、天正十七年上洛して大德寺に入る。同十八年豊臣氏小田原城攻撃の際兵燹に罹り翌十九年宗安示寂後聯芳軒の乾與享公座元禪師の無住を管理するに當り、偶ゝ德川家康鷹狩の途次休憩し、享公和尚より當寺の由緒を聞き堂宇再建のため朱印五十石を給ふ。翌二十年駿府臨濟寺四世鐵山和尚(妙心寺派)を招じて住持せしむ。のち衰廢せしを、雪堂和尚これが再建に成就せしを以て、和尚を中興開山とす。寛文三年、松平甲斐守輝綱(松平伊豆守信綱の子)父の志を繼ぎ當寺を劣櫻より現地に移し 父信綱の墓及び他の古碑を柔く改築す。斯くて幕政時代には乘與獨禮の格式を有し道俗の尊敬篤し。慶應三年火災に罹り、明治十三年十八世藍渡和尚再建す。境内に表門・裏門・山門・佛殿・本堂・十輪庵・鎮護堂等あり。墓域に松平信綱の墓・増田長盛の墓・明瘤立易禪師の碑あり。寺後の山中に野火留塚・在原塚あり。

【大和田町】 千葉縣下總國千葉郡の西北部。千葉市の北約十二粁。東は印旛郡に境す。此地は畿丘陵を成すも、東部は低地にして田畑拓く。主産物は米・麥・繭にして、また副業的に養鶏行はる。社線京成電氣軌道通じ京成大和田驛を置く また縣道西南津田沼町方面に走りバスの便あり 此地はもと鹽原時代の莊園にして今村内に時平明神あり、明治二十四年町制を布く。大字登田村は神鳳抄に下總國登田神保御厨とある地にして伊勢神封たりし地。大字高津は大和田の西南にして誓志野の東に連れる林叢を占む。延喜兵部省式の下總國、高津馬牧とあるは蓋し此地なり。

【大和田】 愛知縣南設樂郡にありし村。明治三十九年、本村は田口・巴・保永・松平・田代・荒草・高松・菅沼の八村と共に廢せられ作手村を新設す。

【大和田村】 大阪府河内國北河内郡の西南部。守口町の東約三粁。此地は即ち大阪平野の一部に位し土地低平、淀川の小支流西部を南流して田畑拓く。米を主産し蓮根・菜種等を特産す。大阪市に近く交通利便なり。此地は古く和名抄、茨田郡茨田郷の内に屬し中世は島頭庄と稱せらる。また延喜式の式堤神社あり、以てその開發の古きを想ふべし。村は横地・野口・常稱寺・打越・北島の五大字より成り、役場を横地に置く。常稱寺は寺名より轉ぜる地名にて、今眞言宗の常稱寺あり

【大輪田泊・大和田泊】 大輪田はもと大阪府西成郡千船村の大字なりしが、いまは大阪市の西淀川區に入る。平安時代に於いて神崎川河口の船著として賑はひしもの。蓋し淀川の河口にありし難波津が港として不適當となるに至り、之に代りて京都に入る舟は神崎川を遡しもの。その河口の左岸にあるは大輪田にて、島を距てて西岸には大物浦あり。のち堺浦が南に起り尼ヶ崎が西に盛んになるに及び大和田は衰ふ。また附近の海濱を大和田濱と云ひ、歌枕として著名なり。萬葉・六「濱清み浦うるはしみ神代より千船のはつる大和田の濱 田邊福麿」

オーワタリ 大渡

【大渡】 宇治川の木津川と合流せし地點にありし渡津。今京都府久世郡淀町、淀城址の南の邊に當り陸地と化す。承久の亂に官軍の將坊門忠信、一千餘騎の兵を以て東軍の將足利義氏・三浦義村等と戰ひし地。一口・封戸と共に史上に名あり。

【大渡川】 筑紫國の歌枕。いま筑前國の北東部にある洞海を稱するか。此水は加茂田川によりて遠賀川に續き往昔は洞海より遠賀川へ舟行可能なりしなり。古今六帖「つくしなる大渡川おほかたはわれひとりのみわたるうき世か」

オーワチ 邑日野

播磨風土記に見ゆる野。兵庫縣神崎郡山田村より加西郡加茂・下里村に亙る山狹地方の古稱。上古は神前郡多能里に屬す。曰は畑に鍬・せる垣の一種、邑は大の義。播磨風土記・神前郡「所以云邑曰野者阿遲須伎高日古尼命神在於新次社。逗留神宮於此野之時、急保和知祖爲陵、故名邑曰野」

オーワニ 大鶴町

青森縣陸奥國南津輕郡の南西部。弘前市の東南約九粁、石川町の南に隣り、南は秋田縣北秋田郡山瀬村・矢立村と界す。秋田縣との境をなす三ツ森(九四九米)・孫左衛門山(八九一米)・大日影山(八二三米)等の山岳地帶と此山麓をなす丘陵地帶及び平川の流域地帶よりなり山岳及び丘陵地帶を主となす。平川に入る支流島田川・貌貝川・三目内川等は何れも縣境山地に源を發し上流には大森林あり流域に水田あるも其反別廣からず、米(三〇萬圓)・林産(一五萬圓)その他林産物として木炭・木材を焦し、温泉熱の利用によりて「豆もやし」(七萬貫餘)を産し、また石材・鑛山も次第に開發せられつつあり。省線奥羽本線北部平川沿ひに通じ大鶴驛(明治二十八年設置)あり。更に國道羽州街道の沿道なるが故に交通便利なり。また弘前市との間にガソリンカーの便あり。山岳地帶に到る交通は森林鐵道利用せられ、鑛石・木材等の搬出極めて繁盛なり。三目内川・虹見川に沿うて車道あり。慶長年間迄は微々たる窓村なりしも慶安二年十二月、時の藩主信義この地の温泉に來浴あり。その後御御屋を設けられしため次第に發展し、弘化元年七月洪水、大正六年大火、昭和十年八月洪水に見舞はれし事あるも、浴舎の完備と共に東北屈指の温泉場となり大正十二年町制を布く。また阿闍羅山(阿羅千坊等の蹟として有名)はスキー場として著はれ、大鶴温泉は近くに弘前市を控へ遊覽豊富、浴舎の完備と共に近年増々繁昌しつつあり。附近に茶臼山公園・高館城址・劍ヶ鼻・袴腰等の名所あり。町名の起原は聖德太子攝政の頃東日流は皇城の鬼門に當れるを以て、鬼門堅固惡魔降伏國土安穩の祈願として、阿闍羅山上に寺院を建立し大安國寺と稱せり。大安國寺は其後堀名として唱へられ居りしが、國會通ずるより後世大アニに轉訛、津輕爲信公の頃より大鶴と改稱せられしと謂ふ。また一説に津輕爲信公の時大和尚寺を大鶴と改稱せしとも言はる。大鶴地方には碇ヶ澤・三森・阿森・羽黒惡魔祭の各惡鬼蜂起し、阿部比羅夫屋ゝ東征したるも利あらずして引上げたりと、のち田村麻呂將軍東征に上り、其軍勢浴代より攻め來り、遂に津刈に入り雄なく四方の惡魔退散せられたるも、惡魔祭の惡鬼降らず敵十回戰ふも決せず、その後持久戰の計みとりしに田村麻呂夜靈氣あり、夜陰に乘じ二・三人の兵を阿闍羅山頂に置き、壺を多く刈り集め夜に入りて其の壺を所々に取り散らし、それに火を放ち夜番の如くに見せかけたり。惡鬼之を見、敵今夜は山上にての夜宿なふんと心得、大いに寄が警戒を解き安心して寢に就きたり。田村麻呂將軍機を逸さず攻込みたれば、惡鬼大いに驚き狂ひ亂れて敗戰し、目屋の石の堂に落延び捕虜となり猿賀にて斬首せらる、今の首塚の大石は是なりと言ふ。石川・森山・鶴石・八幡館に行はるる火松遊及び津輕一般に行はるる俵武多流は、田村麻呂將軍の惡鬼退散の謀略を賛賞せしものといはる。惡魔館(惡魔祭館)に大光寺五郎・六郎・七郎・八郎の四兄弟あり、この四兄弟は阿闍羅山麓の羽黒丑五郎・弟丑之助と不和にて何時も爭鬪を始めその度毎に丑五郎・丑之助の貯藏米を强奪す。依つて大日堂に三七・二十一日の願がけをなせしところ利益ありて、羽黒兄弟は全身に毛を生じ牛と化し、直ちに四兄弟に復仇せんとして猛襲せしかば、四兄弟これに應戰、今の剱ヶ崎と惡魔館との谷間を堰止め水攻めの計を廻らしたり。然れども丑五郎・丑之助の猛襲に敵せず遂に敗走せり。而して五郎・六郎は戰死、七郎は金尾村に捕へられ、八郎は逃れて大間口より秋田に入り十和田に至り、此處にて又南組の坊に敗れて秋田城下に逃げ八郎潟の主となれりと。阿羅山は聖德太子攝政の頃東日流は皇城の鬼門に當れるを以て、山上に一精舎を設け不動尊及び觀世音の二尊像を安置し、鬼門の堅固國土の安全を祈願せしめ大安國寺と稱し、大同年間坂上田村麻呂東夷征伐のため此地に來り、一日阿闍羅山に參籠し不思議の靈氣を得て勇氣百倍すと。また弘仁年間弘法大師阿闍羅山に詣で、その靈場に感歎す。建久年間唐僧則智上人東國巡錫の折ここに逗留し、阿闍羅山に詣で尊像を古墨久黄寺神岡に移し神岡山高伯寺と稱すと傳ふ。

〔宿河原石〕 字宿河原にて採石される石英粗面岩。淡綠色に白色の斑點あり、主に石垣に用ふ。(大鶴温泉) 大鶴驛より五〇〇米自動車の便あり。泉質は鹽類泉、温度四九度内外。リウマチス・婦人病等の療養及び行樂に適す。古來、津輕の勝地並に歌樂郷として名高く前は平川に臨み川を隔てて藏館の温泉街と相對し、後に阿闍羅山(七〇九米)聳立し、東北に楠々峯、東南に甚吉森(八〇〇米)の峰を繞らし岩木山を西に望む山水の風色に富むまた附近茶臼山公園は展望濶く、阿闍羅山の山頂は平坦にしてその麓に孤森スキー場ありて冬季は殊に殷盛を極む。(大鶴スキー場) 阿闍羅山一帶のスキー場の總稱。一二月下旬より三月中旬まで一・五米—二米の積雪あり雪質もよく東北有數のスキー場として名高く、飛躍臺の設備もあり年々競技會が催さる。(大圓寺) 俗に大日堂とも稱し驛の東約六〇〇米にあり。寺傳によれば、もと高伯寺と稱し字神岡にありしが、慶安三年現地に移し大圓寺と改稱す。本尊は阿彌陀如來の坐像

一軀は木造黒漆金箔押にて、高さ約二米、鎌倉時代の作といはれ今國寶たり。また當寺の門前には古來より有名なる萩桂の老木あり。

オアカン　雄阿寒岳　千島火山脈阿寒火山郡に屬する休火山。北海道釧路國支廳阿寒郡の北部、舌辛村に聳立す。標高一三七一米。阿寒岳の中央火口丘にして、舊カルデラに於ける溪水を堰止して西麓に阿寒湖、東北麓に上ノ湖・下ノ湖を湛へ、南はオタルシベ川の谷となる南西方阿寒湖を隔てて雌阿寒岳（一五〇三米）に對峙す。山容純頂圓錐形にして優雅なり。山頂に著しく開析せられたる噴火口跡を見る。阿寒カルデラの環壁は輝石安山岩及びその集塊熔岩より構成せらる。一大カルデラの崩壊形成以後、寶輝石安山岩熔岩の噴出により雌阿寒岳は形成されしもの。南麓に泡熔岩分布す。山麓下方部は根松・眼寒松の密林にして、上方部は岳樺帶・偃松帶をなし、山頂部には「いはうめ」の御花畑あり。山頂より は阿寒湖・上ノ湖・下ノ湖を俯瞰し、東南方に雌阿寒岳の怪奇なる山容に接し、遠く東北方には摩周岳・屈斜路湖・斜里岳を望み、又南方には釧路平野・十勝平野拓け、その彼方に太平洋の波光を眺む。南麓なる登山口まで阿寒湖畔温泉より八八粁、雌阿寒温泉より約四粁。之より頂上まで六・八粁なり。登路はやや急峻。いま阿寒國立公園の一部をなす。

オアマ　小天村　熊本縣肥後國玉名郡の東南隅。熊本市の西北約九粁。東南部は山岳を以て飽託郡に隣接し、西部は唐人川の河口に沿ふ。西部は一帶に平地にして田畑拓け、西部は山地にして其丘陵面に蜜柑を拓く。里道熊本市及び北方高瀬町方面に通ずるも交通未だ便ならず。古來蜜柑の産地なるを以て知られ、小天蜜柑の稱あり。その起原は古く、傳ふる所に據れば景行天皇の御宇、天皇筑紫國を巡行し給ひし時、小天港に御船を泊めさせ給ひ、この折田道隈守新羅より持かへりし非時香菓を土民に賜ひて植ゑさせ給ひしがその栽培の嚆矢とす。のち逐次栽培の歩は進められたるも猶ほ僅に賞味に堪へざるに過ぎざりしが、加藤清正の入國するや切に之が栽培を奬勵するに及び漸次發達し遂に今の盛況を見るに至りしものといふ。今は熊野岳の有明海に面するところの中腹以下は全部蜜柑畑にして初冬の候親光の実多し。明治十年西南の役に官軍の軍艦清輝筑當地の海濱に來り、吉次峠の戰闘を撃けたり。また海濱にある温泉を小天温泉といふ。之より村名を一に湯之浦とも稱せし事あり。此温泉は御ち夏目漱石の「草枕」中の温泉場にて峠ノ茶屋は小天峠の途中にあり。泉質は鹼類泉。畑波散十粁の西方には島原半島に聳立する雲仙岳を仰ぎ、南は字土半島の彼方に天草の諸島を背景の如く望み頗る景勝の地を占む。

オイ　老（老坂）　三河國の歌枕。その所在今詳かならず。東國紀行「立かへり又もあはまくほしこえやうすうすあかぬおいの坂かな　宗牧」

【老坂】　オイノサカともオイサカとも讀む。京都府山城國乙訓郡大枝村の大枝山に同じ。→大枝山

【老岳】　九州山脈日高山脈の一峯。熊本縣天草郡天草上島の北方、上津浦・赤崎・大浦・教良木河内の四箇村に跨る。標高五八六米にして白堊層より成る。

オイガシマ　笈ヶ島（新潟縣西蒲原郡）　→島上村

オイカマナヘ　牛花苗沼　北海道十勝國十勝郡にある沼。大津村の南部海岸にあり。東西約二・五粁、南北約二粁。海とは僅に狹き砂洲を以て隔つ。附近には潮湯沼・ホロカヤントー沼等あり て低濕地かなし、東北岸に牛花苗川入る。また東北部海岸に接する所に牛花苗漁場あり。

オイカミ　老上

【老上村】　淀賀縣近江國栗太郡の中部。東北は草津町、西南は瀬田町に隣り、西は琵琶湖を隔てて大津市に對す。全村土地低平にして耕地拓く。國道東海道草津町より大津市方面に通じ、草津町にバスの便あり。また大津市へは舟にて連絡す。米を主産し蚕・茶等これに次ぐ。古くは和名抄、瀬田郷の内なり。大字矢橋の湖岸を矢橋の浦といふ。湖上六粁を隔てて大津市と相對す。往時は兩地間船の往來頻繁にて、矢橋の舞帆は近江八景の一つに數へられしが、鐵道が敷設され山田港（同郡山田村）より汽船の定期航路開けしため、今は昔時の面影を失ふ。大字野路は東國道路の衝に當り、鎌倉時代には宿驛として賑はひ野路驛と呼ぶ。文治元年三月、壇浦の戰一平宗盛、その子清宗の父子捕へられ、義經に護られて鎌倉に送還せしむ。頼朝命じて再び京都に送還せしむ。元暦二年六月（文治元年を改む）その途中義經、篠原驛にて宗盛を野路驛にて清宗を斬らしむ（東鑑）。篠原驛は野洲郡篠原村にて、舊鎌倉街道の宿驛なり。されど平家物語に「野路の篠原打過ぎて云々」また東鑑紀行に「野路といふ所に至り篠原といふ見れば西東は遙に長き堤あり、北には里人すみかをしめ、南には池の面遠く見わたさる」等とあるより、野路の内にも篠原の地ありしものとし、東鑑に篠原驛と云ふも野路の篠原を指せるものともいふ。いま野路に篠原といふ所なし。篠原村に宗盛の墓と傳ふるものあり。尚考ふべし。承久の亂、東軍の北條泰時・時房、野路驛に休息せる際、幸鳥行時來り軍に參ぜし事東鑑に見ゆ。また野路の東端、十禪寺川に沿うて一小滝あり、和歌に多く詠ぜられし六玉川の一つ野路の玉川の名殘りなりと。拾玉集「月の入るなかからの山を目にかけて今宵はすきん野路の篠原」千載集「明日もこん野路の玉川萩こえて色なる波に月やとりけり　俊頼」

（鞭崎神社）　大字矢橋に鎮座。郷社。祭神、息長足姫命・誉田別尊・武内宿禰・中筒男命外四柱。當社は白鳳四年二月十一日、大中臣朝臣清麿、勅を奉じて勧請し奉りし所にして、社名の鞭崎（崎）に關しては建久元年源頼朝上洛の途、矢橋の浦より鞭を擧げて其名を問ひしに由來すとの傳説を有す。建久三年頼朝の命により社殿を再建せしも建暦三年火災に遭ひ戰國の頃は一時頽廢に委せられたりと雖も、慶長六年戸田氏の封を請所に受くるや、社領を寄せて社殿を營む。幣後神殿益々顯はれ文政七年・元治元年には、勅使代拝の事あり。建造物中、中表門（高麗門、屋根本瓦葺）は桃山時代の遺構に係り、國寶に指定さる。例祭、五月五日。

（新宮神社）　大字野路に鎮座。村社。祭神、事解男命・速玉男命。當社所藏の古文書に據るに、正一位新宮大明神社は亦一に野路神社とも云ひ、寶亀元年八月野路宿鎮春原當社の亮となり、社殿を創建して熊野權現（熊野神を勧請し奉りしに創む。大永三年黒川駿河守勝原宗次社殿を再建す現社殿これなり。幣後の沿革詳かならざるも大正五年一月神饌幣帛料供進社に指定さる。建造物中、本殿は一間社流造、屋根桧皮葺にて大永三年の再建そのまま傳へ、國寶建造物に指定さる。例祭五月一日。

（石津寺）　大字矢橋にあり。新義眞言宗智山派。湖輝山と號し最澄の草創に係ると傳ふ。徳川氏の時に至り當寺本尊を移して東叡山寛永寺の本尊とすと云ふ。本堂は國寶建造物なり。桁行五間梁間四間、四注造、本瓦葺の建築。延文四年足利義詮の建立にかかり、簡素にして木割やや大きく手法雄健、よく室町初期の建築を發揮せるものと云ふべし。

（稱名寺）　大字矢橋にあり。淨土宗。土豪鞍貫和泉深く法念上人に歸依し稱名庵を草創す、これ當寺の濫觴たり。末孫信農の時、足利氏の公許によりて寺號を公稱、幣來足利歴代の勅願寺・國主佐々木氏の崇敬篤し。

【老上】　近江國（淀賀縣）の古地名。和名抄甲賀郡に老上郷あり、刊本は於保加美と訓む、高山寺本に於支加美と註す。然し遠江國老馬郷を於以萬と訓む例に從ひ、於以加美と訓むべきものか、其地今詳かでなく、甲賀郡土山町の邊かとも或は信樂町に當るとも云ふが何れも確證なし。

オイカミ　老神（群馬縣利根郡）　→東村

オイカワ　及川村　神奈川縣相模國愛甲郡の東部。厚木町の西北約三粁。中津川の右岸に沿ふ。全村土地低平にして耕地拓く。繭・蚕・甘藷等を主産す。厚木町にバス通じ交通利便なり。此地は和名抄、愛甲郡印山郷の内なるべく、近世は毛利庄に屬す。いま三田村・相澤村・下川入村・妻田村・林村の五村と共に組合町村かなし役場を三田村に置く。北條氏制禁の頃は花之木業の知行所にて、のち幕領及び大久保藤之丞數文・高井左京式房・久留十左衛門等の知行所たりき。

（八幡神社）　村社。神體は縁して開筆せず。天正十九年社領一石の朱印を附せらる。寶永二年の棟札によれば弘法大師の建立。建久中本多七郎道本再興し、弘治三年中尾丹後守業、寶永二年領主牧野氏再建せりとあり。例祭、八月十五日。

オイカワ　老川村　千葉縣上總國夷隅郡の西部。大多喜町の西南約八粁。西は市原・君津二郡に堺し、南は安房國安房郡と界す。地は清澄山北部の山地を占め、老川南部に發源し中央を峡谷を成して北流す。山地は森林良く繁り、筒森官林の名世に知らる。農産物に米・蚕等あり。社線小湊鐵道終端駅上總中野駅へ約四粁、里道通ず。此地は和名抄海上郡（今の市原郡）田田郷の内にて、のち市原郡より本郡に入りたるもの、維新前は大岡氏の領地たり。大字小澤又・栗又・筒森・面白は德川時代は筒森郷に屬す。大字小田代字殿屋敷に田代城址あり。また平野山（矢射山）は千葉氏の初め東胤頼城を築きて之に居り、天正年中藤原左京佐宗高なる者高遠城主と稱して之に居り里見氏の攻むる所となると。大字筒森に隈ノ山あり。往古弘文天皇の皇后十市皇女麗を避け望陀郡（今は君津郡に入る）に遁れ、幾重の山を過えて此地に行營し望親の御屋に御宇遷御の地なりと傳ふ。

オイカワ　笈川村　福島縣岩代國河沼郡の東部。耶麻郡鹽川町の南に隣り、東は堂島村に、西は勝常村に、南は北會津郡高野村と界す。會津盆地のほぼ中央に位し土地平坦、北境を西に流るる日橋川及び支流この間を潤し水田よく拓け、米・蚕を主産す。省線磐越西線東北部を掠め、笈川驛（昭和九年設置）を置き。若松市より喜多方町に至る縣道之と並行に通じ、その他街道東西、南北に走りバス通じ交通便なり。此地古くは和名抄會津郷に當るか。大字笈川に永縁・天正の頃、蒲名氏の臣栗村下總某の居せりといふ笈川館あり、今なほ桑畑殘る。大字濱崎にも濱崎館跡あり。（春日神社）大字湯に鎮座。郷社。祭神、天見屋根命・比賣大神・武甕槌命・經津主命。創立年代は詳かならざるも、蓋し笈川館の守護神として領主の崇敬を受けしものの如し。幣來郷民の崇敬亦篤し。

オイクマ　老熊山　西條太山脈の一峯。

泊居支廳の北端、北緯五〇度日ソ國境の西方に雙え、第十四界標設けらる。標高六六七米。

オイケ 小池 おいけ 静岡縣小笠郡掛川町の西に近くありし町。東海道に沿ふ。東海道名所記・三「縣川より袋井へ二里十六町。おいけ町。鯖田。狭井田。原川」

オイケ 御池

【御池岳】滋賀縣愛知郡東小椋村と三重縣員弱郡白瀬村に跨り、標高一二三九米。西北稜は鈴々岳(一一〇三米)、北稜は鞍掛峠(九一七米)を經て三國岳(八一五米)に連り東南稜は鈴原岳(一一六五米)に連る。西斜面は愛知川の水源をなす。全山秩父古生層より成り、荒漠たる高原狀を呈し、高低二段をなす。上段を奥の平と稱し、丈餘の灌木熊笹密生し、下段も叢に包まる。山中に三十餘個所の小池を隱す。西寄りに最大の池は昔憐西親王が山上にて天に祈り給ひしに一夜にして生じたりとの傳說あり。現今にても神彩觀ぜられ、里人尊慄の際雨乞ひに登拜す。

【御池通】京都の町名。現今中京區、佛小路通と姉小路通との間にあり、東西に通ずる道、古く御池筋・御池の町ともいふ好色一代女・五「それより是非もなく御池通に宇人して、有程の身のかはを日算用すまして、よき事願へど京に多きものは寺と女にておもはしき奉公もあらず」

【御池筋】御池通に同じ。西鶴信つれづれ・一「朝夜の比ほひ上下入みだれて歸り足衛して御池筋迄歸りてみれば、水右衛門見えず」

【御池の町】御池通に同じ。長町女腹切・上「兩替町の銀作り、御池の町の緣頭、小川通りのせかいらぎ、今日明日に持たしてやれ」

オイゴスゲ 生子菅村 おいこ 茨城縣下總國猿島郡の中部。境町の東約五粁、飯沼川の右岸に沿ふ。全村土地低平にして田畑拓く。南方岩井町及び境町に里道通じバスの便あり。主生業は農にして米・麥を主産し、煙草・西瓜・白菜等を特産す。此地は和名抄、猿島郡塔陸鄕の内かり名生子菅は大字の生子・生子新田・菅谷の各一字を取りて稱す。江戸時代大字生子・生子新田は代官領、大字菅谷は關宿領に屬したり。

オイシ 生石 おい

【生石崎】兵庫縣津名郡由良町の南端にある崎。淡路島の東南角、東方友ヶ島と相對し、其間に紀淡海峽を挾む。

【生石ヶ峰】オイシヤとも云ふ。紀伊長峯山脈の一峯。和歌山縣那賀郡小川村と有田郡五西月村に跨り、標高八七〇米。山容雄偉。山頂に笠石と稱する巨巖あり。其の他山中に奇岩多く、南水は懸りて瀑布となし、壯觀を極む。北東方は札立峰(最高點五八六米)に連り、南麓を有田川西流す。

【生石村】岡山縣備前國吉備郡の東南部。高松町の西、足守町の南に隣り、南は都窪郡加茂村と界す。岡山平野の一部に當り全村概れ平地にて耕地よく拓け、足守町より來る足守川本村の西北より東南に流れ平地を潤し水田卓越す。主産物は米・麥・繭にて其外米の裏作として菅草の栽培行はる。又柿の特産あり。社線中國鐵道村の中部をほぼ東西に通じ大字福崎に足守驛(明治三十七年設置)を置き、山陽道より分れ總社町に至る驛道、之と並行に過ぎ岡山市にバスの便あり。此地は高松町と共に和名抄、賀夜郡生石鄕の地にて和名抄は訓を闕く。諸本には生石は生足に作るも今高山寺本生石とあり之に從ふ。鄕名は本村大字門寺に生石と稱する奇石あり之より起りしものの知く、村名も亦之に依りしならん。中世は莊となる。後宇多院御領目錄に備中生石莊、今出川入道相國知行、井山寶福寺文書に寺領賀夜郡溫江生石鄕等鄕名見え、浮田分眼帳に生石越左衛門とあるは鄕名を唱へしものか。また羽柴秀吉の清水宗治の居りし高松城(高松町地内)攻落に際し、本村にて足守川に堰を設け堤を築き高松城を水攻めにせし遺址今尙大字福崎にあり指定史蹟たり。(高松城址附水攻築堤址)指定史蹟。高松城は高松町大字高松にあり、清水宗治の居城址にして、もと本丸・二の丸・三の丸竝びに侍屋敷を備へ、大沼をもつて自然の城濠とせし平城なり毛利氏苦心の經營にかかり、當時最も要害なるものと稱せられしも、天正十年四月羽柴秀吉備中に攻入り、附近にありし毛利氏の屬城四箇所を拔きて本城に迫る。秀吉、黑田知水の獻策に基きてこの城を水攻にせんとし五月八日築堤の工を起し、十二日間にて其工成り、西方に流るる足守川の流水をその内部に注ぎしが、折柄の霖雨に河水たちまち氾濫し、六月二日全城を浸すに至り、宗治は遂に意を決し、兄、月清と共に六月四日自盡し、城陷りし驛讀といふ。遺址は一段低く今は田圃となりうちに本丸址あり、水田中やや小高く松林をなし、石垣殘存し、天守閣址と傳ふる場所あり、中央にいま宗治の首塚と稱する五輪塔あり。側に明治九年清水清太郎の建立にて毛利元德の書に成る記念碑あり、二の丸址は本丸址の南に續き今は水田と化し、三の丸址はよく舊觀を存す。水攻築堤址、もと城の南に於て東西約二四〇〇米に亘り築きしもの今東端の高松町字蛙ヶ鼻及び西端の本村大字福崎の兩箇所にその遺址あり。東端の蛙ヶ鼻の築堤の殘部は長さ二二米、基底に於て幅一三米、高さ四米を有し、其西端福崎に於ては副堤の址を存し、長さ三〇米、幅五米、高さ二米あり。本堤防は既にその大半鐵道線路の下に沒し、副堤の北部は更に鐵道を越え北方に痕跡を留め、その側方より杭の竝立せるを見る。〔多聞院〕大字小山にあり。眞言宗御室派にして本尊毘沙門天。金森山・神宮寺と號す。創建年代不詳。往古鼻の坊と稱し妻帶地たり、中古荒廢す。中興開山は奥海和尙、延寶八年仁和寺末に列す。

オイス 大淀町 おいす 三重縣伊勢國多氣郡の東隅。宇治山田市の北約八粁、東は伊勢灘に面し、東南は度會郡に隣る。地概れ平坦にて田畑拓く。生業は半農半漁なり。農産に米・麥・繭(生産額郡内第一)等あり、水産には生魚の他に鰹節・ヒウキ・煮干等あり、西北方松阪市へバスの便あり。古くは和名抄、多氣郡麻續鄕の地に屬せるもの。もとはオーヨドと云ひしが今はオイスと訓む。大正十三年町制施行。海濱を大淀浦と云ひ、二見浦・志摩浦の諸島嶼・尾張・三河の海岬を望み風光其だ佳し。古來歌枕として著はれし處なり。一に小野濱ともいへり。小野濱は延喜式尾野濱に同じ、麻續鄕の水門の義とす。されど神都志には小野濱また伊勢物語に見ゆる小野古江と云ふは所在詳ならず、古來諸說あれども從ひ難しと見ゆ。蓋し屋ヽ天災地妖にあひ變革あればなり。倭姫世紀には倭姫命佐々夫江宮より御船にて出でさせ、此海は淀みに淀むとて、大與度社を鎭定め給ふと見ゆ。因に佐々夫江は大淀町の西、下御稔柯大字根倉の東なる細流を指せるもの。延喜式神名帳に竹太與杼神社とあるは卽ちこれなり。いま村に大淀神社あり、式内の社にて、此社は古の祝場なるべけれども、今は海汀を去る數町に及ぶ。また小丘上に大淀城址あり、國司北畠具敎の隱居所として築城したるものなり、永祿十二年、九鬼嘉隆織田氏の命を承け、水軍を率ゐ來りて之を攻む。のち廢墟と爲り、天保年中激派のため破壞せらるとは雖も今尙其址を存す。伊勢物語に「昔男、狩の使より歸りきけるに、大淀のわたりに宿りて、いつきの宮のわらべに言ひかけ、るゝみるめかる潟やいづこぞ棹さしてわれに敎へよあまの釣舟云々」とある如く所々に大淀の名見え、勢語所載の業平が事蹟として、今に樹齡約二百五十年を經し業平松・行平松の二老松現存す。參宮名所圖會によれば、延寶年中、風に倒されければ、時の山田奉行古郡重年植繼を爲したりと。蓋し現存のものは延寶年中植繼げるものとす。新古今集「大淀の松はつらくもあらなくにうらみてのみも返る波かな」拾遺集「大淀の御蹟いく世になりぬらん神さびわたる磯のひめ松 金葉集「伊せの海のなのの古江にくちはてみやこの方へ歸とそ思ふ 師賴」

オイズモ 小出雲 おいず →新井町

オイズル 笈ケ岳 おいづる 笈摺岳とも云ふ。白山火山脈に屬す。石川縣石川郡吉野谷村と、富山縣東礪波郡上平村と、岐阜縣大野郡白川村との境界に聳ゆ。標高一八四一米にして、石英粗面岩より成る。北稜には大笠山(一八二二米)・奈良岳(一六四四米)、南西稜には冬瓜山(一六二八米)、東南稜には瓢簞山(一六三七米)・三方岩岳(一七一六米)・野谷莊司山(一七九七米)、西方には大嶽(一五四九米)聳立す。東斜面よりは庄川の一上支境川發源し、西北方より手取川の枝川吉野谷の渓水、西南方より同じく手取川の支流尾添川の源流あり。

オイセ 笈瀬 おい 愛知縣愛知郡にありし村。明治三十七年愛知町と改稱し、大正八年名古屋市に編入す。

オイソ 老蘇村 おいそ 滋賀縣近江國蒲生郡の北部。八幡町の東約六粁、東北は愛知郡に境す。西北部に觀音寺山、東南部に箕作山聳ゆるも、中央に平地拓けて田畑拓く。八幡町・神崎郡八日市町・愛知郡愛知川町へ共にバス通ず。米を多産し繭・麥の産これに次ぐ。此地は和名抄、蒲生郡綾織鄕の内なり。式内奥石神社あり、その杜を老蘇杜といひ、古くより和歌の名所なり。中世は佐々木莊の中心地にて、六角佐々木氏十八代四百年の居邑とす。其居城觀音寺城の址は推古天皇の朝聖德太子の建立と傳ふる觀音寺の上方にあり寺城は卽ち城址なり。佐々木氏繁榮の時はその城下町として大いに賑ひしもの。老蘇は迫初なり、天智天皇の七年新羅國沙門道行、熱田社の劍を盜出して近江國蒲生郡まで逃ぐ、之を取返さんとて追行き大磯の森より追初めければ卽ち追初森とはいへりと(源平盛衰記)。されど今遽に信じ難し、或は老蘇は大磯の轉訛にて此地潮邊に近ければ往昔は潮岸にて大磯の名ありしものか。(奥石神社)大字東老蘇に鎭座。郷社。祭神天兒屋根命。奥石を一にオキソとも呼ぶ。創立年代不詳。早く桓德天皇神護景雲元年神村一戸を充てられ、延喜の制小社に列したる古社にしてもと鎌宮とも稱す。享保四年後水尾天皇皇女林丘丘寺宮御所願あつて額字を下附し、菊花紋御章を蒸許さる。福井藩主松平氏赤黑代帶事す。現在の社殿は天正九年美濃國濃尻の人、柴田家久願主になりて建立すといふ。本殿は三間社流造、檜皮葺にて國寶に指定せらる。又鰐永三十年の製に成る神輿あり。尙境内に歌枕として知らるる老蘇森あり。例祭日、四月六日。近江國輿地志略「鎌大明神社東老蘇村に有。緣起と號し一卷有。其事甚卑俚孟浪なり。其大略を記すに曰。近江國は孝靈天皇の御字地折れて潮となりし頃、大蛭といふ者あり。此地に松杉等の良木を植しに、忽に森となる。老蘇森是なり。日本武尊東夷を征す。海上惡風に偶ひて危し。橋姫尊の御命にかはらんと海中へ飛入たまふ。魂は飛來て、江州老蘇の森にとどまり、女人の平產を護給ふ。龍神橋姫の海中に入給ひしに感じ、金色の鶏を頭に戴き、尊に奉る。尊吉備の武產をして、老蘇の森にうつみ、金鶏山と名付て、今にとりのこしあり。尊東夷征伐の後、自持給ふ處の鎌を相殿として鎌大明神と祝り奉る。又大蛭は百七十三歲まで海をたもち、此處に住始たる人なればとて、森より三十餘町坤の方岩倉山

の謎に、小祠を建祭ると云云」〔老蘇杜・老曾森〕恵石神社境内にあり。古くより欽枕として知らる。紅葉・新緑の名所なるも、近時これに隣接して公園を設け、多くの櫻樹を植栽せるより花の名所ともなる。福川百首「涼しさに老その森の下なれと夏てふことそわすられにけり」夫木・森「みやまよりいてやきつる杜鵑おいそのもりにまつきなくらん　道因法師」日本永代蔵・二「草津の人宿にて年を取、鉦が餅をむかしの鏡山に見なし、頓て心の花も咲出る櫻山色も香も有若さかり、かせぐに追ひつかぬ春はきまりの森の注連飾もおのづから春めきて、秋見る月もたのもしく」〔御普寺城〕大字清水鼻の鐵山（衣笠山にあり。鐵山は一に觀音寺山或は佐々木山ともいふ。城は六角佐々木氏十八代四百年の居館なり。觀音寺の寺域は即ち觀音寺城の城地とす。いま城址は寺の上方にあり、處々に石垣を存す。元弘三年五月、六波羅、官軍に破られ、北條伸時・時益、光厳天皇及び後伏見・花園兩上皇を奉じて東走し、觀音寺を以て行在所とせられしことあり。建武三年正月、義良親王を奉じて奥州に下り居りし北畠顯家は京畿の危急を聞き東國の兵を率ゐて西上し近江の愛知川に著きし時、佐々木氏頼これを防がんとして觀音寺山に觀音寺の堂宇を城砦に代へ顯家の先鋒大館幸氏と激戰し遂に殆んど全滅する迄に大敗し、觀音寺の城砦陷る。既にして復歸して南軍と戰ふ。高頼の時、長享元年九月、將軍義尚之を討ちて奔らし、後復城す。延德三年八月將軍義稙また六角高頼を此地に攻む　高頼走りて義稙兵を諾へす。之よりのち應仁二年佐々木氏更に此處に築き天文・弘治の頃我國に鐵砲傳來せしより築城法も亦改まれるにより、當城もそれにより取られたるものの如し。義賢に至り、永祿十一年九月、織田信長、足利義昭を奉じて之を攻めしかば、義賢奔りて蒲江に至り、遂に蟄城に歸す。なほ本城と中山道を距てて、神崎郡旭村に佐々木氏の持城たりし箕作山城址あり。〔觀音寺〕大字清水鼻の觀音寺山にあり。一に觀音正寺と云ひ、天台宗の名刹とす。近世當國十二大寺の一にして、西國三十三所の第三十二番の札所。推古天皇の十三年に聖德太子の創立し給ふところと傳へ、本尊木造千手觀音立像一軀は國寶にして室町初期の作なり。元弘三年五月、六波羅、官軍に破られ北條伸時・時益、光厳天皇及び後伏見・花園兩上皇を奉じて東走し、當寺を以て行在所に充て給ふ。往時は堂塔坊舍巍然として甍を列べたりと。特に領主たる佐々木氏の崇ましし頃は僧坊七十餘院に達せしが天正年中織田信長佐々木氏を亡ぼすや、その兵火に罹りて堂宇什寶は烏有に歸す。その後慶長二年再興せしが、僅に舊觀の一部を殘し得るに過ぎず。御寺城は觀音寺城の城地にて城址は寺の上方に遺れり。御詠歌「あなたふとみちびきたまへ觀音寺後き國よりはこふ歩みを」〔慈恩寺〕大字清水鼻にあり。黄檗宗。瑞雲山と號す。正平年間領主佐々木氏頼、其母大江氏道稱の爲め創建す。爾來佐々木氏歴代の菩提寺たりしが、のち敏度の兵火に罹りて荒廢せしが、寛文年間、寂門律公其夢託を蒙りて現寺地に一宇を建て本尊を移して慈恩寺を再興す。本尊木造十一面觀音立像一軀は藤原期の特徴を示し現に國寶たり。

オイタ　老田村　富山縣越中國射水郡の東部。富山市の西約六粁。東より南にかけて婦負郡に境し、西は小杉町に隣る。全村土地低平にして一小流西部を南北に流れ耕地拓く。北陸道村内を東西に走りて富山市・小杉町にバスの便あり。主産物は米・綿。此地域は和名抄、婦負郡大桑郷の内か。中世倉垣庄に屬す。大字願海寺に願海寺城址あり。天文年間、上杉謙信の將寺崎民部の居城たり。また大字願海寺は明治十一年十月一日明治天皇北陸東海御巡幸の砌、御小休所となりたる地にして、舊規模よく保存せられいま願海寺御小休所として指定史蹟たり。

オイタマ　老玉・置民　→置賜（郡）

オイタマ　置賜

【置賜（縣）】明治の初め羽前國の南部に置きし縣。明治四年十一月米澤藩の縣となりし米澤縣を廢し更に置賜縣を米澤に置き以て置賜郡を管せしが、明治九年八月、これを廢して山形縣に合す。

【置賜（郡）】羽前國の古郡名。書紀持統三年の條に陸奥國優嗜蝨郡とあり、優嗜蝨は置賜にて本郡を指せるものなるべし。古くは陸奥國に屬せしものなり。元明天皇の和銅五年九月陸奥國を割きて始めて出羽國を置く。尋いで同年十月陸奥の置賜・最上の二郡を出羽國に屬せしむ。されば和名抄には出羽國の條に置賜郡あり、於伊太美と訓じ置賜・廣瀬・屋代・赤井・宮城・長井・餘戸の七郷を置く。中世は置民・老玉にも作り、また長井郡の私稱あり。古くはオイタミ・オイタムと訓みしものの如く、江戸時代にはオイタマと訓み、今は文字に從ひ專らオイタマと訓む。明治元年出羽を分ち羽前・羽後の二國となすに及び、本郡は羽前國に入る。同十三年東置賜・西置賜・南置賜の三郡に分ち、同二十二年市置賜郡より米澤市を分立せしめ、以て今日に至る。尚置賜の名義に就いては詳ならざるも、物部稱呼に出羽の借、賜償を於比太美と云ふとあり、記して後考を俟つ。

【置賜　出羽國（羽前、山形縣）の古地名。和名抄、置賜郡に郷名見ゆ。置賜郡の郡家のありし處なるべし、其地今詳ならず。いま東置賜郡沖郷村に郡山の大字あり、蓋し郡山は郡家に關聯ある地名なれば、この邊に當るものか。また高畠町にも小郡山の大字あれば此地なりともいふ。尚考ふべし。

【置賜】倉橋郡羽本線の一驛（大正六年設置）山形縣東置賜郡上郷村にあり。

オイタミ　置賜　→置賜（郡）

オイタラ　太平川　→太平川（秋田縣）

オイツ　老津・於伊津

【老津村】愛知縣三河國渥美郡の中部。渥美半島の北岸、豊橋市の西南約八粁。西部に小低地ある外概ね低山性丘陵地を成すも斬地拓く。生業は半農半漁にして米・藺・麥等が主産物にて水産物また尠からず。豊橋市より來る社線渥美電鐵に老津驛（大正十三年設置）を置き、田原街道殆んどこれに沿ひ交通便なり。本村は和名抄、渥美郡磯部郷の内にして、もと大津と稱し東鑑に大津御厨とあり、神凰抄に「大津神戸、二宮、前祭主知行、七條院御所總所」とあるは此地なるべし。又永祿年中、戸田三郎右衛門忠次が家康より大津七百貫文の田を給はりしこと史書に見ゆ。また此地は欽枕老津島・童部浦に當ると云も老津島は近江國と說くも安當とす。（大平寺）臨濟宗妙心寺派。長松山と號す。寛應年中の草創。中興開山は無覺善群和尚。東山屈指の名刹たり。今末寺十二箇寺を統ぶ。

【老津島】東海道岡崎（今の岡崎市）と知立（今の愛知縣碧海郡知立町）の間の南方の海にありしといふ島。蓋し今の渥美灣内の一島ならんも詳かならず。一日玉鉾・三「今村の茅屋西回を過て左の方の浦邊に老津島童子の浦有」

【老津島・於伊津島】近江國の欽枕。琵琶湖中の小島にて、今の滋賀縣栗太郡常盤村大字志那に屬せるものと云ふも詳ならず。名寄「おいつしましまもる神やいさむらんなみもさはらぬ童部の浦　紫式部」

オイツカ　御五神島　愛媛縣北宇和郡宇和海上にある島。日振島の東南約六粁、日振島村に屬す。山嶺は南に偏して東西に達亙しその針面北に緩やかに降り北部海濱に聚落あり、周圍凡そ四粁。一に五上島ともいふ。往昔神功皇后征韓の御歸路暴風に遇ひ本島に漂著せられ給ひしに、偶ゝ五個の猟火現れ御給を導き奉りしにより島内に五神を鎮め島名これに因むといふ。

オイデ　大出　長野縣北安曇郡平村にある部落名。烏帽子岳・親父岳・布引岳等の登山根據地の一。

オイデ　牛出村　宮城縣陸前國名取郡の中部。仙臺市長町の西南に接し、西に秋保村と界す。名取川北部を東流し川沿ひに僅に低地ありて米・麥を産し木材・薪炭を出し蠶業又旺んなり。仙臺市長町よりは社線秋保電氣軌道通じ、太白山・茂庭・北赤石の各停留所あり。此の地は和名抄、名取郡磐城郷の地なるべし。村名の起原は大字茂庭の生出森（太白森）に因むといふ。名取川の左岸大字茂庭は茂庭氏の發地にして、茂庭氏は源頼朝・藤原泰衡を攻めしとき功により地を名取郡・那摩郡に得たる河村秀清の子孫にして茂庭氏と稱し此地に居す。尚本村は明治四十三年、日本三禮蕗村の一として表彰せらる。太白山は秋保電氣軌道太白山停留場の北方約一粁にあり。山腹には生出森八幡神社あり。これより山頂まで約半粁鐵鎖によりて攀ぢ登ることを得。山頂には貴船神社あり。山は海拔八二一米、山容秀麗眺望美なり親界金華山に及ぶ。

〔大梅寺〕茂庭（綱木）にあり。臨濟宗妙心寺派。霊亀山と號す。慶安四年松島瑞巌寺の中興雲居國師の開山に係る。即ち國師老後、綱木山白鹿堂の舊址に隱退し、元祿中藩主青山の代にこれを瑞雲寺亀山詳岩大梅寺と稱す。境内に兩郡橋・甘泉苑等あり。

オイノサカ　老坂　大枝山の別稱。オイサカともいふ。西鶴織留・二「ひだりは愛宕右は老の在此山間の眺め松島みちかふして見るぞかし」→大枝山

オイハマ　生濱町　千葉縣下總國千葉郡の南部。千葉市の南約四粁、西は東京灣に面す。東部は低山性丘陵地を成して林野多きも、西は一帯に開けて耕地多し。省線房總西線千葉市方面より來りて村の西部をほぼ南北に走り濱野驛（明治四十五年設置）を置く。また千葉街道これに沿ひ千葉市・五井町方面の諸町村にバスの便あり。主産物は米・麥等なるも、副業的なる養鶏業また見るべきものあり。また當町海濱は海水浴場を以て知られ、夏季雜客を誘む。此地は和名抄、市原郡菊麻郷（一本に菜麻に作る）の内なるべく、もと生實濱野村と稱せしを、大正十四年生濱村と改め、昭和三年町制を布き以て今日に至る。本町は千葉氏の族原胤高應永年中より小弓城にありて治し子孫世々之に居り、大永年中國東公方、足利義明、古河より來り住し、近世は森川氏一萬石の陣屋あり、慶長年間は西郷岩代守正員の食邑たりし處。大字濱野は小弓・御弓にも作り小弓御所のありし所。里見八犬傳・九ノ四九「今はしも御領の郡縣多からずと聞ぬ、上総なる御弓の莊を、馬の飼料にまゐらすべしといはれて、成氏懲愧に堪ず」（小弓城）初め千葉氏の族世々此地に居りしが、應永年中、千葉滿胤の三子原胤高之に據り、爾來原氏此處に住す。永正の頃、原胤榮は武田豊三・眞里谷泰河守と境を爭ひ、千葉氏、胤榮を援くるを以て武田等每戰破らる。是に於て密に足利義明を迎へ、永正十四年小弓を攻めて之を降し、義明此城に居す。之即ち小弓御所なり。既にして義明・鴻臺に破るるや、千葉昌胤、小田原北條氏の命を奉じ、原胤正をして此地に居らしめ里見氏に備へしむ。天正十八年に至り、豊臣秀吉の爲に亡ぶる。寛永四年德川氏此地を森川重俊に與へ、森川氏陣屋を置く。いま高さ二丈餘（約六米）の一帯の丘陵地にして義明の居館のありし所は畑と

オイヒ――オイラ

墓地となる。〔生實藩〕寶永四年德川幕府は森川重俊を生實一萬石に封じ、子孫相承けて明治維新に至る。明治四年藩を廢して一旦縣とせしが間もなくこれを廢して印旛縣に合す。〔本行寺〕大字濱野にあり。顯本法華宗。如意山と號す。文明年中の草創。開山は日泰上人。開基は酒井鎮中守定隆。定隆曾つて船中颱風に遇ひ、日泰上人の誦經に因り難を免れ其信徒となる。土氣城主となるや上人に地を賜ひ法華の道場を開かしむ。上人は上總七里法華の化導者と號し、寺を上總法華の根本地と稱す。當時定隆外宗凡べて日蓮宗に改宗すべしと發令す、爲に七里四方の近郷數化され三百餘間寺を建立すといふ。

オイヒト　老人杜　丹波國の歌枕。今その所在詳かならず。大菅會主基方の歌「つもるなもみるやいくとせ國たへの雪ないたたくおいひとのもり　貢時」同「ちよのかけも木ことにそ見る白雪のつもりてたかき老人のもり　金嵐」

オイマ　男井間池　香川縣木田郡にある池。高松平野の灌漑池の一にして平井町にあり。花崗岩の丘陵小野ヶ原の南麓、南北約一粁の細長き形をなし、附近數箇村の水田を潤す。

オイマ　老馬　近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄、長下郡に郷名見え於以萬と訓ず。平龍川の西岸、芳川村の大字に老間存す。これ郷名の遺稱の轉なるべし。併し天龍河道の變遷甚だしきを以て舊地域を定むること困難なり。從つて其地域は凡そ天龍川河口の兩岸に亙り西岸は强名郡の芳川村、東岸は磐田郡の掛塚町、十東村の邊に當るか。

オイマツ　老松村　岩手縣陸中國西磐井郡の東南隅。一關町の東約八粁一日形村の西南に隣り、西北は金澤村に接し、西南は涌津村と界す。東部を北流する北上川、西南部を東南に流るる北上川の一支金流川に挾まるる丘陵地にして、金流川流域は平地にして田畑多く佐野原・鈴田・宮澤・男澤・杉ノ下の部落あり。主産物はその平坦地よりの米穀も多く、その他大豆・小麥・大麥・野菜等の農產品を出し、又丘陵地の斜面、沖積地に桑園拓け養蠶行はる。北部に日形・黃海・鈴澤の各町村を經由して東磐井郡千厩町に通ずる道路東西に走り、又北部の佐野原部落より金流川に沿ひ南下して各部落に通ずる道路に依り南北の便もよく驛は東方約一粁の省線東北本線花泉驛(花泉村地內)に依る。宮澤部落以北は古は高鞍莊の一郷にして峠村と稱し後葛西氏の領となり、又以南は男澤村と稱し佛教地として早くより知らる。慈覺大師佛教傳道のため開基せし金堤寺跡今も字男澤に殘るを見る。明治八年峠村・男澤村合して現村となる。村名は字宮澤に周圍約三米枝間一〇米に及ぶ老木笠松あり、此の名木に因みて名づくといふ。

オイマツチョー　老松町　仙台・臺中線の一驛(昭和六年設置)。臺灣臺中市老松町にあり。

オイモ　御芋川　→晉無瀨川

オイラセ　追良瀨　青森縣西津輕郡深浦町の大字。省線五能線の追良瀨驛(昭和九年設置)を置く。

オイラセ　奥入瀨川　青森縣上北郡を流るる川。青森・秋田兩縣の境に跨り陽沒カルデラにより生じたる十和田湖に發源し、湖の北方八甲田山の東麓及び東方戸來岳の北東麓の諸水を併せ東に流れ十和田村附近にて平野に出で、三本木町附近の平野を灌漑して八戸市の北方百石にて太平洋に注ぐ。流程約七〇粁。十和田村附近の上流は溪谷の眺め美しくその間を奥入瀨の溪流又は奥入瀨峽と稱し溪谷美と森林美とを併せ其名著はる。蓋し此溪谷は主に地下水により發はるる十和田湖を水源とし晴雨により水量の增減を見ること極めて少なく、從つて川の兩岸に原始的密林をなす樹木は川の水際より生長し、河中に點在する一塊の石に至るまで苔蒸し草生び或は瓦木燒樹を戴き天然の盆石その儘の形を現し、其凄きまでに茂れる密林の間を降雨あるも濁ることなく、銀河の如き溪水或は緩く或は急に紆餘曲折して流る。奥入瀨ありての十和田湖と稱され、景勝地十和田の盛名もその半ば以上を此溪谷に負ふといふも過言ならず。十和田湖と共にこの奥入瀨の溪流は名勝・天然記念物に指定さる。奥入瀨溪流は主として十和田村字燒山より字子ノ口(十和田湖の東岸)に至る間約一四粁に亘る奥入瀨川溪谷の景趣にして、日本の溪流美を誇ずるもの其第一指をこの溪谷に屈するといふ。更に此溪流美を詳述せば十和田街道は燒山にて燒山橋を渡り此溪流に沿うて進む、稍を渡れば篤明瀨あり、落口を望み、南に入ると右に紫明瀨あり、楸・山毛欅・栗・楓・朴等の濃葉樹林の中を過ぎ惣遲橋を渡る。之より上流には殆ど支流なく河水は常に同水位を保ち、ここに特殊の植物景を示す。河中の岩石のため水流の三分する所を三瀧の流と呼ぶ。左手に不動岩ありて、その右の林間に「石けど」といふ窟あり、これより尙進めば對岸に師風岩が連りこれと斜に向き合ひて左に馬門岩兀立す。駒止橋を渡り河流を左に見て進めば阿修羅の流、八十島を經て裸渡橋に至る。此兩橋の間はいたや楓が多く奥入瀨第一の勝景をなすところ俗に楓谷といふ、これより尙進めば數多の瀑布懸り最初左に雲井の瀧あり、右方對岸に白布の瀧絶壁中腹の空洞より落下す。やがて河水の奔流白く泡立つ白銀の流れ旋回環流して巴狀を畫く巴ヶ淵を見、對岸に白絲瀧・不老瀧、左に銚瀧、次白蛇瀧・姉妹瀧を跨め、進んで奥入瀨の全流一大瀑布となりて落下するを見る。之を銚子の瀧又は大瀧といふ。海岸より奥入瀨川を遡る餘はここにて前途を阻まれ、瀧壺に近き所にては、長さ五〇間に及ぶ大魚を釣ることを得る。瀧を過ぎ源譚橋・荒瀨橋を渡り暫くにして十和田湖岸に達し天國橋を渡りて子ノ口に達す。

オイワケ　追分　【追分】北海道膽振支廳管內勇拂郡安平村にある字。室蘭本線の追分驛(明治二十五年設置)を置き、夕張炭山に至る夕張線の分岐點をなす。南の苫小牧より三五・六粁、北の岩見澤より三八・五粁なり安平川に沿うて發達せし聚落にて、附近に大なる製炭製造所あり。

【追分】奥羽本線の一驛(明治三十五年設置)にして船川線の接續點。秋田縣南秋田郡金足村にあり。

【追分】長野縣北佐久郡西長倉村の大字。北國街道(善光寺路)と中山道(木曾路)との分岐點に當るを以て馬を追分ける意より追分の稱あり。もとは本陣・脇本陣・問屋・宿屋等完備し、宿驛として繁榮せしも、信越線開通後は全く荒廢し、脇本陣の宿構へのみが當時の偲み存し、本陣も變り、宿屋其の他の軒並の家は多くは變遷して、屋敷跡到る處に見るのみ。俗曲の追分節はこの驛の馬子唄より出でしものといふ。現時は信越本線の信濃追分驛(大正十二年設置)を有し、淺間山南麓より登山口として賑ふ。好色一代男・四「信濃路に入て、碓井峠を過、追分といふ所に、遊女と名付て、色のあさ黑きをみがき、木賊かる山家者を肝煎をなほさせ、さき綿の肌觸しを、木曾の麻衣に露替させ、女郎に仕立ぬることを得る。忘れて、是も愛にては面白し」(追分節)元來は馬子歌なり。今日追分節といはるるものは、信濃追分が唯にして、一に小諸節とも云ひ、中山道と北國街道の分岐點なる北佐久郡追分の驛にて行はれしもの早く文政五年稿の「浮れ草」にその歌詞收錄さる。之が海道筋より越後の海港に持ち運ばれ、越後追分、佐渡追分となる。かくて開港場より日本海沿岸を通ふ船頭旅人等により南部地方を經て、北海道に移入せられ、馬子唄は一轉し船唄と變ず。信濃追分は明治となりて、宿場の衰微に伴ひ滅亡に瀕せしが、大正十四年以後復興せられ、藝の振附も加へらる。しかし今日追分といへば、北海道の追分が本場の如く考へられ、これを渡島追分・松前追分・江差追分、或は單に松前節ともいひ、江差町がその中心地たり。松前追分については、天明頃南部より渡りし佐之一といふ座頭が、ケンリョ節といひし歌曲を作り、これがその前身なりといふ傳說あり。ケンリョ節はおそらく檢校節の訛音にて、座頭が南部地方の追分を北海道にもたらせりといふ說はある點まで信ぜらる。これを玄女節と關係ありしと說く說ありしが誤りなり。馬子唄は元來悠長なる調子なるも、船唄の松前追分となつて一層長く歌ふやうになり、更に技巧化して歌はれ、文句入追分や追分前唄までもつけらるるに至れり。松前追分には三味線尺八の伴奏がつき、三味線は彼のうれりを摸せしものといふ。越後追分は三下りなりしが、松前追分は二上りにて稱に三下り追分を用ふ。流行唄としての追分は、早く文久二年刊「粹の懷」にも二上りなる追分ぶしが出てゐり、上方にても幕末にこれが流行し、東京にては明治初年以來、殆ど十年ごとに數度流行す。更に俚謠としても、信濃各地、北海道各地に散布し、その間多少の相違あるも、もとより根幹は同源の歌曲に屬するものなり。「淺間山ではわしやなけれども胸に煙が絶えやせぬ(信濃追分)」

【追分】近江國逢坂山の西麓、舊東海道と奈良街道との分岐點。今大津市に屬す。近世に至り其名著はる。これ江戸幕府が諸侯の皇室と接近するを忌み西國の諸侯の洛りに京都に立寄るを禁ぜしより諸侯は參覲交代の途次此處より奈良街道に出で小野・六地藏を經て伏見に至り淀川の川舟にて大阪に出るを常とせるに由る。

【追分】縱貫線の一驛(大正十一年設置)にして臺中線の接續點。臺灣臺中州大甲郡大肚庄王田にあり。

オイワ――オウ

オウ　意宇・飫宇　【意宇(郡)】出雲國の古郡名。地は今の島根縣能美・八束二郡に當る。出雲風土記に母理・屋代・揖縫・安來・山國・飯梨・舍人・大草・山代・拜志・宍道の十一郷、餘戸里及び野城・黑田・宍道の三驛、出雲・賀茂・忌部の三神戸あり。萬葉集には飫宇・於宇に作る。平安朝初期東半を割いて能美郡を置く。和名抄は意宇郡に作り、於宇と訓じ、宍道・來待・拜志・忌部・山代・大草・筑陽・神戸の八郷あり。蓋し能義郡分割後の意宇郡とす。もと津田・竹矢・出雲郷・乃木・揖屋・意東・岩坂・熊野・大庭・忌部・湯町・玉造・來待・宍道・波入・二子の十六箇村ありしが、明治二十九年驛郡し、島根・秋鹿二郡と合し八東郡を建つ。出雲風土記「所以以意宇名國引坐八束水臣津野命詔、八雲立出雲國者挾布之雜國哉、初國小所作故將作鏡詔……今者國引訖詔而意宇杜冒御杖衝立而倉惠登詔故云意宇」

【意宇杜】往古八東水臣津野命の出雲國引を訖へて休息せられし地。今の島根縣八束郡出雲郷村阿太加夜神社の北部の叢をその遺跡とす。出雲風土記・意宇郡「意宇杜者、郡家東北邊田中在槲是也、闊八歩許」※出雲郷村

【意宇浦・飫宇浦】和名抄、出雲國意宇郡の浦。卽ち今の島根縣八束郡出雲郷村・揖屋町・竹矢村等の江灣に指せるものなるべし。又意宇海といふも此海岸を稱せるもの。なほ意宇は轉訛して於保の浦ともいふ。萬葉・三「出雲守門部王、京を思ふ歌一首　飫宇の海の河原の千鳥汝か鳴けは吾か佐保河の念ほゆらくに」同・二〇「八日、隱岐守安宿王等、出雲掾安

宿奈杼麁の家に集ひて饗せる歟　大君の命かしこみ於保の浦を背向に見つつ都へ上る」

【意宇川】　島根縣八束郡の東南隅に發源し、北流して出雲郷村の西北部に於て中海に臨ぐ、出雲郷川（一に熊野川ともいふ）の古稱。出雲風土記・意宇郡「意宇川、源出。郡家正南十八里熊野山。北流東折入海。」

オウス　小碓　愛知縣愛知郡にありし村。大正八年名古屋市に編入。

オウチ　小内　信濃國（長野縣）の古地名。和名抄、高井郡に郷名見ゆ。和名抄は平宇奈と訓ずるも冢の字惑らくは知の字の誤なるべし。延喜神名式、高井郡小内神社は下高井郡高丘村にありて小内八幡神社といふ。されば本郷の地は下高井郡高丘村・長丘村等の地に當るか。

オウマヤガシ　御厩河岸渡　江戸淺草御米蔵の北三好町（現在蔵前三丁目）の河岸より、本所石原阿部伊勢守藏屋敷の前へ渡せし大川の船渡。昔この邊に幕府の御厩ありし故の名。古稱、文殊院渡（西北の八幡宮の別當を文殊院と號せし故）。延享年中より舟貫二支。明治七年九月そのやや上流に橋の架せらるるまで繼續せり。

オウミ　小海村　香川縣讃岐國大川郡の東部。引田町の西方に隣り、東は相生村に、西南は白鳥村に接し、北は白鳥村及び白鳥本町と界す。村の南半は讃岐山脈の緩傾斜地に被はれ、また北境には鷲來山（二三六米）の山嶺東西に連亙し櫛形山地なるも、この間山間は低地にして田畑拓け、米（年産約五五〇〇〇圓）・麥（年産約一一〇〇〇圓）・蠶（年産約五〇〇〇圓）を主産し松茸（約一〇〇〇〇圓）を特産す。省線高徳本線の引田驛に近くまた道路、中部低地を東西に通じて引田町地内にて於線讃岐街道に接續す。此地は和名抄、大内郡引田郷の地なるべし。村名にもと村の中部低地は嘗て入江なりし小海なりしにより現村名起り、現地勢は其後の海底隆起によるといふ。古墳あり穿穴といふ、奈良朝以前のものかと云へど詳ならず。

オウミ　麻績　【麻績】　陸奥國（陸前、宮城縣）伊具郡の古地名。續日本後紀承和十五年紀に伊具郡麻績郷と見え、和名抄にも郷名あり。下總・下野にも麻績郷あり、蓋し其地の麻績部の移住せし所なるべし。其地今明かならざるも角田盆地に於ける阿武隈川の右岸小齋村・枝野村・藤尾村の邊ならんといふ。藤尾村の大字に尾山あり郷名に近くまた小齋村は今村名を音讀してコサイと稱するもこれを訓讀すればオイミにして是亦郷名に近し。續日本後紀・承和十五年六月「伊具郡麻績郷戸主磐城圓擬主帳陸奥臣善福」

【麻績】　下総國（千葉縣）の古地名。和名抄、海上郡に郷名見ゆ。中世小見に作る。蓋し麻績部の居りし所。本郷は後香取郡に入る。今八都村の大字に小見あり郷名の遺稱とす。從て郷の地域は八都村・小見川町に當る。千葉縣國に東風鎮の子嶺光、小見郷に居り小見氏を稱すとあり。

【麻績】　伊勢國（三重縣）の古地名。和名抄、多氣郡に郷名見え平宇美と訓ず。郡の東北端にて祓川の河口の麻畠を占め古來神宮に奉仕して荒布の神衣を織れる麻績氏の居りし所。今多氣郡大淀町・上御糸村・下御糸村の地に當る。

オウン　於雲面　江原道鐵原郡のほぼ中央部。管内十面中の一。北東は南面、北西は北面、西は郡の首邑を有する鐵原面に、西南は東松面に接し、東南は漢灘川の峡谷を距てて寫末面と相對す。この地域は半島に於ける地形上最も特色ある京城元山間の宜地、即ち歇吾嶺地溝帶に屬する地區にしてこの低帶中に行はれし玄武岩噴流による地形變化の著しい現象が見られ、面の東方に聳立する鴨山（四五二米）は頂上に小火口を有する小火山にて、玄武岩の熔岩臺地を抜くこと僅に六〇米、本地域は北の平康面及び北面と共に玄武熔岩噴出の中心を成し、恒最も廣く黑土地域を形成す。東南境を流るる漢灘川は面境近く南大川を合せ水量倍し加はり玄武岩臺地を深く浸蝕し頗る峡谷美をなして流るること約一〇粁、面界を離れ一層その峡谷度を增し、其景觀雄大なり。近時開墾大いに進み煙草・大豆等の栽培盛に行はれ灌漑用水路の改設に伴ひ水田も亦漸く增加の見、本郡に於ける重要なる米作地域たらんとす。又養蜂行はれて蜂蜜を産す。交通は古來この横道線を利用して行はれ東北鮮との重要交通路は多くこの地を經由し、現在も京城・元山間の國道及び鐵道京元本線共に鐵元より來り面内を北東に走り京元鐵道線月井里驛（北面地内）に近く、又東南部は鐵原より分岐して内金剛に至る金剛山電氣鐵道線ありて陽地里・二吉里の二停車場ありて交通頗る便なり。聚落の主なるものは前者の外、楮木里・上陽・土橋・新岱等が南部に、北部には江山・栽松・中江・中佳山・上佳山等あり、面して上陽里に面事務所・普通學校等あり。又面の西境に「弓裔の古都」ありて其城址・殿礎の跡、今なほ歴然たり。人口一〇一二一（昭和十年）。

オエ　小江村　長崎縣肥前國北高來郡の東部。諫早町の東北約八粁、東南有明海に臨む。地形南北約一〇粁、東西約二粁にして狹長なり。西北五家原岳（一〇五八米）を以て東彼杵郡に境し、南方に緩傾斜して山麓海に迫る。長崎本線通じて小江驛（昭和九年設置）に置き、海岸線に沿ひて縣道走り諫早町及び北方佐賀縣藤津郡塩島町方面の諸町村にバスの便あり。

オエ　小家　筑後國（福岡縣）の古地名。和名抄、生葉郡に郷名見え中世には小家莊と稱し字佐八幡領たり。其地今詳なら

ざるも生葉郡の合併せられたる浮羽郡江南村の字名に小江あり郷莊名の遺稱の轉訛せしに非ざるか。されば小家郷の地は吉井町・江南村邊ならん。

オエ　麻植　【麻植郡】　徳島縣阿波國一市十郡の一。吉野川の中流南岸にありて縣のほぼ中央に位し、東は名西郡に、北は吉野川を距てて阿波郡に相對し、西は美馬郡と界す。東西約二一粁、南北凡そ二三粁、面積二八一平方粁。西南端に剣山山脈の主峯剣山（一九五五米）聳え、東部の名西郡界には東宮山（一〇九一米）・燒山寺山（八八七米）及び西部の美馬郡界に丸笹山（一七一二米）・赤帽子山（一六一二米）・綱附山（一二五〇米）・明神岳（一二二三米）・高越山（一一二三米）等聳え是等の山地東北に傾斜し、本郡概ね山地にて、是等の山地を刻む溪流は塚窪峠の尾根を分水嶺とし、一は剣山の東北麓に發する鬱谷にて東北に蓬路をとり木屋平村字市初附近に於て急に流路を西に轉じて美馬郡に入り鬱屏谷を流るる穴吹川となり、他は燒山寺山に發源する溪流にして北に流れて吉野川に注ぐ。是等河川沿岸は殆んど屋敷なして平地乏しく、本郡の北部吉野川に沿ふ河成段丘上に僅に低地ありて田畑拓くも、産業は農業を主とし耕地の傾斜面利用により畑地卓越し、麥作は米作より多くまた甘藷に廣く栽培され、山地には楮・三椏・馬鈴薯・蒟蒻等良質のものを産す。もと藍作は板野郡につぎ縣下有數の産地なりしも外國染料の輸入に伴ひ不況となり、その産額激減し最近稍々舊に復するも藍畑の大半は桑畑と化し副産蚕繭急激に增加し、それに伴ひ鴨島町を中心とする製糸工場興り本縣製糸工業の一中心地となる。その外工産物には麻布・凍豆腐等あり。木炭を第一とし用材・樹皮（杉・檜）を主とする林産物に富まる。交通は比較的便利なるも北部の低地にて、西南の高地の大部分は周圍山嶺に圍まれ、他の地方に出づるには峠を經、即ち西境美馬郡との堺には、杖立（一〇四八米）・保賀山（一一二六米）等の峠あり、南の那賀郡（一は當野石（一二七一米）・日奈田（一八四六米）、東部の名西（一は壁岩嶺の諸峠があり。北部の低地には徳島街道が名西郡より來り、吉野川の南岸に沿ひて美馬郡に入り、またこの街道に沿ひ省線徳島本線通じ域内約二〇粁の間に牛島・鴨島・西麻植・阿波川島・學・山瀬・湯立・川田等の八停車場があり、近年自動車の便と相俟ち交通便なり。本郡は延喜式に始めて麻殖郡の名見え、和名抄は手薗と訓じ矣島・忌部・川島・射立の四郷を置き、中世私かに山田莊・高越寺莊・河輪田莊・麻殖保と稱す。郡名は神武天皇、天富命に命じて天日鷲命の子孫を率ゐしめ、本郡に來り發麻を植ゑ子孫この地に留り其職を繼ぎしにより之に因むといふ。爾來麻植・麻埴・麻殖の字を混用したるも今は麻植に作る。

【麻殖】　阿波國（徳島縣）の古地名。中世麻殖郡矣島郷の地に置かれし保名。東鑑文治二年に此保名始めて見え平康頼その保司職となる。建久二年の文書には麻殖御領と稱し後白河院長講堂領となり、のち建武三年・應永十四年の文書には麻殖莊と見ゆるも亦これに同じ。いま本郡西尾村の大字西麻植及び牛島村の大字麻植塚の麻植は郡名の遺稱なるべし。※矣島

【麻植塚】　徳島本線の一驛（昭和九年設置）。徳島縣麻植郡牛島村にあり。

オカ　賀可　上総國（千葉縣）の古地名。和名抄、望陀郡に郷名見ゆ。刊本は表可とあり、甲斐國の表門郷の表をウハと訓ずるに準ひ宇波加と訓ず。されど本郡にカハカに當るべき地名なし。思ふに表は賀の誤にしてヲカと訓じ、今の君津郡昭和町・長浦村等の地に當るなるべし。

オカ　遠管　安藝國（廣島縣）佐伯郡の古地名。三代實録貞觀十六年紀に安藝國遠管驛、延喜式兵部省式に驛名見え、驛馬二十疋とあり、和名抄に郷名出づ。これ郷にして驛を兼ぬるもの、其地詳かならざるも、厳島古縁起に厳島と恩賀島と見ゆ　恩賀は遠賀と音相通ず。されば其地域は佐伯郡大竹・厳島・玖珠の諸町及び水野・大竹・厳島町・小方の諸村に當るか。

オカ　岡・崗・遠河・遠賀・鳩嗣　【岡村】　山梨縣甲斐國東八代郡の中部。南八代村の南に隣り、花鳥村の西、米倉村の東に接する面積二・四四方粁の小村。地南北に細長く南半は山地をなすも、北部は甲府盆地につづく平地にてここに耕地あり。養蠶盛なり。交通なほ便利ならず。本村は和名抄、八代郡長江郷の内にして今南八代村・北八代村・高家村・狛田村と組合町村をなし南八代村に役場を置く。

【岡】　→高市村（奈良縣高市郡）

【岡】　→宇賀莊村（島根縣能義郡）

【岡】　→由佐村（香川縣香川郡）

【岡・崗・遠河・遠賀・鳩嗣】　→遠賀郡

【崗水門・岡水門・鳩嗣水門・岡湊】　福岡縣遠賀郡芦屋浦の舊名　蘆屋の湊の謂にして、崗浦・崗津・鳩嗣水門・岡の浦等と稱し古來より歌枕として知られ五月雨・月・霧・雁・氷・鵜　水鳥・鷺の名所たり。日本書紀・神武天皇元年十一月の條に「甲午天皇至筑紫崗水門」とあり、古事記に岡田宮とあるも之に同じ。仲哀萬葉抄に岡水門は筑前國にありと見え、筑前國續風土記に鳩嗣縣の東の側に近く大なる江口あり、名付て鳩嗣水門といふ。大船を入るるに堪へたりと見え、古歌にも水茎の岡の湊とよめり。和爾雅に「遠賀郡水茎岡、即蘆屋也、神武帝、仲哀帝、神功皇后所經過也」とあり、太宰府管内志に日本書紀・古風土記の二書に依て考ふるに正しく山鹿浦と蘆屋との間を云ふと見え、名所方角抄にも筑前國岡の湊

と云は葦屋の事なりとあり。神武天皇御東征の御時宇佐より筑紫岡水門に至り給ひ　その後仲哀天皇熊襲征伐の御時山鹿岬を廻り岡浦に幸し給ひ、皇后は洲海を經て直に岡浦に到り給ふとあるも此地なり。その後平家の西國落の時には安德天皇も此處に行幸あらせらる。其地遠賀川の河口にして洞海に舟を通じ、往時は蘆屋の内方に江灣をなす。後世遠賀川の堆砂の爲に堰塞す。萬葉・七「天霧ひ日かたふくらし水莖の岡のみなとに波たちわたる」新拾遺集「水莖の岡海の波の上に數かきすてて歸るかりかれ　素暹法師」夫木・二五「月かけのやとれはこほる水くきの岡のみなとに秋かせそふく　內大臣」類聚和歌「日方吹く音そさひしき水莖の岡の鶴の秋のしほかせ　行尊」

【岡津】　岡水門に同じ。太宰府管內志「伸哀天皇紀に皇居者是魚鳥之遊二而意心稍解及二潮滿一御沼于岡津一とあり、岡津は手和乃都と訓べし　此津のこと慥なる證はなけれど今の山鹿濱より鳥津もしくは若松までの間を出るなるべし、此邊まさしく船より鞍手郡內に入給ふべき道筋なり」

【岡浦】　書紀伸哀紀に見ゆる筑紫の古地名。天皇の八年穴門(長門)より此地に幸し給ふ。その地いま遠賀川の河口の邊。

※岡水門

【岡山】　臺灣高雄州岡山郡にある山。大岡山(三一二米)・小岡山(二四二米)に分ち二層行溪の上流阿蓮・田寮間庄を界し古來支那より渡航の時海岸より遠望し得好目標たり。山中の岩石洞窟の奇勝を以て名高く一に崗山に作る。大岡山の北西に岡山巒なる字を存するは清朝時代岡山汛の遺跡にして郡城臺南に在りし臺灣城守營參將管下の左軍守備一員・把總一員・步戰守兵一八〇名が岡山頭汛・檳榔林汛・岡山腰汛・岡山尾汛と共に一帶の防塔に當りしこと、鳳山縣志に見ゆ。大岡山の麓に超峰寺在り。觀音佛祖を祀る。臺灣府志に超峰石觀音亭と見え、雍正年間僧紹光なる者草庵を結び乾隆二十八年臺灣府知府蔣元君創建す。全山石灰岩の洞窟奇勝に富み、顯蘭洞・朱領堂の外に龍湖庵・蓮峰寺等の寺廟多く、遠く臺南を望む景色深し。

オガ　男鹿 【男鹿半島】　秋田縣南秋田郡にある半島。秋田市の西北方、日本海に突出する一大半島なり。面積約二二四平方粁。基盤は比較的新しき第三紀層より成り地質は男鹿島統に屬し上部より見れば上部七座凝灰岩層・船川層下部七座凝灰岩層・女川硅質頁岩層に分る。而して上部七座凝灰岩は七座山に發達し、浮石凝灰岩・浮石及安山岩の塊片を混有する角礫凝灰岩・灰色頁岩のレンズ等を挾み北浦層に被はる。かく地質は出羽丘陵と質を等しくし從つて半島は出羽丘陵に屬する一隆塊にて海底より隆起せし當初は一箇の所謂男鹿島を形成せり。この隆起島の東部にはアスピテ型火山の寒風山(三五四・七米)、西部には半島最高の本山(七一六米)の圓頂丘を中央に、その右に菅山(五七一米)、左に毛無山(六七三米)の火山を噴出して低平な隆起島に一大變化を與へ、西北部には幾つかの爆裂火口もあり地形的に特殊の變化を見る。即ち東より一ノ目潟・二ノ目潟・三ノ目潟が何れも美しき圓形の湖をなし　更にその西北方に南北長徑約二粁の楕圓形の爆裂火口が西壁を海蝕により破壞せられ海水の浸入する戸賀灣となり、而して之等の火山を噴出せし基盤島が海中より隆起せしことを立證する海成段丘が火山麓の周圍に數段の發達を遂ぐ。その段丘の數と高さとは男鹿の中にても場所により異り、狹小なる一島なるもその隆起の一樣ならざるを想ほしむるものあり。即ち段丘は島の周緣部のみでなく東部山地の中央は約一〇〇米、西部山地の中央は少くも三〇〇米以上の地まで追跡することを得。併し此等の兩中央部には東部の寒風火山群、西部の本山火山群がそれ〴〵噴出して段丘の表面を蔽ひ、そこに火山地形を建設せしを以て周緣近くの段丘のみ比較的明瞭に殘存せり。本島の段丘は極く小面積の河成段丘を除けば殆んどすべては海蝕段丘にして高さは一〇米より三〇〇米に及ぶ總數は少くも一三段以上に達することは疑なきも、精確なる段數は小地域なるもその對比困難なり　最も高き段丘を認むるは西部山地にして三〇〇米にも及び、東部臺地は一〇〇米以上に及ぶ段丘は無く分布狀態も互の連絡を追跡するは困難なり。東部臺地の西北方濱間口地方と東北臺地との間に五里合三角地域と稱する低地を挾む。この五里合三角地域には段丘の明瞭なるものなく海岸には砂丘連りて當地狀をなすも、之を一箇の段丘なりとするものあり、さすれば一〇—三〇米の段丘となり西南に高く東北に向ひ低下し東北臺地に接する所にては確然たる南北の一線により界さる。之等の段丘は悉く岩石段丘よりなり段丘上には堆積物極めて少く礫を見ることも稀なり。南磯村に於て現在の海面下に成長しつつある海蝕棚にも礫の存在すること少きより想定せば之と同性質のものなるべし。只北浦町附近の三〇米に於ける段丘と東北臺地の二〇—七〇米に於ける段丘上には渴西層に屬する砂層が厚く堆積するを見、この砂層は第四紀古期の海成層なるを以て此等の段丘はその時代海面下に形成されしものなるべし。段丘の解析度は一般に高度の段丘程著しく凡そ一〇〇米以下の諸段丘は幼年期の小川に僅に切り込まるるに過ぎず、一〇〇米以上のものは幼年後期の削剝を示し、更に二〇〇米以上のものは壯年前期の地形にて幸うじて段丘の存在を認め得るに過ぎず。勿論この事は其地に於ける構成岩石の硬軟に影響さるること著しく西部山地の北東南三方面に比較的よく認め得るはその地盤主として火山岩又は硬質の凝灰岩より成るによる。東部臺地の基本村附近の一〇〇米に於ける段丘は壯年期の解析を受け切段さるるを見るも岩質の軟弱なるが證さる。段丘成立の時代は判然ならざるも解析の程度、段丘上の堆積物と段丘を構成する地層より推定すれば凡そ三〇米及びそれ以下の段丘は第四紀新期に、一〇〇米及びそれ以下の段丘は第四紀舊期に、一三〇米以上の段丘は第三紀末期頃に、各々海面上に隆起し段丘化せしものと考へらる。本島の河川は主として西部山地より出で東北又は東南に流るるも何れも上流は谷深く既に壯年期の地貌を示し、下流に進むに從ひ若くなり最下流は最も若き地形を呈す。併し大增川・小增川は河口に近く數段の河成段丘を有す。又本島最大の瀧川は著しき曲折式河流型の川をなし幼年期にして曲折著しき下流と壯年期の上流との境に數段の著しき河成段丘を形成す。又この一大隆起男鹿島は北方約三〇粁の地點に河口を有する能代川及びこれと略ゝ等距離の南方に河口を持つ雄物川の二川が夫々吐出せし土砂が沿岸潮流のため北方と南方とより砂嘴を島に向ひ次第に發達成長せしめ、遂に本土と島とを結ぶ陸繫島即ち半島となり內側に海跡湖八郎潟を抱く現在の如き半島を形成す。其海岸地形は種々なる型を有し且標式的のもの多し。即ち東北及び東南の海岸は男鹿島を陸地に繫ぎし砂嘴の部分にして幅各々約三粁乃至四粁、長さ各々二五粁乃至三〇粁內外あり、幼年期の地積海岸に屬す。北部の海岸は既に壯年期に達する隆起海岸にて磯崖よく發達し圓滑な曲線を描き西北方に至るに從ひ若くなり北浦と入道岬との間に於ては不規則な線を描く青年期の型式となる。南海岸も同樣隆起海岸をなすも船川以西雄瀨岬間は未だ幼年期の地貌を呈す。西海岸は幼年期の斷層海岸にて急峻な傾斜を以て海に臨み絕壁の下には舊蒼々窟の海蝕洞穴や大棧橋・小棧橋等の海蝕による天然橋や立島等の奇岩聳立し所謂島廻りの勝地をなす。即ち半島は東西の兩高地が中央の低地を以て接合し更に北方及び東南方は二條の砂堤に依り本土に連結し其間に我國第二の八郎潟を抱く陸繫島を形成する一の珍奇なる地理的單元をなす。而して此男鹿島は古生物學・層位學・地形學・鋼沼學・地質學・人文地理學・民俗學等の多方面に亘る貴重の研究資料を何藏す。又その成因に就きて見ればもと本土の一部をなせし土地が中間地帶即ち今の八郎潟の一帶が陷沒して海となりしために本土より孤立するに至りしものか、或は本土に密着せし一地帶が徐々に海上に向ひ漂流し初め遂に日本海々岸より約二〇粁の現位置まで移動せしものなるか、又ほ仡現在の位置にて日本海々底を作る一地帶たりしものが海底の隆起により初めは小島として海面上に現はれ、次いで隆起の進むと共に漸次大となり現在の形態にまで發達せしものか。陷沒による孤立說は最も古く、明治十八年ナウマンにより唱へられ最も勢力ある說をなすも、之を積極的に證明すべき現象は發見し難く又理解し難き點あり。若し此陷沒が日本海陷沒の際に起りしものにて男鹿島が當時の殘島と考ふればその時代は第三紀前半なるべし。然るに本島の大部分を作る地層は第三紀新成統のものなれば陷沒は第四紀以後なるべく、第四紀古期に屬する海成層の存在よりすれば陷沒は最近の時代(第四紀新期)に起りしものと想はる。又本島が陷沒でなく此地方一帶の沈水により陸內の山地としてその上半部のみ露出せしものと見るも、第三紀後半までは大部分海底にあり如何に潛染の變を說くも信じ難く、若し此地方の最近時代に於ける大區域の沈水ありとすれば海底に溺れ谷の地形の殘るは云ふまでもなく秋田地方の海岸は沈降海岸の型式を儲ふるべきに今は反對に隆起海岸を示すものあり。漂流說はウェゲナーの大陸漂移說によるものなるも、此說は地形上適合する所無きのみならず地質上連接する所もなく、全くその實證すべきものなし。最後の隆起說は本島の成因を說くのみならず飛島・久六島の如き日本海中の島嶼及び出羽丘陵・奥羽山脈地帶の發達史をも闡明す。此說によれば、本島は出羽地方一帶と共に第三紀前半に陷沒して日本海々底となりし所にて、陷沒により個々の陸塊に分裂し、一の個性を持つ陸塊となり海底に沈みし島上に第三紀舊成統の海底火山噴出物の堆積あり、又附近の火山島より砂・粘土質の漂積物が供給され有孔蟲類・陸上植物化石等を含む。此時代の猛烈にして長く續きし海底火山活動の後海底は一時沈降し海底には硅藻軟泥が堆積しやがて海底は隆起運動をなし早く陸化せし部分より供給さるる粘土・砂・礫の如き陸源漂積物に被はれ島嶼化するに至る。之は第三紀終末に近き頃といはれ當時の男鹿島は未だ西部山地のみにて東部山地即ち寒風山區域は淺き海底をなす。其後第四紀に入り引續き隆起運動あり東部臺地が附加され略ゝ現在の輪郭となるも未だ寒風火山の噴出なく東部臺地は見事な平坦海蝕臺地をなし西部山地も本山等の火山無く周緣に幼年期の削剝谷を持つ海蝕臺地を呈すといふ。のち西部臺地に於ける本山・菅山・毛無山・加茂火山・北磯火山等の流紋岩噴出と東部臺地の安山岩噴出(寒風山)と相前後して起り、それぞれ海蝕臺地の表面を蔽ひ高さを著しく增すに及び現在の地貌を完成し、次いで舊第四紀に一〇—二〇米の比較的輕微なる沈降運動起り島の周邊には溺れ谷の入江を生ず。現世に入り更に前の沈降を補ひ次で三〇米程の隆起あり、之に伴ひ砂

堤の發達なみ現在に及ぶ。即ち西部山地は最も古く隆起せし地にて高度も高く地形も進化せる所多く、東部臺地はその後隆起して加はりし地にて一部にては壯年期の地形を認め得るも一般に幼年期の海蝕臺地をなす。而してこの二地帶結合して男鹿島を形成し、渭西地域は男鹿島に屬するものでなく堆積作用により最近の時代に附加されしものにて島と本土とを連絡する地域たり。更に西部東部山地を細別して見れば、西部山地に於ける西北部は北々西に延長する半島狀の地帶にて兩側に向ひ低下する段丘を有し幼年地形の海蝕臺地をなし凡そ入道崎半島に一致す。西南部は本山火山群の噴出のために土地最も高く火山を取除くも大體三〇〇米以上の高地をなし段丘は幅狹きもの多數あり。北浦町附近は東北に向ひ低下する幅廣き段丘より成り河川も赤東北に向ひ略〻平行に流る。船川港町附近は東南に向ひ低下する幅廣き段丘地にして河は東南に平行して流る。併し北浦町附近と船川港町附近は其性質類似するも稍〻氣象の相異るものあり。東部臺地に於ける男鹿半村大字開口浜附近は八〇米に於ける段丘を最高とし西北に向ひ低下する二段丘を之に附加せしものにて河川は西北に向ひ流下す。鳥本村附近は大部分一〇〇米の段丘にして北方にては寒風火山の熔岩が直接その上を蔽ひ南半にては段丘露出せるを以て解析進む。五里合三角地域は北方に開きし低地にて、北方海岸には砂丘連亙して僅にこの地域を閉塞して盆地を形成せるを以て五里合盆地ともいふ。東北臺地は南北に延びし平坦なる海蝕臺地にして二〇—七〇米の高度を有し東に向ひ緩かに傾斜し、その西北海岸は一〇米の幅狹き段丘にて絲取られ、西側は南北走向の飯川斷層線崖にて界ぜられ東側は低き海蝕及び潮蝕崖をなす。産業としては水産業がその主たるものにて半島の沖合近く對馬暖流及び千島寒流が流れ、自然に寒暖兩棲魚族、即ち鰊・鮭・鱈等の如き寒流系の魚族と鰤・鮪・鰹の如き暖流系の魚族とを産し、殊に近年前者より後者の方が多く鰤の如きは縣下第一位にあり。十一月より翌年五月頃までは海上殆ど遮日荒天にて漁業困難となり漁期の短きを最も缺點とす。八郎潟は淡水漁業の豐庫にて殆ど四季を通じて漁獲あり、殊に冬の氷上漁業はその漁具と漁法の獨得なるを以て著はる。製塩はその大なるもの少なく南部の船川港町及び北部の北浦町最も著はる。日本書紀・齊明天皇四年正月の條に鄙田蝦夷恩荷の名見ゆるも恩荷とはその居に因りて名づけしものなるべく、のち男鹿・小鹿の字を用ふるに至る。男鹿名稱誌によれば男鹿とは蝦夷の酋長の名なるか島の名に呼びなしたものか、或は島の名を其地の酋長なるにより直ちに自分の名とせしものか詳かならずとあり。延暦年中、大將軍坂上田村麻呂が蝦夷の巨魁大嶽丸を追討の際、男鹿島に追込みて討取りたるとの口碑の傳へあり、其の舊跡も處々にありて、近世山中或は北磯の邊に骸骨・兵器・石鏃を出土せしことあれば或は口碑を實證するに足るか。文治五年、源頼朝の奥羽平定に當り、橘薩州公業が小鹿島及び附近を賜はりしと。公業の子孫が何れの頃か此地を退轉して伊奥(愛媛縣)宇和郡に至り小鹿島氏を稱し、また肥前(佐賀縣)にも封邑を保ちて豪族となりしものなるべし。寛政年間に至り此地は海防の要地なるため戸賀村・船川港町・北浦町・南磯村に唐船番所なるものを置き警備に當らしめたり。日本書紀・齊明天皇四年春正月「左大臣巨勢徳太巨勢、夏四月、阿倍臣(岡名)率船師一百八十艘、伐蝦夷。鄙田浮代二郡蝦夷等怖乞降、於是勅軍陳船於鄙田浦。鄙田蝦夷恩荷進面誓曰、不違官軍。故持弓矢、但奴等性食肉故持、若爲官軍、以儲弓矢、鄙田浦神知矣、誓清白心、仕官朝矣、仍授恩荷以小乙上、定浮代津軽二郡々領、遂於有間濱召聚渡島蝦夷等、大饗而歸、五月、渡島孫建王八歳奏、今城谷上起、殯而哀、天皇本以皇孫有順而器重之、故不忍哀、傷慟絶其一東歸。文治六年正月「爰兼任、遂使者於由利中八維平之許云、古今間、報六親若夫縁怨敵之者、尋常事也、未有討主人敵之例、兼任獨爲始其例」所以此條倉也者、仍維平、馳向于小鹿島大社山毛之邊、防戰及二剛時、維平被討取、畢、兼任亦向千福、山本之方、到子津經、重合戰、殺敵宇佐美平治以下御家人及鶴色澤安等云云、依之、在國御家人等、面面進飛脚、言上事由云云」

【男鹿岳】 那須火山脈に屬する一峯にして那須岳の西南方約一三粁に位す。栃木縣鹽谷郡三依村、那須郡高林村、並びに福島縣田島町に跨る 標高一七七七米 東南麓は大佐飛山(一九〇八米)、西南麓は鬼ノ又岳(一八一七米)に達る。山中に男鹿池と稱する一池あり。山麓は四方より發源し、北斜面より水無川、西斜面より男鹿川、東南斜面より木ノ俣川源流す。

【男鹿川】 栃木縣鹽谷郡三依村を流るる鬼怒川の一支。福島縣南會津郡界に發ゆる男鹿岳(一七七七米)の西麓に發し、初は西流し後南流して川治附近に於て鬼怒川に入る。會津西街道これに沿ひ、其間約三〇粁、頗る渓谷美に富む。

オガーチ 小河内村 廣島縣安藝國安佐郡の西北隅。可部町の西北約一〇粁、西と北は山縣郡の安野・吉坂兩村に隣り、南は太田川の中流を界とし久地村に對す。村内山地多きも中部は南北に細長き低地あり農業行はれて産物は米を主とし、蓼・薪炭を出し、養蠶また行はる可部町より山縣郡加計町への縣道は南部太田川に沿ひて通じ、また省線可部駅の安藝飯室驛は東隣飯室村に設けらるるも交通なほ便利ならず。此地に和名抄、安藝郡河内郷の地なるべく、和名抄は加布知と訓ず。大永年間、銀山城主武田利部の子小河内彌太郎、本村内牛頭山に城を築き居せしにより村名これより出づといふ。のち小河内氏は安藝國武田氏と共に毛利氏に滅ぼさるると傳ふ。

オカイーダ 岡飯田 ↓森山村(千葉縣)

オガイシ 尾ヶ石村 熊本縣肥後國阿蘇郡の西部。内牧町の西南、永水村の北に隣り、西は菊池郡永源村に接す。村の東部は阿蘇谷の西邊にて土地低平にて耕地よく發達せるも大部分は阿蘇北部外輪山の地にて東面は急斜し、西面は緩く下り草野をなす部分多し。縣道東部をほゞ南北に走り東北は内牧町へ、西南は永水村に通ず。本村の地は阿蘇國立公園の一部を成す。もと狩尾・跡ヶ瀬・的石の三村なりしが、明治二十二年町村制施行に當り合併して尾ヶ石村と改稱す。傳ふる所に據れば阿蘇大明神の阿蘇地方の經營も概ね大成せし頃、大明神は大弓を携へ祚島岳絶頂に登り、遙か外輪山の大石を目當に矢を射たり。然るに百の中九十九迄は當らずして附近に落ち、其跡は力十九潤となり今猶ほ清水湧き出づと。かく一百本目の矢は見事其石に命中し大いなる穴を穿てり。之を的石と稱し、附近部落民は毎年春秋二回年中行事の一として祭事を行ひ今尚ほ保存すと。大字的石も亦此傳說より名付けられたるもの。

オカイズミ 岡泉 埼玉縣南埼玉郡にありし村。明治二十八年本村ほか千駄野・實ヶ谷・彦兵衛・太田新井・上野田・下野田・瓜田ヶ谷・小久喜の八村と共に合併し日勝村を設く。

オカエダ 岡枝村 山口縣長門國豐浦郡の中部。東南は豐東村、西は椋崎村、北は殿居村に隣接す。北半は華山(七一三米)の山嶺につゞく山地なるも、南半は南東流して周防灘に注ぐ吉田川本支流のなす盆地の中部に當り、土地平坦新地よく拓け、農産を第一とし米・蠶を主産す。省線山陽本線の小月驛(小月町地内)に起り北走して西市町に至る社線長門鐵道は村の東南部を掠めて岡枝・込室の二驛(大正七年設置)を設け、また岡枝驛より西方山陰本線の小串驛(阿武郡小串町地内)へはバスを通じ、交通便利なり。此地は和名抄、豐浦郡田部郷の地なるべし。華山は古く下山と稱しまた一に神上寺山ともいふ。神上寺は得仙上人の開山と傳へ、山頂に祠所と稱する上宮あり、中宮は山腹、下宮は麓にあり。一說に一條院の御宇、土佐・伊豫兩國征伐の新羅として一萬八千の神を此宮に勸請せし神上寺を置くといふ。「つれ〳〵」とその曉を松の戸にとふや豐浦の山ほとゝす」三千風一(櫻井八幡宮) 大字下岡枝字茶屋川に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后外三神。創立年代詳ならざるも豐前國宇佐八幡宮を勸請せる地方の古社にて鄙來近郷の尊信篤し。例祭、九月十五日。(快友寺) 大字吉賀にあり。淨土宗西山派。本尊阿彌陀如來。もと餌言宗にて、應安二年の草創たり。開山は寶道上人。天正年中毛利氏の臣桂民部大輔廣繁、眞空上人に歸依し、當寺を改修し、眞空上人を請じて開山とす。其後火災に罹り沿革詳ならず。現に本堂・庫裡・經堂・學堂・觀音堂等あり。

オガオガル ヲガヲガル山 臺灣高雄州・臺東廳に跨る山。標高二三〇九米。

オカガキ 岡垣村 福岡縣筑前國遠賀郡。西北部。東は蘆屋町・遠賀村に隣り、南と西は宗像郡の東北部に界し北は一帶に響灘に臨み大部分は弓形の沙濱にて內浦(鵜)濱とよばる。地は略〻方形をなし面積約四九方粁、南境には戸田山(二六七米)篤々岳(三六九米)等の山嶺ありその山麓ほゞ東北に下り、北部海岸を東西につづく松原との間には低平の地廣く田畑よく拓く。若松市より福岡市方面への國道は東北より西南に通じ、また省線鹿兒島本線東南部を掠めて深耆津驛(明治四十三年設置)を置きそれより西北隣、岬村の鎌崎にバスを通じ交通の便よし。主産物、米・麥。また海老津礦山の一部を占め石炭を産す。此地は和名抄遠賀郡内浦郷の内にして大字内浦に並び其遺稿。明治四十年同郡村を廢しその地域を以て本村を置く。大字宮水に遠賀城址あり。明應中麻生遠江守家信居り天文の頃は河内守隆守居住す。隆守は大内氏に隨從せしが後大友氏に攻略さるといふ。大字内浦の海濱は內浦濱とも鵜濱ともいひ、古く京都より大宰府往來の大路なりしといはれ、歌枕として著名なり。元禄家集「かりにとはおもはぬたびなりかなれはうつらの濱み行くらすらん」(海老津礦山) 本村より遠賀村に亘る石炭山。年産額約六三〇〇〇噸(昭和十年)東麥礦山たり。(高倉神社) 大字高倉に鎮座。縣社。祭神、大倉主命・菟夫羅姫命・兵森大神・高田大神・山崎大神・中山大神、外五柱。社記に據れば、神功皇后攝政二年、勅によりて高津峯高倉の地に一祠を營み、大倉主命・菟夫羅姫の二神を鎮祀し神田千町を定め給へるに創まると云ふ。永祿二年大友義鎮の風聞に遭ひ當内の諸社寺と共に舊記・寶物等を失ふ。其後、宗像大宮司氏貞修殿を建て、小早川隆景園主たるに及びて社殿を再興し且つ祭田を寄進す。のち代々の國主社領を寄進し、寶暦五年には本郡の總社と定めらる。弘化三年の當社名簿帳に據れば神官・社僧・神樂職・巫女・注連鬼・御供炊等を合して百十六人を算すと云ひ、同四年の神社誌帳に據れば末社百十三社を有すと云ふ。もと社僧たる置きて別當なる神殿院神宮寺と稱せしも、明治初年廢せらる。なほ祭神の大倉主命・菟夫羅姫に欽き、仲哀紀八年の條に、天皇筑紫に行幸

ありて、山鹿岬より四浦に入りて水門に到り給ふや御船進むを得ず、よりて天皇この二神を祭祀してその冥助を乞ひ給へるに、果して御船進める由、見ゆ。例祭十月九日。〔熊昌寺〕大字高倉にあり。曹洞宗。玉雲山と號す。延徳三年の草創。開基は黒崎花尾城主麻生弘繁、開山は足翁永満和尚。のち衰頽せしを黒田氏の臣弁上周防再興す。因りて周防を中興開山とす。黒田知水・長政の靈牌を安置す。〔寶樹院〕浄土宗。清石山弘壽寺と號す。弘長年中の創建。開山は弘阿上人。初め字弘壽寺にありしが中世廢刹となり、後行永妙泉尼今の地に再興す。境内に地蔵堂あり、地蔵尊は日本三體の一にして、足下の菩薩と呼ばる。〔隆守院〕曹洞宗。東向山と號す。萬治二年の草創。開基は吉田左近大夫貞延。開山は金峯元鎬和尚。中興開山は法山石傳和尚。一說、往昔當國の城主麻生何内守隆守の開基に係り、其の舊提所たるより寺號とすと。

オカカタ 岡方村 新潟縣鄙後國北蒲原郡の村。阿賀野川下流右岸にあり葛塚町・長浦村の東に隣り北は木崎村・濁川村、南は草ヶ瀬村に接し、西方は阿賀野川を隔て中蒲原郡大江山・横路二村と界す。新潟砂丘の内陸、阿賀野川の沖積地にして域内海拔五米を超す地なく、土地低平水田多く、畑・桑畑何岸近くに拓け、米・圓等を産す。聚落は長戸呂・太子堂・三ク屋・大久保新田・高森・高森新田・森下新田・平・林・山飯野・大廻・大瀬柳等集村型をなして發達す。葛塚町・水原町に街道通じ、バスの便あり、また阿賀野川の水運ありて交通便なり。此地古くは史實の徴すべきものなきも草ヶ瀬村と共に岡方組と稱するといふ。

オカガタ 岡縣 福岡縣筑賀郡にありし村。明治四十年十月本村及び矢矧村を廢し、その地域を以て岡垣村を置く。

オカキ 小垣 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄飽田郡に郷名見ゆ。其地未だ詳ならず。いま飽託郡の舊飽田郡の地に小島町あり、嶋と垣と字體近し。或は其誤にあらずやと云ふ。

オカギエ 小垣江 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年高棚・野田・半高の三村及び長崎村の大字井杭山を以て依佐美村を置く。

オカクラ 岡倉山 丹波國の歌枕。今その所在詳かならず。大春會主基方の歌 うすくこき色なくして秋なれてみむをかくら山の木々のもみち葉 貫時」同「つゆしものなかくら山のいろ〳〵にそむるもみちの千しほ百しほ 敏嵐」

オカグラ 御神樂岳 御神樂岳(福島・新潟縣境)の別稱。

オカゴー 岡郷村 茨城縣下絵國猿島郡の北部。古河町の東方約六粁、北は新水縣下都賀郡野木村と界す。土地平坦、最高處も海拔二十餘米に過ぎず。中部の低處には水田南北につづき東西の高處は林野廣し。古賀町より東隣弔島村を連ぬる縣道村を東西に貫きバスを通じ交通不便ならず。米・麥を主産とし、桑苗の特産あり。この地和名抄葦島郡高根郷の内か。近世は古河公方以來古河城主の領内にして弔島庄岡郷に屬せりと。蓋し村名も之より起りしものか。古河公方の區劃訪三河守の居りし所にして、大永六年城廢すと。其城址は圓鎮寺の境内となれる地といふ。之が爲か今村内に諏訪氏を稱する者多し。大字小堤は東鑑養和元年二月の條に據れば野木宮合戰の際その戰場となりし地といふ。

オガサ 小笠 【小笠郡】 靜岡縣五市十三郡の一。遠江國に屬し、縣の中部の西南地區を占め面積約四三三方粁。地はほゞ頂點を北にせる楔形を呈し、東面は榛原郡に、西面は周智郡南部と磐田郡東南部とに隣接し南は遠州灘に面す。赤石山脈に屬する大日山北境に位し、その脈東南に延び白光山(八三二米)・栗ヶ岳(無間山)となりその末は謂ゆる牧野ヶ原臺地とよばれ御前崎方面に低爽す。菊川は臺地の北部を貫き、逆川(掛川)は臺地の西側を浸蝕して共に西南に下り、下流流域に各々沖積地をつくり、その間、卽ち郡の西南部に小笠山・高天神山等二百米臺の臺地を存す。牧野ヶ原臺地は一面の茶畑をなし、製茶業は縣下の首位を占め、沖積平地には田畑よく拓けて米・麥・大豆・甘藷・馬鈴薯・蜜柑等の農産多く、北部山地には林産少からず。舊東海道は榛原郡金谷町より佐夜中山を經、逆川の流に沿ひ郡の中部をほゞ東西に通じて磐田郡袋井町方面に出で、縣道また縱横に通じて多くはバスの便あり、また省線東海道本線は始め菊川に沿ひ後掛川駅を經て西し、その掛川駅よりは二俣東線分岐して森町に通ず。また中遠鐵道は袋井町より郡の南部三俣村に達し、郡内交通便利なり。本郡は明治二十九年四月佐野・城東二郡を廢し、其地域を以て置きしもの。

【小笠山】 東海道線掛川驛の南方約四粁に位する山。靜岡縣小笠郡西南郷・上内田・土方・笠原の四ヶ村並びに磐田郡袋井町の境界に峙ち、標高約二六〇米。低山なれど東方近く駿河灣に臨み、風光よろし。頂上に小笠櫃現を祀る。東北方には小夜の中山、南方には高天神山續く。天正七年德川家康掛川攻めの際ここに本陣を置きたり、その跡今笹ヶ峯御殿と云ふ。山中に松茸を産す。

オカザキ 岡崎・岡碕 【岡崎村】 神奈川縣相模國中郡の中部。伊勢原町の南隣にて平塚市の西北約五粁を距つ。面積四・三七方粁の小村なるも北半に低き丘陵地ある外は土地低平にして花水川の支流鈴川西北より東南に流れ田畑よく拓け、米・麥・甘藷の産あり、又養蠶行はる。伊勢原町・平塚市間の縣道に沿ひ桐地へバスを通じ、交通便利なり。

此地は和名抄、大住郡大屋郷の地にして近世糟屋庄に屬す。矢崎・大畑・大句・西海地・馬渡・入山瀬・丸島・北大縄等を合して岡崎村と稱せしも、明治二十二年この大字名は皆廢止せらる。岡崎村の名は往時此邊を岡崎郷といひしより起りしものなるべし。入山瀬はもと一村なりしも元禄國に上下の二村に分れ、往古岡崎四郎義實の所領たりしより黒世その氏族が傳領せしも、永正九年三浦陸奥入道道寸、北條早雲の爲めに岡崎城を退去してより小田原領に屬し、永禄の頃は足軽等の給田たり。のち須田金三郎・黒田五左衛門の知行たりし地。〔岡崎城〕治承年間、三浦大助義明の弟、岡崎四郎義實の居住せしより黒世三浦の一門の居りし處。康正二年足利左兵衛督成氏、上杉氏と戰ひし時、上杉方三浦介時高、當城を乘取り近郷を押領す。時高の嫡子陸奥入道、道寸が在城の時、永正九年北條早雲、伊豆・相模二州の軍兵を率ゐて攻め來り防戰効なく城塞に閉り道寸は三浦郡住吉城に遁る。これより北條氏に屬せしが後廢す。

【岡崎市】 愛知縣東南部の都市。三河國の西部に位し、北は額田郡岩津町・常盤村に、東は河合・山中二村及び幡豆郡町に接し、西は矢作川を隔てて碧海郡矢作町に對す。東境には三河山地の繰邊をなす丘陵あるも、西半は三河平野の東部に當り、地平坦にして水田桑園多く、太平川市の中部を東西に流れて矢作川に合し、兩岸にまた平地をつくる。市街は市域の北西部、矢作・太平二川の合流地に發達し、舊東海道の一驛に當り、北方へは足助街道、西南方へは岡崎街道を通ず。東海道本線は市の西南部を掠めて知根町に岡崎駅(明治二十一年設置)を置き、社線名古屋鐵道西尾線ここに起り、西尾を經て港外に達し、社線三河鐵道岡崎線は市の西部を北上して擧母に通じ、また名古屋鐵道東部本線は東海道に沿ひ市を西北より東南に貫き岡大寺町に東岡崎駅を、美合町に美合驛を設け、西北は名古屋、東南は豊橋への交通に便ず。戰國時代より德川氏黒代の城邑となり、江戸末期以後は本多氏の城下たりし處。明治維新以後東海道本線の驛との距離遠く一時衰退せしが、近時製絲・製綿・紡織・織布等の工業また盛となれり。また三河木綿・八丁味噌・三州瓜はこの地の特産として古く名に著はる。太平川畔に近く岡崎城址あり、今公園となれり。明治二十二年町制を布き、三十五年男川村の欠を、三十九年三島村及び乙見村の大字小呂・稲熊を、大正三年東幡町を順次併合し、五年七月市制を施行す。昭和三年九月岡崎・男川・美合の三村と常盤村の大字箭柳を併合せり。〔岡崎城〕菅生町にあり。後花園天皇享德元年、大草の城主西郷彈左衛門、菅生の龍頭山を相して築城す、是を岡崎城となす。其形龍の蟠るが如く、尾か頭かと、遂に岡崎と號すといふ。或は曰く岡阜の靈頭たれば岡崎と。又曰く古昔海水灣入して海角たり、岡阜の海角、故に岡崎と稱すと。然れど築城以前に地名なし、故に一說當れるならん。後花園天皇の享德元年に西郷彈正左衛門入道清海茲に城を築き名づけて岡崎城と云ふ、岡崎の名これより起る。大永四年世良田次郎清康入城し其子廣忠に傳へ、天文十一年稀世の英雄德川家康此處に呱々の聲を揚ぐ。天龍元年家康の濱松城に移るや其子三郎信康居城し天正七年石川伯耆守數正城代となり同十三年本多作左衛門重次之に代る。天正十八年に田中兵部大輔吉政、慶長六年に本多豐後守康重代りて城主となり同康紀・忠利・利長に傳へ正保二年水野監物忠善之に代り、同忠春・忠盈・忠之・忠輝・忠長・忠任に傳へ寶暦十二年松平周防守康福入りて城主となり明和六年本多忠勝九世の孫忠擧・忠憲之に代り五萬石を領し世々傳へて明治維新に及ぶ。明治二年其藩籍を奉還し、同四年此地に額田縣を置き次で愛知縣に合す。城址はいま岡崎公園となり、石垣・濠址などを存し、本丸址には遺石及び藩祖本多平八郎を祀れる縣社龍城神社あり。二の丸、三の丸址には圖書館その他の建物あり。また本丸址の東南、風呂谷には家康産湯井の舊蹟と傳ふるものあり。〔伊賀八幡宮〕伊賀町に鎮座。縣社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后。創立年代を詳かにせざるも、地方の名社にして、文明年間領主松平信光の子親忠の創立と傳ふ。慶後岡崎城主歷代の尊信篤く、第一代清康特に靈驗を信奉し、その子廣忠、織田氏大軍の來襲に遭ひたる際、本社の加護に依り遂に之を敗走せしむ。茲に於て更に德川氏の尊信を篤め、廣忠の子家康は本社と六郷明神とを以て一家の宗祠と仰ぎ、弓矢守護神として卓越せる殊遇を加へ、朱印領二百二十八石を寄せ、三代家光また「當家黒代所師侯、殊東照大權現尊崇之靈廟」となし、のち元和・寛永間度に加增ありて、五百四十石の巨額に及ぶ。例祭、八月十五日。本社々殿(本殿・幣殿・拜殿・透塀・御供所・隨身門・神橋・鳥居)は慶長十六年德川家康の建造、寛永十三年同家光の再建にて、すべて國寶に指定せらる。當社は南面し、社殿・隨身門・神橋・鳥居を殆ど一直線上に前後して配置し、別に拜殿の右方に御供所を建つ。社殿は權現造總朱塗にして而も隨所に彩色を施す。本殿斗栱・蟇妻飾並に拜殿向拜・懸破風等に於ける手法はよく江戸時代初期の特徴を示せり。拜殿脇より本殿周圍を繞る透塀の欄子頭に金剛燈型を應用せるは珍とすべく、御供所また同時の建立にして各部の瑞禽彫刻は社殿と同一手法なり。隨身門は再建なるも寛文年間に大補修を經たるものの如く、下層高く上層割合に低き權衡は其だ美しく、その屋根入母屋は破風及び懸魚には青海波を浮彫とし、上層の軒を吹寄棟とし、斗栱間に

は異様なる蕪鼠を用ふ。神橋は総石造にして二重虹梁大瓶束蕪鼠を用ひ、橋骨を造り所所に擬鼻を飾るなど橋として珍しき構築より成り、更に特殊なる形式の勾欄を飾り、今盤に亘り彫刻たる新味を現はせり。〔六所神社〕大寺町に鎮座。縣社。祭神、猿田彦命・鹽土老翁外十二柱。齊明天皇の勅願に依り奥州鞍龍六所大明神を勧請せるところと云ふ。松平清康入國以來代々徳川氏の崇敬篤く神領高六十二石餘を寄し、慶長九年には社殿の修覆、神器の寄附等あり。三代將軍家光上洛の砌、松平伊豆守をして代参せしめ朱印百六十二石餘を献ず。明治四十三年村社天白神社以下八社を合祀し高宮神社と改號せしも大正十年現社號に復す。境内約一ヘクタール。例祭、十月十四日。本殿は三間社流造、屋根銅板葺。幣殿は桁行二間梁間三間、無層、屋根廂下、銅板葺。拝殿は桁行五間梁間三間、無層、屋根入母屋造、正面据破風附、銅板葺。以上は江戸初期の華麗なる彫飾を施せり。社殿所は桁行五間梁間二間、単層、屋根入母屋造、銅板葺。その様式より推すに年代少しく下る知く、或は寛文二年徳川家綱の宮社修理の際に建てられしものなちん。以上何れも國寶建造物に指定さる。〔龍城神社〕康生町に鎮座。縣社。祭神、徳川家康・本多忠勝。始め天文十一年徳川家康岡崎城(一名龍ヶ城)に生る。爾後その産湯井の存するに因み神霊を鎮祭して東照宮を建立し、以て黒代城主の崇奉社とす。また慶長十五年本多忠勝桑名に卒す。嗣子忠政姫路在城の砌その神霊を鎮祭し、享保十年八世の孫忠良の時、京都吉田家より映世明神の神號を受け、明和七年忠善岡崎城に轉封の時これを遷祀せり。明治九年東照宮と合祀の上現社名に改稱。大正三年神饌幣帛料供進社に指定さる。例祭、四月十六・七日、映世祭十月十七・八日。〔稲前神社〕字稲熊に鎮座。郷社。祭神、天照皇大神・天兒屋根命・應神天皇。創立年代を詳かにせざるも延喜式内社にして、のち國内神名帳に「正五位下稲熊天神」と見ゆ。もと神明宮とも稱す。蓋し伊勢神宮の神領たる稲熊御園に、何時の世にか奉齋せられしものならん。稲熊は稲前の轉訛とも云ふ。古く社側に神倉ありて、新稲を伊勢に奉るを先づ社に運び、然る後伊勢に送りしにより稲前の號ありしと云ふ。又もと岡崎城内にありしを築城の際に現地に遷祀すと云ふ。例祭、八月十六日。神事花火は著名なり。〔岡崎天満宮〕字中に鎮座。郷社。祭神、道真命・菅原道貞。創立年代を詳にせざるも 建保年間本間三郎重光の勧請とも、また永禄年間江戸湯島天神社贈祐信が木像を奉じて合祀せりとも傳ふ。東は遠く本宮山を望み、北は六所山に對し、頗る風景に富む。例祭、八月二十二日・二十三日。〔源空寺〕能見町にあり。浄土宗。法然上人遠州櫻ヶ池に赴く時の宿所にして、三河名號は當寺に憩息せる折成れるものと傳ふ。〔甲山寺〕字六供(甲山)にあり。天台宗。長鄰山と號す。景行天皇の御宇日本武尊東夷征討の砌、三河國蓬の里にて矢を落らせ給ふ。今の矢作の地之なり。或夜夢に三翁現はれ我は三蓬星の精なり、尊東征して夷の首を山神に供へ給はば必ず守護し参らせんと告ぐ。尊其の後を追ひしに三箇の大石あり、因つて東夷征討の歸途ここに甲首を埋め給ふ。因りて甲山と名づく。後八幡太郎義家奥羽征討の際、甲を山神に手向け永へに武威を輝さんことを祈願せしにより長鄰山と號す。享禄三年安城三郎清康岡崎入城の際、鬼門鎮護として傳教大師の草創になる安城村藥師堂並に東圓・多寶・秘梁・吉祥・花蔵・法壽の六坊を同地に移す。之當寺の榧樹とす。天正十三年松平廣忠、その室の懐妊に臨み安産の祈願をなして功ありし松本放光寺の廣忠法印のため、和田山法性寺の一山六坊を併合して一山十二坊とし、同所に移し、新たに護摩堂を建てて之を總本堂とす。爾來一山の勢力徳川氏の興隆と相俟つて盛んとなりしが、其後十二坊中の六坊は廢絶す。慶長年中家康本堂を再建し殘坊六坊に寺領を與ふ。六供の名之に因りて生ず。爾來岡崎城主歴代の祈願所たり。〔高隆寺〕高隆寺町にあり。天台宗。多寶山と號す。足利上總介義氏の菩提所たり。草創・沿革詳ならざるも近世まで寺領三十五石を相傳すといふ。〔松應寺〕松本町にあり。浄土宗。能見山瑞雲院と號す。三河三箇寺の一。徳川家康の草廬。開山は聖譽貞把。天文十八年岡崎城主松平廣忠軍中に卒せしにより遺骸を能見原に密葬す。幼嗣竹千代(徳川家康)墓參の際、塚上に小松一株を植ゑて墓標に代ふ。永禄三年家康墓側に一宇を建立す。之即ち當寺なり。慶長十九年大伽藍を再建し朱印百石を賜ふ。〔浄泉寺〕六地蔵町にあり。眞宗大谷派。深田山と號す。開基は良存法師。もと額田郡土呂郷にあり、蓮如上人當國行化の際自ら影像を寫して良存法師に授く。慶長年中本多忠勝當寺を治所桑名に徙し父祖の香華院とす。爾後本多氏の轉封と共に姫路・郡山・福島・姫路・古河・濱田等を經て、明和七年再び岡崎城に復す。寛永五年信徒の乞に依りて現地に移る。例年四月十九日より七日間蓮如上人の御忌を行ひ、詣者雲集す。〔勝鬘寺〕大字針崎にあり。眞宗大谷派。開山は信願房了海上人。往昔末寺五十餘箇寺を統ぶ。永禄六年本願寺門徒一揆を以て名高き寺門の一。名古屋市大津町の勝鬘寺はこの針崎より移建したるもの。〔隨念寺〕門前町にあり。浄土宗。佛現山壽德院と號す。徳川家康祖父清康(善德院)・伯母久子(隨念寺)の菩提のため創立す。開山は暦譽智聞上人。堂宇は本堂・方丈・庫裡・觀音堂・經輪蔵・阿育王塔・山門・總門・徳川家廟等。山上に佛現の霊地あり。〔誓願寺〕梅園町にあり。浄土宗西山派。鹿跡山と號す。深草義三州十二本山の一。慶岳上人、徳川家康の任官の爲め輪旋せし功に因り、家康歌訪明神の社側に一寺を建立して上人に賜ふ。之即ち當寺なり。〔大林寺〕魚町にあり。浄土宗西山派。拾玉山と號す。深草義三州十二本山の一。もと光林寺と稱す。後村上天皇の勅願所、暦應元年天皇茲に閑居し給へり。後岡崎城主松平信貞先公幽閑の墓地に光林寺を移し今の寺號に改め天譽上人を請じて開山とす。當時寺域廣大にして能見一帶の地は悉く當山の境域に屬し、其間に寮舎二十五院點在せりといふ。今數箇寺の末院を統ぶ。〔本宗寺〕美合町にあり。眞宗本願寺派。平地御坊と稱す。文明年中蓮如の草創、天正十一年再興さる。寺地宏大諸堂宇を具備す。〔三河別院〕中町にあり。眞宗大谷派。天明八年道俗碧海郡幕戸に設教所を創し明治二十二年本願寺聖如之を廢し岡崎市三河教校内に別院を立つ。聖年現地に移し假堂を建つ。現堂は明治四十二年の落成なり。〔龍海院〕明大寺町にあり。曹洞宗。一に興國場是学寺と稱す。享禄三年岡崎城主松平清康の創建、開山は惟俊。後徳川氏の位牌所家の菩提所たり。〔岡崎源氏發生地〕指定天然記念物。本市の地は源氏發の發生地として知られる。古來生田發と呼ばれ、六月上旬其の羽化最盛期に達せば夕刻八時頃飛び交ひて美觀を呈す。〔岡崎種鶏場〕市内伊賀町にあり。三河鐵道岡崎線八幡社前停留場の東約半粁、一千六百アールの地積を占め、所々に鶏舎を設け、飼育・改良蕃殖・種鶏卵の配付・産卵能力の検定・發鶏の指導及び奨勵、發鶏に關する技術の傳習をなすを目的とす。現在飼發の種類は單冠白色レグホーン・横斑プリマスロック・單冠ロードアイランドレッド・名古屋種等なり。

【岡崎】愛知縣額田郡にありし村。昭和三年岡崎市に編入さる。

【岡崎】京都市左京區の町名。此地は舊白河の一部にて吉田山の神樂岡、黒谷山の栗原丘の先端に當るを以て岡崎と稱せしと云ふ。平安時代の季には法勝寺等の大伽藍建ち並びしが、爾後兵亂打續き或は兵火の爲めに荒廢し人家も稀にして遂に全く田畠となりしが、明治二十一年京都市に入り岡崎町と稱す。明治二十八年平安神宮創設せられ第四回内國勧業大博覽會の會場此地に設けらるるに及びて附近も大に復興す。好色一代男・二「山つづき岡崎といふ所に、妙壽といへる比丘尼、草庵を結び、東南の明りをうけず、穆隣子も假名文の反古張、上書墨やぶりしは、わけらしく見えて、一間小閣くこしらへけるこそ、くせものなれ、愛はと友どちにきけば洛中のくら宿なり」大經師曾暦・中「京近き岡崎村に、分限者の下屋敷なば南隣、中にはさまるしよげ鳥の、浜人の果の取葺屋根、見るかげ細き釣行燈、太平記講釋」〔岡崎公園〕平安神宮の南にあり。南及び西は疏水運河に臨み面積約八・五ヘクタール、中には大正御大典の際の舞楽場を下賜されてこれを改造せし京都市公會堂を始め京都府圖書館・紀念動物園・京都市美術館・第二勧業館等あり、東北隅に大運動場設けられ、圓山公園の如き林泉の美なきも平安神宮、東山一帶の翠巒を背景としたる公園なり。

【岡崎村】和歌山縣紀伊國海草郡の中部。和歌山市の東部に接し、東北部に丘陵ある外、概して平坦にて耕地よく拓け、米・麦等の外蜜柑の産あり。和歌山市より東方那賀郡中貴志村方面に至る社線和歌山鐵道南部を東西に貫き神前驛(大正五年設置)を設け交通は便利なり。古くは和名抄、名草郡忌部郷に當り、大字井邊は郷名の遺稱。※忌部。〔岡崎坊舎〕大字森小手穂。眞宗本願寺派。和歌山市慧海堂前町本願慧森別院の附屬たり。延寶六年本願寺十四世寂如、和歌山新魚町に在りし天台宗光明寺の荒廢せる寺基を移して本山別院となし以て當國門末の納骨所と定む。是れ本坊の起原たり。本尊阿彌陀如來木像は聖德太子作と傳へらる。〔講願寺〕大字寺内にあり。眞言宗山階派。弘誓山大天王院と號し天治二年輔慶此地に鎮佛を發見し、鳥羽上皇に上奏して一宇を創建せしに始まる。爾後貴賤上下の尊崇厚く寺運隆昌なりしも、天正年間豐臣氏の兵火に焦土と化す。のち再建さる。元和五年、徳川頼宣ここに鉄封するや境内を免地となし殺生の禁札を賜はる。貞享元年現地に移れり。

【岡崎】島根縣那賀郡にありし村。明治二十五年三隅村と改稱、昭和二年本村外西隅村を廢し其の區域を以て三隅町を置く。

オガサワラ　小笠原

【小笠原諸島】北緯二四度—二七度四〇分、東經一四一度一六分—一四二度二六分の間に散在する聟・父・母及び硫黄の四列島、三十餘島の總稱。小笠原列島ともいひ又單に小笠原島ともいふ。多くは火山性の島なり。面積約一〇三平方粁。聟・父・母の三列島の地質狀態は全く同一にて主に安山岩及びその集塊岩、凝灰岩等より成る火山島なるが、その火山活動は、特に母島に見らるる有孔蟲の化石(貨幣石)が示す如く 第三紀の舊亞紀に屬し、所謂當土火山帶に屬する火山の火山活動より遙に舊期に屬することは注目に値す。以上の列島中にて父島・母島が最も大で、何れも現在の珊瑚礁に圍繞さる。硫黄列島は母島の西南西方に鉄ぶ北・中・南の三硫黄島より成り何れも幼年期の火山島なり。氣温は熱帶圏に近きためと、山海相迫る小島嶼なるため比較的高

盛、且つ較差は小なり。大村に於ける年平均氣溫は二二・一度、八月二六・四度、一月一六・四度を示し、晝夜の較差著し。年平均降水量は一五七〇粍にて、一日數回晴雨の變を呈し、しかも雷雨の至るを常とするも春秋に多く、風は夏秋の候に颱風に襲はれること珍しからず。十二月—二月は北西の風高く、七月—十月は東風多く、五月—八月に亙りて最も平穏なり。生物は絶海の火山島なるため種類は多からざるも、植物の景觀は内地と全然相違し、殊に豐富な羊齒類、蘭類、巨大な桑やカヅノキ、動物では大蝙蝠、海鳥亀など珍らしく、蛙や蛇の棲息せざるは奇とするに足る。小笠原の住民は凡て新しい入移住者にて、古くて二、三代に過ぎず、各地より集合せるものにて固有の風習言語は見られず、たゞ八丈島より渡來せる者が過半數を占むるため、それの風習に類似するもの少なからず。家屋は寝所と寄所とを別棟にし、舟はカヌーを專ら用ふるは、歸化人を範囲たるものか。在留外人は明治八年一五戸七四人、十二年十戸六七人、その内譯はイギリス人二二、アメリカ人九、オスパニヤ人一六、カナダ人四ありて、十五年に全部歸化せし當時は二〇戸七二人なりしといふ。明治の末年には二八戸一二〇人に增加せるが、その後は出移住する者多くして以前の二分の一ほどに減少す。彼等は父島の奥村、大村清瀬に内地人と雜居し、農漁に從事し、有力者たるものもあるが、多くは熊島の生活に安ずる狀態なり。とにかく内地人との間の雜種、歸化人間の雜種等は人類學的に興味ある研究對照なり。内地人は既記の通り明治八年以降の移住にて、二十年頃より甘藷の栽培が擡頭して漸く入移住者が增加し、三十三年には五五五〇人に達せしが、大正十年の六〇三三人が最高として漸減を示す。これは主として糖價の暴落に基づくものなり。南洋サイパン島へ再渡航せる者も少なからず。昭和十年の人口、父島三六九二、母島一七八二、硫黄島一〇六五、北硫黄島九二、南鳥島五、弟島三七、聟島四六、嫁島二、姉島三、姪島五、合計六七二九人。産業は農漁に限らる。壯年期の地震を呈する小火山島のみなるため平地に乏しく、一一〇七町歩の耕地を有するも、硫黄島を除けば殆んど急傾斜の山畑なり。水稲作は全く行はれず、甘藷の單一耕作にて、施肥もしない粗放的な奪略農業とす。甘藷は一般に帶及し、パナナ等の熱帶果實は臺灣産に壓迫されて現在は殆ど留意に値せず。冬季移出の蔬菜栽培、クロトン、カラユーム等の觀賞植物の移出が有望視さる。硫黄島の古柯は珍しく、鎮痛藥はコカイン藥の原料たり。漁獲は六—十月の鰹を最とし、次いで十一—五月の鰤・鮪なり。前者は鹽藏に製造され、後者は鮮魚として京濱に移出さる。父島の近海よりは珊瑚が採取さる。

大正四年以降民業に移され、昭和元年には産價約百萬圓を突破する盛況にて、近年は約二十萬圓内外とす。夏漁にて歴史の古い綠蠵龜は六—七月の候産卵のため砂濱に上陸するものを捕獲するものにて現今は激減す。父島・母島には横濱より月一回の定期汽船あり、隔月毎に北硫黄島・硫黄島まで延長する。父島の二見港は頗る良港にて、一帶は要塞地帶たり、父島大村に父島要塞司令部あり。ここには南洋遠洋の御用船が寄港することもあり。母島には沖港・北港あるも、他の島には碇泊に足る港灣は皆無なり。文藤二年、信濃國深志城主小笠原貞頼、德川家康の旨を受け、伊豆下田より出帆してこの島を發見し、小笠原島と稱す。貞頼これに拓殖を試みしも果さず。享保十二年八月、小笠原貞任官に請ひ往いて檢せしが還らず。文政六年コフヒンの指揮せる捕鯨船來りて碇泊し、始めて群島の存在を近世の西人に知らしむ。外人は之をボニン島と呼ぶ。蓋し無人島の轉訛なり。同十年英國測量船ブラクリム來り、ペーリーと命名し、英王の名を以て占有を宣言す。その翌年、露國海軍の一船長ルトケ來り、また占領命名を試む。天保元年に至り、歐米人の一團、始めて本島に植民し小農業を營む。嘉永六年、米國水師提督ペルリの寄泊せし時には、三一人の住民ありしといふ。かゝる情形なれば、此間に歐米人の移住する者漸く多く其數を加ふ。幕府これを聞きて驚き、文久元年九月、外國奉行水野忠德・目附服部歸一等に命じて此島を開かしむ。十二月、忠德等は父島に著し、島人に開拓植民の意を諭す。島人わが政府の保護を受くべきの說狀を出し、八丈島より移住民を募りて農耕を始めしむ。時に幕末に際し、内憂外患のため問もなく中絶す。明治八年六月、外務官を遣はして島内を視察し諸外國をして確然わが版圖たる事を承認せしむ。同十三年、東京府の管轄に屬し島廳を置く。昭和二年七月、今上天皇親しく此地に行幸して民狀・風俗等を視察あらせらる。

【小笠原町】 山梨縣甲斐國中巨摩郡の中部。甲府盆地の西部に位し御勅使川及び濁澤川の造れる扇狀地に當り、南は大井村、北は源村及び飯野村に隣りす。土地整れ平坦、桑園よく拓け農業を主とし商業これにつぎて行はる。生絲・繭を主産物とし木製品・鳥卵・醬油・櫻桃・米等これに次ぐ。濁澤町・菲崎町を繋ぐ縣道村を南北に貫きバスを通じ交通不便ならず。また、山梨電氣鐵道村内を通じ、桃園・小笠原新田・小笠原・小笠原下町の四驛を置く。警察署・巨摩高等女學校あり。此地は和名抄巨摩郡等力郷の内なるべく、明治八年小笠原・桃園・山寺と合し明穂村と稱せしが、もと此處に住せし小笠原長清の古蹟に因み、昭和十一年に小笠原町と改稱す。清和源氏、新羅三郎義光の裔、ここに住し小笠原氏を稱せし地にして、子孫繁榮し、豐前小倉十五萬石の城主となれり。名勝志によれば、大字小笠原の祠平なる地に小笠原大膳太夫長清の館址、御所の跡ありと。

【小笠原村】 山梨縣甲斐國北巨摩郡の南部。菲崎町の東北約四粁、茅ヶ岳の西南麓を占め、南は穂坂村、北は上手村に接し西は釜無川の支流鹿川を界とし中田村に對す。土地東より次第に西に傾斜し山地多きも西邊には農業・養蠶行はる。西隣中田村に出づれば南は菲崎町、北は若神子村方面へバスの便あり。此地は延喜左馬寮式に見ゆる甲斐國、穂坂牧の内にして、中古も名牧場たり。東鑑・建暦元年五月「小笠原御牧牧士、與二奉行人三浦平六兵衛尉義村代官一、有二喧嘩事一」

【小笠原】 甲斐國(山梨縣)の供枕。其地いま詳かならざるも今の北巨摩郡小笠原村の地なるべし。中巨摩郡にも小笠原なる地あり。されど北巨摩郡小笠原村は往時牧場のありし地なれば、或は此處か。夫木・二七「みかさ原すくろにやくる下草になつますあるるつるふちの駒　伸實」同・三「みかさ原やけ野の薄つのくめはすくろにまかふかひのくろ駒　俊成」

オガシラ 尾頭峠 おがしら 鶴木縣鹽谷郡鹽原町の西北に位し、標高一一四二米。東方の西那須野町方面へ通ずる會津東街道と西方の會津西街道とを結ぶ山道に當り、東南方約七粁に鹽原温泉湧く。北方に白倉山(一四六〇米)、南西方に三依山(一三〇五米)峙つ。

オカタ 岡田 おか

【岡田】 常陸國(茨城縣)那珂郡の古郷名。今の中野村、勝田村等、那珂川下流の左岸の地と稱せらる。

【岡田】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄久慈郡に郷名見ゆ。其地いま久慈川下流の北岸たる西小澤村の邊か。同村の大字岡田は郷名の遺稱といふ。一說には本郷はいま那珂郡に入れる大賀村・山方村の邊にして、大賀は即ち岡田の岡の遺れるものと云はるるも如何にや。

【岡田】 武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄見玉郡に郷名見ゆ。同書は訓み缺くも山城國の岡田郷の例により手加多と讀むべし。一本に岡田を岡太に作りオカモトまたはオカフトと讀むは誤なるべし。其地今の見玉郡金屋村・青柳村等の地に當るか。武藏丹藏に岡田氏あり、此地に起りしものなるべし。

【岡田】 近江國の古驛名。延喜兵部省式に近江國岡田驛馬二十疋と見ゆ。いま滋賀縣栗太郡志津村の大字に岡田・道分の名あり、蓋し古の驛家址なるべし。また岡田原として古來多く詩藻に入る。續拾遺集「あつき路に春やきぬらん近江なる岡田か原に若菜つむなり　惠慶」

【岡田原】 →岡田(近江國)

【岡田】 山城國(京都府)相樂郡にありし郷。和名抄に郷名を岡くも、いま三代實錄によりてこれを補ふ。紀伊郡岡田郷の例により手加多と訓むべし。地は今の相樂郡木津町・加茂町・當尾村・瓶原村等に當り、奈良朝の時、聖武天皇の一時遷都あらせられし恭仁京の地なり。續日本紀に和銅元年九月元明天皇、此地の岡田離宮に行幸せられしこと見ゆ。宮址いま詳かならざるも木津町の邊なるべし。同じく續日本紀和銅四年の條に山背國相樂郡に岡田驛を置くとあるは、今の木津町に當る。而して廢絶の期不明なるも延喜式に岡田驛の名なければ、此頃は既に廢驛たりしものの如し。三代實錄貞觀七年の條に岡田郷にて銅を採るの記事あり。いま加茂町に大字鏡司の名あり。鏡司は瓶原村布當川の東にして、泉河(木津川の古稱)の北岸なり、此附近ならんか。延喜式岡田國神社は木津町にあり、生國魂神を祀る。三代實錄「貞觀七年九月廿六日甲辰、勅二木工寮一採二銅於山城國相樂郡岡田郷一」

【岡田銅山】 →岡田(山城國相樂郡)

【岡田】 山城國(京都府)の古地名。和名抄紀伊郡に岡田郷あり、手加多と訓ず。紀伊郡東北隅の地にて、今の京都市下京區へ入りし東福寺邊の地か。山城志に東福寺の門前に岡田の地あり、郷名の遺稱なりと見ゆ。されどいま岡田の地名存せず。

【岡田】 紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄牟婁郡に岡田郷名見ゆ。訓を同くも山城の岡田郷の例に依り手加田と訓むべし。日本靈異記に紀伊國名草郡櫻村に櫻の大樹なる者あり、岡田村主石人の妹なりとあり。名草郡に岡田の地名未だ聞かず或は此地か指さるものか。而して本郷はいま何れの地に當るか詳ならず。續風土記に岡田は或は富田の誤りか、草體相似たれば恐らく和名抄の誤りならんと。果して然らば郡に富田莊ありて、いま和歌山縣西牟婁郡に屬し東西南北の四箇村に分る。一說にいま東牟婁郡に上太田村・下太田村あり、岡田・太田やゝ似たれば此地ならんかと。共に今遽に信じ難し。なほ考ふべし。

オカダ 崗田 おか —岡田村(愛媛縣)

オカダ 岡田 おか

【岡田村】 茨城縣常陸國稻敷郡の西北部。龍ヶ崎町の北方にて、東は朝日・奥野・八原の三村と西は座崎・牛久の二村に接し、北は新治郡東村及び筑波郡小野川村と界し、面積二七方粁餘。土地概ね平坦にして中部南北に田地拓け他は多く林野をなし、米麥を主産す。陸前濱街道と省線常磐線は村の西北部を横ぎり、また龍ヶ崎町より土浦町に達する道路東南部に通ずるも交通なほ大に便利ならず。大字岡見あり。請書に尾上と見ゆるは即ち此地なり。中世に岡見氏住す。新編常陸風土記に據れば、小田治久の二子某始めて此地に居を定め岡見氏を稱すと。

【岡田(郡)】 下總國(茨城縣)にありし古

【冒田山】 冒田郡の一山。[illegible]三[illegible]。

【冒田村】 冒田郡の西部。[illegible]三[illegible]。

【冒田村】 冒川[illegible]郡の西部。

【冒田村】 冒田郡の西部。[illegible]三[illegible]。

オカタ——オカタ

【冒田村】 [illegible]郡の中部。[illegible]。

【冒田村】 [illegible]郡の中部。[illegible]。

【冒田村】 [illegible]郡の中部。[illegible]。

にけり、是則嫉惡大明神の御神體とぞ聞えし。かくて姫は、程なく誕生せられける……七才にして元服して大太郎惟基とぞ申ける誠に弓矢打物取りて、九國二島に肩をならぶる者なし、是より大神氏とは稱しける、此大太郎に子五人あり、嫡子は三田井太郎政次・二男緒方三郎惟秀・三男草田七郎惟衡・四男大野八郎基平・五男三江九郎云々」〔南緒方宮道東石佛・南緒方宮道西石佛〕共に指定史蹟。大字新字宮道の緒方川に臨める宮道臺地の南側にあり。凝灰岩の岩壁に佛・菩薩像を半肉彫せるものにして、東石佛は大日如來坐像を中心に不動明王及び菩薩並に仁王立像を左右に配し、また石壁に五輪塔形の浮彫あり、仁王及び菩薩像は甚しく破壞せらる。西石佛は藥師・彌陀・釋迦の三坐像を刻めるものにして今なほ良く保存せられ、彩を施せる痕跡を殘存す。何れも平安時代の作に係るものならんといふ。〔大行事八幡社〕（緒方八幡宮）大字大化に鎮座。郷社。祭神、仲哀天皇・應神天皇・神功皇后。大化元年八月の創祉と傳へ、古來、緒方郷二十四箇村の鎮守として個坊八箇寺を置き毎歲八回の大祭を行ふ、依りて大行事と稱すと云ふ。古く此地は宇佐神封、大野五十煙の庤にして宇佐大神の封邑なり。當社また一に緒方八幡宮と稱せられ、中世此地に緒方氏起り、登後大神姓の豪族として聞え、鄕鎮明神をその氏神と傳ふれど正しくはこの八幡の氏子なるべし。天正年中兵燹に罹り社殿舊記悉く灰燼に歸す。のち藩主黑代の崇敬を受け、社領八段を加ふと云ふ。明治十一年同村字宮尾鎮座の緒方三社故宮を當社に併合せしも同十六年二月更に分離して同郡新村一宮八幡社を併合す。例祭、四月二日。

オカダカミ　岡田上村　京都府丹後國加佐郡の西部。由良川下流に跨り有路下村と岡田中・岡田下二村の間に位す。東南は何鹿郡志賀郷村に、西北は與謝郡上宮津村に界す。村の中部由良川の南岸に小平地あるも外多くは山地にて針葉闊葉の混淆林地をなす。福知山より宮津方面への縣道は由良川北岸に沿ひて通じ舞鶴町・河守町方面へバスの便あり。本村及び岡田中村・岡田下村の地は、和名抄、志託郷の地にして、中世は志高莊と呼ばる。大字に地頭の名あり、中世の莊園制度を物語る一資料とす。

オカダシモ　岡田下村　京都府丹後國加佐郡の中部。舞鶴町の西南約八粁、岡田上・岡田中二村の東に接し、高野村の西に位し南は何鹿郡志賀郷村に界す。由良川西北部をほゞ南北に貫き兩岸に沿ひて平地ありて耕地拓け、米麥を産し、外に工産・林産あり。縣道は川の左岸に通じ、舞鶴町・河守町へバスの便あり。本村は岡田中村・岡田上村と共に古くは志託郷と稱し、和名抄に見ゆる古き郷名なり。中世は志高莊に作り、いま本村大字志高は舊莊號の遺稱なり。式内の古社大川神社ありて昔に大川原大明神ともいふ。また地學上志高統と云ふは、大字志高邊に發達する理岩・砂岩・頁岩の黑層にて、由良川の谷に好露出をなし、その最上部に薄き褐煙炭層を挾み、その上下登より植物化石を産す。この植物化石層は大雲川に沿うて狹長なる小地域を占め、中部ジュラ系ならんと考へらる。〔大川神社〕　大字大川にあり。府社。保食神を主神とし、國狹槌神・句々廻馳神外三神を配る。創立年代を詳かにせざるも、地方の古名社にして、早く貞觀元年從五位上を授けられ、尋いで同十三年正五位下に陞り、醍醐天皇延喜の制名神大社に列す。俗に大川原大明神とも稱す。例祭、十月二十八日。

オカダナカ　岡田中村　京都府丹後國加佐郡の中部。舞鶴町の西方約一〇粁、由良川中流北岸にあり、西は岡田上村、東は岡田下村に接し北は與謝郡栗田村と界す。山地多きもその間所々に小平地ありて米・麥・繭を出しまた竹材・木材等の林産あり。村の南部は舞鶴町・河守町へバスの便あり。本村は岡田上村・岡田下村と共に和名抄志託郷の地にして中世は志高莊と呼ばれし處。

オカチ　雄勝・男勝　【雄勝郡】秋田縣九郡の一。縣の東南隅にあり平鹿郡の南に隣り、西北は由利郡に、東は岩手縣西磐井郡に接し、南は宮城縣栗原・玉造二郡に、西南は山形縣最上郡と界す。面積約一、三〇六平方粁、人口九八四〇八人（昭和十年）。地勢は栗駒山・火山（一六二八米）の西北斜面にあたり、北に延びては桑原岳（一一二七米）・東山（一一一七米）となり、西北に虎毛山（一四三三米）・神室山（一三六五米）・山伏嶽（一三一五米）等の諸火山連亘し、溫泉また之に伴ひ湧出す。雄物川は西南山地に發して栗駒山の西北斜面に發する皆瀬川その他の支流を合せ北流す。北部は横手盆地の南端に當り、灌漑の便よく、水田・桑園拓く。農産物は米・大豆・粟・馬鈴薯・葉煙草等を産し、本縣の葉煙草の大半は本郡に産し、また闊の産額縣下第一とす。畜産は牧場多く牛・馬を飼養し林産また少なからず。院内銀山と共にその産額西隅にありて田子内鑛山と共にその産額多く、織物・漆器等の工産を出す。省線奥羽本線は雄物川の溪谷に沿うて南北に通じ、國道（羽州街道）また之と並行に走り、其他縣道、横堀町より陸前に入る鬼首街道、由利郡本庄町に至る本庄街道、南部をほゞ東西に通じ、皆瀬川沿ひに增田街道通ず。古くより小勝（雄紀）・男勝の名見え天平五年始めて雄勝郡に作る。郡名は雄勝塚を祀る雄勝宮より起るか。和名抄は乎加知と訓じ、雄勝・大津・中村の郷三と餘戸一を置く。中世私に平鹿・山本の二郡と合して山北郡と稱したるも寛文年中舊に復す。幕末大變化なく今日に至る。

【雄勝・男勝】　續紀に見ゆる出羽國の村名。天平九年正月「陸奥按察使大野東人等言、征二陸奥國一道二出羽柵一、道不レ經二男勝一、行程迂遠、請レ征二男勝村一、以通二直路一」次いで天平九年四月「雄勝村俘長等三人來降拜首云々」とあり。此村は雄勝城建設以前にかゝり、天平寶字三年に築かれし雄勝城の位置と同じからず。當時の情勢より推して、或は今の雄勝郡秋ノ宮村大字中村の邊にあるべし。

【雄勝】　出羽（羽後國、秋田縣）の古地名。出羽の鎭城の一たる雄勝城及び雄勝郡々家並びに天平寶字三年に置きし驛等は皆此地にありしものなるべし。和名抄、雄勝郡に雄勝郷あり。郷の地域は今の雄勝郡新成村・西馬音内町・明治村等に當り雄物川の左岸の地なりん。〔雄勝柵〕また小勝柵にも作り、雄勝城ともいふ。出羽（羽後國）雄勝郡にありし城柵。續紀・天平寶字二年十二月、坂東騎兵鎭兵役夫及俘囚等を發して桃生城・小勝柵を造らしめ坂東八國并能登越後等の浮浪二千人を遷して柵戸となし、四年正月に城成す。此城は陸奥國の色麻・玉造等の結柵と出羽國の秋田城・由理柵等を連絡する重要なる鎭城なり。三代實錄によれば元慶二年秋田城下の夷賊群起し、出羽方面動搖少からざりし際にも、亦に雄勝の堅城は賊手に落ちざりき。爾後その荒廢の期明かならず。而して城址は今何れの地か詳かならず。凡そは郡家の所在地たる西馬音内町大字西馬音内か若しくは其北方新成村大字高尾田の邊ならんといふ。

【雄勝鎭道線】　秋田縣雄勝郡にある地方鎭道。奥羽本線の湯澤驛（湯澤町大字清水尻）より西馬音内町大字中野の西馬音内驛に至る全長八・九粁。湯澤驛より西馬音内驛に至る間に羽後山田（山田村）・貝澤・羽後三輪・あぐりこ（何れも三輪村地内）の四驛を置く。動力は電氣及び蒸氣を用ひ軌間は一・〇六七米。昭和三年に營業を開始す。

【雄勝灣】　宮城縣桃生郡の東南部にある灣。灣岸は十五濱村にして白銀崎と出島により灣口を扼し、南方御前灣とは高梨山・大名計島の線により隔らる。西北に灣入すること約七粁、灣奥に雄勝の聚落あり。

オカチマチ　御徒町　東北本線の一驛（大正十四年設置）。東京市下谷區御徒町三丁目にあり。

オカトミ　岡富　宮崎縣東臼杵郡延岡町は昭和八年市制を布く。

オガナカ　男鹿中村　秋田縣羽後國南秋田郡男鹿半島の中央部。船川港町の北に隣り、東は五里合・脇本二村に、西は北浦町と界し、北は日本海に臨む。南に寒風火山、西南方の毛無火山（六七三米）の間に挾まれ、九森山の西斜面に發する瀧川流域は間口濱の低地にして、此附近は八〇米の段丘を最高とし西北に低下する段丘あり。瀧川は男鹿半島最大の川にして曲流し下流は幼年期の地貌を呈す。耕地は瀧川の川口附近及び川沿に發達し、農業を主業として、農閑を兼ぬる戶數三十戶にすぎず。主産物は米・大豆・蔬菜・麥にして鮑の産も多く輝石安山岩を特産す。省線船川線の羽立驛（大正四年設置）に近くバスの便あり。又海岸に沿ひ街道通ずるも交通便ならず。村名の起原は此地は男鹿半島の中央に位せるを以て、もと館名村と稱せしも、北秋田郡に眞名村の同名村あるにより男鹿中村と改稱す。明治十二年山田・町田を合して山町とし、同十三年瀧川・中間口・近間口・山田・安全寺の五箇村に戶長役場を置き同二十二年町村制實施の際に安全寺村を除き他の四箇村合併して現在に至る。また寒風山の熔岩流の下底に縄文土器を出土せる遺蹟あり。

オカニシ　陵西村　奈良縣大和國北葛城郡のほゞ中部。高田町の西、當麻村の東に接す。面積僅に三・三三方粁の小村なるも、土地平坦にして田畑よく拓く。主産物は米・麥、また繭の産あり。省線和歌山線の高田驛、社線大阪鐵道線二上山神社口・磐城・尺土等の驛へも近く交通不便ならず。

オカニヤ　岡仁谷牧　↓岡屋牧

オカノ　岡野　【岡野】山城國（京都府）の歌枕。その地詳かならざるも、和名抄、宇治郡岡屋郷の地か。即ち今の宇治郡宇治村の字に岡之屋あり、或は此地か。萬代集「朝またき岡野の野邊のつほすみれつむへきほとになりもゆくかな　經衡」

【岡野村】　兵庫縣丹波國多紀郡のほゞ中央部。篠山町・城北村の西に隣り南河内村の東に接す。東北部に盃ヶ岳（四九六米）あり、村の北半は山地なるも南半は篠山盆地の中部に當り平坦にして田畑よく拓く。主産物は米、蔬菜及び花卉の栽培行はれ、また特産物に瓦の産あり。省線福知山線篠山驛（味間村所在）と篠山町を繋ぐ社線篠山鐵道は村の南部を掠めて岡野驛（大正四年開業）を置き、また篠山柏原間の縣道村の中部を横ぎり交通の便よし。歩兵第七十聯隊の所在地。篠山陸軍病院あり。

オガノ　小鹿野町　埼玉縣武藏國秩父郡の中部。荒川の一支流赤平川沿岸に沿ふ。西南部は高きも北部赤平川沿岸は低く耕地發達す。農産物に米・繭・麥等あるも製絲業最も盛んなり。縣道は町の南部を東西に走り秩父町（約一二粁）へバス通ずるも交通未だ便ならず。本町附近には中新統に屬す謂はゆる小鹿野層群の地層あり。小鹿野層群は下部は伊豆澤礫質砂岩層、上部は砂岩・頁岩の互層にして、小鹿野町の西伊豆澤（小鹿野町の大字）の今點より東小判澤の入口に亘り露出する地層にして、其他、皆野町舊渡場より瓦

田薙川合點に露出するものもこの層群に屬す。此地は和名抄、秩父郡瓦香郷の地なるべく、正保國に小鹿町とあり、元祿の國圖に上下二村に分る。丹藤系國に小鹿野猛部左野景及び基時、産三宗景・弟家景等と見ゆる小鹿野氏は此地に住し在名を稱せしものなるべし。〔小鹿神社〕大字小鹿野にあり。郷社。祭神、天兒屋根命・齋主命・武甕槌命・比賣命。創立年代未詳なるも地方の古社にして 古來全町の守護神として町民の尊信篤し。例祭三月二十七日。

オカノボリ 岡上村 神奈川縣相模國都筑郡の西部。南部を除く三方は東京府南多摩郡に境す。村内橡れ山地を成し、北部鶴見川に沿ひて僅に平地あるも、産業殆ど見るべきものなく主として蠶・麥等を産す。南・東・西の三方に縣道通ずるも交通未だ便ならず。いま柿生村と組合村を成し役場を柿生村に置く。

オカノミナト 岡水門・岡水門・岡湊・塙舸水門 岡屋 ↓塙水門

オカノヤ 〔岡屋牧〕 信濃國(長野縣)に置かれし牧の一。延喜式左馬寮式に見ゆる牧名に信濃國岡屋牧あり、東鑑文治二年三月の條に見ゆる信濃國二十八牧の中に岡仁谷牧とあるも同所なるべし。其地は諏訪湖の西北部に沿ふ岡谷市の内と云はる。岡谷は鐵道開通以前は岡谷と稱せし平野村の大字なりしも、鐵道の驛名を「おかや」と命名するに及びて岡谷の稱廢す。

〔岡屋〕 山城國(京都府)の古地名。和名抄宇治郡に郷名見え乎加乃也と訓ず。地は今の宇治郡宇治村の木幡・五箇莊邊なるべし。日本紀略に延暦十二年桓武天皇岡屋野に狩獵なされ給ふ事あり、岡屋野は即ち此地なり。姓氏錄に岡屋公・濟國比佐王の後なり、山城國に賞すとあり、本郷に本貫せしものなるべし。古くより近衛家の傳領にして兼經公(基通祖)は岡屋殿白と稱す。慈惠僧正遺告に法華堂領岡屋紅田百三十町と見ゆるは、蓋し近衛家の寄附なるべし。山州名跡志「岡屋(所名)在二西方寺西一有二民居一名村。仍和歌に、日くれなば岡屋にこそ伏みなれ、と詠ず。此所西方に河あり。宇治河の末にして伏見に至る。鴨長明「方丈記」に、岡屋に行かふ舟と云ふは、此所往返の舟なり。自二宇治一、槇嶋一伏見に至るなり。此所自レ古、近衛殿の傳領なり。同別館あり。今其跡あり。則彼家兼經公を、號二岡屋關白一。同所東に近衛家の墓所あり。」

オカバラ 岡原村 ↓岡原村（熊本縣）

オガハラ 雄鹿原村 廣島縣安藝國山縣郡の西北部。東は中野村に、南は戸河内町に、西は八幡村に隣り、西北は島根縣那賀郡波佐村と界す。西北境に大佐山(一〇六九米)、西南境に苅尾山(一二二三米)聳え極れ山地にして、北部に偏し僅かに盆地狀の低地ありて瀧山川の一支大佐川、大佐山に發して此低地を潤し東境を南流して福谷美を流す。林野廣きも水田よく拓け、産物は農産最も多く殊に米(年産三〇〇〇石)を主産し、林産これに次ぐ。八幡村より中野村に至る街道東西に通じバスの便あり、更に島根縣に通ずる道路これより分れ、交通や・便なり。村名は岡原より轉訛せしものの如し。此地は戰國時代、安藝の栗栖櫛頭と石見の福屋木工之丞の決戰せし地にして栗栖軍破れ、今その栗栖櫛頭の自刃の跡及びその墳墓並に一族郎黨の墓等あり。本村の東境を南流する大佐川流域の峽谷はその本流瀧山川とその支流大蟇川と共に瀧山峽の名にて世に知られ、堰堤完成し一大湖水に化せんとし、その割水美と峽谷美と相俟らて縣立藝北公園中にても最も勝景に富む。

オカバル 岡原村 熊本縣肥後國球磨郡の東南部。多良木町の西南に隣る。東南境に黒原山(一〇一七米)聳え、西北に緩傾斜し西南部は低平にして球磨川の小支西流し新地拓く。米麥等を主産す。多良木町にバスの便あり。此地は古く東南隣久米村等の地と共に和名抄球磨郡久米郷の地に當る。いま岡本・宮原の二大字より成り、村名は蓋しこの各一字を取りしもの。岡本に役場を置く。

オカベ 岡部 〔岡部村〕 埼玉縣武藏國大里郡の西部。深谷町の西に隣り、北は兒玉郡に界す。村内一般に低平なるも南部やゝ高く桑園拓け、北するに及んで低く利根川の小支流小山川の瀧漑を待て水田發達す。省線高崎線深谷町より來り村の中央を西北走して兒玉郡本庄町方面に至る。また國道中山道ほゞ之に沿ひバス通ず。生業は農業にして蠶の産最も多く、米麥の産これに次ぐ。此地は和名抄、橘澤郡橘澤郷の地にして近世靜田庄に屬す。春日氏の族猪飼黨の岡部氏の起りし處。鎌倉時代は岡部六彌太忠澄の領地たり。近世は安部氏の食邑たり。本村は古來、歌枕の名所として知られ、拾遺集の曾根好忠の歌に武藏の岡部の原とあり。〔岡部藩〕寶永二年安倍氏三河より此地に封ぜられ陣屋を置く。初め五千石を賜はりしが攝津守信盛に至り三河八名郡牟原四千石を加封せられのち二萬五千石となり、明治の初め三河に移り牟原藩と稱す。〔鳥護・産泰神社〕大字岡にあり。郷社。祭神、瓊々杵尊・木花之咲夜姫命。創立年代不詳。本邦開拓に際しその靈驗に依り橘澤の鎮護守として崇信せらる。社名鳥護とは南西鳥居以下の八鳴は常に利根川の水害を被るに依り、之を免かれんが爲その守護神として仰ぎたるもの。産泰は蓋し安産守護の意。文久元年和宮殿下關東下向の祈社頭に橘澤郡總鎮守安産守護とあるに目を注がせられ、尊を正して遙拝あらせられしと言ひ傳ふ。例祭、四月十九日。

【岡部村】 山梨縣甲斐國東山梨郡の西南隅。甲府市の東約五粁。南は笛吹川を隔てて東八代郡に、西は西山梨郡に境す。北部は一般に丘陵地を成すも南部笛吹川沿岸は土地低平にして耕地拓く。省線中央本線石和驛(明治三十六年設置)を置きまた甲府市に縣道通じてバスの便あり。純農村にして蠶の産多く米麥の産これに次ぐ。此地は和名抄山梨郡山梨郷の内。大字鎌目の山梨岡は古來歌枕の名所として知られる。また付内に山梨瀧鑽泉あり、泉質は炭酸泉。夫木・二九一甲斐にて梨の花を見て、甲斐か嶺にさきにけりしなあし引の山梨の岡の山梨の花 能因一説古今集「あし引の山梨岡に行く水の絶えずそ君を慕ひわたるべき」大字國府は郡の設なるべく、往時山梨郡の郡家のありし所なりんといふ。〔山梨岡神社〕郷社。祭神、雷大神・大山祇神 高龗神。古來式内社と云はれ、日光權現とも云ひ、日光權現の稱は慶長八年の黒印狀を以てその初見とす。曾て朱印地八石一斗を有せしと云ふ。現社殿は里人なる飛驒の工の造立せるところと傳ふ。明治維新後、舊觀を廢し現社號に改稱し郷社に列す。建造物中、本殿は室町末期の造構を傳ふものとして國寶に指定せらる。また社前に痛足獅像を置きこれを邊と稱す。例祭、四月四日・五日。〔大藏經寺〕新義眞言宗智山派。松本山と號し同宗檜林七箇寺の一なり。聖武天皇の勅 行基の開創と傳ふ。中興開山は觀道なり。德川家康本寺を新願所と定め武運長久を祈る。寺寶中、絹本著色佛涅槃圖一幅は寺傳に靈彩筆とあり、元、明間の支那畫と推され現に國寶たり。〔大中寺〕大字國府にあり。曹洞宗。方廣山と號す。弘仁年中の草創。本尊正觀世音、鳥士不動明王・毘沙門天。中世水害に遇ひ堂宇を流失し、明應五年今の地に再建す。〔長谷寺〕大字鎌目にあり。新義眞言宗智山派。菩提山と號す。行基の草創。本尊十一面觀世音。蓋し國分寺の舊跡たり。山の形母胎に似たるより女人高野の稱ありて無諸者多し。血の池・寶の河原・閻の地藏等あり。また小見の足跡ある幼靈石なる珍石あり。〔寶幢院〕大字松本にあり。曹洞宗。萬德山と號す。曳以和尚の草創と傳ふ。本尊地藏菩薩。境内の風致頗る佳なり。〔保雲寺〕大字鎌目にあり。曹洞宗。摩澤山と號す。開山は通慶乘信和尚。本尊延命地藏尊。天和二年火災に罹り自郡和尚再建中興す。安永火難の後、英嶺和尚再建を企圖せしも良材乏しきを憂へ本尊に祈念す、一日、機越河合某方に本寺の使僧なる者訪れ、地内の黒柿・杼の大木を所望せしが應ぜず、然るに翌春それ等の大木俄に倒れければ、其の奇異に驚き本寺に寄進す。而も本寺よりは嘗て使僧歎道の事なかりしに故、寺僧初め遠近驚嘆し良材を寄する者多く、不日にして本堂の落成を告ぐ。この黒柿は陣子の腰板に、杼は四方縁その他に用ひしといふ。

【岡部町】 靜岡縣駿河國志太郡の東部。靜岡市の西に隣る。西北より東南にかけて丘陵起伏し茶園多く、僅に南部低平にして水田拓く。社線靜相鐵道北方に走り駿河岡部驛(大正十四年設置)を置き、また東海道これに沿ひ靜枝町にバス通ず。米・茶・繭を主産す。また一に鞍脱石とも稱せらるゝ三輪石を出す。安山岩質角板岩にして濃綠色。粗雜にして二瓣内外の安山岩塊を含むもの多く土木用材に供せらる。國道本紀に廣原國道意加邊彦命とあり、蓋し此地に由緣あるものか。また中世岡部氏の住したりといふも今その實蹟は詳かにするを得ず。古くは鎌倉街道の宿場にして、近世は東海道の宿驛たり。當驛より丸子驛へ一里二九丁、靜枝驛へ二里八丁。東國紀行「前島の宿を立ちて、岡部の今宿を打ち過ぐる程、かたの山の松のかげに立よりて、かれいひなどとり出でたるに。風すさまじく梢にひゞき渋りて、夏のまゝなる旅衣、うすき袂もさむくおぼゆ。これぞ、このたのむ木のもと岡部なる松のあらしよ心してふけ」曙記「岡部の里に櫻一本咲たるを見て、あさ霧のなかべのさくら一もとの杉のしるしやたちかはるらん 光廣卿」新拾遺集「霧しげきうたの茂みを分こえてなかべにかゝるうつの山みち 法印定圓」雪家家集「かへりくる程はなけれど朝霜の、なかべのまくずうら枯にけり」丹波與作待夜の小室節「仕合よしの旅すゝ六里、十里八里も只一足に、先へ先へと咲き掛りたる藤枝・岡部・瀬戸の染飯、宇都の山邊の十團子」〔岡部鑽泉〕岡部川の清流に沿ひて位置し泉質アルカリ性含鐵泉。幕末の頃一仙翁の示現により發見せらるといふ。附近には四行法師笠掛の松、小野小町愛見ノ橋、美平朝臣の墓ノ御道等の勝地あり。〔神神社〕大字三輪字杉水に鎮座。郷社。祭神、大物主命・天照皇大御神・葛城一言主神。一に美和・三輪とも記し、美和天神・三輪大明神とも稱す。創立年代は不詳なるも、貞觀十五年八月從五位下を授けられ、延喜の制小社に列す。朝廷尊崇の古名社。江戸時代には德川幕府より三十五石九斗餘の朱印領を安堵せらる。なほ近郷の大社として一般の崇敬篤し。例祭、十月十九日。〔若宮八幡宮〕大字岡部字宮前に鎮座。郷社。祭神、大雷命・品陀和氣命・息長帶比賣命。創立年代を詳にせざるも、久安年中岡部清綱社殿を造營すと云ふ。爾來岡部氏累代の崇敬社となり、江戸時代には丹州亀山城主岡部長盛社殿を修造し、寛永二年更に修補を加ふ。もと除地高四石を有す。例祭には八幡宮の神輿常社に神幸して、狐轉しの神事ありしが、維新の際廢止すと云ふ。例祭、九月十三日。

【岡部】 勝間田(兵庫驛)にありし里の名。歌枕。今その所を詳かにせざるも歌

意より推して今の明石郡の海邊にありし里なるべし。定家家集「あかしかたいさなちこちもしらつゆのなかへのさとの波のつきかけ」

オカホ 岡保村 福井縣越前國吉田郡の南部。福井市の東約五粁。南及び西は足羽郡に境す。吉野ヶ岳の支脈なる河水山と岡保山は東南境を連亙するも高峻ならず、且つ大字花野谷より吉野村に通ずる竹貫鎧及び大字坂下より同じく吉野村に通ずる小畑坂あるも、其他は遠く西北に開けて鎧前平野の一部をなし、東部山地に發源せる諸水は荒川となりて西流し、足羽郡より來る酒生用水と共に能く全村を潤漑し地味肥沃、諸作物に適す。交通は福井市に近く不便ならず。米を主産するも、工産(絹織物・絹綿交織物)比較的多し。此地は和名抄足羽郡少名郷の地か、また延喜式に見える桑岡庄も此地か。村名は舊保名を轉ぜしもの。大字曾萬布は舊庄名にして、大字荒木別所は續紀に見ゆる大荒木臣に由緣ある地にや。大字大畑に諸ヶ瀧あり。高さ五米餘、幅約三米。この瀧は古く隣村吉野村に鎧える竹貫鎧の溪間にかゝれる故に竹貫瀧と稱せられしも、瀧口の岩上に昔朝倉義景が桑馬にて臨上りし際の跡なりといふ馬蹄形の凹痕あるより近年諸ヶ瀧といふ。また地名より大畑ノ瀧ともいふ。

オカマズカ 御釜塚 富士山東南側にある側火山の一。

オカマチ 岡町 和歌山縣海草郡にありし村。昭和八年六月和歌山市に編入す。

オカマドモン 御竈門山 九州阿蘇火山群に屬する阿蘇火山の中央火口丘外壁西南部の一峯。熊本縣阿蘇郡白水村に聳ゆ。標高一五九二米。北麓は烏帽子岳(一三三七米)、西麓は夜峰山(九一三米)に續く。西麓には垂玉・地獄の溫泉湧出す。

オカミ 大神 常陸風土記逸文に見ゆる新治郡の驛。大蛇多く居るを以て斯く名づくとあり。オカミは大蛇・龍などの古言。然るに延喜式に驛名なし、或は此頃既に廢せしものか。其地は亙神郷の内なるべく、今の茨城縣西茨城郡内に求むべきか。※亙神

オカミ 小神 近江國にありし牧。日本後紀、延暦十八年の條に近江國小神舊牧馬諜と見ゆる。山槐記には同見牧に作る。地は今の滋賀縣栗太郡上田上村に牧の大字あり、蓋し此地なるべし。

オカミ 巨神 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄新治郡に郷名見ゆる。常陸風土記に新治郡の驛家大神あり、これ本郷の地なるべきも延喜式に驛名を缺く。或は早く廢せしものか。亙神郷は中世は新治郡の東部の私領たる笠間郡に屬せしが、文祿檢地以後茨城郡に入り、今は西茨城郡内なる笠間町南山内村・北山内村に亙る地を稱せしものか。

オカミ 岡見 ↓岡田村(茨城縣稲敷郡)

【岡見】 ↓小神(近江國)

【岡見村】 島根縣石見國那賀郡の西南部。東は三隅町及び三保村に隣り、南は美濃郡鎌手村と界し、北西は日本海に臨む。嶺れ山地に被れその山麓海岸に迫りて海崖を示し、其端に觀音崎突出し遙かに高島を相望む。低地僅かに村の中部にありて田畑拓け半農半漁の村落をなし、主産物は米・漁獲物にして木材亦少からず。省線山陰本線及び山陰道は村の中部を略々並行して東西に通じ、前者に岡見驛(大正十五年設置)を置く。此地は和名抄、那賀郡三隅郷の地なるべし。

オカミ 雄神川 富山縣東礪波郡雄神村附近を流るる射水川の稱。歌枕。萬葉・一七、雄神川くれなゐにほふ少女らし紐解き採ると瀾に立たすらし 家持」

オカミ 大神島 沖縄縣宮古島東北海上約四粁にあり、周囲二粁の小島。第三紀層より成り、樹木叢生し、北方より宮古島への航路の好目標たり。

オカミ 尾神岳 新潟縣刈羽郡鵜川村と中頸城郡黒岩・源の兩村に跨り、標高七五七米。北麓は結樋峠(最高點三六六米)、東南麓は兜巾山(六七六米)・鷲ノ巣山(六二四米)に續く。又北方約十粁に米山(九九三米)、東方約八粁に黒姫山(八九〇米)の聳立するを見る。西斜面は急峻なれども東斜面は緩慢なり。山麓に風穴と稱する洞穴あり。北麓を黒川西流し、南西斜面より吉川發源して西北走し共に黒川と合す。

オカミ 男神岳 一名、夫神岳、富士六山張中の一峯にして、上田市の西南方約一三粁に位す。長野縣小縣郡別所村と青木村の境界に聳え、標高一二五〇米。西南方に大明神岳(九二七米)峙つ。西麓に香掛温泉、南麓に別所温泉湧き、又北麓に上田市より發する松本街道通ず。久方の天つ乙女やかけつらむ男神が岳の雪のしらゆふ 勅撰清雄一

オカミ 御神島 長崎縣北松浦郡平戸島の西南海上約二粁に浮ぶ小島。志々伎村に屬す。御神島燈臺あり。燈質逆閃白光、六秒を隔て二秒間二閃光、光達距離二二浬。

オカミ 雄神 雄神村 富山縣鹿中國東礪波郡の中部。井波町の東四粁。庄川の右岸に沿ふ。東部は一帶に丘陵地を成すも、西部庄川沿岸に低地ありて水田拓く。南方約二粁の社線加賀鹿道の青島町驛に バス通ずるも交通未だ便ならず。主産物は米。此地或は和名抄礪波郡陽知郷の内か、而して中世は庄下庄の内に屬す。三州志に據れば大字庄の地に庄城(一に檀城・千代檀とも いふ)ありて應安二年桃井直和獄りしが、能登の吉見左馬助に攻略さるといふ。また大字庄に鮮財天あり。社地は小丘にして

て巨石より成り古松老杉鬱蒼として繁茂し風景絶佳なり。此處を流るる庄川は雄神神社あるより一に雄神川ともいひ、古くより歌に詠まる。萬葉・一七「雄神川紅にほふまもらしあしつきとるとせに立たすらし 家持」夫水・二四「みかみ川れしろたかかやふみしたきあしつきとるもせなか爲とそ 俊頼」(雄神神社)大字庄に鎮座。郷社。祭神、高龗神・瀬織津姫神。創立年代未詳なるも延喜式内の古社にて、且つ延暦十四年從五位上を授けられ、貞観十年更に從四位上を授けられし朝廷尊崇の名社なり。近世、庄平の郷三十六ヶ村の總産土神として崇めらる。例祭、四月四日。

【雄神川】 ↓雄神村(富山縣東礪波郡)

【雄神村】 岡山縣備前國上道郡の東部。西大寺町の東北に隣り、東は吉井川を距てて邑久郡福田村と界す。中部に小丘陵あるも概して土地低平、吉井川東境を南流して低地を潤ほし田畑よく拓け、米・麥・藺を主産し梨を特産す。西大寺町より和気郡和気町に至る縣道西部を南北に通じバスの便あり。(寵八幡宮)大字久保に鎮座。郷社。祭神・田田陀和気命・息長帯比賣命・蛭大神。創立年代不詳なるも石清水八幡宮を勧請せる古社。室町時代には領主宇喜多氏・小早川氏等社領を寄進す。例祭、十月十四日。

オカムラ 岡村島 愛媛縣越智郡にある島。高縄半島の北方約六粁。西方は狭き水道を距てて大崎下島に對し、北方は遙かに大崎上島を望み、東方に鼓列する大下島・小大下島と共に瀬戸内海に屬す。周囲約一〇粁。全島山地に被れ西南端に觀音崎突出し、南面の小灣に岡村の聚落發達す。

オガモ 小鴨 【小鴨村】 鳥取縣伯耆國東伯郡の中部。倉吉町の南に隣り、東は倉吉町・竹田村に、西南は上小鴨村と界す。東境に高度約四〇〇米餘の山巒連亙しその斜面西に降り、西北部は倉吉盆地の一部に當り土地低平、天神川の一支小鴨川西部山地の山麓に近く北流して低地を潤し、畑地に比し水田卓越し米・繭を主産す。省線倉吉線の倉吉驛(倉吉町内)に近く。また上小鴨村より倉吉町に至る街道低地を南北に通じ交通便なり。此地は和名抄、久米郡小鴨郷の内。和名抄は訓を岡くも乎加母と讀めるものなるべし。中世は小鴨荘に屬す。この郷は常初大鴨郷の内なりしも後分れしもの。其地いま東伯郡小鴨村の大字小鴨あり、郷名の遺稱なるべく、其地域は小鴨村の外に西南の上小鴨村も此郷に屬せしといふ。中世此地の小鴨氏は豪族として知られ、源平盛衰記に小鴨介基康の名見え、また廟仁記にも小鴨氏の名あり、南條氏・逆氏・村上氏等と共に雄族の一たりといふ。小鴨村大字岩倉に小鴨氏の黒世居城せし小鴨城あり。(小鴨神社)大字宮字大宮に鎮座。郷社。祭神、大己貴命・少彦名命・建御名方神・句々能智命。もと小鴨大明神・大宮大明神と稱す。京都下鴨社を勧請せしものとも云ふ。江戸時代には藩主池田氏は所願所と爲し、武運長久・五穀成就・早雲疫病除却等を祈る。また郷内十八ヶ村の産土神として崇めらる。例祭、五月九日。

【小鴨川】 鳥取縣東伯郡を流るゝ川。山守村の山中に發して東流し、矢送村大字關金宿にて北流し來る一支を入れ、東北に流路を變じて淀城の平地を潤し、上小鴨・小鴨兩村を流れ、倉吉町の西北に於て新村川を入れ、天神川に合す。流程約二四粁。

オカモイ 御神威崎 北海道後志支廳、積丹半島の西北角神威岬の別稱。↓神威岬

オカモイ 雄神威岩 北海道後志國積丹半島先端、神威岬の海中にある岩礁。高さ約四〇米、北にメノコ岩、南に神威岬の燈臺あり。附近は波濤高く暗礁多く航海の險所たり。神威岩とも云ふ。

オカモト 岡本 【岡本】 都本縣河内郡古里村の大字。東北本線岡本驛、明治三十年設置)あり。

【岡本】 相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄高座郡に岡本郷あり、手加毛止と訓ず。高山寺本は止を度に作る。足上郡にも岡本郷あり、蓋し郷名は地形より取りしものなるべし。いま鎌倉郡大船町に大字岡本あれば此邊なるべし。此地に往昔村岡氏の起れる名邑なるも、何時頃よりか鎌倉郡の所管となる。

【岡本村】 神奈川縣相模國足柄上郡の南部。足柄下郡小田原町の西北約六粁・南は足柄下郡に境す。村内概ね丘陵地を成すも北部に僅少の平地あり。而し灌漑の便なきため水田なく主として麥・藺・甘藷等を産す。社線大雄山鐵道の相模沼田・岩原・塚原・和田河原(共に大正十四年設置)の四驛を見き交通便なり。此地は近世、足柄上郡河野庄に屬し、永禄の頃は松田左馬助秀治この庄を領し、のち大久保加賀守忠直領す。大字岩原は岩原城のありし所にて大森信濃守式部少輔藤原朝臣氏綱の居城なりしも、明應九年豫綱の時に小田原城主北條氏茂の爲に攻められて落城す。いま城址は畑となる。大字塚原はもと岩原村と一村なりしといふ。村内、長泉院の寛永八年の鐘銘によれば、岩原郷と稱せし地なり。大字駒形新宿はもと塚原村の内にして新宿と呼びし地。その後塚原の枝郷となり始めて駒形新宿と唱ふ。大字炭焼所は里傳によれば、古は墨八寸年村と書き、銀朝郎藏の乘馬・磨墨の産ぜし地なれば、墨八寸村と稱せりと。磨墨は毛色純黒にして長四尺八寸に及べりと。(長泉院)大字塚原にあり。曹洞宗。玉峯山と號す。大森寄酒慶、實山を請じて岩原村に清泉院を創建せしも、文明二年に至り大森實銀現地に移創し、山院號を現稱に改め大寺なるを以て開山とす。

城に天野三郎兵衛康景の墓あり。

【岡本】 相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄足上郡に郷名見ゆ。同書は訓を岡とも高座郡岡本郷の例により乎加毛止と讀むべし。其地いま不詳なるも足柄上郡酒田村・福澤村・櫻井村等の地に當るか。

【岡本】 越中國(富山縣)の古地名。和名抄婦負郡に郷名見え乎加毛止と訓ず。其地いま詳かならず。或は婦負郡吳羽山の北、長岡村より北方海濱に至る間の倉垣村・八幡村・四方町の邊を稱せしものか。後考を俟つ。

【岡本】 能登國(石川縣)の古地名。和名抄羽咋郡に郷名見ゆ。今何れの地なるか明らかならず。或は今の羽咋郡加茂村の邊ならんか。

【岡本村】 福井縣越前國今立郡の中部。粟田部町の東南に隣る。東部には太田山(四四八米)聳え、其餘巽西に延びて西部粟田部町との境上附近に小低地を見る外概れ丘陵地を成す。村の中央を縣道ほゞ東西に走り、其沿道に諸部落點在す。製紙業(和紙)盛んにして農多の工場あり。また米・漆器の產多し。此地は即ち舊五箇庄といはれし地にして、古くより製紙業行はる。その起原年代は詳かならざるも、傳ふる處に據れば古へ大字大瀧の地に一人の少女現はれ、此郷は田畑少なき故宜しく製紙の業を起すべしといひて自らその方法を敎示せり。村人等いぶかりて其妄性を問ひしに、吾は此郷の地主の神なり 言ひ終りて姿消ゆ。これより村民等製紙の業を始め終に今日の盛況を見るに至るといふ。のち村民等神德を慕ひ岡本川の上流字宮垣の地に神殿を建てて祀る。この神を川上御前と尊稱し、いま大瀧神社の境內摂社岡太神社の祭神、水波能賣命が即ち此神なりと。また大字轟井字月に月夜見の池といふ靈池あり、今は轟池といふ。昔、男大迹王の第八起廣媛の御子兎の皇子(或は菟の皇子)の八十四歳に成りませる時此地に來住す。これより此地を兎皇郷(今は月尾谷といふ)と稱せり。偶ゝ大旱魃あり村民の降雨を望むこと切なり。皇子これを見て大いに憂ひ、月夜見尊を祀りて八大龍王に祈誓せしに忽ち大雨至りて五穀豐熟せりと。その皇子新雨の池が即ち月夜見の池なりと云ふ。村民はその池邊に隈りに近づけば必ず內事起ると長怖せらる。池は叢中にあるも蹠芥なく魚鮭棲まず、水は清澄にして今なほ一樹の老椿と共に存すといふ。(大瀧神社)大字大瀧に鎭座。縣社祭神、伊弉那美尊・天忍穗耳尊。推古天皇御宇に大伴連の勸請せし古社と傳ふ。元正天皇御宇養老三年、越の大德泰澄國內巡錫の砌、當山の靈地なるを相し、山上山下に各七堂伽藍を建立し大瀧見大明神を齊き奉り、大瀧寺を創建す。また大瀧大明神・大瀧權現と稱せらる。室町時代には領主淺倉氏の庇護を受け、社領の寄進・新願・祈願等の事あり。淺倉氏の後、織田・木下・丹羽の諸氏また崇信を怠たらず。天正年中火災に罹り寶物・刹物多く燒燼す。江戸時代には藩主松平氏は社領の寄進・社殿の修造を爲す。明八年同村十四區總社氏神となり現社號に改む。山上に奥院あり、摂社に岡本神社ありて水波能賣神・天水分神を祭り當所の地主神とす。又製紙の守護神として汎く全國に知られ、新業者の尊信絲めて篤し。例祭、四月十二日。

【岡本】 越前國(福井縣)の古地名。天平神護三年の莊名に足羽郡岡本郷とあり。和名抄足羽郡に岡本郷見え乎加毛土と訓じ中世には岡本莊となりしもの、如し、其地いま何れなるか審かならず。或は今の吉田郡に屬する岡保村の邊か。

【岡本】 越前國(福井縣)の古地名。和名抄丹生郡に岡本郷あり。今の南條郡武生町・神山村等の地に當る。神山村に大字岡本あり、蓋し岡本郷の遺稱なるべし。

【岡本】 →高山市

【岡本】 伊勢國(三重縣)の里の名。歌枕。其地は宇治山田市岡本町の地にして六坊山の東麓にあり。伊勢名所歌合「なかかもとの里はと山のちかければききなれにけるさなしかの聲 成宗」新名所歌合「染めあかぬもみち葉のこゝろうきくものしくれてかかる岡本の里 大中臣定忠」

【岡本】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄淺井郡に岡本郷あり乎加毛土と訓ず。一に岳本郷とも書く。地はいまの東淺井郡虎御前村に當る。岡本とは虎御前岡の下なればなり。延喜式淺井郡に岡本神社あり。また天台座主記によれば、權律師良源即ち慈惠大師は本姓木津氏にして岳本郷の人なりといふ。

【岡本】 河內國(大阪府)の古地名。和名抄交野郡に郷名見ゆ。其地詳かならず。いま北河內郡枚方町に岡の大字あり、蓋し郷名の名殘りか。

【岡本】 →本山村(兵庫縣武庫郡)

【岡本】 奈良縣大和國生駒郡富郷村の大字。聖德太子の岡本宮のありし處。蘇我に臨み山背大兄に遺詔して寺となす。今の法起寺即ちこれなり。法起寺は法隆寺(法隆寺村)の隣側寺に對し鳩岡本尼寺と稱す。推古天皇十五年の建立と傳へ、草堂一宇、三層塔一基あり、塔は太子遺骸當時のままにて いま特別保護建造物たり。法隆寺を距る東北一・三粁。世間例算用一・「仁王三十七代孝德天皇の御時、大化元年十二月晦日に大和の國岡本の都を難波長柄の豐崎に移させ給へば、和州の鼠もつれて宿替しけるに」

【岡本村】 大分縣豐後國直入郡の東部。竹田町の北に隣り東は大野郡に境す。村內橡れ山地にして森林多く農耕盛んならず。大分市・竹田町・大野町等に村道通じバスの便あり。此地は和名抄直入郡三宅郷の內にして、大字三宅は遠しその遺稱なり。いま三宅・挾田・中村・枝の四大字より成り、役場を三宅に置く。

オカヤ 岡谷市 長野縣五市の一。諏訪盆地の西北隅を占む。諏訪湖の水は其西北部に排水口を求め天龍川となり西に流る。市は其北岸に位し北より西は諏訪・東筑摩二郡の境をなす鹽尻峠一帶の山峰略南北に連亘し其東南麓の緩傾斜地に發達す。東は長地村を經て下諏訪町に通じ南は一部諏訪湖に面し其他は天龍川を隔てて湊村・川岸村に接す。市の主要部を湖上より眺むれば恰も海上より望たる神戸市の如く市內には白堊の三層四層の講倉庫建並び其間に細長き煙突の林立せる樣は到底他地方に見る能はざる產業都市の景觀を呈す。面積三八・四一平方粁、人口四一三三人(昭和十年調)にして人口順位長野・松本に次ぎ縣下第三位に進出す。而して女の數は男に比して約一萬一千を超過するは如何に本市が多數の女工に依存するかを示して餘ありといふべし。和田峠を越えて下諏訪に入る舊中山道は本市の北部を過り鹽尻峠を越えて松本平に入り、伊那街道(三州街道)は下諏訪より分れて本市を橫斷し天龍川に沿ひて西南に向ふ。省線中央本線は上諏訪方面より諏訪湖の東及北を廻りて本市に入り岡谷驛(明治三十八年設置)を設きて辰野驛に向ひ、省營バスは東は上諏訪町、西は鹽尻驛に、其他のバスはまた南は湖西に西は辰野驛まで運轉し交通の便頗る良し。本市は製絲業を以て夙に著はれ岡谷の名は國內のみならず國際市場にまで知られ、今諏訪郡に於ける製絲業は本市の製絲を以て代表せらる。昭和七年六月より同八年五月に至る製絲業實績を見るに製絲工場數個人經營二七五、釜數一九三七八、會社經營七二、釜數一八七三二にてその合計工場數三四七、釜數三八〇一〇、長野縣下に於ける個人經營工場數五六六、釜數三三二〇、會社經營工場數三七一、釜數五二四七二なり、而して昭和七年度に於ける縣下生絲生產額は三九六八一一貫、之が諏使用額三二三八二〇五貫の多きに達す。岡谷市の生絲生產額の精確なる統計不明なるも縣下の此生產額と前記釜數より略ゝその製絲額を察知し得べし。此等は主として輸出生絲にて最初は佛國向の御手なりしが今は專ら米國向を主とするに至り最近には國用製絲も亦操觚するに至れり。而して製絲業に附帶せる諸工業も亦漸次盛大となるに至りしが蛹による製油・製粕業また起り、味噌醬造業の如きも發達するに至れり。抑ゝ當地方に於ける製絲業の發達は其由つて來る所頗る遠く既に寛政年間に手引提糸による生絲を製出し之をノガセ絲と稱し關西方面に顧客を求め且づ冬期を利用して東海道方面より棉花を移入して綿絲を生產せしが、慕末に至り輸入外國の綿絲に壓倒され、之に反して生絲は海外に需要起り、早くも安政六年には橫濱に積出すに至れり。明治の初め政府は上州富岡に官營製絲場を設けしが岡谷に於てもこれに倣ひて西洋流の機械製絲をはじめ、明治八年には中山社と稱する會社成り百人繰の工場さへ建設を見るに至れり。次いで數社の結成を見るに至りて最も名高きは開明社なり。かくて工場は明治十五六年までに大部分機械化すると同時に共同出荷の方法等も整ひ終には原料をひとり內地にとどまらず遠く支那より輸入し和田峠上下六里の難路を越えてこれを諏訪に運び込むに至る。女工は主として縣內各地より集まれるものなれども或は甲州・飛騨等近縣より來るもの多からず從つて優秀女工の爭奪戰に到る所に演ぜられ、これは永く工場經營者の苦惱の種をなせり。かく岡谷の製絲の盛大となりし理由に就きては地理的に惠まれたりと認むべきもの殆ど無し。或は諏訪湖の水質が製絲に適せりと說くものあれど、そは特に岡谷地方に發達せる理由とはならず、果竟岡谷地方の各會社の態命の努力の結果と見るを妥當とせん。某優秀工女の所感に曰く、他地方の製絲場に於いて働くよりは岡谷に至れば不知不識の間に約二倍の能率をあげ得ると。これ岡谷の製絲場の經營法の優秀なるを實書するものに非ずして何ぞ。本市はもと諏訪郡平野村と稱し岡谷は其大字に過ぎざりしが製絲場の天龍川の水流を利用すべき岡谷の地に興り漸次盛況を呈し省線中央本線の開通するや驛名をヲカヤと稱す。元來此地は岡谷と稱し延喜式左馬寮の御牧の中なる岡屋牧の地なりしが、驛名のヲカヤと呼ばるるに及びヲカノヤの稱は漸く廢れ今やヲカヤを以て市の名稱と稱す。かくて平野村は人口日を追うて增加し郡內第一となるも尙依然として村制を維持せしが、昭和十一年四月一日一躍して市制を敷き岡谷市と稱し產業都市として面目を發揮するに至れり。現在製絲の釜數二萬を突破し、縣立の檢査所・生絲檢査所をはじめ、縣立蠶絲學校・高等女學校等あり。

オカヤ 岡屋 廣島縣甲奴郡にありし村。明治二十八年本村及び佐倉村・井永村・水永村・斗桝村の四村を合併し清水村を建つ。

オカヤ 大鋸屋村 富山縣越中國東礪波郡の西南部。城端町の南に隣り東は蓮谷村、南は平村、西は南山田村に接す。東南境には高場山(一一三二米)聳えて北方に低下し、西南部は椅腰山の東北山麓の地にて村の南半は山地をなす。北半は低平にて富山平野の西南端部をなし水田よく拓く。米・繭を主產し、木炭・柿の特產あり。此地は近世能美郷十村と稱せられし內に屬す。大字林道に酒池鐵泉あり、此地は古來炭酸瓦斯の發生烈しく鳥獸の此處に至れば直ちに死すと傳へられし地なるも、明治十七八年頃其泉質の炭酸性なるを知りて浴場を開設し今日に至ると。

オカヤマ 丘山村 千葉縣上總國

山武郡の西部。成東町の西約八粁、北は印旛郡に界す。全村概れ丘陵を成すも諸處に耕地拓けて米・蒟・麥等を產す。縣道村の中央をほゞ東西に走り之により東金町にバス通ずるも、交通未だ便ならず。此地は東金町と共に和名抄、山邊郡岡山郷の地にして中古土氣莊に屬し、明治二十二年町村制施行に當り舊山田村・丹尾村・小野村・瀧村・油井村の五村を合併し丘山村となす。村内に墨染櫻・小野山の名勝あり。大字山田は天正年間に山邊莊山田之郷と稱す。山田の字坂東谷に墨染櫻あり。黒傳によれば西行法師が文治建久の頃諸國を行脚して此地に至り此國が山邊赤人・小野小町に緣ある地なる故に「深草の野邊の櫻木心あらばまたこの里に墨染にさけ」と詠ず、之により墨染櫻の名生ぜりと。大字小野は元祿年間は土氣郡小野之郷と稱す。字小野山の松林中に小野小町の塚あり、黒傳によれば小町の墓なりと。老松一樹あり、その左右に櫻樹たちて風致あり。大字油井は天正年間山野邊莊由井郷と稱せし地。中世、鎌倉淨光明寺領に屬す。

オカヤマ　岡山（おかやま）

【岡山村】福島縣岩代國信夫郡の東北部。阿武隈川の右岸に位し福島市の東北に隣り、東は安達郡富成村と界す。老年期の阿武隈山系に屬する十萬却山（四二九米）南境にあり山麓西北に延び北部及び中部は河成平野にて阿武隈川・松川の名殘川浸蝕面と、胡桃川の扇狀地より成る。阿武隈川西境を北に流れ、胡桃川は南部山地に發して河成平野を潤し田畑よく拓く。生業は農業が主にて、米・野菜を特產し、大豆・甘藷・カブラ・黒芋・人參・漬菜・牛蒡等の蔬菜を出す。福島市の郊村として將來は櫻桃・リンゴ・柿等の果實及び蔬菜の栽培盛ならんとす。福島市より東部海岸の中村町に至る縣道及び保原町に至る保原街道走り、各バスの便あり。省線東北本線の福島驛に近く交通便なり。此地古くは和名抄、安達郡（富山寺本信夫郡）日理郷の地か。村名は大字岡部・岡島・山口の各一字を取り名づくといふ。大字山口に有名なる文字摺觀音堂あり、その小丘の麓に古より著名なる文字摺石あり。觀音堂と並びて貴族・豪族家の遺墟なりと傳ふる月輪御所の跡あり。また觀音堂の北一粁に安洞院裏古墳墓群と稱するあり。寺南安洞院の裏山にありて中に石室の露出するものあり。また大字岡部に北畠氏の臣岡本吉太夫の居りし古館址あり。奥の細道「二本松より、右にきれて、黒塚の岩屋一見し、福島に宿る、あくればしのぶ文字摺の石を尋ねて忍ぶの里に行く、遙か山陰の小里に石なかば土に埋れてあり、里の童の來りて教へける。昔は此山の上に侍りしを、往來の人の藥草をあらして此石をこゝろみ侍るをにくみて此谷へつき落せば、石の面下ざまにふしたりといふ、さるあるべきことにや、早苗とる手もとや昔しのぶ摺」（文知摺觀音堂）大字山口にあり。由緒不詳。古來人口に膾炙せる古蹟。今僅に水月菴・多寶塔・鐘樓を存す。文字摺石は塔の右方にあり、其石東西一丈二尺六寸、南北六尺九寸七分、地上高さ南畔一尺七寸、北邊六尺二寸にして、石欄を以て圍まる。文字摺石の由來は中古この石に四季の花を載せ其上を布にて摺り朝賞せし事あり、その花彫樣のもぢれて印するより名をもぢずり石と名づけしを後世文字摺石の四字を充つるに至るといふ。麥の青葉にて此の石面を摺れば想思の人の面影現ぼると傳ふ。鏡石と稱するは之に因る。古今戀四「陸奥の信夫文字摺たれゆゑに亂れそめにし我れならなくに　河原左大臣」とあり。この石もと土中に埋もれ居りしを明治初年發掘して前揭の和歌を彫りたる石碑を建つ。古來歌の名所。

【岡山】福井縣丹生郡にありし村。明治二十四年八月鯖江村と改稱す。

【岡山村】長野縣信濃國下水内郡の北部。飯山町の北方約一五粁。南は千曲川を隔てて下高井郡に境し、北は新潟縣東頸城・中頸城の兩郡に界す。北部國境に黒倉山（一二八九米）等の高山連亘して屏風を立てたる如く、是等は何れも南するに從ひて低下し千曲川沿岸に僅少の平地を見るも村内は概れ山地を成す。社線飯山鐵道西南飯山町より來り上境・桑名川・西大瀧（共に大正十二年設置）・上桑名川（昭和六年設置）の四驛を置く。縣道これに沿ひて飯山町に通じ、小路是より北方に走り、野々海峠・伏野峠・牧峠・岡田峠を經て越後に入る。主として米を產す。本村は舊一山村と照岡村を合併し一山の山と照岡の岡を取り岡山村と名づけしもの。

〔名立神社〕大字照岡字大門に鎭座。郷社。祭神、倭御名方命・木花開邪姫命・大山祇命・菊稻田姫命。創立年代不詳なるが、貞觀七年七月從五位下が授けられ國史現在の古社として崇められる。中世諏訪社と稱せしが、寛政八年吉田家に請ひ、現社名に改稱す。例祭、九月一日。

【岡山】→横須賀村（愛知縣幡豆郡）

【岡山村】滋賀縣近江國蒲生郡の西部。琵琶湖の東南岸に位し、東北は八幡町に隣り、西は野洲郡に境す。全村土地低平、沿岸に出入に富み島嶼多し。八幡町に縣道通じバスの便あり。主生業は農業・商業にして米・麥・菜種・瓦・野菜等を主產し、蓆表・藺細工等の特產あり。古くは和名抄、蒲生郡船木郷の内。村の西端に半島狀を成せる小丘あり、水茎岡といひ一に岡山と稱す。標高二〇〇米に滿たざるも、湖岸に近く平野の中に屹立するを以て人目を引く。中世の歌枕として知らる。顧る絶景にて、古へ五勢金剛之を寫さんとして唯嗟嘆の他なく遂に筆を投ず、これより筆捨岡・水茎岡・筆ヶ崎の名起ると。永正四年、大内義興、足利義尙を奉じ山陰・山陽・西海の兵を率ゐて入京するに及び將軍足利義澄、翌五年四月走りて近江に至り、六角定頼に依り此地の岡山城に寓止し、終に同八年八月十四日薨ぜり。古今・二〇「水茎の岡のやかたに鼓打ちあれとれてのあさけの霜のふりはも」

〔加茂神社〕大字加茂に鎭座。郷社。祭神、鴨若雷命・玉依姫命・健角身命外二神。創立年代不詳なるも、蓋し京都賀茂社々領舟木社に發生せし古社にして、同社と深き緣故あるに加へ、戰國時代には豐臣氏の崇敬あり、近郷の產土神と仰がる。〔願成就寺〕大字小船木にあり。天台宗。普門院と號し俗に觀音山といふ。推古天皇の勅に依りて聖德太子の建立ありし當國四十八箇寺の一なりといふ。もと一山五十五坊を擁し、寺領亦千四百石を有せしが、元龜二年織田信長叡山燒却の禍、當寺亦其尼に遭ふ。文正五年本堂を再建、次で十年地藏堂を再建す。本堂安置の木造十一面觀音立像一軀、地藏堂安置の同地藏菩薩立像一軀の二軀は鎌倉時代の優作にして共に國寶たり。〔願福寺〕大字加茂にあり。天台宗。現に延暦寺寺中正覺院末たり。天平年間、行基の開創に係ると寺傳す。本尊木造藥師如來坐像一軀は藤原初期の佳作にして國寶たり。〔般若寺〕大字船木にあり。淨土宗にして本尊傳聖德太子作阿彌陀如來。臨土惠心僧都作觀音・勢至。玉光山と號す。

〔蓮社泉崇西阿上人の草創。〔生蓮寺〕大字加茂にあり。天台宗眞盛派。草創は詳なならず。俗に蓮の大佛と云ひ圓慶中興たり。本尊木造阿彌陀如來坐像一軀は國寶にして弘仁期の佳作とす。〔長雲寺〕大字舟木にあり。曹宗本願寺派。應仁の頃佐々木某湖中沖島に遁世す、蓮如上人風雅のため此に漂著しその家に宿り法化を敷く。即ち法名を長雲と賜ひ、長雲道場と稱し後今の地に移る。寺寶蓮目の名畫〔藥師堂〕大字田中江にあり。天台宗眞盛派。いま西敎寺末たり。草創沿革共に詳かならず。木彫の木造藥師如來坐像一軀は優麗絢爛なる藤原期の作にして國寶たり。

【岡山】大阪市東成區勝山通帝利寺町附近にある御勝山の舊稱。もと茶臼山・錦山と共に大阪城南に郡立せる小丘にして大坂冬夏兩度の役に德川秀忠の陣を構へし處。戰勝に因みて勝山と稱す。

【岡山】→四條畷村（大阪府北河内郡）

【岡山縣】中國の東南部を占め、東は兵庫縣、西は廣島縣に接し、南は瀨戸内海を隔てて香川縣と相對し、北は中國山脈の分水嶺を以て鳥取縣と境す。備前・備中・美作の三國を包括し、現在は岡山・倉敷・津山の三市と御津・赤磐・和氣・邑久・上道・兒島（以上備前）・都窪・淺口・小田・後月・吉備・上房・川上・阿哲（以上備中）・眞庭・苫田・勝田・英田・久米（以上美作）の十九郡とに分れ、縣廳を岡山市に置く。面積七〇四六・五平方粁。（地勢及び氣候）山嶽多く重疊し、南方瀨戸内海に瀕する地帶のみやや平夷なり。北境に主として花崗岩・石英斑岩より成る中國山脈の分水嶺にて、那岐山（一二四〇米）・三國山（一二五二米）・蛭山（一二〇〇米）等あるも、南方より望見すれば開析されたる高臺性に認めらる。更にその南には廣く吉備臺が擴がる。これは主として古生層より成り、勿論花崗岩も少なからず露出し、彌高山（六五四米）のトロイデ型の火山噴出せるも、平均高距約六〇〇米の隆起準平原面開析臺地にて、斷層線緯線し、河川は例外なしに著しき峽谷を形成す。新見・勝山・津山（四二平方粁）の浸蝕盆地等兩山地の間に點在す。美作の山地に源を發する倉敷川と、津山川の合流せる吉井川（或は東大川、一三七粁）その西に隣りて同じく吞梁山地に源を發し、勝山盆地にて神代川を合せたる旭川（別名西大川、一四六粁）は兒島灣に注ぎ、新見盆地より流下し、右岸より成羽川（東城川）・小田川を入れる高梁川（或は川邊川、一一〇粁）に水島灘に入る。これ等の三大川の協力により兒島半島（花崗岩より構成され、最高は金光山の四〇三米）との間に、面積二二五平方粁に及ぶ中國第一の岡山平野を形成し、岡山・倉敷の二市、淺口・都窪・御津・上道の諸郡に、みな此處に横ほり、縣の主要生產地帶となる。岡山に於ける年平均氣溫は一四・六度、平均年降水量は一一一〇粍、内地としては降雨量比較的少なく、殊に冬季に著しく少なく、晴天の多きことは瀨戸内の特色にて、日本海沿岸とは顯著なる相違を示す。〔交通〕本縣は中國の要衝に當り交通機關は近時都鄙を通じ普及發達し昔日の面目を一變するに至れり。鐵道は省線山陽線・宇野線・作備線・伯備線・三神線・因美線・姫津西線及び私設中國鐵道・西大寺鐵道・下津井鐵道・井笠鐵道・片上鐵道の諸線あり。總延長五二一粁、驛數一五三ありて交通運輸の便宜しく、未開通の地方ありと雖も自動車普及せり。道路は國道三線にして管内に於ける總延長二百四十一粁、縣道二百九十五線、この延長三千七十五粁ありて地方樞要の地點を連絡し、各數の市町村道之を補ひて四通八達し、交通運輸の便宜し。而して近時自動車及自轉車著しく增加し、從つて馬車・人力車等は漸次驅逐せられつゝあり。水運としては瀨戸内海に面する地方は沿岸港灣に乏しからず。殊に宇野の開港場ありて運輸交通至便なり。河川中舟楫を通ずるものは旭・吉井・高梁・吉野・成羽・小田の六川あり。殊に旭・吉井・高梁の三川は通舟各五六十粁に亘り、運輸交通上利便を與ふること鮮少ならず。〔產業〕原野には放牧行はれ、千屋牛・新庄牛・奥津牛等著名にして、牛市の歷史も古く、養蠶また盛んなり。また松・杉・栗等の喬木林に富み用材・薪炭の產多し。その他金屬鑛山には惠まれざるも、なほ耕原八金・銅・硫

化鐵)・吉岡(銅・銀)の鑛山所在す。岡山平野は備前米の產地として名高し。花崗岩の風化層堆して生じたる土壤は耕作には容易なるも保水力に乏しく、從つて洪水と旱魃の被害を蒙ること多かりしも、そのため治水に早くより意を用ひ、河道改修され、那珂穩門の工事成りたる現在にては其等の被害を免るる事となれり。また家面每に多量の土砂を運ぶ旭川を後くし、池田光政の新田の開拓、藺田組の埋立工事等の乾拓を可能ならしめし主因たり。藺草の栽培は內地產量の三分の一を占むるほど盛大にて、花莚・疊表の原料となり、前者は全國の主位にあり、殊に明治十一年磯崎眞鯛の發明にかかる綿莞莚を始めとする莞莚は我國の重要輸出品の一にて、都窪郡を主產地とす。冬季の氣候と排水のよき乾田とは麥類の二毛作に好都合にて、副業品たる麥稈眞田の產多く、世界的の販路を有す。岡山市附近の水蜜桃・梨・葡萄等の果樹栽培は近年急進に擡頭せり。海岸は屈曲に富み、風浪靜かなる淺海なるゆえ漁業に適し、貝類の養殖、鰆・鮪・鰕等の漁獲盛なり。其他兒島半島味野町を中心とする製靴業玉浦の三井の造船所も注目に値す。綿糸は明治十三年玉島町、下村町の各紡績所に政府より紡績機が拂下げられたることに始まりて漸次盛んとなり、綿織物も今や動力織機普及せり。岡山市・倉敷市及び後月・小田・兒島の三郡は斯業の繁榮地域とす。三石町を主產地とする耐火煉瓦は全國總生產高の四分の一を產出し、その他伊部町の伊部燒もまた著名なり。

(人口)昭和五年國勢調査に依る本縣人口は一二八三九六二人、內男六三七九六五人、女六四五九九七人にして、全國道府縣中の第十九位に當り、鹿本縣の一三五三九九三人、長崎縣の一二三三三六二人の間にあり。而して、女の男に超過すること實に八〇三二人にして、女一〇〇人に對し、男九八人八分に當り、全國の女一〇〇人に付き男一〇一人とに正に反對の現象を見る。これ本縣が紡織工業の盛なるに基因するものたるべし。大正十四年より昭和五年に至る五箇年間に於ける本縣の人口增加は四五五一五人、割合に於て三七%の增加にして、之を大正九年より大正十四年に至る五箇年間に於ける增加二〇七四九人、割合の一七%に比し其の增加率向上せしも、これを昭和五年國勢調査全國平均七九%、大正十四年國勢調査全國平均六七%の增加に比すれば、本縣は甚しく低位なる增加率を示せるに、本縣人が縣外に發展するもの多

生產總價額累年比較

	昭和九年		昭和八年		昭和七年		昭和六年		昭和五年	
農產物	七三、二八一、六三五	四四	六八、八五一、八六八	四五	六四、七五七、一三五	四五	四九、七五七、八六八	四五	五三、六二一、五五八	四五
畜產物	一一、八二六、六七二	一〇	一〇、八七八、二五一	一〇	一六、四〇九、八七七	一二	一五、八一八、八四八	一二	一八、八一八、八四八	一二
水產物	四、四八八、九六六	四	四、〇四九、九八五	四	三、五八四、七八七	三	三、八七三、一四五	三	三、八七三、一四五	三
林產物	五、一八八、一四一	五	四、四三四、八四一	四	四、三四四、八〇一	四	四、三四四、八〇一	四	四、三四四、八〇一	四
礦產物	七、九四四、一四九	七	六、四〇八、八〇〇	六	五、八九二、一一七	五	五、八九二、一一七	五	五、八九二、一一七	五
工產物	四、〇二八、一〇七	四	三、四七七、六五一	三	二、六九七、九六四	二	二、六九七、九六四	二	二、六九七、九六四	二
合計	一八三、〇四二、六六一	一六	一〇七、九五一、〇四六	一〇	一二四、〇四九、三六八	一二	一二四、〇四九、三六八	一二	一二四、〇四九、三六八	一二
大正十年生產總價額ヲ百トシタル指數	二三九、八三〇、三四八	一〇八	二二七、〇三九、一八八	九八	二〇三、一八二、一四二	九〇	一八二、一八二、一四二	八一	一六二、一四三、三六八	七六

南部の地(備前・備中の南端瀨戸內海に面するところ)はその氣候溫暖にして、且つ又魚鹽の利にも富めりしを以て、夙に此の地方に於いては人民の繁殖を見るに至りしこと信ぜらる。而して邑久郡豐原村、上道郡浮田村沼及び都窪郡菅生村子位庄、中洲村酒津等の如き、貝塚の遺存せるあり。尙ほ其附近より多數の土器・石器の類を發掘するものありて、これ等の土器・石器は其の時代の住民の棲息したるを想像せしむるに難からず。また縣下各地に殘れる傳說・口碑等に依りて、その前後に於いて韓蒙渡來の民族及び我が帝國の原住人にしても、出雲族並に天孫族の民族が互に其の勢力をこの地方に扶植することに努め、時に衝突をなし、幾多の波瀾曲折の經過をなしたるものなるを察すべく、而して又之が波瀾曲折の經過は各種各族の民族がその勢力を得る上に於いて甚だ消長たる觀たるものなるをも窺知し得られざるにはあらざるなり。其の後に及んで神武天皇の中原を平定ぜんと欲し、王師を發し、以て東征の途に就き、鳳輦を愛に駐め給ふこと三年、(日本書紀に據る、古事記には八年とあり)舊史文に天皇の此の島に於いて舟楫を備へ兵食を蓄へ給ひしことを記せり。思ふに當時高島附近の地は人文顯る發達して、既に其の軍資の供給に不足なく以て之に應ぜしことをも證すべきなり。其の後五

百餘年を經て、崇神天皇の時に至り、吉備津彥命、弟稚武彥命と共に縣下に來り不逞の徒を征し、撫民の術を施し、景行天皇の朝に至るに及んで皇子日本武尊をして熊襲を征せしめらるるや、尊その歸路、穴濟(備前の邑久・上道・御津及び備中の南部一帶の海岸をいふ)の賊を討つて之を滅げ、水陸交通上の害をなすものを除かる。爾來この地方は暫らく往民の患害をなすものあることなく、衆庶安堵して業を營み、住民も繁殖せり。ためにその行政區劃を行ふべきの必要起る。修に仲哀天皇の朝に至りて、大伯・上道・三野・加夜・下道の五國に區分せらる。大伯は今の備前邑久郡の地方にして、上道は同上道郡の地方、三野は同御津郡の地方に當り、下道・加夜の兩國は共に備中の吉備郡地方に當れるなり。而してこの五國には國造を置きて以て政を行ふ。既にして應神天皇の朝に至るに及んで、天皇、龍起吉備兄鍬の威族を縣下の諸地方に封ぜらるるや、川島・備中の吉備・都窪郡地方)・上道・備前の上道郡地方)・苅(備中吉備郡賀陽村地方)・綿部(備中の吉備郡地方)の諸縣を置かる。また今の赤磐・和氣兩郡地方の如きは別にこれを石矢縣と稱せらる。而して此等その縣の長たるもの當時之を縣主と稱せり。然れども尙ほ此地方を總稱して吉備國と稱せしものの如し。天武天皇の十二年詔して諸國の境域を定められしとき、前・中・後(備後は今は廣島縣の所轄たり)の三國に分たれたりき。(一說に仮璽青皇女攝政のとき黃嶽の國を前・中・後の三國に分つと云ふ。取ら才)其後元明天皇の和銅六年に至り、備前の六郡(英田・勝田・久米・苫田・賀島・大庭)を割きて、美作の國を置く。孝德天皇の大化新政より國に國司を、郡に郡司を置き、大に地方政治の發達を見るに至りしが、このときに當り備前・備中・美作の三國に國司を置かれしこと素よりこれ論を俟たず、而して其の國司廳の在る所之を國府と稱し、備前國にては今の上道郡高島村大字國府市場の地に、備中國にては吉備郡總社町大字總社に、美作國は苫田郡西苫田村大字總社に設けられたるなり。其後上下清平、家々給し、人々足り、縣下の如き一鄕にして、能く二萬の壯丁を出すの地方さへあるに至れり。又古昔王政時代に於いて國家の營備上軍團を諸國に設くるや、本縣亦三野・加夜・苫東の三軍團を置けり。而して三野軍團は備前に、加夜軍團は備中に、苫東軍團は美作に置く。これ等軍團にて教養せし所の健兒は、常に國家の干城となり、以て外寇を防ぎ、內亂を鎭むるの責に任ず。然れども上下平和に慣れ、王綱漸く弛び、加ふるに藤原氏の權を專にするに至るに及んでは、朝野上下の情路塞塞し、國郡の制度全く廢壞し、海隅邊境の邊域に於ては自然に無頼不逞の徒起りて良民に慘害を流すに至れり。而して備前及び備中の海濱及び海島中には多く海賊の跋扈を恣にするあり。ために大治年中、平忠盛備前守となり、以て來任するや主としてこの海賊を討ち勳績をたつるあり。既にして平氏の隆運に會し權勢を天下に扶植し、地方に守護を置けるに及んでは、則ち兼波經遠、同經房を備前の國守護となし、江見守信及び豐田權頭を美作の守護に、また妹尾兼康を備中の守護に任じ、各々其の領內を治めしむ。新大納言藤原成親及び關白松殿基房が縣下の地に竄謫の身となりしは、蓋し其の頃に在り。其の後平氏亡び、源氏之に代るに及び、土肥實平・梶原景時・佐佐木盛綱等をして縣下の各地を分領せしむ。梶原景時部を移して訴ぜらるゝに至り和田義盛之に代り其の後を襲ふ。北條氏源氏に代り天下の實權を握り、以て擅に制令を海內に行ひ、忽ち承久の亂ありしが後鳥羽上皇の皇子顯仁親王北條氏の毒牙に斃れて、縣下兒島の地に配流の厄を受けさせ給ふ。北條氏漸く權を失ふに至り後醍醐天皇、英姿聖明の資を以て北條氏を圖らせ給ふや、元弘の亂あり、備後三郎兒島高徳、備前より起り勤王の兵を擧げしも、備中には高橋・陶山の諸豪出でて賊軍に應じたりき。足利氏のときに至り、備前・美作の二國は赤松氏の有に歸し、備中は高師秀の有となる。然るに後村上天皇の御宇正平年間に至り、山名伊豆守時氏出でて赤松氏を追ひ美作を取り、備中には秋庭氏、高氏の臣を以て興り、師秀を退うて其の封を奪ふ。而してそのち後土御門天皇の應仁年中に至り備前は赤松政則の臣浦上則宗其の主を退うて之を奪ひ、その有に歸せり。文明の始め縣下に於ける三國の地大に亂れ、浦上・後藤・秋庭の諸氏これを分領し、龍諤虎視其の隙を衝いて鬪戰に努む。ときに浦上氏の臣に宇喜多氏なるものあり。遂に浦上・松田の兩氏を滅して備前を略有し、更に進んで美作に侵入して後藤を亡し、以て其の地を併領す。このときに當り出雲に尼子氏あり、安藝に毛利氏あり、共に勢威强大にして一方に覇を稱す。而して尼子氏は美作の北半を略有し、毛利氏は備中の殆んど全國をその勢力範圍に歸せしめき。既にして尼子氏滅亡し毛利氏美作を併有し、宇喜多氏と境土の擴張を爭ふに至る。是に於いて宇喜多・毛利の兩氏は互に備作の野に其の境場の擴張を競ひ干戈を交へ殆んど寧日なきに至りしが、天正年中織田氏の將羽柴秀吉中國殿定の策を立て、まづ毛利氏を征せんと欲し、大軍を以て軍を縣下の地に進むるに至れるや宇喜多氏は欵を羽柴氏に通じ、益ゝ毛利氏に抗す。既にして羽柴秀吉毛利氏の屬城備中の高松城を攻めて之を拔き、毛利・羽柴の兩氏和を結ぶや、縣下三國の地は全く宇喜多氏の所領となる。關ヶ原の役起るに及び、宇喜多氏西軍に屬して封を失ひ、小早川秀秋之に代る。子なくして

國除かれ、池田氏の備前に承くるあり。森氏美作を、兩板倉・岡・木下・藤田・山崎等の諸氏備中を受封す。後、森氏國除かれ、松平氏之に代り、更に三浦氏の勝山に封ぜらるるあり。明治維新廢藩の際に當りては岡山・足守・庭瀬・淺尾・新見・成羽・岡田・鴨方・松山・生阪・津山・眞島・鶴田の十三藩あり。廢藩の後備前に岡山縣を置き、備中に小田縣、美作に北條縣を置きしが、明治九年に至り、乃ち三國一縣の統轄に歸し以て今日に至れり。

【岡山市】 岡山縣第一の都市。山陽道にて廣島市に次ぐ第二の大都。備前國の南部御津・上道兩郡の間に介在し、南は兒島灣を隔てて兒島郡に對す。東經百三十三度五十四分、北緯三十四度四十分。地勢東北より南西に傾斜し旭川は市の中央を貫通南下して旭東・旭西の二部に區劃せらる。市内に岡山縣廳を始め、地方裁判所・地方專賣局・稅務署・第三十三旅團司令部・聯隊區司令部・歩兵第十聯隊・工兵第十大隊・岡山醫科大學・第六高等學校・縣立圖書館・測候所・放送局等あり、政治・學藝の中心地。目抜きの場所は所謂大通りと稱する橋本町・西大町・柴町・紙屋町・上之町・中之町・下之町等にて繁盛を極む。鐵道は殆ど市街の西端に沿うて省線山陽本線の岡山驛（明治二十四年設置）あり、また此地を起點として北上する中國鐵道及び南下する宇野線あり。市況頗る活潑にして商工業殷盛、工産物は生産總額約四千八百萬圓（昭和十年）の九割以上を占め、織物を始とし紡績絹糸・絹糸・毒鈎などを主とす。古くは

昭和十年生産總額	
工産物	四、六〇〇、九六三圓
農産物	一、九八八、三三七
畜産物	四四一、三五五
水産物	一、四七、五六〇
林産物	八、四五一
鎮産物	一八七、三五五
合計	四八、三八四、八五〇

吉備内海中の孤島にして之れを大島と稱し一に吉備の穴海と稱へたりしが、倉敷の變を經て遂に三個の穴海と稱へたりしが、倉敷の變を經て遂に三個の穴海を形成す、是れを岡山・石山・天神山と稱す。而して岡山は又柴津岡山ともいひ、舊本丸卽ち現今の縣立第一岡山中學校附近、石山は舊西丸卽ち現今の内山下琴當高等小學校の邊、天神山は現今の岡山神社、岡山縣廳附近の總稱たりしなり。岡山城は正平中名和氏の一族なる上神高直なるもの南朝に仕へ所謂岡山の地に城けり、是れ岡山城下の嚆矢とす。永祿中、金光宗高の居城たり、のち字喜多直家、宗高を滅し、天正元年現位置に城き漸く城中の繁榮を加へたりしが、慶長五年小早川秀秋代りて兩備を治め、卒するに及びて嗣なし、是に於て池田輝政家臣に居りて備前に封ぜられ、超えて八年其の子忠雄岡山に移り居す。三世光仲の時鳥取に移封せらる。因て輝政の嫡孫光政入りて入城す、時に寛永九年にして今を距る實に三百五年なり。光政は芳烈公と謚し治績今尙ほ喧々として喧傳す。爾來池田氏三十一萬二千五百石の居城として從意治に勵み、民を富ましし、其繁榮中國に冠絕するに至れり。城郭は東北隅に聳立し旭川を隔てて後樂園の形勝を瞰下す。而して園は貞享三年池田綱政侯の命を承け、其臣津田左源太永忠の經營に係り日本三公園の一たり。明治維新の後、岡山縣廳を天神山に置かれ、その一番會議所を内山下に置かれたり。既にして岡山區務所又は岡山區役所と改稱し、明治二十二年市政の實施と共に岡山市役所と改稱し諸般の市政を刷新ぜり。同二十四年山陽鐵道成り、同三十二年接近郡村を編入して其區域を擴め、同三十七年中國鐵道吉備線成り同三十八年上水道事業完成す。同四十一年第十七師團を設置せらる。同四十三年宇野港に達する鐵道工事竣工す。宇野港は卽ち市の咽喉となり、四國鳥との交通を連絡せり。同四十五年西大寺輕便鐵道成り、時で岡山電氣軌道成る。大正四年下水道工事完成し、時で三浦輕便鐵道成る。大正十年接近村を編入し、其の區域を擴む。大正十四年五月軍備整理の結果、第十七師團は之れを廢止せられ第十師團歩兵第十聯隊及び同師團工兵第十大隊移屯ぜり。昭和六年四月御津郡福浦村及び上道郡平井村、同宇野村を合併し區域を擴む。其他道路橋梁等悉く市を中心として施設せられ四通八達の交通機關殆ど大成するに至れり。而して電燈瓦斯の如き事業も風に經營せられ、官公署・學校・銀行・會社・病院・工場等各所に散在し、商工業は日に月に發展して市街繁盛、百貨輻輳内外人の往來亦頗繁にして、今や中國に於ける樞要の都會となり、益々隆運に赴かんとす。

〔岡山城〕 市の東部に位し、東側に旭川、外壕を成して繞る。城は城樓を黑く塗りたるため烏城とも呼ばれ、また金烏城とも稱せらる。いま、天守閣を始め櫓・門等の遺構を存し、且つ石垣及び壕塀、舊態を遺存ぜり。城は天正元年宇喜多直家の築造にかかり、その後慶長五年關ヶ原役に直家の子秀家敗れて沒落し、德川氏小早川秀秋を封じたるが、同八年池田忠雄封ぜられ、時で弟忠雄これを承け、その子光仲の時因幡鳥取に移封ぜられ、寛永九年池田輝政の嫡孫光政鳥取よりここに入りて爾來子孫相繼ぎ城主となり、明治維新に至れり。今本丸・二の丸の一部を遺し他は一般人家となれり。城の遺構は池田侯爵家の管理に屬せしも、有料にて公開し居れり。岡山第一中學校の正門（内下馬門）を入れば校舍・講堂の邊ほもとの表書院にて、その東一段高き所を

本段と稱し、その東北隅に天守閣を存す。天守閣（國寶）は三重六層にて初層の平面は不正五角形を呈すれど、上層に至るに隨ひて次第に變化し、四層以上は矩形をなし、窓は連子窓なれども、最上兩層は火燈窓を用ひ天井を張り、全體の意匠自在にして且大膽に、右方に低き重層の塵藏を附屬し、所謂複合天守を成し、屋根總本瓦葺、入母屋造、二階の北面と五階の南北兩面とに唐破風を交へ、塵藏の南面にのみ切妻を用ゐてあり。塵藏は一種の倉庫にして天守閣の入口をなし、その二階、天守閣の一階と床高を同じうす。閣は秀家、角南平人を奉行となし、中村次郎兵衛に命じて築營せしめしものにして、文祿三年起工、慶長二年の完成にて、その後數次の修理を經て新材の混用も見らるゝも大體慶長年間の遺構なり。月見櫓（國寶）は本丸の西北隅に位し、天守閣と東西に相對す。二層の隅櫓にて、屋根本瓦葺、一部地階を有ぜり。元和・寛永の頃池田忠雄の時の築營なりと言ふ。西丸西手櫓（國寶）は西丸の西北隅にして内山下小學校構内の西側にあり、二層櫓、屋根本瓦葺にて慶長年間の遺構なり。石山門（國寶）は遺蔵門と稱し、小學校の南にあり、西丸より二の曲輪に出づる所にして、矩折櫓門、屋根兩編入母屋造本瓦葺、現存する慶長築營の唯一の城門なり。（岡山藩藩學址）指定史蹟。市内西中山下の女子師範學校構内にあり。舊時の建物は多く撤廢せられたるが、現在學校の正門なる大門を始め、當時の校門及講堂等を存し且泮池及石造の泮橋、其他井戸等遺存す始め慶安三年池田光政、藩士子弟教養のため上道郡花畑の地に設けたる學舍を、寛文六年城内に移し、尋で現地に移轉し規模を擴張し、皇八右衛門・津田重二郎に命じ工事を督せしめしが、同九年閏十月工竣り、岡山藩學校と名付けたり。次いで射圃・調馬場等成り、元治元年に至り演武場を校門外に設け、武場館と號せしが、廢藩と共に廢す。校門は前面泮池に臨み後面にある講堂と廊下を以て連り床は瓦敷にて、門の左右に左塾・右塾の建物を附屬し、全體入母屋造、本瓦葺の建物に成る。門の梁上に佐々木志津磨筆になる「校門」の扁額懸る。講堂は五間四面、入母屋造、本瓦葺にて、圓柱を用ゐ、床は板敷となり、四方は八個の大なる火燈窓を開き、外に廣縁が繞らされ、木階が附す。室内に豐澤猪太夫筆「講堂」額懸りてあれり。〔後樂園〕 指定史蹟。市内古京町にあり、旭川の左岸に位す。貞享三年岡山藩主池田綱政、家臣津田永忠をして築造せしめしものにて、翌四年十二月起工、十四年を費し元祿十三年竣工。明治十七年二月岡山縣の所有となり、その後拡張され、現在の面積、外苑を含みて約一一四六アールあり。園の名は天下の樂に後れて樂む意なるも、曾ては築園場・後園等と呼ばれしこともあり。全體の意匠は江戸初期の傳統を承繼せる遠州流にして、水戸の偕樂園、金澤の兼六園と合せ三名園と呼ばるることあり。南方の岡山城、東方瓶井山にある安住院の多寶塔もこの公園に風趣を添ふ。旭川に築設せる鶴見橋を渡りて西方より園内に入れば事務所・鶴鳴館・延養亭・榮唱・鄰臺・墨流し・方竹の間・和樂等密集し、鶴鳴館・延養亭は何れも園内の大建築にて、延養亭に沿うて臨漪軒と稱する小亭あり、榮唱・和樂の南に於ける一帶の圓池を花菖と云ひ、花菖の池これに接し、池に榮唱橋かゝり、池邊に老松繁り、花菖の襷・大立石・地藏堂・四天王堂・二色ケ岡・茂松庵（茶室）・ちしゃの木あり。ちしゃの木は數百千代家にも見え、忠節を表象する名木と稱さる。花菖の池の南に、御船入、その東に鹿池・藤棚・獄嶽岡・富士池等あり、獄嶽岡の北に屹立する唯心山は園中の勝景一帥に集まり、山頂の唯心堂は觀月によろし。山の東南に流店と呼ぶ一樓閣あり。樓の下は棧板左右に分たれ、中央に小渠を通じ、鮑石亭の石になぞらへたる六個の奇石あり。山の北には澤の池派へ、園内第一の大池にして面積五七アールに近く、中の島・御野島・砂利島の三島横はれり。中の島は東にありて最も大きく、島の茶屋こゝに建ち、西岸にある石標の表に上道郡、裏に城澤と彫しあり。これに隣せる御野島にも表に御野郡、裏に「みのしまこと刻せし石標あり。これ等の石標は郡界を示すものなり。御野島の西北岸には釣臺あり。澤の池の東岸に近く井田あり。藩祖光政、周の田租法を試みるため和氣の閑谷に拓きし井田に摸したるものなり。これより南方に機林・梅林・機の馬場・花交の池・花交の瀧・利休堂等々あり。機林の北に千入の森と云へる城林あり、その東北隅より南方に亙りて新殿・稻荷祠・鰐才天祠、澤の池の北に稻利祠・由加神社・慈眼堂・鳥稻子岩・津田永忠碑及び表裏と稱する小亭などあり。なほ園の北邊より西北にかけて馬場・觀騎亭・鳥小屋・射圃・觀射亭・椿林あり。この方面にも松樹多し。外苑は西隣にありて、面積約七四アールに及び樹木・芝生を植込み、普樂堂を設けたり。後樂園には景色の勝れたる所、十個所あり、暫軒の嵐・延養亭の鶴・榮唱橋・二色ケ岡の花・唯心山の月・流店の水・花交の瀧・千入の森・澤池の蓮・慈眼堂の松はその細目なるも、暫軒の嵐・澤池の蓮と慈眼堂の松とはいまその實なし。〔岡山神社〕 市内石關町にあり。縣社。貞觀年中甲斐國酒折宮を勸請せしと傳へ一に酒折宮とも呼ばれ、祭神、倭迹々日百襲比賣命。相殿に妹姫命・日本武尊・大山咋命・大吉備津彦命・倉稻魂命・武安盛命を祀る。もと岡山城地に鎭座せしを正親町天皇天正元年、宇喜多氏岡山城を築くに際し、社殿を今の地に移す。末社尾針神社は式内の古社なり。社地旭川に接

して樹木鬱茂し、閑寂の境なり。〔春日神社〕市内七日市にあり。縣社。天兒屋根命・武甕槌命・經津主命・姫大神を祀る。昔、奈良春日神社の神鹿が嘶みて來し神鹿を祀りしと言ふ神話あり。〔玉井宮・東照宮〕東山公園内幣立山頂にあり。縣社。玉井宮は應德年間兒島郡より遷座せしものにて、祭神は豐玉姫命・彦火々出見命・玉依毘賣命なり。東照宮は正德元年池田輝政、東叡山の分靈を祀りしものにて、兩社とも明治十四年三月合祀せり。〔伊勢神社〕市内小畑町にあり。境内辯開。縣社。天照大神・豐受大神及姫大神を祀り式内の古社なり。〔岡山寺〕市内磨屋町にあり。天台宗。天平勝寶年間報恩大師の建立せし備前四十八ヶ所の一にして、もと、舊城山にありしを移建したるものなり。國清・蓮昌の二寺と共に岡山の三大寺と稱さる。境内虫鳴淵、本堂・客殿・庫裡・衆寮・茶室・内門・仁王門・山王堂等を有す。寺に岡山城主宇喜多直家の木像を安置しあり。〔國清寺〕小橋町にあり。臨濟宗妙心寺派。慶長九年池田輝政報恩在城の時、男山の麓に創立せし寺にて、初め法源と號し、同十八年輝政の法號によりて國清寺と改め、寛永九年池田光政、封を岡山に移すの際に共に移建し大華和尚を開山とせり。智源寺と共に池田家の菩提所にして、寺域廣大、松杉鬱茂す。堂後に池田家累代の靈屋あり。向、寺の西隣に支院清泰院あり、光政因幡より入部せしより忠雄・忠継の墓を一割し建てたり。忠雄の墓に倍に等石（等墓）と言ひ、臺石高さ二米、石塔三米餘を有する巨大なるものなり。〔蓮昌寺〕市内東田町にあり。日蓮宗。康永年中松田將監元賢、岡山城内鬼の馬場に創建せし寺にて、天正年中宇喜多直家、旭川の東に再興し、慶長年間直家また之を現地に移せり。市内の大伽藍にて、本堂の左に守護神祠あり、最尊一丸大明王を祀る。寺寶に日蓮上人筆大曼荼羅あり、毎年四月二十八日より十二日間、十月一日より七日間開扉され、賽者雲集、盛觀を呈す。〔普能寺〕新道にあり。本門法華宗。普美峡守長政の父の草創。開山は玉泉院日惠上人。慶長十二年尼崎市本興寺の塔中普能院を、當時別莊ありし此地に移す。〔松琴寺〕東山公園の南瑜伽山中にあり境内に瑜伽櫻現あり。土地高燥にして幽邃、櫻及紅葉の名所なり。〔大雲寺〕市内大雲寺町にあり。淨土宗。本尊は阿彌陀如來。境内の日限地藏菩薩は靈驗あらたかにて、毎月二十三日の緣日に賑ふ。〔報恩寺〕市内濱田町にあり。淨土宗。本尊は阿彌陀如來。境内に貞和四年と刻みし石碑あり。〔最城院〕七日市町にあり。眞言宗御室派。青龍山、安樂寺と號す。行基菩薩の草創。もと六坊を統べしが、慶長年中領主金吾中納言秀秋、寺中を廢し本寺のみとす。〔法界院〕市内三野にあり。眞言宗。本尊の木造聖觀音立像は藤原時代の優秀なる作にて、國寶に指定さる。〔鐘撞堂〕市内柴町にあり。寛永六年三月の建築にて構造奇古、岡山の時報と警報の機關なり。鐘は元祿十一年京都三條の鑄物師和田信濃守大掾藤原國次の鑄造なり。〔東山公園〕市の東端門田操山の西麓にありて一に備樂園と言ひ、土地高燥、面積約一一八三アール、山あり、谷あり、松翠鬱蒼、しかも展望廣濶。天然の風致、後樂園に優る。國内に玉井宮並に數多の記念碑あり。〔高島公園〕兒島灣内三蟠港外、高島にある岡山市直屬の海上公園なり。島は周囲約一、三粁、面積約四二六アール、島内到る處數寄を凝せし亭榭、休憩設けられ、楓樹の美觀あり。本島は神武天皇高島の宮のありし所と傳へられ、天皇を祀る高島神社あり。〔奥市公園〕市内門田奥市にあり。面積一三八アール弱。土地高燥にして遠く水島灘の渺茫を望み、和氣清麻呂・兒島高徳・楠木正行を祀る縣社三勳神社の外、招魂社・グラウンドあり。〔岡山縣郷土館〕縣内の史蹟・名勝・天然記念物に關する遺品・標本・寫眞・模型、また別に皇室御關係品等を蒐集陳列しあり。縣の經營にかゝり、昭和四年の開館なり。〔法鮮尼墓〕市内門田塔の山にあり。岡山城主宇喜多秀家の家母お仙の方の五輪塔にて高さ約三米半、塔面には文祿三甲午十二月十一日法鮮と刻みあり。〔五百羅漢〕市内國富少林寺の境内にあり。天明中、熊谷和尚の新願に依りて京都の名匠が刻みし木像なり。寺は禪宗に屬し、本尊釋迦世尊。寺域幽邃閑寂廣濶、春秋行樂の客にて賑ふ。〔神宮寺古墳〕中國鐵道法界院驛の東南約三百米、市内北方と稱する所にある前方後圓の古墳にして、口碑によれば景行天皇の皇子吉備兄彦皇子の御墓なりと言ふ。〔京橋〕市を貫流する旭川に架しある大橋にて長さ一二〇米、旭東・旭西の兩部を連絡し、橋上よりの眺望捨て難く、市内の一名勝なり。

【岡山平野】岡山縣南部の大平野。吉井川・旭川・高梁川の沖積平野の總稱。面積二二五平方粁。此平野は第三紀に於て沈降し、兒島半島及びその附近の島嶼のみ水上に殘れり。其の後再び隆起して陸地と化し吉井・旭・高梁三川の沖積によつて陸化を助長す。岡山市を繞る岡山・石山・天滿山の三丘陵は新成平野に起伏して花崗岩の地質を示し、その成生を物語る。平野の略々中央の岡山、西方の倉敷の二市、後口・邦窪・御津・上道の諸郡こゝに發達し、中國地方の主要生產地帶をなす。

【岡山電軌】私設軌道。岡山市内に過ず。省線驛前より東山公園前の東山に至る主線と七番町口・大雲寺町方面に至る線等あり。

【岡山村】愛媛縣伊豫國越智郡大三島の西南端。東北部は宮浦村に、西部は瀬戸崎村と界し、北・西・南の三面は海に臨み西方は大下瀬戸を隔てて大崎上島と相對す。西南に岡山（四三六米）聳え概れ山地にて、海岸に沿ひ僅かに低地ありて田畑拓け農業を主とす。本村の職業別戸數を舉ぐれば農八四七戸・商七〇戸・工七四戸・漁五戸・其他一二戸（昭和十二年現在）にして農業戸數は全戸數の約八三%强を占む。その主要產物には米・麥・甘藷等ありその外葉煙草・蜜柑・食鹽の產も少からず、近年亦除蟲菊の栽培も盛に行はる。宮浦村に海岸に沿うて縣道通じ又海上にも發動機船ありて交通に便す。現在の大字野々江・口總・浦戸・宗方の四部落は各々一村をなせしも、町村制實施に際し岡山村となる。現村名は西南部に聳ゆる岡山に因むといふ。德川時代は松山藩の所領にして當時の檢地帳によれば野々江村二七八石・口總村一六七石・浦戸村四七石・宗方村一〇七石と見ゆ。

【岡山村】福岡縣筑後國八女郡の西部。福島町と羽犬塚町との間に位す。地は筑後平野の東南部を占めて平坦、水利の便良く水田・桑園・茶畑拓く。社線南筑軌道線通じ、長濱・鵜ノ池・溜原の三驛あり。現時は鵜ノ池・長濱・室岡・今岡・龜ノ甲・溜原・立野・前古賀の九大字より成り、鵜ノ池に役場を置く。明治四十四年陸軍特別大演習の際十一月十一日此地に於て御統監あらせらる。今明治天皇岡山御野立所として指定史蹟たり。

【岡山郡】臺灣高雄州一市七郡の一。高雄州の西北に位し、東は田寮庄を以て旅山郡に境し、西北は海に面し南は鳳山郡及高雄市に連り、北は二層行溪を隔てて臺南州新豐郡に相對し面積約四八〇方粁人口約一五萬。東北方の大岡山・小岡山南の龜山・半屏山を除く大部分は平野にして阿公店溪・典寶溪・楠梓坑溪の三川は遠く東方旗山郡より發して海に注ぐも平時は涸渴して雨期と共に氾濫す。海岸は砂沙堆積して、船舶の假泊すべき港灣無し。本郡は和蘭人統治時代一六五四年頃の赤嵌附近土地間帳表に據れば二層行溪はVerse Rivier (Vaerschi Ri.) と稱し、同河以南に於て米三八・五分ノ一モルヘン・砂糖二六モルヘン・ボチト一・二分一モルヘンの開墾の行はれしこと知らる。明末鄭成功の臺灣の地に據るや早くより開拓せられ、長治一岡里・樹新里（路竹庄）・長治二岡里（湖内庄）・仁壽里（岡山街）・茄萣里（阿蓮庄）等の地み治め、明の寧靖王朱術桂は二岡里に居を定め現に湖内庄竹滬にその遺跡あり（湖内庄の條參照）。清朝時代には鳳山縣に屬し、岡山督を置きて臺灣城守營參將の派遣が行はれ又左營庄舊城に鳳山縣城の遺跡にして水產漁港として農業と共に聽えたるは乾隆二十九年編纂の續修臺灣府志に見ゆ。領臺後は明治二十九年四月臺南縣鳳山支廳三十年六月鳳山縣阿公店廳務署の所轄となり、後數次の改正を經て大正九年高雄州に屬し阿公店を岡山に改めて郡役所を設置、現に岡山街を始め楠梓・燕巢・田寮・阿蓮・路竹・湖内・彌陀・左營の一街八庄を含む昭和・臺灣各製糖會社工場有り、農產年額五百八十餘萬圓にして州下第一位。史蹟名勝として舊城・天然記念物として橋子頭の泥火山が指定さる。

【岡山街】臺灣高雄州岡山郡の中部。面積約四八平方粁。殆んど低平にして田畑拓く。此地鄭氏時代には仁壽里と稱し清領と共に仁壽上下里に分ち、後鳳山には鄭氏の墾營設かる。岡山の市街は康熙五十八年編纂の鳳山縣志には竿蓁林街と稱し、乾隆二十九年編纂の臺灣府志及び同年編纂の鳳山縣志に阿公店街とせるものにして、竿蓁林とは始めて此地方が開發され頃一帶が叢原なりし謂にて、此處に一老翁が一草店を營めるより南部廳建設の組女、老翁の敬稱阿公アンコを冠てて阿公店と稱せる由。現在岡山郡役所の所在地にして縱貫鐵道岡山驛（明治三十三年設置）を控へ、また近年高雄・臺南間市間の縱貫道路補修の完成に伴ひ自動車・軌道（赤崁軌道・燕巢軌道）等の陸上の交通繁劇を加へ、郡下產業の中樞を成す。人口一萬五千。

オガラ 小川原沼（おがら） 青森縣上北郡にある大湖沼。湖岸は六ヶ所村・甲地村・浦野館村・六戸村・三澤村の五箇村に亙り、湖岸五八粁、面積六四・八平方粁、深度は二二・五米、海拔一米、七戸川その他の河川これに注入しその水は東北隅の三澤村の天ヶ森附近より高瀬川となりて太平洋に排水するも稀に逆流することあり、水色濃藍、透明度五・五米、水溫夏季表面三〇度、底にては二二度。附近には大小の沼澤散在し湖の成因は土地の沈降により、四周は疏れ洪積層の臺地にて急壁となりて湖水に臨む。近き時代まで海灣をなし、この水畔には先住民族の遺跡多し。一に小河原湖に作る

オカラノナカヤマ おからの中山 菟餘記に見ゆる田羽國（羽前、山形縣）の古地名。おからは恐らくは書寫の誤にておかちなるべし。前九年役に安倍貞任退却の際此の山を經て仙北金澤の城に引籠るとあり。其地今の最上郡と雄勝郡の境即ち羽前と羽後の國境にある雄勝峠の邊を稱せしものならん。

オカワ 小川（おが）

【小川】陸奥國（福島縣）の古地名。和名抄、陸奥國安積郡に小川郷あり調を闕くも乎加波と讀むべし。其地今詳かならざるも田村郡・守山町・高瀬村・谷田川村・二瀬村・御館村等の地に當るらし。陸奥國の歌枕に小川の橋とあるは此地か。夫木・二一「みちのくのみかはの橋のあゆみ板の君しそむかば我もそむかん」

【小川】下總國（千葉縣）の古地名。和名抄、香取郡に郷名見え調を闕くも伊勢の小川郷の例により乎加波と讀むべし。其地今の香取郡東大戸村・瑞穗村等の地に當り、東大戸村の上小川は其遺稱なり。

近世矢作ノ庄と稱せし地なり。

【小川】 武藏國(東京府)の古地名。和名抄、多磨郡に郷名見え手加波と訓す。其地今の東京府西多摩郡東秋留村・西秋留村等の地なるべく、東秋留村の大字小川は其の遺稱なり。延喜式左馬寮式、「武藏國、小川牧」とあるも此地なるべし。

【小川通】 京都の町名。油小路と西洞院との中間を南北に通ずる道。南方半の町に接す。大經師曲暦・下「結べば露の命にて、とくれば もとの道芝に、やがて亥子や五里六里、十死も過ぎてこれぞこの、小川通は三途の川、宰の町さへ近づけば、見物群集とりん〳〵の暦のゝくりかへす」長町女腹切・上「御池の町の橋頭、小川通りのせかいらざ、今日明日に持たしてやれ」

【小川】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄、桑田郡に小川郷あり手加波と訓す。高山寺本は山川郷に作るは誤なり。三代實錄・貞觀元年の條に「丹波國小川月神授ゝ從五位下」とあり、延喜式神名式の丹波國桑田郡小川月神社とあるが之なり。初め千代川村大字小川にあり。いま東背の馬路村にあり。其地今の南桑田郡千代川村・馬路村・旭村・千歳村等の地に當り、應仁武鑑に丹波小川庄とある地なり。

【小川】 播磨風土記に見ゆる里名。今の兵庫縣飾磨郡花田・谷外・谷内の三村に當るが如し。いま花田村に小川の大字あり。播磨風土記・飾磨郡「少川里。(高瀬村、豐國村、英馬野、射目前、檀坂(多取山、御取山、伊刀島)土中々。本名・私里。右號ゝ私里(者)。志賀島宮御宇天皇世。松部弓東等組。田又利君爲留。請ゝ此處、而居ゝ之。故號ゝ私里ゝ以後庚寅年上大夫爲ゝ宰之時。改爲ゝ小川里ゝ」

【小川】 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄、鵜足郡に郷名見え手加波と訓す。今綾歌郡の法勳寺村の大字に東小川、川西村の大字に西小川あり、小川は郷名の遺稱なるべし。されば小川郷の地は法勳寺村川西村の邊に求むべきか。

【小川】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄、合志郡に小川郷あり、訓を闕くも伊勢國の小川郷の例により手加波と讀むべし。武藏・下總・陸奥・丹波・讃岐にも小川郷あり。薩埼八幡宮の正平六年の文書に甲佐宮領、合志郡小川郷とあり。今何れの地なるか詳かならざるも菊池郡大津町の邊ならんか。

【小川】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄、八代郡に小川郷あり、高山寺本は小河郷に作る。按ずるに伊勢國小川郷の例により手加波と讀むべし。合志郡にまた小川郷あり、建久二年甲佐郡神領目錄に八代郡南小川・北小川とあり、今は下益城郡に入り近世甲佐郷と稱せられし地なり。卽ち小川町・河江村・海東村等の地なるべし。

オカワ　小河

【小河】 上總國(千葉縣)の古地名。和名抄、畔蒜郡に郷名見え手加波と訓す。其地今の君津郡久留里町の大字大谷に小川なる地名あり。或は此地ならんか。

【小河】 伊豆國(靜岡縣)の古地名。和名抄、田方郡に小河郷あり。其地今の田方郡三島町及び駿東郡清水村に當る。東鑑・元暦二年七月「廿九日、庚戌、泰經朝臣消息到着、今月上旬之比、佛眼上人夢中、赤衣人多現云、無ゝ罪之罪、爲ゝ平家滅生、多以罪ゝ配流之罪、故有ゝ地震等ゝ云云、凡爲ゝ滅亡衆消ゝ罪、去五月廿一日、被ゝ始ゝ行不斷御讀經ゝ畢、然者流罪中赦等事者、可ゝ有ゝ免許ゝ歟之由、有ゝ其沙汰ゝ、相計、可ゝ令ゝ申宥ゝ給ゝ之趣也云云」とある小河郷は此地のことなり。

オカワ　碧河

陸奥(陸前・宮城縣)の古地名。和名抄、牡鹿郡に碧河郷あり。其地今何れの邊なるか明かならず。或は曰ふ、今牡鹿半島の地にして郡名の牡鹿もこれをチカと訓じ郷名これに因むに非ざるかと、或はまたアチカハと訓ずべきものにして半島先端の鮎川村は其轉訛なりとなすものあれど何れとも定め難し。

オガワ　小川

【小川村】 福島縣岩代國耶麻郡の西南部。喜多方町の西方約三粁、慶德村の西に隣り、西は木幡・山都二村に、南は河沼郡川西・千咲兩村に堺す。日橋川南境を西に流れ、北隣上宮村の館山(三八六米)に發する一支厚川(田入川)中央を南に流れ山地を東西に二つに分ち、南部日橋川流域は低地にして水田拓け米作を主とし山地方面は蕎麥を出し又養蠶業行はる。山三郷地方の關門にして喜多方町より山都村に通ずる街道南部を東西に通じ、物資は多く省線磐越西線の山都驛により移出入す。山都村・木幡村と共に組合村をなし役場は山都村に置く。此地古くは史實の徵すべきものなきも村名に大字小船寺・一川の各一字をとりて名づくといふ。

【小川町】 茨城縣常陸國東茨城郡の西南部。霞ヶ浦の北部に位し南の一部は行方郡に、西は新治郡に界す。町内微ね丘陵地を成すも西部に低地あり。町内を貫ぬく社線鹿島參宮鐵道西南部をほゞ南北に通じて常陸・小川驛(大正十三年設置)を置く。縣道は西部高濱町・石岡町、東部鉾田町、南部玉造町に通じバスの便あり。また霞ヶ浦汽船鉄子丸寄港地にして、水陸交通要衝の地を占む。農商共に榮え、米・繭・麥・大豆・煙草を產し促成胡瓜の特產あり。また農具製造(ふゐびす式脫穀器・繭毛羽取器)盛んに行はれ其販路廣し。此地或は和名抄、茨城郡田奈郷の內か。町名小川は建久中下河邊政平始めて此地に居し小河二郎と稱せしより起ると。小河氏の滅亡後國部氏此處に居す。國部宮內大輔(名缺)初め小田政治に屬せしが、偶〻其女を出して大掾慶幹の子次郎に給仕せしむるに及び政治其二心あるを疑ふ。卽ち宮內大輔憤れ天文十四年小河城を棄てて去り盤を乞ふ。然るに政治

はこれを機とし弟左衞門尉をして其城を守らしむ。玆に於いて宮內大輔大いに怒り同十五年區族五百人を率ゐて城を襲ひてこれを復しのち江戸氏に降ると。のち佐竹氏の家臣茂木上總守を經て戸澤右京亮政盛居し更に德川頼房の領域となる。江戸時代此地は江戸奥羽間水運の要衝として運漕奉行所を置かれ、のち文化三年水戸藩の小川郷校(稽藝館)を設けらる。また筑波義軍の際はその第二陣となりし地なり。〔鹿島神社〕 大字下馬場に鎭座郷社。武甕槌命を祀る。創立年代を詳かにせざるも、開部城主開部宮內大輔は社領を寄進し、慶長年間、戸澤安盛は社殿ん再建せりといふ。又附近九箇村の鎭守神として崇めらる。〔德藏寺〕 大字下馬場にあり。天台宗。妙法山智門院と號す。弘仁年中の草創。開山は慈覺大師。開基は觀信法師。初め小河原にありしが、應永年中佐竹氏の兵燹に罹り、のち燕舞法師この地に移して再建す。因りて燕舞法師を中興開祖とす。

【小川】 ←綾野村(群馬縣利根郡)

【小川町】 埼玉縣武藏國比企郡の西部。熊谷市の西南約一九粁。南部に仙元山(二九九米)ありて町內擬ね丘陵性山地を成すも、秩父郡槻川、村の中央を西方より來りて東南流し其沿岸に平地拓く。社線東武鐵道東上線の小川町驛(大正十年設置)あり、又熊谷市及び大里郡寄居町に夫々バスを通じ交通便なり。農產に米・繭・蒟蒻あるも工產(和紙)また渺なからず。縣立小川高等女學校あり。此地は和名抄、男衾郡川原郷(高山寺本は川面に作る)の內にして大字大塚は此地の北方にあり梅皇子の塚あり、因りて大塚村と稱せりと。而して近世は埜尾郷那賀庄玉川領に屬し、德川氏入國後は幕領となり元祿十一年金田周防守に賜はり子孫相續いで知行し以て明治維新に至る。梅皇子とは後深草院第三皇子にして正元元年故ありて此地に來り大梅寺を建立し永仁三年薨じ給へりと傳ふ。大字小川は玉川領に屬し、新編武藏風土記によれば「當村は江戸より秩父郡への往來、及び八王子宿より上州へ達する街道の宿驛にして、民家軒を連ねたれば賑へる地なり。此邊にては紙を漉を餘業として專ら細川・程村・仙道・岩國・岩城・小菊等を製すれど、總名はなべて小川紙と呼び、當村より所々へ出して賣げり、其價年毎に二萬余餘と云」とあり、往時の紙の製造盛なりしを知るに足る。寛文二年諸星庄兵衞代官となり、德川氏入國後は幕領となり元祿十一年大鳥長門守の知行となり、のち其子孫續いて知行す。大字角山も玉川領に屬し埜毛郷那賀庄の內。德川氏入國後は幕領なりしも、後黑田豐前守に賜はりてより子孫相續で知行す。大字下里は近世大河原庄玉川領に屬し、德川氏江戸入城後は幕領となり、元祿十一年金田周防守に證はり子孫相繼いで知行す。以上四大字が明治二十二年町村制實施に當り小川町となる。〔八幡神社〕 大字大塚に鎭座郷社。祭神、譽田別命・保食命外三神。創立年代を詳にせざるも、鎭座の地は秩父郡に入る咽喉に方り、古への郡家所在の地と傳へ、また仙覺萬葉抄の奥書に、文永六年孟夏二日於ゝ武藏國比企郡北方麻師宇郷政所ゝ註之畢とありて、麻師宇郷は埜政所ゝ註之畢とありて、麻師宇郷は埜尾・大塚・角山・飯田の四村に跨り、本社は四村の中央臺地に位す。鎌倉五大堂明王院所藏曆應四年の文書に麻師宇郷は鎌倉新錄逸堂領に屬し、その制札を出せし事を記す。蓋つて文永の頃より當所は新錄逸堂領にてありしものの如く、その領地に置かれし政所は本社の附近なりしか。麻師宇は正保以前は狹尾と書せしが、その後埜尾に改む。本社は始め神明社を主とせしが、何時の頃か八幡宮を村の鎭守とし、神明社は攝社となる。江戸時代には德川將軍家より十石二斗餘の朱印領を安堵せられ。壬生城主鳥居氏亦崇敬する所あり。〔大聖寺〕 下里にあり。天台宗石青山威德院と號す。開山は希蹤、開基は平貞義たり。本尊如意輪觀世音は定朝の作と傳へ、子宵觀音と稱して俗間の信仰厚し、境內に法華經供養塔一基あり。現に國寶たり。六枚の椽泥片岩製の板を組み合せて作りし六面塔にして高さ約一米半(五尺)各面に彌陀の種子と銘文刻さる。正面には「奉讀誦法花經一千部供養開山希蹤平貞義、祐仙、檀那宥阿□□□□」とあり、後面には「廣永三年三月十七日永範宗吉一結之諸衆敬白」とあり。その他の四面には人名のみ列記さる。卽ち此供養塔に宗旨時代の初期に於て此處に列記されし人々が周結し法華經一千部讀誦の供養せしことを記念する爲に建てしもの。此供養塔の傍に同じく廣永三年の年號ある石塔婆あり。高さ一・八米(六尺二寸)、大日の種子と銘文刻さる。

【小川村】 新潟縣越後國東蒲原郡の東部。津川町の東南に隣り、東北は豐實村に、北は日出谷村・兩鹿瀨村に、東は福島縣河沼郡實坂村と界す。東境に福取嶽(五八五米)、古懸座山(五二二米)・土堤山(六九七米)・持經山(五九〇米)の諸峯南北に連亙して土地西に傾き、阿賀野川の一支當浪川西部を西北に流れ村のほゞ中部に聳ゆる鮎久保山(四七七米)の北及び南斜面に發る小川を合せ、その川沿ひは低地にして田畑拓け、米・蒟蒻を產す。省線磐越西線の日出谷驛・津川驛に近く若松街道中部を東西に通じ、バスの便あり。此地の古き史實は詳かならざるも、本郡はもと小川庄と稱せしを以て村名蓋し之に因みしならん。

【小川】 ←泊町(富山縣下新川郡)

【小川濱】 ←宮保村(石川縣石川郡)

【小川山】 岡東山脈秩父山塊に屬し、長野縣南佐久郡川上村と山梨縣北巨摩郡瑞富村に聳え、標高二四一八米。全山黑木に掩ほる。南東方に金峰山(二五九五米)

峠ち、西方は信州峠（一四六四米）に達る。東北麓よりは千曲川の一支流發源す。

【小川】 愛知縣碧海郡にありし村。本村は明治三十九年三ツ川・藤野・櫻井の三村を廢し、新に櫻井村を置く。

【小川】 愛知縣東加茂郡にありし村。本村は明治三十九年志賀・松平の二村と共に廢せられ新に松平村を置く。

【小川】 伊勢國（三重縣）の古地名。和名抄、壹志郡に郷名見え、手加波と訓す。いま一志郡中川村に當り、大字小川は郷名の遺稱とす。

【小川】 滋賀縣近江國高島郡の地名。いま上小川・下小川に分れ共に青柳村の大字たり。上小川の地に指定史蹟藤樹書院址あり、嘗て中江藤樹の講學せる處。藤樹は小川の人、伊豫大洲侯に仕へ承德高かりしが、寛永二年致仕して郷里に歸り子弟を集めて書を講ず。家の傍に藤の老樹あり、因て雅號も書院も藤樹と稱す。世に近江聖人と稱せられ、來り學ぶ者踵なからず。いま上小川に藤樹を祀る郷社藤樹神社あり。※青柳村

【小川村】 兵庫縣丹波國氷上郡の南部。柏原町の西南約八粁。南は加古川及び其支流篠山川を以て播磨國多可郡に境す。東北部は標高四—五百米の山地を成すも、西南部は低平にて田畑拓く。米・藷・麥を主産し、蔬菜及び花卉・瓦・蓆製品・製茶等の特産あり。省線福知山線の谷川驛（約二粁）へバス通ず。古くは和名抄氷上郡井原郷の内なり。中世は小川莊と呼ばれし處。（石龕寺） 大字岩屋にあり。古義眞言宗。高野山末にして古來岩屋寺と稱せらる。寺傳に聖德太子の草創に係るといふ。村上天皇の御歸依厚く伽藍坊舍を建立せらる。觀應年中、足利義詮、仁木頼章・義長兄弟を從へ二千餘騎にて本寺に籠る。此時「此岩屋寺の衆徒元來無貳の志を存ぜしかば、城郭の便も心安く覺えたる上、萩野、波々伯部、久下、長澤一人も殘らず馳せ參る」（太平記）程の忠勤振りなりしかば、足和義詮より寺領三百町を寄せらる。天正年中兵火に罹り諸堂宇悉く焼失せしも、寛永年中再興せらる。

【小川村】 奈良縣大和國吉野郡の東北部。上市町の東約九粁。吉野川の支流小川に沿ふ。村内土地高燥にして、小川は峡流を成すを以て灌漑の便なく水田少なく專ら桑園拓く。村の中央をほぼ東西に縣道走りバス通ずるも、交通の便未だよろしからず。古へ蜻蛉野と云ふはこの邊を指させるものか。中世小川莊と呼ばれしは本村及び高見・四郷の三村に亙りしもの。此地に式内の古社丹生川上神社中社あり（丹生川上神社） 官幣大社。當社は上中下の三社より成り三箇所に鎮座す。即ち上社は祭神高龗神（川上村）・下社は祭神闇龗神（丹生村）・中社のみ當村に鎮座。祭神同豫女神。三神共に水に因緣深き神なり。往昔、この三神數して人鄰の間えぬ深山吉野丹生川上に我が宮柱を建て齋き奉らば、甘雨を降らして霖雨を止めんと宣ひければ、此處に社殿を營みて祀りしを創めとす、時に天武天皇白鳳四年と云ふ。天平寶字七年旱魃ありし時に幣帛・黑馬を獻じて雨を祈る。寶龜四年大和丹波の四戸を神封に寄せ、同六年霖雨の止まん事を祈りて、幣帛・白馬を奉りし事あり。爾來、雨乞には黑馬を止雨には白馬を獻ずる例となる。延喜の制名神大社に列し月次・新嘗の二祭に預る。元慶元年に正三位に陞叙せらる。列聖の尊崇寫く寛平七年には勅して百姓浪人等の神地を妨げ穢し奉る事を厳禁す。時して丹生社・川上社とも稱す。上社は明治二十九年、下社は同四年、中社は大正十一年郷社より官幣大社に列す。上社は吉野川の上流、下社は丹生川の遡る所に、中社は御手洗川の畔に位し、清冽と翠巒の景勝を併有す。下社は明治十八年、上社は同十九年に改修せられ共に素木造なり。中社は文政十二年建築の極彩色なり。例祭、十月八日（上社）・十月十六日（中社）・六月一日（下社）。（興禪寺） 大字中黑にあり。曹洞宗。僧梅峯を開祖とし、京師無生居士を開基として元祿年間に創設さる。梅峯は卍山道伯と共に宗門改革に努力せるを以て著はる。本尊木造藥師如來坐像一軀は國寶たり。

【小川村】 和歌山縣紀伊國那賀郡の西南部。和歌山市の東南一四粁。南及び西は有田郡に境す。長峯山脈中に位し、全村山地にて南境に生石ヶ峯（八七〇米）聳ゆ。貴志川の上支、村の中部に發源して北流す。里道南境札立峠を越えて來り北に走りバス通ずるも交通便ならず。米・藷・柑橘類等を産す。

【小川村】 島根縣石見國鹿足郡の中部。津和野町の北に隣り、東南は柿木村に、西は畑迫村に接し、北は青原村と界す。南部に圓錐形の青野山（九〇八米）峙ち、北半は高度約三〇〇米の高原性丘陵連亙し緩れ山地に被れ、津和野町より來る津和野川、木村の中部にて屈曲をなして北東に流れ、其流域に低地ありて耕作に適し米・藷を主産し、その外薪炭・用材・三椏・茶の産も少からず、養蚕又行はる。津和野町より須田町に至る街道、津和野川に沿うて通じ、バスの便あり。此地は和名抄、鹿足郡能濃郷の地なるべし。

【小川村】 山口縣長門國阿武郡の東北部。須佐町の東南に隣り、北は田万川村、南は彌富村に接し、東は島根縣美濃郡美濃村及び二條村と界す。西境に犬鳴山（五三一米）聳え四周凡そ三—五〇一米の山嶽に圍繞され、中央に盆地狀の低地あり、田万川この低地を潤して東北に流れ、田畑拓け米藷を主産す。田万川村に至る街道村の中央を南北に通じバスの便あり。此地は和名抄、阿武郡多萬郷の內か。延喜式兵部省式小川驛馬三疋とあるは恐らく此地にして舊山陰道の終驛たりし所、もとは山陰道本村を出て石見國に入るものにて、近世の海濱を過ぎるものと異なるといふ。

【小川】 廣岡縣山門郡にありし村。明治四十年本村及び瀧高町・木郷村・河治村・藤村を廢し、其地域を以て新たに瀧高町を置く。

【小川島】 佐賀縣東松浦郡呼子町に屬する島。呼子の北方海上約六粁に浮び、西方約三粁に加唐島あり。周圍約四粁の低平なる島にして東部比較的高し。此島は我國屈指の捕鯨地にしてその捕鯨數年平均凡そ二十餘頭。產業事蹟に據れば何時頃より捕鯨を始めしものか詳かならざるも、一に島人古川庄六突組を起せしに始まると。次で正德年間呼子の漁人突組を本島に出す。更に寶暦年間呼子の中川氏及び中尾氏網組を本島に出す。のち數年にして中川氏廢業し中尾氏獨り業を勵み其子孫相傳へて以て今日に至るといふ。

【小川町】 熊本縣肥後國下益城郡の南部。南より八代郡に境し、東は海東村、西より北は河江村、北は小野部田村に隣接す。東部は概して山地を成すも、中央なる砂川西北流し、西部流域に廣大なる平坦地を控へ耕地發達す。鹿兒島本線の小川驛は隣村河江村にあるも、國道通じバスの便あり。町内は製紙・製茶・織物業盛んなり。此地は海東村・河江村等と共に和名抄八代郡小川郷の地ならん。道中行程細見記に「小川より川尻に五里、宇土に四里、宮ノ原に一里半、侯田に四里」とあるより見れば蓋し此地に驛所たりしものならん。國志に據れば此地は應永二十七年に開發され、寛文七年には民戸百九十八軒ありといふ。明治十年西南の役には官軍此地に薩軍を攻めて古領すと。大正五年從五位を贈られし柏原太郎左衛門は此地の人なり。はじめ天野屋と稱し長崎に商を營む。義に宋次平祳なる者の商船塞得の和蘭大守に抑留せられ、厳談するも肯ぜず、益に於て太郎左衛門智略を以て蘭籍の館に乘込み其子を人質として捕へ、嘗ての船舟・人員・武具・商品を悉く取返し歸る。熊本藩主之を聞き米百俵を賞與すと。（小川城） 大字小川にあり。當城は天正年中鳥津氏の家臣松浦久治の築くところ。同十五年豐臣秀吉の九州征伐の際之に降りその先鋒となる。平定後再び舊城に居りしが慶長の末廢亡す。一説に征西將軍懐良親王、守山御所におはせし時、名和顯興守護し奉るといふは蓋し當城ならんといふ。（鈔音寺） 大字北小川にあり。曹洞宗。定水山と號す。川尻大應寺末。近郷の古刹と稱するも開創年次不詳。慶長元年作雲和尚再興。本尊は傳定朝作觀音菩薩。

【小川岳】 九州山脈の一峯にして、宮崎縣西臼杵郡の西北方、鞍岡村と熊本縣阿蘇郡小藤村に跨る。標高一五四二米にして祝父古生層より成る。北麓には黑淵（一二八三米）、南麓は向坂山（一六八四米）、峠つ。又西麓より緑川、東麓より五ヶ瀬川發す。

【小川】 鹿兒島本線の一驛（明治二十九年設置）。熊本縣下益城郡河江村にあり。

オガワ 尾川村 愛知縣高知縣土佐國高岡郡の北部。佐川町の西に隣り、東南は斗賀野村、北は越知町、南は上半山村・下半山村と界す。南境に一〇〇〇米餘の山嶽連亙し其山麓北に延び概れ山地にて、これ等山地を刻む溪流は集まりて仁淀川の一支大田川となり、本村の東北部を東流して佐川町に入り、僅かに其流域に低地ありて田畑拓け、藷・米・麥等を主産し其外に甘藷・大根・柿・三椏の産も少からず。佐川町に至る街道東西に通ずるも概して交通便ならず。この地は中世佐川領に屬し深尾氏の所領たりし所。（天滿宮） 大字尾川に鎮座。郷社。菅原道眞を祀る。慶長年間、尾川城主近澤蔚監祐清の宿願に依つて勸請せるものと傳ふ。もと天滿大自在天神と稱す。爾來近村の產土神として村民の崇敬篤し。

オガワ 緒川 愛知縣知多郡にあり。明治三十九年藤江・生路・石濱・緒川・森岡の五村と共に廢せられ東浦村を新設す。今東浦村の大字にして省線武豐線の緒川驛（明治三十三年設置）を置く。

オガワゴー 小川郷 【小川郷】 省線磐越東線の一驛（大正四年設置）。福島縣石城郡赤井村にあり。

【小川郷村】 三重縣伊勢國度會郡の中部。宇治山田市の西南約十二粁。東南は沼木村・穂原村に、西南は中川村・一之瀬村に、北は內城田村に隣る。四周巒峯の圍む處にて中部を一之瀬川北流し、其沿岸に小低地を見るも全村殆ど山地を成す。宇治山田市に バス通ず。主産業は農にて米・藷を主産するも特産また尠からず。

オガワジ 小川路峠 長野縣下伊那郡上村にある峠。最高點一六六〇米北方長野縣南部飯田市方面より靜岡縣秋葉山（周智郡犬居町と磐田郡龍山村の境界に跨る）に至る秋葉街道に當る。又東北麓は曾山（一六〇三米）、南西麓は金森山（一七〇三米）に續く。

オガワラ 小河原湖 青森縣上北郡にある大湖沼。一に小川原沼。湖岸の周圍約五八粁。面積六四・八平方粁、深度二二・五米。七戸川が湖の西南部に注ぎ、湖の東北部に高瀬川あり て太平洋に排水するも稀に逆流現象を現すことあり。水色濃藍にして透明度五・五米、水温は夏季表面三〇度、湖底にては二二度、湖の成因は土地の沈降により、太平洋岸に近く南北の線に沿うて大小の湖沼群あり。本湖はその內の最も大なるものにて是等は土地の沈降を物語るものなり。

オカン 御冠山 鳥取縣東伯郡の東北、倉人村に峙つ。オカムリヤマ・高ノ山・高野山・鴻山の別名あり。天文九年武田常信・山名豐弘・南條陸宗等この

し、今日は金に縁れたり。

オキ　尾紀　大分縣下毛郡にあり。新設村。明和八年本村及び華洲村を併し、新設村を置く。

オキ　隠岐・意岐

【隠岐（意岐）国】　山陰道八箇国の一。管国の北方海上約四〇浬の海に位する群島の総称。これを大別して島後・島前の二といふ。島前は西南にあり、主として中ノ島・西ノ島・知夫里島の三島よりなる。島後は東北に位する大島で北東より南西に亘る約一二浬、西南南北約一〇浬の面積を有し、一郡を分つ。この国は延喜式に載せず、隠岐国造の名は国造本紀に出で、隠岐国造の祖は天穂日命の子、出雲国造の祖なりと。国造は代々出雲国造と交替に任ぜられ、文徳実録、文徳実録、貞観実録、国分寺料五千束、文徳実録二千束、貞観実録料二千束、貞観実録料五千束、寺領二千束なり。慶長時代の頃佐々木氏の領する所となり、天正年間に尼子氏の領する所となり、天正年間に尼子氏の領する所となり、天正年間に尼子

す。樹高一つは六米半、一つは五米何れも幹株は他面より發支幹に分れて一三〇糎乃至六〇糎なり。花は白色一重または八重にて、花期は四月下旬、優美な櫻の一種にて、指定の天然記念物たり。順徳天皇の御手植の櫻なりと傳ふ。但諸、佐渡の三嶺の四所御所櫻枝は越後に葉は能登に」〔蓮華峰寺〕 大字小比叡にあり。眞言宗。小比叡と號す。傳云宮國は皇城の鬼門なれば大同三年空海この山を開いて小叡山と名づけ、のち幾くもなく蛾嶺天皇の勅願所となりしと傳ふ。また山容八葉蓮華に似るを以て寺號となさせりと眞言の徒、大和の室生寺、紀州の金剛峰寺及び蓮華峰寺を佛金蓮の三部にあてて同じく靈地となす。承應元年三月小木番頭役辻藤左衛門、此寺に據りて住僧快慶と共に奉行所に抗敵し兵火を交へし焚め寺堂多く燒失して昔日の觀を失ふ。金堂及び弘法堂は室時時代の建築にて、本邦唯一の國寶建造物たり。貞觀十一年云々の刻銘ある空海の木像(厨の木、奥院安置)、元應二年仁和寺成就院僧正益守云々の扁額、龜田鵬齋の碑等あり。德川氏の頃は寺領九十石五斗の朱印を有し、代々の住職は僧中拜禮を許されたり。金堂は五間五面單層屋根入母屋造茅葺にて堂大の風あり、五面の向拜は後世の補工なるべし。弘法堂は奥ノ院と稱し、方三間、單層、屋根入母屋造桟瓦葺の建築、手法簡なるも、各種の繪様及び須彌壇厨子の様式に、室町時代の特質を示す。〔承應の變〕辻藤左衛門、名は信俊、寛永中伊丹奉行に擢んでられて相川町奉行となりしが、留守居役等これを快とせず小木番頭に轉ぜしむ。藤左衛門不平の情に堪へず病と稱して小比叡山に據り、住職快慶と共に竊かに防備を整ふ。奉行所これを聞き兵五百を發して寺を圍み小競を發して攻寄す。山中の僧侶七十餘人、これに應戰して苦闘せしも、寄手の放ちし火に本堂・庫裡・寶藏までも火災に罹り、寺衆悉く潰走し藤左衛門父子三人は自殺し、快慶師弟は捕へられて斬られ、その他生擒せられしものは皆相川にて死罪に行ひ、藤左衛門父子の首とともに中山に梟して事蹟著せり。されど此の屬勤近國にまで聞え越後長岡の城主牧野氏は家臣三十七人を遣はして小木に上陸せしめしも、事終りし後なれば直に歸藩せり、蓋し由井正雪の變後なれば幕府も此の報に接し一時は非常に驚きしといふ。〔安隆寺〕 大字山木にあり。文永十一年三月日朗上人、師の赦免狀を携へて著岸し、大字元小木にありし性善坊といへる禪宗の庵室に一宿を乞ひしに、性善坊改宗して徒弟となり、これを法華の道場となし、のち天文中寺號を安隆寺と改め、明暦二年今の地に移せるものといふ。此寺に胡元至元年間の古寫經あり。紺紙銀泥の法華經七卷にて跋文に至元二十二年乙酉五月日云々と誌されてあり。また昔は至元記銘ある銅鑼ありしといふ。〔稱光寺〕 大字宿根木にあり。時宗。貞和五年遊行七世他阿の開基。有名なる南門僧正は此地の產にて稱光寺の寺中長松庵に剃髮し、のち遂に藤澤山清淨光寺遊行四十二世となり、四十四歳の時僧正に任ぜらる。天子將軍の歸依殊に厚く、曾て仙洞御所南門の額を書し南門の號を賜はる、元祿四年九月寂、享年六十七。

【小木町】 石川縣能登國珠洲郡の南端。富山灣に臨める小漁地。北は木郎村に隣り、西は風至郡宇出津町に境す。沿岸に小低地を見る外全町殆んど山地を成す。海岸は屈曲多く小港小木港を控へ、殊に九十九灣は日本百景の一と稱せらるる景勝の地たり。七尾港より毎日汽船の運航あり。また陸路自動車の往來頻繁にして交通不便ならず。米・麥を主產す。此地或は和名抄、珠洲郡飯戸郷の內か。而して中世は木郎郷の內に屬したり。明治四十年小木・高倉二村を合して小木村を建てしが大正十年に至り町制を布く。〔法融寺〕 眞宗大谷派。本尊は傳運慶作阿彌陀如來。磯越山と號す。もと妙藥寺と稱せしが。蓮如上人の時現寺號に改め、貞享元年海田の地より今の地に移る。寺內に輪藏あり一切經を納む。

オキ 小城

【小城郡】 佐賀縣八郡の一。肥前國に屬す。北は福岡縣糸島郡に接し、東は神崎郡及び佐賀郡と界し、南は狹くなりて有明海に臨み、西南は杵島郡、西北は東松浦郡に隣る。筑紫山脈の南側に位するを以て地勢概ね高峻にして、西より北に亙り山嶽多く、筑前國界最も險峻なるが、南方小城附近より南に平坦且つ肥沃にして、米穀よく實り麻の栽培盛なり。長崎線及び唐津線の縱貫本郡を橫斷す。建郡の期詳からならざるも、延喜式に小城郡の名見ゆ。和名抄は手岐と調し川上・甕調・高來・桙郡の四郷を置く。風土記に據れば此地に往古土蜘蛛ありて堡を造りて之に隱る。日本武尊巡幸の際悉く之を稱す、依りて小城郡と稱すと。堡は古く手岐と調みしものならん。爾來變遷なく以て今日に至る。肥前國風土記「昔者此村有二土蜘蛛一、造二堡隱一之不レ從二皇命一、日本武尊巡幸之日皆悉誅レ之因號二小城郡一」

【小城町】 佐賀縣肥前國小城郡の南部。佐賀市の西北約一〇粁。東北部は天山山脈の餘波をうけて山地を成すも、南部は土地低平にて水田桑園ひろく拓く。省線唐津線の小城驛(明治三十六年設置)を置き、また前道主要里道四方に通じ佐賀市及び唐津市へバスの便あり。主として米・麥・蘭を產す。舊郡役所の所在地にて今尚ほ附近に工業の中心をなし、縣立小城高等女學校等の學校あり。此地或は和名抄小城郡川上郷の內に屬せしならん。祇園山(一に小桙山)は建武年間の際、肥後阿蘇惟直(字治氏)菊池氏と共に足利尊氏を筑前多々良濱に拒ぎ、惟直重傷を被り遂に此地に來りて自殺す。のち懷良親王の西下に及び東國千葉刑部大輔胤貞之に從ひて至り此地に居り肥前の國事に當る。是より子孫世々家を保ちて祇園・晴家の二流となる。文安中胤續の時に至り隣境を併せて其勢稍々强大なりしが、天文中嘉胤に至り有馬氏の來侵するに及び小武氏に好誼を通じ、小武多伺の弟を以て副とす。是を胤綱とす。之より小武氏と共に兵威頗る張る。のち嘉胤松浦氏を討ちしも每戰克たず、終に天文十二年嘉胤自殺す。胤綱も亦永祿二年に至り能造寺の殺す所となり、終に千葉氏は少貳氏と共に亡ぶ。その地いま公園となる。當町は昭和七年四月三里・岩松・晴田の三村を編入す。大字牛尾に牛尾山梅林あり、山中到る處梅樹ありて、頂上に牛尾神社及び別當坊あり。〔小城藩〕 慶長十九年佐賀藩主鍋島勝茂の二男元茂七萬四千石を以て分知し、鯖岡(今の櫻岡公園)に陣屋を置きて知行す。爾來子孫相承け以て明治維新に至る。明治四年藩に一旦縣となりしが同年これを廢し伊萬里縣に入る。天明七年藩主鍋島直員藩學を創立して學寮といふ。寛政初年是を興讓館と改め明治維新に至る。〔小城ノ櫟〕 指定天然記念物。區立高等女學校構內にあり。即ち舊城城門址にありて根元の周圍九・九米、地方前の巨樹にして、根元に石を卷き込みたり。〔櫻岡公園〕 町の西南部の小城城址にあり。もと鯖岡と稱せしが、元和年中藩主鍋島元茂始めて此に櫻樹を植ゑ、更に明暦二年その子直能多くの櫻樹を移植して櫻岡と稱し、大いに岡地を擴めて證覺の地とす。萬治元年直能の依囑に依り木下順庵は櫻岡記を作り、また弘文學院士林春齋・同風岡父子を初め當時の儒者は櫻岡十境・櫻岡二十景の詩を賦して其勝を讃へしより、花の名所櫻岡の名天下に知らるるに至る。靈元天皇の御宇延寶中勅願に逮し新院(後西天皇)親しく御製を賜ふ。岡內に後西天皇の御製「さく花にましる岡邊の松の葉にいつとなくしも色をそへつつ」の一首を奉安せる石の歌碑及び南朝の忠臣阿蘇大宮司惟直の碑等あり。〔須賀神社〕 松尾に鎭座。鹿社。祭神、武速須佐之男大神・櫛稻田姫大神外十柱。社傳に據れば、延暦二十二年の創建と云ひ初め清社と號す。鎌倉時代に千葉介常胤の九州鎭臨となりて此地を領し、代々相傳へて小城郡晴氣庄に地頭職たりしが、常胤九代の孫の平胤貞に至り正和五年京都祇園感神院八坂神社の分靈を勸請し大いに再興の功を遂ぐ、因つて祇園社と改め、爾後千葉氏一族の崇敬社たり。のち鍋島氏の當國を領するやその尊崇厚く、天正十八年鍋島飛騨守信政神殿を再建し、爾來、社殿の造營すべて藩費を以てするに至り一族の寄進六十餘石に及ぶと云ふ。元治二年火災に罹り本殿燒失せしも明治三年再建さる。明治維新の際、更に祇園社を須賀神社と改む。本殿・拜殿・參籠所を具備し輪奐の美を誇り神域また牛頭山上を占めて景勝の地たり。東南のかた遙に名勝溫泉岳を隔てて有明海を模糊の裡に望み、西北に太郎天山の高峯天空に沖して密林その麓に火ざ碁に郡內第一の靈地たり。例祭、六月十五日。古來三大行事として聞ゆる祇園祭の一にして、舊暦正月十五日を花祭祇園と云ひ、六月十五日を山鬼祇園と稱し、八月十五日を梅祇園と云ふ。〔岡山神社〕 下岡に鎭座。郷社。祭神、鍋島元茂・鍋島直能。元茂は慶長十九年小城藩主として入部す。直能はその男にて、爾後累代藩主たり。本社は寛永元年の創建、小城城の守護神として藩の尊信を受く。もと大明神とも稱す。例祭、四月九日。〔天山社〕 晴氣に鎭座。郷社。守氣持神を祀る。創立年代を詳かにせざるも、初め天山嶽に鎭座し、天山大明神と稱せらる。貞觀二年從五位上を授けられし國史現在社に充つる說あり。或ひは祇園宮とも稱し、千葉氏の勸請とも云ふる。近郷の守護神として崇めらる。例祭十月十五日。〔天山神社〕 岩藏に鎭座。郷社。祭神、多紀理比賣神・多依比賣神・多紀都比賣神。初め天山嶽に鎭座せし古社にて、貞觀二年從五位上に敍せられ、仁和元年正五位下に昇進し國史現在社に充つる說あり。但し他に同名社の存在あるに依る、尚ほ玄究を要す。もと岩倉天山大明神本地辨財天とも稱す。江戸時代、小城藩主鍋島氏累代の尊信篤く、また近郷の總氏神として崇めらる。〔光勝寺〕 松尾にあり。日蓮宗。松尾山と號し本宗四十四箇本山の一なり。文保年中千葉胤貞の創建に係り、日祐を開山とす。爾來中山法華經寺主當山山主たるの制となる。元和三年當山十九世日億參內して後水尾天皇より勅願を賜はり勅願寺となる、寺寶に宗祖日蓮に關するもの多し。〔圓通寺〕 松尾にあり。臨濟宗南禪寺派。弘安元年の開創にして若納を開山とす。其後勅願を下賜せらる。のち屢々兵火に罹り、特に維新に當りて衰頽甚しかりしが、近時漸次復興し以て今日に至る。現に末寺五十三餘寺を有す。

【小城】 省線唐津線の一驛。八明治三十六年設置)。佐賀縣小城郡三日月村にあり。

オキ 男木島

香川縣香川郡にある島。高松市の北方約八粁にあり。周圍約五粁。南方鴨峽を距てて女木島と相對し女木島と共に嵯峨島村に屬す。全島三〇〇米餘の山地にて樹木繁茂し西南に男木島の漁村集落あり。本島の北方に豐島横はりその間に瀨戸內航路に當り、本島の北端に男木燈臺あり。燈質は閃白光にて光達距離一二・五浬。

オキ 荻

【荻村】 大分縣豐後國直入郡の西南部。玉來町の西約六粁。西は熊本縣阿蘇郡に

塩す。村内概ね高原地帶にして荒地多く其間に部落點在す。省線豐肥本線通じ豐後萩(昭和三年設置)あり。また主要道路東西に走る。此地或は古の柏原郷の内に屬せしものならんも、其後の消息不詳なり。いま馬場・新藤・桑木・木下・政所・惠良原・馬背野・南河内の八大字より成り、馬場に役場を置く。

【萩岳】 阿蘇山(一九五二・四米)の西方約十六粁に位する山。熊本縣阿蘇郡と大分縣直入郡との郡界を挾み、東西約二粁を隔てて對立する雙子峯より成り、共に峯形相似たるを以て知らる。阿蘇郡波野原村にあるを上萩岳或は單に萩岳(八四三米)と云ひ、直入郡萩村なるを下萩岳(六八八米)と稱す。この二峯は俗に肥後萩・豐後萩とも呼ばる。

オキイ　起居　陸奥國の里名。歌枕。鴎・月・砧の名所たり。其地いま詳かならず。夫木・八ゥほとときすおきゐのさとは過ぬなりいかなる人の夢むすふらん　從二位範宗」同・三一「よもすがらたもとにはらふしらつゆのおきゐの里に月をみるかな　第三のみこ」

オキウラ　沖浦村　山口縣周防國大島郡大島の西南端。西北は屋代村に、東北に安下庄町と界し、南は周防灘に臨む。西北境に潮海山(四五五米)、東北境に原明山(六二四米)聳えその山麓ほぼ東西に逶迤して村境となり、その山麓南及び西南に下り、その端は南方法師崎の突出となりて大島瀬戸を扼し、南方は上荷内島を距てて平郡島と相對す。産業は農業を主生業とし米・薪を主産し漁獲物亦少かからず。安下庄町より屋代村に至る街道海岸に並行してバスの便あり。平郡島に海上七浬定期船あり。此地は和名抄大島郡屋代郷の地なるべし。大字横見・田井等は鹿苑院鹿島諸記にその名見ゆ。(西長寺)大字沖浦にあり。眞言宗御室派。弘法大師の草創。天授元年浄識法印再建し中興開山と號す。もと西同寺と稱し、明治三年當村の長樂寺と併合して今の寺號に改む。(源空寺)大字沖浦にあり。浄土宗。映海山・性珠院と號す。天文元年の創建。開基は郡令長崎和泉守、開山は松巒春貞和尚たり。初め禪林たりしが後本宗に改宗。境内に本堂・庫裡・鐘楼・檀門・大師堂・土蔵等あり。

オキカムロ　沖家室島　山口縣大島郡にある島。大島(屋代島)の東南海上に浮び、家室西方村に屬す。周囲約三粁。最高點一七三米の丘陵に被はるも西北海岸に僅かに低地ありて漁地拓け、聚落亦ここに發達し、道路亦海岸に沿うて通じ、また大字地家室との間に和船の便あり。

オギカワ　荻川村　新潟縣越後國中蒲原郡の北部。新津町の西北に隣り、北は小河貫野川を距てて兩川村と、西は信濃川を隔てて大郷村と界す。四周に川を繞らし土地低平肥沃にて水田よく發達し、米を主産し葵蠶も行はる。また田中氏の丹精になる花卉園あり。本邦は勿論遠く海外にまで輸出す。省線信越線東部を南北に通じ新津驛(新津町地内)に最も近く、之と平行に新津町より新潟市に至る縣道通じ、また信濃川沿ひに小須戸町より亀田町に至る縣道起り交通便なり。いま大字中野・市之瀬・東場・荻島・曼呂津・北潟・鵜島・田島・川口・結の十部落より成り中野に役場を置く。

オギクボ　荻窪　東京市杉並區の町名。杉並區の西部に位し中央本線の荻窪驛(明治二十四年設置)あり。此地は往時豐島郡に屬し後多摩郡に屬す。荻窪村と稱し、正保年間より元禄までの間に上下二村に分る。上荻窪は寛文年間までは廣野なりしが後漸次開墾さる。正保の頃は植村五郎右衛門・村越清二郎・小村長五郎の知行所にて、のち代官の治所たり。即ち貞享四年は成瀬五左衛門、元禄十二年江川太郎左衛門、同七年伊奈半左衛門忠逵と轉々變遷し、文化十一年より小野田三郎右衛門の支配所たり。下荻窪は往時麹町山王社の神領たりし地なり。明治十三年多摩郡が東・西・南・北の四郡に分れる際に、上下荻窪は東多摩郡に屬し、同二十九年東多摩郡は南豐島郡と併合して豐多摩郡となりしより豐多摩郡に屬し、荻窪村は一村となり、のち井草村と合併して井荻村と稱し、井荻村は大正十五年町制を布き井荻町となる。而して井荻町は昭和七年東京市域擴張の際、隣和田堀町・杉並町・高井戸町と共に合併して杉並區となる。

オキゴー　沖郷村　山形縣羽前國東置賜郡の中部。赤湯町の西に隣り、置賜盆地の北部松川右岸の低地の農村。南境を東流する松川の一支吉野川扇狀地上の萩生田・蒲生田・落合などの大字の諸部落を含む。村内南北に連續して存生する溜池は皆つて吉野川の舊河道に相當するものにて、且つこの邊一帶低地なることを物語る。南部松川の沿岸沿ひに桑園、其他の部分に水田拓け米・繭を産し、水産養殖行はれ、また近年赤湯驛前に製絲工場三箇所設立され年産四八・六萬圓の生絲を生産す。省線奥羽本線東部を南北に通じ赤湯驛(明治三十四年設置)あり。ここにて省線長井線に接續し、また街道四方に通じ赤湯町・宮内町・長井町・小松町にバス通じ交通便なり。此地古くは和名抄置賜郡置賜郷にて中世は下長井庄に屬せしが、都山は古代郡衙の所在地たりしものの如く、また伊達家の臣矢ノ目市三郎の館なりと傳ふる館址あり。大宮神生田は元宮内新田と稱せし所にて、長瀞には明治初年まで廣き外堡を繞らし館址存せり。大字宮崎は元和年間安部氏父子の開墾せる所、大字中落合には伊達氏時代に伊賀守好盛の築きし館あり。安部氏は越後の浪人にて、從士十八名と宮内に居住し、宮崎多屋を起して直作し子孫久しく北條郷の代官を勤むといふ。

オキゴンゲン　沖權現・奥權現　大室山(山梨・神奈川縣境)の異名。

オキサト　息郷村　滋賀縣近江國阪田郡の中部。彦根市の東北約六粁。米原町の東に接す。天ノ川北境を西流し、其沿岸に平地を見るも南するに從ひ高く概ね山地を成す。國道中山道村内を東北より西南に走り、西部に並木を作る。またこれにより東海道線の醒ヶ井・米原兩驛にバス通じ交通不便ならず。主生業は農にして米・繭・麦・桑葉等を産す。古く和名抄、坂田郡阿那郷の内なりといふも確證なし。中世は箕浦村と呼ばれし處。箕浦村はのち南北の二村に分け、本村の地は南箕浦村と云ひしが、明治二十三年現名に改む。息郷と云ふは此地古くは息長氏の居りし處なればなり。大字番場は中山道の一驛にて磨針峠にあり。元弘三年五月勤王軍のため京都の六波羅は破られ探題北條仲時・同時益は敵せずして光厳院並に後伏見・花園兩上皇を奉じ東國に走らんとして京都を出で、時益は山科にて戦死、仲時は此處にて自刃す。番場の蓮花寺は明治十一年明治天皇北陸東海巡幸の際、十月二十二日御小休所となりたる處。大字牛方に石伏山といふ前方後圓墳あり。その後圓部の竪穴式石室より須恵器類や馬具・刀劍類に伴うて内行花文鏡が發掘され、此地に保管さる。「蓮華寺」大字番場にあり。時宗。八葉山と號す。當宗の大本山にて一向派の本寺たり。寺傳に據れば、推古天皇の御代聖徳太子の開創に係り、正親町天皇の勅願所たり。鐘一口は紙本墨書陀羅尼北邊去帳一卷と共に國寶なり。(成佛寺)大字三吉(堂山)にあり。黄檗宗。草創年代不詳。古來の巨刹にて中世盛頽し、享保年中白圓禪師再興す。今は尼僧寺たり。(本授寺)大字番場にあり。眞宗本願寺派。楓樹山と號す。建暦の頃亜願坊の開創に係り、初め天台道場たりしが、覺林法師改宗して本授寺と號す。寺寶に蓮名上人二字・金森道西四字交ぜ書名號あり。

オギサワ　御木澤村　福島縣磐城國田村郡の西北隅。三春町の西北に隣り、東は要田村に、西北は高野村、西南は逢隈村に隣り、北は安達郡白岩村と界す。要田村の山中に發する阿武隈川の一支南部を東西に縦谷をなして貫き、川沿ひに僅に低地あり、縦谷両には水田開け米作を主とす。針両には野菜・煙草・桑を産す。省線磐越東線南部縦谷面を東西に通じ、大字平澤に三春驛(大正三年設置)を置き、又三春町より北方小泉町及び西北方本宮町に至る街道通じ、バスの便あり。此地は史蹟發すべきものなし。大字平澤・御祭・七草木の聚落を含み、役場は平澤に置く。

オキシオ　置塩村　兵庫縣揖磨國飾磨郡の中部。姫路市の北約一〇粁。東は神崎郡に隣る。市部から夢前川ほぼ南北に貫流し、その沿岸に低地を見るも、他は概ね低山性山地を成し林野多し。縣道夢前川に沿ひて走り姫路市にバスの便あり。米・繭・雑等の農産あるも、また蔬菜及び花弄・藁製品・木製品等の特産あり。古くは和名抄飾磨郡五智郷の内にて、いま大字に古知之庄の名あり。中世赤松氏の據りし小盤城の城下町として賑ふ。城址は夢前川の東畔なる峻嶺にありて自然の要害を恃す。嘉吉元年國主赤松滿祐、將軍義教を弑して敗死し、將士皆離散す。足利氏本國なる山名持豊に賜與せり(この間凡そ二十五年)。應仁の亂、滿祐の從孫政則、細川勝元に寓して故封を復し姫路に居る。次いでまた置塩に城き之に從り、同族別所則治をして三木に居らしめ、東境八郡を管し、小寺豊職をして姫路に築かしむ。永正十七年政則の嗣義村、其臣浦上村宗弑せられ、封邑目に夢まる。享禄四年義村の子晴政、村宗を誅して古地を復し置塩に居る。子義祐に至つて國勢日に衰ふ。天正五年織田信長、羽柴秀吉を太州に封じ西伐せしむ。義祐の子則房欵を納れ、小寺政職備後に奔る。別所長治錫り秀吉と相抗すること四年にて亡ぶ。秀吉、則房を阿波に徙し一萬石を給す。從つて小盤城も廢城に歸す。天弘二年滿祐古墳より約二百五十年。のち則房、圓ヶ原役に西軍に癒じ敗死し其祀絶に帰ゆ。また大字豊田に盤田鐵泉あり。食鹽アルカリ含有炭酸泉にして、加熱浴用。

オキシカ　鹿神社　大字宮殿にあり。郷社。祭神、豊受命。創立年代を詳かにせざるも、地方の古社にして、古來産土神として附近村民の尊信篤し。例祭十月九日。

オキシカ——山　オキシカヌブリ・オキダマヌブ山の別名あり。北海道雌雄の嶂北方に聳ゆ。日高支脈幌泉郡幌泉村のほぼ中央部に聳ゆ。標高九〇五米。東北峰は豊似岳(一一一〇五米)、西峯はルチシ山(七五三米)なり。東南・西南の兩斜面より歌別川の水源發し、南麓にて落合ひ、南西流して海に注ぐ。

オギシマ　荻島村　埼玉縣武蔵國南埼玉郡の南部。大澤町の北に隣り元荒川の右岸に沿ふ。全村土地低平、地味肥沃なるも、寧ろ低濕に過ぎるの憾あり。社線東武鐵道越ヶ谷驛に近くバスを通じ交通便なり。主産物は米にて麥・繭の産これに次ぐ。また蔬菜品を特産す。此地は近世埼玉郡岩槻領・越ヶ谷領に屬せり。長島・西新井・小曾川・野島は岩槻領に、荻島・後谷・砂原は越ヶ谷領に屬す。大字長島は往古西新井新田と稱せしを、元禄八年長島村と改稱、同十年より幕領となり、のち永井伊豆守に賜はり、寶永年中また幕領となる。大字西新井は徳川氏入國後は其領地なりしが、寛文二年土屋相模守に賜はり、のち幕領となり。元禄十一年小笠原佐渡守に賜はり、のち又幕領となる。大字野島は正保年間は野島方村と稱し、元禄年間野島と改む。徳川氏入國後は岩槻城附の領なりしが、寶暦六

年より墓領となる。大字荻島に往時より墓領なりしが、元祿十一年大河内金兵衛・天野彦兵衛・矢頭權左衛門に分ち賜ひしより子孫の采地となり、其他の地は墓領たり。大字後谷も往古より墓領なりしも元祿十一年米倉丹後守に賜はり子孫相繼いでこれを領す。

オギシロ　荻城山　新潟縣三島郡の北西方、日吉村にあり。標高約三〇〇米。松本大學の居城地たりし山にして、展望廣豁なり。

オキシン　沖新村　熊本縣肥後國飽託郡の西部。熊本市の西約八粁。白川河口の左岸に沿ひ、西は島原灣に臨む。村内土地低平にして沿岸に耕地拓く。小島町に近くこれより熊本市に電車通じ、また舟運の便あり。いま中島村・中原村と共に組合村を成し役場を中原村に置く。

オキス　沖洲村　徳島縣名東郡にありし村。大正十五年本村及び齋津村と共に徳島市に編入さる。

オキス　息栖津　茨城縣常陸國鹿島郡中島村の地。いま息栖。浪逆浦の東岸、利根川の岸にあり。香取日記「いきす、古くは神州と稱へしとなん、此のわたりは、川面いと廣く、そこより鹿島がたにかけて、十あまりの島島ありて」※息栖

オキスギ　沖杉　石川縣能美郡にありし村。明治四十八年月本村及び國江・千針の二村を廢し其地域を以て白江村を置く。

オキソ　奥十山・奥磯山　信濃國。歌枕。木曾谷の中央以南の山を指ずしもの。萬葉・一三「百敍年　美濃の國の高北の　八十一隣の宮に　日向ひに　行きなむ宮を　ありときて　吾か道の於吉蘇山　美濃の山　勝けと　人は踏めとも　意無き山の　於吉蘇山　美濃の山」三代實錄元慶三年九月「令」美濃信濃國「以」縣坂上岑「爲」國境」、縣坂山岑、在美濃國惠奈郡與信濃國筑摩郡之間」、兩國古來相爭境堺未有所決、貞觀中勅、遣左馬權少允從六位上藤原朝臣正範、羽部少錄從七位上狛負直磯雄等、與兩國司、臨地相定、正範等檢舊記云、吉蘇小吉蘇兩村、是惠奈郡檜上鄕之地也」※大吉嶺

オキタ　沖田　【沖田村】岡山縣備前國上道郡の西南部。岡山市の東南約三粁。東は光政村・津田村に、北は豫陽村に、西は三蟬村に界し、南は兒島灣に臨む。往古本村一帶の地方は海なりし所、其後干拓事業により陸地化せしものにて土地低濕、其間に排水渠縱横に通じ、畑地に比し水田卑湿も著しき水田卓越地域に當り、米を主產し、麥これに次ぐ。また本村は米の裏作として菌草の栽培行はる。三蟬村の西部にて岡山市に至る縣道に接續する道路、本村の北部を東西に通じ、岡山市にバスの便あり。此地は上道新田の一部に當り、卽ち往古は一帶の海面たりしが、旭川その他河川の土砂堆積と相俟ち藩主池田氏の埋立開墾せし所。上道新田は延寶年中倉田村（操陽村の大字）に埋立をなし、倉益及び倉富の二村（共に今操陽村の大字）を集成し、次に沖新田（本村）の埋立ありて元祿中に成るといふ。また元祿七年池田家の創建に係る沖田神社あり。〔沖田神社〕大字沖元に鎭座。鄕社。祭神、天照大神・素盞嗚尊・句々廼智命・軻遇突智命・倉稻魂命。元祿七年池田家の創建と云ふ。俗に云ふところの、岡山侯の番頭津田左源太の開田せる時、阿幾多なる女を人柱として埋立て、その新田成りてのち地主神として當社を祀ると云ふ說は附會なりと云ふ。例祭、十月十日・十一日。

【沖田】→船木町（山口縣厚狹郡）

オキタ　興田村　岩手縣陸中國東磐井郡の東北部。大原町の北に隣り、東は氣仙郡世田米村、北は江刺郡伊手村と界す。北部の天狗岩山（七七五米）・阿原山（七八二米）及び西境の蓬萊山（七八八米）・萩々崎山（五九八米）、東部の御殿山（六七三米）の諸峯ありて高原狀をなす。天狗岩山の東及び西斜面に發する砂鐵川の支流興田川南西に流れ、この川沿ひに低地ありて水田拓け米・大麥・馬鈴薯・豆類・稗の農產を主產し、ほかに養蠶の盛なること縣下第一位にして年產約八萬圓に及ぶ。又天狗岩山の東麓より氣仙郡世田米村に亘り高原は一大放牧地をなす。驛の利用は村の南端八日町を約五粁取る若線大船渡線摺澤驛最も近くその間にバスの便あり、併し村内の通路は未だ惡路多く交通便ならず。大字鳥海にある鳥海柵址は前九年の役の古戰場として名あり。源頼義・義家父子安倍貞任の大軍のため苦戰し、僅に身を以て逃れし舊蹟なりと傳ふ。尙ほ安倍氏滅亡後、及川信夜一族の構館・室石館・花崎城・要害館・柏木館・美女森館・古谷館等の遺址を殘す。〔昭覺寺〕曹洞宗。松峯山と號す。仁治・寛元の頃戒學阿闍梨の草創。天文年中及川陸奥守清閑入道再興し、開祭和尙を請じて中興開山とす。三世國嚴春積和尙の時、殿堂悉く完備せしが、天保の頃火災に罹り、後法瑞和尙庫裡・倉庫を再建、明治二十六年佛殿み建立す。〔中川寺〕曹洞宗。東居山と號す。文龜二年正法寺の十一世雄山良英和尙の草創。花崎城主小梨氏の碑所たり。寺後の杉林中に觀音堂あり、三十三觀音を安置す。名工の鑿跡といはるるも作者詳かならず。寺前に水蓋川滔々として流れ奇巖怪石を洗ふ。〔能門寺〕曹洞宗。鳥海山と號す。開祭和尙の草創。五世一岳和尙の時、及川美濃守顯勝當國の葛西氏に屬して柏木城にあり、此地に一字を建立し今の寺號に改稱し本村に移すといふ。一說に、初め長福寺と號せしを、諸軍家儲君の童稱を憚りて享保年中現稱に改めしといふ。郡内名刹の一にて、寺内に美濃守末裔の墓あり。

オキタ　小木田　愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年本村と下原・八幡の二村及び雛五村の大部とを廢し、その地域を以て篠木村を置く。

オキツ　奥津　【奥津】愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年本村の大字上矢田・下矢田・羽塚・新在家・國森・富山・徳水を以て平坂村に併合、平坂村は大正十三年町制を布く）其他の大字を以て西尾町を置く。【奥津島】紀伊國海草郡にあり、王津島に同じ。萬葉・六「奥つ島荒磯の玉藻潮干滿ちて隱ろひゆかば思ほえむかも　山邊赤人」

オキツ　興津町　【興津町】千葉縣上總國夷隅郡の南部。南は海に面し、東は勝浦町に隣り、西は安房郡小湊町に境す。町内山岳重疊し山脚海に迫りて海崖を成す。海岸線は屈曲に富み興津港を擁す。房總東線の鶴原・上總興津（共に昭和二年設置）の二驛を置き、縣道これに沿ひて勝浦町・小湊町へバス通じ、また東京灣汽船の寄航地にて交通便なり。產業にては工產頗然第一位を占め（年額百萬圓餘、うち工業用藥品七十萬圓餘）、水產これに次ぐ（年額三十萬圓餘、うち鮑四萬圓餘・鮑約三萬圓・テングサ二萬圓餘）。此地は和名抄安房國長狹郡興津鄕の地にて、里見氏城を要害の地に築きて房總に堆據するに及び城下町となり、のち德川幕府の直領となし、仙臺藩取締所を此處に置く。當時東北諸國の海船の碇泊するもの多く、殷盛を極め「花の興津」の呼稱あり。明治二十二年町村制施行の際舊興津村・守谷村・大澤村・濱行川村・鶴原村等を合せ淸海村と名づけ、大正十年淸海村を興津町と改稱す。昭和二年房總東線開通により益々殷盛を極め殊に夏季は興津海水浴場・鶴原海水浴場あり、邦人の遊樂の地たり。大字留行川は中古伊保莊伊南鄕と稱せし地にして維新前代官の支配地たり。大字興津は中古伊保莊興津鄕と稱し維新前代官の支配地にて、興津城のありし所。大字守谷も伊保莊に屬し元祿の頃は森谷に作り後守谷に改め、維新前は代官の支配地たり。大字鶴原も中古伊保莊に屬し維新前は大岡氏の領地たり。東方の字黑塙の山上に吉字砦址あり。里傳に據れば天文三年鳥里谷朝信、大多喜城に據り兵を配して之を保守せしも、天文十三年正木時忠之を攻め陷る。（興津城）大字興津にあり。東北海に面し南は檢斷なり。正嘉二年佐久間兵庫介重吉・同兵庫頭重貞之に居り、天文三年鳥里谷朝信の據る所となり、幾許ならず大多喜城に移り其兵なして之を保守せしむ。同十三年正木時忠之を攻め取り、家士岡本大學をして之に居らしむ。天正十八年德川氏の將本多忠勝のために城陷る。（守谷洞窟）大字守谷にあり。上總興津驛より東南八〇〇米、守谷洞の西岸にあり。砂岩の間に海蝕の爲に生ぜしものにして、入口は高さ六米・幅八米、海面より高さこと約二・八米、入るに從ひ次第に狹く奥行三〇米に達す。この洞窟は大正十三年故山崎直方博士がその底部をなせる砂礫の層、及び其間に介在せる人類の遺物より判斷して附近の地盤が少くとも三回の沈降と四回の隆起をなせしことを發見し學界に貴重な材料を提供せり。（妙覺寺）興津にあり。日蓮宗。廣榮山と號す。日蓮宗四十四箇本山の一。文永元年、領主佐久間兵庫頭重貞、鎭子長壽丸を之に住せしめ、日蓮を推して開山第一世とす。重貞の弟竹壽麿、別に誕生寺を開創す。從來無本寺なりしが、明治七年甲斐久遠寺に屬し本山に定まり末寺二十五寺を統ぶ。

【興津町】靜岡縣駿河國庵原郡の南部。靜岡市の東北約一二粁。南は駿河灣に臨む。東部及び西部は丘陵地を成して山脚直ちに海に迫るも、中部は興津川南流し其沿岸に平地を作る。東海道本線海岸線に沿ひて東北より西南に走り、興津村（明治二十二年設置）を置く。また國道東海道これに沿ひバス通じ交通便なり。水產養蠶・製茶盛んにして、また製絲・製紙行はる。古くは郡役所々在地にして、今國藝試驗場あり。氣候溫和・風光亦佳なるより西園寺公望公別莊坐魚莊を始め地名の士の別莊多し。此地は卽ち和名抄廬原郡息津鄕の地にて、古くは息津・沖津とも書く。延喜式兵部省式に息津驛馬十疋とあるも蓋し此地。中世藤原南家船越岡邊氏の族此地に居して興津氏を稱す。江戸時代は東海道の一宿驛として殷盛を極む。由井驛へ二里十二丁、江尻驛へ一里三丁。また大字淵より由比町西倉澤との間に險阻にして古來屬々戰場となりし薩埵峠あり。就中正平六年の足利尊氏と同弟直義及び永祿十二年の武田氏と北條氏との戰は著名。幕末の頃和宮內親王、將軍家に御降嫁の際この峠の名を忌みて中山道を選ばるるといふ。大字横山に天文・天正の頃城砦ありて一に興津城とも稱せりといふも、其城主は詳かならず。大字清見寺の海濱に清見湯といひ古く清見廻の置かれし地、その址は今の清見寺門前附近ならん。また古來歌に詠まれたる名所にして、今は海水浴場となる。一帶に遠淺にして東南方遙かに駿河灣を超えて富士の秀峰を望み得べく風光頗る佳にして夏季は雅客を絶む。東國紀行「この國とほからぬ程に、興津といふ浦あり。海に向ひたる家に宿りて侍れば、いそべによする波の音も、身の上にかかるやうにおぼえて、夜もすがら寢ねられず。　清見湯磯邊に近き旅枕かけぬ浪にも袖ぬれけり」十六夜日記「二十六日、薬科とかや渡りて、息津の濱にうち出づ。なく〳〵出でし跡の月かげなど、まづ思ひ出でらる。ひる立ち入りたる所に、怪しき黃楊の小枕あり。いと苦しければうち臥した